

清水古墳群 神屋遺跡 神屋南遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中 卷

平成 28 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第405集

清水古墳群
神屋遺跡
神屋南遺跡

中
卷

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第405集

し み ず
清 水 古 墳 群
か み や
神 屋 遺 跡
か み や みなみ
神 屋 南 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中 卷

平成 28 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 中 卷 -

第4章 神屋遺跡

第3節 遺構と遺物

3 奈良時代の遺構と遺物	251
(1) 竪穴建物跡	251
(2) 土坑	299
4 平安時代の遺構と遺物	304
(1) 竪穴建物跡	304
(2) 掘立柱建物跡	450
(3) 大型円形土坑	466
(4) 土坑	483

3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 19 棟、土坑 7 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 20 号竪穴建物跡（第 179・180 図）

位置 調査D区中央部のF 6j6区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21・22号竪穴建物跡を掘り込み、第 11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.35 m、短軸 4.06 mの方形で、主軸方向はN - 55° - Wである。壁は高さ 20 ~ 40cmで、直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子を含む第 14 ~ 16 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。竈の前面で、不定形の粘土塊を確認した。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 131cmで、燃焼部幅は 39cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第 9 ~ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 9cmほど掘り込み、ロームブロックを含む第 15 層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm掘り込まれ、火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量	9 灰褐色	粘土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 におい赤褐色	焼土粒子少量
3 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	11 におい黄褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量
4 暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	13 暗褐色	粘土粒子多量、ロームブロック中量
6 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	14 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック中量
8 におい黄褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量		

ピット 6か所。P 1 ~ P 4は深さ 33 ~ 43cmで、規模と配置から主柱穴である。第 1 ~ 6 層は柱抜き取り後の堆積土、第 7 層は埋土、第 8 層は柱痕跡である。P 5は深さ 25cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ 54cmで、性格不明である。P 1・P 2の底面に、柱のあたりを確認した。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 暗褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	6 におい黄褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	7 におい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子微量

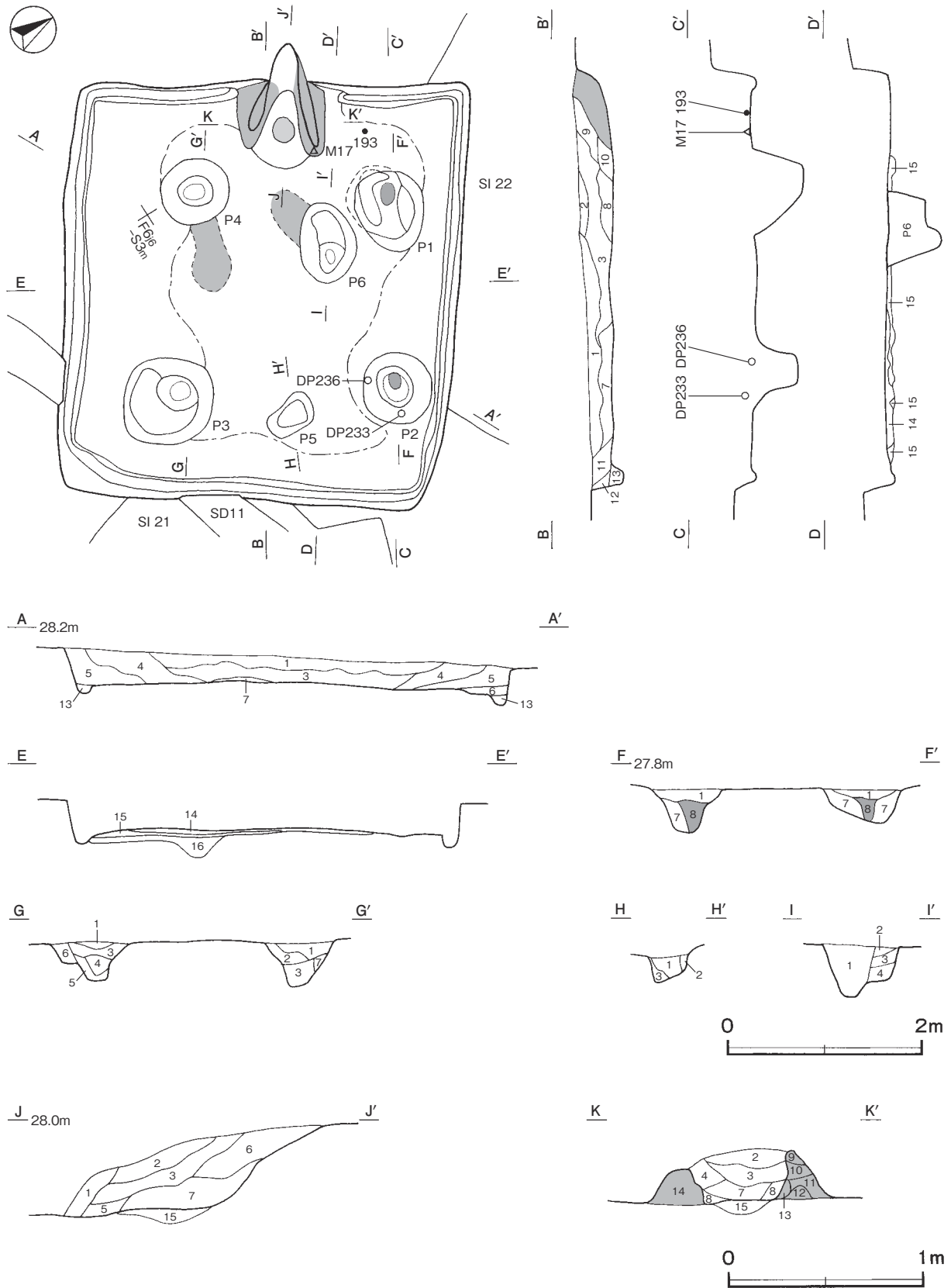
覆土 13層に分層できる。ロームブロックが含まれる層もあるが、周囲から流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。第 14 ~ 16 層は貼床の構築土である。

土層解説

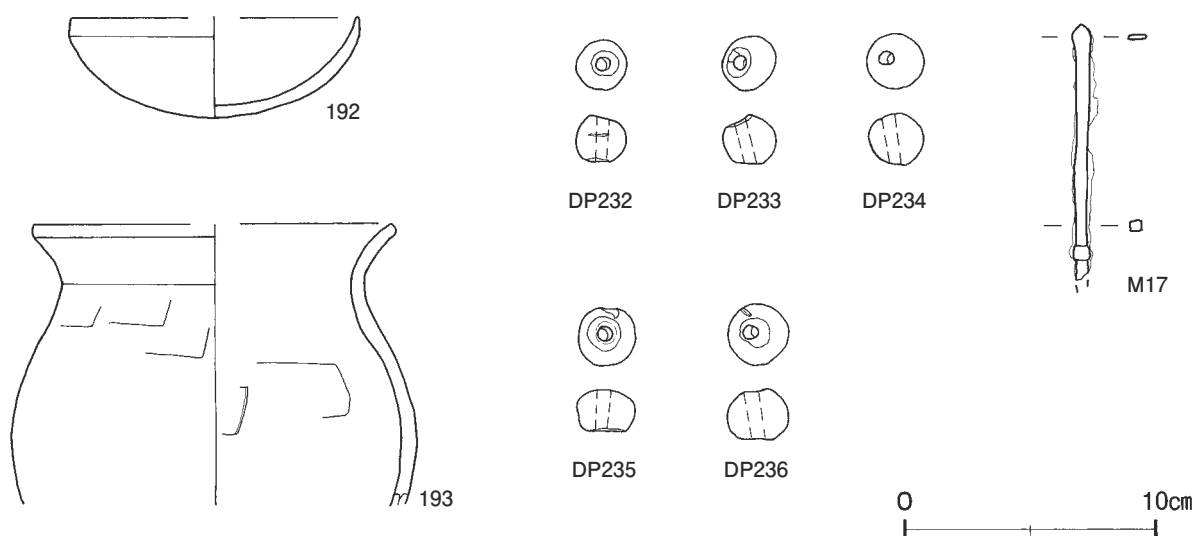
1 暗褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 におい黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 灰黄褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	15 暗褐色	ローム粒子中量
8 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 162 点（坏類 52、甕類 109、小形甕 1）、須恵器片 2 点（坏、甕）、土製品 7 点（土玉 5、支脚 1、紡錘車 1）、金属製品 1 点（鎌）が、北部の覆土中層から下層を中心に出土している。193 は北壁際の覆土下層から出土していることから、埋没する過程で流れ込んだものとみられる。

所見 時期は、7世紀末から8世紀初頭に比定できる第22号竪穴建物跡を掘り込んでいることや、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第179図 第20号竪穴建物跡実測図



第 180 図 第 20 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 180 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
192	土師器	坏	[11.4]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	竈覆土中	50%
193	土師器	小形甕	[14.2]	(11.2)	-	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP232	土玉	2.0	1.9	0.5	7.37	長石・石英	灰褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP233	土玉	2.1	2.0	0.5	(8.03)	長石・石英	灰黄褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土下層	
DP234	土玉	2.2	2.0	0.6	8.71	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP235	土玉	2.3	1.7	0.6	8.76	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP236	土玉	2.4	2.0	0.6	10.3	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 17	鏃	(10.3)	0.7	0.4	(11.8)	鉄	鏃身部柳葉状 断面長方形 茎端部欠損	袖構築土下層	

第 22 号竪穴建物跡 (第 181 ~ 183 図)

位置 調査D区中央部の F 6 i6 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

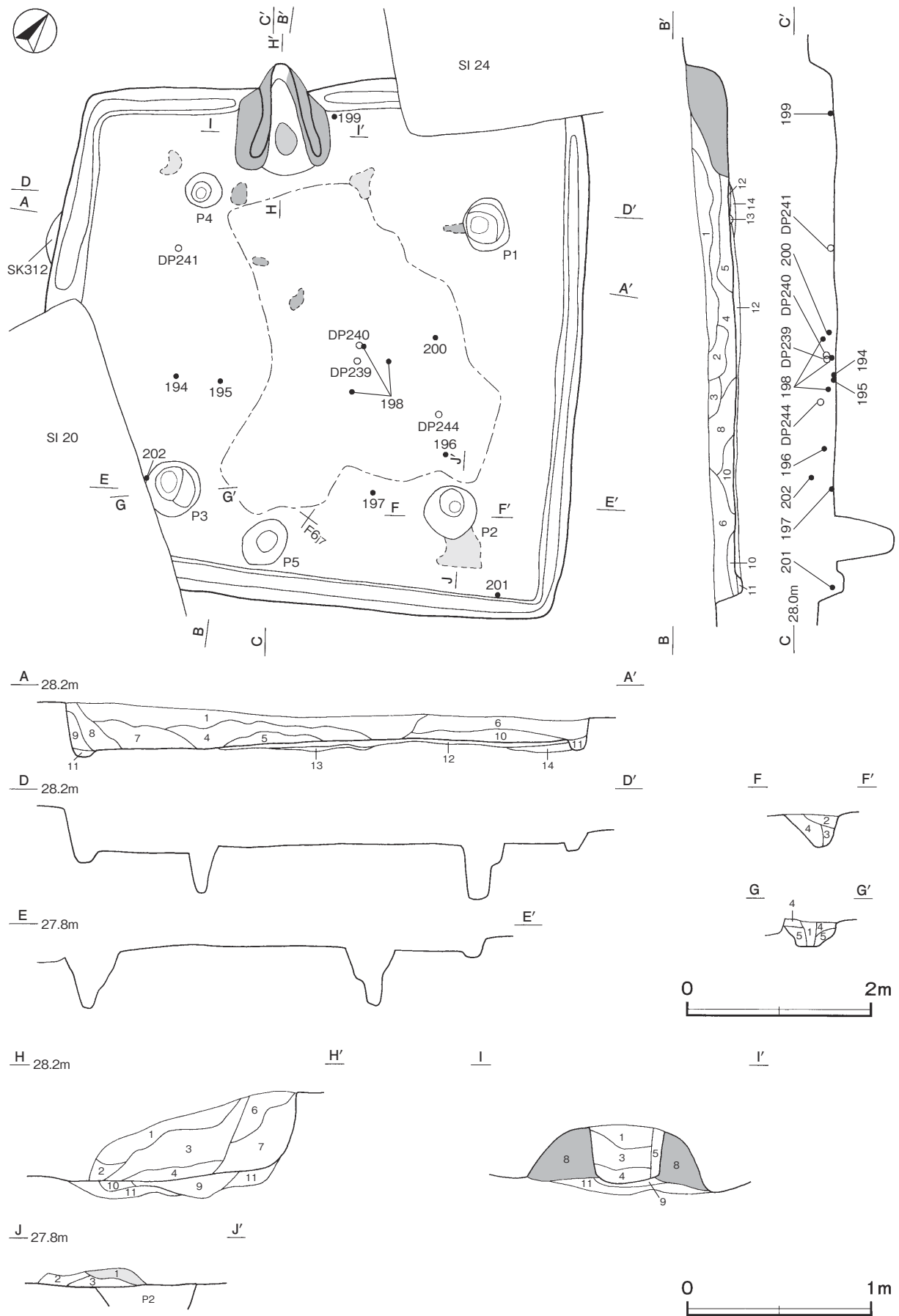
重複関係 第 312 号土坑を掘り込み, 第 20・24 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.71 m, 短軸 5.45 m の方形で, 主軸方向は N - 35° - W である。壁は高さ 18 ~ 50cm で, 直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 12 ~ 14 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。竈の前面で, 粘土塊のちらばりを確認した。竈の前面と南壁際に焼土を確認した。床面から浮いた状態で堆積していることから, 廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。

焼土塊土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第 181 图 第 22 号竖穴建物跡実測図

竈 北西壁やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで123cmで、燃焼部幅は37cmである。袖部は、床面から6cm掘りくぼめた部分に第11層を埋土して、粘土ブロックを主体とする第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5～14cmほど掘り込み、第9～11層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 におい黄褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ43～62cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第4・5層は埋土である。P5は深さ60cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック少量 | | |

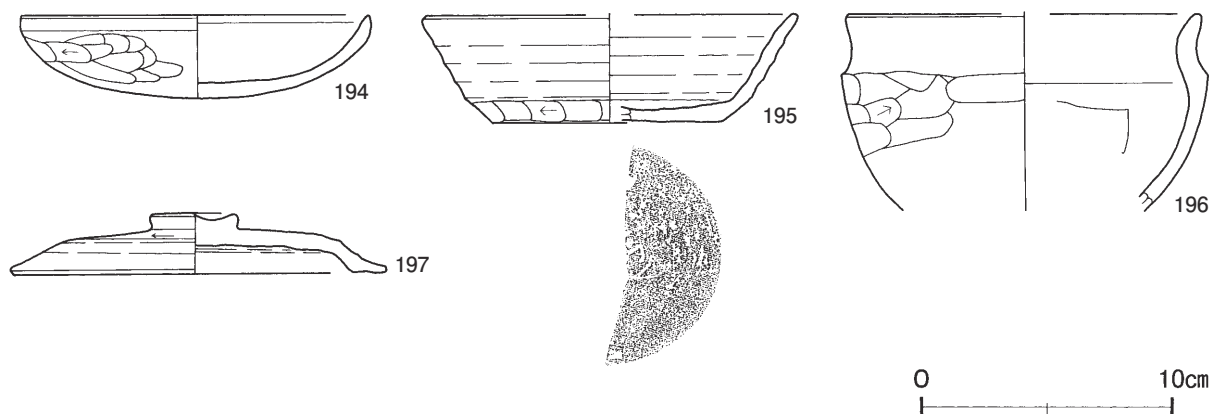
覆土 11層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、南東部から一気に埋められた堆積状況を示している。第12～14層は貼床の構築土である。

土層解説

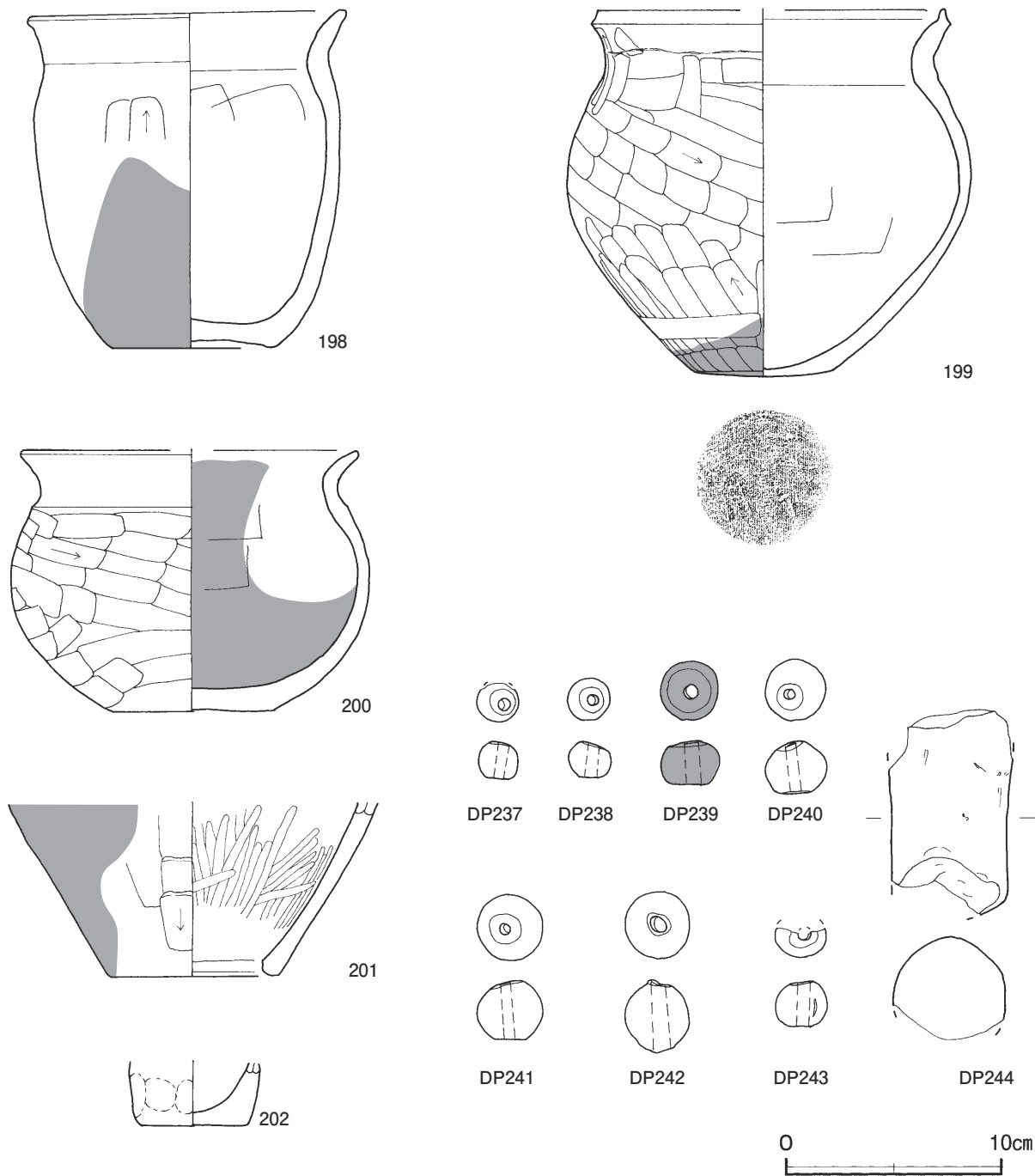
- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片565点(坏類109, 椀3, 高坏12, 甕類435, 小形甕3, 甗2, 手捏土器1), 須恵器片22点(坏12, 高台付坏1, 蓋3, 甕6), 土製品8点(土玉7, 支脚1), 石器1点(砥石), 鉄滓1点のほか、縄文土器片44点(深鉢)が、全域の覆土下層から床面にかけて出土している。197・199は完存率が高く、いずれも床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。198は覆土中層と下層から出土した破片が接合していることから、破碎して投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、7世紀末から8世紀初頭に比定できる。



第182図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 183 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 182・183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
194	土師器	坏	13.8	3.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面摩滅	床面	55%
195	須恵器	坏	[14.6]	4.3	[9.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	30% 新治窯
196	土師器	椀	[14.0]	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	10%
197	須恵器	蓋	15.0	2.4	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	90% 新治窯 PL65
198	土師器	小形甕	14.2	15.7	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層～中層	80% 煤付着 PL65
199	土師器	小形甕	[16.0]	17.0	6.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ヘラナデ	床面	70% 煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
200	土師器	小形甕	[15.3]	12.1	7.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	50% 煤付着
201	土師器	甗	-	(8.1)	[7.8]	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	10% 煤付着
202	土師器	手捏土器	-	(2.9)	5.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 指頭痕	覆土上層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP237	土玉	1.9	1.7	0.5	(5.79)	長石・石英	にぶい黄褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP238	土玉	2.0	1.7	0.5~0.6	6.49	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP239	土玉	2.7	2.0	0.7	16.5	石英	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	煤付着
DP240	土玉	2.8	2.4	0.5	18.4	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	
DP241	土玉	3.0	2.7	0.5	26.1	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	
DP242	土玉	3.0	3.4	0.7~0.8	26.8	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP243	土玉	2.4	2.1	0.6	(7.43)	長石	橙	欠損成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に	覆土中	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP244	支脚	(9.5)	5.3	5.7	(189)	長石・石英	明赤褐	欠損 ナデ	覆土中層	

第23号竪穴建物跡（第184・185図）

位置 調査D区南部のG5c7区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物，第293号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.98m，短軸3.94mの方形で，主軸方向はN-26°-Eである。壁は高さ23~30cmで，直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北東壁やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで99cmで，燃烧部幅は56cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，粘土粒子を主体とする第6層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子多量，焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ30~48cmで，規模と配置から主柱穴である。第1~3層は柱抜き取り後の堆積土，第4層は埋土である。P5は深さ15cmで，南西壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|----------|-----------|-------|--------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

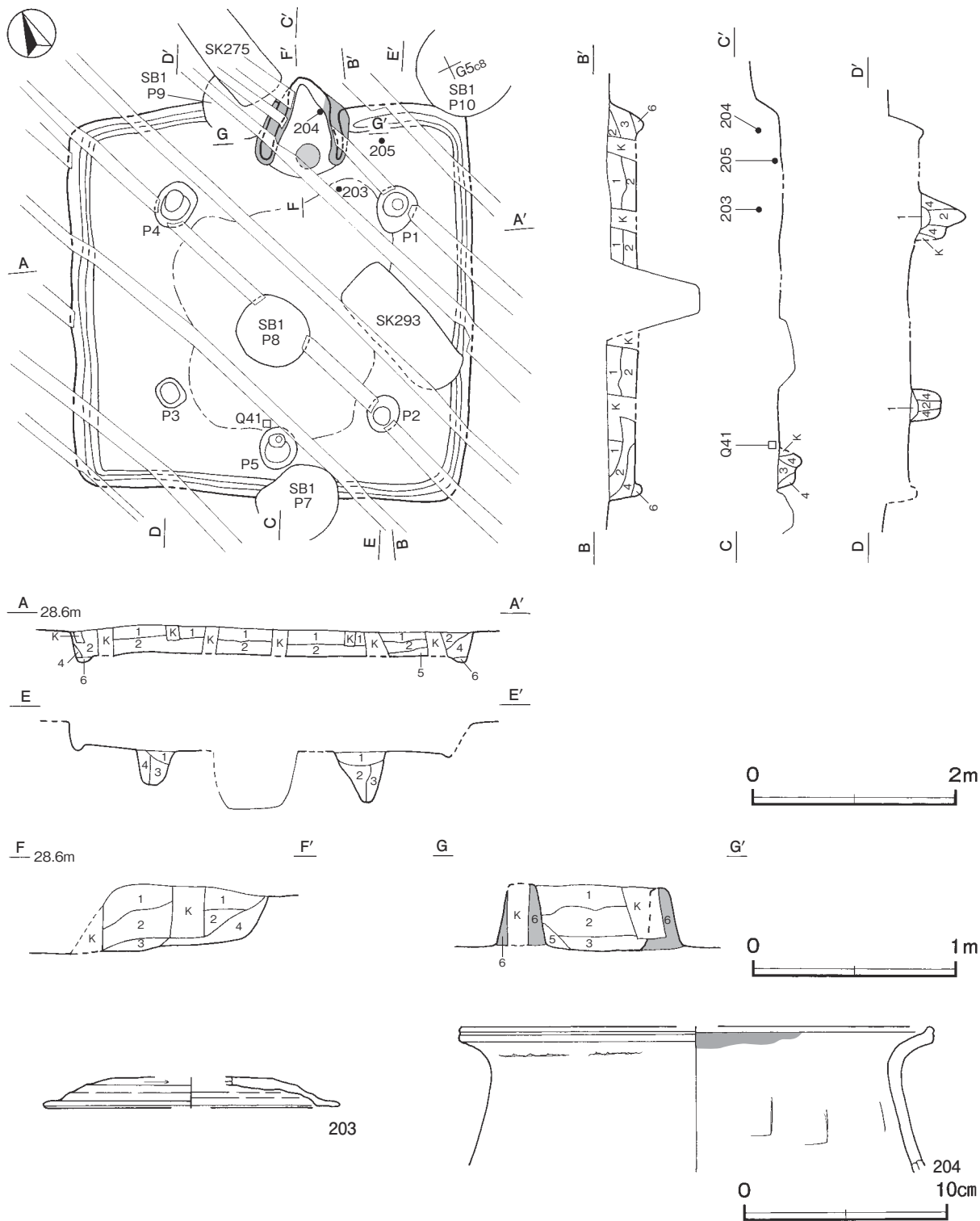
覆土 6層に分層できる。第2~6層は，周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。第1層は，ロームブロックが多く含まれ，一気に埋められた堆積状況を示している。

土層解説

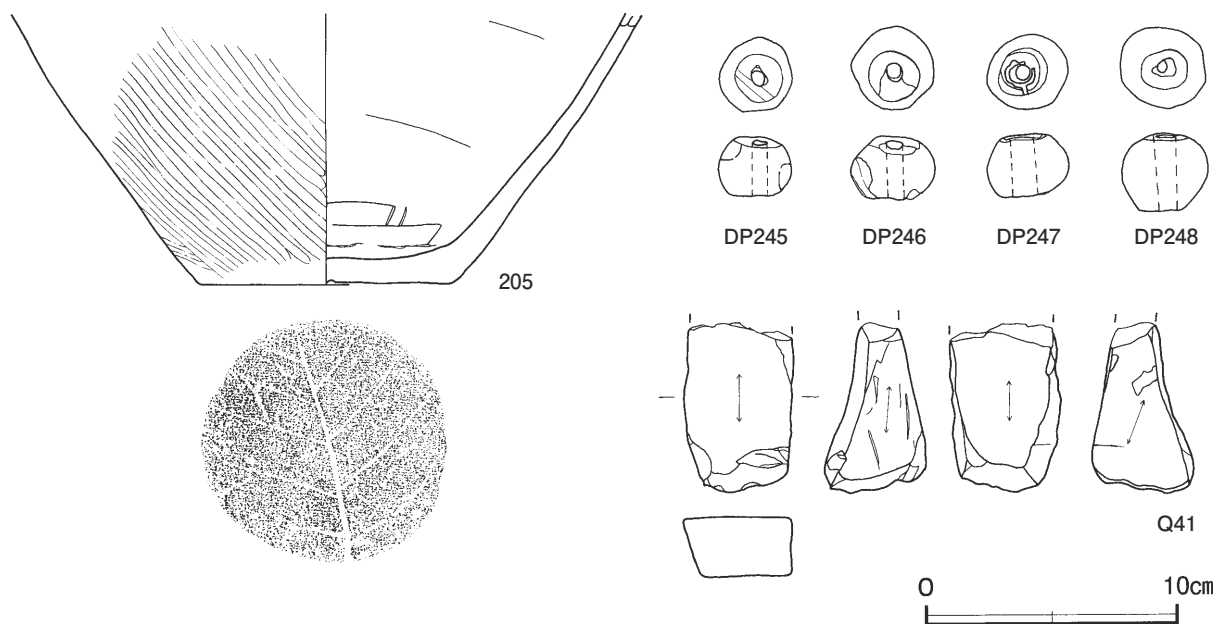
- | | | | |
|----------|--------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 159 点 (坏 36, 椀 2, 甕類 121), 須恵器片 19 点 (坏 13, 蓋 1, 甕 5), 土製品 6 点 (土玉), 石器 1 点 (砥石), 金属製品 1 点 (鎌_カ) のほか, 縄文土器片 6 点 (深鉢) が, 北部の覆土中層から下層を中心に出土している。205 は北壁際の覆土下層から出土していることから, 埋没する過程で流れ込んだものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8 世紀前葉に比定できる。



第 184 図 第 23 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 185 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 184・185 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
203	須恵器	蓋	[14.6]	(1.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	20% 新治窯
204	土師器	甕	[23.2]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 輪積痕 内面ヘラナデ	竈覆土中層	5% 煤付着
205	土師器	甕	-	(10.8)	9.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面斜位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP245	土玉	29~30	2.3	0.6	20.4	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	
DP246	土玉	29~34	2.5	0.7	(23.8)	長石・石英・雲母	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	
DP247	土玉	30~32	2.5	0.9	25.8	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP248	土玉	32~34	3.1	0.7~0.9	31.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 41	砥石	(6.7)	4.4	4.1	(122)	凝灰岩	欠損 砥面4面	覆土下層	PL95

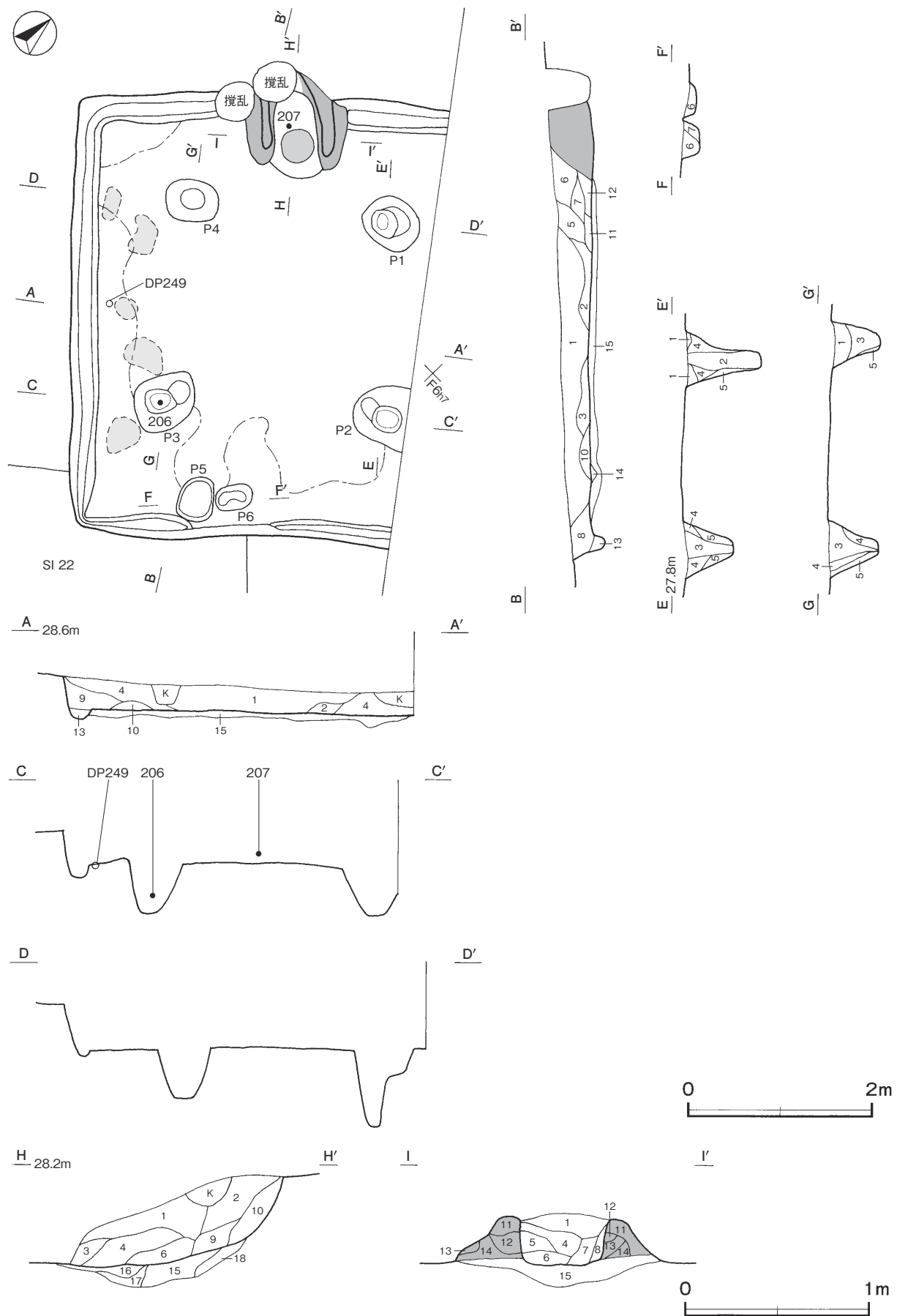
第 24 号竪穴建物跡 (第 186・187 図)

位置 調査D区中央部のF 6 h6区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため, 北西・南東軸は 4.86 mで, 北東・南西軸は 3.95 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき, 主軸方向はN - 37° - Wである。壁は高さ 30 ~ 46cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 14・15層を埋土して構築されている。南東壁の一部を除いて, 壁下には壁溝が巡っている。南西部で, 焼土塊のちらばりを確認した。



第 186 图 第 24 号竖穴建物跡实测图

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 119cmで、燃焼部幅は 45cmである。袖部は、床面から 5～10cm掘りくぼめた部分に第 15 層を埋土して、粘土粒子を主体とする第 11～14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 12cmほど掘り込み、第 15～18 層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 34cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立している。第 1 層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-----------|---------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗オリーブ色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 13 灰オリーブ色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 14 黒褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 8 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 18 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ 42～72cmで、規模と配置から支柱穴である。第 1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第 4・5層は埋土である。P 5・P 6は深さ 9cm・10cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|----------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | | |

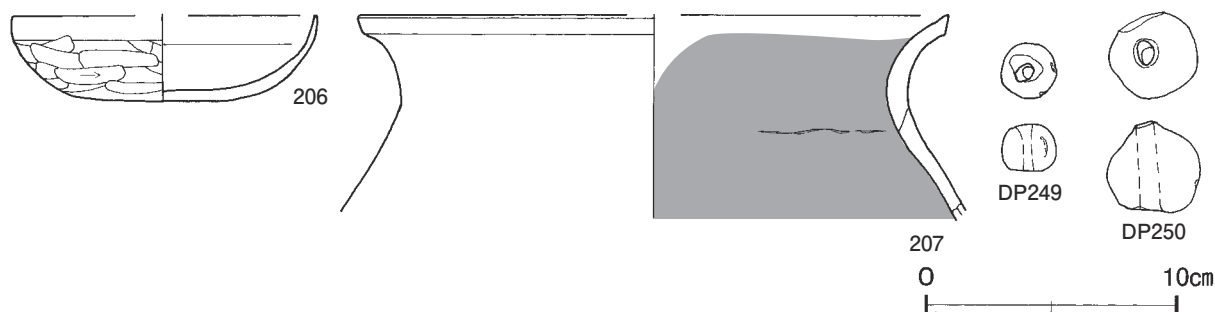
覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第 14・15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 292 点 (坏類 76, 甕類 216), 須恵器片 16 点 (坏 6, 高台付坏 2, 甕 8), 土製品 2 点 (土玉) のほか、縄文土器片 14 点 (深鉢), 弥生土器片 3 点 (壺) が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。206 は P 3 の覆土下層から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、7 世紀末から 8 世紀初頭に比定できる第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいることや、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 187 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 187 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
206	土師器	坏	[12.0]	34	-	石英・黒色粒子	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	P 3 覆土下層	60%
207	土師器	甕	[23.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ナデ 輪積痕	竈覆土下層	10% 煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP249	土玉	2.2	1.9	0.4~0.6	8.82	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	
DP250	土玉	3.4~3.6	3.6	0.8~0.9	(39.1)	長石・石英	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第 33 号竪穴建物跡（第 188・189 図）

位置 調査D区南部のG 5 c4 区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 36 号竪穴建物跡，第 315 号土坑を掘り込み，第 32 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.57 m，短軸 4.50 mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁は高さ 10 ~ 34cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除き，壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 95cmで，燃烧部幅は 43cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に，粘土粒子を主体とする第 7・8 層を積み上げて構築されている。火床部も床面とはほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 18cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	焼土粒子微量	5	暗褐色	焼土粒子少量
2	灰黄褐色	焼土ブロック少量	6	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子微量
3	灰黄褐色	粘土粒子少量	7	暗褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

ピット 6か所。P 1 ~ P 4 は深さ 50 ~ 60cmで，規模と配置から主柱穴である。第 1 ~ 5 層は柱抜き取り後の堆積土，第 6 層は埋土である。P 1 ~ P 4 では柱の立て替えが確認できた。P 5 は深さ 16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 20cmで，性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	にぶい褐色	ロームブロック中量	4	褐色	ロームブロック中量
2	にぶい褐色	ローム粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量	6	黒褐色	ロームブロック微量

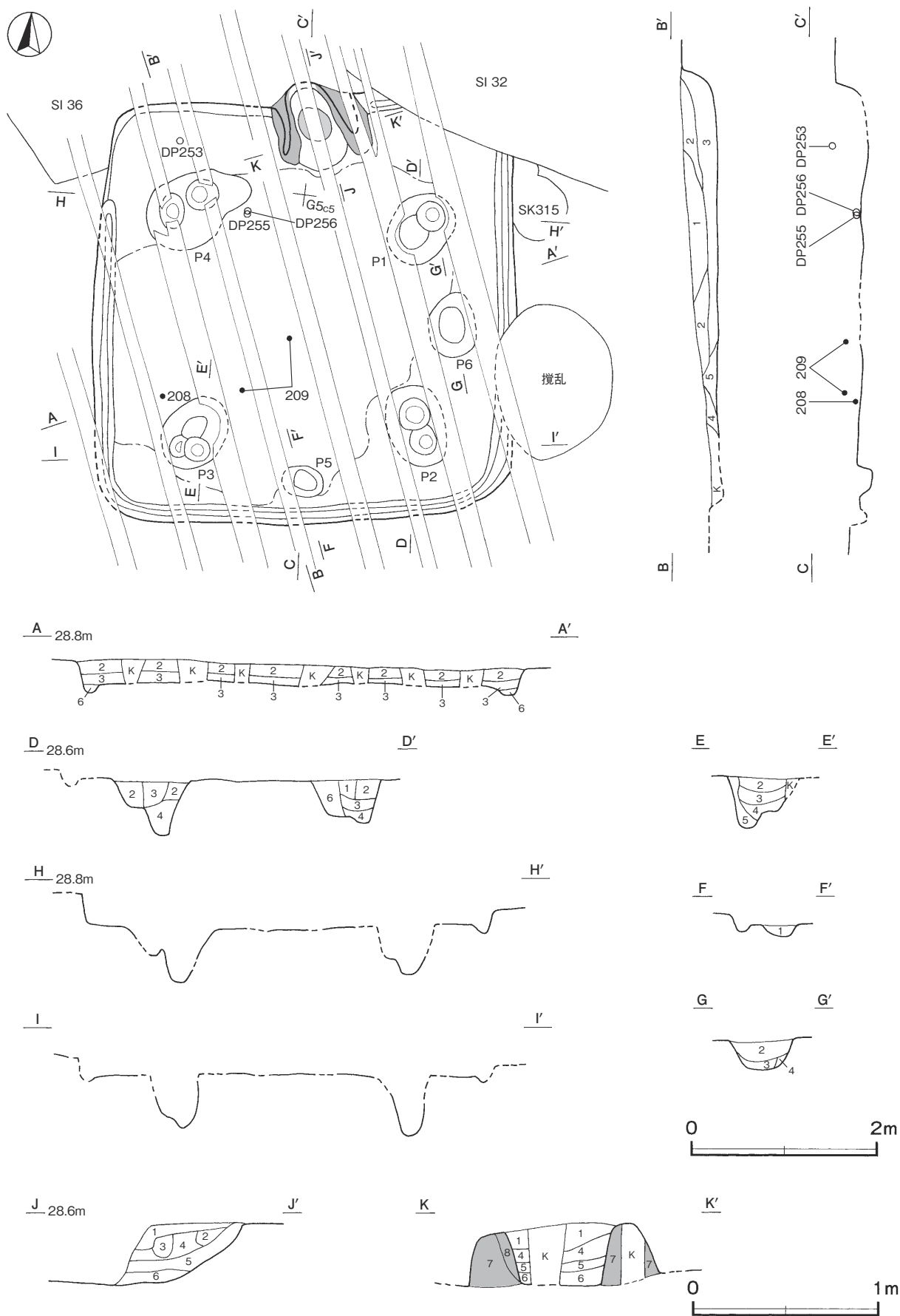
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

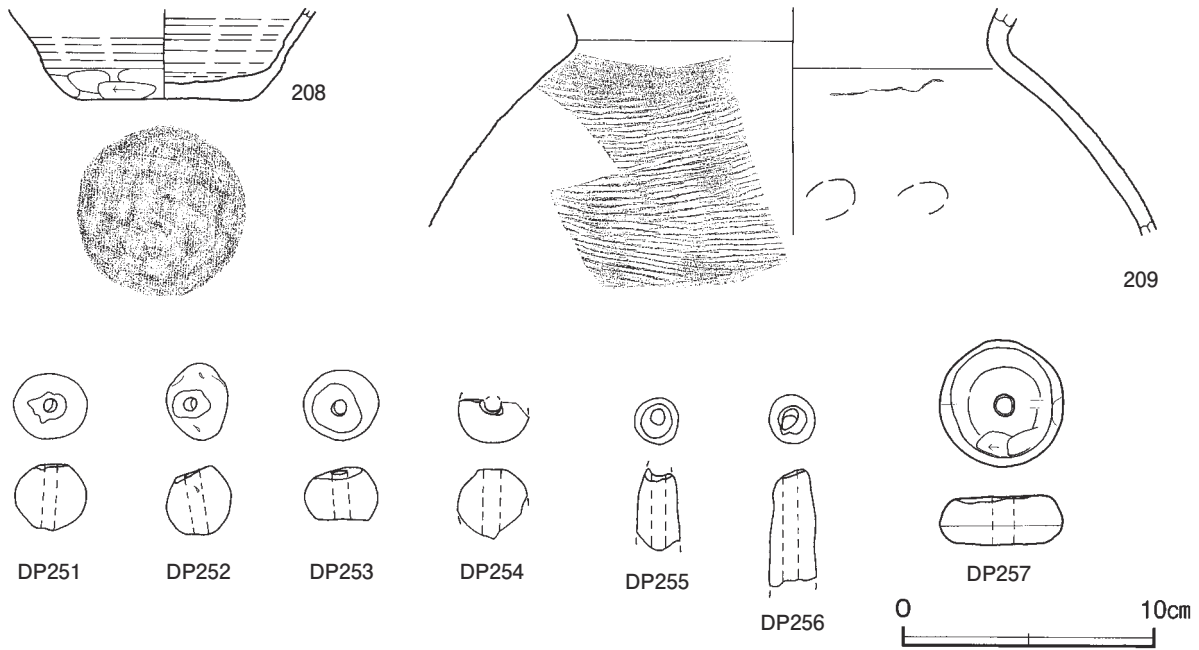
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 504 点（坏類 101，甕類 402，甗 1），須恵器片 85 点（坏 65，高台付坏 2，蓋 2，甕 16），土製品 10 点（土玉 7，管状土錘 2，紡錘車 1），金属製品 2 点（不明），鉄滓 1 点のほか，縄文土器片 2 点（深鉢）が，全域の覆土中層から下層にかけて出土している。208 は南西部の覆土下層から出土していることから，埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，8 世紀前葉に比定できる。



第 188 图 第 33 号竖穴建物跡実测图



第 189 図 第 33 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 189 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
208	須恵器	坏	-	(3.7)	6.7	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	25% 新治窯
209	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ 指頭痕 輪積痕	覆土中層	5% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP251	土玉	26~29	2.6	0.5	19.0	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP252	土玉	26~30	2.7	0.5	20.2	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP253	土玉	28~30	2.1	0.6	18.9	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	
DP254	土玉	2.8	(2.8)	0.7	(10.1)	長石・石英	橙	欠損 ナデ 穿孔痕	覆土中	
DP257	紡錘車	4.9	1.9	0.8	51.5	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	上面ヘラ削り 側面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL92

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP255	管状土錘	1.8	(3.3)	0.6	(7.97)	長石・石英	黒褐	両端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP256	管状土錘	1.9	(4.7)	0.6	(14.5)	長石・石英	にぶい橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL90

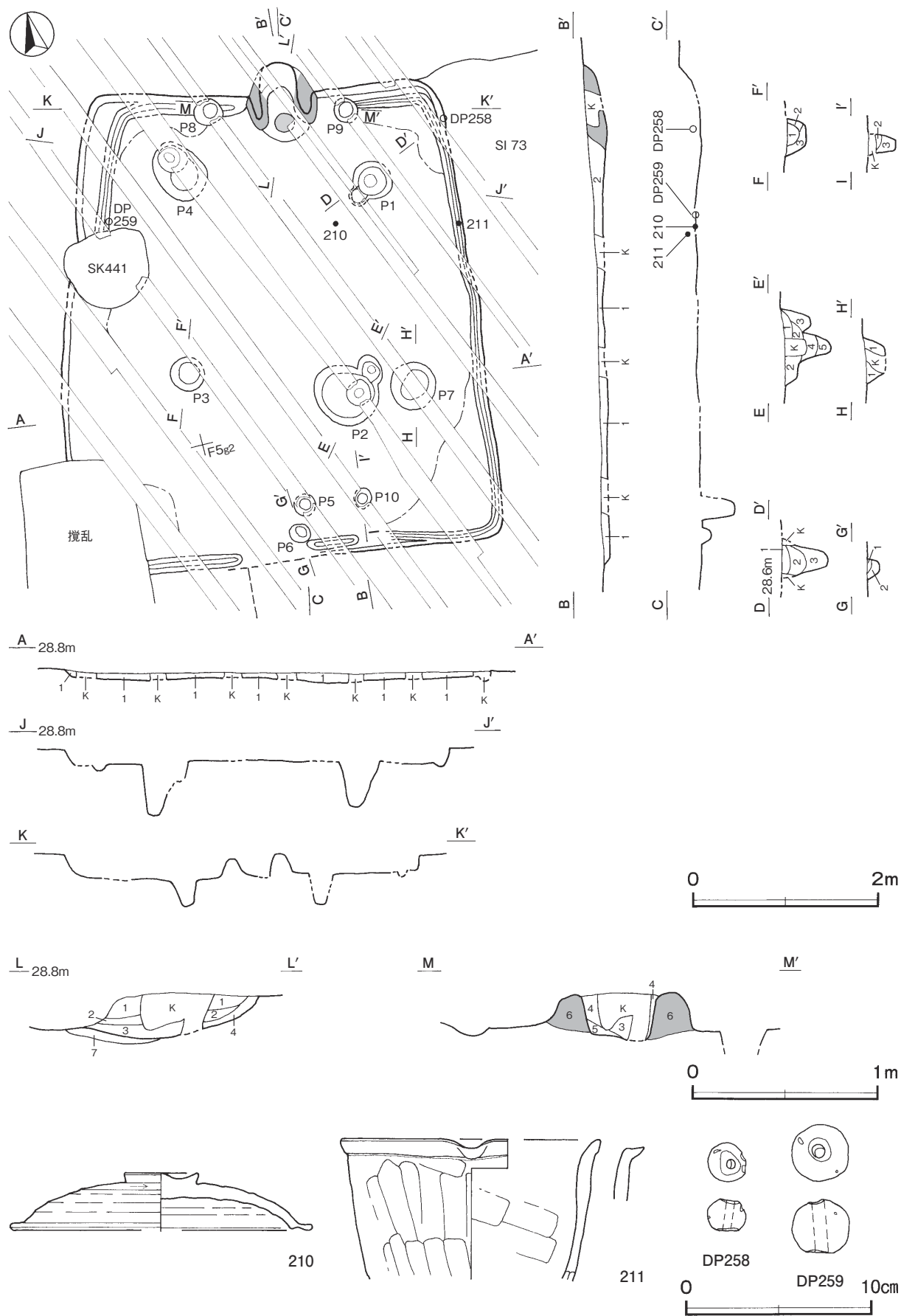
第 60 号竪穴建物跡（第 190 図）

位置 調査D区中央部のF 5 f2区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 73 号竪穴建物跡を掘り込み、第 441 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.15 m、短軸 4.58 mの長方形で、主軸方向はN - 12° - Eである。壁は高さ 6 ~ 15cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。西壁と南壁の一部を除いて壁下には壁溝が巡っている。



第 190 図 第 60 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は34cmである。袖部は地山をわずかに掘り残し、その上に粘土粒子を主体とする第6層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cmほど掘り込み、ローム粒子を含む第7層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾している。第2層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 におい赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック中量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

ピット 10か所。P1～P4は深さ13～54cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～5層は柱抜き取り後の堆積土である。P2では柱の立て替えが確認できた。P5・P6は深さ30cm・10cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ18cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P8・P9は深さ24cm・31cmで、竈の両側の壁下に位置しており、竈に付随する柱穴の可能性はある。P10は深さ28cmで、性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

覆土 2層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|------|---------|------|----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 2 褐色 | 焼土ブロック微量 |
|------|---------|------|----------|

遺物出土状況 土師器片225点（坏類61、鉢3、片口鉢1、甕類160）、須恵器片11点（坏3、高台付坏1、蓋2、甕5）、土製品4点（土玉3、支脚1）のほか、縄文土器片2点（深鉢）、石製品1点（剣形品）、鉄滓6点が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。出土した土器の大半は小破片である。210・DP259は床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、8世紀前葉に比定できる。

第60号竪穴建物跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	須恵器	蓋	[18.2]	3.1	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	35% 新治窯
211	土師器	片口鉢	[13.8]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP258	土玉	2.1	1.7	0.4	(6.86)	長石・石英	におい黄褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	
DP259	土玉	3.1	3.1	0.7	26.8	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	

第64号竪穴建物跡（第191・192図）

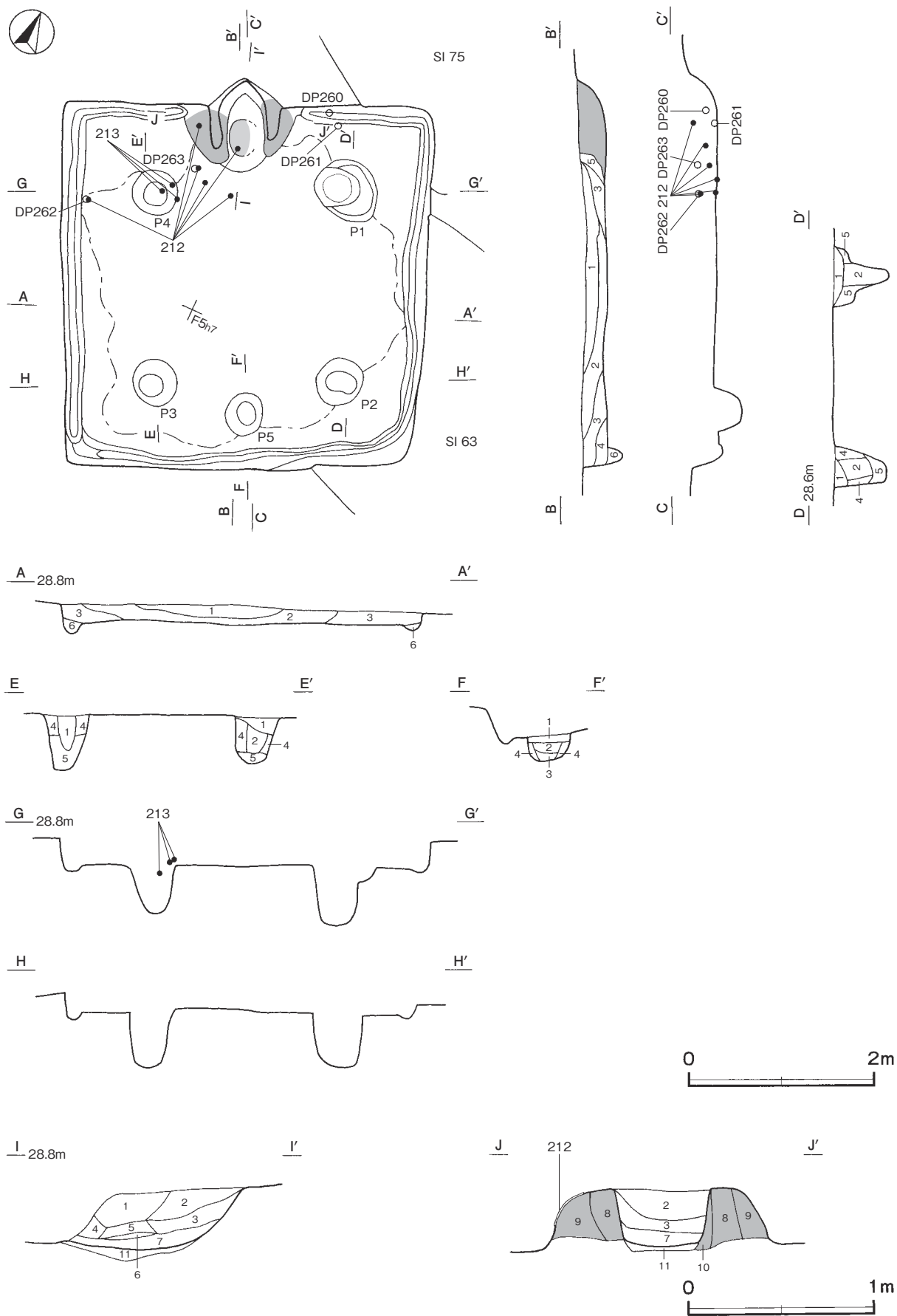
位置 調査D区中央部のF5h7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第63・75号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.94mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁は高さ12～28cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は地山をわずかに掘り残し、その上に粘土粒子を主体とする第8～10層を積み上げて構築されている。



第 191 图 第 64 号竖穴建物跡実測图

左袖部には 212 が補強材として使用されている。火床部は床面を 6～9cm 掘りくぼめ、ロームブロックを含む第 11 層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けてやや赤変している。煙道部は壁外に 28cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。第 1 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 褐 灰 色 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化物少量 | 7 赤 褐 色 焼土粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 灰 白 色 粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量 | 9 灰 褐 色 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量 |
| 5 褐 色 焼土ブロック少量 | 11 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 明 褐 灰 色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 50～60cmで、規模と配置から主柱穴である。第 1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第 4・5層は埋土である。P 5は深さ 28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

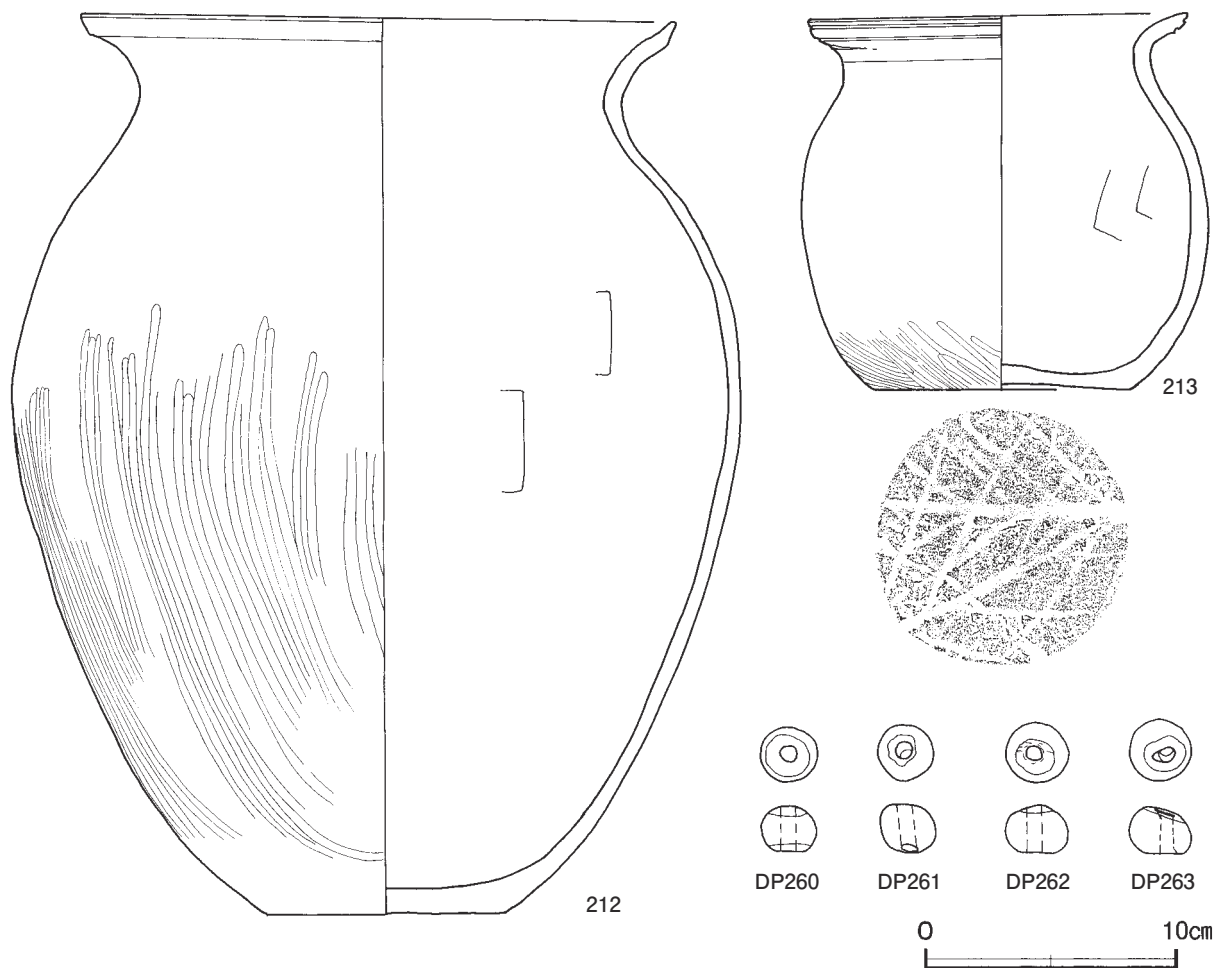
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 ローム粒子少量 | 4 褐 色 ロームブロック多量 |
| 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック中量 | |

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 ローム粒子少量 | 4 明 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 3 褐 色 ロームブロック微量 | 6 褐 色 焼土粒子微量 |



第 192 図 第 64 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 242 点（坏類 39, 甕類 202, 小形甕 1）, 須恵器片 3 点（坏）, 土製品 5 点（土玉）が、覆土中の広い範囲から出土している。212 は、竈手前や西壁際の床面から出土した破片と接合していることから、廃絶時に竈袖部の補強材の一部が破碎されたものとみられる。213 は P 4 の覆土上層から覆土下層にかけて出土している破片 3 点と接合していることから、廃絶後間もなく投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、8 世紀前葉に比定できる。

第 64 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 192 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
212	土師器	甕	23.4	36.0	9.7	長石・石英・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	竈構築土 ～床面	80% PL65
213	土師器	小形甕	14.8	15.0	10.1	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	P 4 覆土上層 ～覆土下層	90% PL65

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP260	土玉	2.2	1.8	0.6	8.54	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP261	土玉	2.2	1.9	0.5～0.6	8.94	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	床面	
DP262	土玉	2.5	1.8	0.6	10.6	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中層	
DP263	土玉	2.5	1.9	0.6～0.9	10.7	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	

第 70 号竪穴建物跡（第 193・194 図）

位置 調査 D 区中央部の F 4 g0 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 58 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.65 m, 短軸 3.41 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 17 ~ 20cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 3・4 層を埋土して構築されている。また, 中央部で深さ 31cm の床下土坑を確認した。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 2 か所。竈 1 は北壁中央部, 竈 2 はそれよりやや西寄りに付設されている。竈 1 は北壁外に煙道部の掘り込みのみを確認した。規模は, 長さ 18cm, 横幅は 25cm で, 煙道部は外傾している。竈 2 の規模は, 焚口部から煙道部までは 78cm で, 燃焼部幅は 25cm と推定できる。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 5 層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は壁外に 10cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。竈 1 の袖部が遺存していないことから, 竈 1 から竈 2 へ作り替えられている。

竈土層解説（各竈共通）

- | | | | |
|--------|--------------|--------|-------------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子中量 | 5 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 赤褐 色 | 焼土ブロック多量 | 6 暗褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 4 暗褐 色 | ローム粒子少量 | | |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 35 ~ 52cm で, 配置から支柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3 層は埋土である。P 4 は深さ 24cm で, 南部の中央に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P 5・P 6 は深さ 25cm・10cm で, 性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 褐 色 | ローム粒子少量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐 色 | ロームブロック少量 |

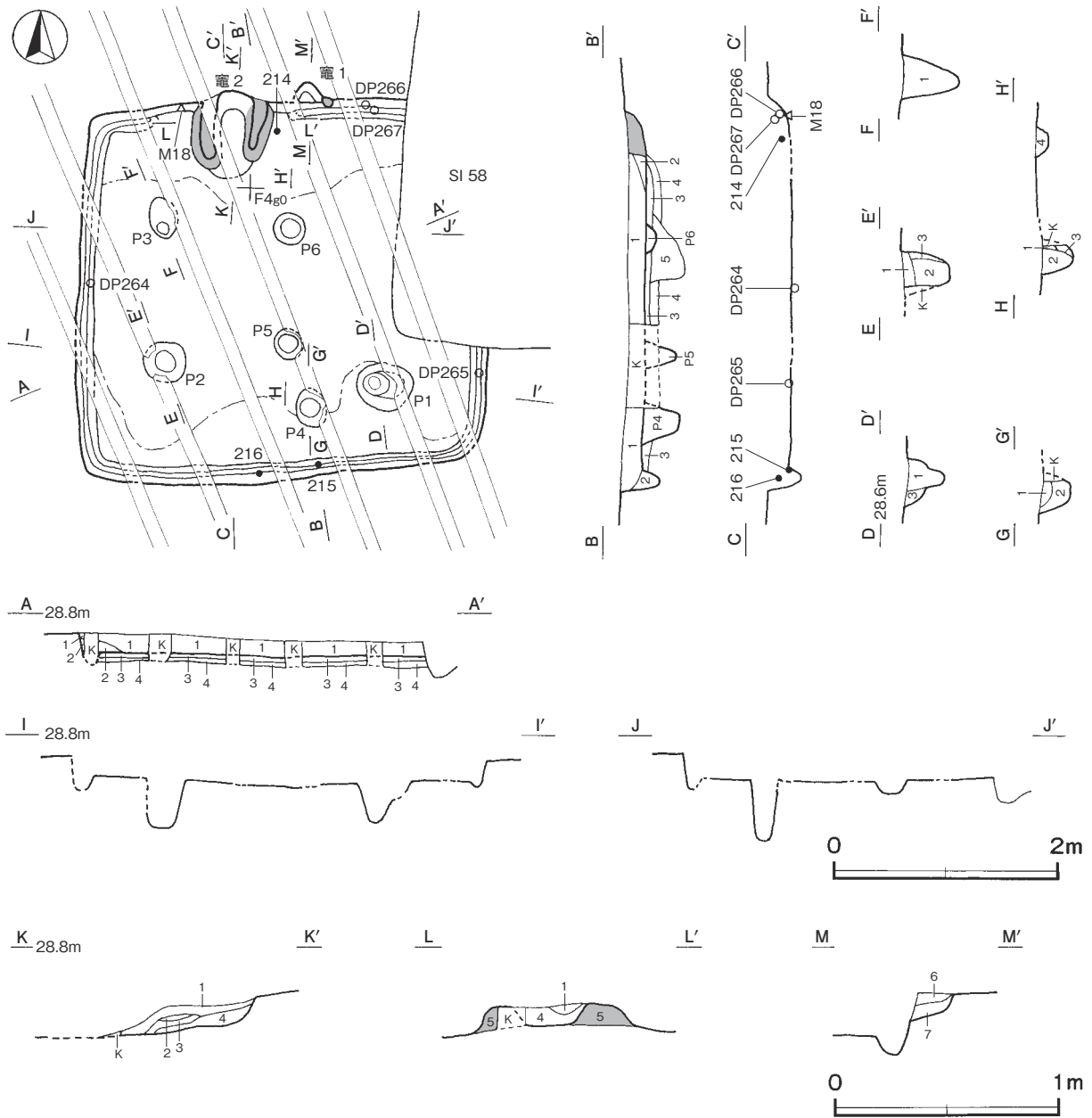
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3・4層は貼床の構築土、第5層は床下土坑の覆土である。

土層解説

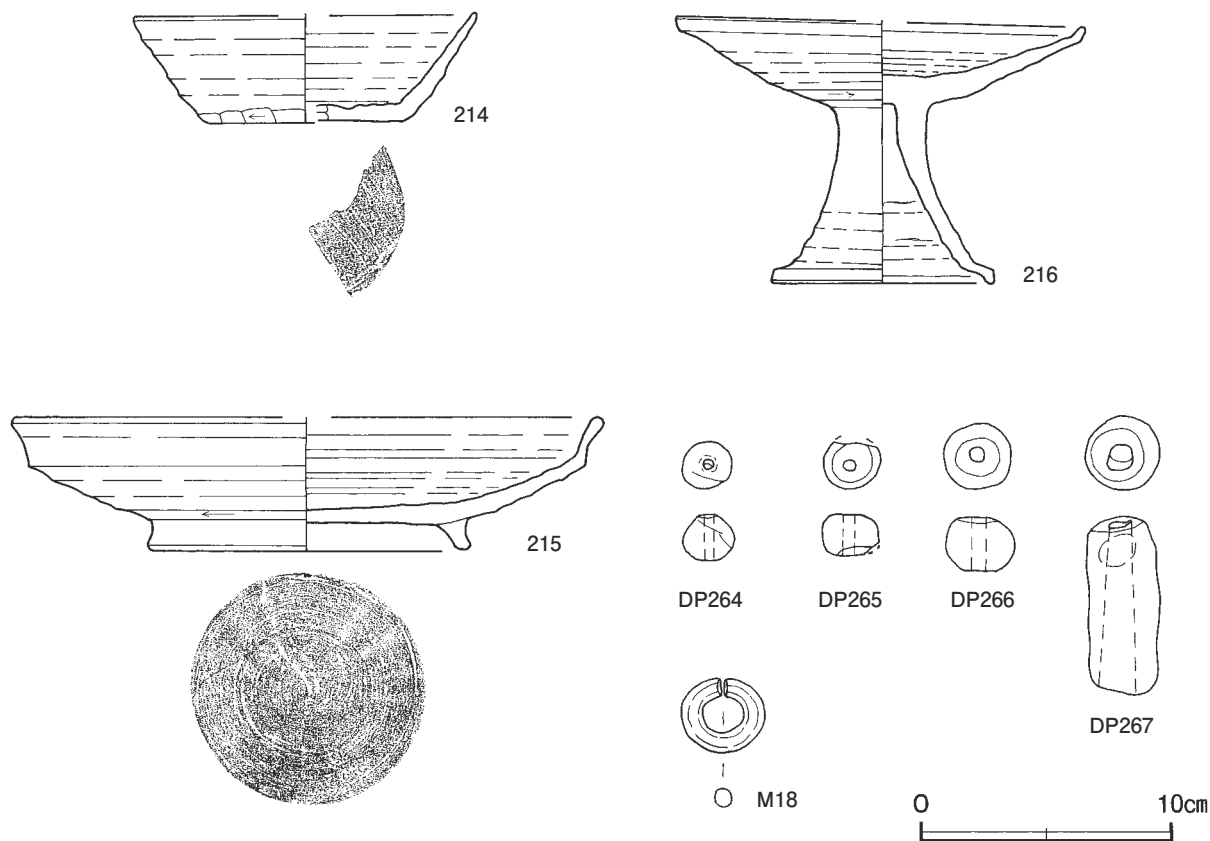
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器片 126 点 (坏 18, 甕類 108), 須恵器片 22 点 (坏 9, 蓋 1, 盤 1, 高盤 1, 甕 10), 土製品 4 点 (土玉 3, 管状土錘 1), 金属製品 1 点 (耳環) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢) が, 全域の覆土下層から床面にかけて出土している。215・DP264・DP265 は壁溝覆土中, M 18 は床面からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。216 は南壁際の覆土中層から出土していることから, 埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8 世紀後葉に比定できる。



第 193 図 第 70 号 竪穴建物跡実測図



第 194 図 第 70 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 70 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 194 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
214	須恵器	坏	[13.4]	4.2	[7.8]	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	20% 種敷産
215	須恵器	盤	[23.1]	5.3	12.6	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	壁溝覆土中	60% 新治窯
216	須恵器	高盤	[16.0]	10.6	8.8	長石・石英	灰黄	普通	坏部体部下端回転ヘラ削り 脚部内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	80% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP264	土玉	1.9~2.0	1.9	0.4	7.21	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	壁溝覆土中	
DP265	土玉	2.3	1.6	0.4~0.5	(7.19)	長石・石英・雲母	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	壁溝覆土中	
DP266	土玉	2.5~2.7	2.2	0.6	(16.8)	長石・石英・雲母	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

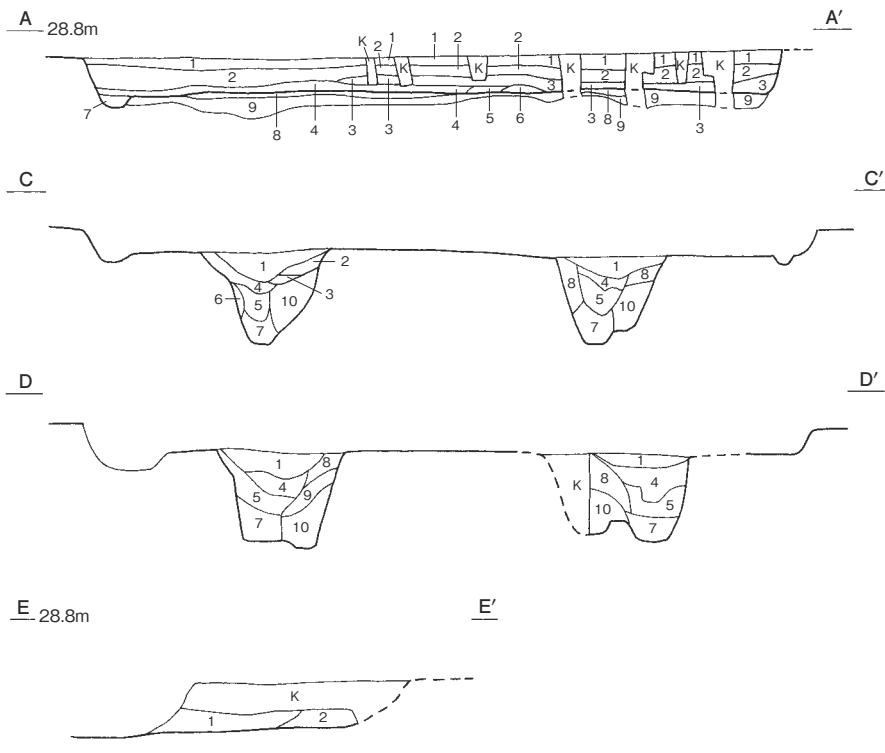
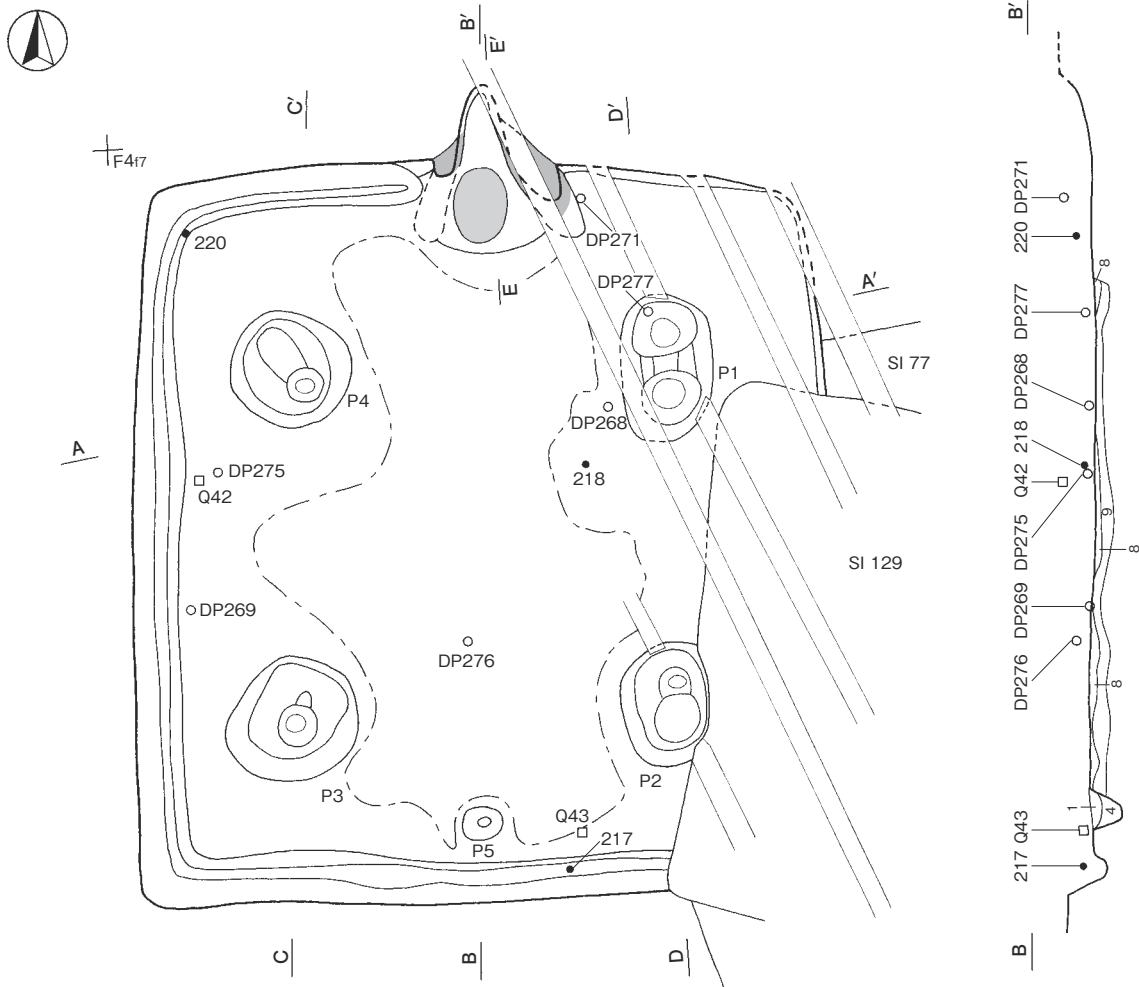
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP267	管状土錘	2.9	7.1	0.9~1.5	61.0	長石・雲母	黒	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中層	PL90

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 18	耳環	2.9	3.3	0.7	27.4	銅	開口部有り 断面円形	床面	PL99

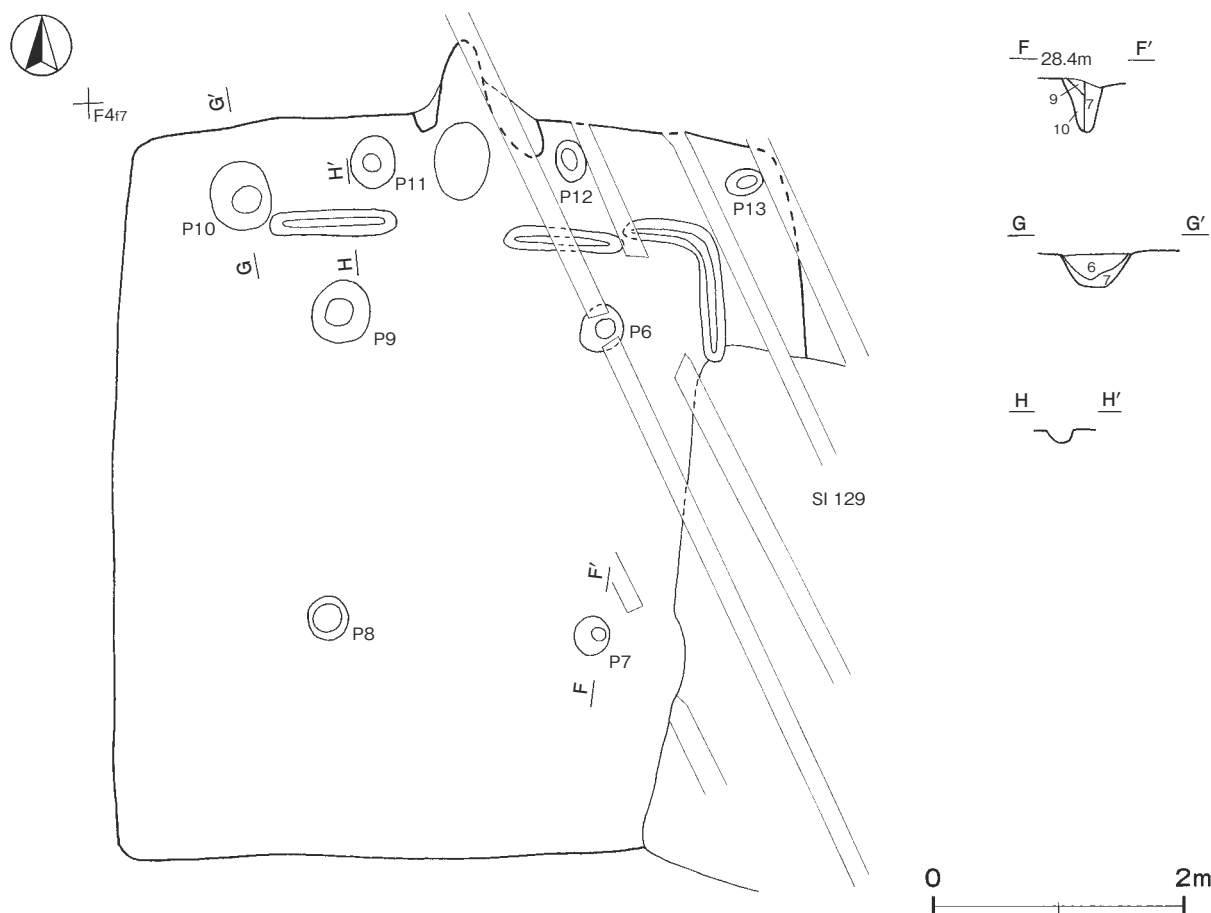
第 76 号竪穴建物跡 (第 195 ~ 197 図)

位置 調査D区中央部のF 4 f7区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 77 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 129 号竪穴建物に掘り込まれている。



第 195 図 第 76 号 竪穴建物跡実測図 (1)



第 196 図 第 76 号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 5.89 m, 短軸 5.50 m の方形で, 主軸方向は $N-3^{\circ}-E$ である。壁は高さ 22 ~ 31cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 8・9 層を埋土して構築されている。北東部を除いて, 壁下には壁溝が巡っている。掘方調査の結果, 北壁から東壁にかけて拡張前の建物跡に伴うと考えられる壁溝を確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く, 左袖部は基部の痕跡しか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで 135cm, 燃焼部幅は 69cm と推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さを利用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 58cm 掘り込まれ, 火床部から外傾していると推定できる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 2 褐色 | ロームブロック中量 |
|--------|--------------|------|-----------|

ピット 13 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 68 ~ 72cm で, 規模と配置から支柱穴である。第 1 ~ 7 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 8 ~ 10 層は埋土である。P 1・P 2 では柱の立て替えが確認できた。P 5 は深さ 26cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。掘方調査の結果, 床下から P 6 ~ P 13 を確認した。配置から P 6 ~ P 9 は拡張前の支柱穴, P 10 ~ P 13 は壁外柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

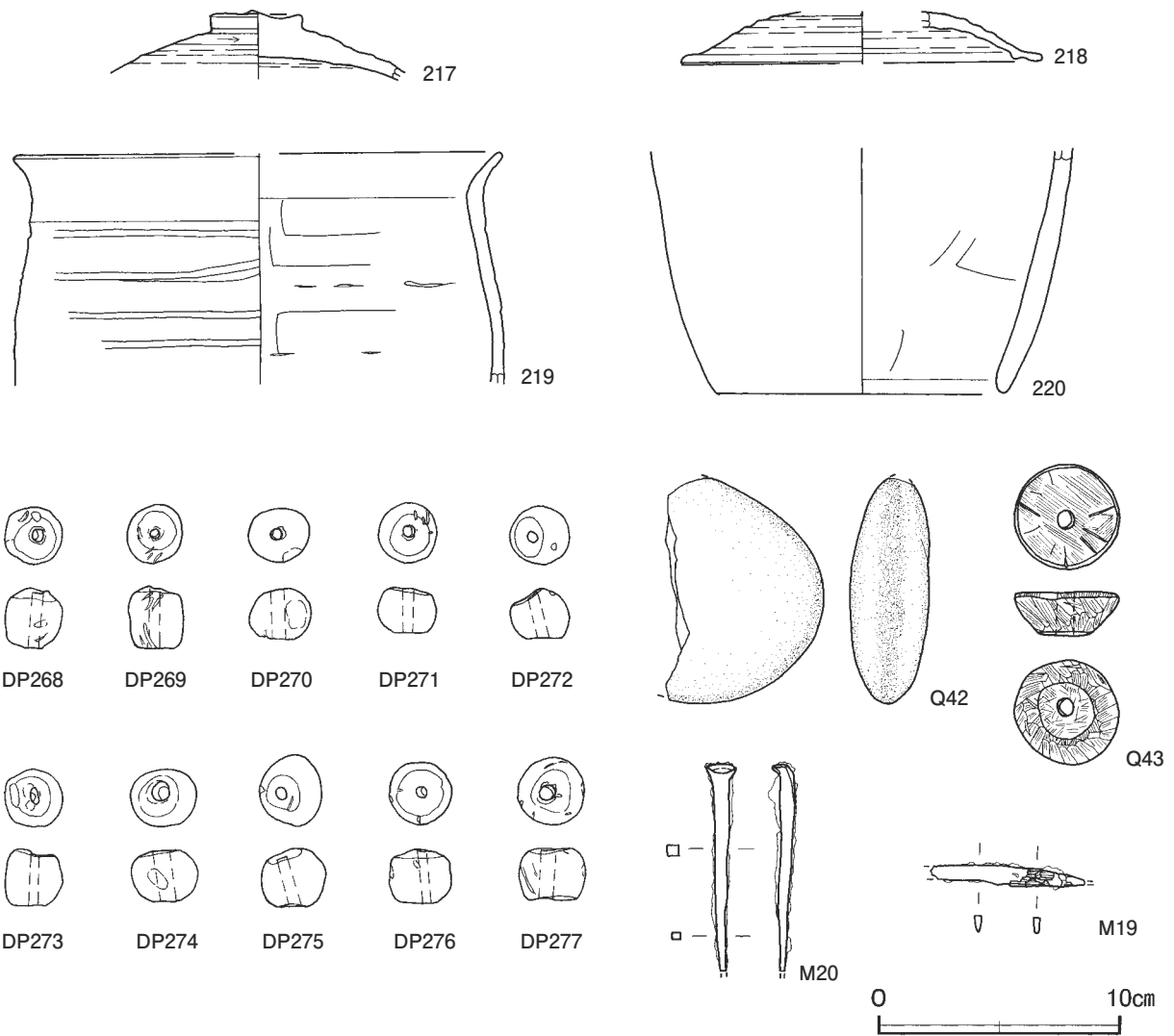
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、東側から一気に埋められた堆積状況を示している。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 605点 (坏類 108, 甕類 494, 小形甕 1, 甌 2), 須恵器片 58点 (坏 21, 蓋 17, 甕 20), 土製品 15点 (土玉 14, 羽口 1), 石器 2点 (磨石, 紡錘車), 金属製品 6点 (刀子 1, 釘 3, 不明 2), 鉄滓 4点のほか, 縄文土器片 4点 (深鉢) が, 全域の覆土中層から下層にかけて出土している。出土した土器の大半は小破片で, 埋め戻す際に混入したものと考えられる。217 は南壁際の覆土下層から出土していることから, 埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8世紀前葉に比定できる。掘方調査で確認したピット等の内部施設から, 拡張が行われた建物跡である。また, 拡張後に支柱穴を立て替えていることから, 長期間の存続が考えられる。



第 197 図 第 76 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 76 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 197 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
217	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	40% 新治窯
218	須恵器	蓋	[14.6]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外・内面ヘラナデ	覆土中層	10% 新治窯
219	土師器	甌	[20.0]	(9.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面沈線状のヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中	10%
220	土師器	甌	-	(10.1)	[11.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP268	土玉	2.4	2.5	0.5	13.1	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP269	土玉	2.4	2.6	0.4~0.6	14.4	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 擦痕有	覆土下層	
DP270	土玉	2.3~2.5	2.1	0.5~0.6	12.0	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
DP271	土玉	2.4~2.5	1.9	0.4	11.2	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土上層	
DP272	土玉	2.4~2.5	2.1	0.4	11.7	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP273	土玉	2.4	2.3	0.4	13.7	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	
DP274	土玉	2.4~2.7	2.1	0.7	14.8	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP275	土玉	2.6~2.9	2.4	0.5	15.9	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP276	土玉	2.6	2.2	0.4	15.2	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP277	土玉	2.7~2.8	2.2	0.7	19.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 42	磨石	9.3	(6.6)	3.2	(299)	安山岩	欠損 全面研磨痕	覆土上層	

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 43	紡錘車	4.3	1.8	0.7	48.1	滑石	全面研磨 側面ヘラ削り	覆土下層	PL96

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 19	刀子	(6.4)	0.8	0.3	(4.73)	鉄	刃部一部欠損 断面三角形 茎部断面長方形 木質残存	覆土中	
M 20	釘	(8.6)	1.2	0.5	(13.9)	鉄	先端部欠損 断面長方形	覆土中	PL99

第 80 号 竪穴建物跡 (第 198・199 図)

位置 調査D区中央部のF 4 d8区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 758 号土坑に掘り込まれている。

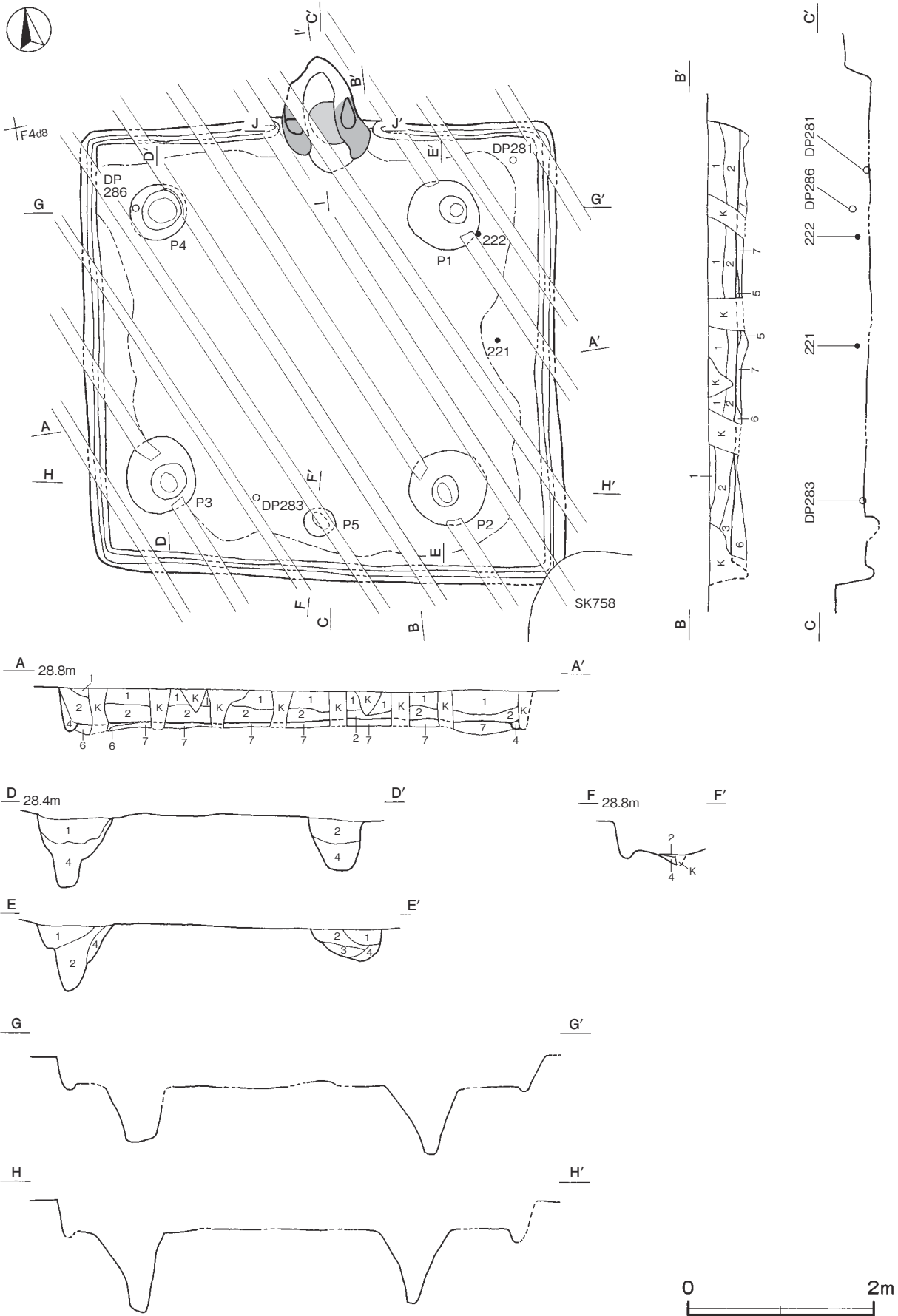
規模と形状 長軸 5.08 m, 短軸 4.88 mの方形で, 主軸方向はN - 11° - Eである。壁は高さ 30 ~ 34cmで, 直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 5 ~ 7 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 124cmで, 燃烧部幅は 40cmである。袖部は地山を削り残し, その上に粘土粒子を主体とする第 5 ~ 7 層を積み上げて構築されている。火床部は第 8・9 層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 70cm掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量
- 3 極 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 4 暗 赤 褐 色 焼土粒子多量



第 198 图 第 80 号竖穴建物跡実测图

- 5 褐 灰 色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック多量, 粘土粒子中量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 褐 色 ロームブロック中量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ58～84cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～4層は柱抜き取り後の堆積土である。P 5は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

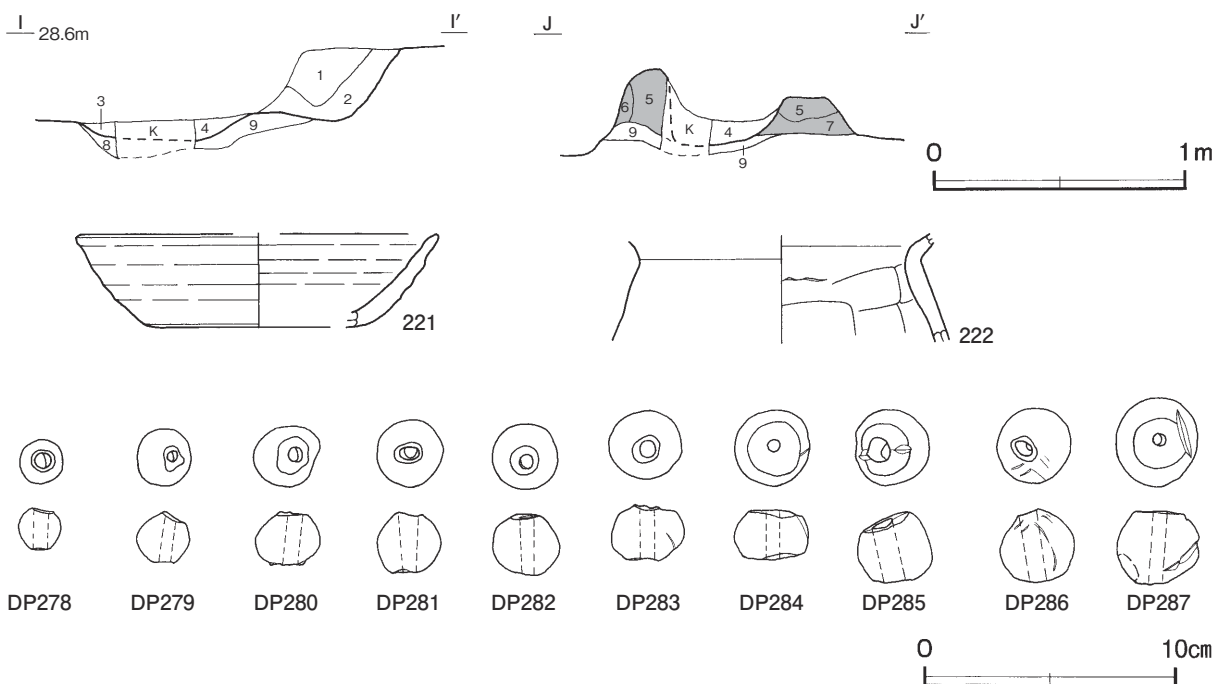
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5～7層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片694点(坏類115, 椀1, 甕類574, 小形甕1, 甑1, 手捏土器2), 須恵器片49点(坏19, 蓋12, 甕類18), 土製品13点(土玉11, 管状土錘1, 羽口1), 鉄滓17点が、東部の覆土中層から下層を中心に出土している。出土した土器の大半は小破片で、埋め戻す際に混入したものと考えられる。221・222は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋め戻す過程で流れ込んだものとみられる。

所見 時期は、8世紀前葉に比定できる第60・76号竪穴建物跡と主軸を同じにすることや、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第199図 第80号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第80号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
221	須恵器	坏	[14.2]	3.7	[7.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中層	10% 新治窯
222	土師器	小形甕	-	(4.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面摩擦により調整痕不明 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP278	土玉	1.7	1.7	0.5	4.95	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP279	土玉	2.2～2.3	2.0	0.5	9.95	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP280	土玉	2.4～2.6	2.1	0.6	14.5	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP281	土玉	2.6～2.7	2.4	0.5～0.8	16.4	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL86
DP282	土玉	2.6～2.7	2.4	0.4～0.5	16.9	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP283	土玉	2.7～2.9	2.2	0.6	16.8	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	床面	PL86
DP284	土玉	3.0	2.0	0.5	21.0	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	PL86
DP285	土玉	3.0	2.8	0.9	(23.9)	長石・石英	橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP286	土玉	3.0	2.9	0.7	24.4	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土中層	PL86
DP287	土玉	3.3～3.5	2.9	0.5	35.4	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	PL86

第 88 号竪穴建物跡（第 200 図）

位置 調査D区中央部の F 5 b7 区，標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 85・91 号竪穴建物跡を掘り込み，第 87 号竪穴建物，第 479・484 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.76 m，短軸 3.56 mの方形で，主軸方向は N - 12° - Wである。壁は高さ 29～37cmで，直立している。

床 平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，ロームブロックを含む第 8～10 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く，規模は燃焼部幅 44cmしか確認できなかった。袖部は地山をわずかに掘り残し，その上に粘土粒子を主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第 1 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 灰黄褐色 | 粘土粒子多量，ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量 | | |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 23～46cmで，配置から主柱穴である。第 1～3 層は柱抜き取り後の堆積土，第 4・5 層は埋土である。P 5は深さ 48cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|-------|--------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

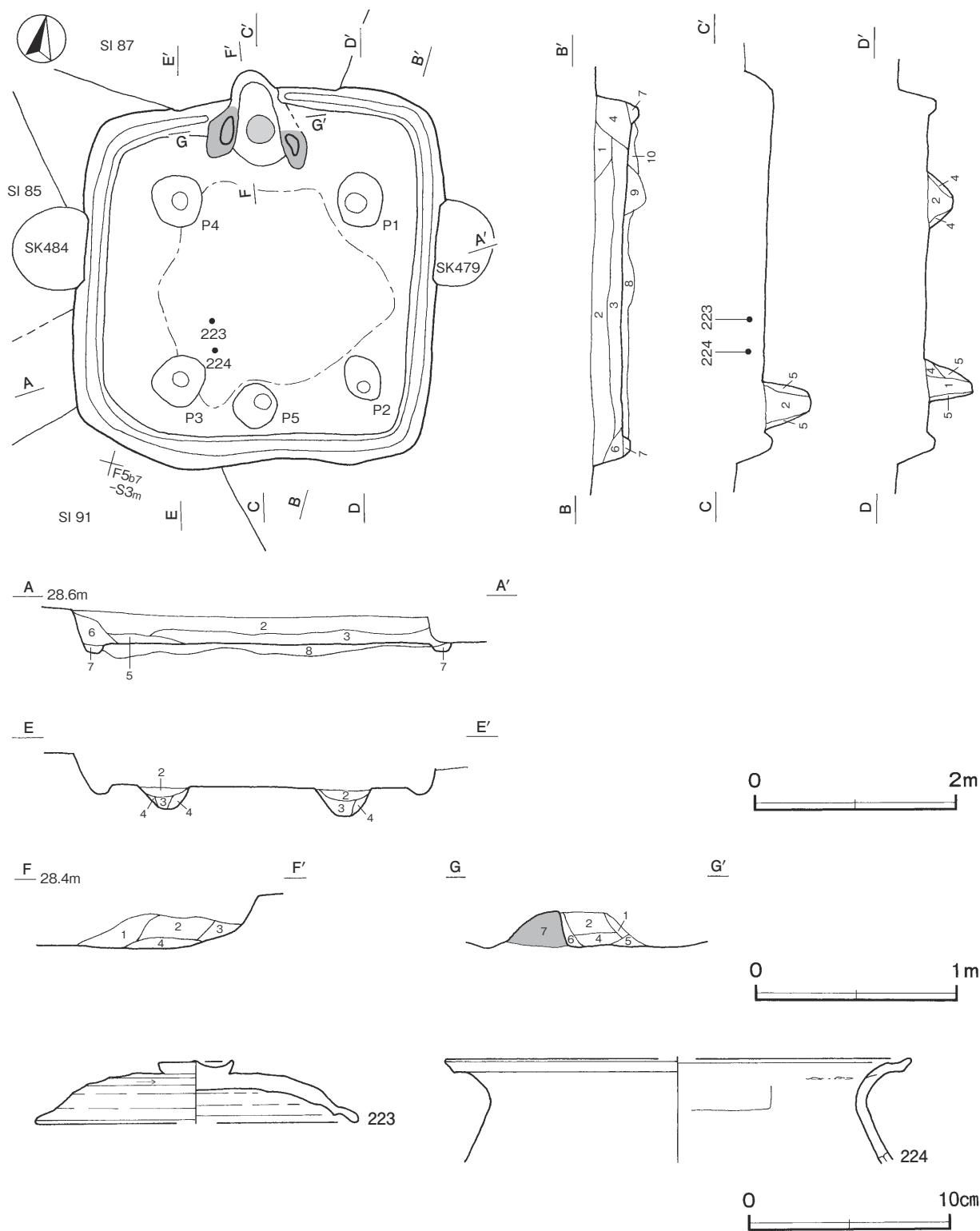
覆土 7層に分層できる。含有物が少なく，周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。第 8～10 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 233 点（坏類 64，椀 1，鉢 4，甕類 163，手捏土器 1），須恵器片 10 点（坏 3，蓋 1，甕 6），土製品 1 点（土玉）のほか，縄文土器片 3 点（深鉢）が，中央部の覆土中層から下層を中心に出土している。223 は覆土中層から出土していることから，埋没する過程で流れ込んだものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，8 世紀前葉に比定できる。



第 200 図 第 88 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 200 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
223	須恵器	蓋	[15.6]	3.1	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	50% 新治窯
224	土師器	甕	[23.0]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	5%

第 93 号 竪穴建物跡 (第 201 ~ 203 図)

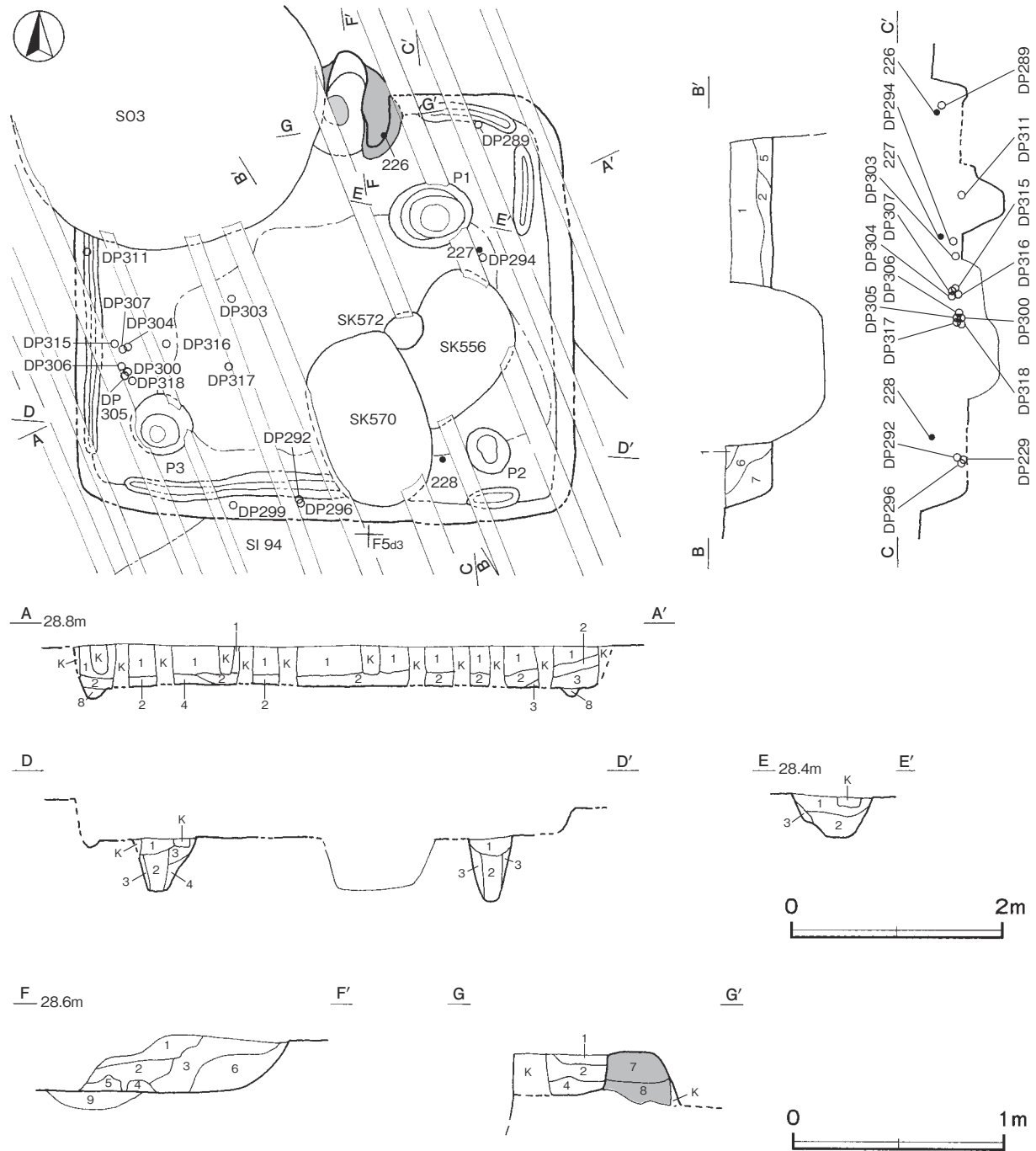
位置 調査D区中央部の F 5 c2 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 94 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 3 号 大型円形土坑, 第 556・570・572 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.72 m, 短軸 4.16 m の長方形で, 主軸方向は N - 1° - E である。壁は高さ 22 ~ 44 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。東壁を除き, 壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部までが 113 cm で, 燃烧部幅は 35 cm しか確認できなかった。袖部は地山をわずかに掘り残し, その上に粘土ブロックを主体とする第 7・8 層を積み上げて構築さ



第 201 図 第 93 号 竪穴建物跡実測図

れている。火床部は床面を9cmほど掘り込み、ロームブロックを含む第9層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

電土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 におい黄褐色 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック微量 | 8 におい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 におい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | |

ピット 3か所。P1～P3は深さ54～60cmで、規模と配置から支柱穴である。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土、第3・4層は埋土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 におい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 におい黄褐色 ロームブロック少量 |

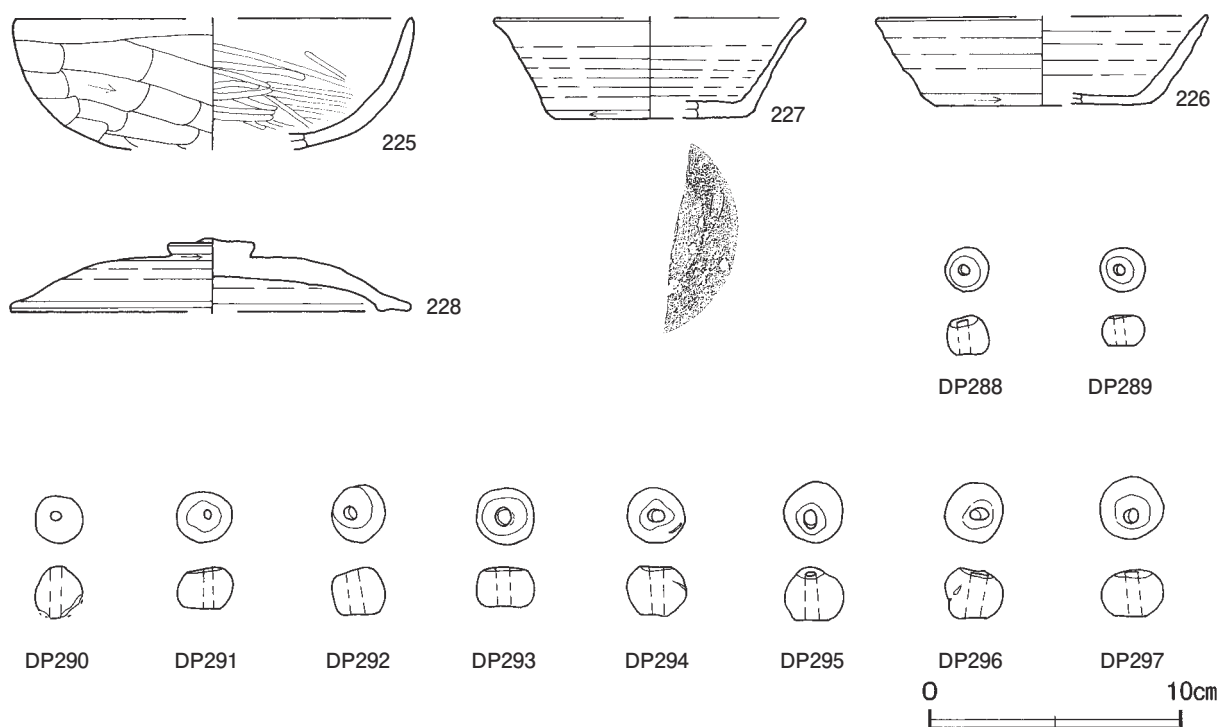
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。

土層解説

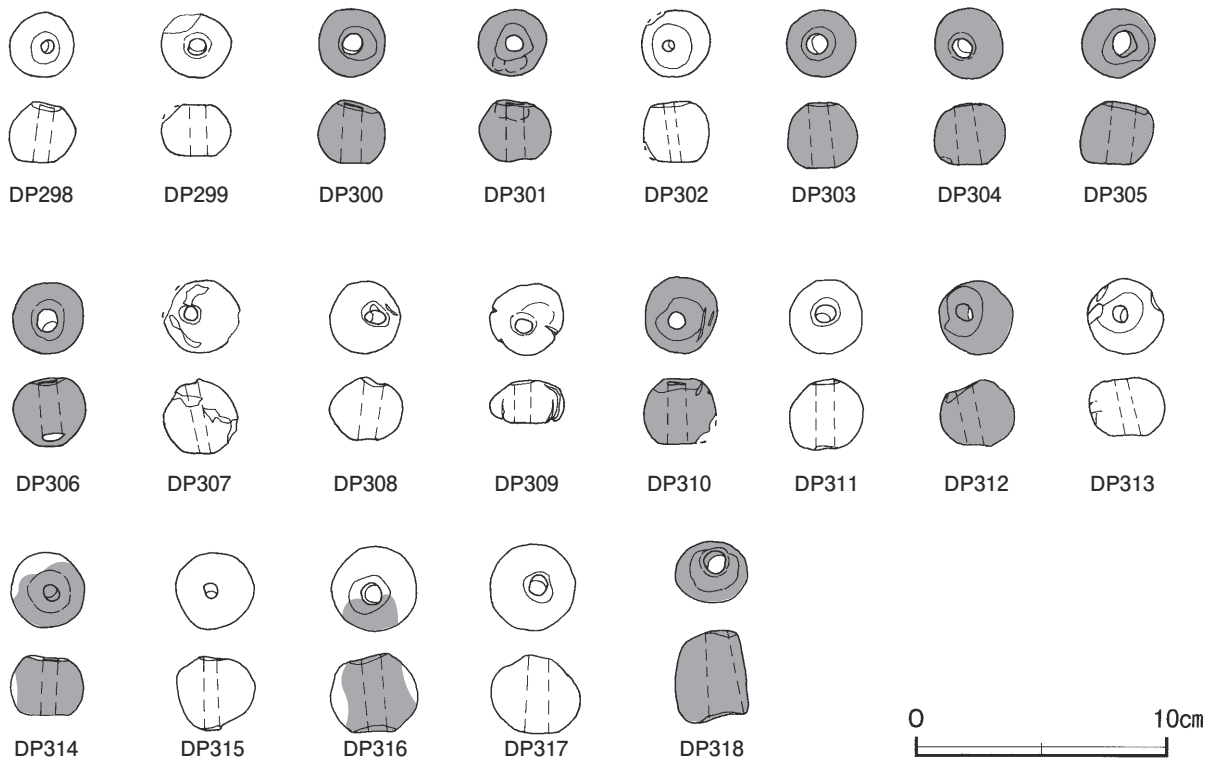
- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 286点 (坏類 131, 椀 12, 甕類 139, 甗 4), 須恵器片 69点 (坏 56, 高台付坏 1, 蓋 2, 甕 10), 土製品 40点 (土玉 39, 管状土錘 1) のほか、縄文土器片 3点 (深鉢) が、全域の覆土上層から床面にかけて出土している。DP299・DP300・DP306・DP316・DP318 は床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、8世紀前葉に比定できる第76号竪穴建物跡と主軸方向を同じにすることや、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第 202 図 第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 203 図 第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 93 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 202・203 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
225	土師器	坏	[15.8]	(5.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	竈覆土中	20%
226	須恵器	坏	[13.2]	3.5	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転へら削り 底部一方向のへら削り	覆土上層	25% 新治窯
227	須恵器	坏	[12.2]	4.0	[7.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り	覆土中層	20% 新治窯
228	須恵器	蓋	[15.7]	2.9	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転へら削り	覆土上層	20% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP288	土玉	1.7	1.5	0.4	4.65	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP289	土玉	1.7	1.2	0.4	3.28	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	PL86
DP290	土玉	1.9	2.0	0.4~0.5	(6.65)	長石・石英	にぶい黄橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP291	土玉	2.0~2.2	1.6	0.3~0.4	8.44	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP292	土玉	2.1~2.2	1.9	0.5	8.12	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	PL86
DP293	土玉	2.1~2.3	1.5	0.6~0.7	8.62	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP294	土玉	2.2~2.3	1.9	0.6	9.82	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL86
DP295	土玉	2.2~2.4	2.0	0.5	10.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP296	土玉	2.3~2.4	2.0	0.5~0.7	9.90	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土下層	PL86
DP297	土玉	2.4~2.5	1.9	0.6	11.8	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP298	土玉	2.5~2.6	2.4	0.6	15.2	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL86
DP299	土玉	2.5~2.8	2.1	0.7	(14.4)	長石・石英・雲母	にぶい褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL86
DP300	土玉	2.6~2.7	2.5	0.8	16.4	長石・石英	オリーブ黒	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	床面	煤附着 PL86
DP301	土玉	2.6~2.8	2.4	0.7~0.8	17.4	長石・石英	褐灰	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	煤附着 PL86
DP302	土玉	2.7	2.4	0.4	(18.7)	長石・石英	橙	欠損成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に	覆土中	PL86
DP303	土玉	2.7	2.6	0.8~0.9	18.7	長石・石英	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	煤附着 PL86
DP304	土玉	2.7~2.8	2.5	0.8	18.3	長石・石英	オリーブ黒	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土下層	煤附着 PL86

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP305	土玉	27~28	2.4	1.0	17.8	長石・石英	オリーブ黒	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	煤付着 PL86
DP306	土玉	2.8	2.7	0.8~0.9	18.5	長石・石英・雲母	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	床面	煤付着 PL86
DP307	土玉	28~29	3.0	0.5	(19.4)	長石・石英・雲母	にぶい褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL86
DP308	土玉	28~29	2.5	0.8	18.4	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
DP309	土玉	28~3.0	1.7	0.7	13.7	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 擦痕有	覆土中	PL86
DP310	土玉	2.9	2.6	0.7~0.8	(21.7)	長石・石英・雲母	黒褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	煤付着 PL86
DP311	土玉	2.9	2.8	0.8	20.3	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	壁溝覆土中	PL86
DP312	土玉	29~3.0	2.6	0.6~0.7	(21.4)	長石・石英	褐灰	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	煤付着 PL87
DP313	土玉	29~3.0	2.3	0.5~0.7	(21.0)	長石・石英	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP314	土玉	29~3.1	2.4	0.6	20.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	煤付着 PL87
DP315	土玉	3.1	3.0	0.5~0.6	25.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL87
DP316	土玉	3.4	3.0	0.8~0.9	33.1	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	煤付着 PL87
DP317	土玉	3.4~3.5	3.0	0.8	31.9	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL87

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP318	管状土錘	24~2.9	3.7	0.9	23.4	長石・石英	オリーブ黒	ナデ 一方向からの穿孔	床面	煤付着

第 102 号竪穴建物跡 (第 204・205 図)

位置 調査D区中央部の F 5e2 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 94・139 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 128 号竪穴建物, 第 1 号火葬施設に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.42 m, 短軸 4.02 m の方形で, 主軸方向は N - 6° - E である。壁は高さ 9 ~ 14cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで 105cm で, 燃焼部幅は 70cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚 (DP321) が火床面から横位で出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。煙道部は壁外に 32cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗 褐 色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 | 7 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 38 ~ 64cm で, 規模と配置から主柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3・4 層は埋土である。P 5 は深さ 17cm で, 南壁の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 26cm で, 配置から補助柱穴と考えられる。

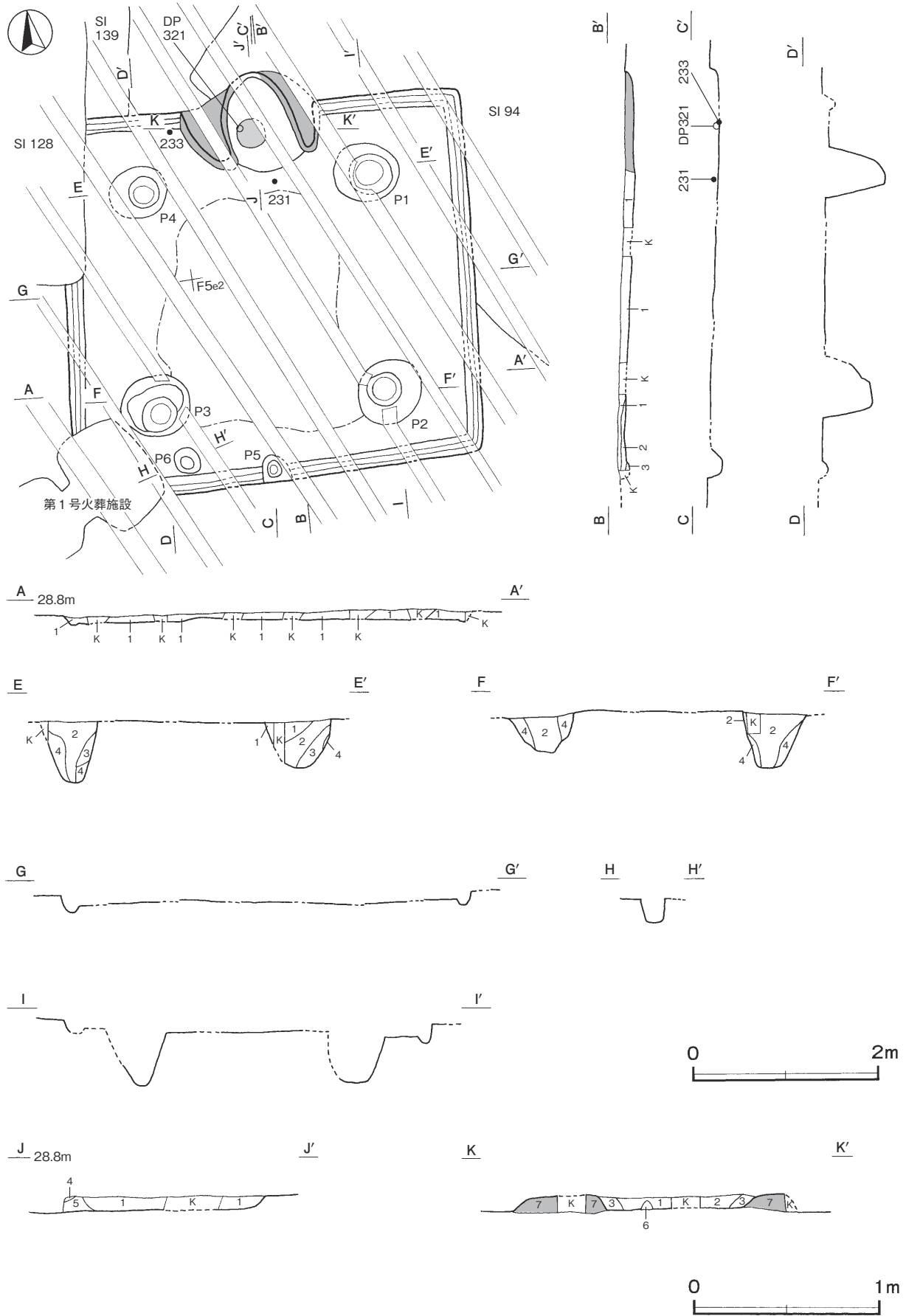
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック中量 |

覆土 3 層に分層できる。層厚が薄く, 堆積の判断が難しいが, 各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

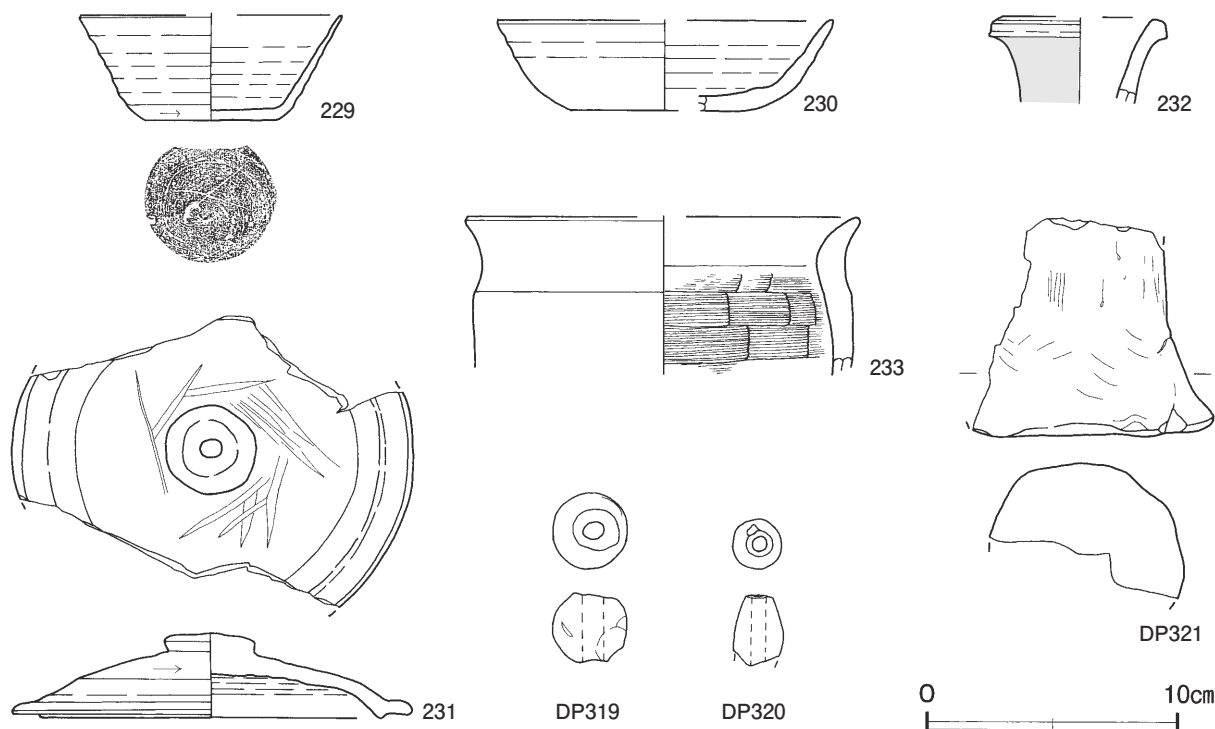
- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 暗 褐 色 ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 | |



第204图 第102号竖穴建物跡実测图

遺物出土状況 土師器片 243 点（坏類 66，椀 2，甕類 173，甗 2），須恵器片 31 点（坏 7，蓋 3，瓶 1，甕 20），土製品 4 点（土玉，管状土錘，支脚，羽口），金属製品 1 点（釘），鉄滓 17 点が，北部の覆土下層から床面を中心に出土している。229 は P 1 の覆土中，233 は床面からそれぞれ出土していることから，廃絶時に遺棄されたものとみられる。231 は北部の覆土下層から出土していることから，埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 8 世紀前葉に比定できる第 76・93 号竪穴建物跡と主軸方向を同じにすることや，出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 205 図 第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 205 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
229	須恵器	坏	[10.2]	4.2	5.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り ヘラ記号「×」	P 1 覆土中	50% 新治窯 PL65
230	須恵器	坏	[13.2]	3.6	[7.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下端から底部摩滅	覆土中	25% 新治窯
231	須恵器	蓋	15.9	3.4	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り 砥石転用	覆土下層	70% 新治窯
232	須恵器	瓶	[6.0]	(3.4)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	自然袖付着	覆土中	5% 新治窯
233	土師器	甕	[15.5]	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面摩滅 内面ハケ目調整	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP319	土玉	3.0	2.7	0.7~0.9	21.8	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP320	管状土錘	2.0	(2.9)	0.6	(10.9)	長石・石英	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL90

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP321	支脚	(8.8)	[6.0]	9.6	(31.0)	長石・石英	明赤褐	欠損 ナデ 被熱痕	竈火床面	

第 105 号竪穴建物跡 (第 206・207 図)

位置 調査D区中央部の F 4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 535 号土坑を掘り込み, 第 490・548 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため, 南北軸は 4.29 m で, 東西軸は 3.60 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき, 主軸方向は N - 5° - W である。壁は高さ 30 ~ 46 cm で, 直立している。

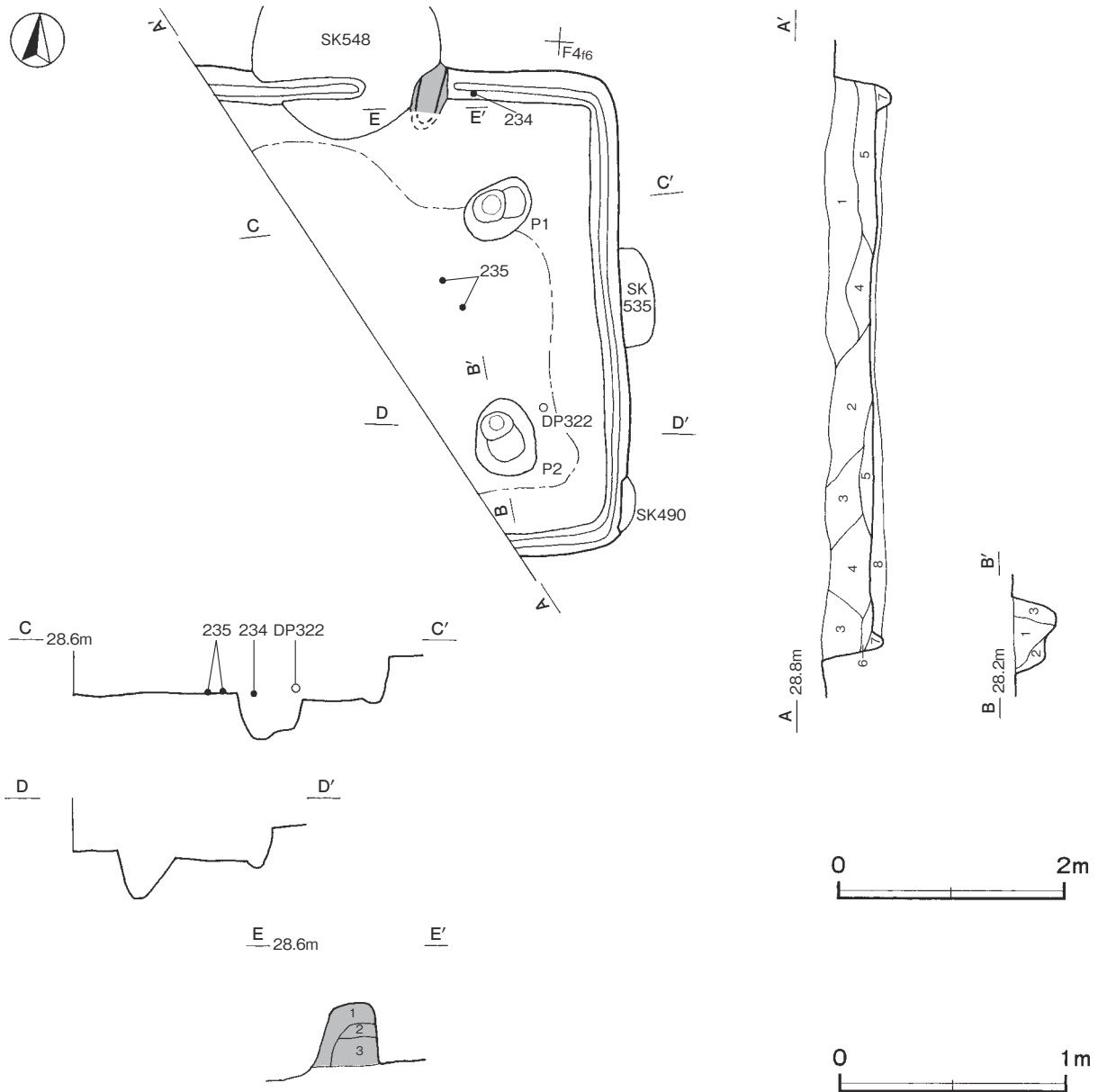
床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 8 層を埋土して構築されている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 遺存状況が悪く, 残存している右袖部から, 北壁中央部に付設されていたと推定できる。袖部は地山を削り残し, その上に粘土粒子を主体とする第 1 ~ 3 層を積み上げて構築されている。

竈土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

- 3 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量



第 206 図 第 105 号竪穴建物跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は深さ39cm・42cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土である。P1では柱の立て替えが確認できた。

ピット土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

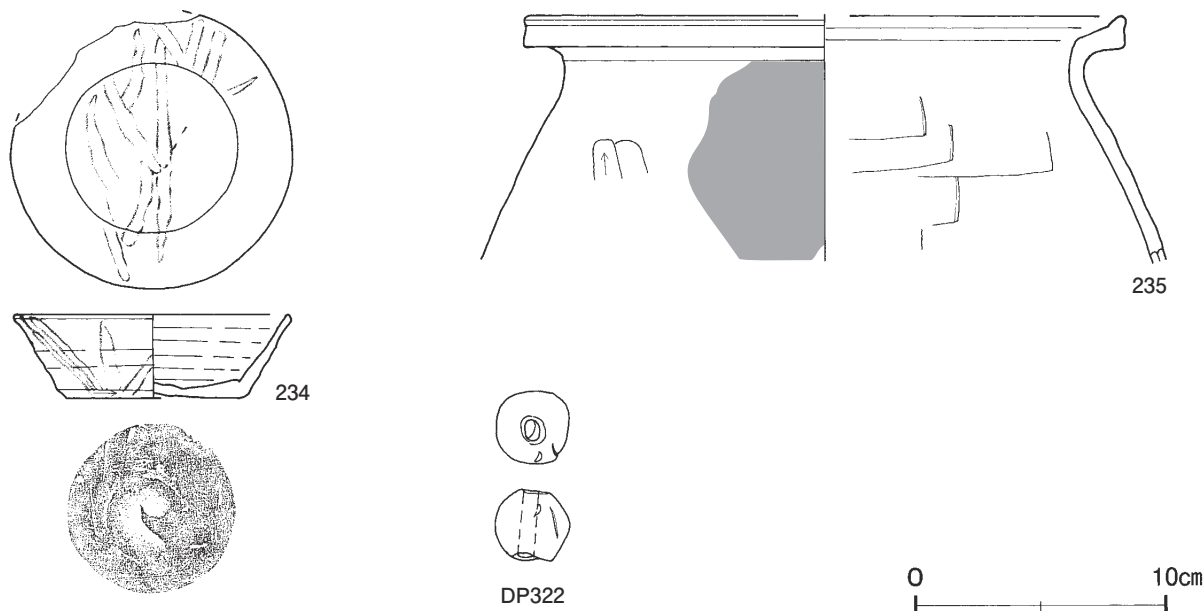
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片139点(坏類56, 甕類82, 小形甕1), 須恵器片8点(坏6, 蓋2), 土製品2点(土玉), 鉄滓2点が, 全域の覆土下層から床面にかけて出土している。234は壁溝の覆土中から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8世紀中葉に比定できる。



第207図 第105号竪穴建物跡出土遺物実測図

第105号竪穴建物跡出土遺物観察表(第207図)

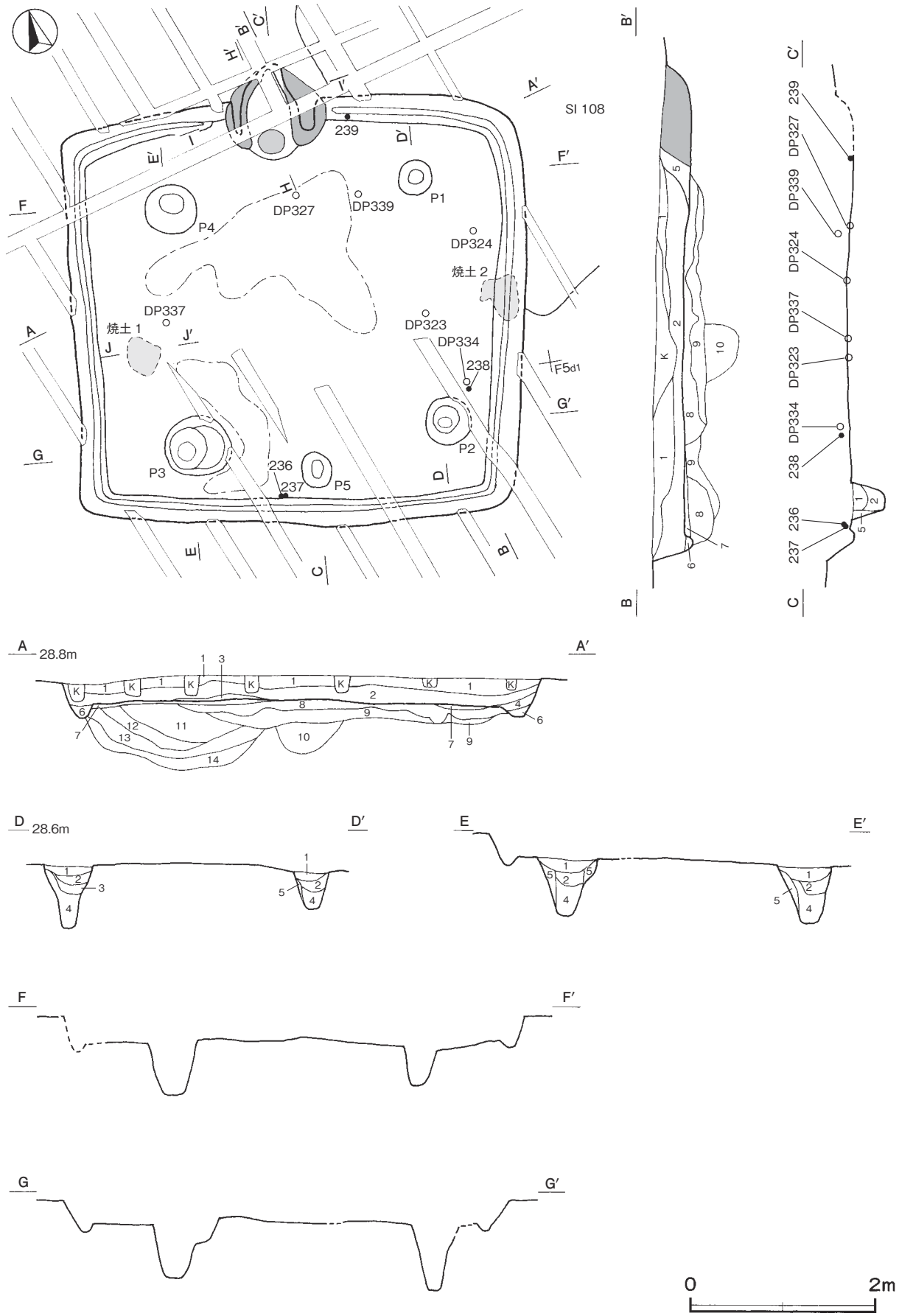
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
234	須恵器	坏	10.9	3.3	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 外・内面火摺有	底部多方向のヘラ削り	壁溝覆土中	90% 新治窯 PL65
235	土師器	甕	[23.5]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ削り	床面	10% 煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP322	土玉	2.9	2.8	0.6~0.8	(22.6)	長石・石英	灰褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

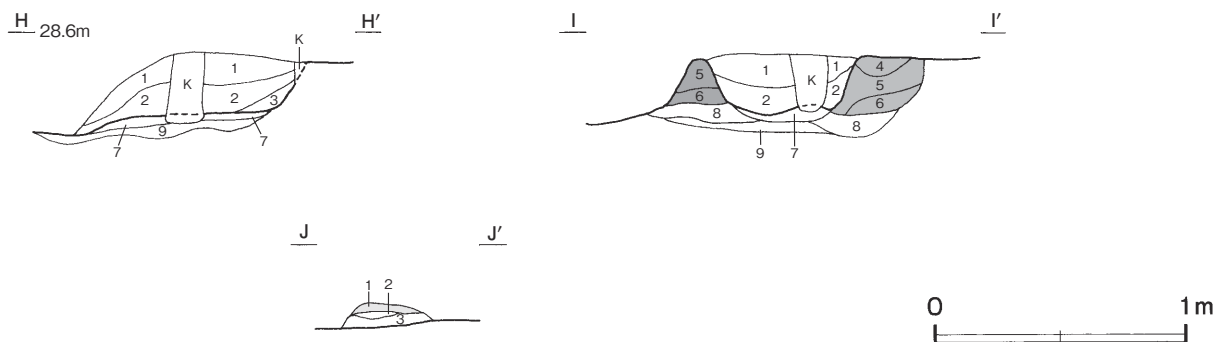
第107号竪穴建物跡(第208～210図)

位置 調査D区中央部のF4c0区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第 208 図 第 107 号 竪穴建物跡実測図 (1)



第 209 図 第 107 号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 4.85 m，短軸 4.56 m の方形で，主軸方向は N - 2° - E である。壁は高さ 20cm で，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，中央部と南部の一部が踏み固められている。貼床は，西部を土坑状に 72cm，中央部を土坑状に 60cm，それ以外の部分は 18 ~ 37cm ほど掘り込み，第 7 ~ 14 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。東部と西部に焼土を確認した。床面から浮いた状態で堆積していることから，廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。

焼土塊土層解説

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙出部まで 105cm で，燃焼部幅は 45cm である。袖部は，床面から 4 ~ 10cm 掘りくぼめた部分に第 8・9 層を埋土して，粘土粒子を主体とする第 4 ~ 6 層を積み上げて構築されている。火床部は第 7 層上面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm 掘り込まれ，火床部からはほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，粘土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 褐灰色 粘土粒子多量，焼土ブロック中量 | 9 褐色 ロームブロック多量 |
| 5 褐灰色 粘土粒子多量，焼土粒子微量 | |

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ 39 ~ 62cm で，規模と配置から支柱穴である。第 1 ~ 4 層は柱抜き取り後の堆積土，第 5 層は埋土である。P 5 は深さ 34cm で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量 | |

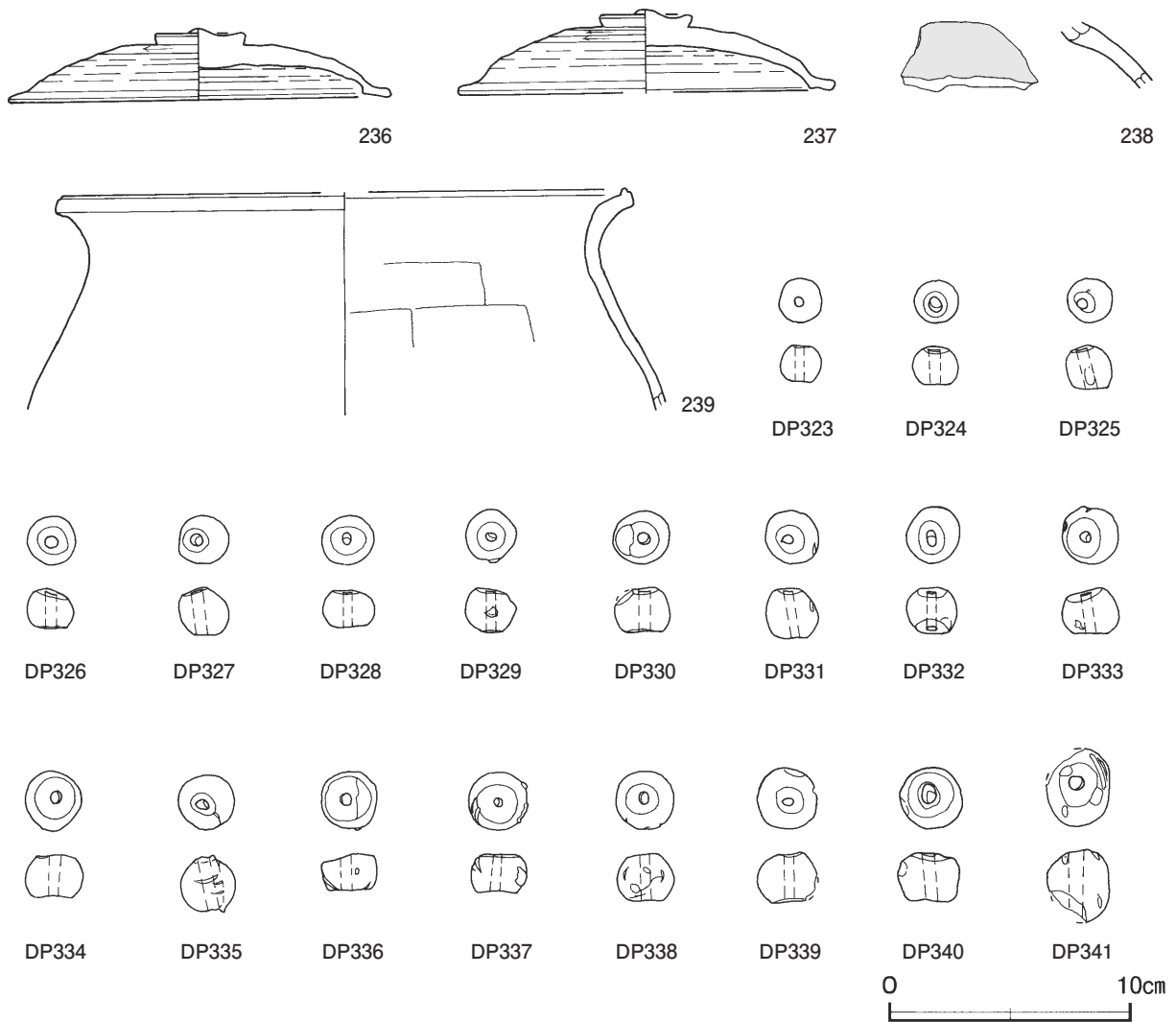
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。第 7 ~ 14 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 8 極暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック微量 | 9 にぶい褐色 ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 10 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子多量 | 11 にぶい褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 12 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 7 極暗褐色 ローム粒子少量 | 14 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 626 点（坏類 69, 碗 1, 甕類 554, 甌 1, 手捏土器 1）, 須恵器片 38 点（坏 17, 蓋 7, 瓶 3, 甕 11）, 土製品 22 点（土玉）, 鉄滓 8 点のほか, 縄文土器片 4 点（深鉢）が, 全域の覆土中層から床面にかけて出土している。出土した土器の大半は小破片で, 埋め戻す際に混入したものと考えられる。DP323・DP324・DP327・DP337 はいずれも床面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。236・237 は完存率が高く, 南壁際の覆土下層から出土していることから, 埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 8 世紀前葉に比定できる第 76・93・102 号竪穴建物跡と主軸方向を同じにすることや, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 210 図 第 107 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 107 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 210 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
236	須恵器	蓋	15.9	2.9	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	100% 新治窯 PL65
237	須恵器	蓋	[15.6]	3.4	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	70% 新治窯
238	須恵器	瓶	-	(2.7)	-	長石・石英・細礫	灰黄	良好	自然釉付着	覆土中層	5% 新治窯
239	土師器	甕	[23.2]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面摩擦 内面ヘラナデ	壁溝覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP323	土玉	17~18	1.5	0.4	4.48	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL87
DP324	土玉	18~19	1.6	0.5~0.6	5.21	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	PL87
DP325	土玉	18~19	1.8	0.4	6.25	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	掘方構築土	PL87
DP326	土玉	2.0	1.7	0.5	6.38	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	竈覆土中	PL87
DP327	土玉	20~21	2.0	0.5	7.64	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	PL87
DP328	土玉	20~21	1.5	0.4	7.03	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP329	土玉	2.1	1.8	0.4	7.79	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	竈覆土中	PL87
DP330	土玉	22~23	1.8	0.5	(10.2)	長石・石英・雲母	にぶい橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP331	土玉	2.2	2.1	0.4	10.3	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	掘方構築土	PL87
DP332	土玉	22~24	2.0	0.4	8.39	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP333	土玉	2.3	1.9	0.4	11.2	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	竈覆土中	PL87
DP334	土玉	23~25	1.8	0.4~0.5	11.5	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	PL87
DP335	土玉	2.3	2.4	0.4	12.1	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL87
DP336	土玉	23~24	1.5	0.5	9.88	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	竈覆土中	PL87
DP337	土玉	2.4	1.6	0.3~0.4	10.8	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	床面	PL87
DP338	土玉	2.4	2.0	0.4~0.5	12.2	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	PL87
DP339	土玉	2.5	2.0	0.4	(11.3)	長石・石英・雲母	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL87
DP340	土玉	25~26	2.0	0.6~0.7	11.3	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	掘方構築土	PL87
DP341	土玉	26~32	(2.9)	0.6	(18.6)	長石	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	掘方構築土	

第 118 号竪穴建物跡 (第 211・212 図)

位置 調査D区北部のE 5h2区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 674 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.04 m, 短軸 2.77 m の方形で, 主軸方向は N - 17° - E である。壁は高さ 16 ~ 26cm で, 直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 中央部を浅く, 壁際をやや深めに掘り込み, ロームブロックを含む第 7 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 82cm で, 燃烧部幅は 31cm である。袖部は, 竈の付設箇所全体を床面から 15cm 掘りくぼめた後に第 8 ~ 11 層を埋土して, 粘土粒子を主体とする第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床部は第 8 層上面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 18cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。第 1 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐灰色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 灰黄褐色 粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 褐灰色 焼土粒子・粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 9 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック微量 | 10 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック少量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 灰黄褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, ロームブロック微量 | |

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ 17 ~ 24cm で, 配置から主柱穴である。第 1 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 2 層は埋土である。P 5 は深さ 20cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 | 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |

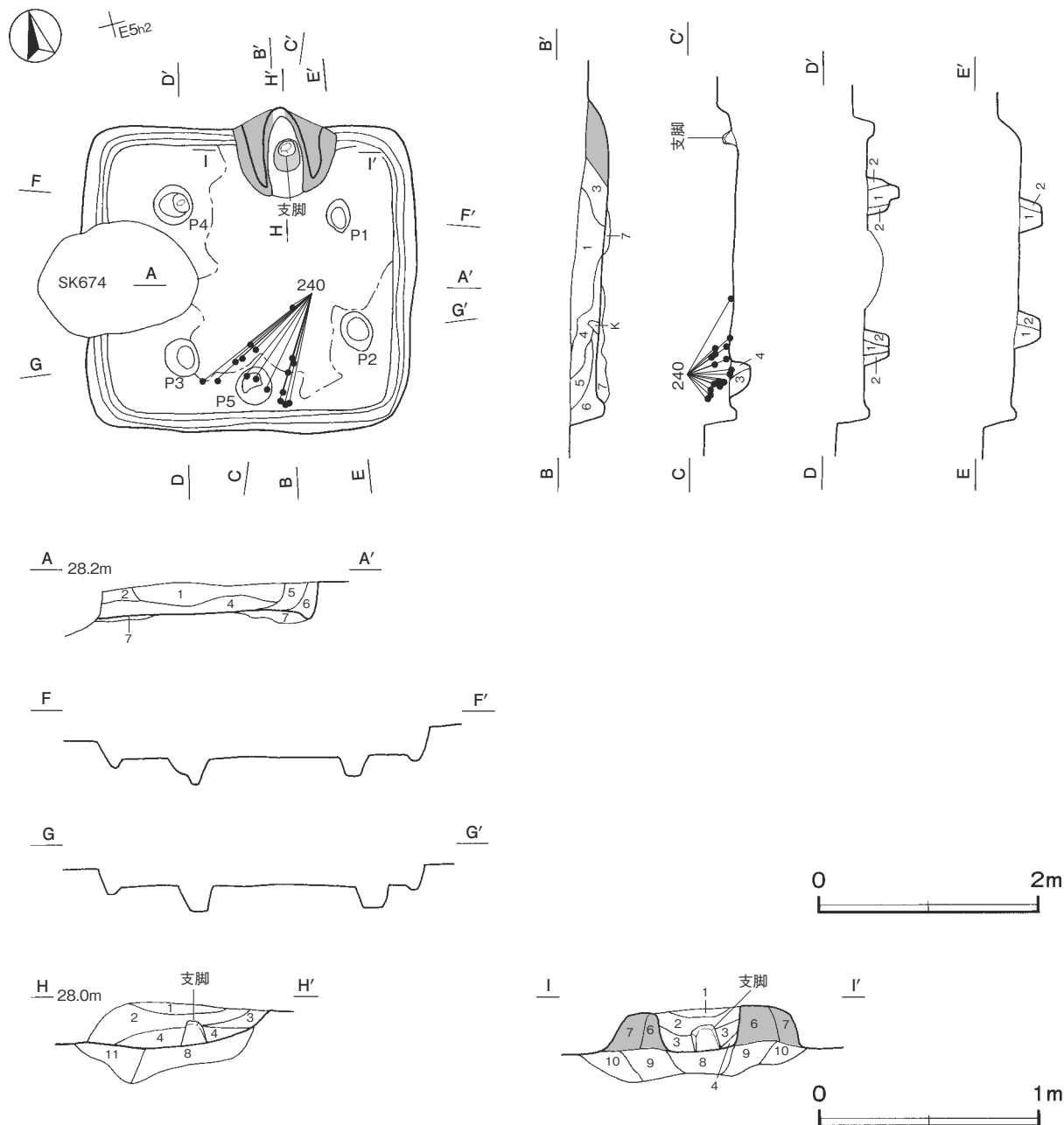
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

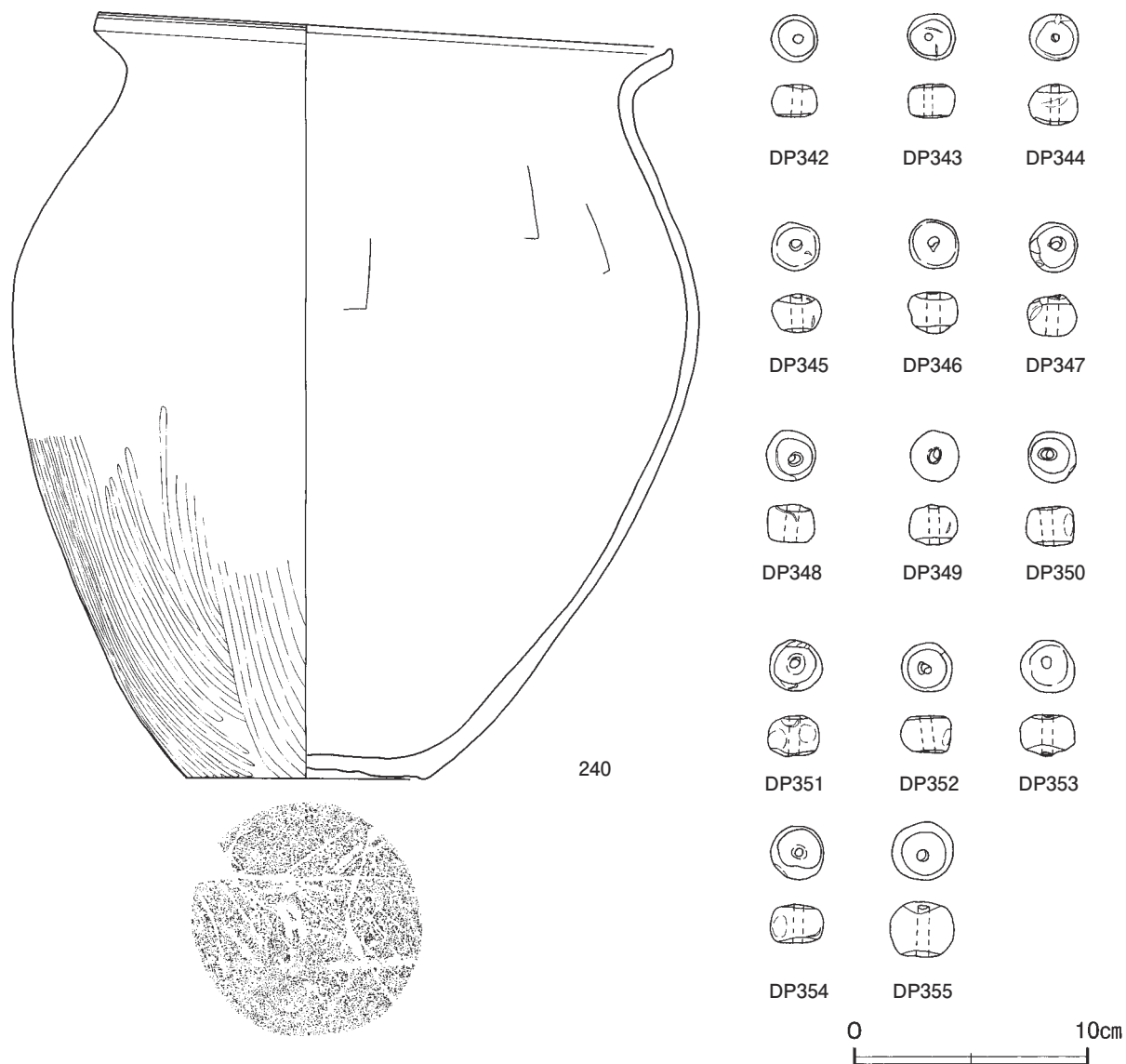
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 157 点 (坏9, 甕類 147, 甑1), 須恵器片 2 点 (蓋, 甕), 土製品 19 点 (土玉 16, 支脚 1, 羽口 2) が出土している。240 は、中央部及び南部の床面から覆土上層にかけて出土した破片 31 点が接合していることから、埋め戻しの段階において破碎して投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や主軸方向から、8 世紀中葉に比定できる。



第 211 図 第 118 号 竪穴建物跡実測図



第 212 図 第 118 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 118 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 212 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
240	土師器	甕	24.2	32.8	10.0	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ナデ後ヘラ磨	床面～覆土上層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP342	土玉	2.0	1.3	0.4	5.67	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP343	土玉	2.0	1.4	0.3	6.50	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	PL87
DP344	土玉	2.0~2.1	1.7	0.3~0.4	7.22	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL87
DP345	土玉	2.1	1.7	0.4~0.5	7.20	長石・雲母	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP346	土玉	2.1	1.7	0.5	7.63	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP347	土玉	2.1	1.7	0.5	7.35	長石・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP348	土玉	2.1	1.6	0.5	7.53	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP349	土玉	2.1~2.2	1.7	0.4	7.18	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP350	土玉	2.1~2.2	1.7	0.4~0.5	8.00	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP351	土玉	2.2	1.8	0.4	8.34	長石・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP352	土玉	2.2	1.6	0.4	7.84	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP353	土玉	2.2～2.3	1.7	0.4	8.78	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP354	土玉	2.3	1.7	0.3	9.41	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP355	土玉	2.5～2.7	1.8	0.5	15.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87

第 124 号竪穴建物跡 (第 213 図)

位置 調査D区中央部のF 4 d6 区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 121・125 号竪穴建物跡を掘り込み、第 123 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.57 m、短軸 3.42 m の方形で、主軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 36～47cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが 106cm で、燃焼部幅は 38cm と推定できる。袖部は、床面から 5～14cm 掘りくぼめた部分に第 9・10 層を埋土して、その上に粘土粒子を主体とする第 8 層を積み上げて構築されている。火床部は第 9 層上面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 28cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。第 2・4 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1 褐灰色 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量	6 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
2 褐灰色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量	7 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量	8 褐灰色 粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量
4 灰褐色 粘土粒子中量、ロームブロック・炭化物微量	9 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
5 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 6 か所。P 1～P 4 は深さ 24～49cm で、配置から支柱穴である。第 1 層は柱抜き取り後の堆積土、第 2・3 層は埋土である。P 5 は深さ 35cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 16cm で、配置から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ロームブロック微量	3 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量	

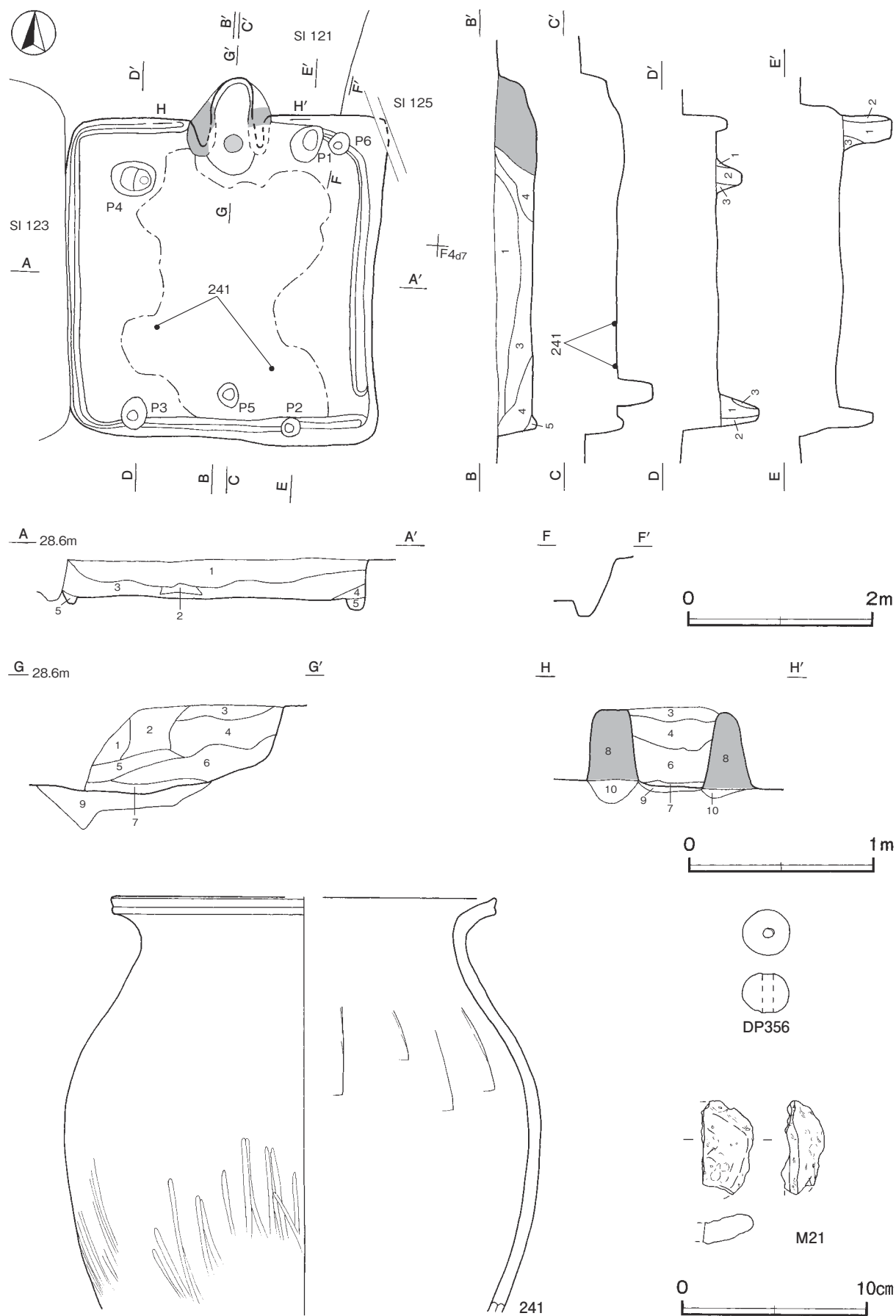
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 2 層は中央部で確認した貝層である。床面から浮いた状態で堆積しており、廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
2 純貝層 貝多量	5 暗褐色 ロームブロック少量
3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	

遺物出土状況 土師器片 292 点 (坏類 35, 椀 1, 甕類 255, 甗 1), 須恵器片 16 点 (坏 14, 甕 2), 土製品 4 点 (土玉 2, 羽口 2), 金属製品 1 点 (刀子), 自然遺物 1,792 点 (ヤマトシジミ 1,791, 巻貝 1), 粘土塊 2 点, 鉄滓 1 点のほか、縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 7 点 (高坏 2, 手捏土器 5) が、覆土中の広い範囲から出土している。241 は南部と南西部の床面から出土した破片が接合していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、8 世紀後葉に比定できる。中央部で確認した貝は、本跡の廃絶後一定の期間が経過し、窪地となった所に廃棄されたものとみられる。



第 213 図 第 124 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 124 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 213 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
241	土師器	甕	[20.7]	(22.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP356	土玉	2.5	2.1	0.6	12.3	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 21	椀形滓	(5.1)	(2.8)	1.6	(40.4)	鉄	着磁性なし 破碎されている 表面は暗赤褐色 裏面はにぶい赤褐色	覆土中	

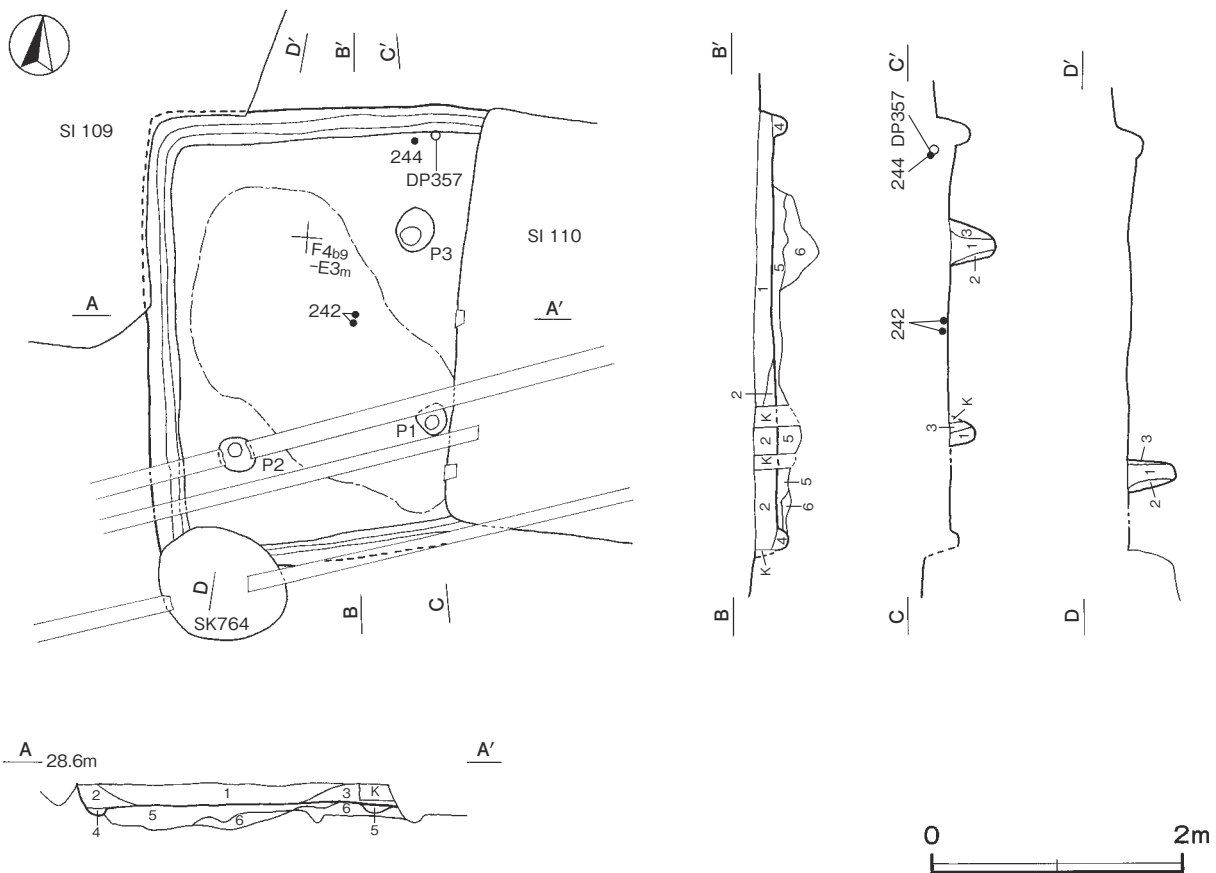
第 137 号 竪穴建物跡 (第 214・215 図)

位置 調査D区中央部の F 4 b9 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 109・110 号 竪穴建物, 第 764 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第 110 号 竪穴建物に掘り込まれているため, 南北軸は 3.62 m で, 東西軸は 2.70 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定できる。主軸方向は不明であるが, 竈の付設位置を東壁と仮定すると, 主軸方向は N - 83° - E と推測できる。壁は高さ 12 ~ 20 cm で, 直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 5・6 層を埋土して構築されている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。



第 214 図 第 137 号 竪穴建物跡実測図

ピット 3か所。P1～P3は深さ14～36cmで、配置から主柱穴である。第1層は柱抜き取り後の堆積土、第2・3層は埋土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

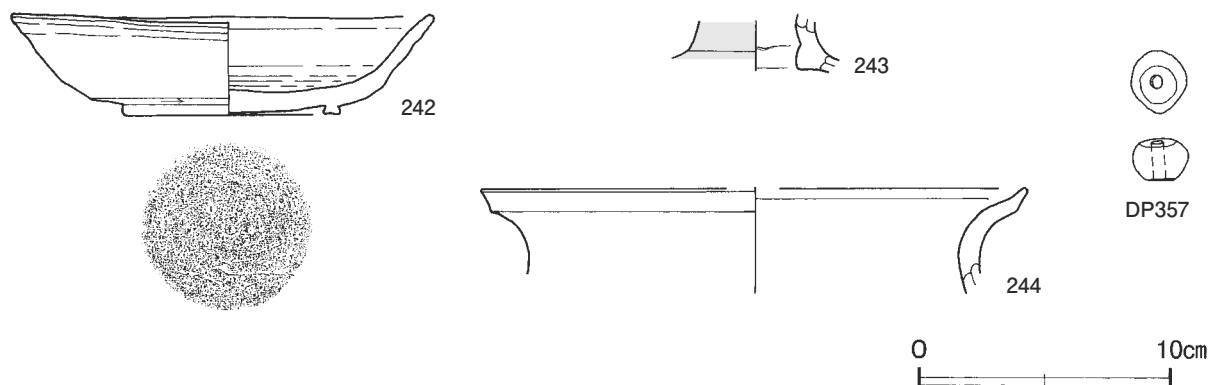
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5・6層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片103点(坏25, 高台付坏1, 甕類77), 須恵器片7点(蓋1, 盤1, 瓶1, 長頸瓶1, 甕3), 土製品2点(土玉, 支脚), 金属製品1点(釘), 鉄滓11点が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。242は中央部の床面から出土した破片が接合していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、8世紀中葉に比定できる。



第215図 第137号竪穴建物跡出土遺物実測図

第137号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	須恵器	盤	16.7	4.0	8.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	70% 新治窯 PL65
243	須恵器	長頸瓶	-	(2.3)	-	長石・黒色粒子	黄灰	良好	自然袖付着	覆土中	5% 新治窯
244	土師器	甕	[21.6]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP357	土玉	22~25	1.7	0.5	7.98	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	

第139号竪穴建物跡 (第216図)

位置 調査D区中央部のF5d1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第102・128号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.68m、短軸3.53mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁は高さ35cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、確認できた範囲の壁際を除いた部分が踏み固められている。東壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く、火床部と右袖部のみの確認となった。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを主体とする第5層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量 | 5 褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

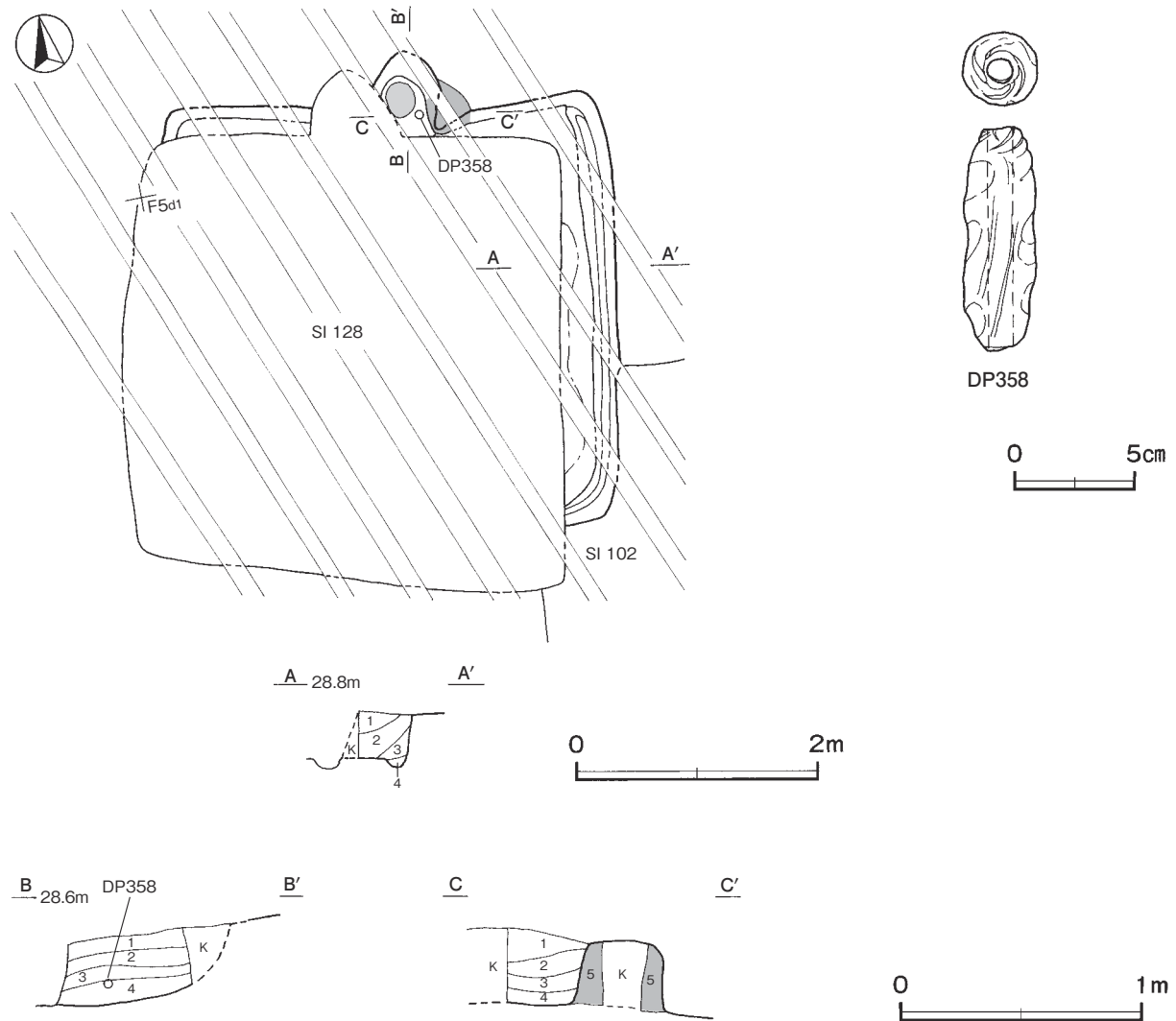
覆土 4層に分層できる。確認できた層幅が狭く、堆積の判断が難しいが、各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 11点 (坏3, 甕8), 須恵器片 6点 (甕5, 甑1), 土製品 1点 (管状土錘) が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から、8世紀代と考えられる。



第 216 図 第 139 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 139 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 216 図)

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP358	管状土錘	3.0	9.3	1.1	87.0	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 擦痕有	竈覆土下層	PL90

表 11 奈良時代竪穴建物跡一覧表

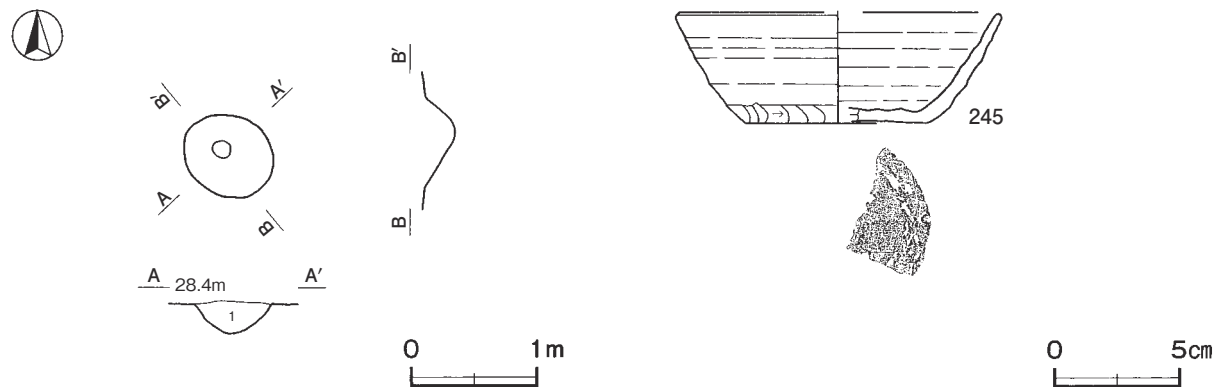
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)					主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
20	F 6j6	N-55°-W	方形	4.35 × 4.06		20~40	平坦	全周	4	1	1	北西壁	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀前葉	SI 21・22 → 本跡 → SD11
22	F 6i6	N-35°-W	方形	5.71 × 5.45		18~50	平坦	[全周]	4	1	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	7世紀末~8世紀初頭	SK312 → 本跡 → SI 20・24
23	G 5c7	N-26°-E	方形	3.98 × 3.94		23~30	平坦	全周	4	1	-	北東壁	-	自然 人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	8世紀前葉	本跡 → SB 1, SK293
24	F 6h6	N-37°-W	[方形・長方形]	4.86 × (3.95)		30~46	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	2	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 22 → 本跡
33	G 5c4	N-7°-W	方形	4.57 × 4.50		10~34	ほぼ平坦	ほぼ全周	4	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀前葉	SI 36, SK315 → 本跡 → SI 32
60	F 5f2	N-12°-E	長方形	5.15 × 4.58		6~15	平坦	ほぼ全周	4	2	4	北壁	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 73 → 本跡 → SK441
64	F 5h7	N-24°-W	方形	3.94 × 3.94		12~28	平坦	全周	4	1	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 63・75 → 本跡
70	F 4g0	N-2°-W	方形	3.65 × 3.41		17~20	平坦	[全周]	3	1	2	北壁2	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀後葉	本跡 → SI 58
76	F 4f7	N-3°-E	方形	5.89 × 5.50		22~31	平坦	ほぼ全周	4	1	8	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	8世紀前葉	SI 77 → 本跡 → SI 129
80	F 4d8	N-11°-E	方形	5.08 × 4.88		30~34	ほぼ平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	本跡 → SK758
88	F 5b7	N-12°-W	方形	3.76 × 3.56		29~37	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 85・91 → 本跡 → SI 87, SK479・484
93	F 5c2	N-1°-E	長方形	4.72 × 4.16		22~44	平坦	ほぼ全周	3	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 94 → 本跡 → SO 3, SK556・570・572
102	F 5e2	N-6°-E	方形	4.42 × 4.02		9~14	平坦	[全周]	4	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀前葉	SI 94・139 → 本跡 → SI 128, 第1号火葬施設
105	F 4f5	N-5°-W	[方形・長方形]	4.29 × (3.60)		30~46	平坦	[全周]	2	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀中葉	SK535 → 本跡 → SK490・548
107	F 4c0	N-2°-E	方形	4.85 × 4.56		20	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	SI 108 → 本跡
118	E 5h2	N-17°-E	方形	3.04 × 2.77		16~26	平坦	[全周]	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀中葉	本跡 → SK674
124	F 4d6	N-4°-W	方形	3.57 × 3.42		36~47	平坦	ほぼ全周	4	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品, 自然遺物	8世紀後葉	SI 121・125 → 本跡 → SI 123
137	F 4b9	N-83°-E	[方形・長方形]	3.62 × (2.70)		12~20	平坦	[全周]	3	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品, 土製品	8世紀中葉	本跡 → SI 109・110, SK764
139	F 5d1	N-8°-E	方形	3.68 × 3.53		35	平坦	一部	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀代	本跡 → SI 102・128

(2) 土坑

第 426 号土坑 (第 217 図)

位置 調査D区中央部のF 6f4区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.74m, 短径0.63mの楕円形で, 長径方向はN-48°-Wである。深さは27cmで, 底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。



第 217 図 第 426 号土坑・出土遺物実測図

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2 点（甕），須恵器片 2 点（坏）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

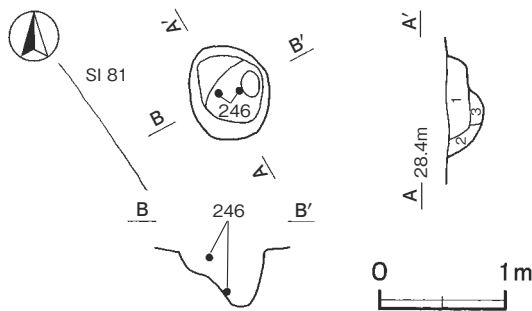
第 426 号土坑出土遺物観察表（第 217 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
245	須恵器	坏	[12.8]	4.4	[7.4]	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	20% 稲敷産。

第 455 号土坑（第 218・219 図）

位置 調査D区中央部の F 6c2 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 81 号竪穴建物に掘り込まれている。



規模と形状 長径 0.78 m，短径 0.67 m の楕円形で，長径方向は N - 30° - W である。第 81 号竪穴建物に掘り込まれているため，確認できた深さは 46cm で，底面は有段である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

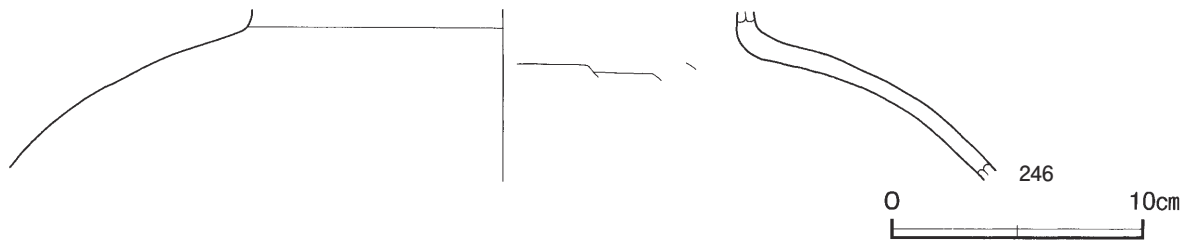
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 218 図 第 455 号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片 14 点（坏 9，甕 5），須恵器片 6 点（坏 1，甕 5）のほか，縄文土器片 1 点（深鉢）が，覆土中から出土している。246 は覆土上層と下層から出土した破片が接合していることから，埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，8 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 219 図 第 455 号土坑出土遺物実測図

第 455 号土坑出土遺物観察表（第 219 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
246	須恵器	甕	-	(6.7)	-	長石・石英・ 黒色粒子	褐灰	良好	体部外面横位の平行叩き 自然釉付着 内面へ ラナデ	覆土下層 ～上層	5% 木葉下窯

第 503 号土坑 (第 220 図)

位置 調査D区中央部のF 5 a9 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 95 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.19 m, 短径 0.93 mの楕円形で, 長径方向はN - 23° - Eである。深さは 57cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

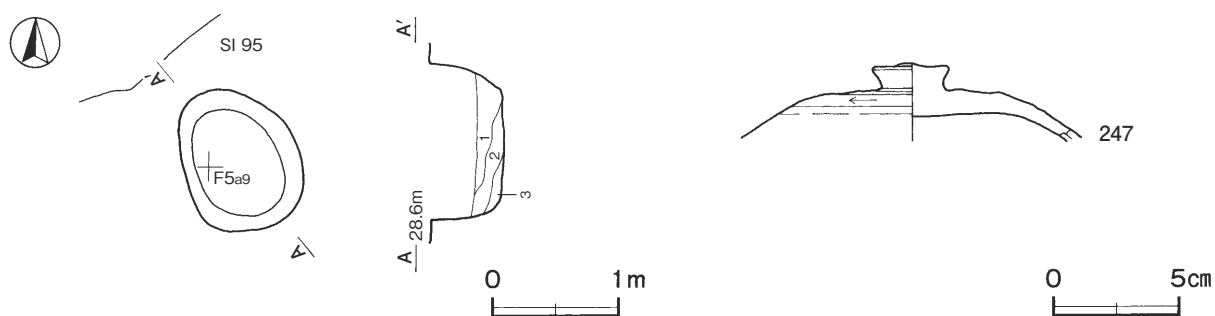
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 9 点 (坏 2, 甕 7), 須恵器片 2 点 (坏, 蓋) が, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8 世紀中葉から後葉と考えられる。性格は不明である。



第 220 図 第 503 号土坑・出土遺物実測図

第 503 号土坑出土遺物観察表 (第 220 図)

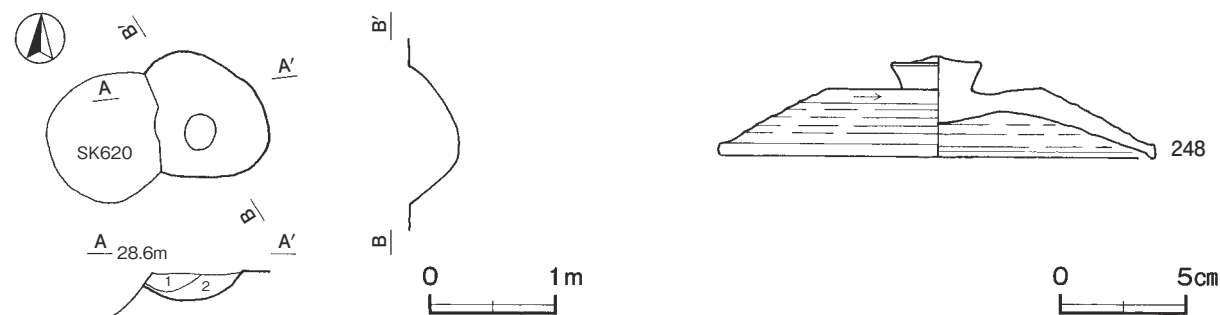
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
247	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40% 新治窯

第 619 号土坑 (第 221 図)

位置 調査D区中央部のF 6 b2 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 620 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.17 m, 短径 0.96 mの楕円形で, 長径方向はN - 51° - Wである。深さは 39cmで, 底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。



第 221 図 第 619 号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片6点(坏), 須恵器片2点(坏, 蓋)が, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第619号土坑出土遺物観察表(第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
248	須恵器	蓋	17.3	3.9	-	長石・石英	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	70% 新治窯 PL65

第635号土坑(第222図)

位置 調査D区中央部のF5d5区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第90号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.72m, 短径0.68mの円形である。深さは52cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

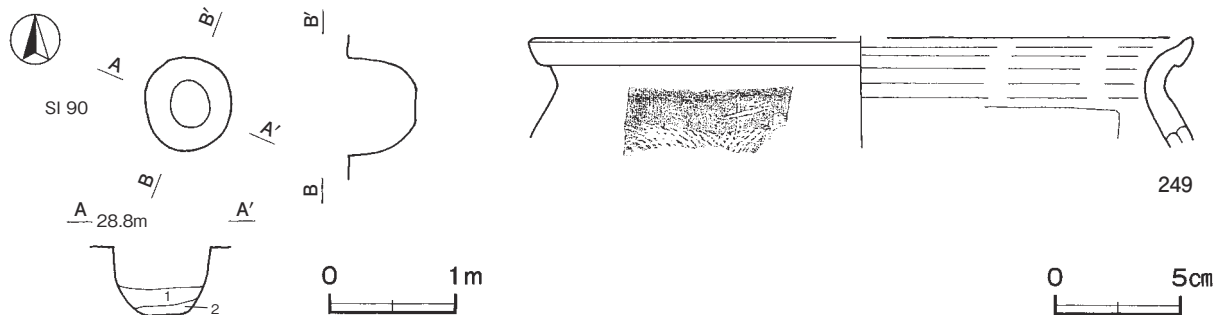
覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須恵器片1点(甕)が, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 8世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第222図 第635号土坑・出土遺物実測図

第635号土坑出土遺物観察表(第222図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
249	須恵器	甕	[26.2]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内面横ナデ 体部外面同心円状の叩きヘラ記号「×」内面ヘラナデ	覆土中	5% 新治窯

第794号土坑(第223図)

位置 調査D区中央部のF6h5区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.21m, 短径1.14mの円形である。深さは60cmで, 底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。

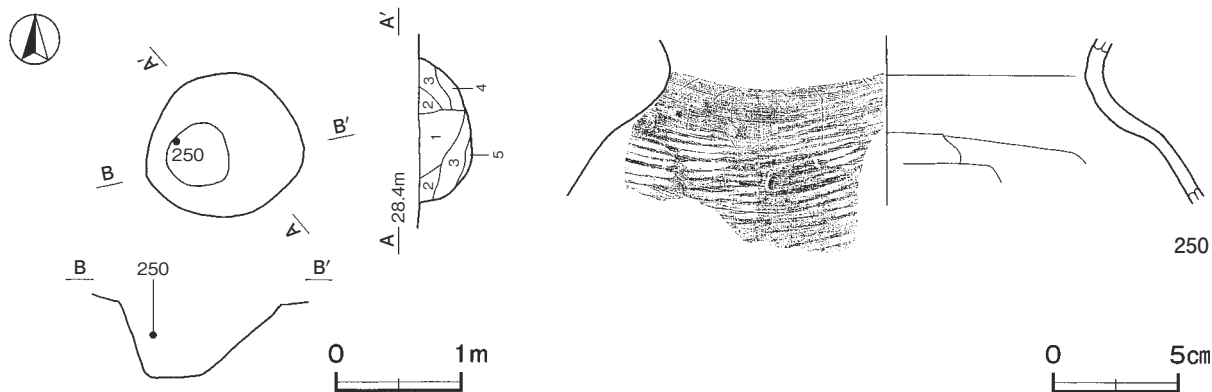
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 におい黄褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片2点(蓋, 甕)が出土している。250は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。性格は不明である。



第223図 第794号土坑・出土遺物実測図

第794号土坑出土遺物観察表(第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
250	須恵器	甕	-	(6.6)	-	長石・石英	オリーブ黒	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土中層	5% 新治蓋

第796号土坑(第224図)

位置 調査D区中央部のF6f5区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

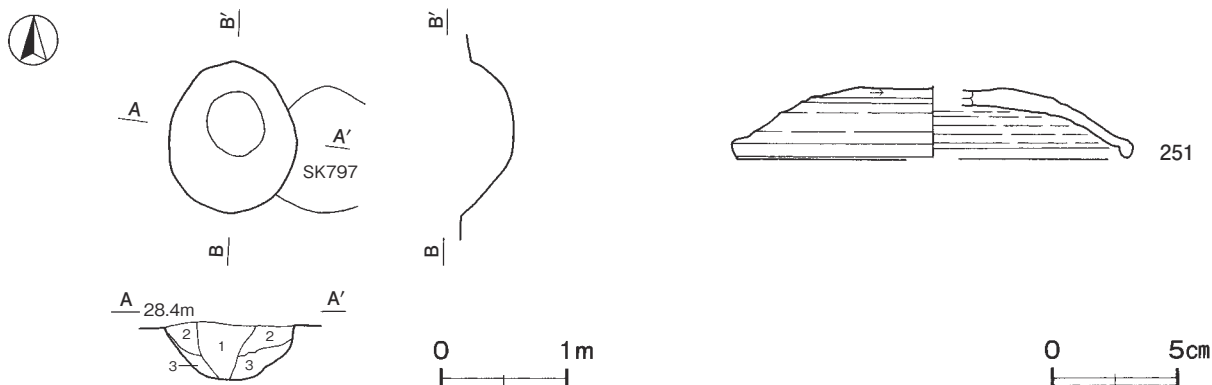
重複関係 第797号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.19m, 短径1.02mの楕円形で, 長径方向はN-3°-Eである。深さは40cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量



第224図 第796号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 20 点（坏 2，甕 18），須恵器片 2 点（蓋，甕）が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，8 世紀中葉から後葉と考えられる。覆土の堆積状況から，柱穴の可能性はある。

第 796 号土坑出土遺物観察表（第 224 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
251	須恵器	蓋	[15.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20% 新治窯

表 12 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
426	F 6 f 4	N - 48° - W	楕円形	0.74 × 0.63	27	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	
455	F 6 c 2	N - 30° - W	楕円形	0.78 × 0.67	46	有段	外傾	人為	土師器, 須恵器	本跡→SI 81
503	F 5 a 9	N - 23° - E	楕円形	1.19 × 0.93	57	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 95 →本跡
619	F 6 b 2	N - 51° - W	楕円形	1.17 × 0.96	39	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	本跡→SK620
635	F 5 d 5	-	円形	0.72 × 0.68	52	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 90 →本跡
794	F 6 h 5	-	円形	1.21 × 1.14	60	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	
796	F 6 f 5	N - 3° - E	楕円形	1.19 × 1.02	40	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SK797 →本跡

4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 56 棟，掘立柱建物跡 10 棟，大型円形土坑 4 基，土坑 94 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 1 号竪穴建物跡（第 225 図）

位置 調査 A 区北部の B 2 h 8 区，標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.05 m，短軸 3.64 m の長方形で，主軸方向は N - 19° - E である。上部が削平されており，壁高は不明である。

床 平坦な貼床で，中央部と西部の一部が踏み固められている。貼床は，第 2～7 層を埋土して構築されている。北東・北西部を除き，壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで 117cm で，燃焼部幅は 49cm である。袖部は，床面から 5cm ほど掘りくぼめた部分に第 4 層を埋土して，粘土粒子を主体とする第 2 層を積み上げて構築されている。火床部は第 3 層上面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第 1 層は竈使用時の堆積土層である。燃焼部および煙道部は壁外に 73cm 掘り込まれている。

竈土層解説

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 粘土粒子中量 | 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |

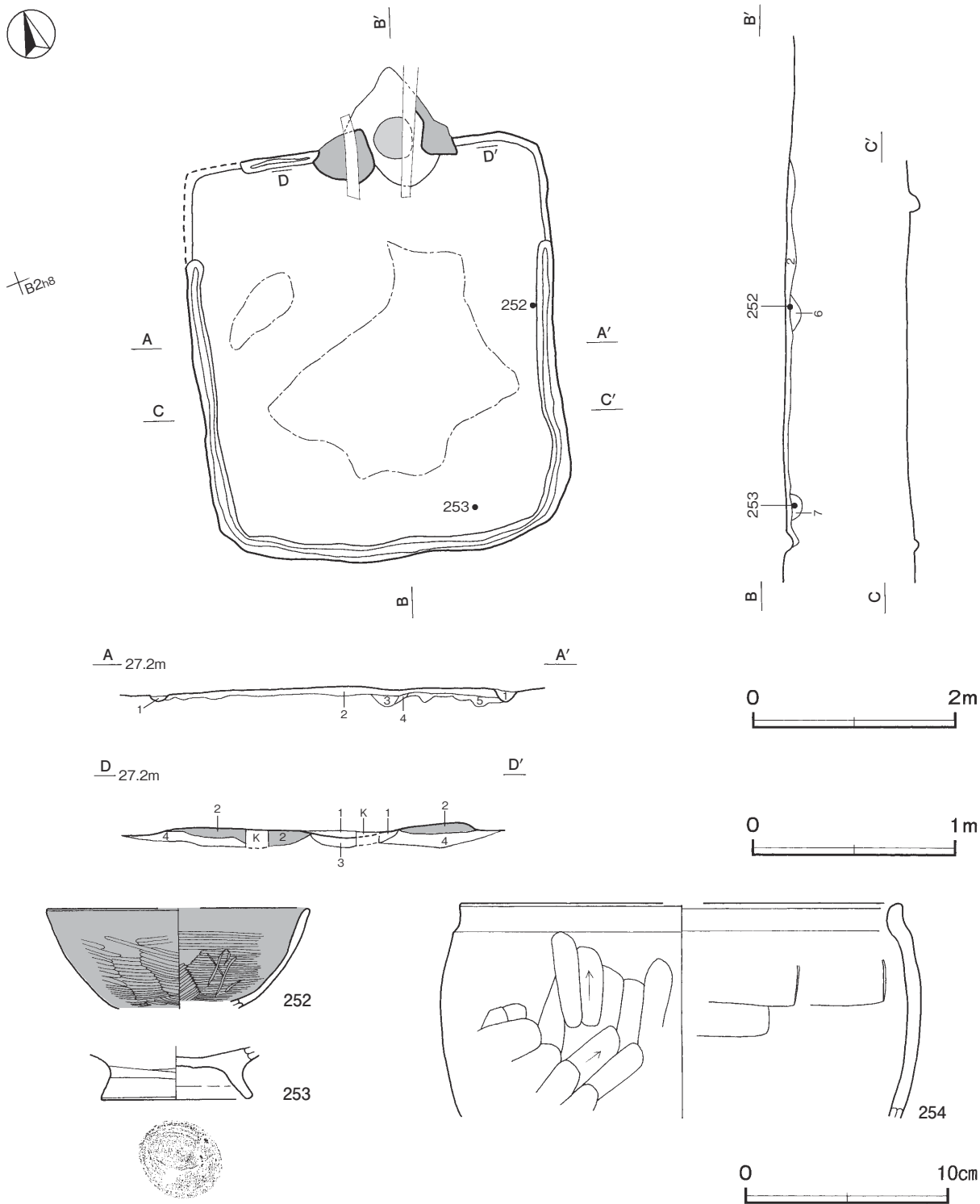
覆土 削平されているため，壁溝の覆土のみの確認となった。堆積状況は不明である。第 2～7 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 25 点 (坏 3, 碗 2, 高台付碗 3, 鉢 1, 甕 16), 金属製品 3 点 (不明) が, 覆土中から出土している。252・253 は貼床構築土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀中葉に比定できる。



第 225 図 第 1 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第225図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
252	土師器	椀	[12.8]	(4.9)	-	長石・雲母	暗灰	普通	体部外・内面ヘラ磨き	貼床構築土	10%
253	土師器	高台付椀	-	(2.6)	7.2	長石・石英	橙	普通	内面ヘラナデ 底部回転糸切り	貼床構築土	10%
254	土師器	鉢	[21.7]	(10.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	15%

第2号竪穴建物跡（第226・227図）

位置 調査A区南部のC2c9区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴を掘り込み、第91号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.03m、短軸3.72mの方形で、主軸方向はN-27°-Eである。壁は高さ25～35cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第10・11層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで114cmで、燃烧部幅は49cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込み、焼土ブロック・炭化粒子を含む第8・9層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。257は火床部の覆土中層から出土しており、埋没する過程で流れ込んだものとみられる。燃烧部および煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 7 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | | |

ピット 11か所。P1～P4は深さ36～42cmで、規模と配置から主柱穴である。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土、第3・4層は埋土である。P5は深さ37cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ23cm・45cmで、配置から壁柱穴である。P8・P9は深さ38cm・29cmで、配置から壁外柱穴と考えられる。掘方調査で確認したP10・P11は深さ26cm・32cmで、配置から立て替え前の主柱穴と考えられる。

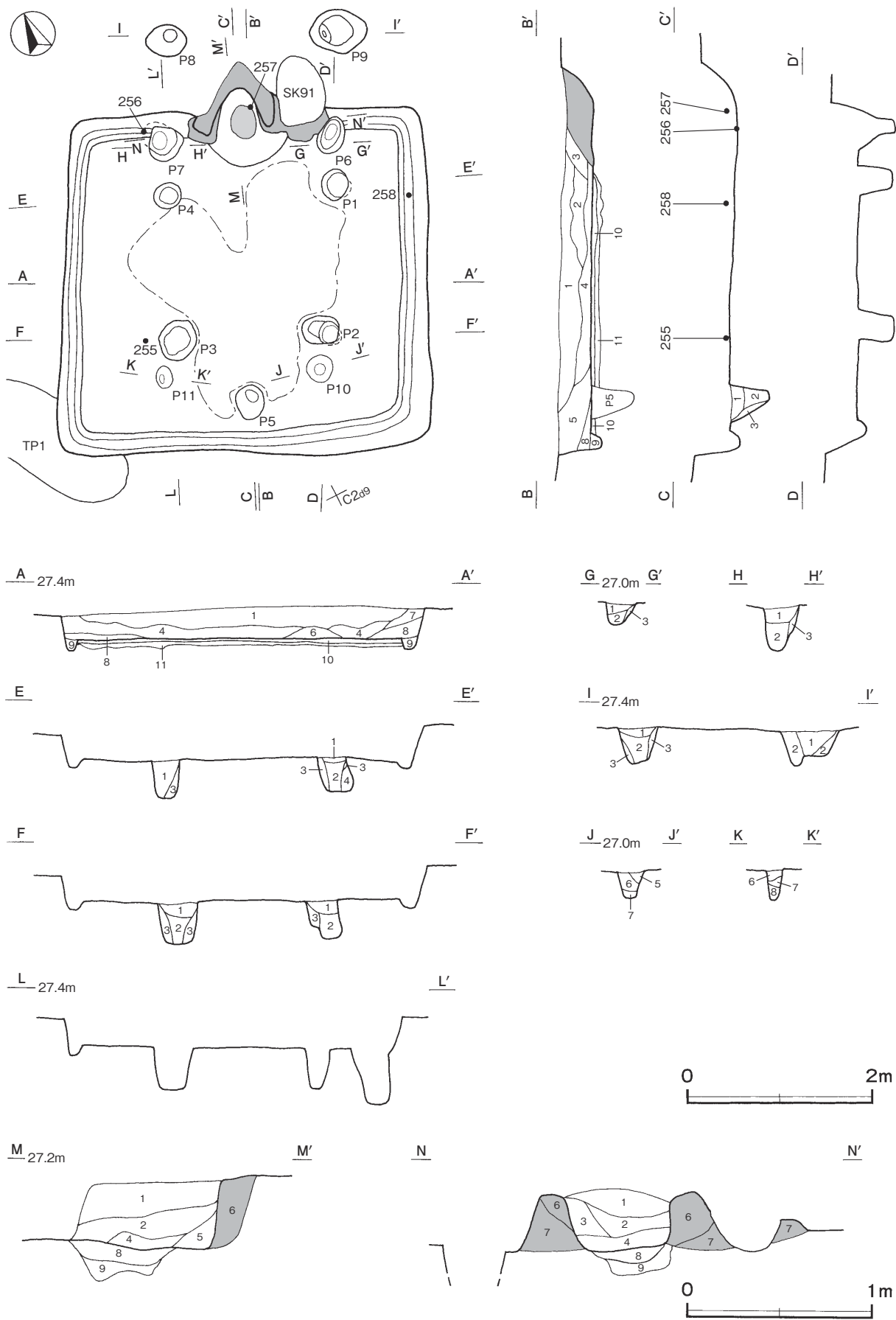
ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|----------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |

覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

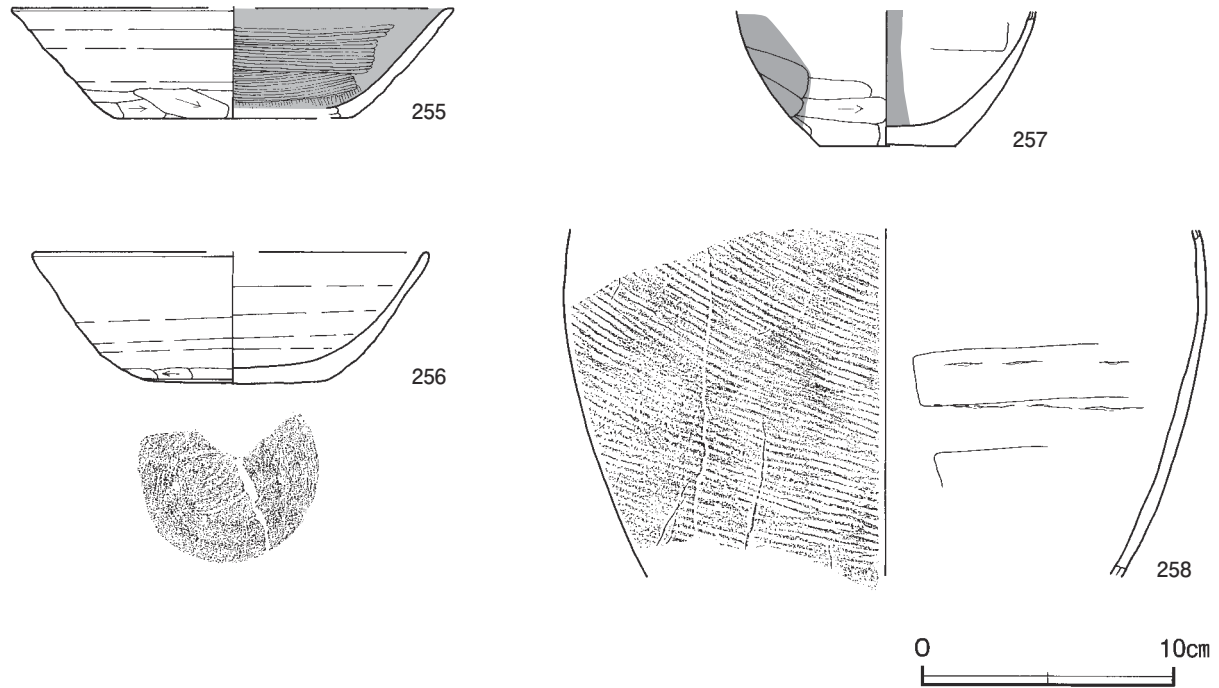
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |



第 226 図 第 2 号竖穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 316 点（坏類 50, 椀 13, 高台付坏 5, 鉢 1, 甕類 247), 須恵器片 18 点（甕), 土製品 1 点（支脚), 鉄滓 1 点のほか, 縄文土器片 1 点（深鉢）が, 全域の覆土中層から床面にかけて出土している。255 は床面, 256 は壁溝の覆土中からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



第 227 図 第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 227 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
255	土師器	坏	[17.5]	4.4	[9.6]	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30%
256	土師器	坏	[15.5]	5.2	7.2	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部回転ヘラ削り	壁溝覆土中	30%
257	土師器	鉢	-	(5.4)	5.4	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈覆土中層	30% 煤付着
258	須恵器	甕	-	(13.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	5% 新治窯

第 5 号竪穴建物跡（第 228・229 図）

位置 調査 A 区南部の C 2 e4 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 38～41 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.68 m, 短軸 3.56 m の方形で, 主軸方向は N-5°-W である。壁は高さ 15～18cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 10～13 層を埋土して構築されている。北壁西側を除き, 壁下には壁溝が巡っている。

竈 遺存状況が悪く, 竈の構築材と考えられる粘土粒子の広がりから, 北壁中央部に付設されていたと推定できる。煙道部は壁外に 37cm 掘り込まれ, 外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |

ピット P1は深さ13cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
|---------------|--------------------|

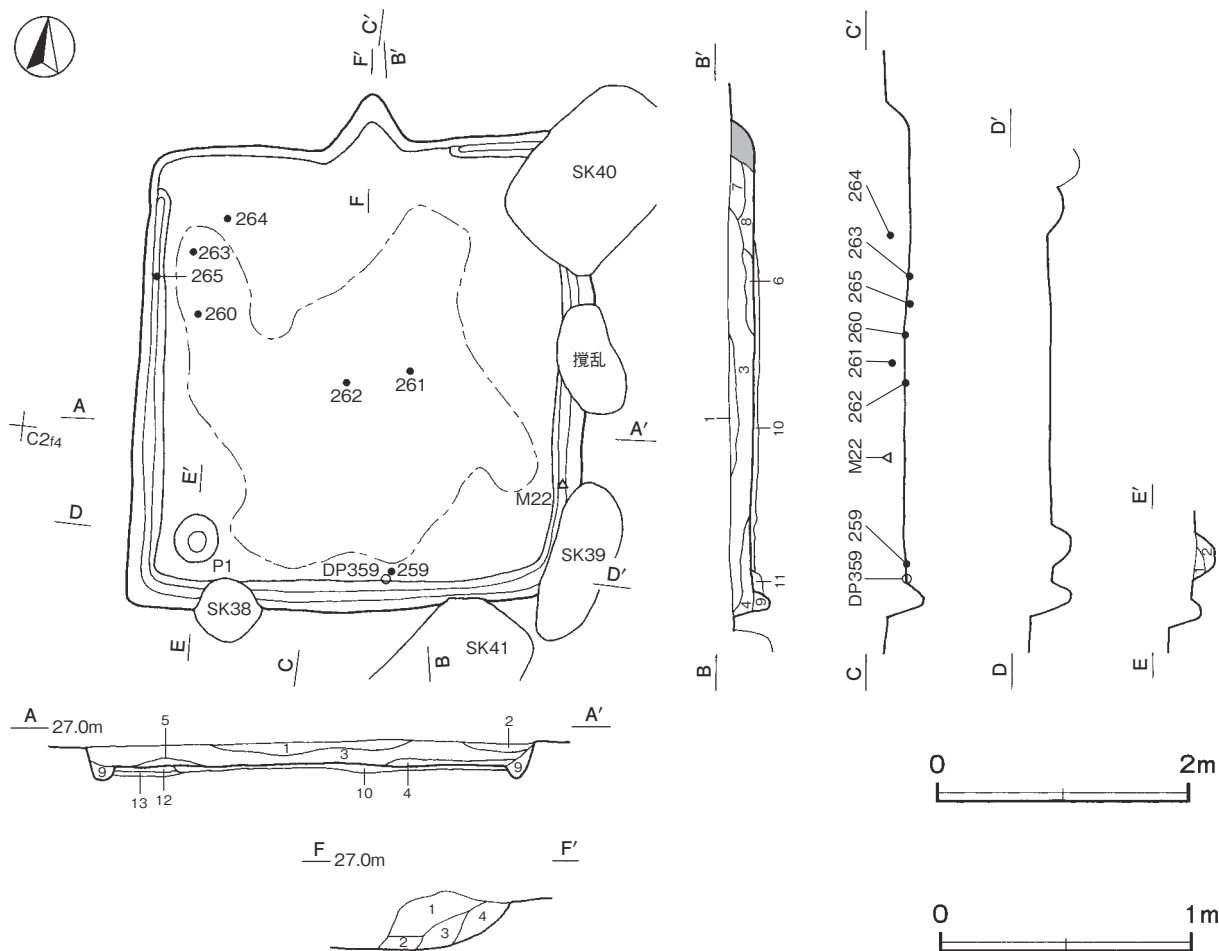
覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

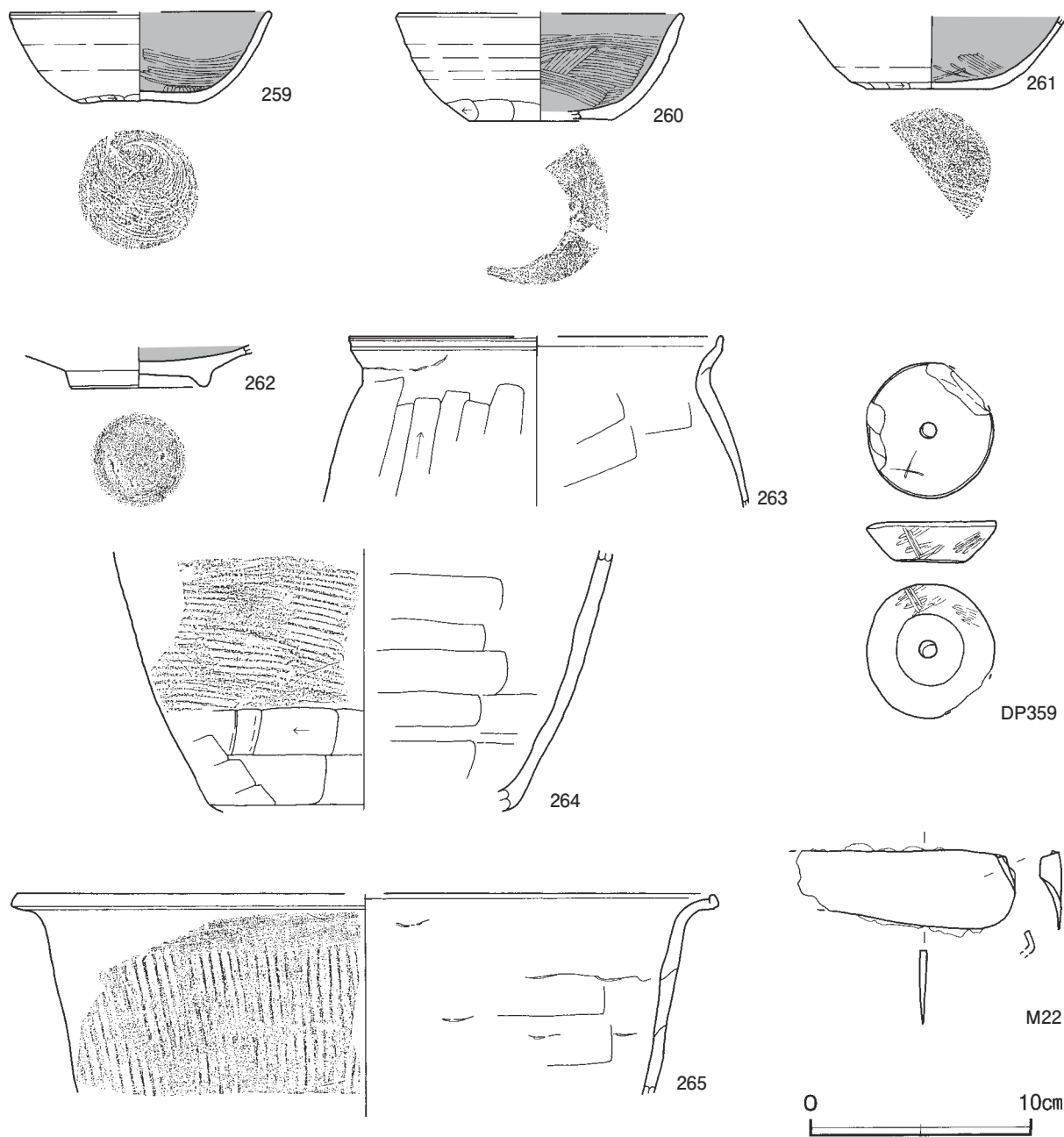
- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 ローム粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量 | 13 褐色 ローム粒子中量 |
| 7 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片448点(坏類98, 椀2, 高台付椀3, 皿1, 甕類344), 須恵器片47点(坏7, 甕39, 甑1), 土製品1点(紡錘車), 金属製品6点(刀子1, 鎌1, 釘3, 不明1), 鉄滓4点が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。259・260・DP359は床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第228図 第5号竪穴建物跡実測図



第 229 図 第 5 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 5 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 229 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
259	土師器	坏	[11.7]	4.2	5.3	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転糸切り	内面ヘラ磨き	床面	50%
260	土師器	坏	[12.6]	4.8	[6.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	内面ヘラ磨き	床面	40%
261	土師器	坏	-	(3.3)	5.5	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面一方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中層	20%
262	土師器	皿	-	(1.8)	6.1	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き		床面	10%
263	土師器	甕	[16.9]	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面縦位のヘラ削り	床面	5%
264	須恵器	甕	-	(11.3)	-	長石・石英	暗灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	下端ヘラ削り	覆土上層	5% 新治窯
265	須恵器	甕	[31.5]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	輪積痕	壁溝覆土中	5% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP359	紡錘車	6.0	1.9	0.7	(59.4)	長石・石英	にぶい黄橙	欠損 一方向からの穿孔 側面へラ磨き 刻書「X」	床面	PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 22	鎌	(10.0)	3.5	0.3	(45.7)	鉄	切先部欠損 断面三角形	覆土中層	

第6号竪穴建物跡（第230・231図）

位置 調査A区南部のC2g4区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m、短軸3.40mの長方形で、主軸方向はN-85°-Wである。壁は高さ22～32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子を含む第14～17層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで130cmで、燃焼部幅は59cmである。袖部は、床面から6～12cm掘りくぼめた部分に第11層を埋土して、粘土粒子を主体とする第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は第11層上面を使用しており、火床面の赤変硬化は認められない。燃焼部および煙道部は壁外に77cm掘り込まれ、火床部から外傾している。266・267は覆土下層・中層からそれぞれ出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 粘土粒子多量 |
| 4 灰黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 10 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | |

ピット 7か所。P1～P4は深さ10～33cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ12cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ24cm・28cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

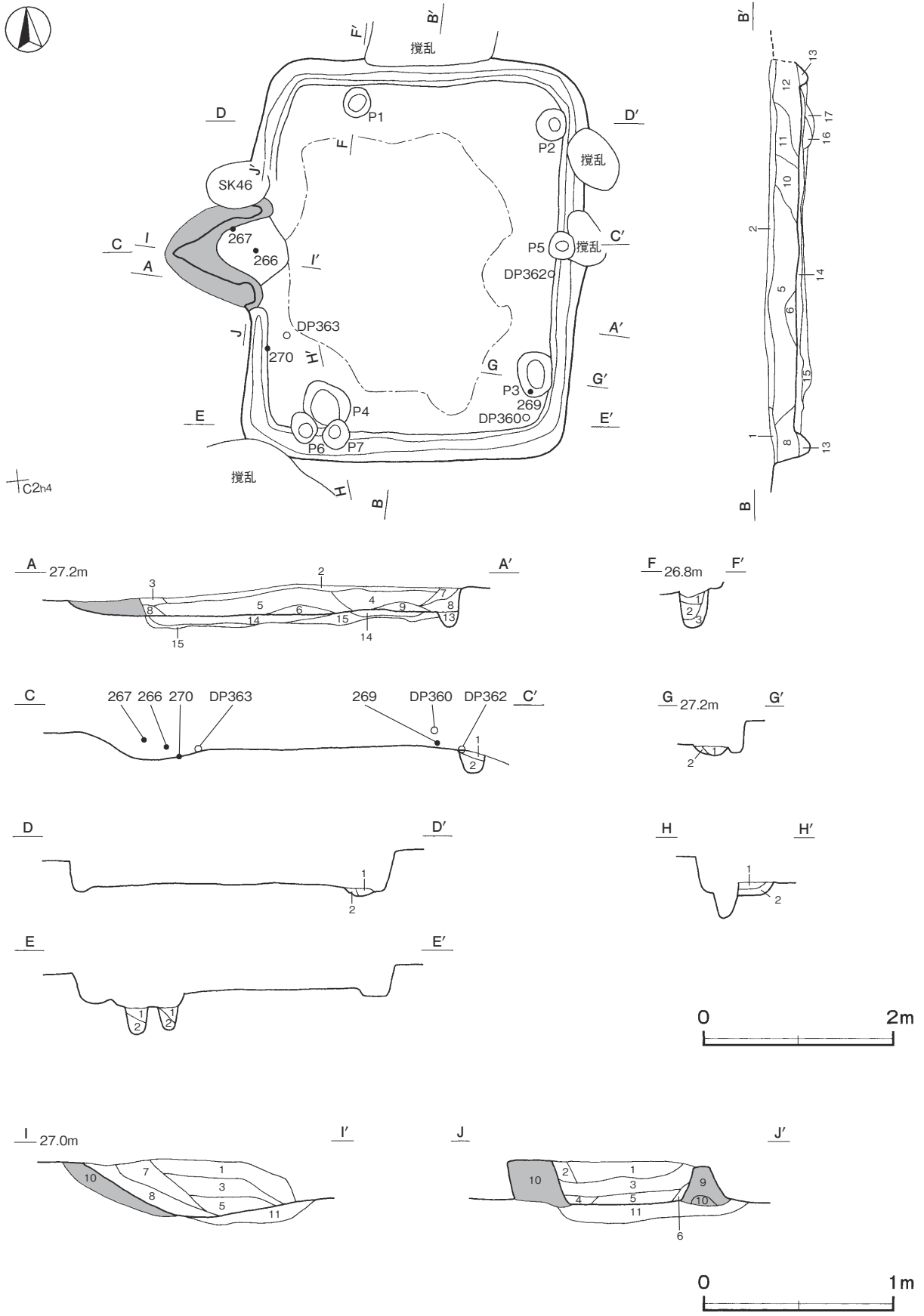
覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第14～17層は貼床の構築土である。

土層解説

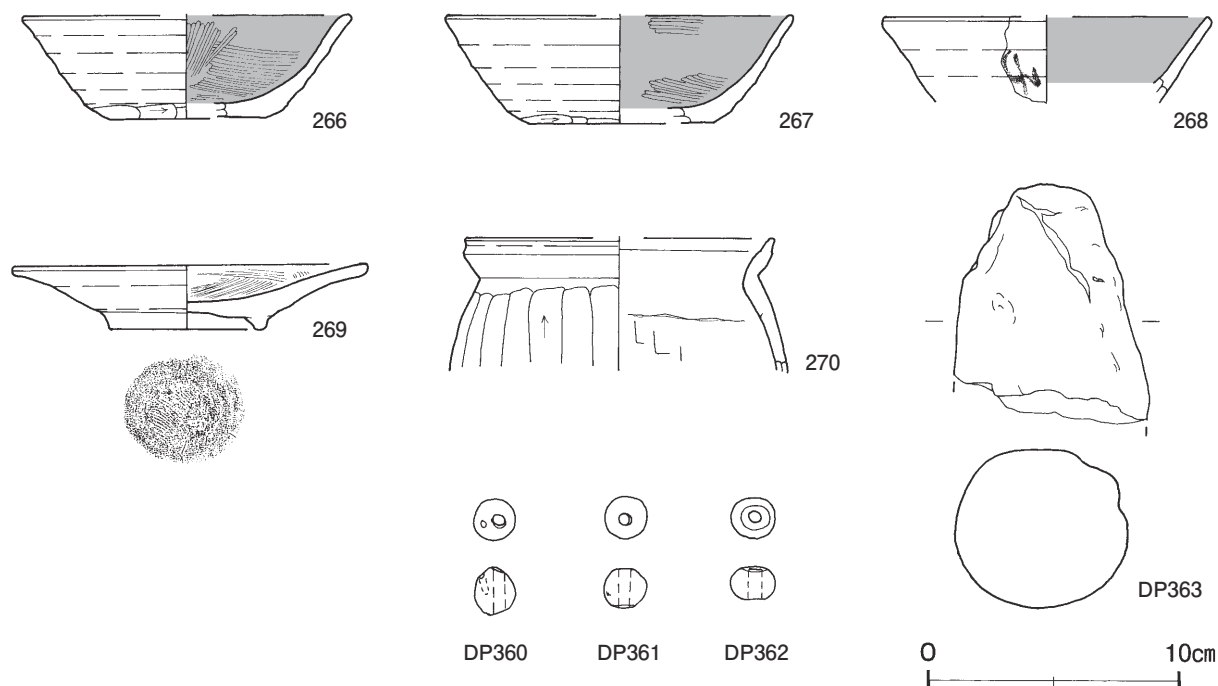
- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 15 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック中量 | 16 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量 | 17 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片289点（坏類89、皿1、甕類198、小形甕1）、須恵器片5点（甕）、土製品4点（土玉3、支脚1）、金属製品3点（不明）のほか、縄文土器片1点（深鉢）が、西部の覆土中層から下層を中心に出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第 230 图 第 6 号竖穴建物迹实测图



第 231 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 230・231 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
266	土師器	坏	[12.8]	4.1	[6.1]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き	竈覆土下層	10%
267	土師器	坏	[13.6]	4.3	[7.4]	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き	竈覆土中層	10%
268	土師器	坏	[12.7]	(3.4)	-	長石・石英	橙	普通	内面へらナデ 体部外面墨書「子 _カ 」	覆土中	5% PL78
269	土師器	皿	13.8	2.6	6.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面へらナデ 内面へら磨き 底部回転糸切り	覆土中	60%
270	土師器	小形甕	[12.0]	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のへら削り 内面へらナデ 輪積痕	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP360	土玉	1.6	1.9	0.4~0.5	4.08	長石・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	
DP361	土玉	1.7	1.6	0.5	3.95	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	掘方構築土	
DP362	土玉	1.7~1.8	1.3	0.5	3.85	長石・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP363	支脚	(9.5)	3.5	7.8	(280)	長石・石英	橙	基部欠損 外面摩滅 被熱痕	床面	

第 8 号竪穴建物跡 (第 232・233 図)

位置 調査 A 区北部の B 2 h4 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 9 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 49 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.76 m, 短軸 2.74 m の方形で, 主軸方向は N - 62° - W である。壁は高さ 16 ~ 21 cm で, 外傾している。

床 ほぼ平坦であるが, 明確な硬化面は認められない。

竈 北西壁南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙出部まで 69 cm で, 燃焼部幅は 36 cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 5 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を若

干掘り込んだ箇所を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃烧部および煙道部は壁外に55cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 5 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | | |

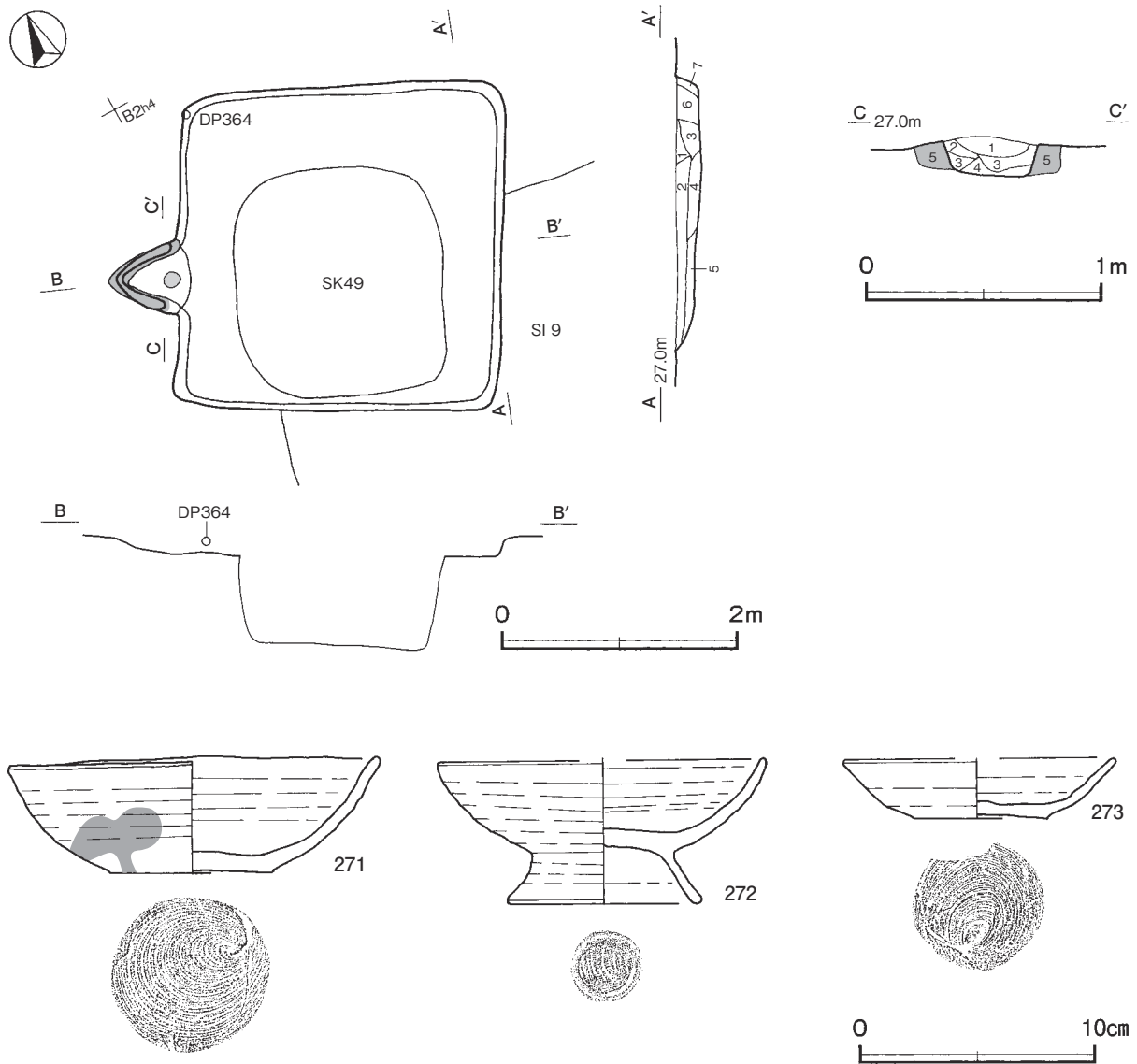
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

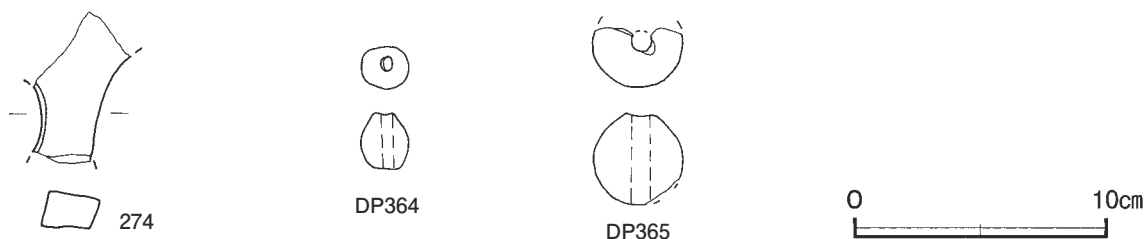
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 78 点（坏類 30，高台付碗 5，小皿 1，甕類 41，甗 1），須恵器片 3 点（甕），土製品 2 点（土玉）が、覆土中から出土している。DP364 は北コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10 世紀後葉に比定できる。



第 232 図 第 8 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 233 図 第 8 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 232・233 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
271	土師器	坏	15.5	4.9	6.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面摩滅 底部回転糸切り	覆土中	99% 煤附着
272	土師器	高台付椀	[13.8]	6.1	7.9	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	80%
273	土師器	小皿	[11.4]	2.6	5.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%
274	土師器	甌	-	(1.4)	-	長石	にぶい橙	普通	多孔式	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP364	土玉	1.6~1.9	2.2	0.4~0.5	6.72	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP365	土玉	3.6	3.6	0.7	(25.8)	長石・石英	橙	欠損 ナデ 穿孔痕	覆土中	

第 9 号竪穴建物跡 (第 234 図)

位置 調査 A 区北部の B 2h4 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 7 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 8 号竪穴建物, 第 49 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺 3.45 m の方形で, 主軸方向は N - 104° - E である。壁は高さ 6 ~ 13 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部から南壁際にかけて踏み固められている。

竈 東壁やや北寄りに付設されている。規模は, 燃焼部幅は 39 cm で, 煙道部が攪乱を受けているため, 焚口部から煙道部までは 62 cm しか確認できなかった。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|----------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | | |

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 15 cm・18 cm で, 性格は不明である。

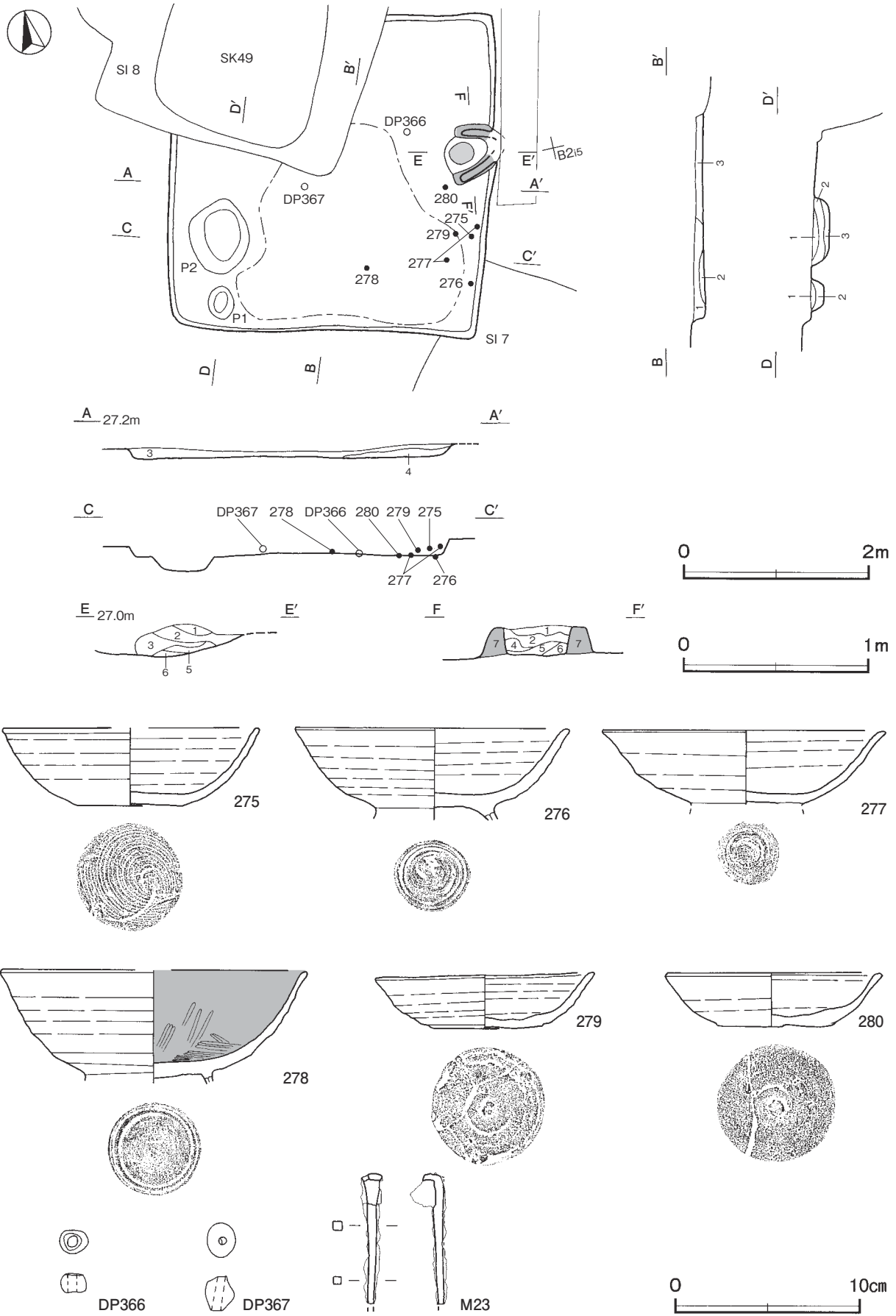
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | | |

覆土 4 層に分層できる。層厚が薄く, 堆積の判断が難しいが, 多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------|----------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | 色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 | 色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | 色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第 234 图 第 9 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 293 点 (坏類 173, 高台付椀 8, 小皿 2, 甕類 110), 須恵器片 6 点 (甕), 土製品 2 点 (土玉), 金属製品 1 点 (釘), 鉄滓 2 点が, 東部の覆土下層から床面を中心に出土している。276・278・280 は完存率が高く, 床面からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀中葉に比定できる。

第 9 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 234 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
275	土師器	坏	[13.7]	4.2	5.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	50%
276	土師器	高台付椀	14.6	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面	80%
277	土師器	高台付椀	15.1	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面～覆土中層	50%
278	土師器	高台付椀	[16.4]	(6.1)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	床面	50%
279	土師器	小皿	11.7	3.1	6.1	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	100%
280	土師器	小皿	11.4	2.9	6.3	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP366	土玉	13～15	1.0	0.5～0.6	1.95	長石・石英	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔	床面	
DP367	土玉	15～18	1.9	0.4～0.5	5.55	長石・石英	灰黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 23	釘	(7.0)	1.1	0.4～0.5	(9.14)	鉄	先端部欠損 断面長方形	覆土中	

第 11 号 竪穴建物跡 (第 235・236 図)

位置 調査 A 区北部の B 2j0 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号道路跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.46 m, 短軸 3.34 m の方形で, 主軸方向は N - 17° - E である。壁は高さ 10 ～ 18cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで 101cm で, 燃烧部幅は 68cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 9 層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており, 火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は壁外に 61cm 掘り込まれ, 火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 9 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 3 か所。P 1 は深さ 29cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3 は深さ 12cm・19cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |

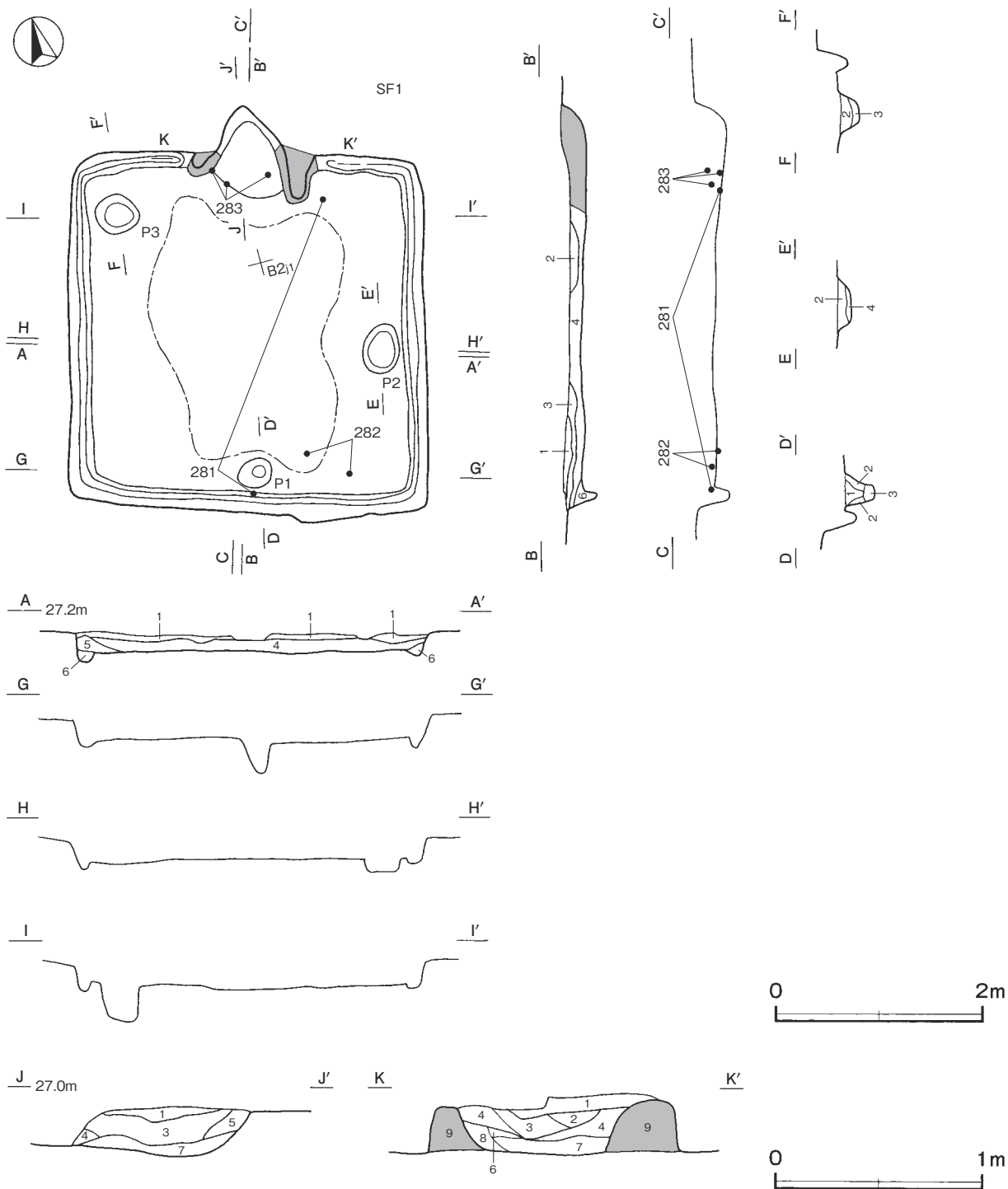
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

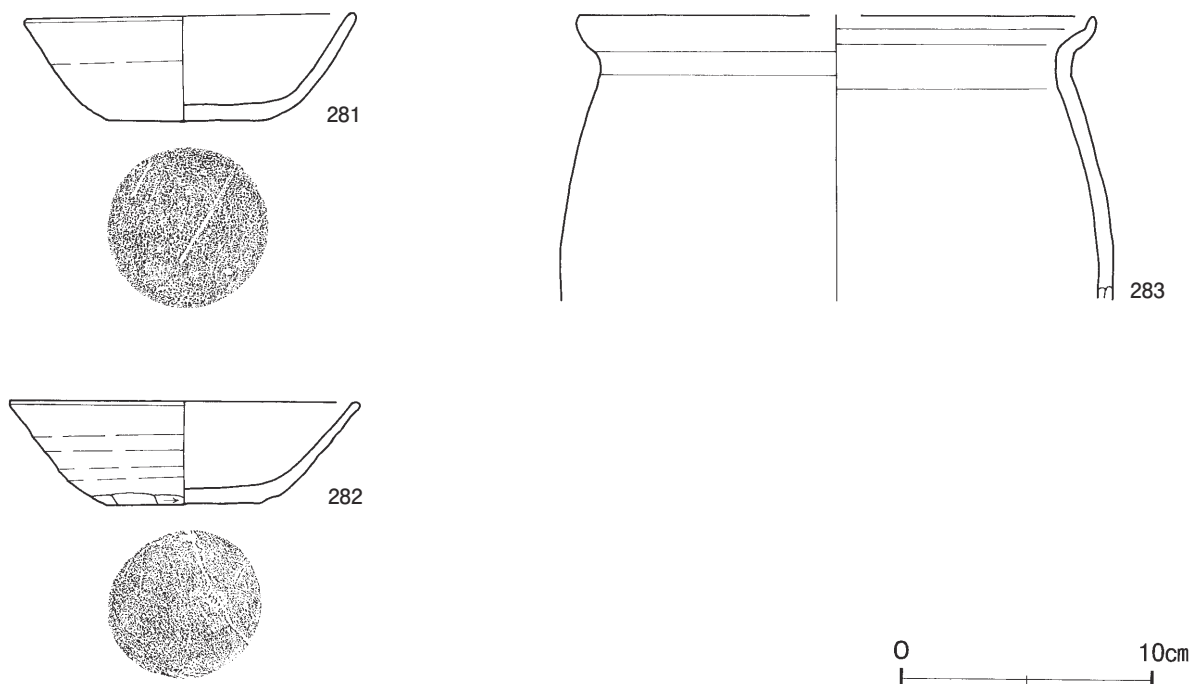
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 52 点（坏 21，碗 1，高台付碗 1，甕類 29），須恵器片 1 点（甕）のほか，縄文土器片 1 点（深鉢）が，全域の覆土下層から床面にかけて出土している。281・282 は完存率が高く，分散して出土した破片がそれぞれ接合していることから，廃絶時に破碎して遺棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 235 図 第 11 号 竪穴建物跡実測図



第 236 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 236 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
281	土師器	坏	12.9	4.3	6.3	長石・赤色粒子	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	100%
282	土師器	坏	13.9	4.1	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後一方向のヘラ削り	床面	90%
283	土師器	甕	[20.5]	(11.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	竈覆土下層～中層	10%

第 13 号竪穴建物跡 (第 237・238 図)

位置 調査B区のE3d6区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第47・48・72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.35m, 短軸3.02mの長方形で, 主軸方向はN-100°-Eである。壁は高さ12~18cmで, ほぼ直立している。

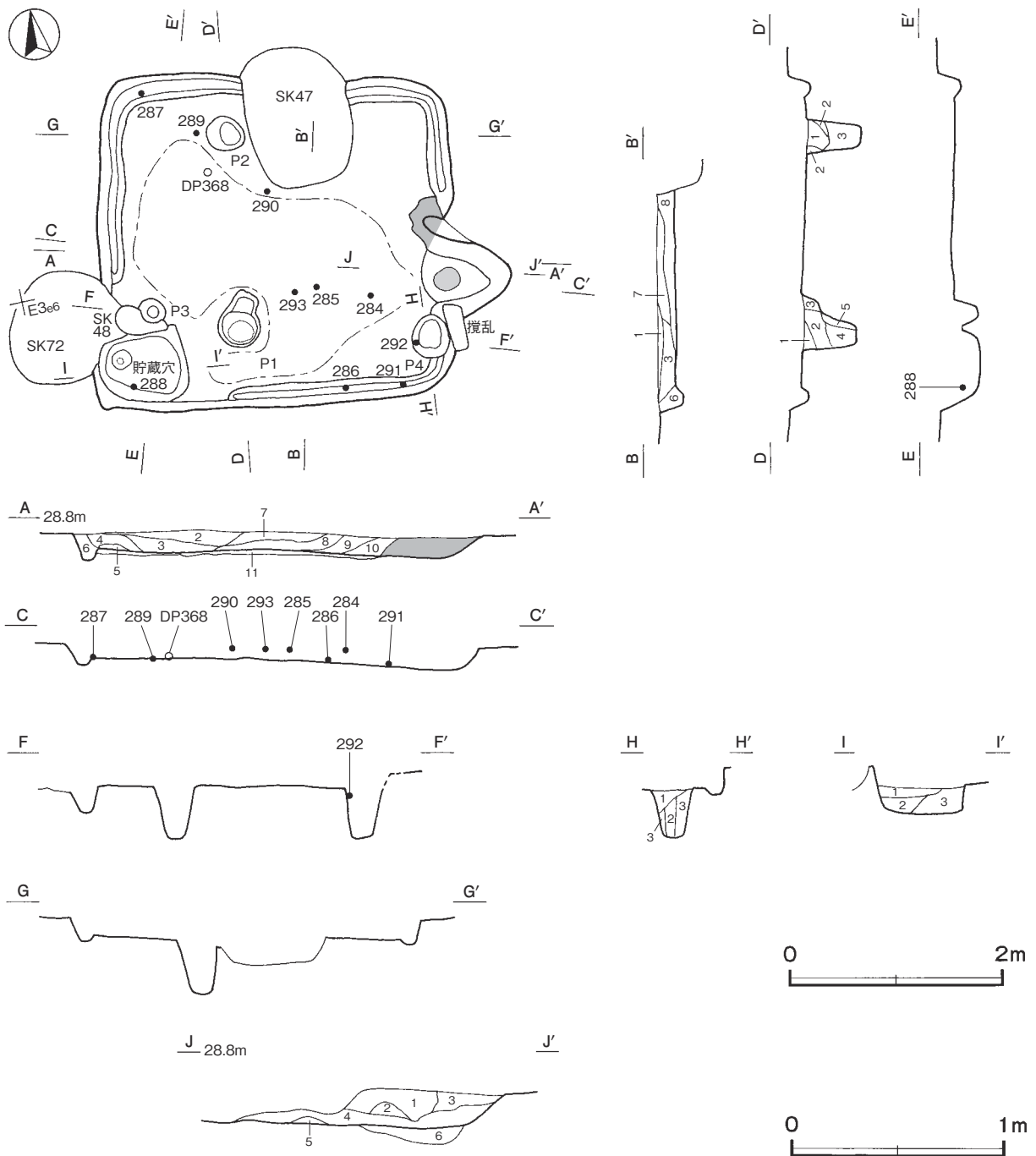
床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第11層を埋土して構築されている。南西部を除き壁下には壁溝が巡っている。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。遺存状況が悪く, 規模は, 燃焼部幅は39cmで, 焚口部から煙出部までは93cmと推定できる。火床部は第6層上面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に65cm掘り込まれていると推定でき, 火床部から緩やかに立ち上がっている。第1層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒色 焼土ブロック・炭化粒子中量 |

ピット 4か所。P1・P2は深さ51cm・53cmで, 規模と配置から主柱穴である。P3は深さ24cmで, 西壁際のやや南寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ48cmで, 性格は不明である。



第 237 図 第 13 号 竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径 88cm, 短径 65cm の楕円形で, 深さは 27cm である。底面は皿状で, 壁はほぼ直立している。288 は完形で, 覆土中層から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

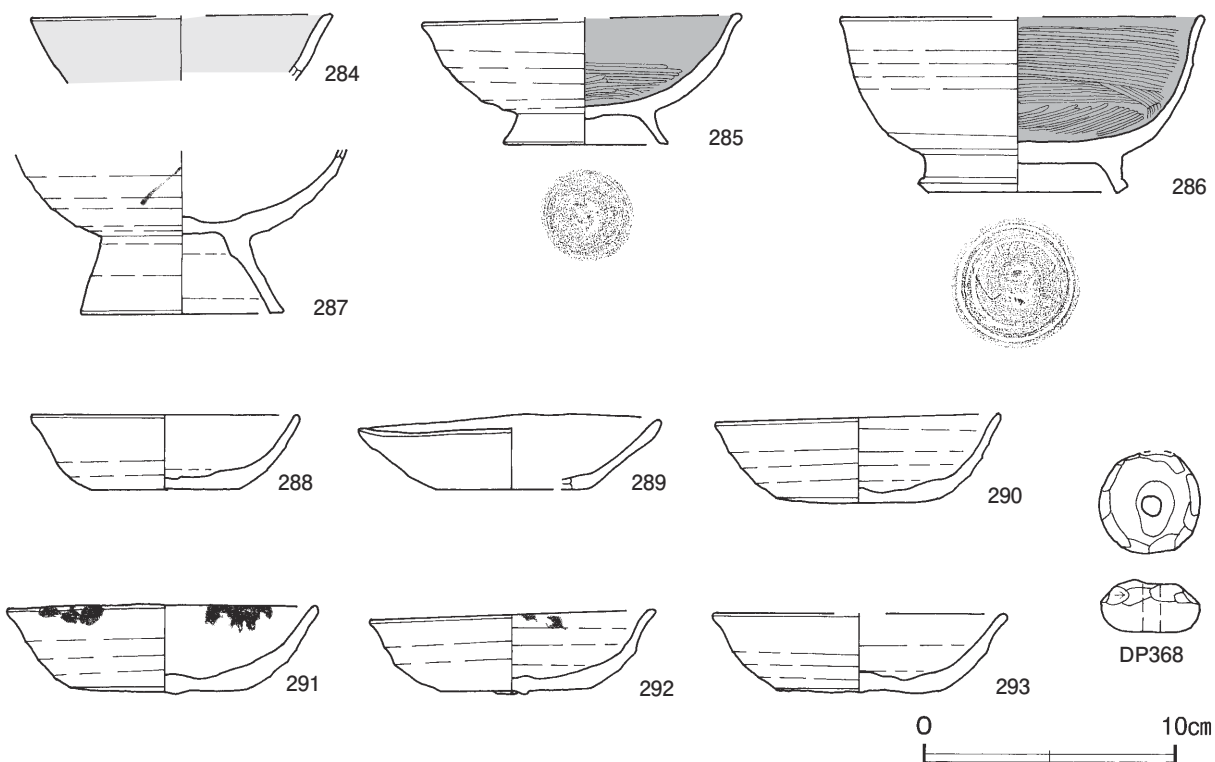
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|-----------|---------------------|
| 1 におい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 7 橙 色 | 焼土ブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 | 8 褐 灰色 | 炭化物多量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 5 明褐色 | ロームブロック多量 | 11 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 黄褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 491点 (坏類 180, 椀 7, 高台付椀 10, 皿 4, 小皿 6, 甕類 284, 甑 1), 須恵器片 7点 (坏 3, 甕 4), 緑釉陶器片 1点 (椀), 土製品 1点 (紡錘車) のほか, 土師器片 1点 (手捏土器) が, 全域の覆土中層から床面にかけて出土している。286・288・289・291・292・DP368 は完存率が高く, 床面または床面に近い層位からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器から 10世紀後葉に比定できる。



第 238 図 第 13 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 13 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 238 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
284	緑釉陶器	椀	[11.9]	(2.6)	-	精緻	暗オリーブ	緻密	外・内面施釉 内面横位の磨き	覆土中層	5% 畿内産 PL100
285	土師器	高台付椀	[12.4]	5.1	6.2	長石・石英	におい褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中層	70%
286	土師器	高台付椀	[14.3]	6.8	7.4	長石	におい黄橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	壁溝覆土中	60%
287	土師器	高台付椀	-	(6.4)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り 体部外面墨書「□」	壁溝覆土中	40% PL78
288	土師器	小皿	10.6	3.0	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	貯蔵穴覆土中層	100%
289	土師器	小皿	11.8	3.0	6.1	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面	90%
290	土師器	小皿	11.2	3.5	6.4	長石	におい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	80%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
291	土師器	小皿	12.0	3.6	7.0	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	壁溝覆土中	80% 油煙付着
292	土師器	小皿	11.1	3.3	6.1	長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	P 4 覆土上層	70% 油煙付着
293	土師器	小皿	[11.4]	3.1	6.5	長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	60%

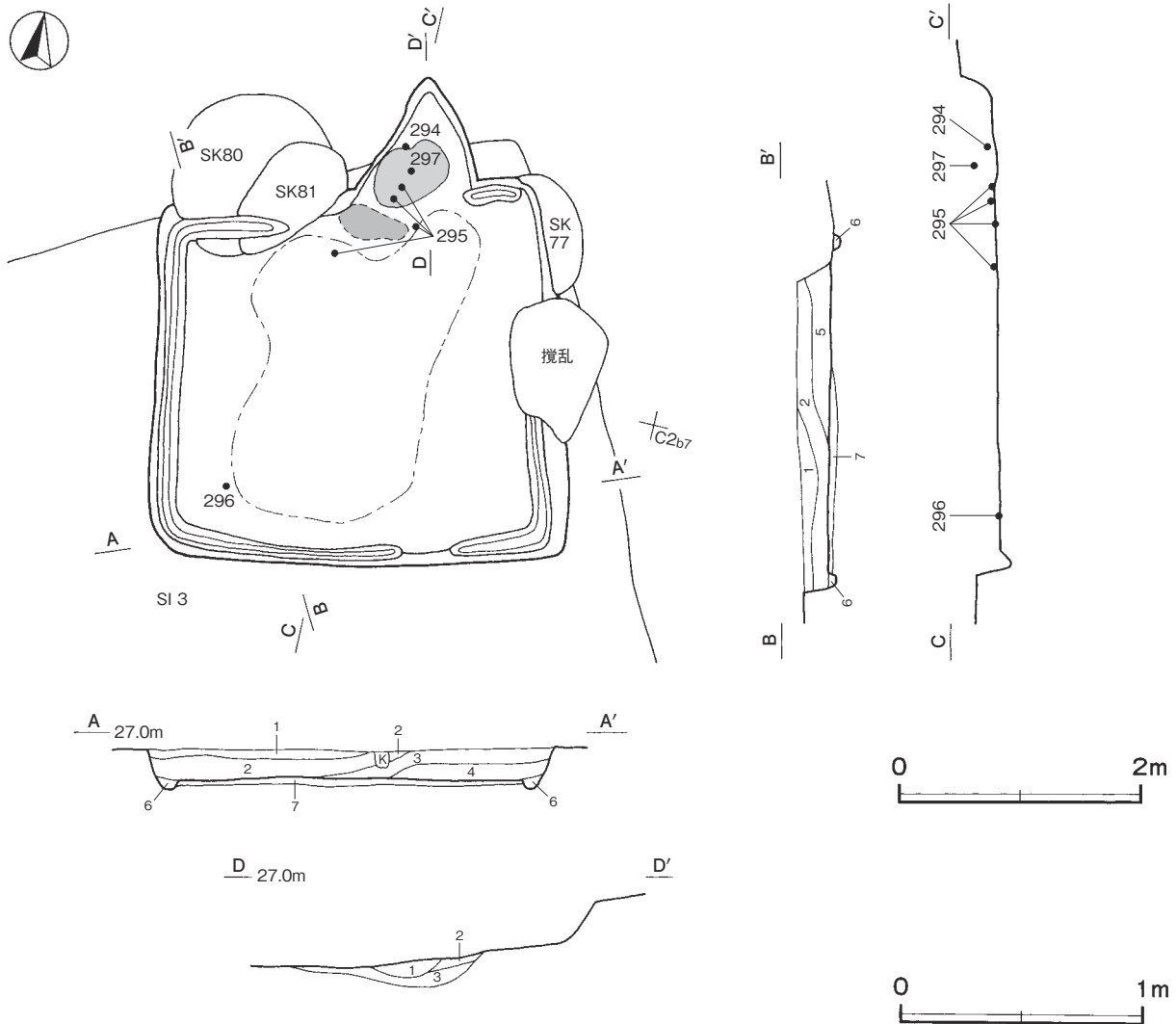
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP368	紡錘車	4.0	2.1	0.7	(35.2)	長石・石英	にぶい橙	端部欠損 一方向からの穿孔 側面ヘラ削り	床面	PL92

第 14 号 竪穴建物跡 (第 239・240 図)

位置 調査A区南部のC 2b6区, 標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号竪穴建物跡を掘り込み, 第77・80・81号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.46m, 短軸3.10mの長方形で, 主軸方向はN-12°-Wである。壁は高さ22~28cmで, 外傾している。



第 239 図 第 14 号 竪穴建物跡実測図

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第7層を埋土して構築されている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 遺存状況が悪く、火床面と考えられる焼土の広がりから、北壁の東寄りに付設されていたと推定できる。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめた部分に第1～3層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部前面に、袖構築材と考えられる粘土塊を確認した。294は完形で、覆土下層から出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量

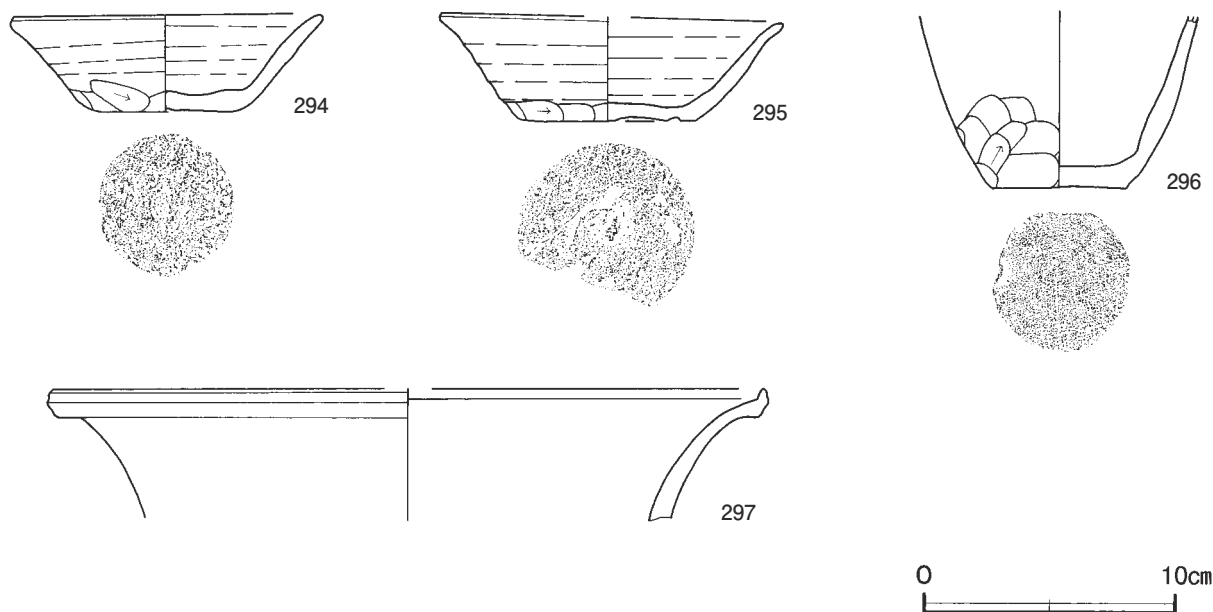
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片31点(坏4, 鉢1, 甕類26), 須恵器片3点(坏2, 甕1)のほか, 石製品1点(白玉)が、竈周辺の覆土下層から床面にかけて出土している。295は分散して出土した破片が接合していることから、廃絶時に破碎して廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第240図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図

第14号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
294	須恵器	坏	12.2	3.9	5.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	竈覆土下層	100% 新治窯
295	須恵器	坏	[13.4]	4.3	7.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	火床面 ～床面	50%
296	土師器	鉢	-	(6.9)	5.4	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	床面	10%
297	須恵器	甕	[28.2]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	竈覆土上層	5% 新治窯

第 15 号 竪穴建物跡 (第 241・242 図)

位置 調査A区南部のC 2 e2区, 標高 27 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号 竪穴建物に掘り込まれている。

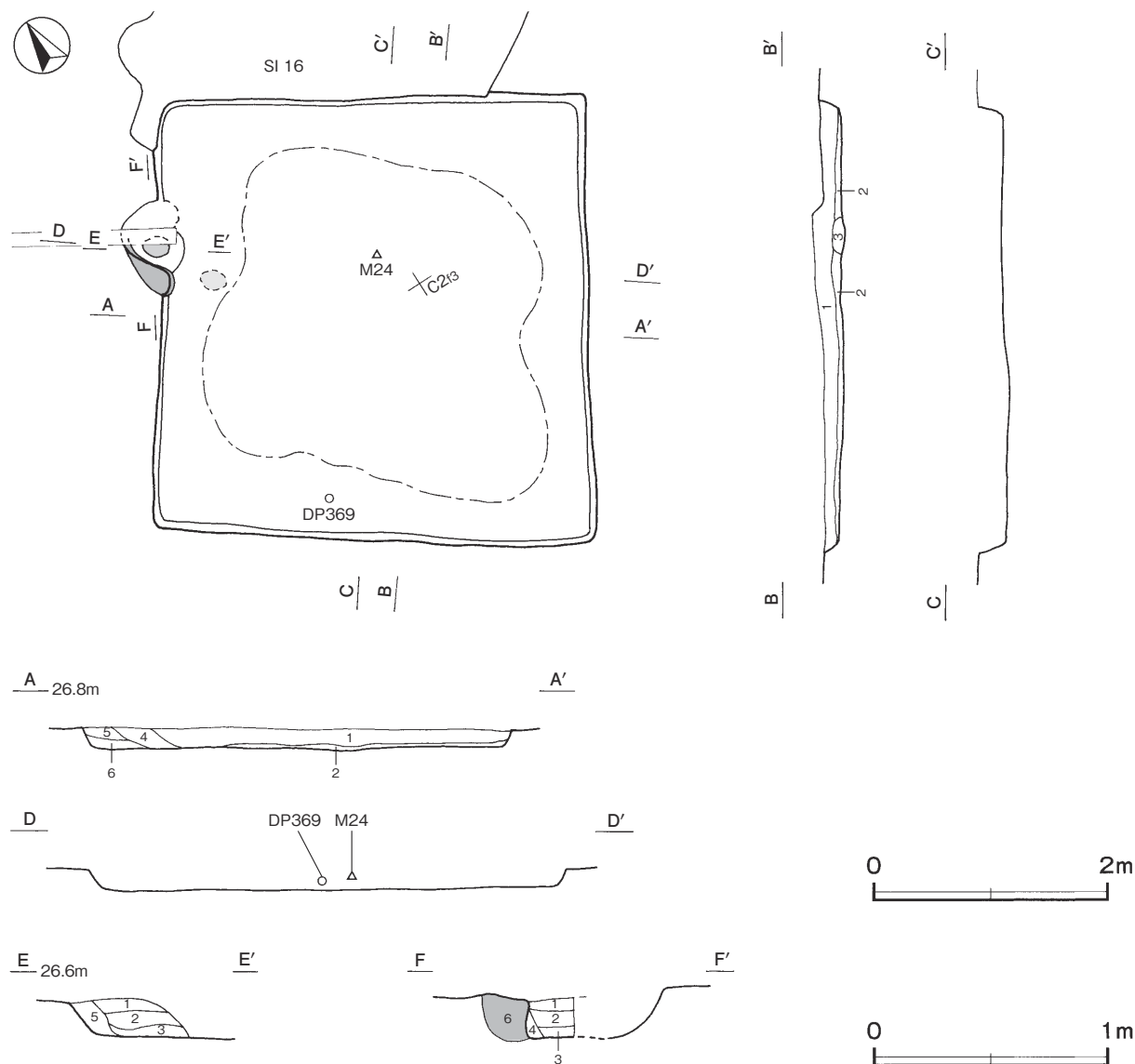
規模と形状 長軸 3.83 m, 短軸 3.72 m の方形で, 主軸方向は N - 54° - W である。壁は高さ 17 ~ 23 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。竈の手前に焼土を確認した。

竈 北西壁やや北寄りに付設されている。右袖は遺存しておらず, 規模は, 焚口部から煙道部までが 52 cm で, 燃焼部幅は 34 cm と推定できる。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 6 層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に 33 cm 掘り込まれ, 火床部からはほぼ直立している。第 1 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 灰黄褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 6 灰黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量 |



第 241 図 第 15 号 竪穴建物跡実測図

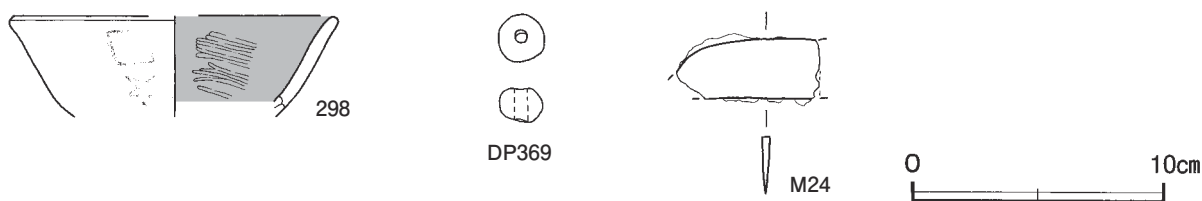
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 215点 (坏類 35, 甕類 178, 甑 2), 須恵器片 5点 (坏 1, 甕 3, 甑 1), 土製品 1点 (土玉), 金属製品 6点 (刀子 1, 鎌 1, 不明 4), 鉄滓 3点のほか, 土師器片 1点 (高坏) が, 全域の覆土中層から下層にかけて出土している。出土した土器の大半は小破片で, 埋め戻す際に混入したものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9世紀中葉に比定できる。



第 242 図 第 15 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 242 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
298	土師器	坏	[12.7]	(4.0)	-	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き 体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL78

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP369	土玉	1.8	1.3	0.5	4.32	長石・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 24	鎌	(5.6)	(2.3)	0.3	(14.0)	鉄	切先部のみ遺存 断面三角形	覆土中層	

第 16 号 竪穴建物跡 (第 243 図)

位置 調査 A 区南部の C 2 e3 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 15 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 44・45 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.86 m, 短軸 2.82 m の方形で, 主軸方向は N - 40° - W である。壁は高さ 6 ~ 10cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 2 層を埋土して構築されている。北西壁と北東壁の一部の壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁南西寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで 74cm, 燃焼部幅は 39cm である。袖部は床面を 5 ~ 12cm 掘りくぼめた部分に, 粘土粒子を主体とする第 4 層を積み上げて構築されている。火床部は第 5 層上面を使用しており, 火床面の赤変硬化は認められない。301 は火床面から出土していることから, 廃絶時に廃棄されたものとみられる。煙道部は壁外に 14cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに傾斜している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 4 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第2層は貼床の構築土である。

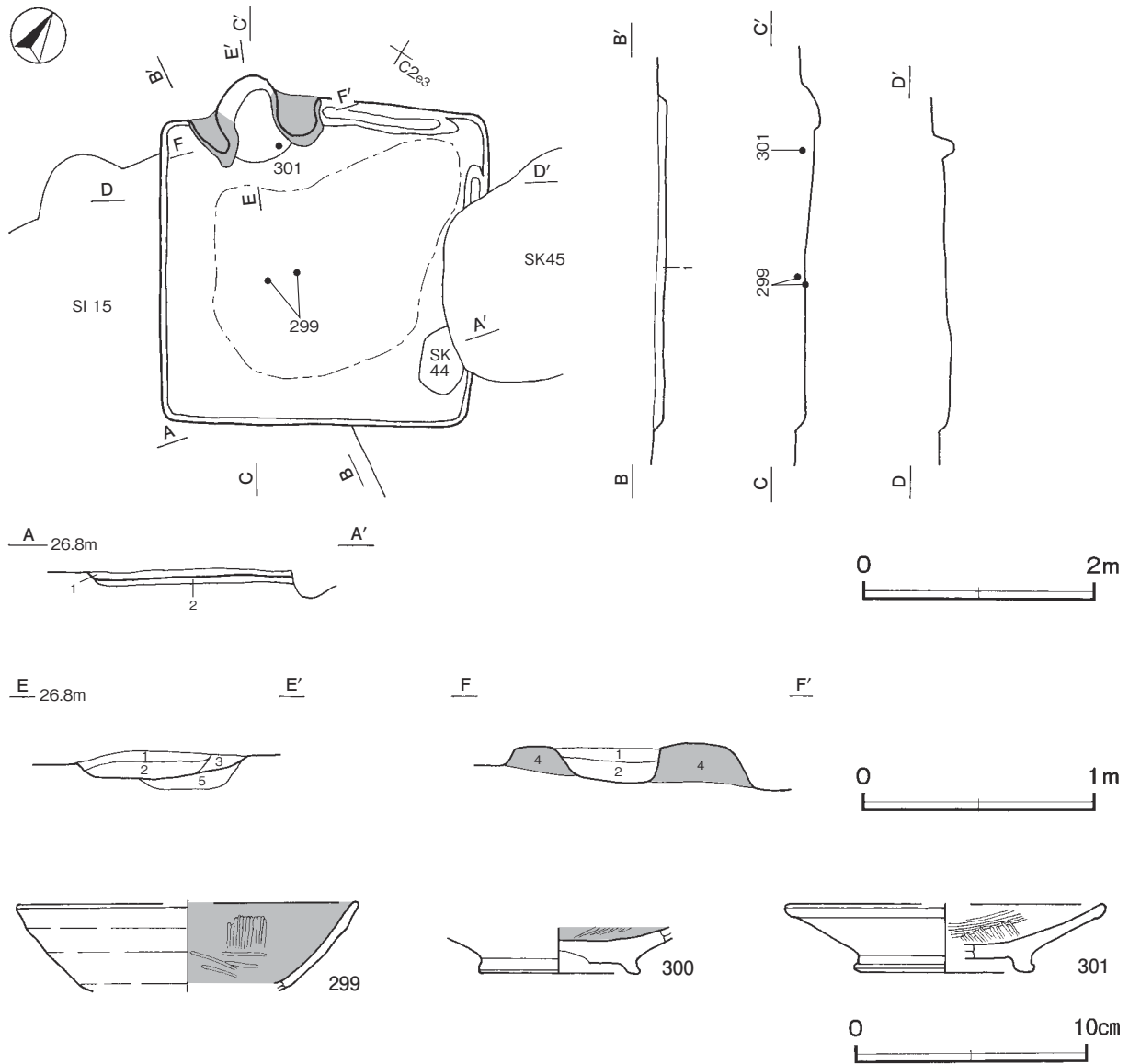
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 110 点（坏 18, 高台付椀 1, 皿 2, 甕類 89）, 須恵器片 2 点（甕）が、全域の覆土中から出土している。出土した土器の大半は小破片で、埋め戻す際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第 243 図 第 16 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 243 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
299	土師器	坏	[14.6]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	5%
300	土師器	高台付椀	-	(1.9)	[6.9]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
301	土師器	皿	[13.4]	2.9	[7.4]	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	火床面	20%

第 17 号 竪穴建物跡 (第 244・245 図)

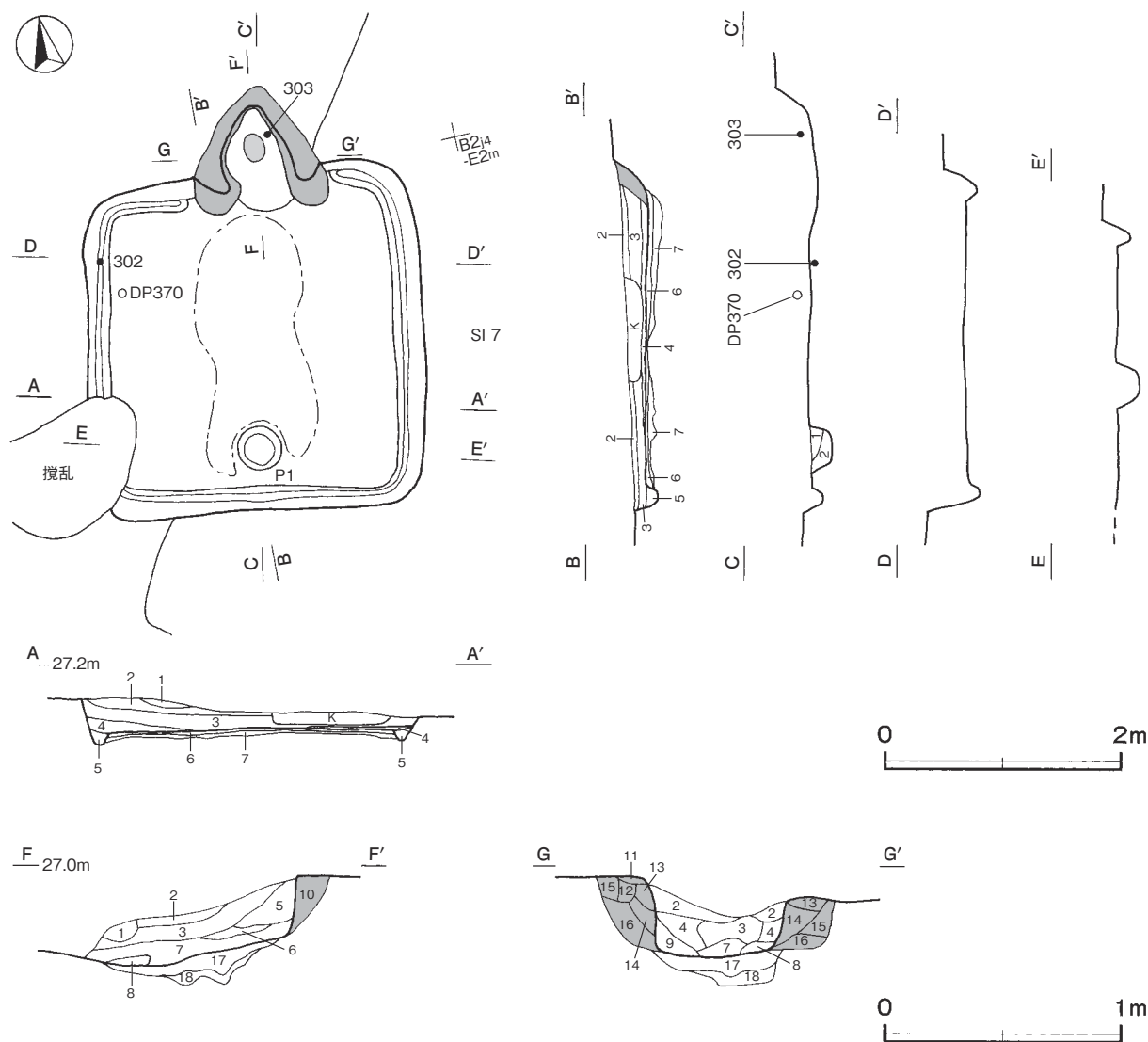
位置 調査 A 区北部の B 2j4 区, 標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 7 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 2.92 m, 短軸 2.84 m の方形で, 主軸方向は N - 12° - E である。壁は高さ 12 ~ 33 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 6・7 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部までは 104 cm で, 燃烧部幅は 41 cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 10 ~ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 6 ~ 14 cm ほど掘り込み, ロームブロックを含む第 17・18 層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃烧部および煙道部は壁外に 65 cm 掘り込まれ, 火床部から階段状に立ち上がっている。303 は覆土下層から出土していることから, 埋没する過程で流れ込んだものとみられる。



第 244 図 第 17 号 竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黄褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量 | 13 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子多量 | 16 褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック少量 |

ピット P1は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|----------------|

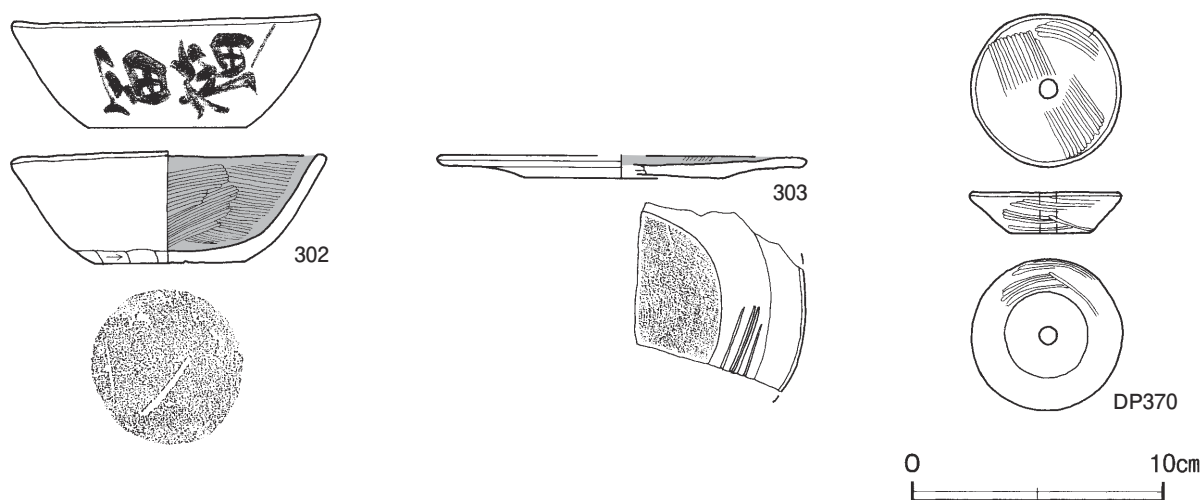
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれている層もあるが、周囲から流入した堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片91点(坏20, 椀1, 皿2, 甕類68), 須恵器片2点(甕), 土製品1点(紡錘車), 金属製品1点(不明)が、西部の覆土中層から床面を中心に出土している。302は完形で、壁溝覆土中から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第245図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表(第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
302	土師器	坏	12.2	4.4	6.2	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り 墨書「富福」線刻有り	壁溝覆土中	100% PL66
303	土師器	皿	[14.2]	0.8	[8.0]	長石	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	竈覆土下層	30% 砥石転用
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP370	紡錘車	6.0	1.6	0.7	57.1	長石・石英	にぶい黄褐	一方向からの穿孔 上・側面ヘラ磨き		覆土下層	PL92

第 26 号 竪穴建物跡 (第 246・247 図)

位置 調査D区南部のG 6 b3区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 25 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.03 m, 短軸 2.80 mの方形で, 主軸方向はN - 24° - Wである。壁は高さ 8 ~ 20cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 72cmで, 燃烧部幅は 32cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを利用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 32cm掘り込まれ, 火床部から直立している。

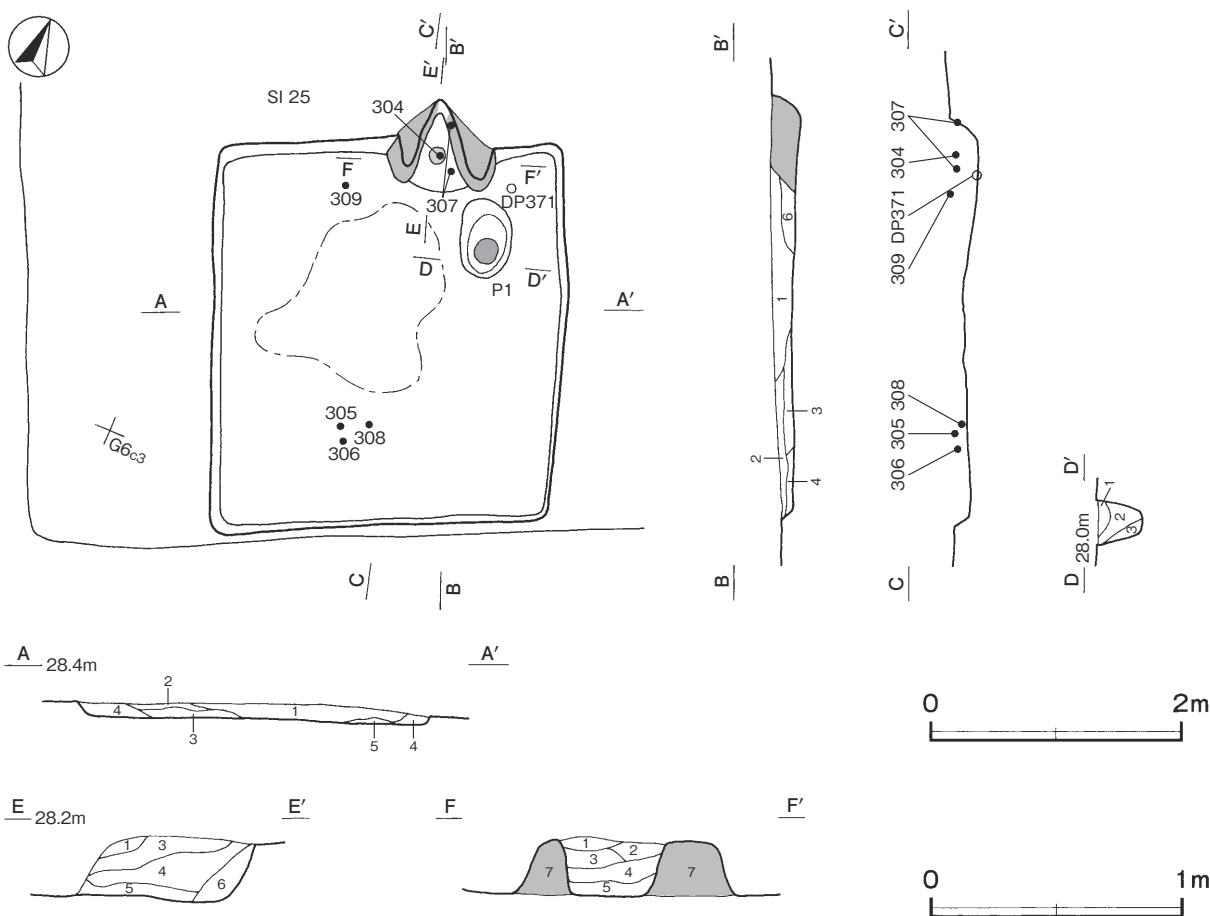
竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 粘土粒子多量, ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | |

ピット P 1は深さ 35cmで, 規模と配置から主柱穴である。第 1・2層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3層は埋土である。P 1の底面に, 柱のあたりを確認した。

ピット土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | |



第 246 図 第 26 号 竪穴建物跡実測図

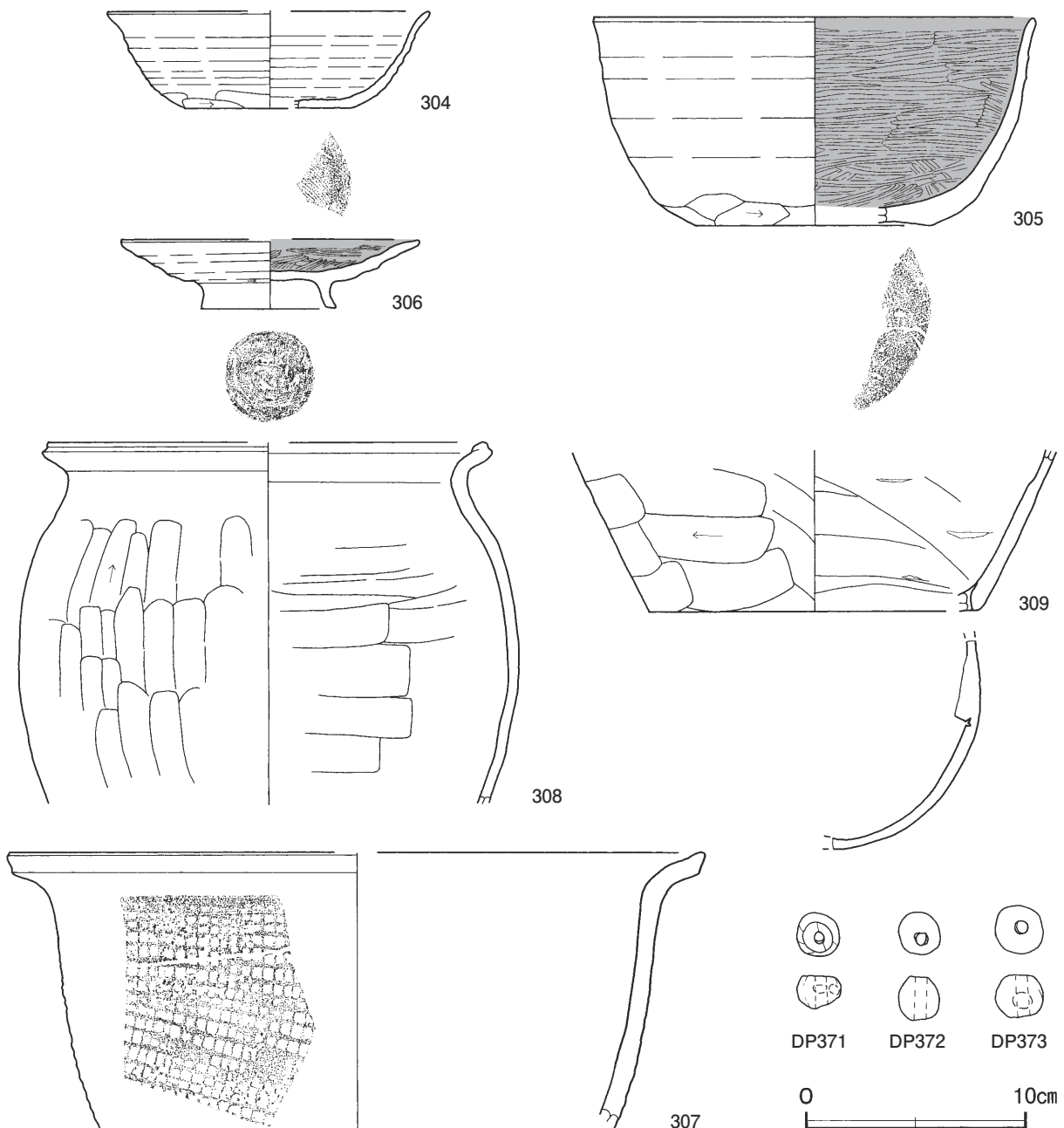
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 130点（坏30, 椀1, 高台付椀4, 皿1, 鉢2, 甕類89, 甑3）, 須恵器片 25点（坏5, 高台付坏1, 蓋1, 鉢1, 甕16, 甑1）, 土製品3点（土玉）のほか、縄文土器片8点（深鉢）, 剥片1点が、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。305・306は南部の覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀前葉に比定できる。



第247図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 247 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
304	土師器	坏	[14.6]	4.4	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り	竈覆土中層	20%
305	土師器	椀	20.0	9.5	[10.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	40%
306	土師器	皿	[13.3]	3.1	6.1	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中層	50%
307	須恵器	鉢	[31.6]	(12.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	不良	口縁部外・内面横ナデ 体部外面格子叩き 内面ヘラナデ	竈覆土中層	5% 新治窯
308	土師器	甕	[19.8]	(16.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
309	須恵器	甌	-	(7.3)	[15.0]	長石・石英・針状物質	灰白	普通	体部外面下位ヘラ削り 内面ヘラナデ 多孔式	覆土上層	5% 稲敷産

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP371	土玉	2.0	1.5	0.4~0.6	5.95	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 擦痕	床面	
DP372	土玉	1.9	2.1	0.6	6.75	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP373	土玉	2.2	1.9	0.5~0.6	9.29	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	

第 30 号竪穴建物跡 (第 248 図)

位置 調査D区南部のG5d4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.26m、短軸3.11mの方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁は高さ9~24cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、ロームブロックを主体とする第6~10層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子少量 | 7 にぶい褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | 9 明褐色 ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック中量 |

ピット 2か所。P1は深さ10cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2は深さ8cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

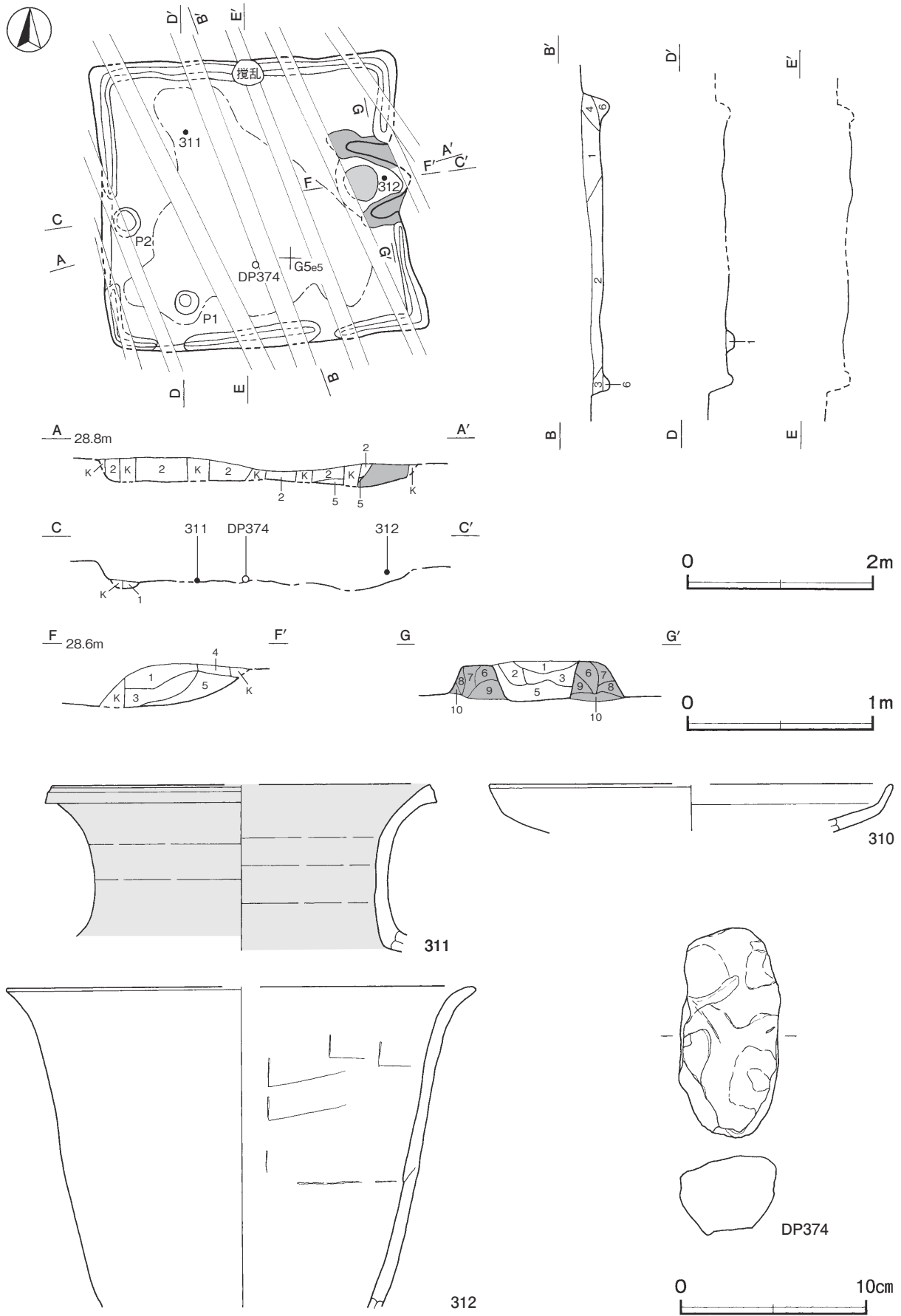
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片138点(坏11, 椀2, 高台付坏2, 鉢1, 甕類121, 甌1), 須恵器片26点(坏14, 盤1, 甕11), 灰釉陶器片1点(甕), 土製品2点(土玉, 支脚), 鉄滓1点のほか、縄文土器片2点(深鉢)が、全域の覆土中から出土している。311は北部の床面から出土していることから、廃絶時に廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第 248 图 第 30 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 30 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 248 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
310	須恵器	盤	[21.6]	(26)	-	長石・雲母	灰	普通	内面ヘラナデ	覆土中	5% 新治窯
311	灰釉陶器	甕	[20.4]	(9.0)	-	精緻	灰オリーブ	良好	外・内面施釉	床面	5% 井ヶ谷 78 窯式
312	土師器	甌	[25.2]	(17.2)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラナデ 輪積痕	竈覆土上層	10%

番号	器 種	高さ	最小径	最大径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP374	支脚	11.3	4.5	5.4	(231)	長石・石英	にぶい黄	欠損 外面摩滅 被熱痕	覆土下層	

第 32 号 竪穴建物跡 (第 249 ~ 252 図)

位置 調査D区南部のG 5 a5 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 33・36・53 号竪穴建物跡, 第 315 号土坑を掘り込み, 第 274・300 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.68 m, 短軸 5.51 m の方形で, 主軸方向は N - 23° - E である。壁は高さ 36 ~ 58cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む第 10 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。北部に不定形に広がる粘土範囲を確認した。

粘土範囲土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 褐 灰 色 粘土粒子中量 | 4 褐 灰 色 焼土粒子中量 |
| 2 灰 白 色 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 褐 色 ローム粒子微量 | |

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 197cm で, 燃焼部幅は 74cm である。袖部は地山をわずかに掘りくぼめ, その上に粘土粒子を主体とする第 11 ~ 16 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 11 ~ 19cm ほど掘り込み, ロームブロックを含む第 17 ~ 20 層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 62cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

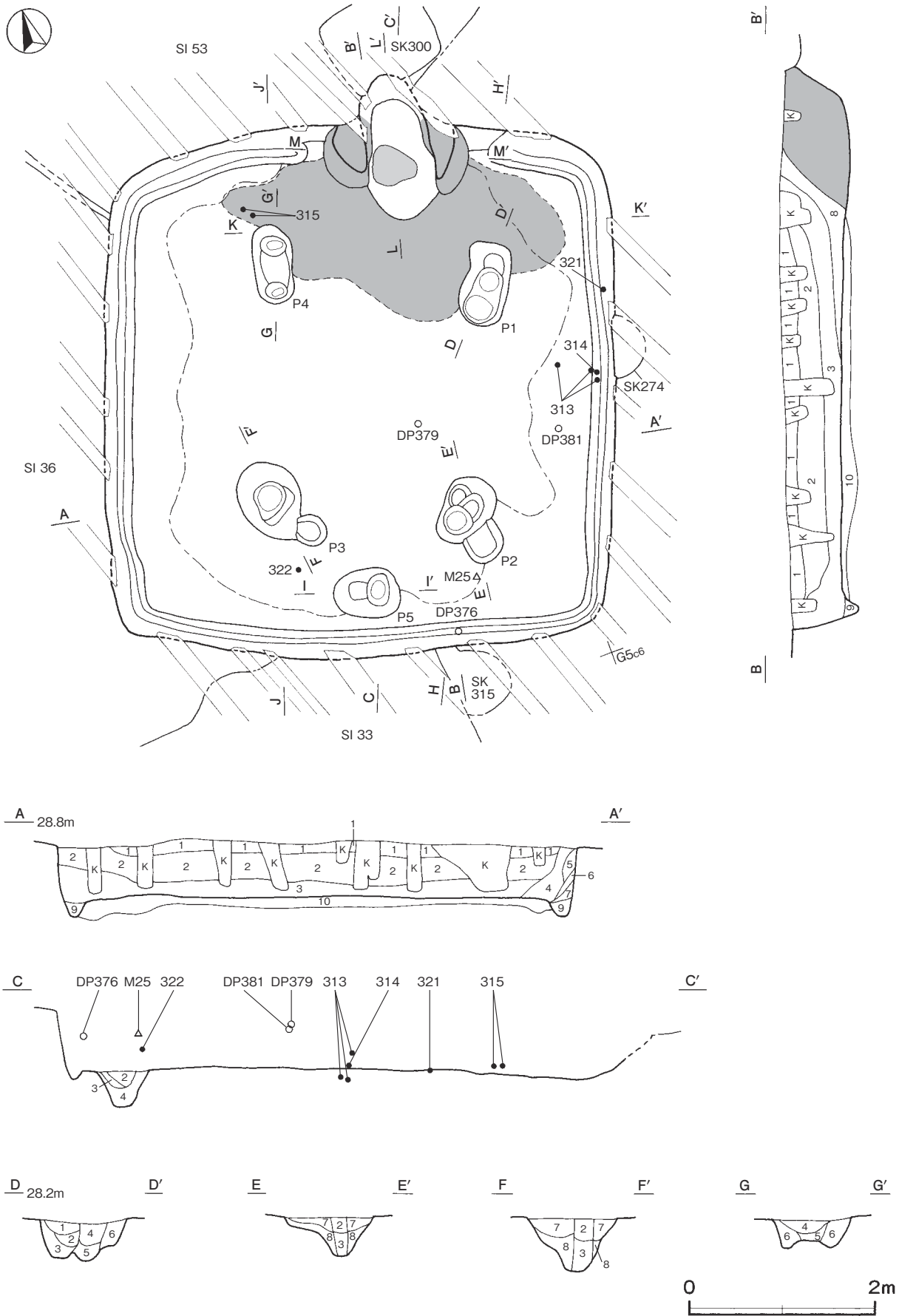
竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 にぶい褐色 焼土粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土粒子少量 | 13 浅黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量 | 14 浅黄褐色 粘土粒子多量 |
| 5 褐 色 粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 15 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 にぶい黄褐色 ローム粒子少量 | 17 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 にぶい黄褐色 焼土粒子少量 | 18 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 9 黄褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 19 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 10 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量 | 20 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

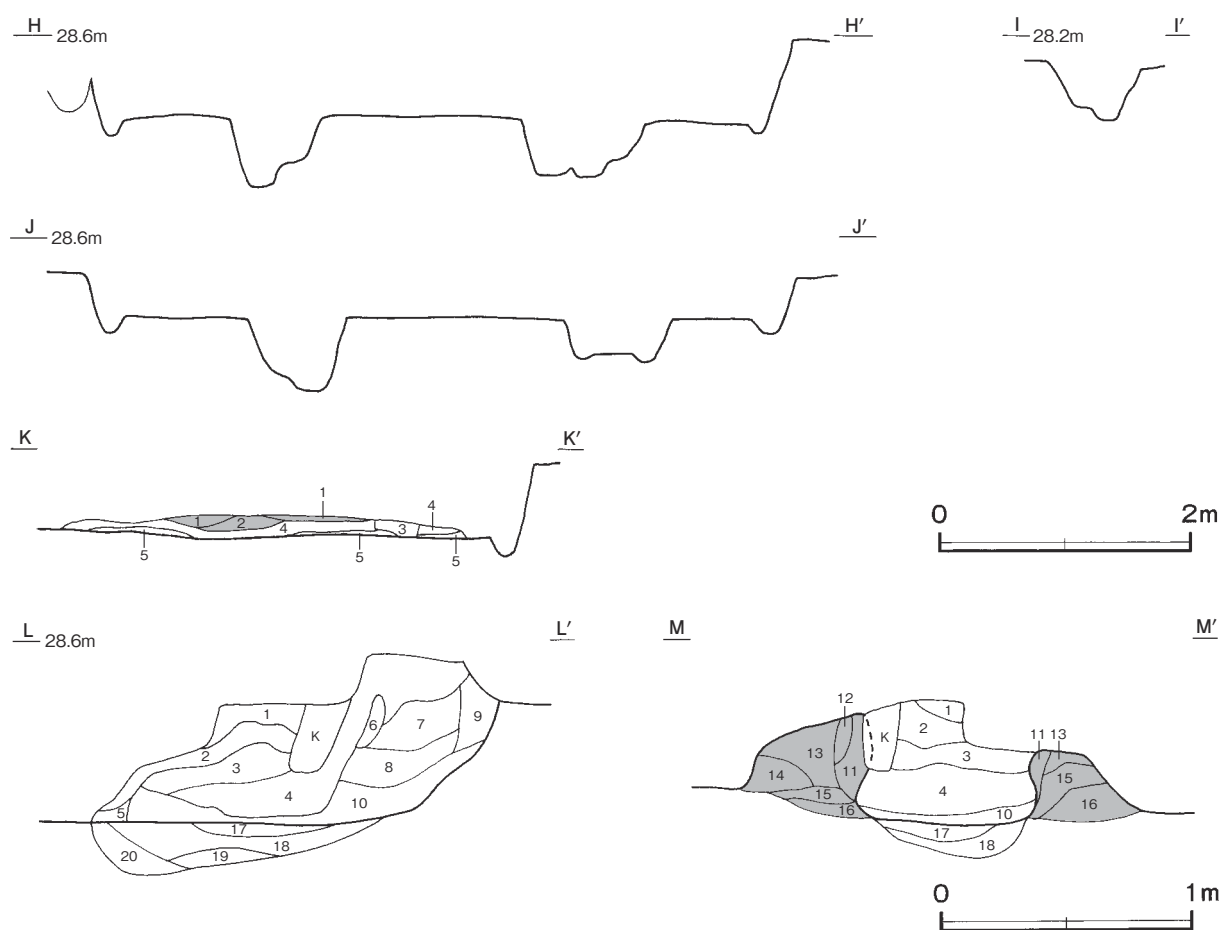
ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 33 ~ 60cm で, 配置から支柱穴である。第 1 ~ 6 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 7・8 層は埋土である。P 1・P 4 では柱の立て替えが確認できた。P 5 は深さ 40cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 褐 灰 色 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 | 5 明褐色 ロームブロック微量 |
| 2 褐 色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 明褐色 ロームブロック中量 |
| 4 褐 色 ロームブロック中量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量 |



第 249 图 第 32 号竖穴建物跡実测图 (1)



第 250 図 第 32 号竪穴建物跡実測図 (2)

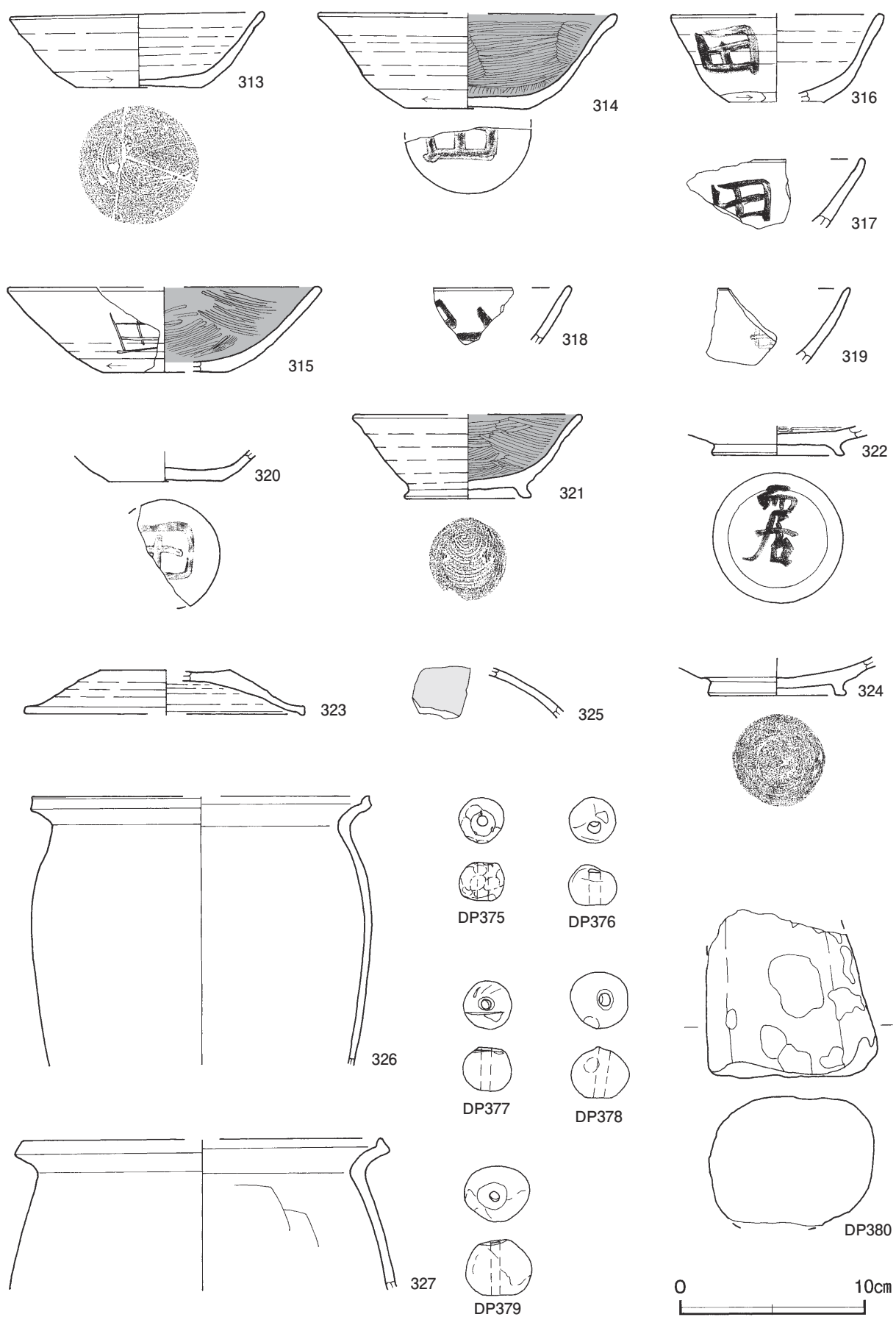
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

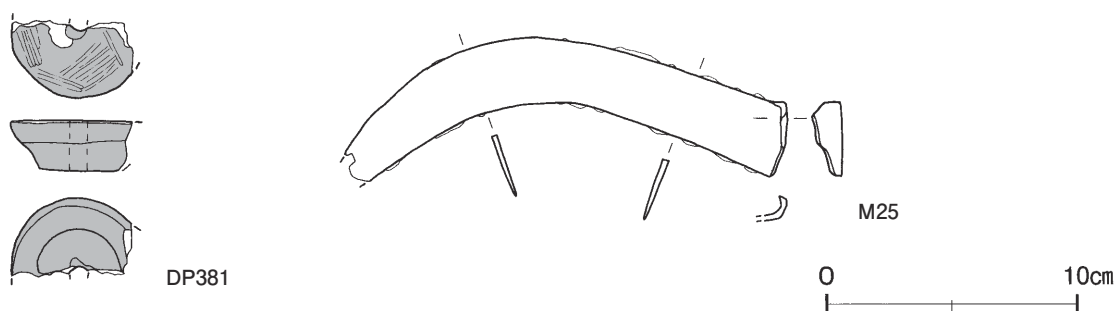
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 1,278 点 (坏類 425, 椀 9, 高台付椀 29, 蓋 3, 皿 9, 鉢 6, 甕類 794, 甑 3), 須恵器片 142 点 (坏 40, 高台付坏 4, 蓋 9, 盤 1, 長頸瓶 2, 甕類 85, 甑 1), 灰釉陶器片 1 点 (瓶), 土製品 7 点 (土玉 5, 支脚 1, 紡錘車 1), 金属製品 2 点 (鎌, 釘), 鉄滓 3 点のほか, 縄文土器片 19 点 (深鉢), 土師器片 9 点 (高坏 5, 手捏土器 4), 石製品 2 点 (白玉) が, 東部の覆土中層から床面を中心に出土している。314・321 は壁溝の覆土中からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。313 は東部の覆土中層と壁溝から出土した破片が接合していることから, 埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9世紀後葉に比定できる。北西部に広がっていた粘土は, 竈の左袖部と北壁の構築材が崩れたものと考えられる。



第 251 图 第 32 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 252 図 第 32 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 32 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 251・252 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
313	土師器	坏	13.7	5.1	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り	壁溝覆土中～覆土中層	65%
314	土師器	坏	[16.0]	5.1	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部墨書「田」	壁溝覆土中	45% PL78
315	土師器	坏	[16.8]	4.5	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面刻書「田」	覆土下層	30% PL78
316	土師器	坏	[11.2]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 体部外面墨書「田」	覆土中	15% PL78
317	土師器	坏	-	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「田」	壁溝覆土中	10% PL78
318	土師器	坏	-	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 体部外面墨書「□」	壁溝覆土中	5% PL78
319	土師器	坏	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「田」	覆土中	10% PL78
320	土師器	坏	-	(1.6)	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り 体部外面墨書「田」	覆土中	20% PL78
321	土師器	高台付碗	[12.1]	4.5	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	壁溝覆土中	50%
322	土師器	高台付碗	-	(1.5)	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 底部墨書「西居」	覆土中層	20% PL78
323	須恵器	蓋	[15.0]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
324	土師器	皿	-	(2.0)	7.2	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	貼床構築土	40%
325	灰釉陶器	瓶	-	(2.8)	-	精緻	にぶい黄褐	緻密	外面施釉	覆土中	5% 産地不明
326	土師器	甕	[18.1]	(14.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面摩滅 内面ヘラナデ	覆土中	20%
327	土師器	甕	[19.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP375	土玉	2.5	2.0	0.6	(11.4)	長石・石英	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
DP376	土玉	2.5	2.2	0.7	(12.8)	長石・石英	にぶい褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土上層	
DP377	土玉	2.6	2.3	0.5	(13.7)	長石・石英	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土中	
DP378	土玉	3.1	2.7	0.6	25.9	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 片方の端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	
DP379	土玉	3.5	3.0	0.5	27.9	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	
DP381	紡錘車	(4.8)	2.0	(0.7)	(26.4)	長石・石英	褐灰	欠損 ヘラ磨き 穿孔痕有り	覆土上層	煤付着

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP380	支脚	(9.1)	8.2	9.0	(457)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	欠損 外面摩滅	覆土中	

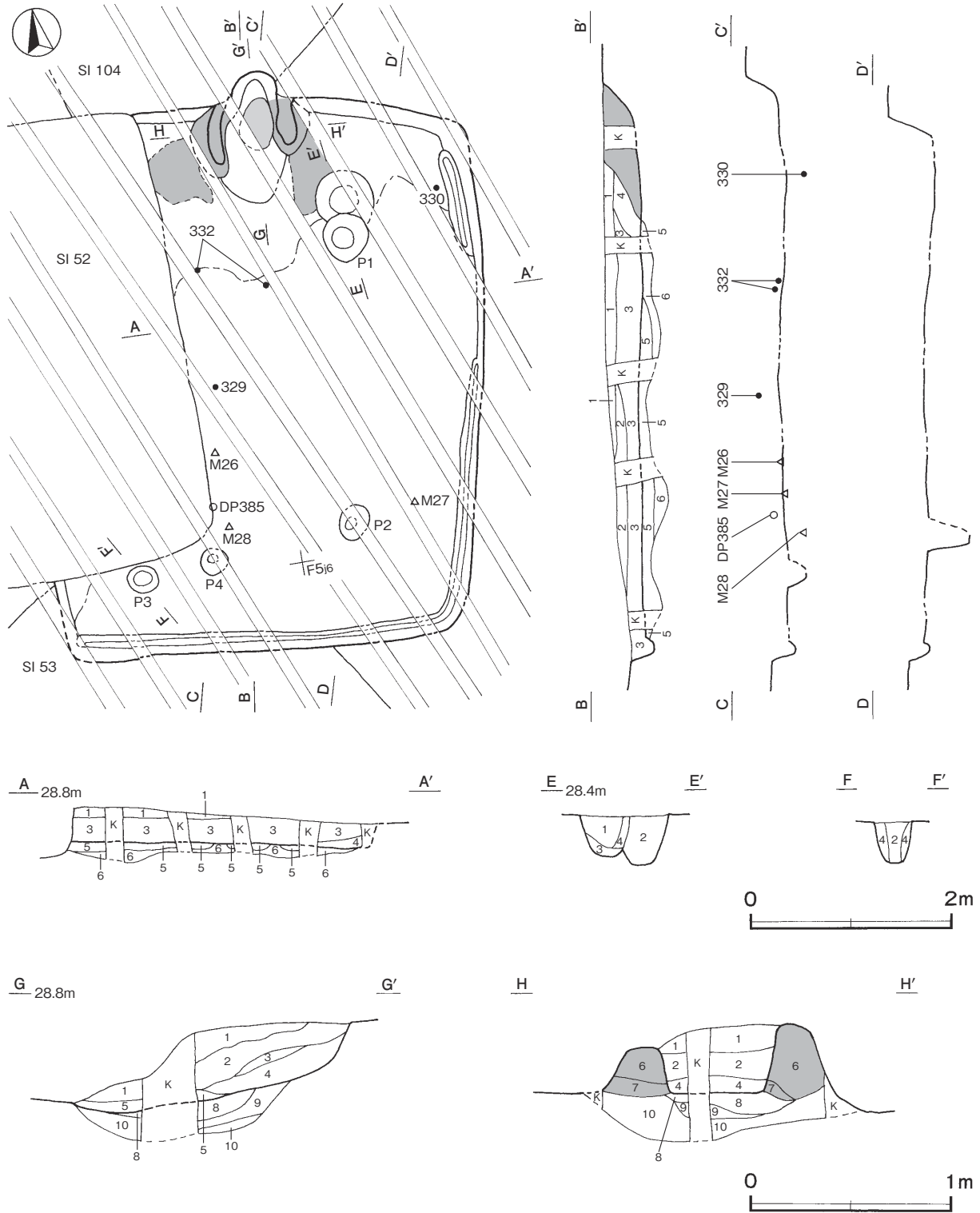
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 25	鎌	(17.6)	2.8	0.2	(59.6)	鉄	切先部一部欠損	覆土上層	PL98

第 34 号 竪穴建物跡 (第 253 ~ 255 図)

位置 調査D区中央部の F 5 i6 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 53・104 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 52 号 竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.38 m, 短軸 4.17 m の長方形で, 主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 16cm で, ほぼ直立している。



第 253 図 第 34 号 竪穴建物跡実測図

床 ほぼ平坦な貼床で、北壁際を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第5・6層を埋土して構築されている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。竈の両袖部前面に、袖構築材と考えられる粘土塊を確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃烧部幅は55cmである。袖部は、床面から11～20cm掘りくぼめた部分に第8～10層を埋土して、粘土粒子を主体とする第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は第8層上面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック中量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 5 赤褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |

ピット 4か所。P1～P3は深さ40～57cmで、配置から支柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第4層は埋土である。P1では柱の立て替えが確認できた。P4は深さ18cmで、南壁際の中央部やや西寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

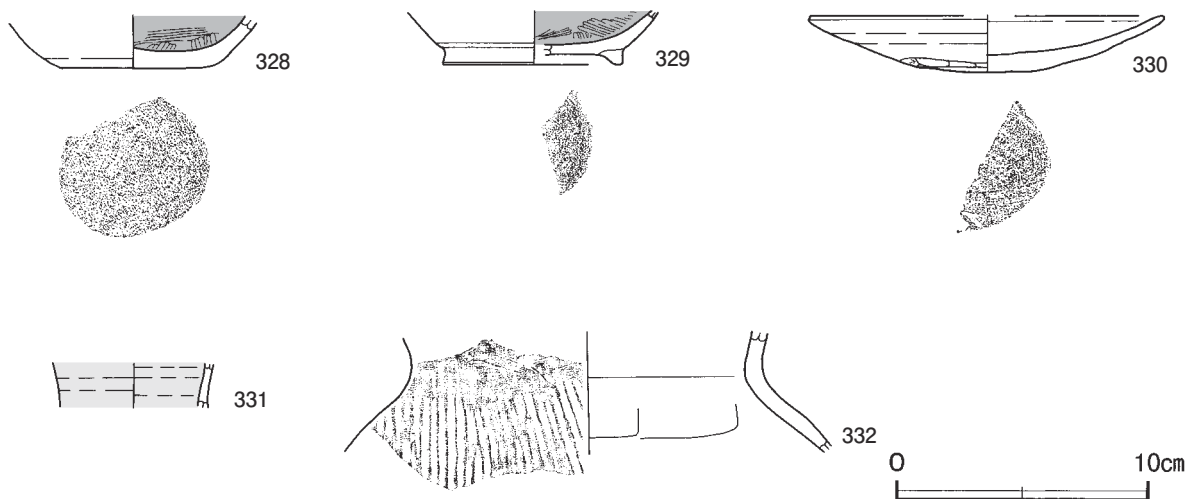
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5・6層は貼床の構築土である。

土層解説

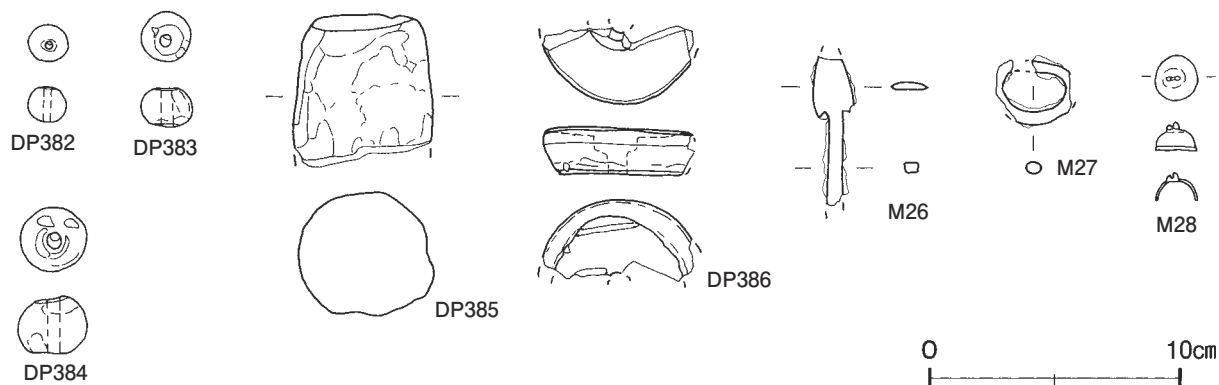
- | | | | |
|-------|------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片724点(坏類244, 椀13, 高台付椀14, 皿9, 鉢2, 甕類437, 甑5), 須恵器片43点(坏14, 蓋1, 甕類27, 甑1), 灰釉陶器片4点(長頸瓶), 土製品7点(土玉4, 支脚2, 紡錘車1), 金属製品3点(鏃, 耳環, 小鈴), 鉄滓4点のほか、縄文土器片2点(深鉢)が、全域の覆土中層から床面にかけて出土している。M26・M27は床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第254図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 255 図 第 34 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 34 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 254・255 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	土師器	坏	-	(2.1)	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	竈覆土中	20%
329	土師器	高台付椀	-	(2.1)	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	10%
330	土師器	皿	[14.0]	2.2	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	貼床構築土	20%
331	灰釉陶器	長頸瓶	-	(1.8)	-	精緻	灰白	緻密	外・内面施釉	覆土中	5% 黒笹 14 窯式
332	須恵器	甕	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	10% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP382	土玉	1.6	1.4	0.3	3.05	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP383	土玉	2.0	1.6	0.4~0.5	(6.18)	長石・石英	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	
DP384	土玉	2.7	2.3	0.5~0.6	(14.5)	長石・石英	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	貼床構築土	
DP386	紡錘車	(6.0)	1.4	-	(31.6)	長石・石英・雲母	にぶい橙	欠損 外面摩滅	覆土中	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP385	支脚	(6.1)	4.7	5.5	(152)	長石・石英	橙	基部欠損 外面摩滅 被熱痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 26	鎌	(5.9)	1.7	0.4	(9.00)	鉄	鎌身先端部一部欠損 茎部欠損 断面長方形	床面	
M 27	耳環	(2.5)	(2.9)	0.5	(7.51)	鉄	一部欠損 開口部有り 断面円形	床面	
M 28	小鈴	16~17	(1.1)	0.04	(0.94)	銅	欠損	貼床構築土	

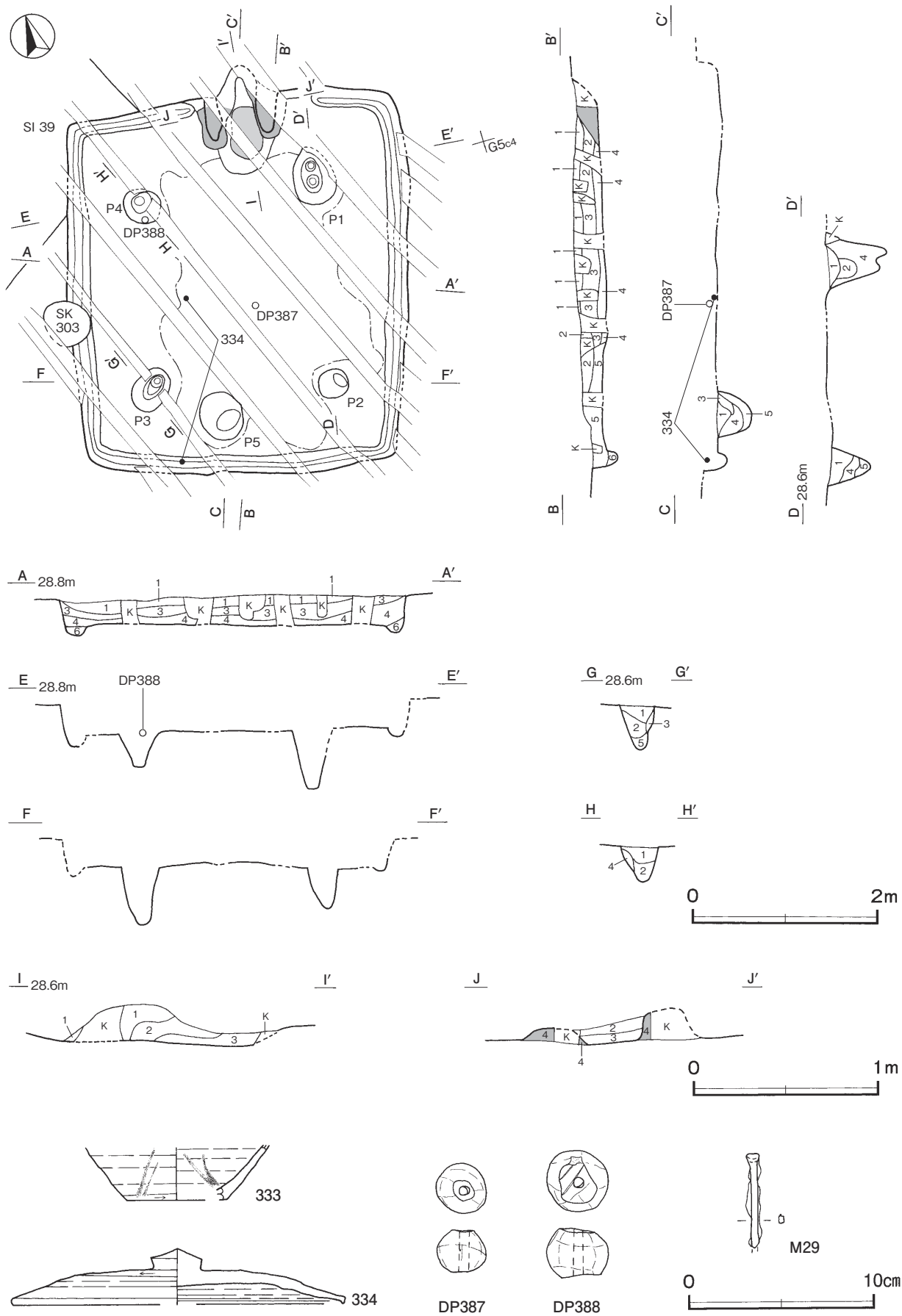
第 35 号 竪穴建物跡 (第 256 図)

位置 調査D区南部のG 5 c3 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 39 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 303 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.16 m, 短軸 3.69 m の長方形で, 主軸方向は N - 16° - E である。壁は高さ 10 ~ 33cm で, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。



第 256 図 第 35 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 118cm で、燃焼部幅は 41cm である。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を主体とする第 4 層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 30cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 灰黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |

ピット 5 か所。P 1～P 4 は深さ 18～63cm で、規模と配置から主柱穴である。第 1～5 層は柱抜き取り後の堆積土である。P 5 は深さ 33cm で、南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック多量 | |

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 337 点 (坏 35, 椀 2, 高台付椀 3, 甕類 297), 須恵器片 48 点 (坏 41, 高台付坏 1, 蓋 3, 甕 3), 土製品 5 点 (土玉 3, 支脚 2), 金属製品 1 点 (釘), 鉄滓 1 点のほか、縄文土器片 4 点 (深鉢), 土師器片 2 点 (手捏土器) が、全域の覆土中から出土している。出土した土器の大半は小破片で、埋め戻す際に混入したものと考えられる。334 は覆土中層と床面から出土した破片が接合していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9 世紀中葉に比定できる。

第 35 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 256 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
333	須恵器	坏	-	(3.0)	[5.4]	長石・石英・針状物質	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 火摺有	覆土中	5% 稲敷産
334	須恵器	蓋	-	3.0	[17.8]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 覆土中層	80% 新治産

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP387	土玉	2.8	2.3	0.5	17.9	長石・石英・雲母	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土下層	
DP388	土玉	3.4	2.7	0.5	32.2	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	P 4 覆土上層	

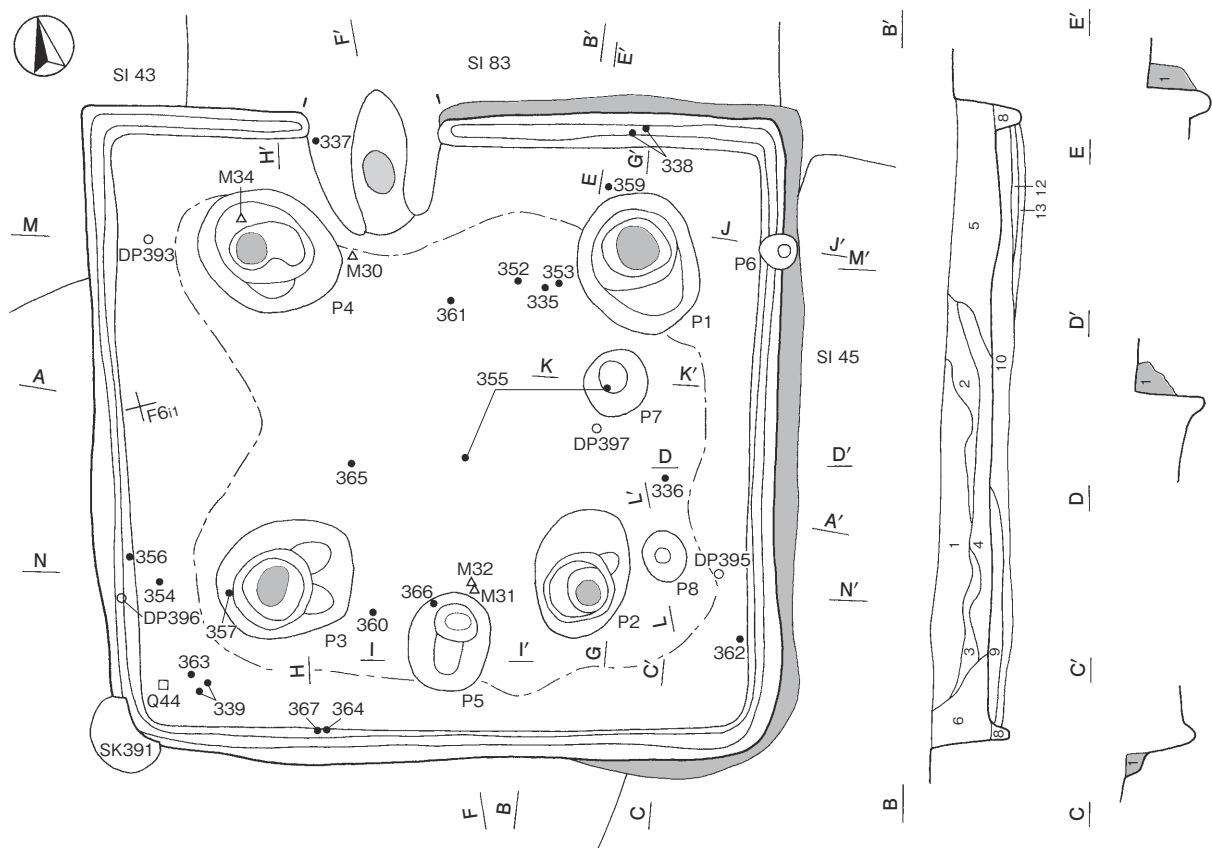
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 29	釘	(5.1)	0.8	0.4	(4.18)	鉄	先端部欠損 断面方形	覆土中	

第 44 号 竪穴建物跡 (第 257～262 図)

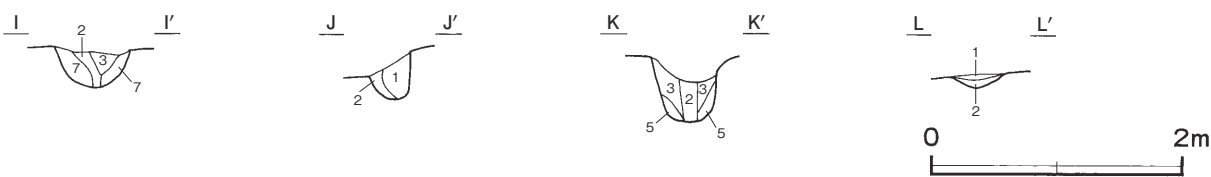
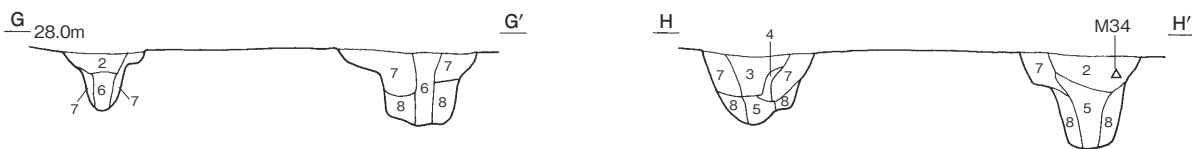
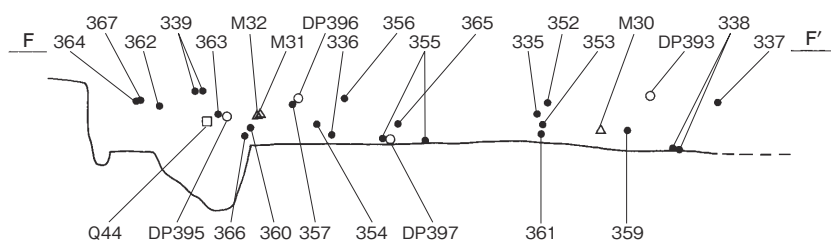
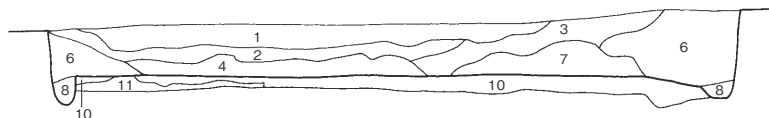
位置 調査 D 区中央部の F 6h1 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 43・45・83 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 391 号 土坑に掘り込まれている。

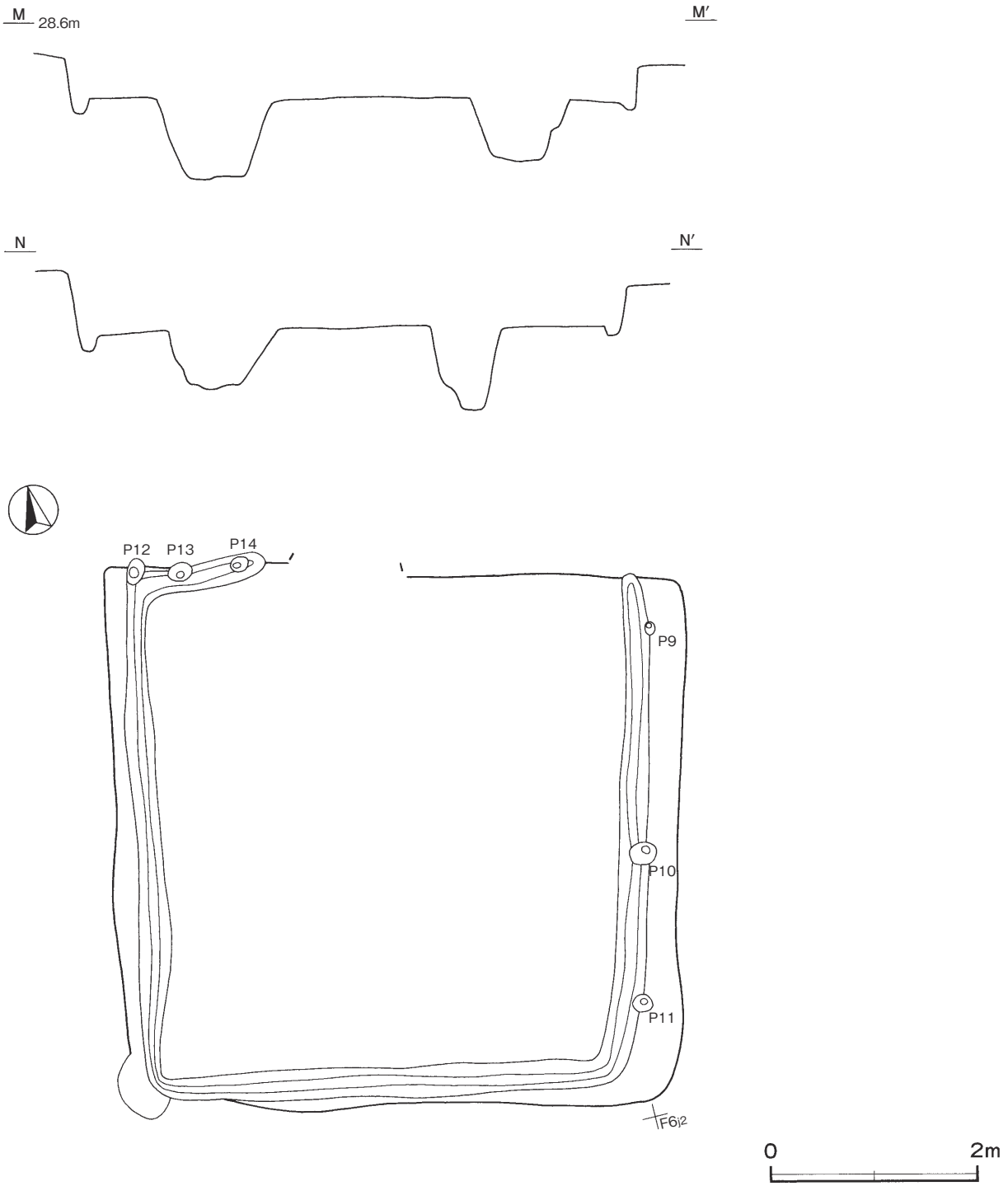
規模と形状 長軸 5.42 m、短軸 5.10 m の方形で、主軸方向は N - 12° - E である。壁は高さ 32～62cm で、直立している。北壁東部から南壁東部にかけて、厚さ 10～19cm の粘土壁を確認した。



A 28.6m A'



第 257 图 第 44 号竖穴建物跡实测图 (1)



第 258 図 第 44 号竪穴建物跡実測図 (2)

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子を含む第 9～13 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。掘方調査で、東部に最終使用面の 30cm 内側に巡る壁溝を確認した。

粘土壁土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量

竈 遺存状況が悪く、火床面の広がりや袖部の基部の痕跡から北壁西寄りに付設されていたと推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 14か所。P1～P4は深さ62～80cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～6層は柱抜き取り後の堆積土、第7・8層は埋土である。P5は深さ54cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、配置から壁柱穴と考えられる。P7・P8は深さ33cm・11cmで、配置から補助柱穴と考えられる。掘方で確認した壁溝の底部から、壁柱穴と考えられるP9～P14を確認した。P1～P4の底面から、柱のあたりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |

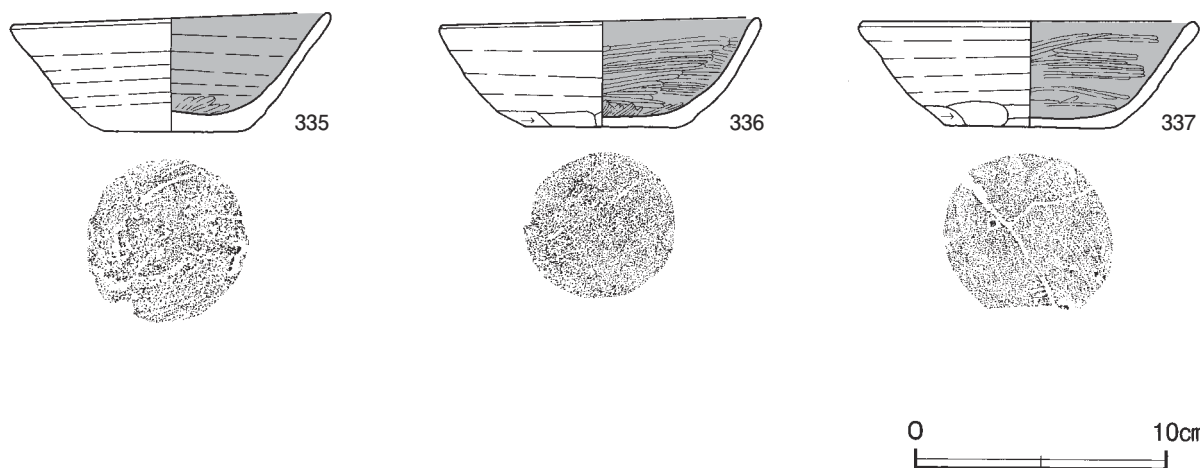
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。第9～13層は貼床の構築土である。

土層解説

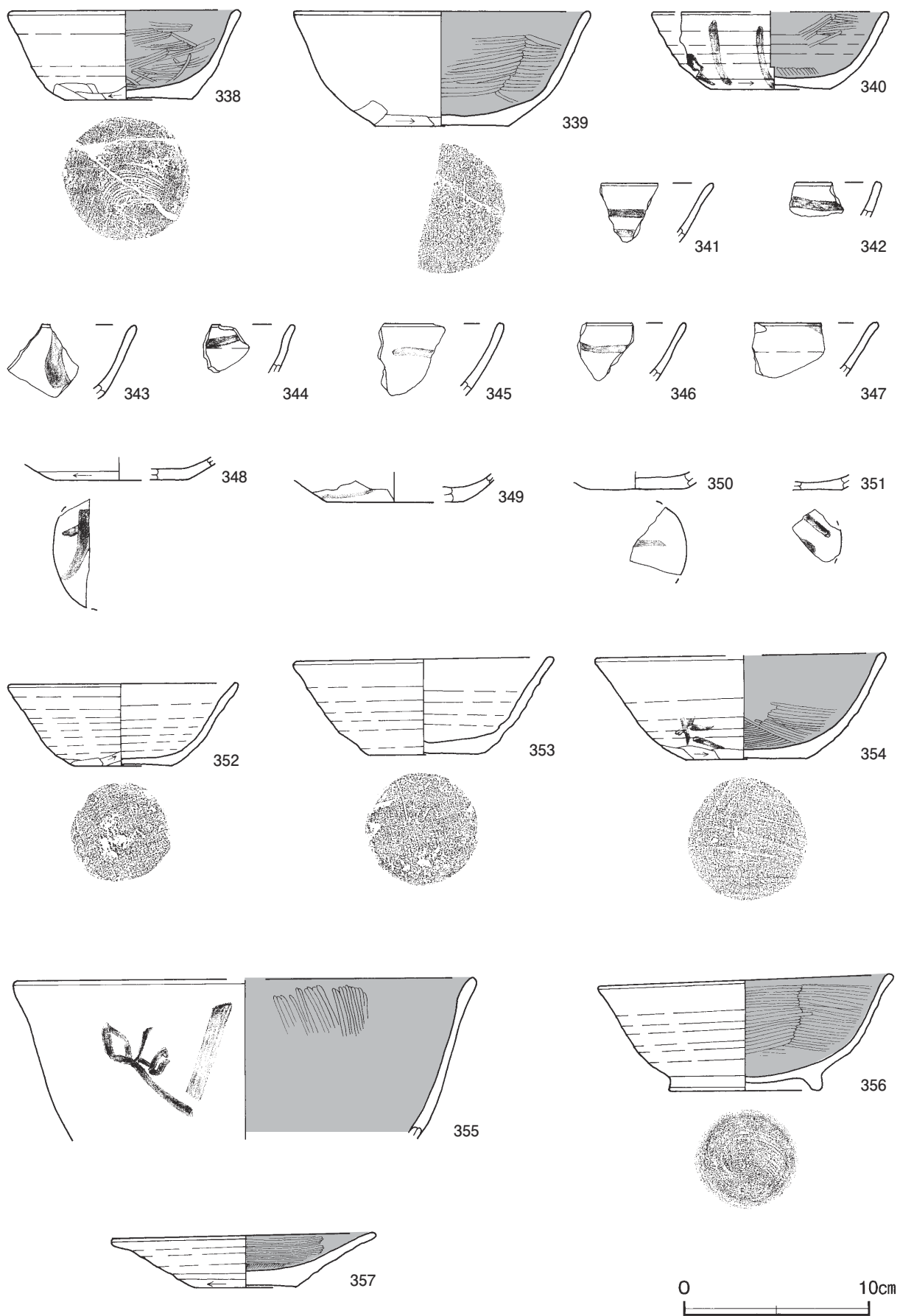
- | | | | |
|--------|------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 3,631点 (坏類 1,435, 椀 24, 高台付椀 42, 蓋 5, 皿 42, 鉢 7, 甕類 2,047, 甌 29), 須恵器片 417点 (坏類 85, 蓋 19, 盤 1, 鉢 1, 甕類 297, 甌 14), 灰釉陶器片 5点 (長頸瓶 2, 瓶類 3), 土製品 14点 (土玉 8, 管状土錘 3, 支脚 2, 羽口 1), 石器 3点 (砥石), 金属製品 9点 (刀子 3, 鎌 1, 釘 3, 引手金具 1, 不明 1), 鉄滓 4点のほか、縄文土器片 34点 (深鉢), 土師器片 6点 (高坏), 石製品 2点 (白玉, 有孔円板) が、北東部と南東部の覆土中層から下層を中心に出土している。出土した土器は小破片が多く、埋め戻す際に混入したものと考えられる。338は壁溝覆土中, DP397は床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

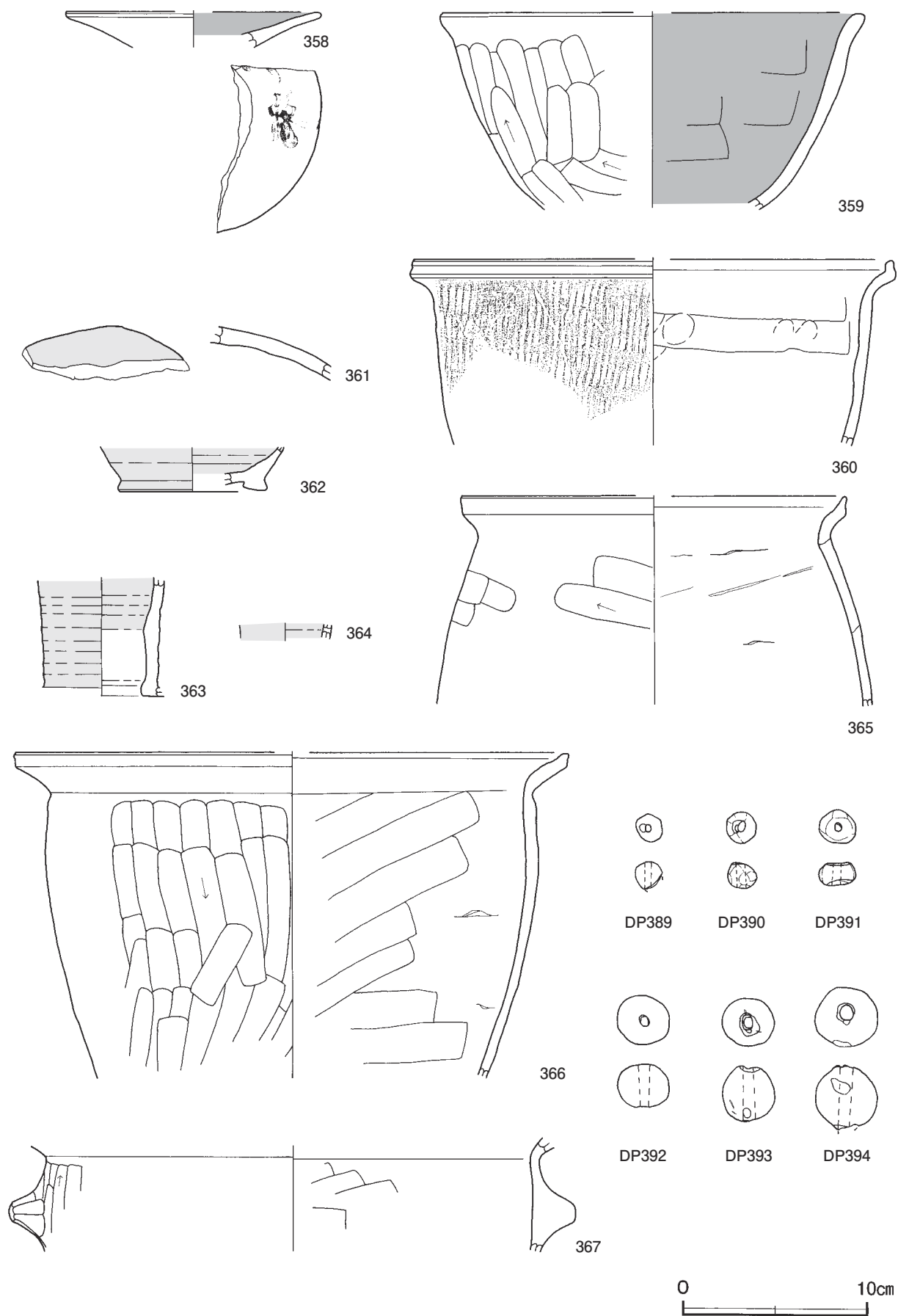
所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。東部に拡張が行われた建物跡で、北壁東部から南壁東部まで壁の補強材として粘土が使用されている。



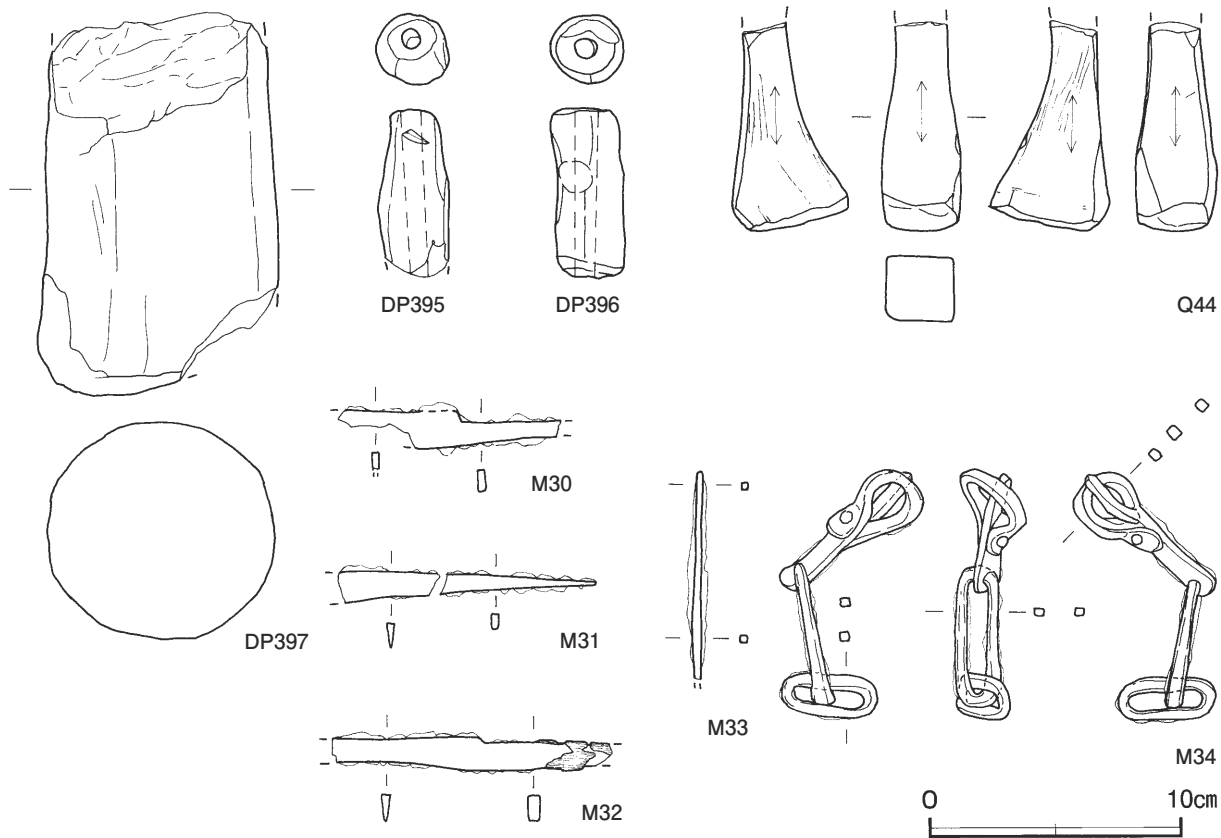
第 259 図 第 44 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 260 图 第 44 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 261 図 第 44 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 262 図 第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 259 ~ 262 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
335	土師器	坏	12.6	4.8	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面へら磨き 底部へら削り後ナデ	覆土中層	100% PL66
336	土師器	坏	12.5	4.4	6.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方向のへら削り	覆土下層	90% PL66
337	土師器	坏	13.2	4.3	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転糸切り	覆土上層	80% PL66
338	土師器	坏	12.2	4.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転糸切り後二方向のへら削り	壁溝覆土中	80%
339	土師器	坏	15.7	6.2	7.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方向のへら削り	覆土上層	60%
340	土師器	坏	[12.6]	4.1	[6.4]	長石・雲母	明赤褐	普通	体部下端回転へら削り 内面へら磨き 体部外面墨書「居二」	覆土中	30% PL78
341	土師器	坏	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL78
342	土師器	坏	-	(1.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「-」	覆土中	5% PL78
343	土師器	坏	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL78
344	土師器	坏	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「-」	覆土中	5% PL78
345	土師器	坏	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へら磨き 体部外面墨書「-」	覆土中	5% PL78
346	土師器	坏	-	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面墨書「-」	覆土中	5% PL79
347	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「□」	貼床構築土	5% PL79
348	土師器	坏	-	(1.2)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り 底部墨書「大」	覆土中	5% PL79
349	土師器	坏	-	(1.5)	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「-」	覆土中	5% PL79
350	土師器	坏	-	(0.9)	[5.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部墨書「一」	覆土中	5% PL79
351	土師器	坏	-	(0.8)	(2.6)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部一方向のへら削り 底部墨書「□」	覆土中	5% PL79
352	須恵器	坏	12.1	4.4	5.2	長石・石英・針状物質	暗灰黄	普通	体部下端手持ちへら削り 底部多方向のへら削り	覆土上層	100% 稲敷産。PL66
353	須恵器	坏	13.8	5.2	5.8	長石・石英・針状物質・赤色粒子	明黄褐	普通	底部一方向のへら削り	覆土下層	98% 稲敷産。PL66
354	土師器	椀	[15.4]	5.6	6.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部二方向のへら削り 体部外面墨書「□」	覆土中層	80% PL66
355	土師器	椀	[24.5]	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面へら磨き 体部外面墨書「居一」	床面	10% PL79

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
356	土師器	高台付碗	15.7	6.2	8.0	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	98% PL66
357	土師器	皿	14.0	2.8	5.4	長石・石英・赤色粒子	浅黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中層	90% PL67
358	土師器	皿	[13.6]	(1.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 体部外面墨書「□家」	覆土中	10% PL79
359	土師器	鉢	[22.8]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
360	須恵器	鉢	[25.8]	(10.0)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	覆土下層	10% 稲敷産
361	灰釉陶器	瓶	-	(2.9)	-	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉	覆土下層	5% 黒笹 90 窯式
362	灰釉陶器	瓶	-	(2.4)	[7.8]	精緻	灰オリーブ	緻密	外・内面施釉	覆土上層	5% 黒笹 90 窯式
363	灰釉陶器	長頸瓶	-	(6.4)	-	精緻	暗灰黄	緻密	外・内面施釉	覆土中層	5% 井ヶ谷 78 窯式
364	灰釉陶器	長頸瓶	-	(0.9)	-	精緻	灰黄	緻密	外・内面施釉	覆土上層	5% 黒笹 90 窯式
365	土師器	甕	[20.6]	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層	10%
366	土師器	甌	[29.8]	(17.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
367	土師器	甌	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 把手貼付 内面ヘラナデ	覆土上層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP389	土玉	1.5	(1.5)	0.4	(2.32)	長石・石英・雲母	にぶい橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP390	土玉	1.8	1.4	0.5	3.17	長石・石英・雲母	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP391	土玉	2.0	1.3	0.4~0.5	4.88	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP392	土玉	2.8	2.4	0.5~0.6	17.3	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP393	土玉	2.9	3.0	0.6	20.5	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	
DP394	土玉	3.4	(3.5)	0.6~0.7	(32.6)	長石・石英・雲母	明赤褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP395	管状土錘	(2.8)	(6.7)	0.8	(44.4)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL90
DP396	管状土錘	2.6	6.9	0.7~0.9	(54.4)	長石・石英・雲母	橙	端部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土上層	PL90

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP397	支脚	(15.3)	8.0	9.2	(1,098)	長石・石英	にぶい橙	欠損 外面摩滅 被熱痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 44	砥石	(8.3)	3.2	2.6	(138)	凝灰岩	端部欠損 砥面 4面	覆土中層	PL95

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 30	刀子	(8.9)	1.5	0.4	(17.3)	鉄	刃部・茎部欠損 茎部断面長方形	覆土下層	
M 31	刀子	(10.3)	1.3	0.3	(10.6)	鉄	刃部欠損 断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	
M 32	刀子	(11.1)	1.4	0.3	(23.4)	鉄	刃部欠損 断面三角形 茎部欠損 断面長方形 木質付着	覆土中層	
M 33	鎌	(8.2)	0.3	0.3	(8.56)	鉄	端部欠損 断面方形	覆土中	
M 34	引手金具	(10.0)	-	0.3~0.5	(47.6)	鉄	二連の鎖で一端に鉸具が付く 弓金具固定式 刺金可動式	P 4 覆土中	PL99

第 49 号 竪穴建物跡 (第 263・264 図)

位置 調査D区中央部のF 6 e3 区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 48 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 400・424・425・434 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.67 m、短軸 3.66 m の方形で、主軸方向は N - 8° - E である。壁は高さ 7 ~ 15cm で、ほぼ直立している。

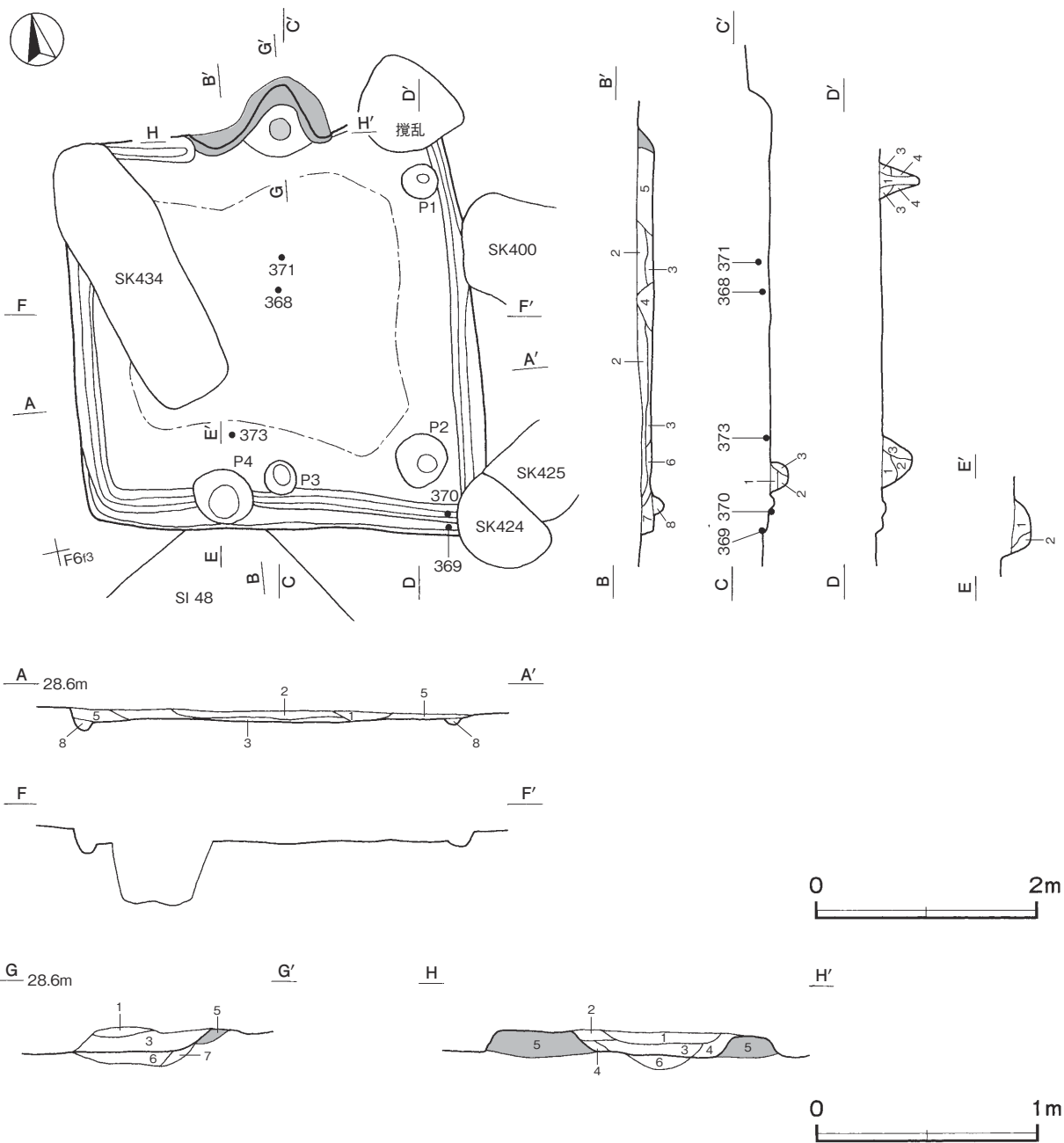
床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを主体とする第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cmほど掘り込み、焼土ブロックを含む第6・7層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 粘土粒子微量 | |

ピット 4か所。P1・P2は深さ34cm・26cmで、配置から主柱穴である。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土、第3・4層は埋土である。P3は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ15cmで、配置から壁柱穴と考えられる。



第263図 第49号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

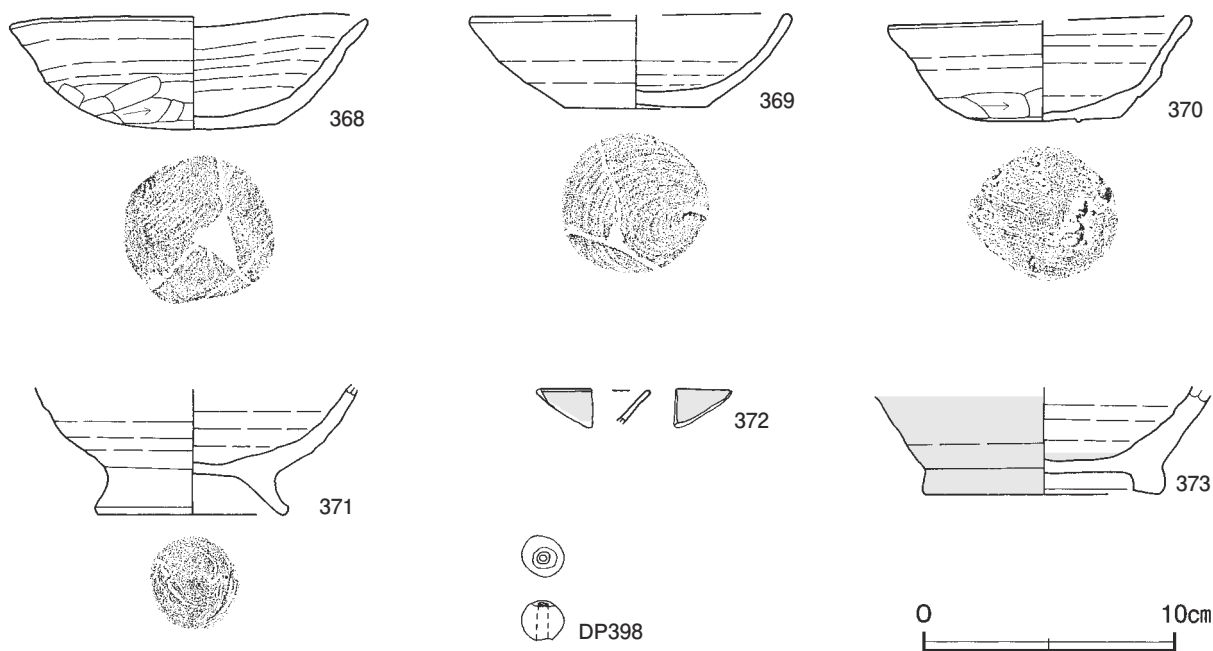
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 131点 (坏類 68, 高台付碗 5, 甕類 58), 須恵器片 17点 (坏 7, 蓋 1, 甕 6, 甗 3), 灰釉陶器片 2点 (皿, 長頸瓶), 土製品 2点 (土玉) のほか, 縄文土器片 4点 (深鉢) が, 南部の覆土中層から下層を中心に出土している。369は床面, 370は壁溝覆土中からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10世紀中葉に比定できる。



第 264 図 第 49 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 264 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
368	土師器	坏	14.0	4.6	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り 刻書有り	覆土下層	90% PL67
369	土師器	坏	[12.5]	3.8	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ 底部回転糸切り	床面	70%
370	土師器	坏	[11.8]	4.3	6.0	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	壁溝覆土中	50%
371	土師器	高台付碗	-	(5.1)	7.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	70%
372	灰釉陶器	皿	-	(1.5)	-	精緻	灰白	良好	外・内面施釉	覆土中	5% 二川窯
373	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.2)	9.4	精緻	灰白	良好	外面施釉	覆土下層	20% 二川窯
DP398	土玉		1.7	1.5	0.4	3.29	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第 50 号 竪穴建物跡 (第 265 ~ 267 図)

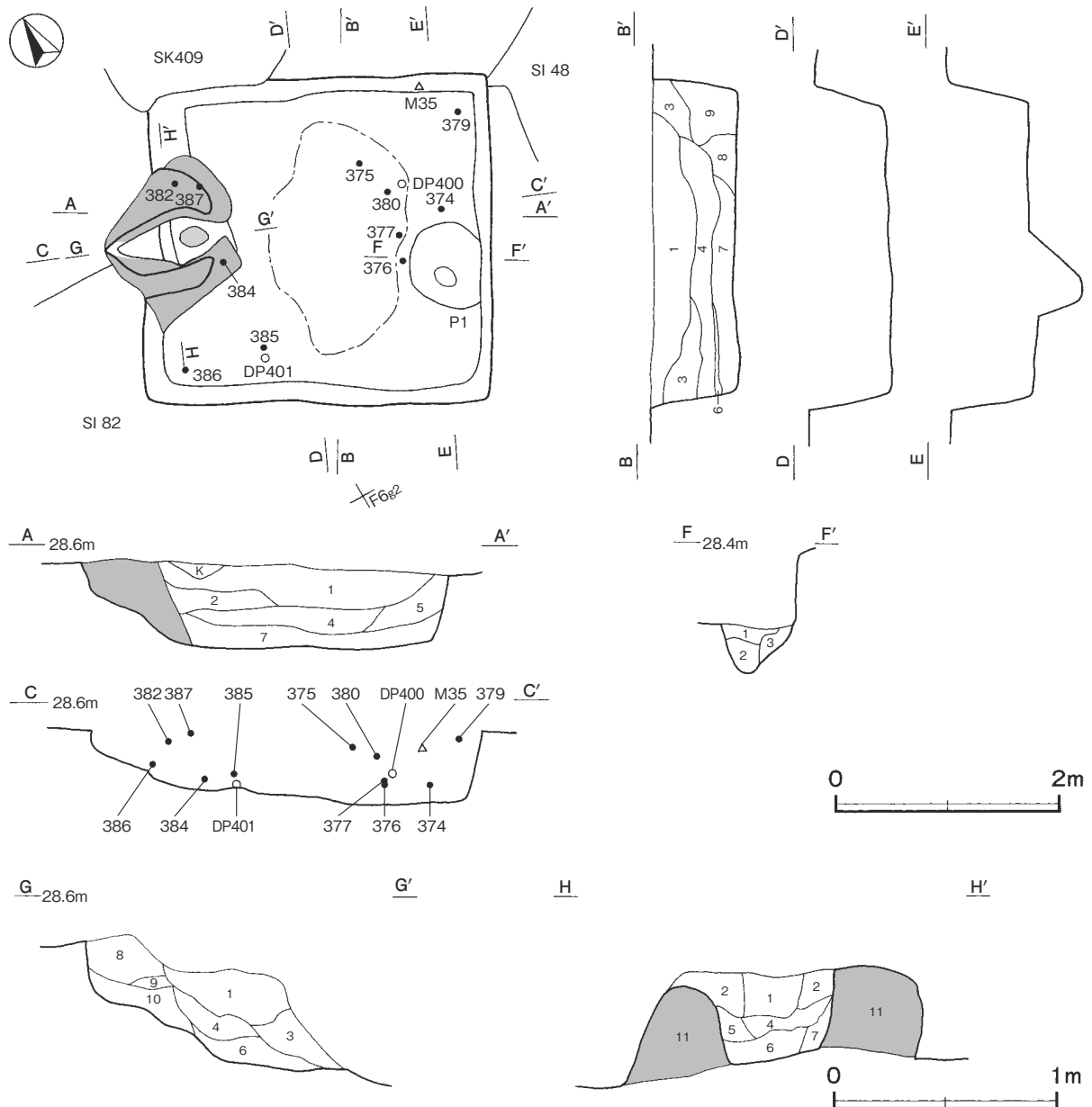
位置 調査D区中央部のF 6 f2区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 48・82号竪穴建物跡を掘り込み, 第 409号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.10 m, 短軸 2.97 mの方形で, 主軸方向はN - 62° - Wである。壁は高さ 62 ~ 75cmで, 直立している。

床 竈前面が若干高いが, ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 115cmで, 燃焼部幅は 40cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし, その上に砂質粘土ブロックを主体とする第 11層を積み上げて構築されている。382・384・387は袖構築土からそれぞれ出土しており, 芯材として使用されたものと考えられる。火床部は床面より若干高い箇所を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm掘り込まれ, 火床部から階段状に立ち上がっている。第 2層は天井部の崩落土層である。



第 265 図 第 50 号 竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-----------|----------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 灰黄褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 10 におい黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 11 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

ピット P1は深さ46cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

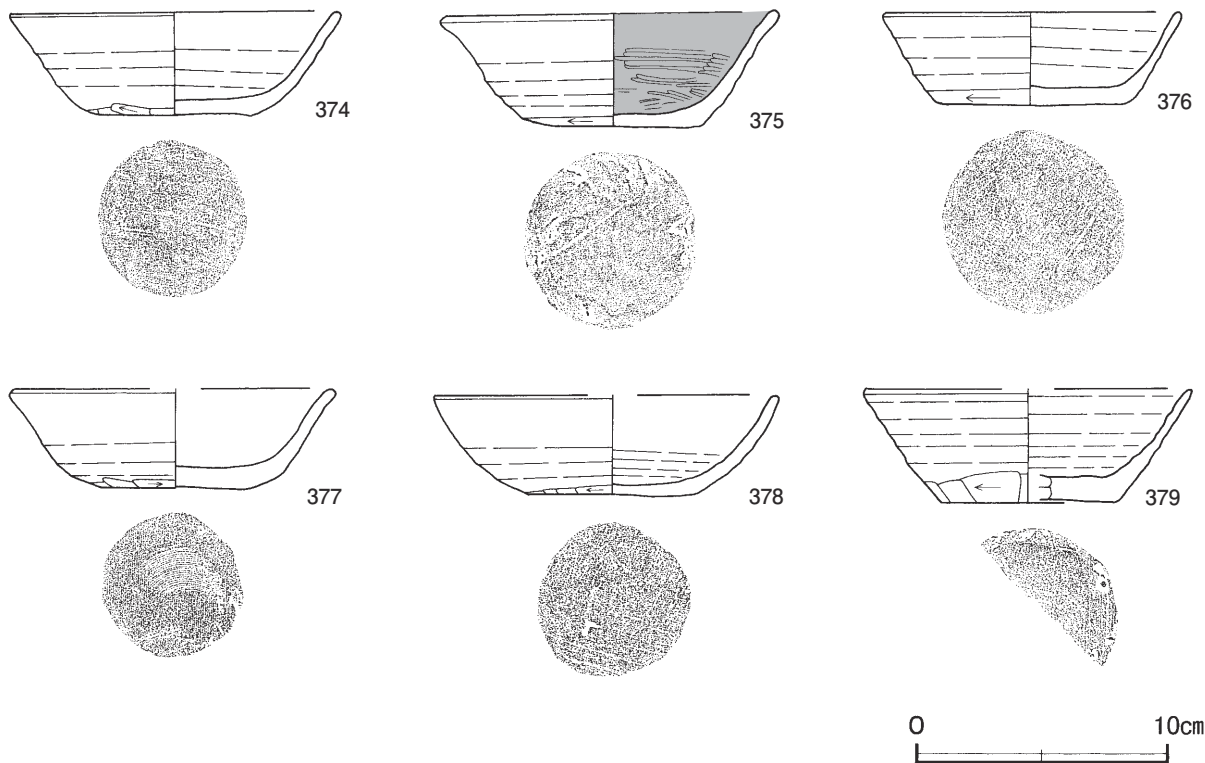
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。

土層解説

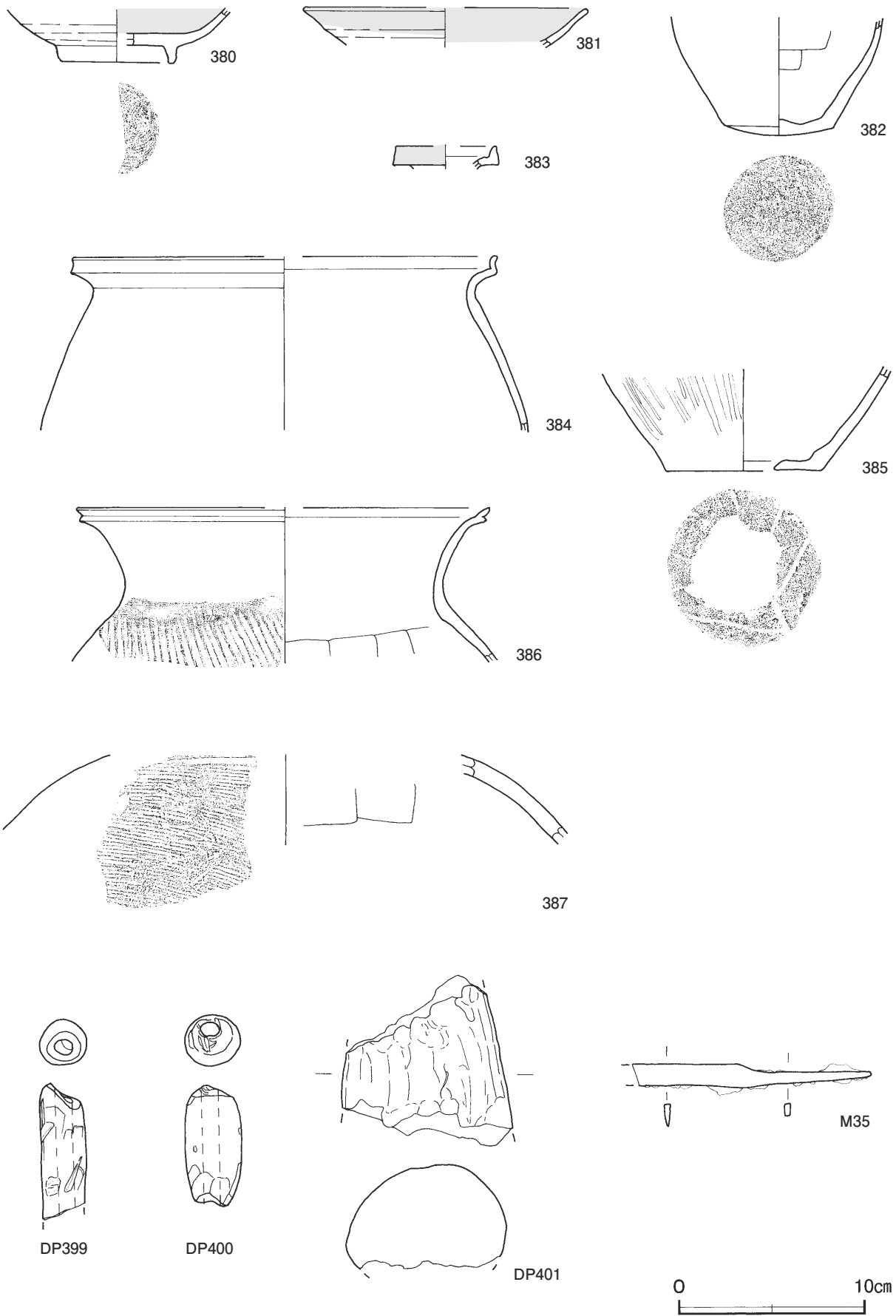
- | | | | |
|----------|------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 9 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 802点（坏類 207, 高台付碗 3, 蓋 1, 鉢 1, 壺 1, 甕類 583, 甌 6）, 須恵器片 270点（坏 52, 高台付坏 6, 蓋 27, 鉢 1, 瓶類 3, 甕類 128, 甌 53）, 灰釉陶器 4点（碗 1, 皿 2, 長頸瓶 1）, 土製品 6点（土玉 1, 管状土錘 2, 支脚 3）, 金属製品 1点（刀子）のほか、縄文土器片 8点（深鉢）が、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。374・376は完存率が高く、覆土下層からそれぞれ出土していることから、埋め戻す過程で廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第 266 図 第 50 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 267 图 第 50 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

第 50 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 266・267 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
374	土師器	坏	13.0	4.1	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	95% PL67
375	土師器	坏	13.0	4.7	6.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部二方向のヘラ削り 底部刻書有り	覆土上層	90% PL67
376	土師器	坏	11.6	3.7	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	80%
377	土師器	坏	[12.5]	4.0	5.8	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部回転糸切り	覆土下層	80%
378	土師器	坏	[13.7]	4.0	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部二方向のヘラ削り	覆土中	65%
379	須恵器	坏	[12.8]	4.5	[7.0]	長石・石英・針状物質	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土上層	40% 稲敷産 ₂
380	灰釉陶器	椀	-	(3.0)	6.0	精緻	灰黄	緻密	内面施釉 底部回転糸切り	覆土中層	70% 折戸 53 窯式
381	灰釉陶器	皿	[15.0]	(2.1)	-	精緻	灰白	緻密	外・内面施釉	覆土中	10% 折戸 53 窯式
382	土師器	壺	-	(6.3)	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	竈袖構築土	10%
383	灰釉陶器	長頸瓶	[5.4]	(1.2)	-	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉	覆土中	5% 折戸 53 窯式
384	土師器	甕	[22.6]	(9.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面摩滅	竈袖構築土	10%
385	土師器	甕	-	(5.5)	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部穿孔	覆土下層	10%
386	須恵器	甕	[22.0]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	5% 新治窯
387	須恵器	甕	-	(4.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ記号	竈袖構築土	5% 稲敷産 ₂

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP399	管状土錘	2.5	(7.3)	0.8~1.0	(37.2)	長石・石英・雲母	橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 外面摩滅	覆土中	PL90
DP400	管状土錘	3.1	6.6	0.9~1.0	(49.1)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL90

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP401	支脚	(9.2)	8.2	9.1	(385)	長石・石英	にぶい黄橙	欠損 外面摩滅 被熱痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 35	刀子	(12.9)	1.3	0.3	(14.9)	鉄	刃部一部欠損 断面三角形 茎部断面長方形	覆土上層	

第 51 号 竪穴建物跡 (第 268 図)

位置 調査D区中央部の F 5j6 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 53 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 300 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.25 m, 短軸 2.57 m の長方形で, 主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 7 cm で, 外傾している。

床 やや凹凸があり, 顕著な硬化面は確認できなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため, 確認できた規模は焚口部から煙道部までが 88 cm で, 燃焼部幅は 25 cm ほどと推定できる。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, ロームブロックを主体とする第 5 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に 49 cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。第 4 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 赤 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

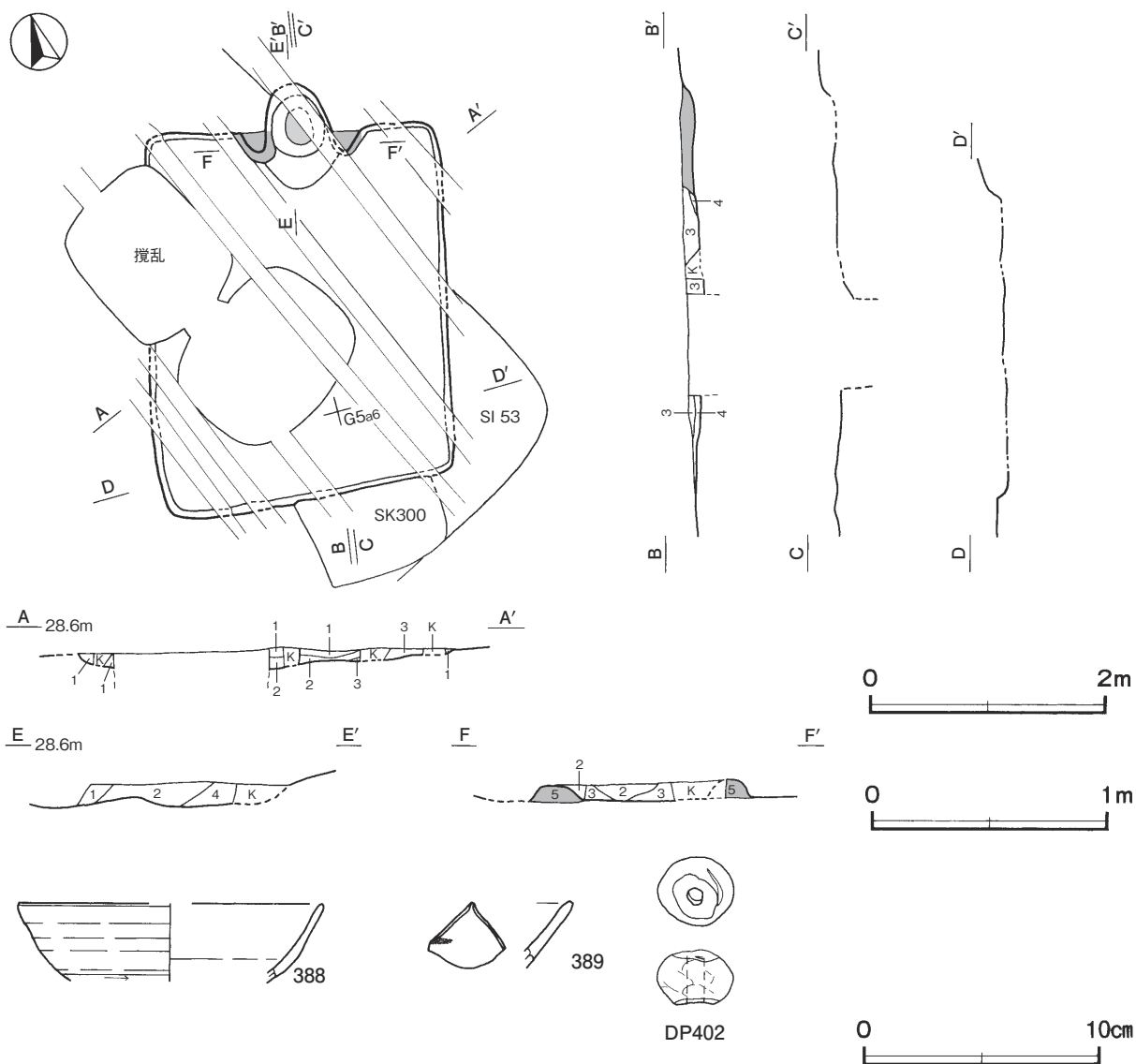
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 明褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 241 点（坏類 89，高台付碗 5，甕類 146，甌 1），須恵器片 13 点（坏 3，甕 10），灰釉陶器片 1 点（瓶），土製品 1 点（土玉）が，覆土中の広い範囲から出土している。388 は竈の覆土中から出土しており，破片であることから，廃絶時に投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，10 世紀前葉に比定できる。



第 268 図 第 51 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 51 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 268 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
388	土師器	坏	[12.8]	(3.3)	-	長石・石英・針状物質	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	竈覆土中	5%
389	土師器	坏	-	(2.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き 体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL79
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP402	土玉	3.2	(2.3)	0.7	(20.1)	長石・石英・雲母	にぶい橙	端部欠損 ナデ	一方向からの穿孔	覆土中	

第 52 号竪穴建物跡 (第 269 ~ 271 図)

位置 調査D区中央部の F 5 i5 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34・68 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.48 m, 短軸 4.13 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 37cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。北壁と東壁の一部を除き, 壁下には壁溝が巡っている。

竈 2 か所。竈 1 は西壁中央部のやや北寄り, 竈 2 は北壁中央部に付設されている。竈 1 は左袖部の一部と支脚 (DP406) のみを確認した。竈 1 の規模は, 焚口部から煙道部までが 97cm と推定でき, 燃焼部幅は 40cm である。袖部は, 地山をやや掘りくぼめた部分を利用して構築されている。火床面は赤変・硬化ともに弱い。燃焼部および煙道部は壁外に 97cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。竈 2 の規模は, 焚口部から煙道部までが 88 cm で, 燃焼部幅は 39cm である。袖部は, 床面から 4 ~ 11cm 掘りくぼめた部分に第 10 層を埋土して, その上に粘土粒子を主体とする第 8・9 層を積み上げて構築されている。火床部は第 10 層上面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 27cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。第 1 層は天井部の崩落土層である。竈 1 の前面に壁溝が掘り込まれていることから, 竈 1 から竈 2 へ作り替えられている。

竈 1 土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・山砂少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・山砂少量 |

竈 2 土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|--------|---------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 5 か所。P 1・P 2 は深さ 30cm・28cm で, 配置から支柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3・4 層は埋土である。P 3 は深さ 15cm で, 南壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4・P 5 は深さ 68cm・25cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|--------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

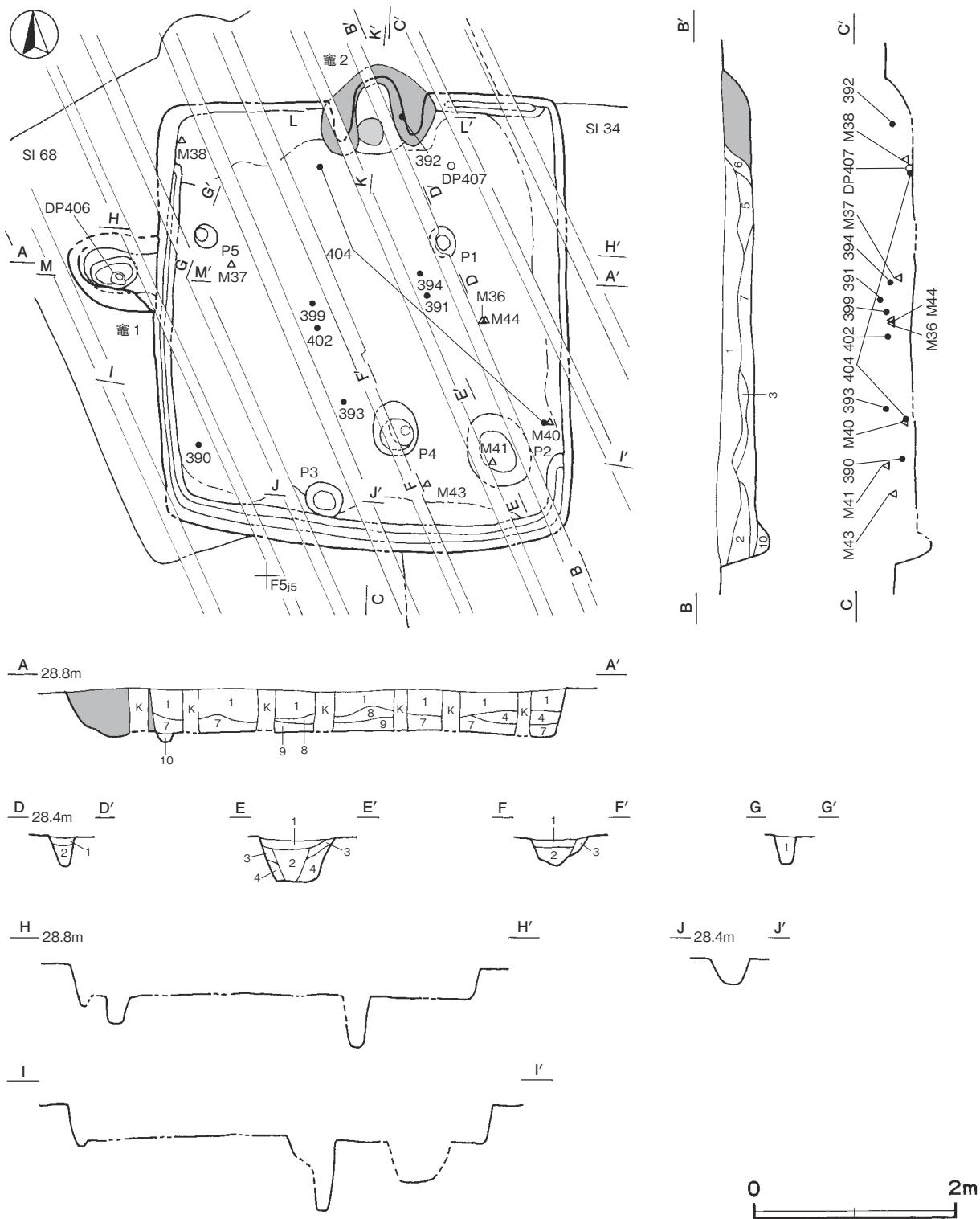
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量 | 7 明褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

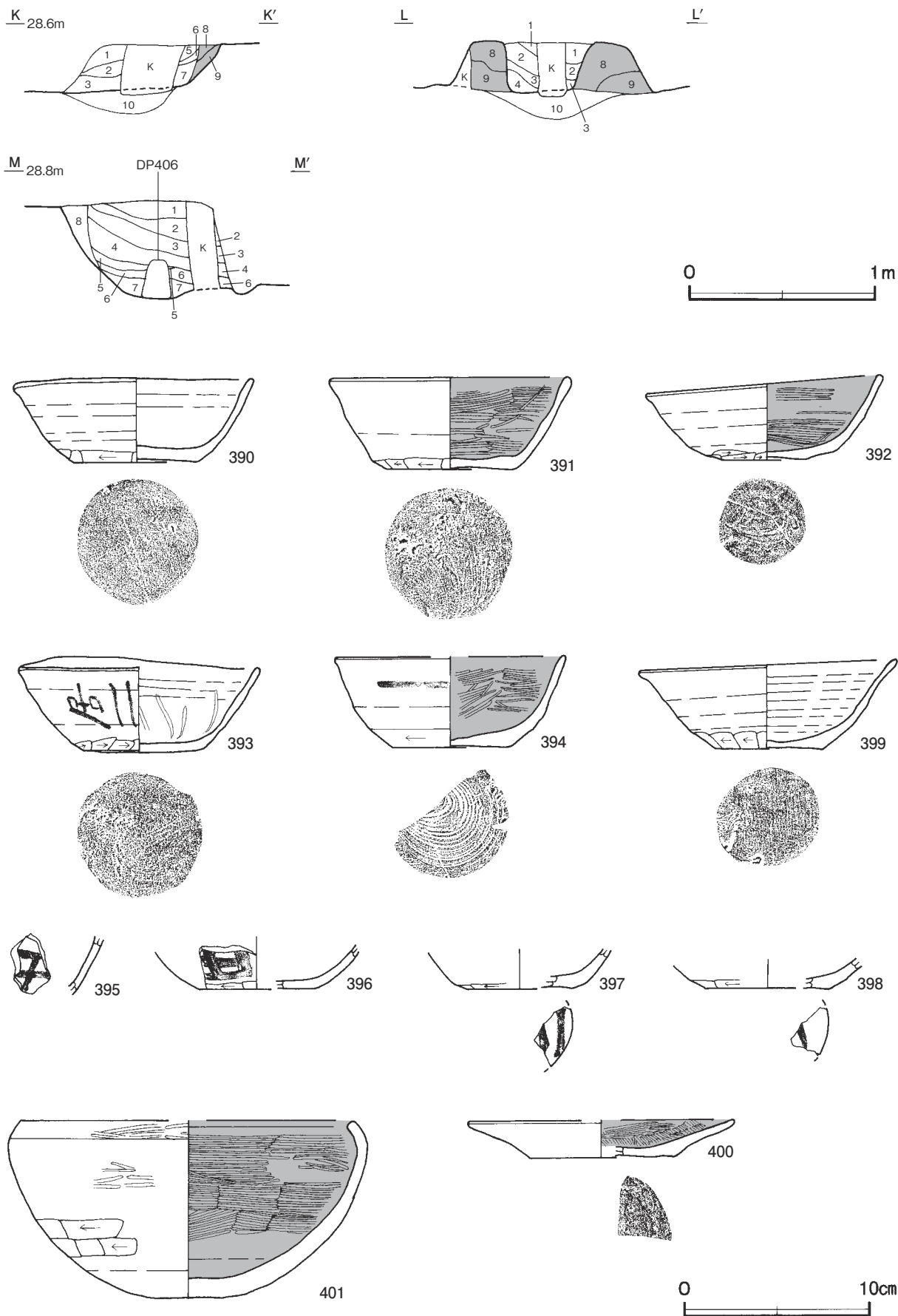
遺物出土状況 土師器片 1,906 点 (坏類 889, 椀 6, 高台付椀 27, 蓋 1, 皿 13, 甕類 955, 甌 14, 仏鉢形土器 1), 須恵器片 179 点 (坏 44, 蓋 1, 鉢 3, 甕類 126, 甌 5), 灰釉陶器片 2 点 (瓶), 土製品 12 点 (土玉 7, 支脚 2, 紡錘車 2, 羽口 1), 金属製品 12 点 (刀子 1, 鋏 3, 釘 1, 門 1, 不明 6), 鉄滓 6 点のほか, 縄文土器片 2 点 (深鉢), 土師器片 1 点 (手捏土器), 石製品 1 点 (白玉) が, 覆土中の広い範囲から出土している。404 は,

北部の床面と南東部の覆土下層から出土した破片が接合していることから、廃絶時に投棄されたものとみられる。DP407・M38は床面から、390・M37・M40は覆土下層からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

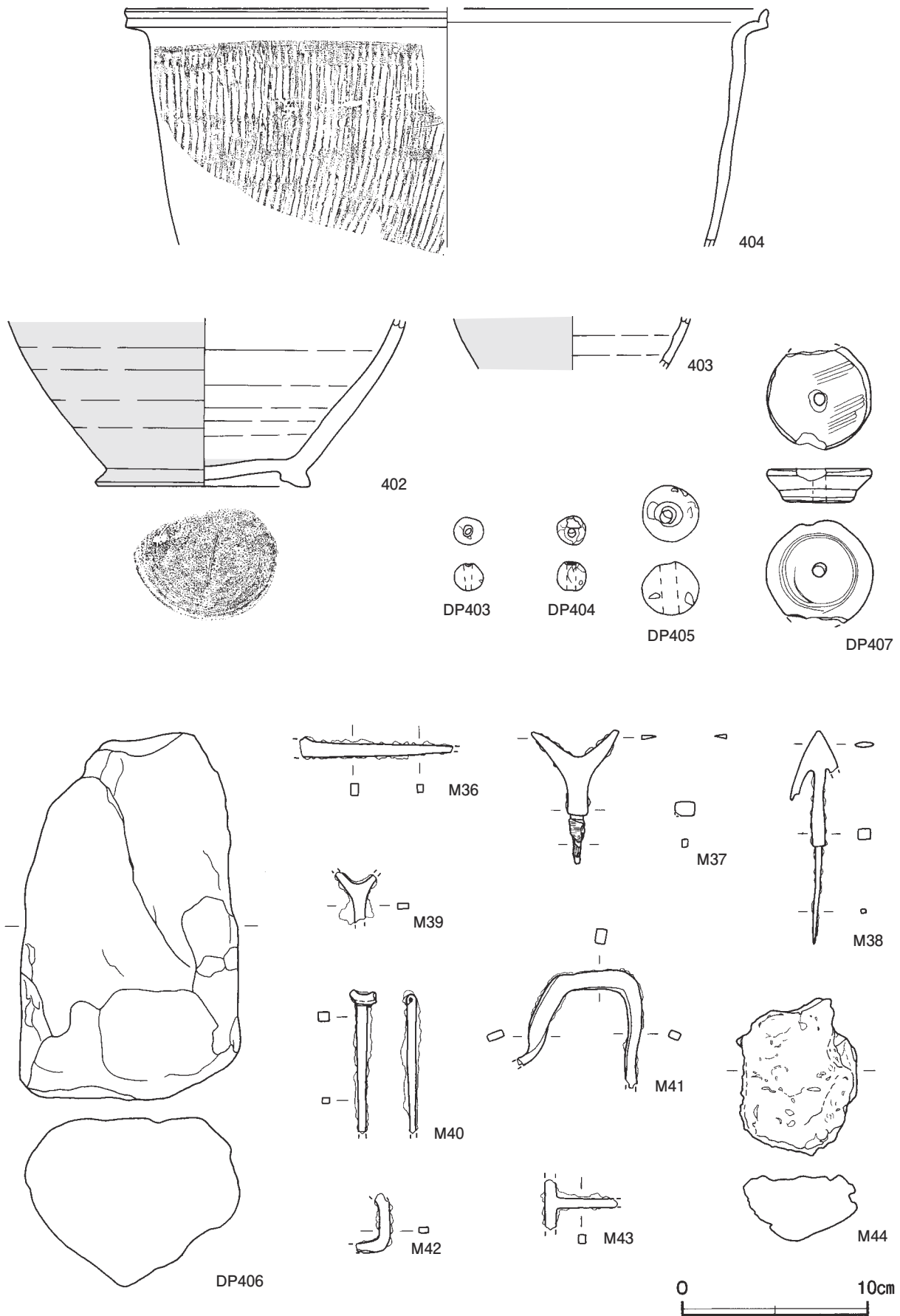
所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。



第 269 図 第 52 号竪穴建物跡実測図



第 270 図 第 52 号豎穴建物跡・出土遺物実測図



第 271 图 第 52 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 52 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 270・271 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
390	土師器	坏	12.5	4.5	6.5	長石・石英・赤色粒子・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	90% PL67
391	土師器	坏	12.6	4.9	6.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	覆土上層	90% PL67
392	土師器	坏	12.4	4.6	4.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	竈2構築土	80%
393	土師器	坏	12.8	5.2	6.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り 体部外面墨書「居二」	覆土上層	60% PL79
394	土師器	坏	[12.2]	4.9	6.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り 体部外面墨書「一」	覆土上層	60% PL79
395	土師器	坏	-	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 体部外面墨書「田」	覆土中	5% PL79
396	土師器	坏	-	(2.8)	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 体部外面墨書「田」	覆土中	5% PL79
397	土師器	坏	-	(2.1)	[5.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り 底部墨書「□」	覆土中	5% PL79
398	土師器	坏	-	(1.5)	[6.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 底部墨書「□」	覆土中	5% PL79
399	須恵器	坏	13.8	4.8	5.7	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土上層	70% 種数産
400	土師器	皿	[14.2]	2.0	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面摩滅 内面ヘラ磨き	覆土中	25%
401	土師器	仏鉢形土器	[17.6]	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	覆土中	50%
402	灰釉陶器	瓶	-	(9.1)	11.4	精緻	灰オリーブ	緻密	外・内面施釉 底部線刻	覆土上層	20% 黒笹 90 窯式
403	灰釉陶器	瓶	-	(2.8)	-	精緻	灰白	緻密	外面施釉	覆土中	5% 産地不明
404	須恵器	甌	[34.4]	(12.9)	-	長石・石英	橙	不良	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	床面 覆土下層	10% 新治窯

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP403	土玉	1.6	1.5	0.6	2.92	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP404	土玉	1.6	1.6	0.5	3.54	長石	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP405	土玉	3.0	2.9	0.9	24.9	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP407	紡錘車	5.6	1.9	1.0	(51.0)	長石・石英	橙	一部欠損 ヘラ磨き 一方向からの穿孔	床面	PL92

番号	器 種	高さ	最小径	最大径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP406	支脚	(19.7)	7.5	11.8	(1.748)	長石・石英	にぶい橙	欠損 外面摩滅 被熱痕	竈1火床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 36	刀子	(8.2)	1.1	0.4	(10.1)	鉄	刃部欠損 断面長方形	覆土上層	
M 37	鎌	7.2	4.8	0.2~0.8	13.4	鉄	木質一部残存 先端部断面三角形 鎌身部・茎部断面長方形	覆土下層	PL98
M 38	鎌	11.5	(2.6)	0.2~0.6	(16.1)	鉄	一部欠損 鎌身部・茎部断面長方形	床面	PL98
M 39	鎌	(2.6)	(2.8)	0.3	(2.94)	鉄	欠損 断面長方形	覆土中	
M 40	釘	(7.7)	1.4	0.3~0.5	(14.2)	鉄	脚部欠損 断面長方形	覆土下層	
M 41	門	(6.3)	(6.7)	0.4~0.6	(32.8)	鉄	両端部欠損 一部屈曲 断面長方形	覆土上層	
M 42	不明	(3.3)	0.6	0.3	(4.57)	鉄	頭部・脚部欠損 断面長方形	覆土中	
M 43	不明	(3.9)	(2.5)	0.4	(7.11)	鉄	欠損 断面長方形	覆土上層	
M 44	椀形滓	8.5	7.5	3.5	229	鉄	着磁性なし 表面は極暗赤褐色 裏面は暗青灰色	覆土上層	

第 58 号 竪穴建物跡 (第 272・273 図)

位置 調査D区中央部のF 4f0区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第70号竪穴建物跡を掘り込み, 第327・387・403号土坑に掘り込まれている。

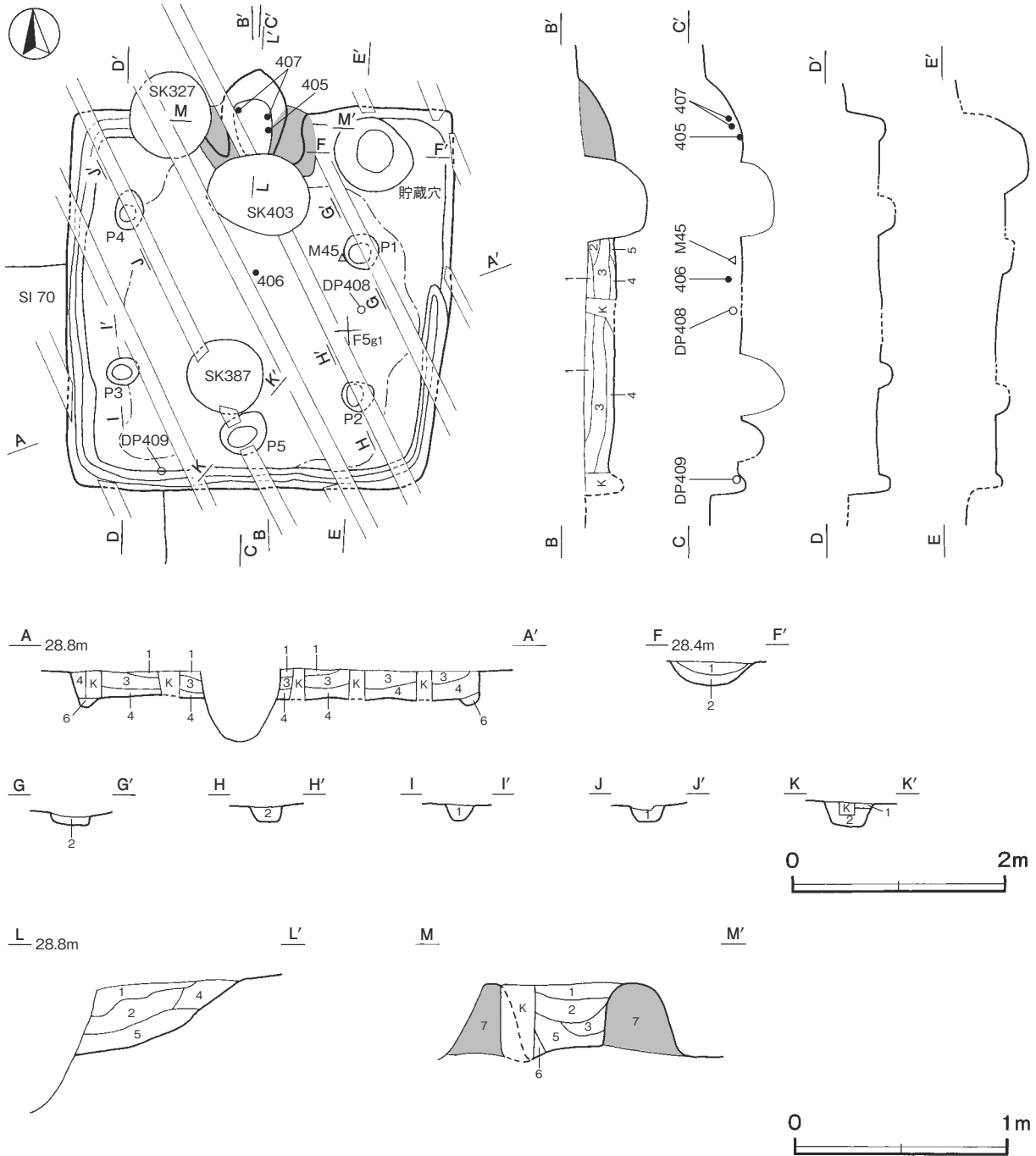
規模と形状 長軸3.60m, 短軸3.58mの方形で, 主軸方向はN-0°である。壁は高さ24~30cmで, 直立している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。北東部を除いて壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く、規模は焚口部から煙道部まで80cm、燃焼部幅は22cmしか確認できなかった。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを主体とする第7層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを利用しており、火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 灰黄褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子少量 | |



第272図 第58号竪穴建物跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ8～14cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 におい褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

貯蔵穴 北東部に位置している。長径78cm、短径67cmの楕円形で、深さは22cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

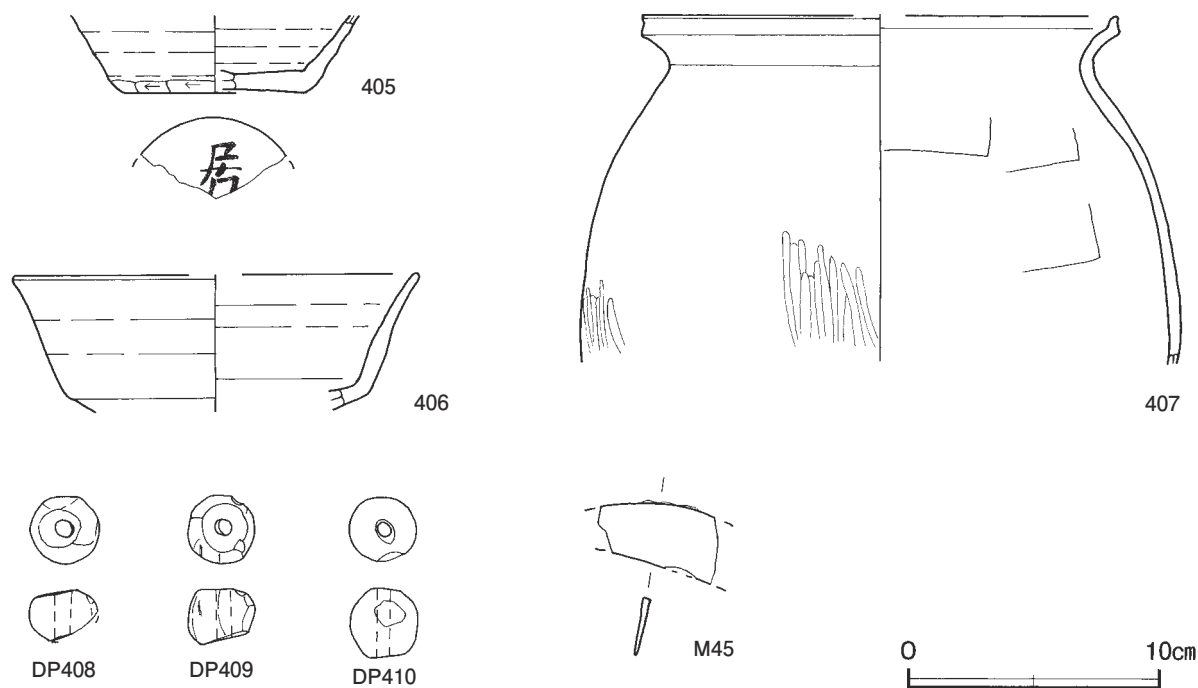
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片183点(坏13, 甕類169, 甑1), 須恵器片47点(坏31, 高台付坏6, 盤1, 甕8, 甑1), 土製品4点(土玉), 金属製品1点(鎌)のほか、縄文土器片1点(深鉢)が出土している。405は竈の底面, DP409は床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。407は竈の覆土下層から出土した破片2点が接合していることから、廃絶後間もなく投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀前葉に比定できる。



第 273 図 第 58 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 58 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 273 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
405	須恵器	坏	-	(3.0)	[7.2]	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部多方向のへら削り 底部墨書「居」	竈底面	10% 縮数産 ₉ PL79
406	須恵器	高台付坏	[15.8]	(5.4)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	外・内面口ロナデ	覆土中層	5% 縮数産 ₉
407	土師器	甕	[18.8]	(13.9)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ後へら磨き 内面へらナデ	竈覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP408	土玉	2.7	(2.1)	0.6~0.7	(12.3)	長石・石英	にぶい橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP409	土玉	2.7	2.3	0.6	15.6	長石・石英	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	床面	
DP410	土玉	2.7	2.8	0.5	18.5	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

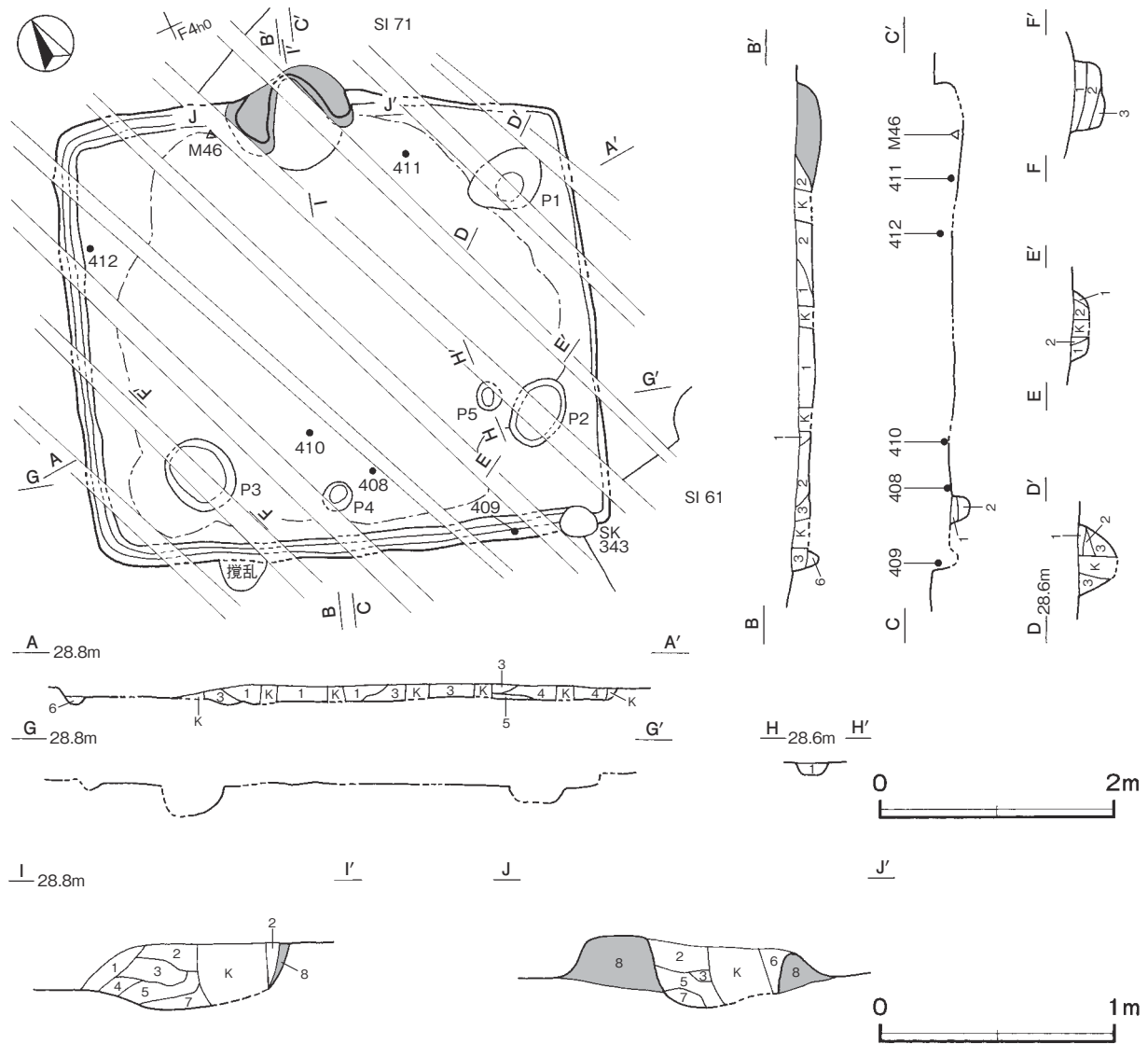
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 45	鎌	(4.8)	(3.2)	0.2	(15.4)	鉄	切先部・装着部欠損	覆土下層	

第 59 号竪穴建物跡 (第 274・275 図)

位置 調査D区中央部の F 4 h0 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 61・71 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 343 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.46 m, 短軸 3.88 m の長方形で, 主軸方向は N - 18° - E である。壁は高さ 15cm で, ほぼ直立している。



第 274 図 第 59 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北壁東側と東壁を除いて壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで83cmで、燃烧部幅は45cmである。袖部は地山をわずかに掘りくぼめ、その上に粘土粒子を主体とする第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込んだ箇所を使用しており、火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------|--------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 | 7 暗赤褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P3は深さ13～62cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ10cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック少量 | | |

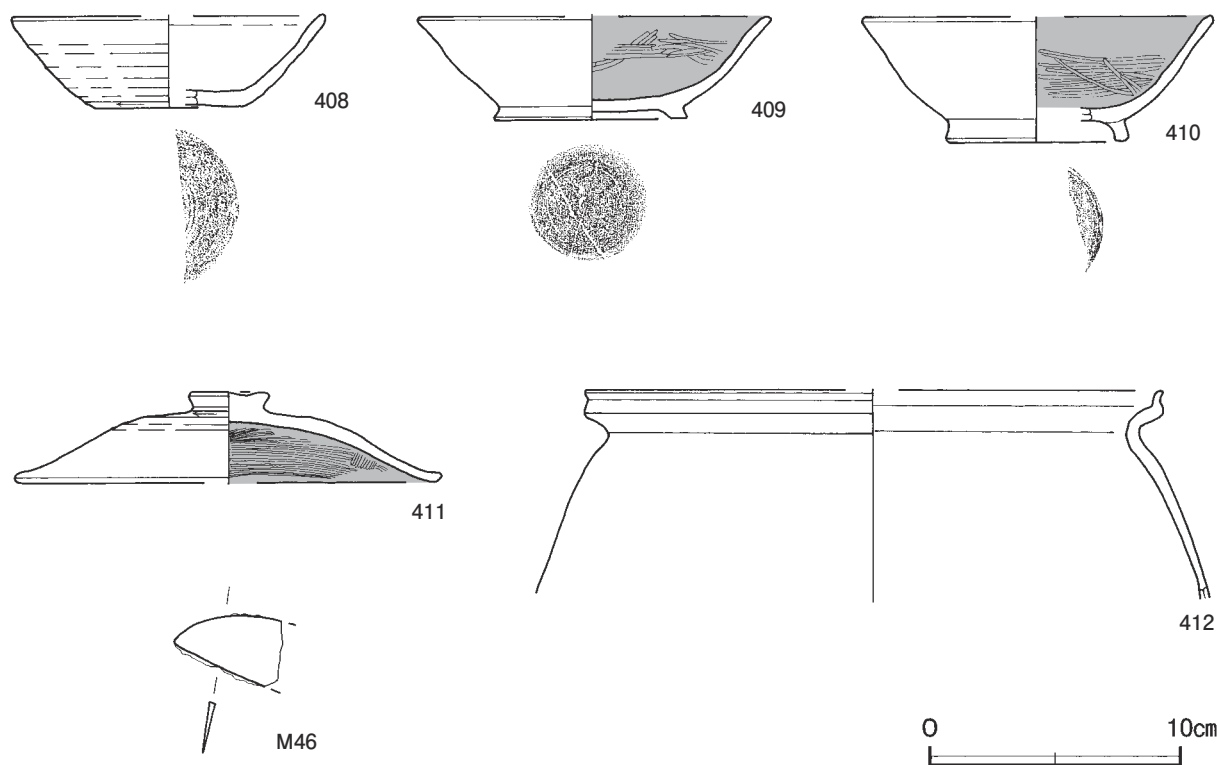
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 褐灰色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片154点(坏類55, 椀1, 高台付坏4, 蓋1, 皿1, 甕類91, 甑1), 須恵器片18点(坏10, 蓋3, 甕5), 金属製品1点(鎌), 鉄滓1点が出土している。408・411・M46はそれぞれ床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第275図 第59号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 59 号 豎穴建物跡出土遺物観察表 (第 275 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
408	土師器	坏	[12.2]	3.6	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	床面	40%
409	土師器	高台付坏	[14.0]	4.1	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中層	50%
410	土師器	高台付坏	[13.6]	5.0	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	床面	20%
411	土師器	蓋	[16.6]	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	40%
412	土師器	甕	[22.8]	(8.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外・内面横ナデ	覆土下層	5%

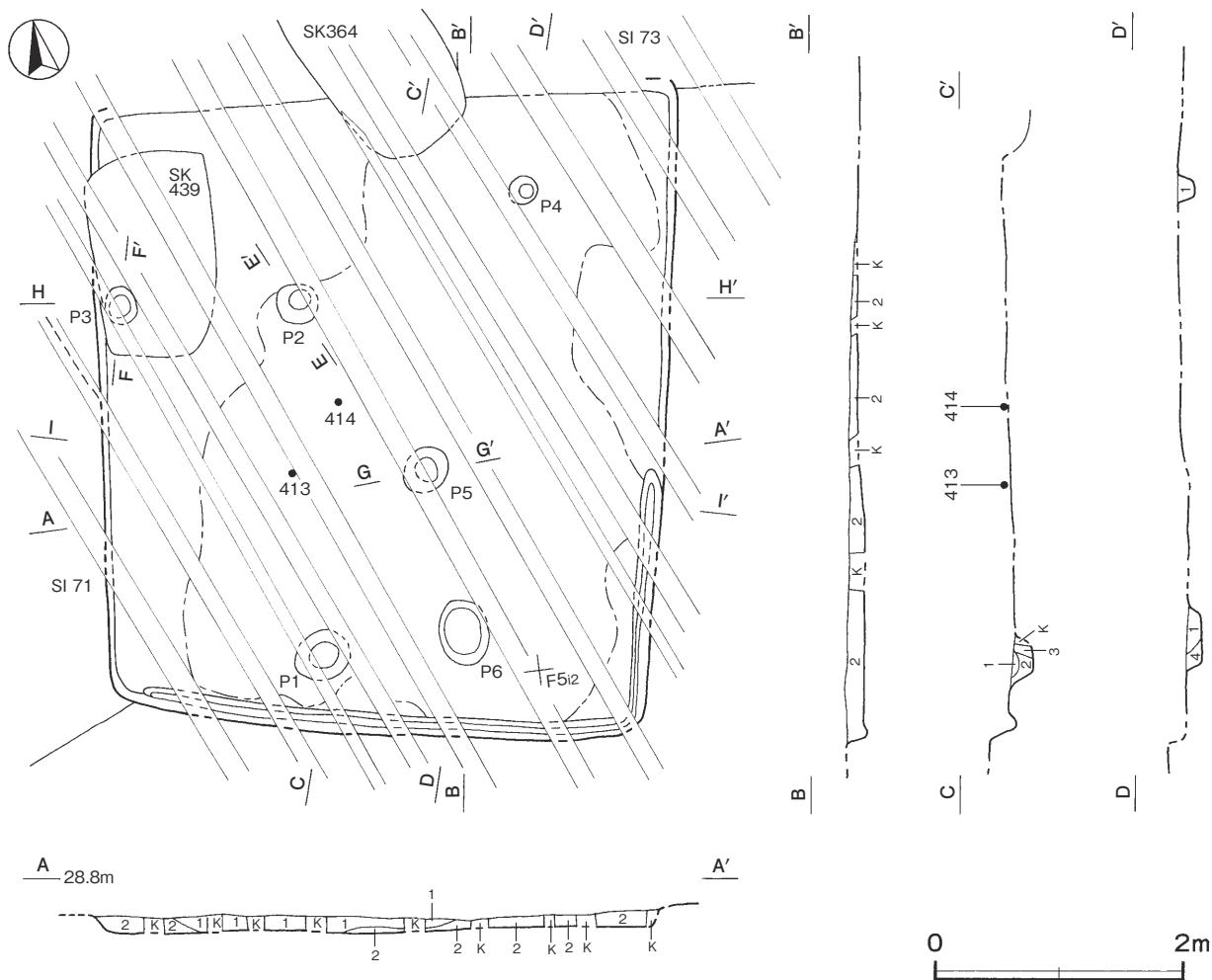
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 46	鎌	(4.3)	(2.9)	0.1	(6.26)	鉄	先端部のみ残存 断面三角形	床面	

第 62 号 豎穴建物跡 (第 276・277 図)

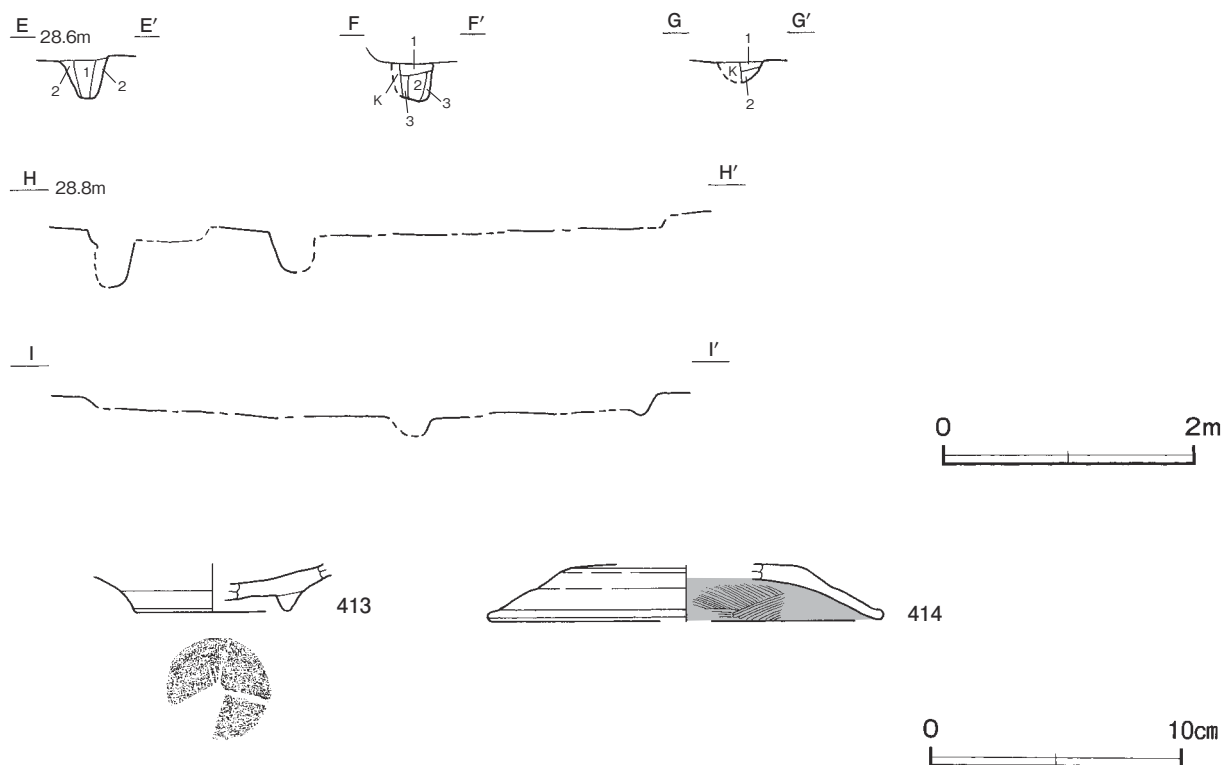
位置 調査D区中央部の F 5h1 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 71・73 号 豎穴建物跡を掘り込み, 第 364・439 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が削平されているため, 南北軸は 5.28 m で, 東西軸は 4.56 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき, 主軸方向は N-8°-E である。壁は高さ 15cm で, ほぼ直立している。



第 276 図 第 62 号 豎穴建物跡実測図



第 277 図 第 62 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦で、北西部を除いて踏み固められている。東壁南側と南壁の壁下には壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P 1は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2～P 6は深さ10～40cmで、性格不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 83点（坏類 31, 高台付碗 5, 蓋 1, 皿 2, 甕類 44），須恵器片 4点（坏 2, 甕 1, 甑 1）が出土している。413・414 はいずれも中央部の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後葉に比定できる。

第 62 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 277 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
413	土師器	高台付碗	-	(1.9)	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	床面	20%
414	土師器	蓋	[15.5]	(2.2)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	5%

第 63 号竪穴建物跡（第 278 図）

位置 調査D区中央部の F 5h7 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 64 号竪穴建物跡、第 4 号掘立柱建物跡を掘り込み、第 342・344 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺存状態が悪く、南北軸は3.12 mで、東西軸は2.64 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、主軸方向はN - 111° - Eである。壁は高さ18cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁やや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は41cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第6層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-------------------|
| 1 褐灰色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子微量 |

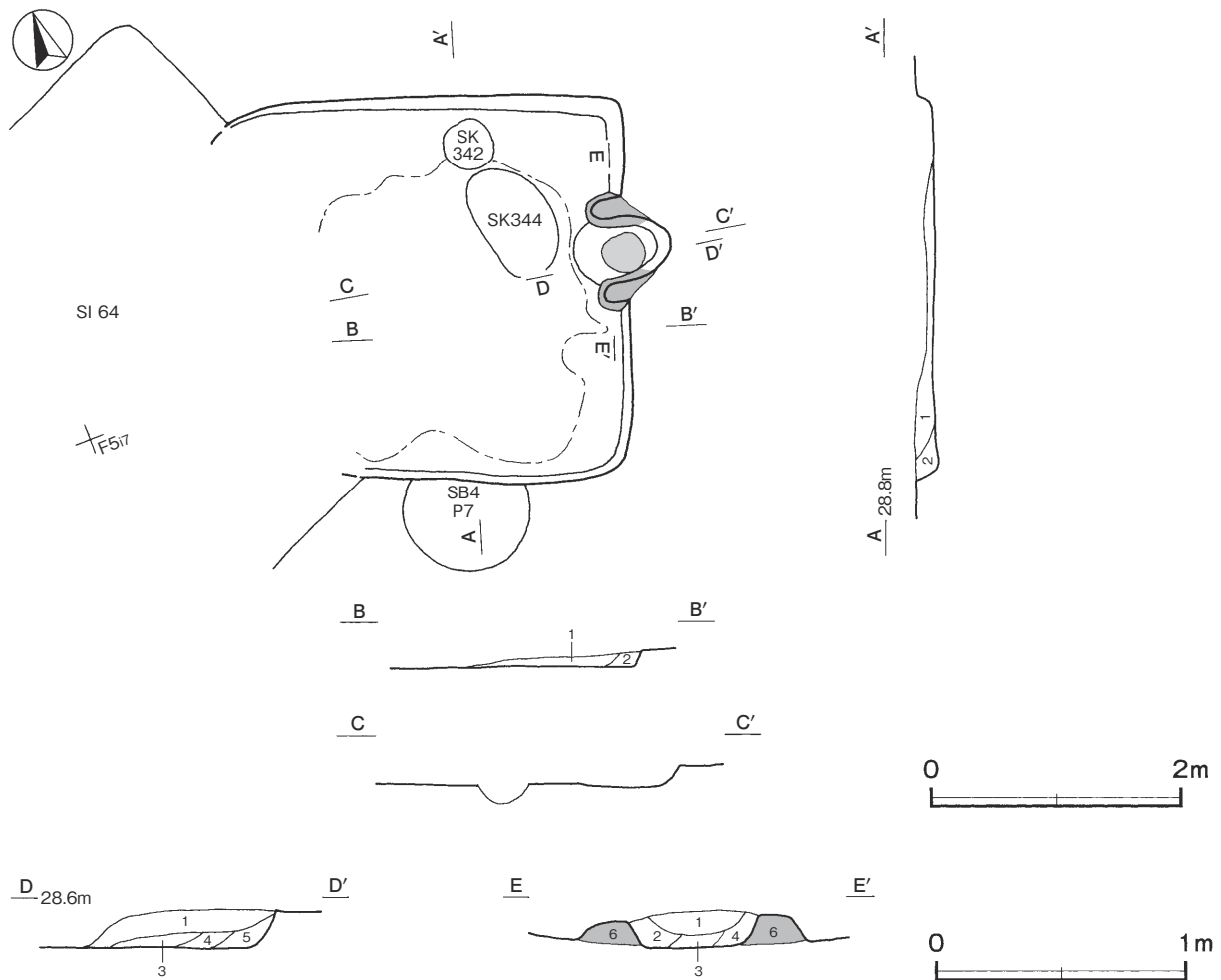
覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片31点（坏14, 高台付坏1, 甕16）、須恵器片2点（甕）が、覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第278図 第63号竪穴建物跡実測図

第 65 号竪穴建物跡 (第 279 ~ 281 図)

位置 調査D区中央部の F 5 f7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 75 号竪穴建物跡, 第 6 号掘立柱建物跡, 第 431・432・449 号土坑を掘り込み, 第 368 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.67 m, 短軸 4.60 m の方形で, 主軸方向は N - 13° - E である。壁は高さ 31 ~ 38cm で, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 138cm で, 燃焼部幅は 75cm である。袖部は地山をわずかに掘りくぼめ, その上に粘土粒子を主体とする第 11 ~ 14 層を積み上げて構築されている。右袖は 424, 左袖は 423 をそれぞれ補強材として使用している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚 (DP412) が火床面から立位で出土していることから, 使用時の状態で遺棄されたものとみられる。燃焼部および煙道部は壁外に 53cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。第 1・8 層は, 天井部の崩落土である。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック多量, 粘土粒子中量	8 褐灰色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
2 明褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	9 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量
3 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック中量, 粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量	11 灰黄褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量	12 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, ロームブロック少量
6 赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子少量	13 灰黄褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量
7 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量	14 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子中量

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 34 ~ 73cm で, 規模と配置から支柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3 ~ 5 層は埋土である。P 5 は深さ 21cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 12cm で, 配置から補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色	ロームブロック微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック微量		

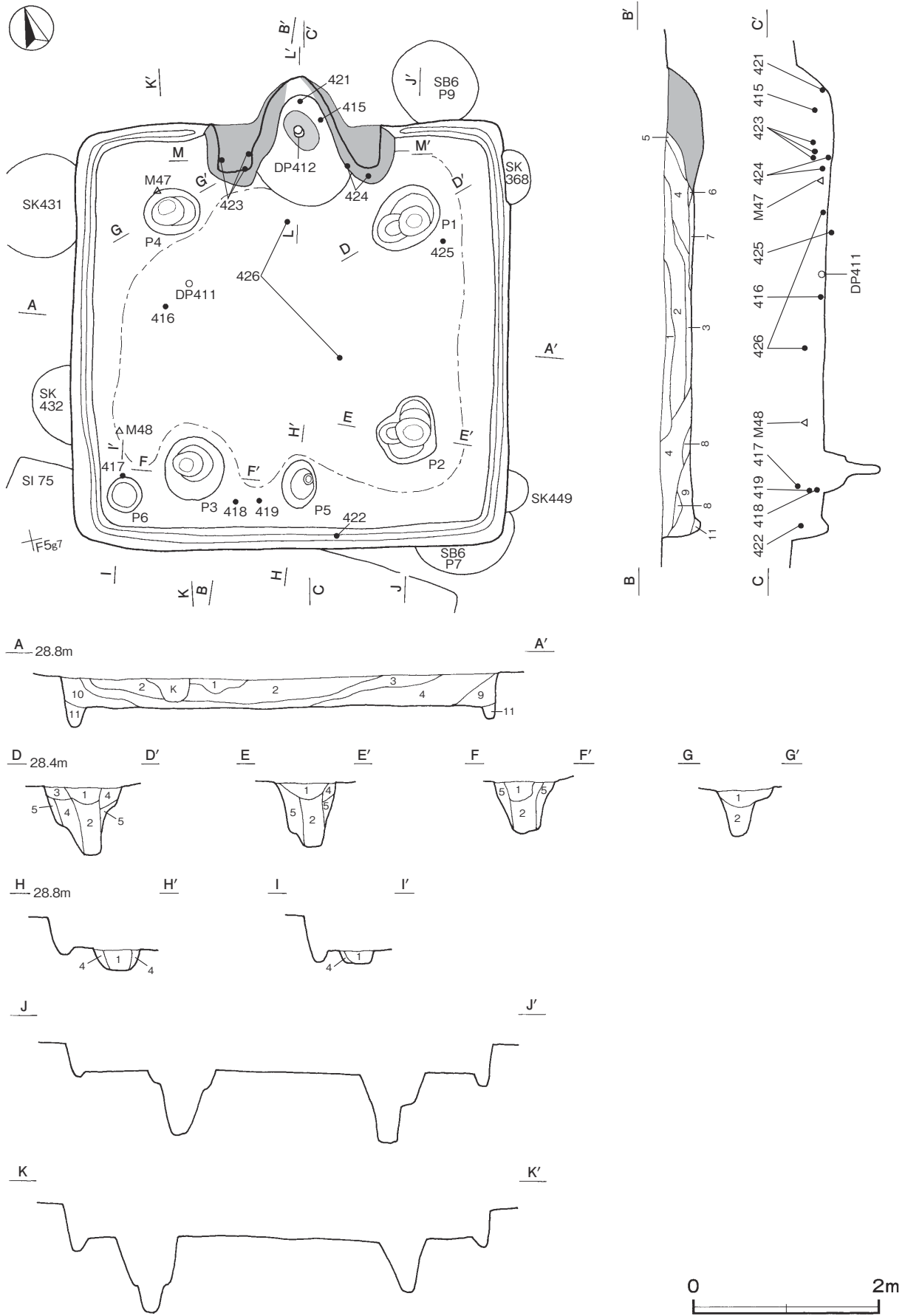
覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

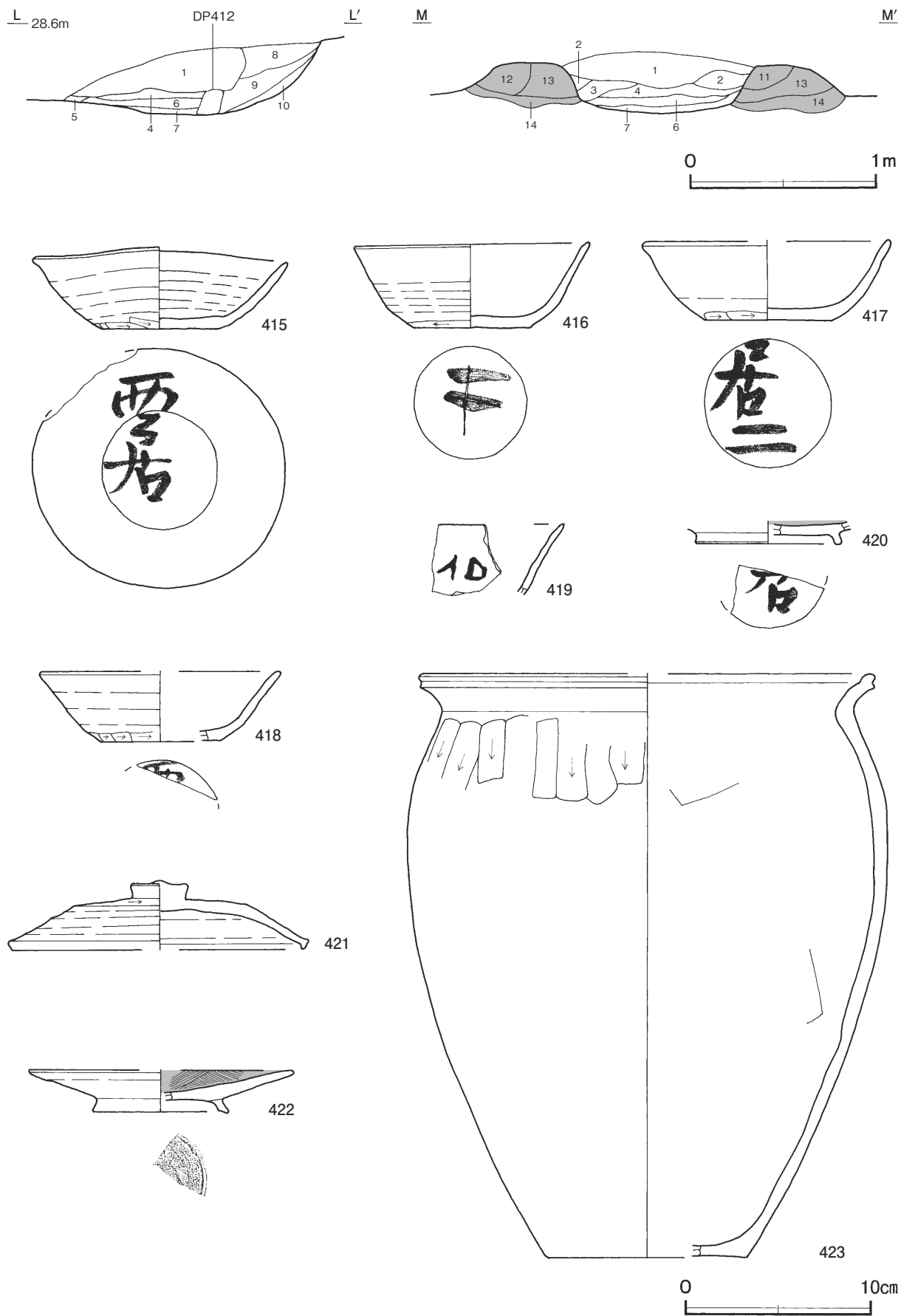
1 暗褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	炭化物多量
2 暗褐色	ロームブロック多量	8 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	9 褐色	ロームブロック中量
4 褐色	ロームブロック多量	10 黒褐色	ロームブロック中量
5 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	11 褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片 125 点 (坏類 71, 高台付椀 6, 蓋 1, 皿 2, 甕類 43, 小形甕 1, 甑 1), 須恵器片 25 点 (坏 6, 蓋 3, 長頸瓶 1, 甕 14, 甑 1), 土製品 4 点 (土玉 2, 支脚 1, 不明 1), 金属製品 2 点 (刀子, 鎌) のほか, 縄文土器片 5 点 (深鉢), 土師器片 1 点 (台付甕) が出土している。416・425・DP411 は床面, 421 は竈の煙道部からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。415 は竈の覆土下層から出土し, 426 は覆土下層と中層から出土した破片が接合していることから, いずれも廃絶後間もなく投棄されたものとみられる。

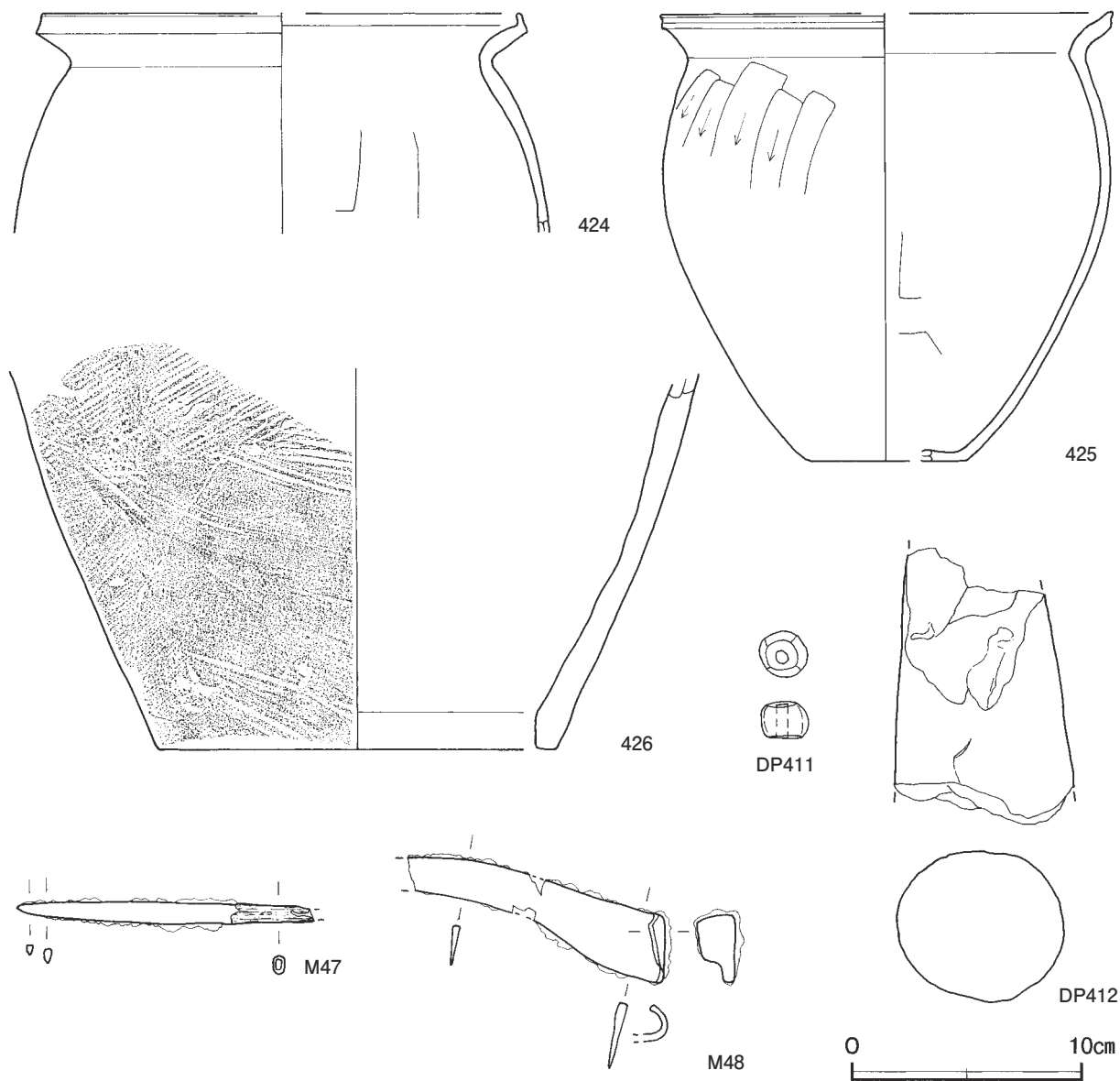
所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀後葉に比定できる。



第 279 图 第 65 号竖穴建物跡実測图



第 280 図 第 65 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 281 図 第 65 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 65 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 280・281 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
415	土師器	坏	13.3	4.4	6.2	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部墨書「西居」	竈覆土下層	95% PL67
416	土師器	坏	13.6	4.6	6.0	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部墨書「×」墨書「二」	床面	70% PL79
417	土師器	坏	[13.0]	4.3	6.9	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部墨書「居二」	覆土上層	60% PL79
418	土師器	坏	[12.8]	3.7	[6.4]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部墨書「西」	覆土下層	10% PL80
419	須恵器	坏	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 体部外面墨書「□」	覆土中層	5% 新治窯 PL80
420	土師器	高台付椀	-	(1.1)	[7.8]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 底部墨書「居」	覆土中	5% PL80
421	須恵器	蓋	[15.8]	3.6	-	長石・石英・細礫	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈煙道部	70% 新治窯
422	土師器	皿	[14.0]	2.2	[7.3]	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	10%
423	土師器	甕	[24.0]	31.5	[10.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位ヘラ削り 後ナデ 中位～下位ナデ 内面ヘラナデ	竈構築土	20%
424	土師器	甕	[20.6]	(9.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈構築土	10%
425	土師器	小形甕	[19.4]	19.4	[7.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	床面	35%
426	須恵器	甕	-	(16.4)	[17.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面中位斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層 ～中層	10% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP411	土玉	2.0	1.6	0.5	6.05	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP412	支脚	(12.0)	5.9	7.8	(463)	長石・石英	橙	基部欠損 外面摩滅 被熱痕	火床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 47	刀子	(12.9)	0.9	0.2~0.4	(12.7)	鉄	一部欠損 断面三角形 茎部木質残存	覆土下層	PL97
M 48	鎌	(11.2)	2.9	0.3	(36.1)	鉄	一部欠損 断面三角形 装着部上部折り返し	覆土中層	

第 66 号竪穴建物跡 (第 282 ~ 286 図)

位置 調査D区中央部の F 5g5 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 72・104 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 430 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.02 m, 短軸 4.73 m の方形で, 主軸方向は N - 11° - E である。壁は高さ 38 ~ 45cm で, ほぼ直立している。北壁と西壁の一部に, 壁の補強として砂質粘土ブロックが貼られている。

粘土壁土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 褐 灰 色 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子微量 | 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 2 褐 色 ロームブロック少量 | 4 明 褐 色 ロームブロック中量 |

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第 7 ~ 11 層を埋土して構築されている。北部を除いた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 131cm で, 燃焼部幅は 70cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土粒子を主体とする第 13 ~ 15 層を積み上げて構築されている。両袖部の内側には, 441 ~ 443 が補強材として使用されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚が火床部から横位で出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。燃焼部および煙道部は壁外に 65cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック中量 | 9 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 10 赤 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック中量 | 11 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 4 赤 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 12 にぶい褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 13 灰 白 色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 6 暗 褐 色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 14 暗 褐 色 粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 7 赤 褐 色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | 15 灰黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | |

ピット 12 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 34 ~ 50cm で, 配置から主柱穴である。第 1 ~ 6 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 7・8 層は埋土である。P 5・P 6 は深さ 32cm・31cm で, 南部の中央に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。立て替えが想定されるが新旧関係は不明である。P 7 ~ P 9 は深さ 42 ~ 67 cm で, 配置から壁柱穴である。P 10 ~ P 12 は深さ 8 ~ 42cm で, 配置から補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐 色 ローム粒子微量 |
| 2 褐 色 ロームブロック少量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 ローム粒子微量 | 7 褐 色 ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック中量 | 8 褐 色 ロームブロック中量 |

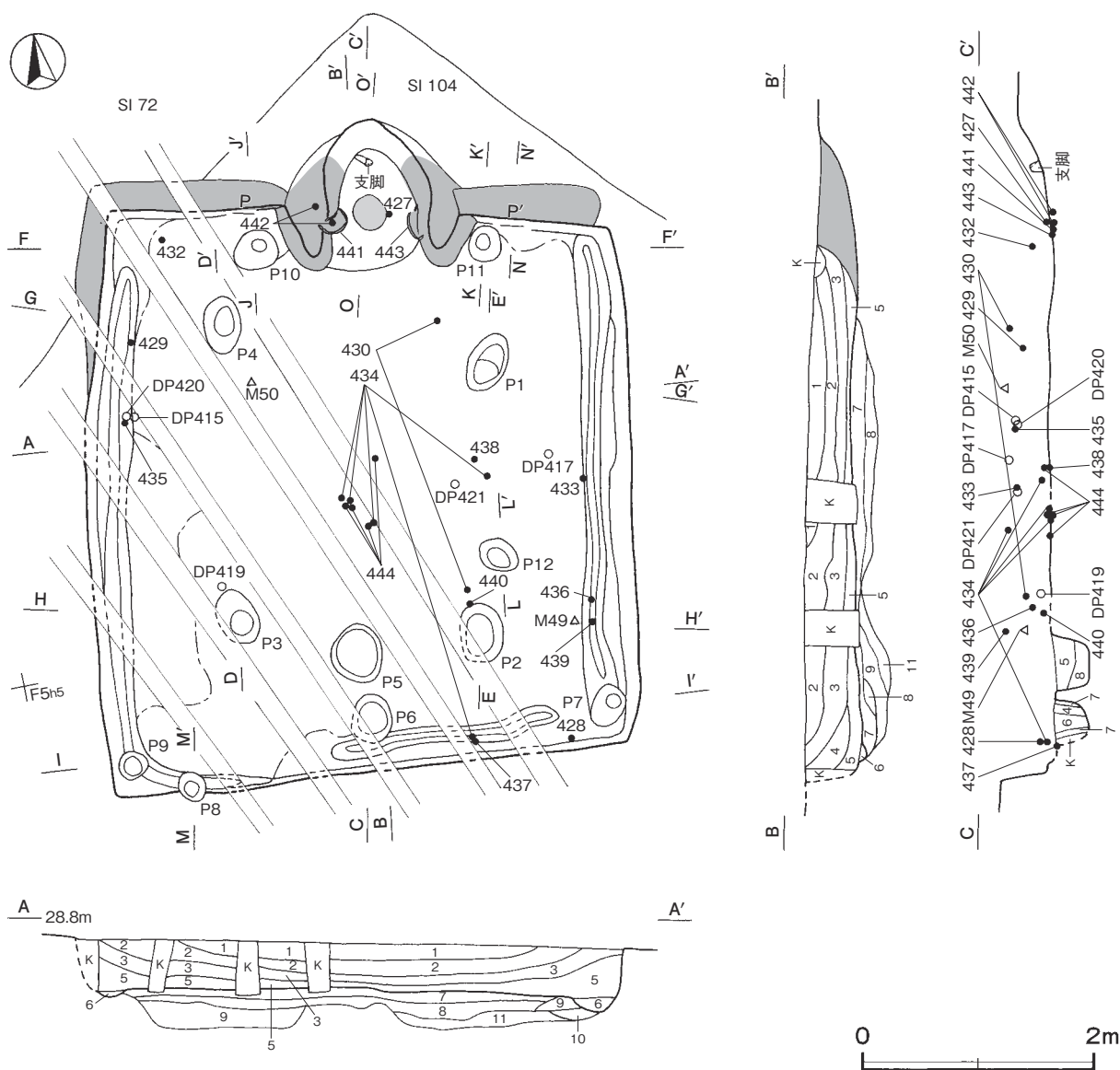
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることや, 床面と覆土上層の土器片が接合関係にあることなどから, 廃絶後に短期間で埋め戻されているとみられる。第 7 ~ 11 層は貼床の構築土である。

土層解説

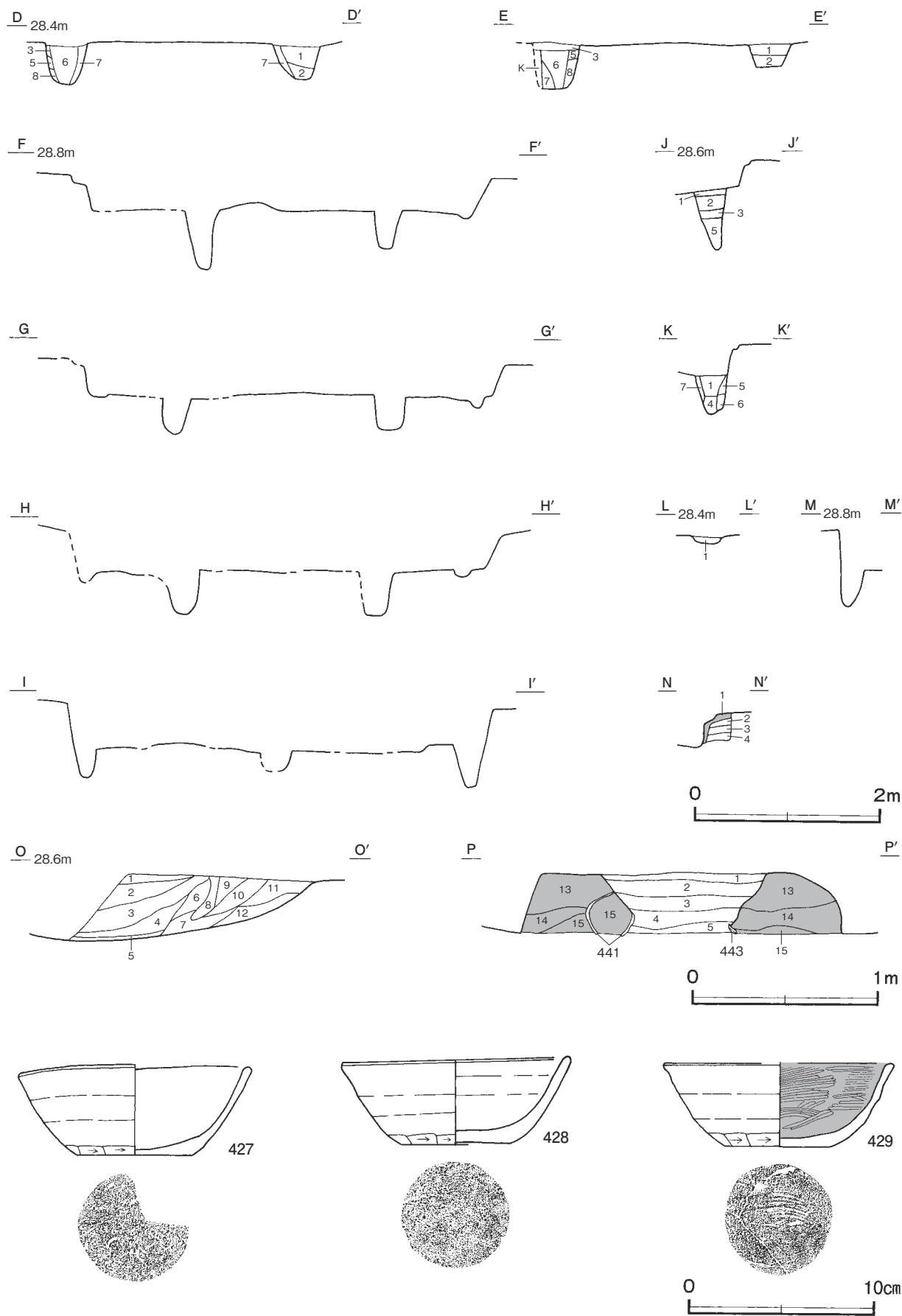
- | | | | |
|-------|---------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 11 におい褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 2,237 点 (坏類 1,107, 椀 8, 高台付坏 32, 蓋 2, 皿 36, 甕類 1,047, 甑 5), 須恵器片 354 点 (坏類 45, 高台付坏 1, 蓋 4, 皿 1, 鉢 1, 壺 1, 甕類 283, 甑 18), 灰釉陶器片 3 点 (瓶), 土製品 15 点 (土玉 10, 管状土錘 1, 支脚 3, 紡錘車 1), 石器 1 点 (紡錘車), 金属製品 5 点 (刀子 1, 釘 3, 鉸具 1) のほか, 縄文土器片 5 点 (深鉢), 土師器片 3 点 (高坏 1, 手捏土器 2), 石製品 1 点 (小玉) が, 覆土中の広い範囲から出土している。444 は床面から出土した土器片が接合していることから, 廃絶時に投棄されたものとみられる。434 は, 床面・覆土下層・覆土上層から出土した破片が接合していることから, 破碎後に投棄されたものとみられる。

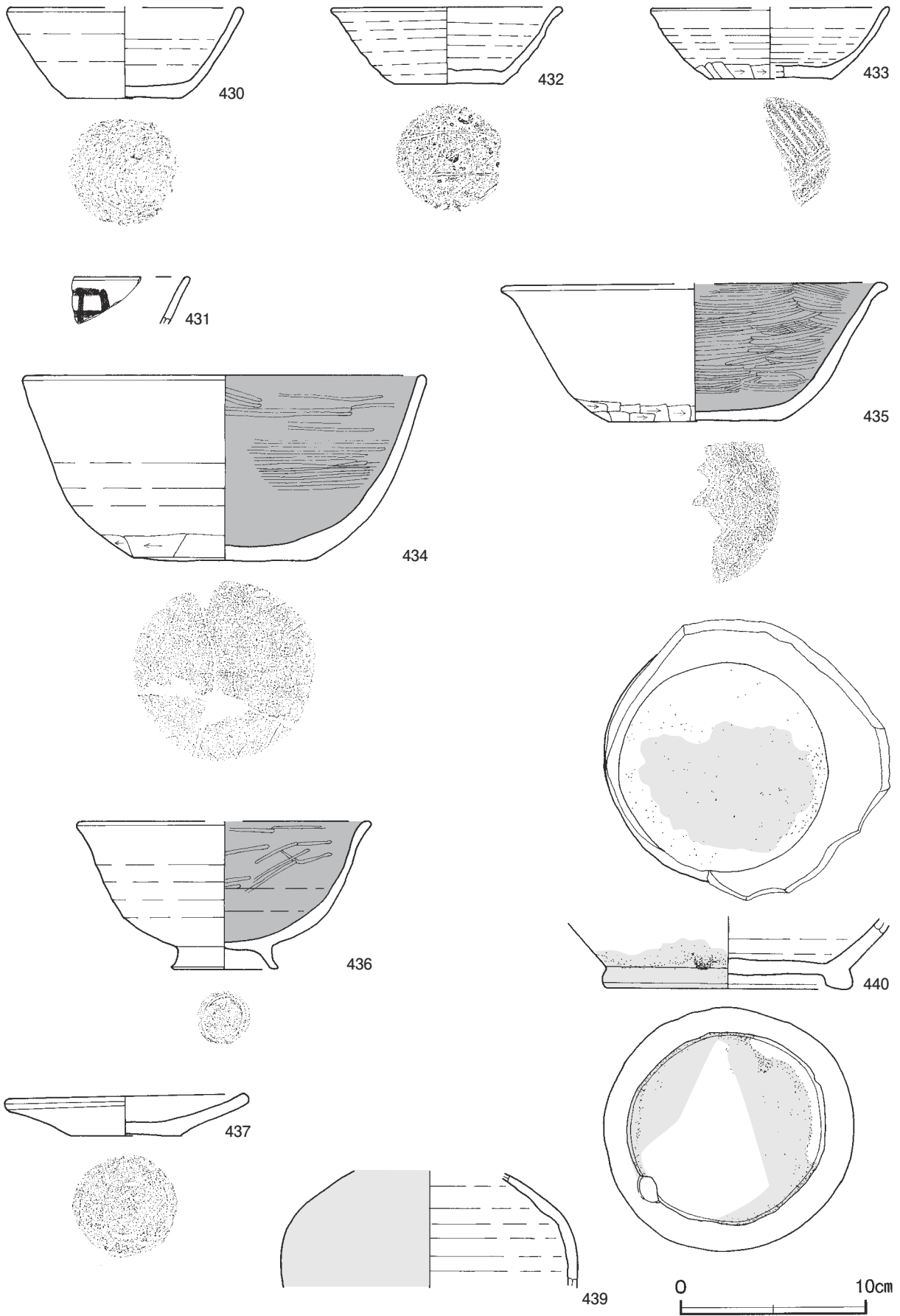
所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



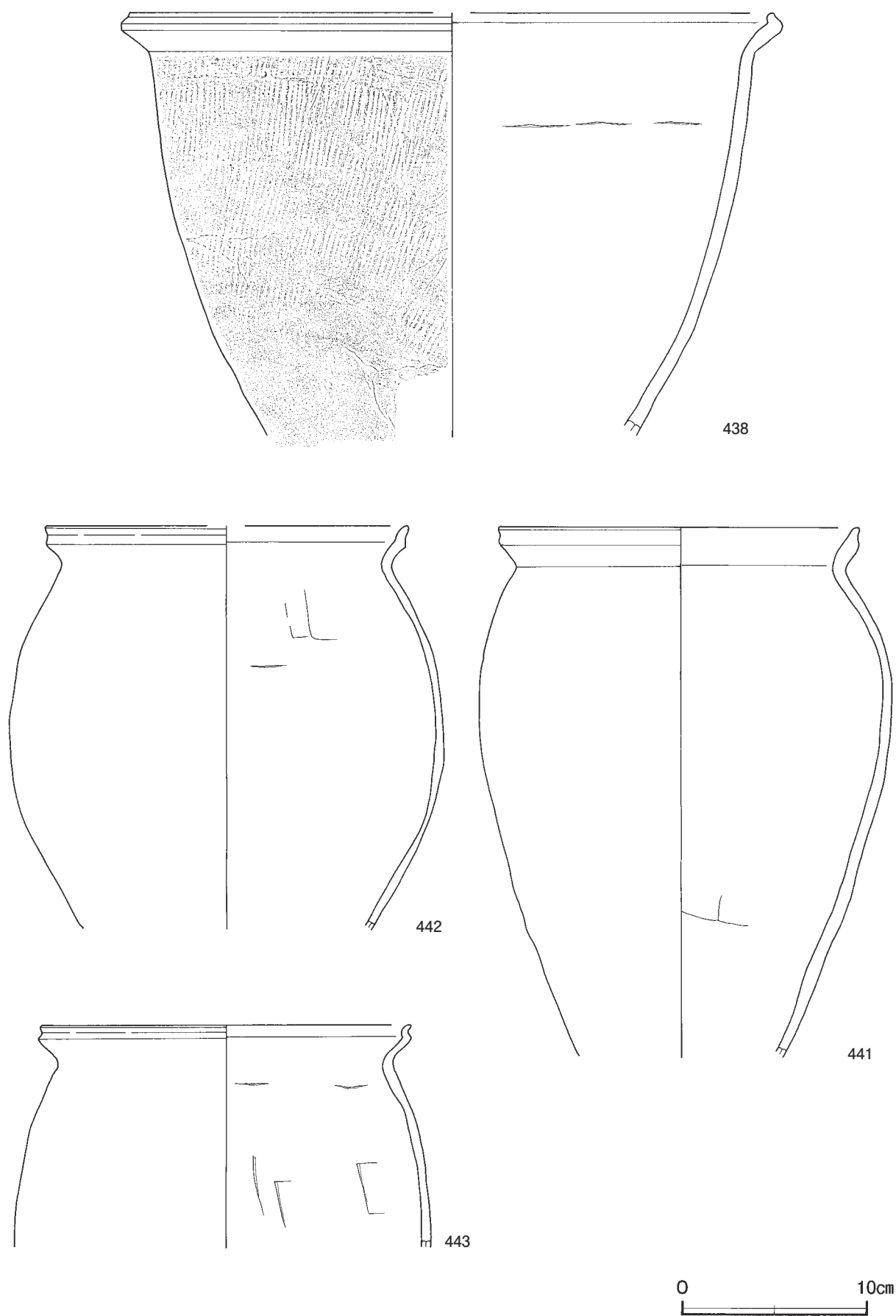
第 282 図 第 66 号竪穴建物跡実測図



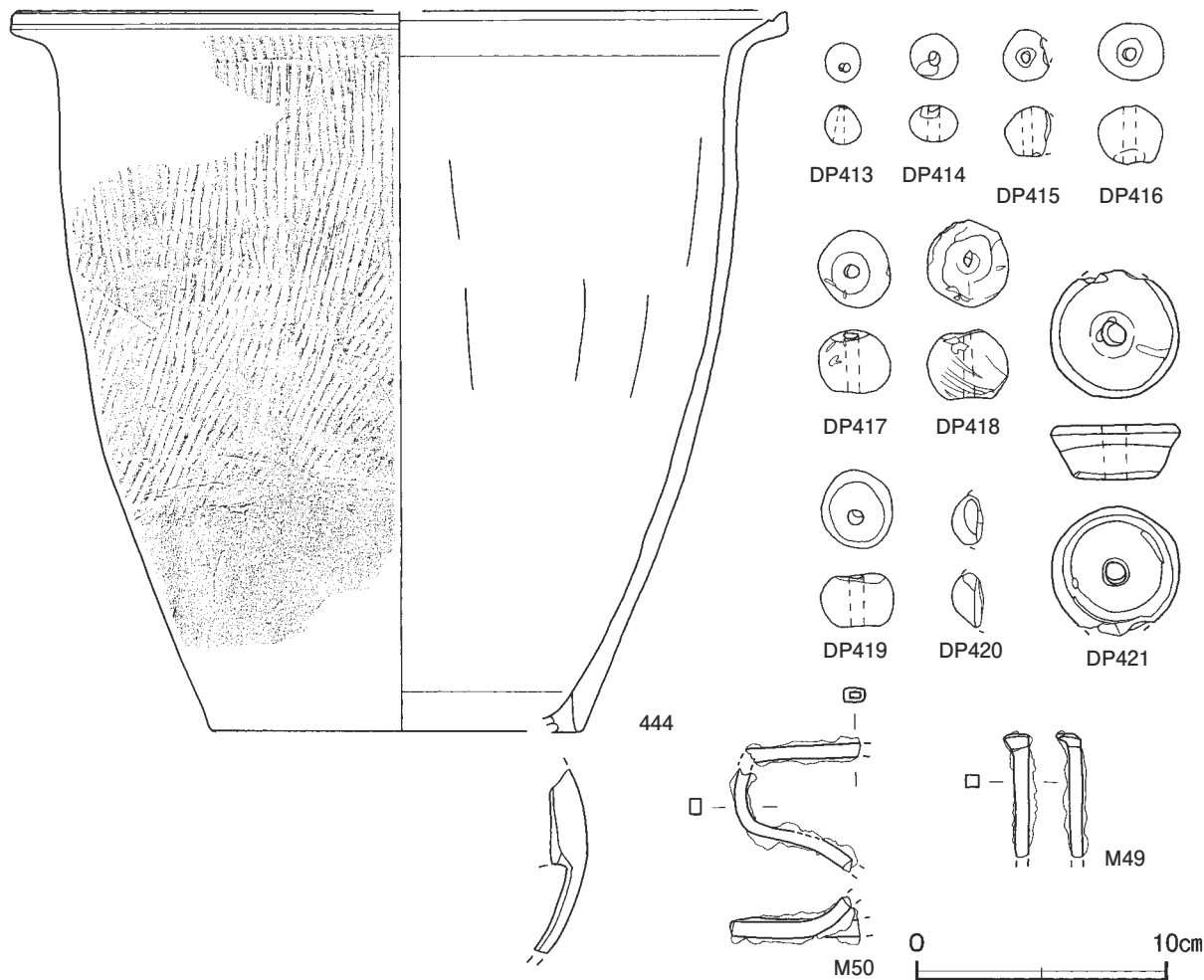
第 283 図 第 66 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 284 图 第 66 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 285 図 第 66 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 286 図 第 66 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 66 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 283 ~ 286 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
427	土師器	坏	12.5	4.9	6.2	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面摩滅 底部一方向のへら削り	竈覆土下層	95% PL67
428	土師器	坏	12.2	4.7	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面摩滅 底部一方向のへら削り	覆土中層	90% PL68
429	土師器	坏	[12.0]	4.5	5.8	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部多方向のへら削り	覆土中層	70%
430	土師器	坏	[12.4]	4.9	6.2	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	外・内面摩滅 底部回転糸切り	覆土中層～上層	30%
431	土師器	坏	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 外面墨書「田」	覆土中	5% PL80
432	須恵器	坏	12.2	4.2	5.7	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ 底部回転へら削り後二方向のへら削り へら記号「乙」	覆土中層	60% 新治窯 PL68
433	須恵器	坏	[12.6]	3.8	[6.6]	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部二方向のへら削り	覆土上層	35% 稲敷産
434	土師器	椀	21.3	10.0	10.1	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方向のへら削り	床面～覆土上層	70%
435	土師器	椀	[20.0]	7.4	[9.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部多方向のへら削り	覆土上層	20%
436	土師器	高台付坏	[15.6]	7.9	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へら磨き 底部回転糸切り	覆土中層	50%
437	土師器	皿	12.7	2.3	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面摩滅 底部回転へら削り	床面	100% PL68
438	須恵器	鉢	[34.8]	(22.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ 輪積痕	床面	25% 新治窯
439	灰釉陶器	瓶	-	(6.2)	-	精緻	灰白	緻密	外面施釉	覆土上層	5% 黒笹 14 窯式
440	灰釉陶器	瓶	-	(3.8)	13.1	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉 内面降灰による自然袖付着 底部回転へら削り 自然袖付着	覆土下層	5% PL100 黒笹 14 窯式
441	土師器	甕	19.2	(28.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面へら削り	袖構築土	40%
442	土師器	甕	[19.4]	(21.8)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面へら削り 輪積痕	袖構築土	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
443	土師器	甕	19.8	(12.1)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 輪積痕	袖構築土	20%
444	須恵器	甗	[30.6]	28.7	[14.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上位～中位縦位の平行叩き 下位ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	床面	50% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP413	土玉	1.5	1.5	0.3	3.21	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP414	土玉	1.9	1.5	0.5	4.35	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP415	土玉	2.0	2.0	0.5	(6.02)	長石・石英	にぶい黄橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	
DP416	土玉	2.6	2.3	0.5	13.9	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
DP417	土玉	3.0	2.4	0.6	19.7	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	
DP418	土玉	3.2	2.1	0.6	19.3	長石・石英	淡橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	
DP419	土玉	3.4	2.8	0.6	27.2	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	
DP420	土玉	(2.0)	(2.3)	(0.4)	(3.93)	長石・石英	橙	欠損 ナデ	覆土上層	
DP421	紡錘車	5.2	2.3	0.9	(53.2)	長石・石英・赤色粒子	橙	端部欠損 一方向からの穿孔 側面ヘラ磨き	覆土上層	PL92

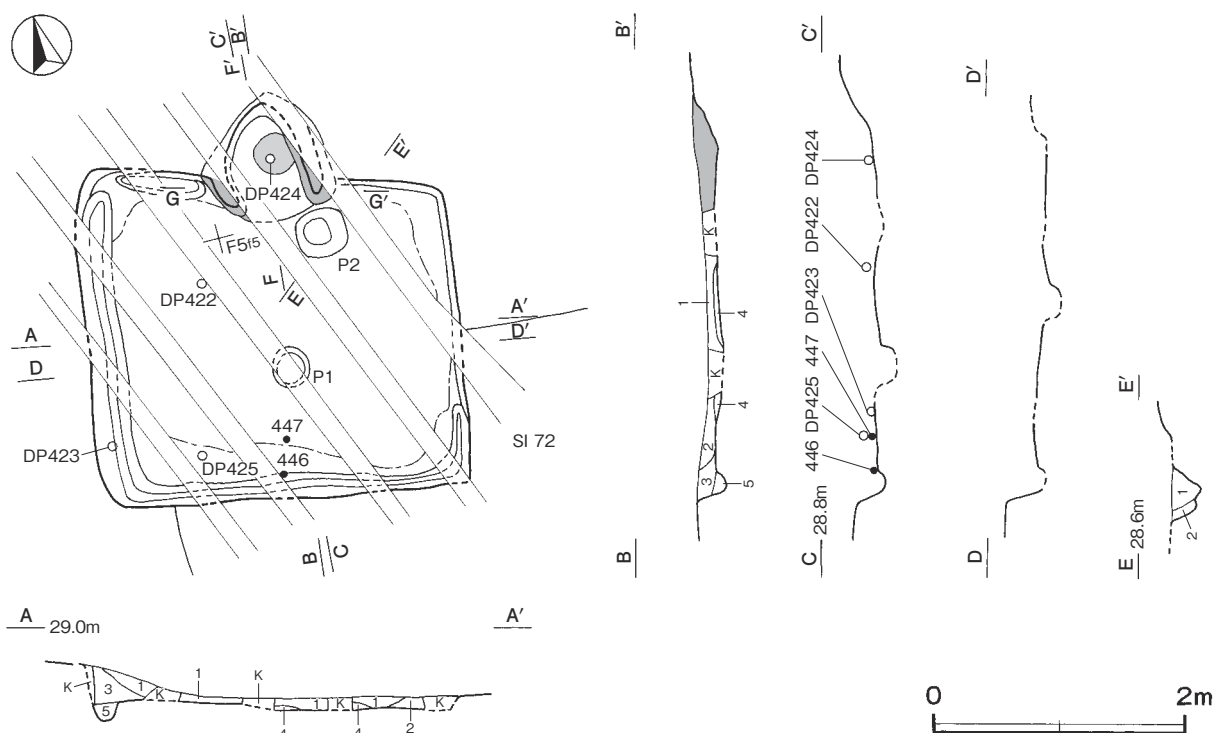
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 49	釘	(4.8)	1.1	0.5	(9.06)	鉄	先端部欠損 断面長方形	覆土中層	
M 50	鉸具	(5.1)	(5.1)	0.6	(19.4)	鉄	一部欠損 断面長方形	覆土上層	

第 67 号竪穴建物跡 (第 287・288 図)

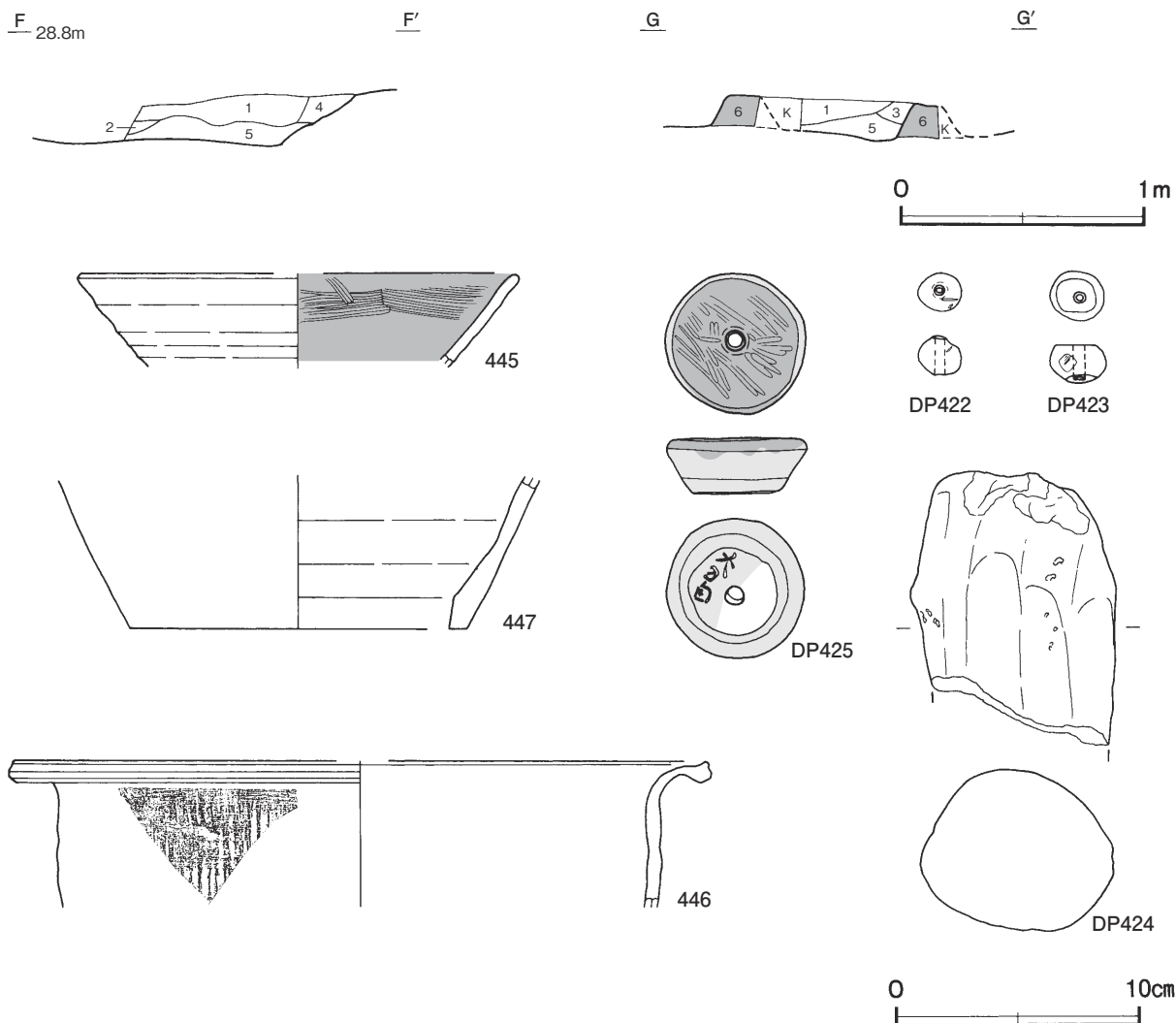
位置 調査D区中央部の F 5 f5 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 72 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸は 2.98 m, 短軸 2.62 m の長方形で, 主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 12 ~ 23cm で, ほぼ直立している。



第 287 図 第 67 号竪穴建物跡実測図



第 288 図 第 67 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北東部を除いて壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが 102cm、燃焼部幅は攪乱を受けており、52cm と推定できる。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第 6 層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に 67cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 灰黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子微量 |

ピット 2か所。P 1 は深さ 13cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 2 は深さ 21cm で、性格不明である。

P 2 土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 2 暗褐色 ローム粒子少量 |
|-----------------|---------------|

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 116 点（坏類 44，高台付椀 1，皿 1，甕類 69，甌 1），須恵器片 21 点（鉢 1，甕類 17，甌 3），土製品 4 点（土玉 2，支脚 1，紡錘車 1）が出土している。446・447・DP423 は覆土下層から出土していることから，廃絶後間もなく投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀中葉に比定できる。

第 67 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 288 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
445	土師器	坏	[17.7]	(3.8)	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	10%
446	須恵器	鉢	[28.4]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土下層	5% 新治窯
447	須恵器	甌	-	(6.3)	[13.8]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	不良	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	5% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP422	土玉	1.8	1.6	0.4	406	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP423	土玉	2.3	1.5	0.5	7.29	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土下層	
DP425	紡錘車	5.8	2.3	0.8	73.3	長石・石英	橙	一方向からの穿孔 側面赤彩残存 へラ磨き 篋書「大刀自」	覆土上層	PL92

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP424	支脚	(11.3)	5.8	8.2	(568)	長石・石英・雲母	橙	基部欠損 外面摩滅	火床面	

第 71 号竪穴建物跡（第 289・290 図）

位置 調査 D 区中央部の F 4h0 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 59・62 号竪穴建物，第 407・447 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第 59 号竪穴建物に掘り込まれているため，南北軸は 4.98 m で，東西軸は 4.60 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向は N - 24° - W である。壁は高さ 16cm で，ほぼ直立している。

床 平坦で，南壁際を除いて踏み固められている。北壁東側の一部を除いて壁下には壁溝が巡っている。東部の壁際に焼土を確認した。床面から浮いた状態で堆積していることから，廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。

焼土塊土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

竈 遺存状況が悪く，火床面の広がりや袖部の基部の痕跡から，北壁中央部に付設されていたと推定できる。規模は焚口部から煙道部までが 75cm，燃焼部幅は 36cm ほどと推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚（DP426）が火床部から立位で出土していることから，使用時の状態で遺棄されたものとみられる。

ピット 6 か所。P 1～P 4 は深さ 35～56cm で，配置から支柱穴である。P 5 は深さ 63cm で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 12cm で，性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

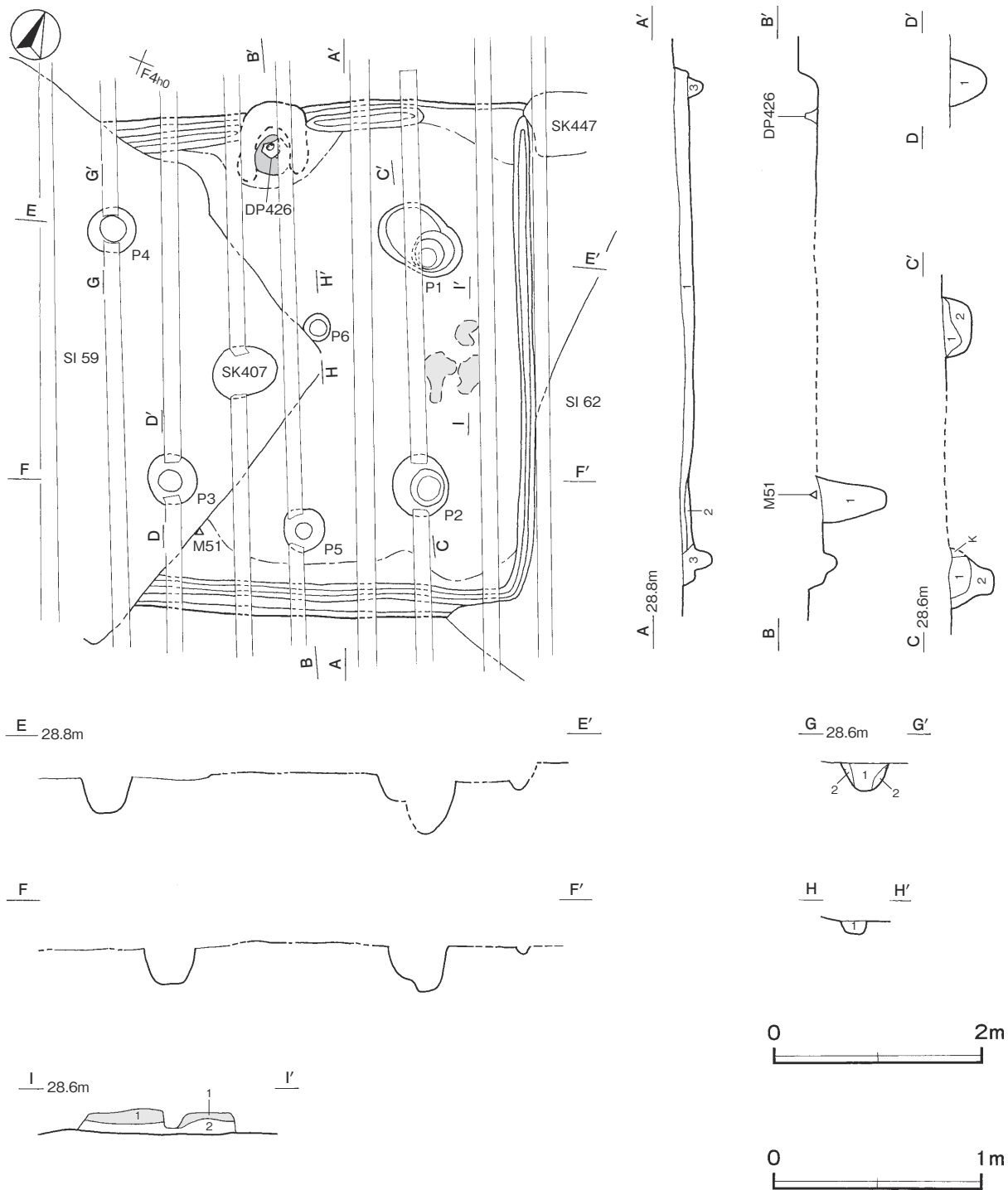
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

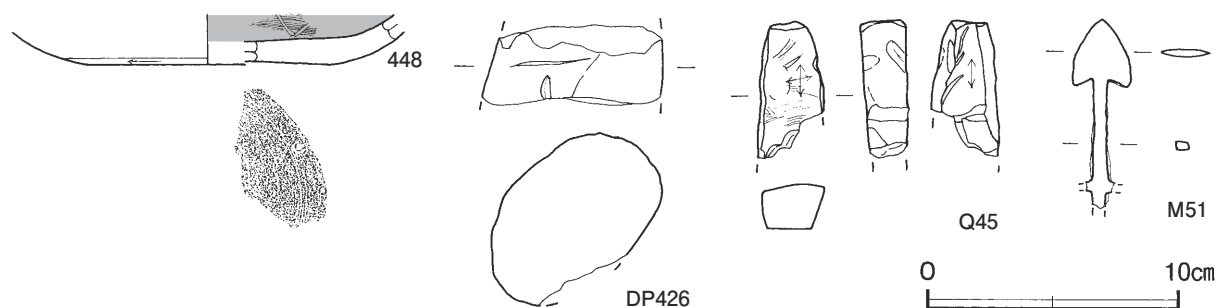
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 128 点 (坏 22, 椀 1, 高台付坏 2, 甕類 101, 甑 2), 須恵器片 13 点 (坏 9, 壺 1, 瓶 2, 甕 1), 土製品 2 点 (支脚, 不明), 石器 1 点 (砥石), 金属製品 2 点 (鏃, 不明), 鉄滓 1 点のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢) が, 覆土中の広い範囲から出土している。M 51 は南部の覆土下層から出土していることから, 埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀前葉に比定できる。



第 289 図 第 71 号竪穴建物跡実測図



第 290 図 第 71 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 71 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 290 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
448	土師器	坏	-	(2.0)	[9.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP426	支脚	(3.2)	(6.4)	(7.1)	(109)	長石・石英	橙	上部欠損 外面摩滅	火床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 45	砥石	(5.5)	(2.7)	1.8	(34.4)	砂岩	砥面 2 面 他 4 面は破断面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 51	鏃	(7.6)	2.3	0.3	(11.5)	鉄	三角形鏃 棘状閃 茎部欠損	覆土下層	PL98

第 75 号竪穴建物跡 (第 291 図)

位置 調査D区中央部の F 5g7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 64・72・104 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 65 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.06 m, 短軸 4.98 m の方形である。竈が未確認であるため主軸方向は不明であるが, 竈の付設位置を北東壁と仮定すると, 主軸方向は N - 30° - E と推測できる。壁は高さ 16 ~ 18cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

ピット 3 か所。P 1 は深さ 18cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 2・P 3 は深さ 13cm・26cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量

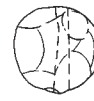
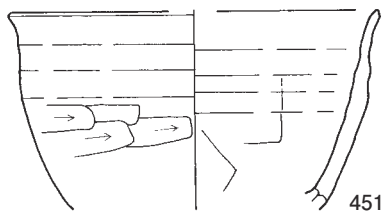
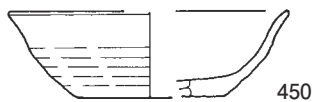
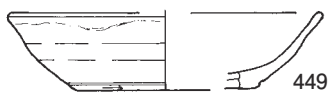
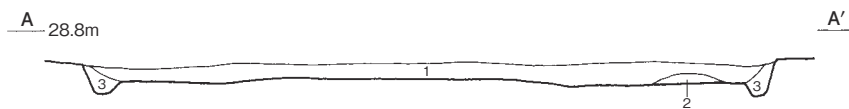
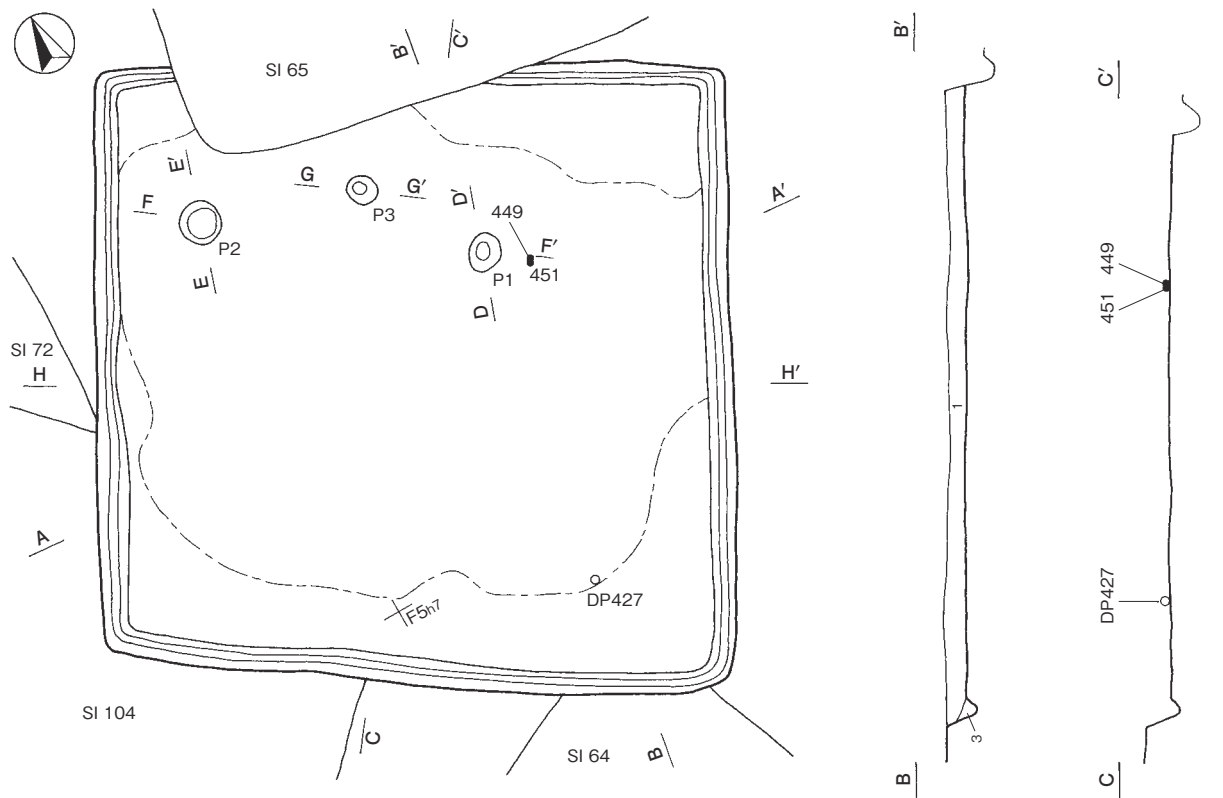
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

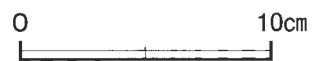
- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 118 点 (坏類 47, 蓋 1, 鉢 1, 甕類 68, 小形甕 1), 須恵器片 5 点 (坏 1, 甕 4), 土製品 1 点 (土玉) のほか, 縄文土器片 5 点 (深鉢), 土師器片 3 点 (高坏 2, 手捏土器 1), 土製品 1 点 (小玉), 剥片 1 点が, 覆土中の広い範囲から出土している。449・451 は北東部, DP427 は南部の床面からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



DP427



第291图 第75号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 75 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 291 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
449	土師器	坏	[12.0]	3.1	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	10%
450	須恵器	坏	[11.0]	4.9	[5.4]	長石・石英・針状物質	明黄褐	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土中	10% 稲敷産
451	土師器	鉢	[14.6]	(7.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	25%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP427	土玉	3.3	3.4	0.5~0.6	40.4	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	床面	

第 79 号竪穴建物跡（第 292・293 図）

位置 調査D区中央部の F 4 f9 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 77 号竪穴建物跡、第 758 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.87 m、短軸 3.66 m の方形で、主軸方向は N - 17° - E である。壁は高さ 32 ~ 45cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 2 か所。竈 1 は北壁西寄り、竈 2 は北壁中央部に付設されている。竈 1 は壁外に煙道部の掘り込みのみを確認した。攪乱を受けているため、規模は長さ 19cm、横幅 16cm しか確認できなかった。竈 2 の規模は、焚口部から煙道部までが 105cm で、燃焼部幅は 52cm ほどと推定できる。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第 5 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に 52cm 掘り込まれ、火床部からはほぼ直立している。竈 1 の袖部が遺存していないことなどから、竈 1 から竈 2 へ作り替えられている。

竈土層解説（各竈共通）

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 6 褐 灰 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黄 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量 | 7 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 3 黄 褐 色 粘土粒子少量 | 8 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 9 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量 | |

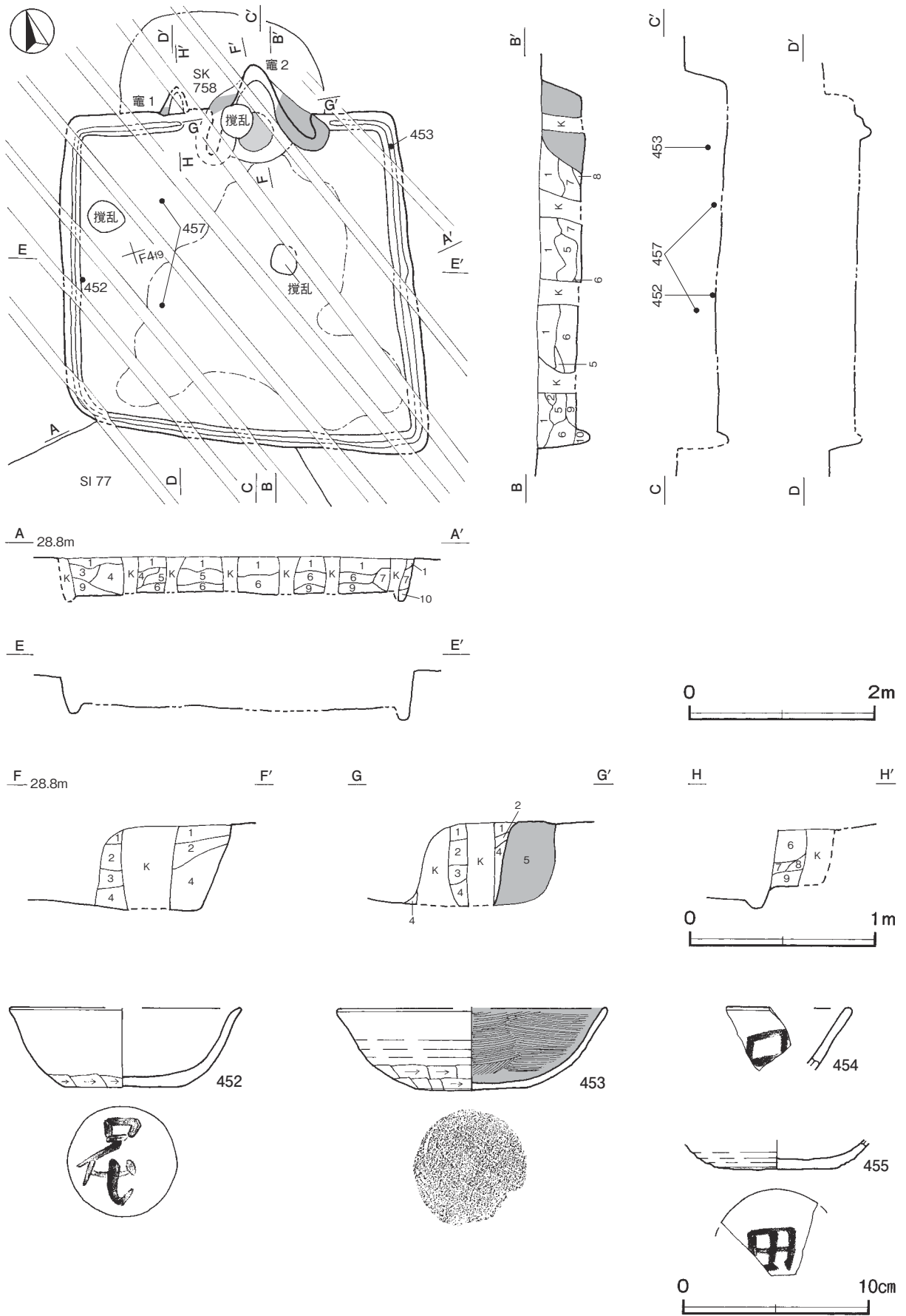
覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

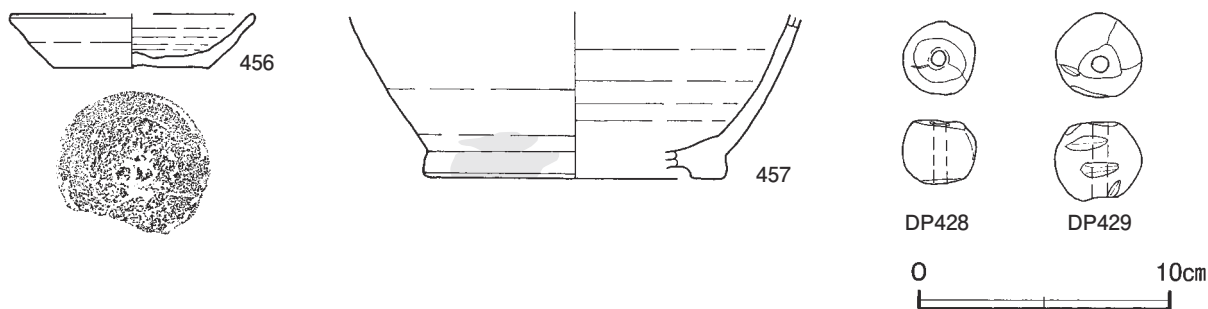
- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック多量 | 9 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐 色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片 501 点（坏類 158、高台付椀 7、蓋 1、皿 4、小皿 1、鉢 1、甕類 329）、須恵器片 54 点（坏 21、蓋 4、盤 1、高盤 1、瓶 5、甕 19、甗 3）、灰釉陶器片 1 点（瓶）、土製品 3 点（土玉 2、管状土錘 1）、金属製品 1 点（釘）のほか、土師器片 1 点（手捏土器）が、覆土中の広い範囲から出土している。452 は西壁際の床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。457 は北部の覆土下層と中央部の覆土中層から出土した破片が接合していることから、埋め戻しの覆土に混入したものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9 世紀後葉に比定できる。



第 292 図 第 79 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 293 図 第 79 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 292・293 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	土師器	坏	[12.2]	4.3	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方のへら削り 底部墨書「口代」	床面	50% PL80
453	土師器	坏	[14.2]	4.4	6.1	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方のへら削り	覆土中層	50%
454	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面墨書「口」	覆土中	5% PL80
455	土師器	坏	-	(1.6)	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部多方向のへら削り 底部墨書「田」	覆土中	5% PL80
456	土師器	小皿	[9.6]	2.1	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転へら削り	覆土中	50%
457	灰釉陶器	瓶	-	(6.4)	11.8	精緻	にぶい黄橙	緻密	外面下端・高台部自然袖付着	覆土下層～中層	10% 黒笹 90 窯式

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP428	土玉	3.0	2.6	0.5	22.6	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP429	土玉	3.4	3.2	0.6	(33.7)	長石・石英・雲母	橙	端部欠損 ナデ 一方からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	

第 81 号竪穴建物跡 (第 294・295 図)

位置 調査D区中央部の F 6c2 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 455 号土坑を掘り込み、第 436・454・457・459 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.63 m、短軸 4.12 m の長方形で、主軸方向は N - 32° - W である。壁は高さ 15 ~ 25cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが 55cm で、燃焼部幅は 24cm である。袖部は地山を削り残し、その上に粘土粒子を主体とする第 8 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は壁外に 15cm 掘り込まれ、火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 粘土粒子中量 |

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 52 ~ 63cm で、規模と配置から支柱穴である。第 1・2 層は埋土、第 3 層は柱痕跡である。すべてのピットの底面から、柱のあたりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 | |

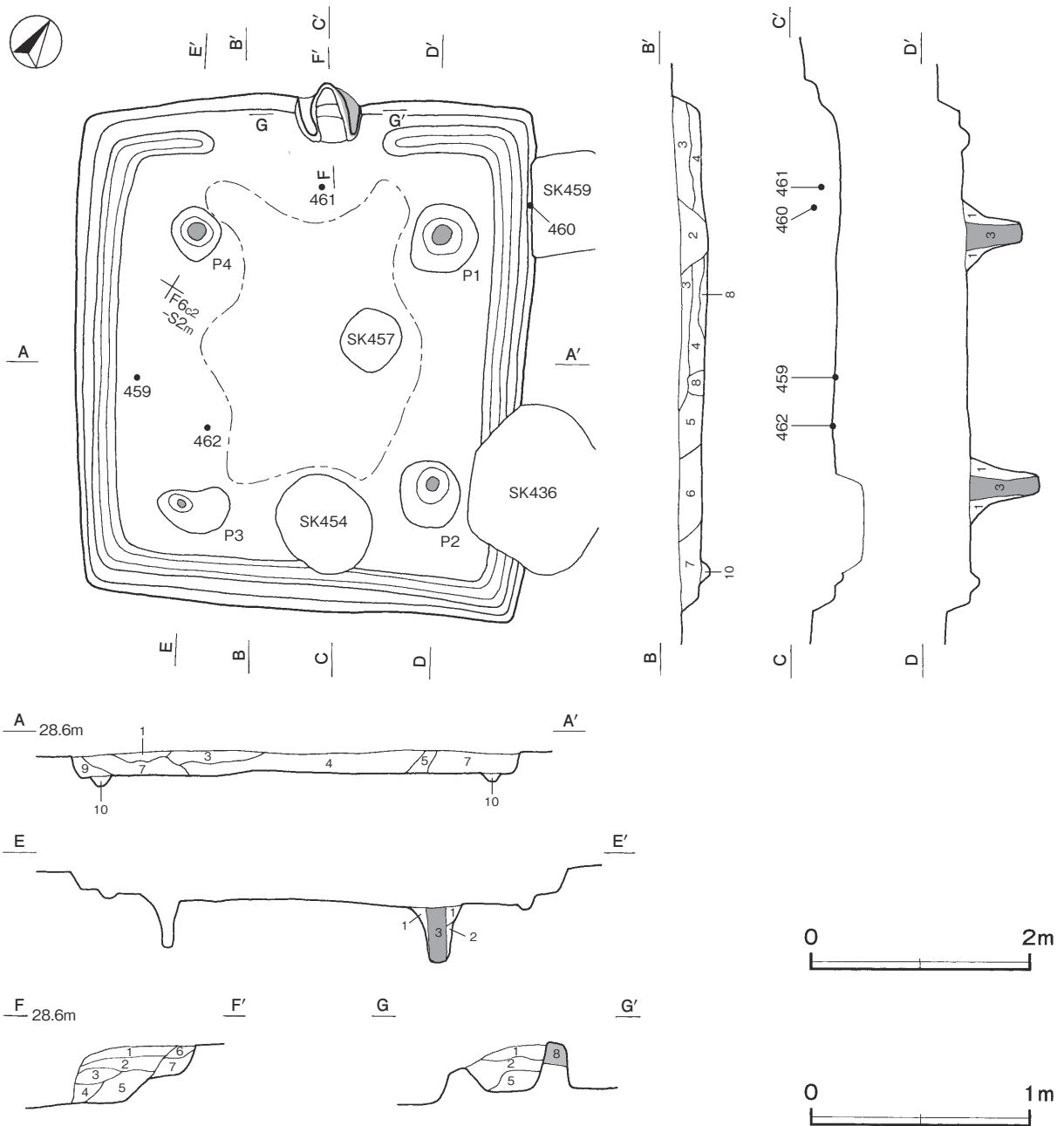
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

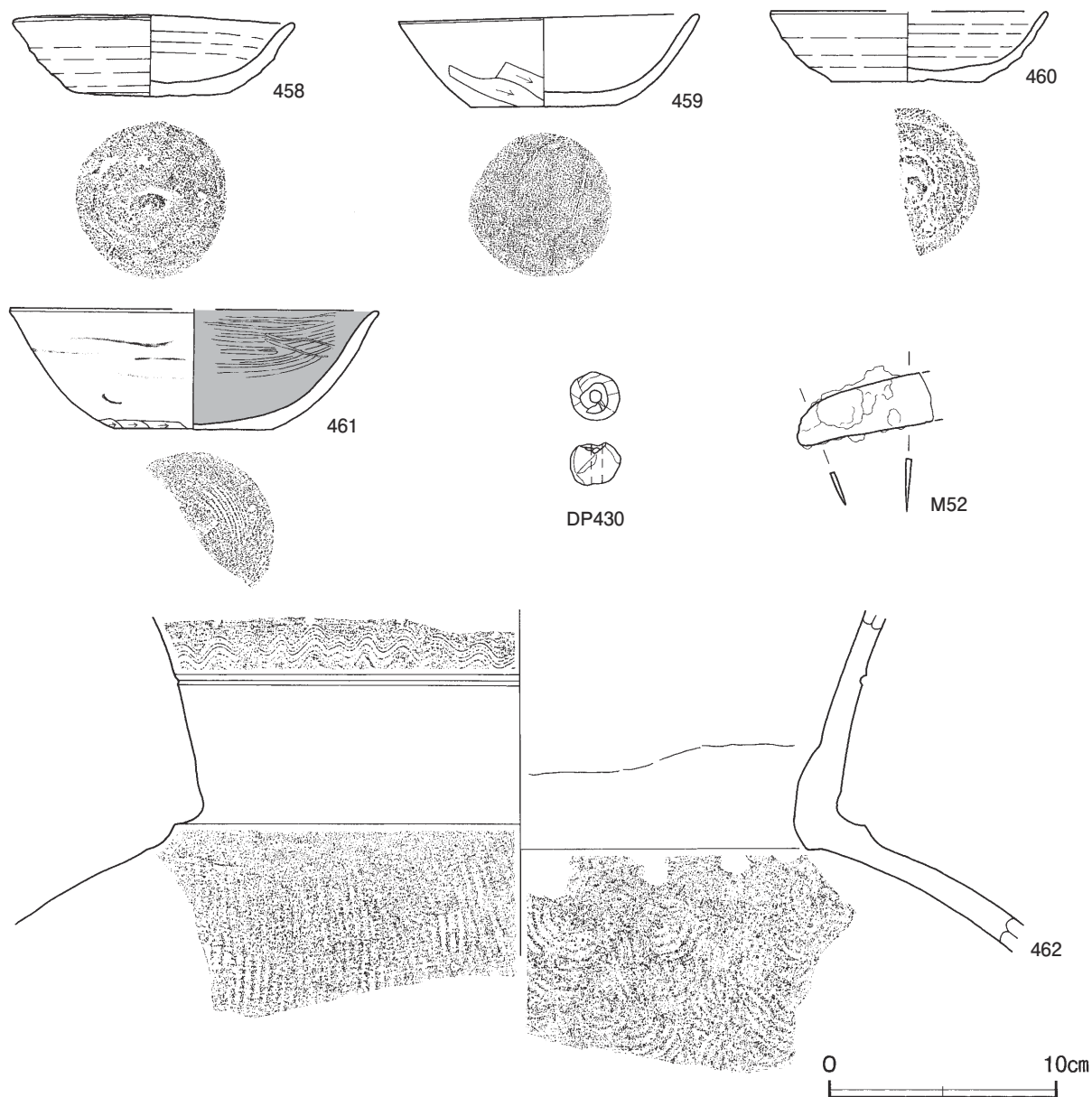
- | | | | |
|----------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 275点 (坏類 60, 高台付碗 2, 甕類 213), 須恵器片 7点 (坏 4, 瓶 1, 甕 1, 大甕 1), 土製品 1点 (土玉), 金属製品 1点 (鎌) のほか、縄文土器片 6点 (深鉢) が、覆土中の広い範囲から出土している。459・462はいずれも西部の床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀前葉に比定できる。



第 294 図 第 81 号 竪穴建物跡実測図



第 295 図 第 81 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 295 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
458	土師器	坏	12.2	3.6	6.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	外・内面摩滅 底部回転ヘラ削り	覆土中	95% PL68
459	土師器	坏	13.1	4.1	6.3	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	70%
460	土師器	坏	[12.2]	3.1	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面摩滅 底部回転ヘラ削り	覆土上層	40%
461	土師器	坏	[16.2]	5.2	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り後ヘラ削り 体部外面墨書「□」	覆土中層	30% PL80
462	須恵器	大甕	-	(15.2)	-	長石・石英・白色針状物質	灰	普通	頸部櫛歯状工具による波状文 一条の沈線文 体部外面上位縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	床面	5% 木葉下窯

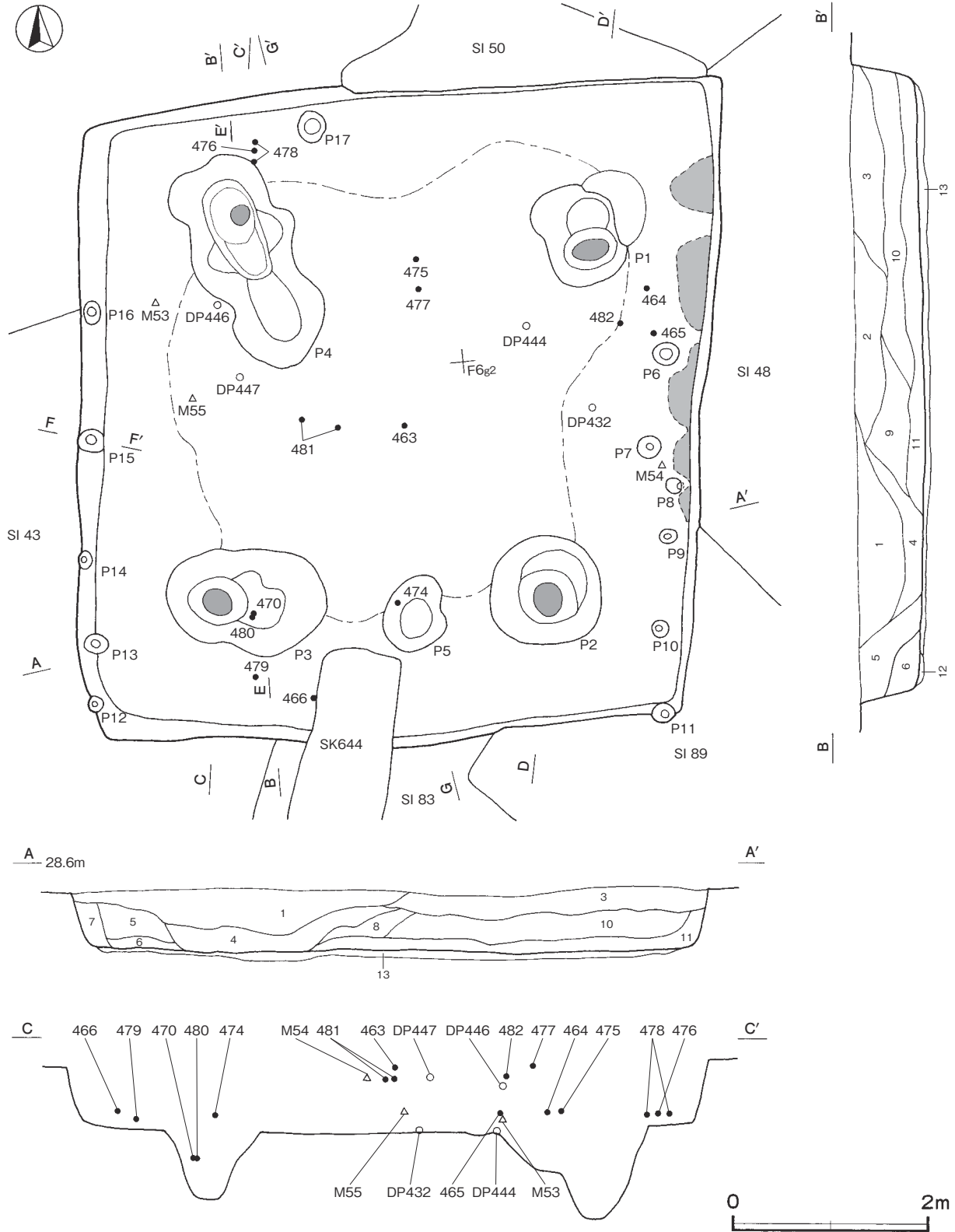
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP430	土玉	2.2	(1.9)	0.4~0.5	(7.59)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 52	鎌	(6.1)	(2.3)	(0.2)	(13.8)	鉄	刃部片 欠損 断面三角形	覆土中	

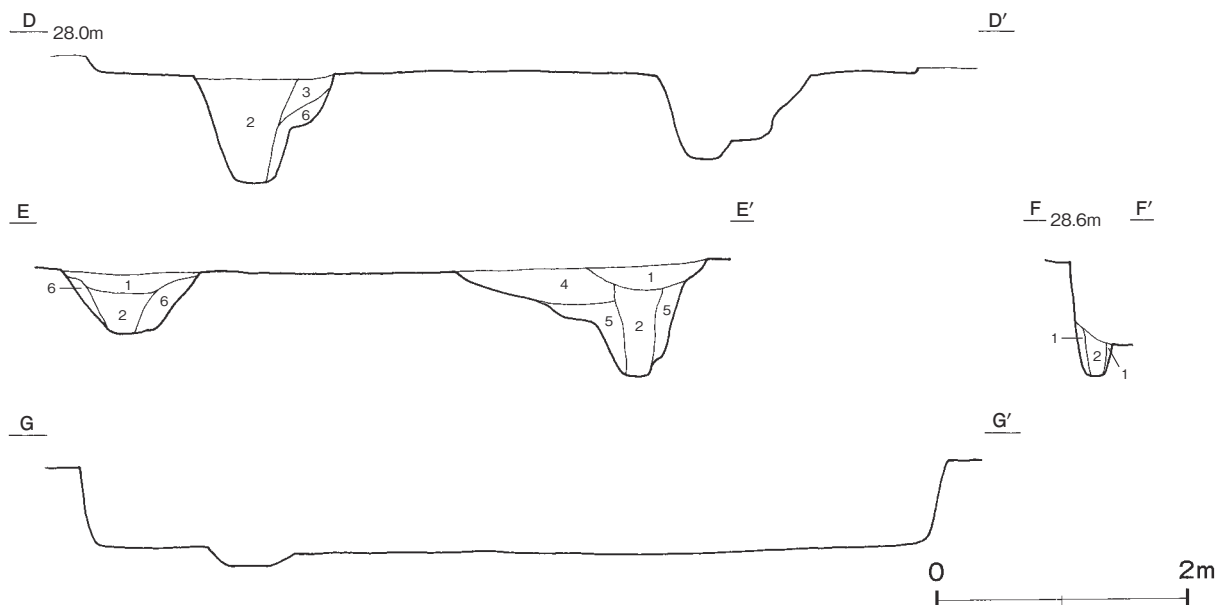
第 82 号 竖穴建物跡 (第 296 ~ 300 図)

位置 調査D区中央部の F 6fl 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 43・48・83 号 竖穴建物跡を掘り込み, 第 50・89 号 竖穴建物及び第 644 号 土坑に掘り込まれている。



第 296 図 第 82 号 竖穴建物跡実測図 (1)



第 297 図 第 82 号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 6.78 m，短軸 6.58 m の方形である。出入り口と考えられるピットが南部中央に位置することから，第 50 号竪穴建物に掘り込まれている北壁に竈が付設されていたと想定でき，主軸方向は $N-7^{\circ}-E$ である。壁は高さ 55 ～ 67cm で，直立している。

床 平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，ロームを含む第 12・13 層を埋土して構築されている。東部に不定形に広がる粘土塊を確認した。

ピット 17 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 66 ～ 94cm で，規模と配置から支柱穴である。第 1 ～ 5 層は柱抜き取り後の堆積土，第 6 層は埋土である。P 5 は深さ 10cm で，南部の中央に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ～ P 17 は深さ 8 ～ 26cm で，北壁・東壁際と西壁下に位置していることから，壁柱穴と考えられる。P 1 ～ P 4 の底面から，柱のあたりを確認した。

P 2 ～ P 4 土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|----------|-----------------------|
| 1 におい黄褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

P 15 土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|---------|-------|-----------|

覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。第 12・13 層は貼床の構築土である。

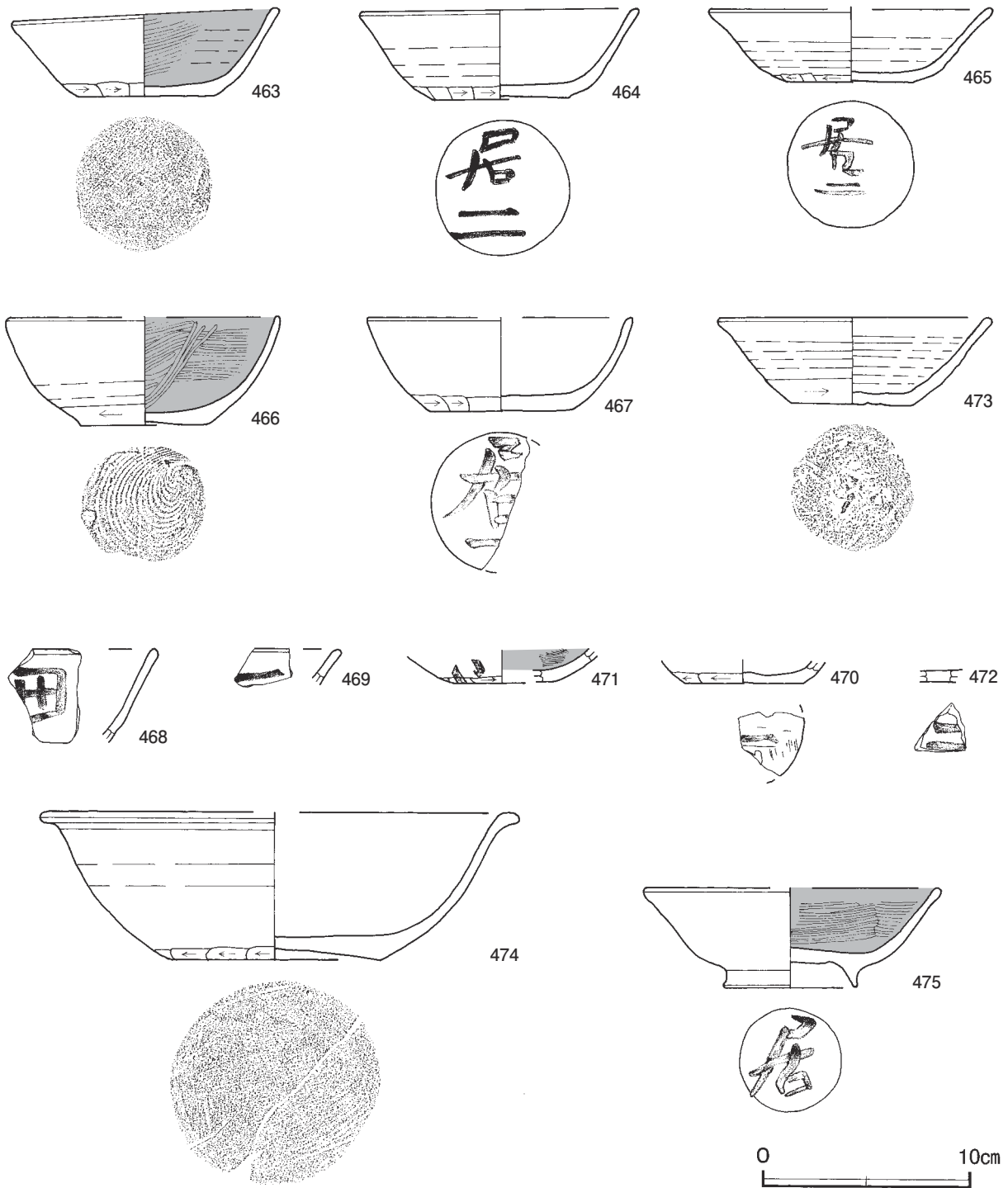
土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 11 におい黄褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

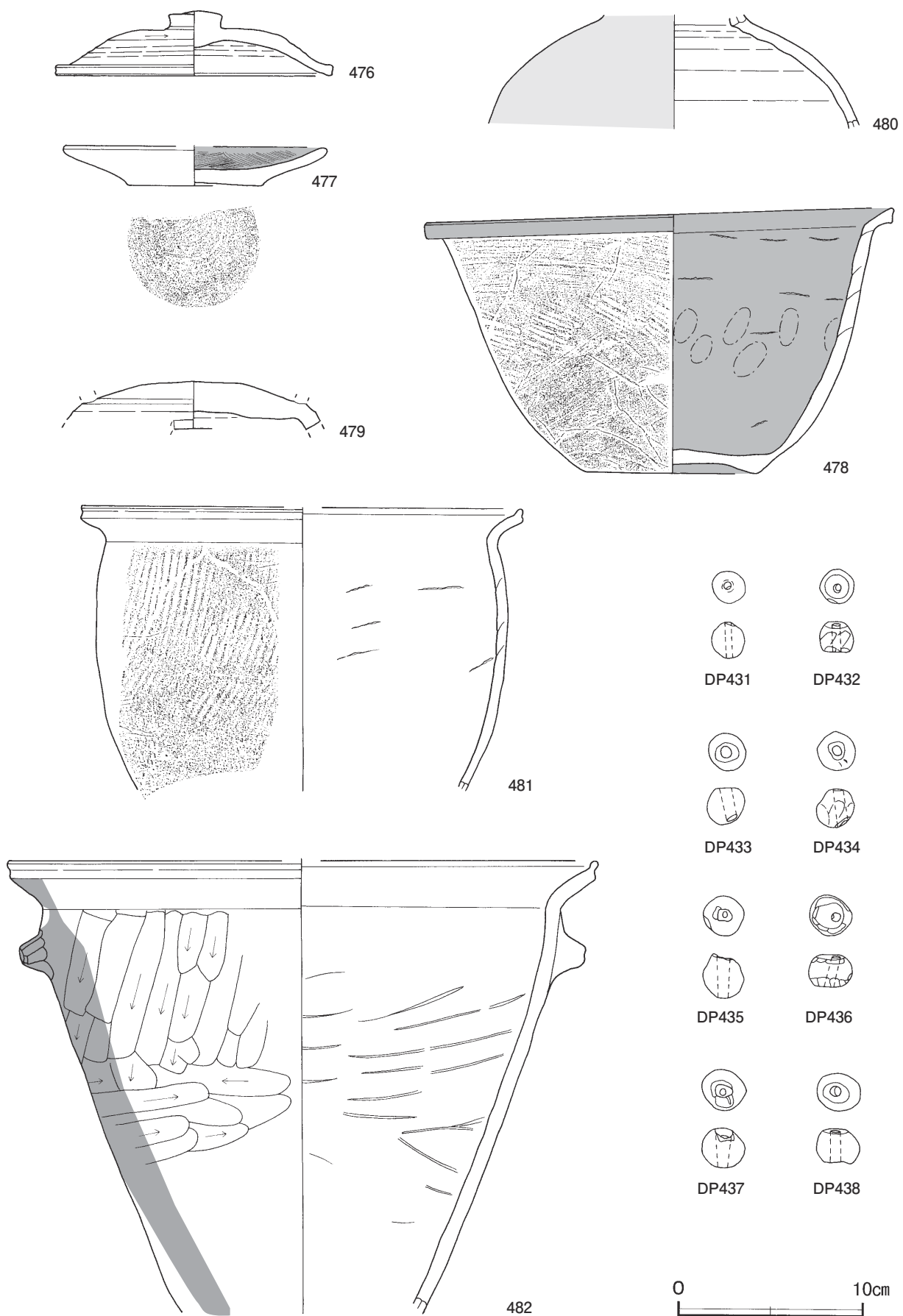
遺物出土状況 土師器片 2,119 点 (坏類 536, 椀 3, 高台付坏 19, 皿 1, 鉢 1, 甕類 1,557, 甑 2), 須恵器片 572 点 (坏類 194, 高台付坏 14, 蓋 50, 皿 2, 円面碗 1, 瓶 2, 甕類 309), 灰釉陶器片 2 点 (瓶, 長頸瓶), 土製品 22 点 (土玉 17, 管状土錘 2, 紡錘車 2, 羽口 1), 金属製品 4 点 (鏃 1, 鎌 2, 不明 1), 粘土塊 9 点,

鉄滓2点のほか、縄文土器片38点（深鉢）、弥生土器片4点（壺）、土師器片3点（高坏2、小形壺1）、須恵器片2点（高坏）、剥片1点が、覆土中の広い範囲から出土している。DP432・DP444は東部の床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。470・480は、いずれもP3の覆土中から出土していることから、埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

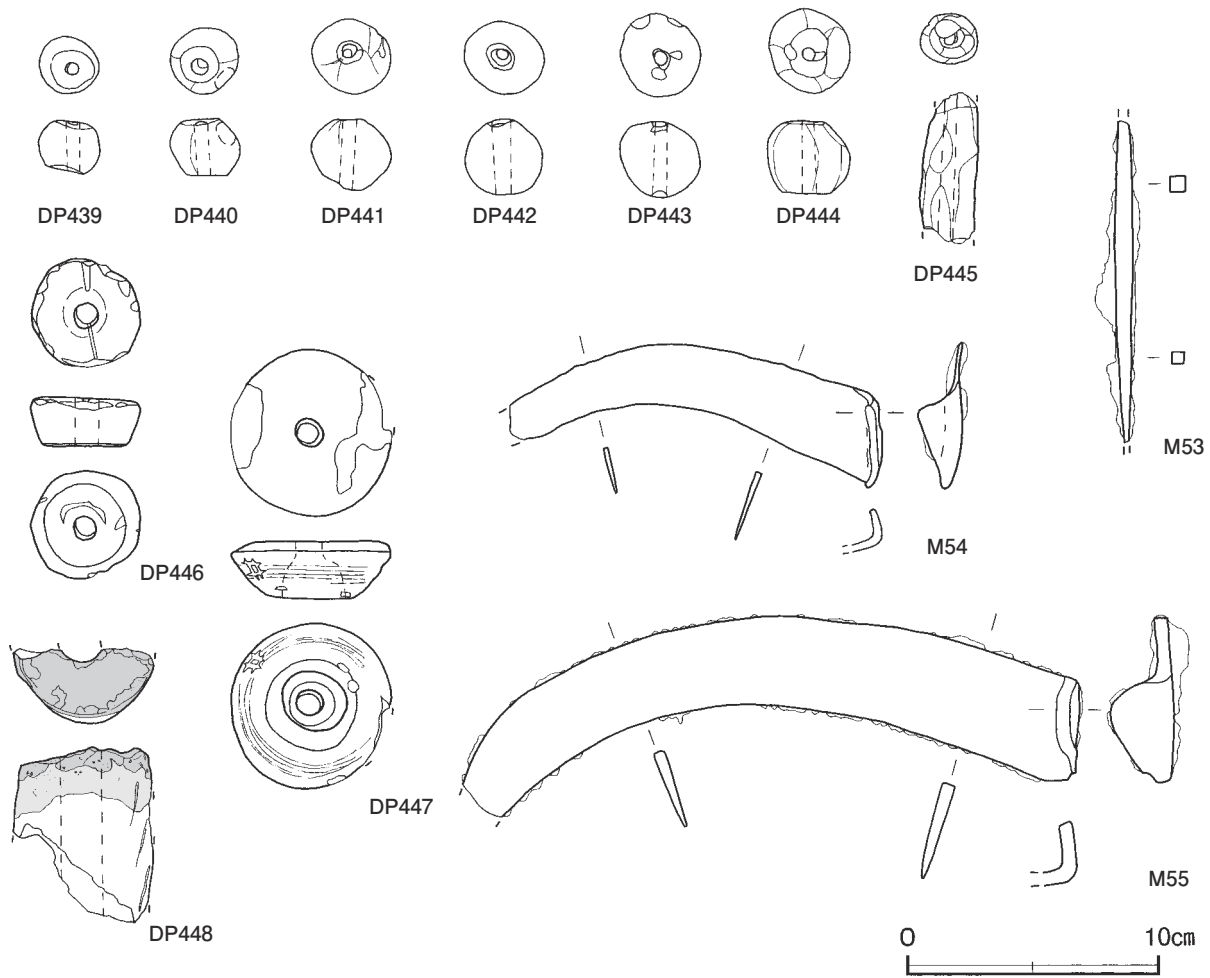
所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。東壁際に広がる粘土は、壁の補強材と考えられる。



第298図 第82号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 299 図 第 82 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 300 図 第 82 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 82 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 298 ~ 300 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
463	土師器	坏	12.6	4.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	覆土上層	100% PL68
464	土師器	坏	13.2	4.3	6.6	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り 底部墨書「居二」	覆土下層	90% PL68
465	土師器	坏	[13.6]	3.5	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り 底部墨書「居二」	覆土下層	65% PL80
466	土師器	坏	[13.0]	5.2	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土下層	60%
467	土師器	坏	[12.6]	4.5	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り 底部墨書「居一」	覆土中	25% PL80
468	土師器	坏	-	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「田」	覆土中	5% PL80
469	土師器	坏	-	(1.8)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面墨書「一」	覆土中	5% PL80
470	土師器	坏	-	(1.0)	[5.8]	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 底部墨書「一」	P3 覆土中層	10% PL80
471	土師器	坏	-	(1.6)	[5.0]	長石・石英	黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り 体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL80
472	土師器	坏	-	(0.6)	-	長石・石英	橙	普通	底部一方方向のヘラ削り 底部墨書「二」	覆土中	5% PL80
473	須恵器	坏	12.9	4.3	6.0	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中	100% 新治窯 PL68
474	土師器	椀	[22.7]	7.1	10.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	40%
475	土師器	高台付坏	[14.1]	4.8	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 底部墨書「居」	覆土下層	75% PL80
476	須恵器	蓋	14.7	3.5	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	99% 桶敷産。 PL69
477	土師器	皿	[14.0]	2.1	7.2	長石・石英・針状物質	浅黄橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
478	土師器	鉢	[25.2]	14.5	9.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位横位の叩き 中位～下位斜位の叩き 叩き後ヘラ削り 内面ナデ 指頭痕 輪積痕	覆土下層	60% PL68
479	須恵器	円面碗	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	碗面部ナデ 脚部欠損 透かし孔2か所残存	覆土下層	20% 新治窯 PL68
480	灰釉陶器	長頸瓶	-	(6.2)	-	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉	P 3 覆土中層	5% 黒笹 14 窯式
481	土師器	甕	[23.6]	(15.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土上層	25%
482	土師器	甗	[31.8]	(24.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 把手貼付 内面ヘラナデ	覆土上層	20% 炭付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP431	土玉	1.8	1.9	0.3~0.4	5.62	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP432	土玉	1.9	1.9	0.4	5.47	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	PL87
DP433	土玉	2.0	2.0	0.6	7.36	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP434	土玉	2.1	2.1	0.5~0.6	7.91	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP435	土玉	2.2	2.4	0.5~0.8	9.16	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP436	土玉	2.3	1.7	0.5	9.62	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP437	土玉	2.4	2.2	0.5~0.9	(9.98)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL87
DP438	土玉	2.4	1.8	0.6	8.96	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP439	土玉	2.5	2.2	0.5	11.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL87
DP440	土玉	2.7	2.3	0.5~0.6	15.3	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	PL88
DP441	土玉	3.1	2.9	0.5	21.6	長石・石英・雲母	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP442	土玉	3.1	3.0	0.6~0.7	23.6	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP443	土玉	3.3	3.0	0.5~0.6	27.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP444	土玉	3.4	3.0	0.5~0.6	(33.5)	長石・石英	にぶい橙	欠損成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に	床面	PL88
DP446	紡錘車	4.4	2.0	0.9~1.0	(36.5)	長石・石英	にぶい赤褐	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL92
DP447	紡錘車	6.6	2.3	1.1	(79.4)	長石・石英・赤色粒子	橙	欠損 [井] 側面ヘラ磨き 一方向からの穿孔 刻書	覆土上層	PL92

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP445	管状土錘	(2.3)	(6.1)	0.5~0.6	(24.6)	長石・石英	橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL90
DP448	羽口	(5.6)	(7.0)	(1.6)	(87.7)	長石・石英	橙	欠損 先端部は溶解して溶着滓付着	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 53	鎌	(12.3)	0.7	0.6	(35.7)	鉄	両端部欠損 断面方形	覆土下層	
M 54	鎌	(14.8)	5.8	0.3	(56.7)	鉄	刃部先端欠損 断面三角形	覆土上層	PL98
M 55	鎌	(24.5)	4.2	0.5	(184)	鉄	刃部先端欠損 断面三角形	覆土下層	PL98

第 83 号 竪穴建物跡 (第 301 ~ 303 図)

位置 調査D区中央部のF 6 h1 区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 43・48 号竪穴建物跡を掘り込み、第 44・82・89 号竪穴建物、第 644 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第 82 号竪穴建物、北東部が第 89 号竪穴建物、南部が第 44 号竪穴建物に掘り込まれているため、東西軸は 4.78 mで、南北軸は 3.00 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、主軸方向は N - 20° - Eである。壁は高さ 35cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。東壁の壁下には壁溝が巡っている。

竈 遺存状況が悪く、火床面の広がり袖部の基部の痕跡から、北壁中央部に付設されていたと推定できる。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 3か所。P1は深さ37cmで、規模と配置から主柱穴である。P2・P3は深さ18cm・29cmで、配置から壁柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化材微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |

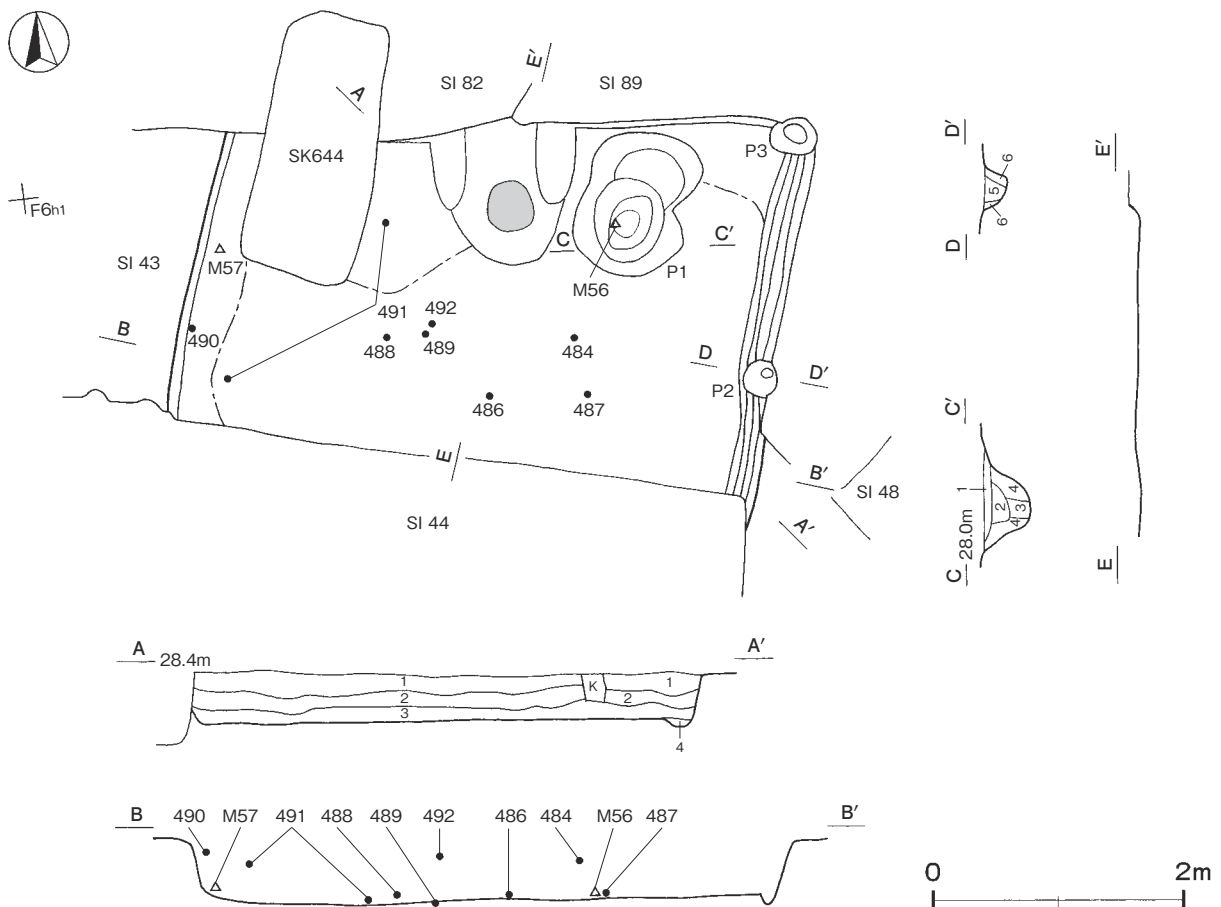
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、周囲から一気に埋められた堆積状況を示している。

土層解説

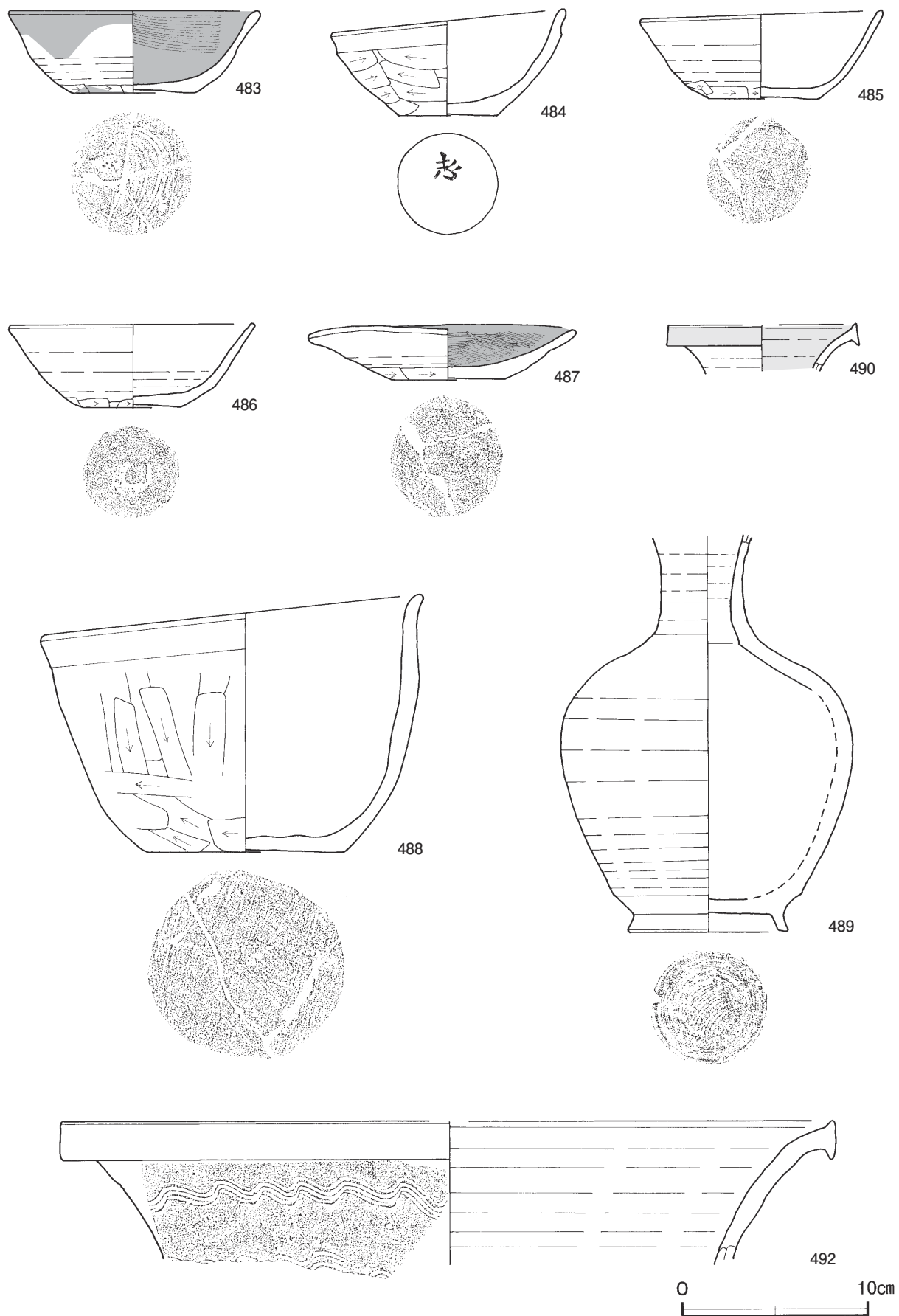
- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片662点(坏類318, 椀3, 高台付坏8, 皿40, 高台付皿2, 鉢3, 壺1, 甕類283, 甑4), 須恵器片211点(坏24, 盤3, 鉢1, 壺1, 長頸瓶4, 甕類173, 大甕1, 甑4), 灰釉陶器1点(長頸瓶), 土製品4点(土玉), 金属製品2点(刀子), 粘土塊6点, 鉄滓5点のほか, 縄文土器片1点(深鉢), 土師器片1点(高坏)が, 覆土中の広い範囲から出土している。486は南部, 489は中央部の床面からそれぞれ出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。491は北部の床面と西部の覆土中層から出土した破片が接合していることから, 廃絶時から埋め戻しの段階にかけて, 破碎後に投棄されたものとみられる。

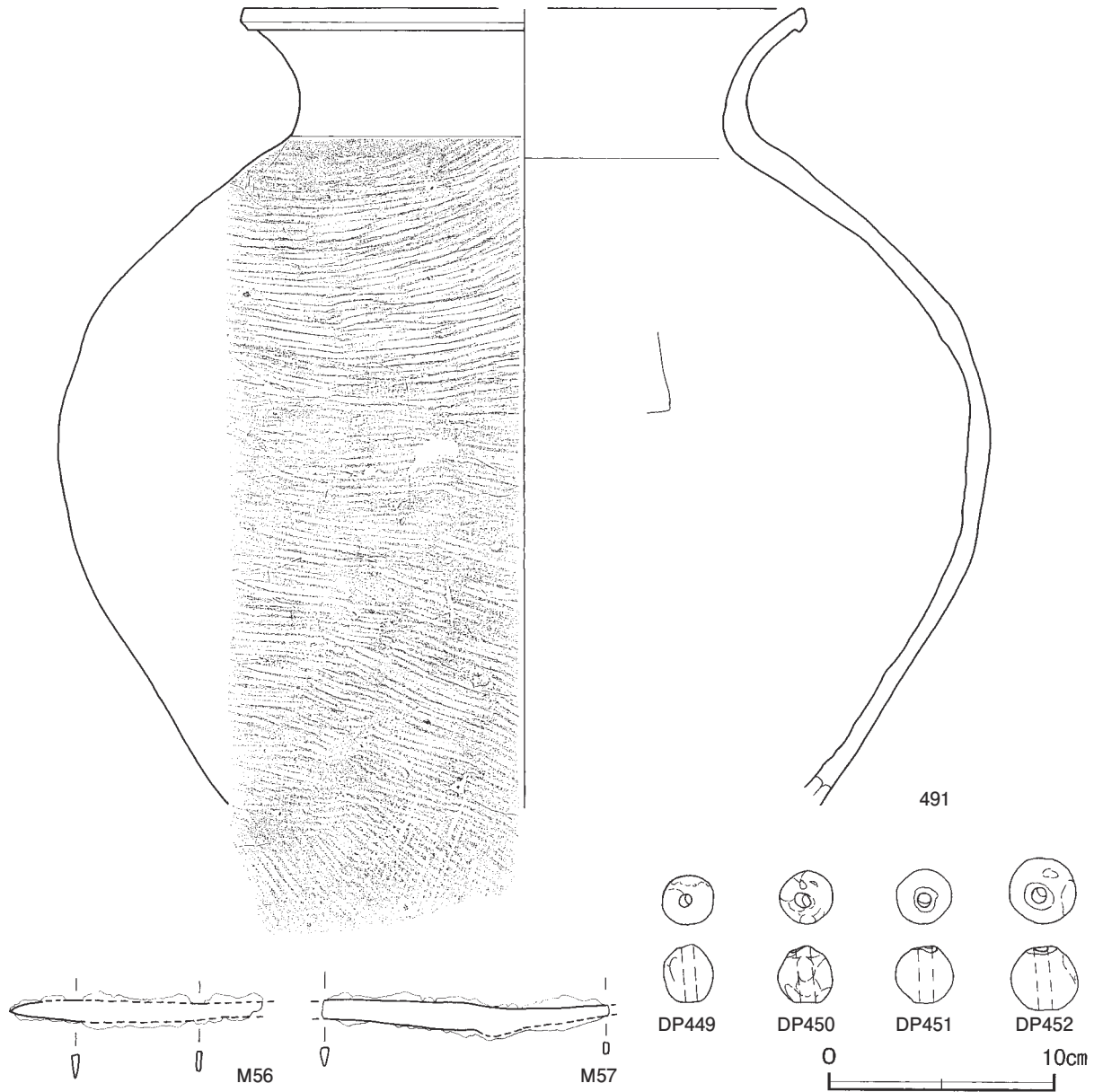
所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9世紀前葉に比定できる。



第301図 第83号竪穴建物跡実測図



第 302 図 第 83 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 303 図 第 83 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 302・303 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
483	土師器	坏	13.2	4.4	6.6	長石・石英	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土中	90% PL69
484	須恵器	坏	12.4	5.7	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部多方向のヘラ削り 底部墨書「志」	覆土上層	99% 産地不明 PL69
485	須恵器	坏	12.8	4.8	5.6	長石・石英・針状物質	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中	95% 稲敷産 PL69
486	須恵器	坏	13.0	4.5	5.4	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	床面	80% 稲敷産
487	土師器	皿	14.0	3.0	6.1	長石・石英	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL69
488	土師器	鉢	20.2	14.0	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL69
489	須恵器	長頸瓶	-	(21.4)	8.6	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	底部回転糸切り後ナデ	床面	90% 新治窯 PL69
490	灰釉陶器	長頸瓶	[10.1]	(2.5)	-	精緻	灰オリープ	緻密	外・内面施釉	覆土上層	5% 黒笹 14 窯式
491	須恵器	甕	[24.8]	(35.3)	-	長石・石英・白色粒子	暗灰	普通	口縁部～頸部外・内面横ナデ 体部上位横位の平行叩き 中位～下位斜位の平行叩き	床面～覆土中層	40% 木葉下窯 PL69
492	須恵器	大甕	[41.6]	(7.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	頸部外面歯状工具による 2 条の波状文	覆土上層	5% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP449	土玉	2.3	2.6	0.5	11.8	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP450	土玉	2.4	2.5	0.6	11.9	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
DP451	土玉	2.5	2.5	0.5	13.6	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP452	土玉	3.0	2.9	0.6	21.5	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 56	刀子	(11.3)	(1.0)	(0.4)	(18.1)	鉄	茎部一部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土下層	
M 57	刀子	(12.6)	[1.4]	0.4	(24.3)	鉄	一部屈曲 両端部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土下層	

第 86 号 竪穴建物跡 (第 304・305 図)

位置 調査D区北部のE 5j7区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 87 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 452・460・461・537・557 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.08 m, 短軸 4.07 mの方形で, 主軸方向はN - 6° - Wである。壁は高さ 18 ~ 27cmで, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ローム粒子を含む第 8 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く, 右袖部のみを確認した。規模は焚口部から煙道部まで 98cmで, 燃烧部幅は 25cmまで確認した。袖部は, 床面から 11cm掘りくぼめた部分に第 12 層を埋土して, その上に粘土粒子を主体とする第 8 ~ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 7 cmほど掘り込み, ロームブロックを含む第 11 層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm掘り込まれ, 火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 10 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 5 灰黄褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |

ピット 5か所。P 1 ~ P 5 は深さ 30 ~ 51cmで, 規模と配置から支柱穴である。第 1 ~ 4 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 5・6 層は埋土である。P 2 の底面から, 円形の柱のあたりを確認した。P 2 から P 5 への柱の立て替えが確認できた。

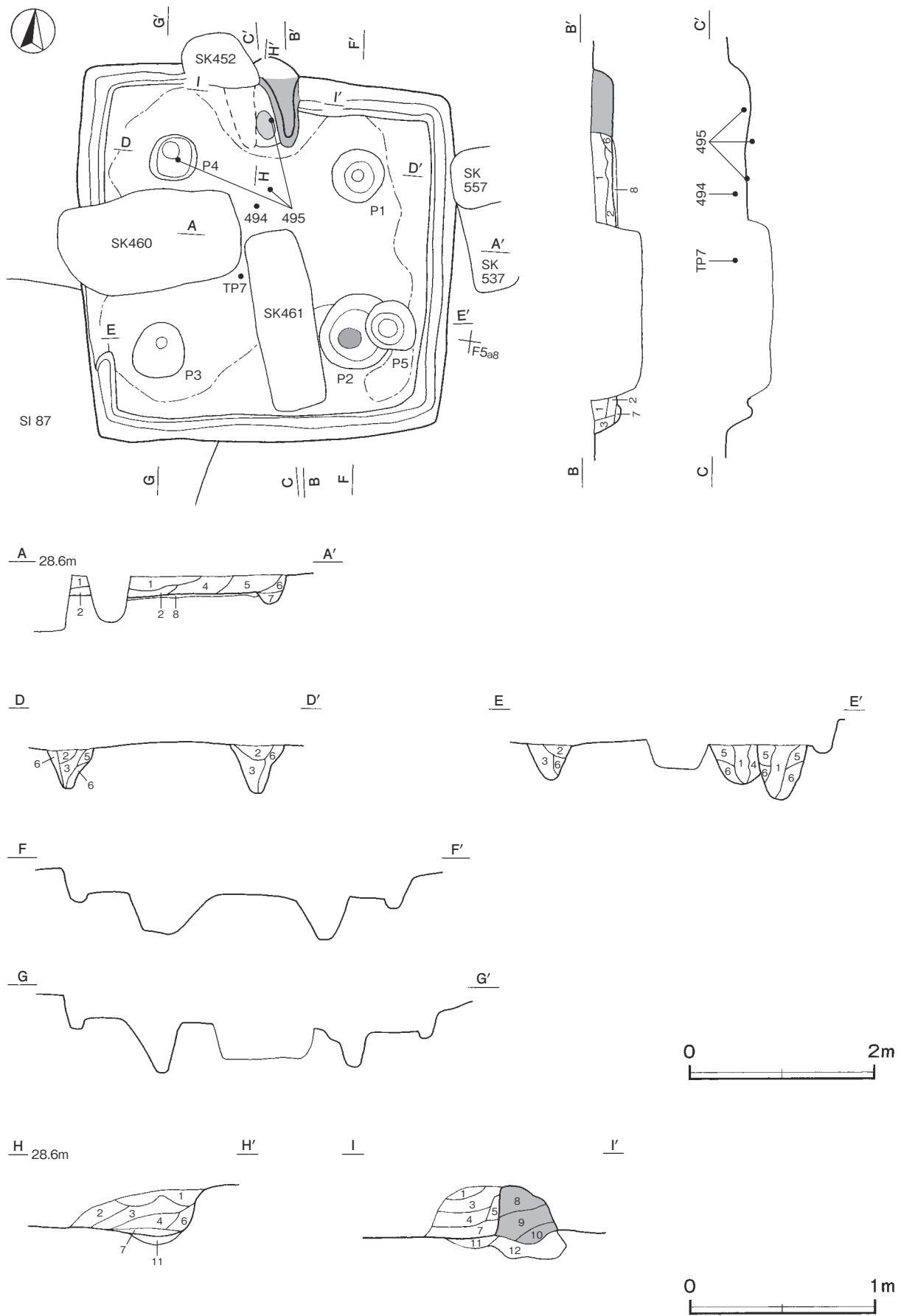
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

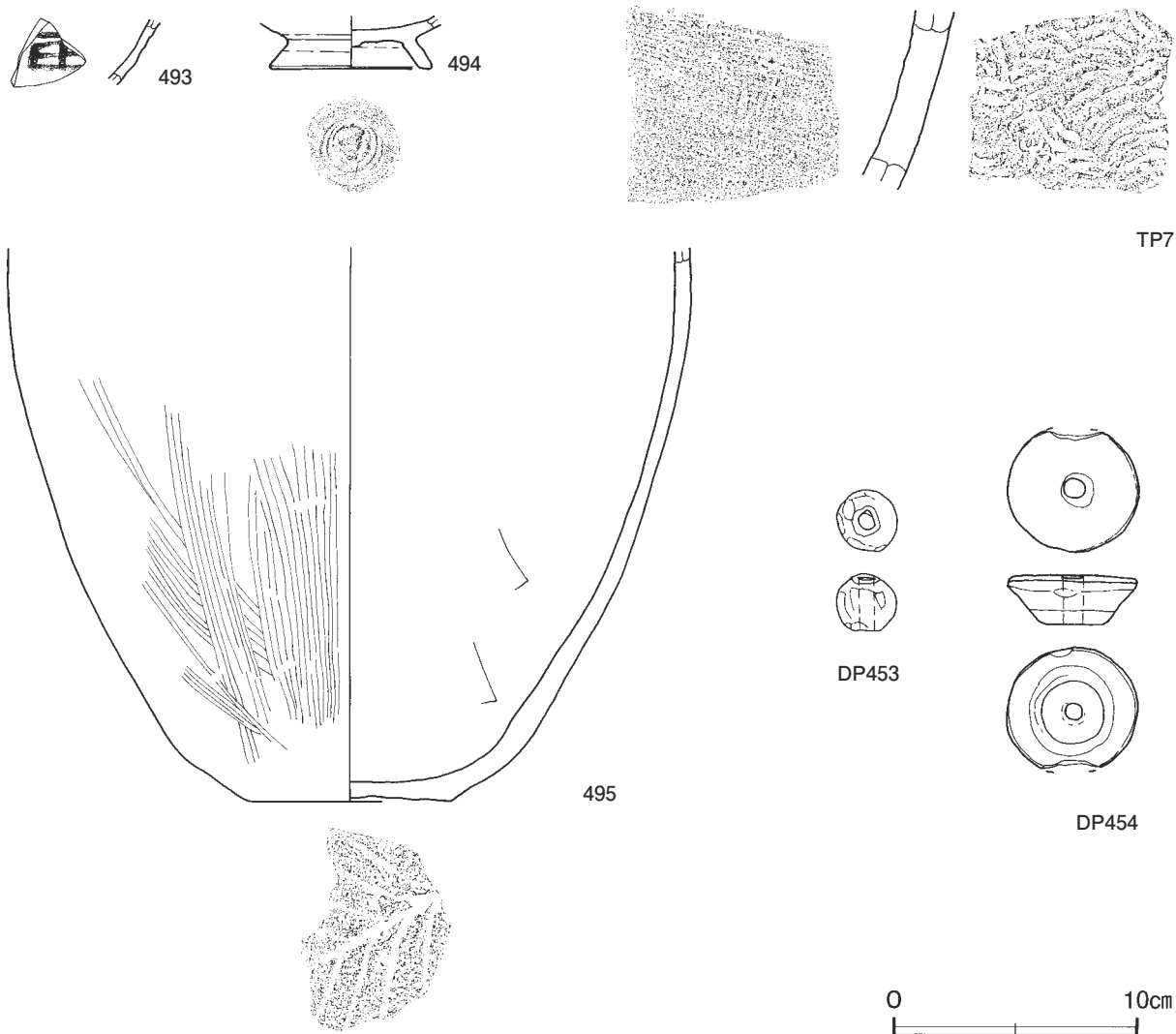
- | | | | |
|----------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |



第 304 图 第 86 号竖穴建物跡実測图

遺物出土状況 土師器片 118 点（坏類 44，高台付椀 8，皿 1，甕類 65），須恵器片 29 点（坏 3，蓋 2，瓶 1，甕 23），土製品 2 点（土玉，紡錘車），鉄滓 1 点が出土している。495 は北部の床面，竈構築土，P 4 覆土中から出土した破片が接合していることから，廃絶直後における埋め戻しの段階で破碎されて投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀後葉に比定できる。



第 305 図 第 86 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 86 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 305 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
493	土師器	坏	-	(2.8)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL80
494	土師器	高台付椀	-	(2.2)	6.5	長石・石英	明黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	10%
495	土師器	甕	-	(22.8)	8.2	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面・竈火床面 P 4 覆土上層	20%
TP 7	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP453	土玉	2.5	2.3	0.7	12.8	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP454	紡錘車	5.4	2.0	0.8	(47.4)	長石・石英・赤色粒子	橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL92

第 87 号 竪穴建物跡 (第 306・307 図)

位置 調査D区中央部の F 5 a7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 88 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 86 号 竪穴建物, 第 462 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.42 m, 短軸 2.90 m の長方形である。硬化面の広がりから, 第 86 号 竪穴建物に掘り込まれている北壁に竈が付設されていたと想定すると, 主軸方向は N - 5° - E である。壁は高さ 7 ~ 15 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, ロームブロック・焼土ブロックを含む第 9 層を埋土して構築されている。北西部の床下から, 長径 96 cm, 短径 85 cm の楕円形で, 深さ 27 cm の土坑状の掘り込みを確認した。北西部と南東部を除いた壁下には壁溝が巡っている。

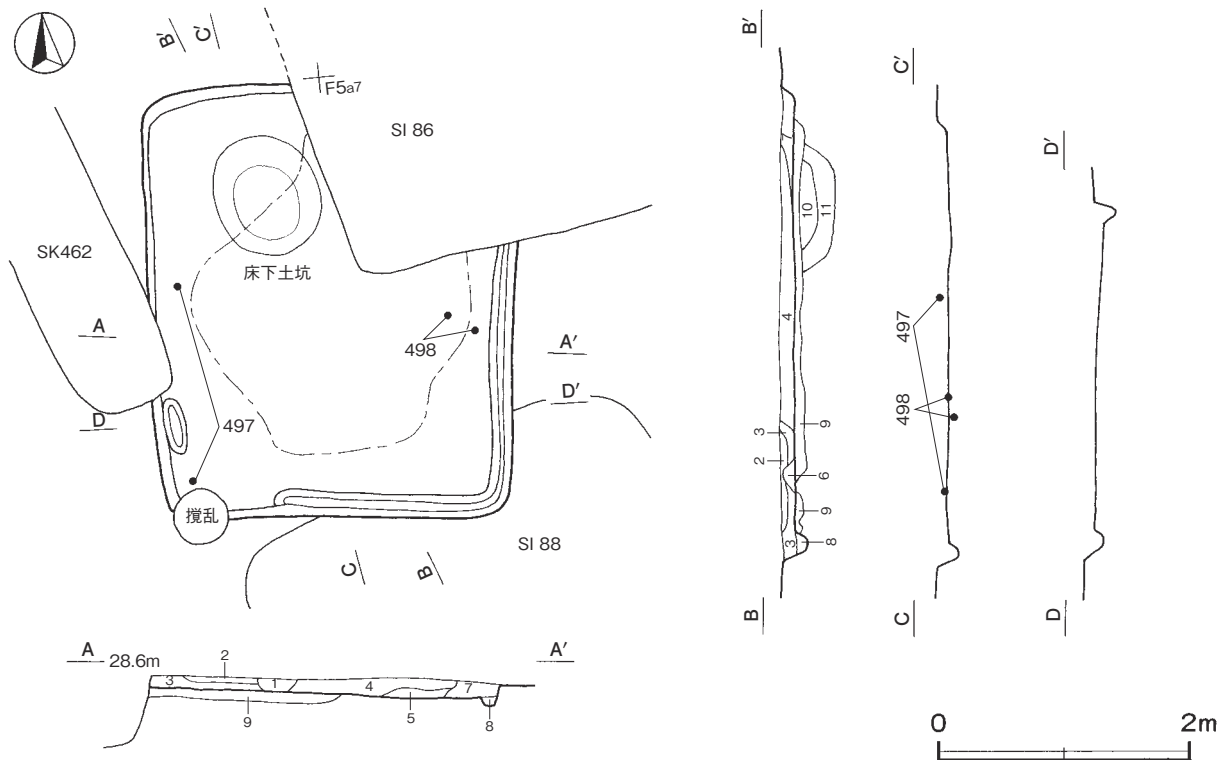
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。第 9 層は貼床の構築土, 第 10・11 層は床下土坑の覆土である。

土層解説

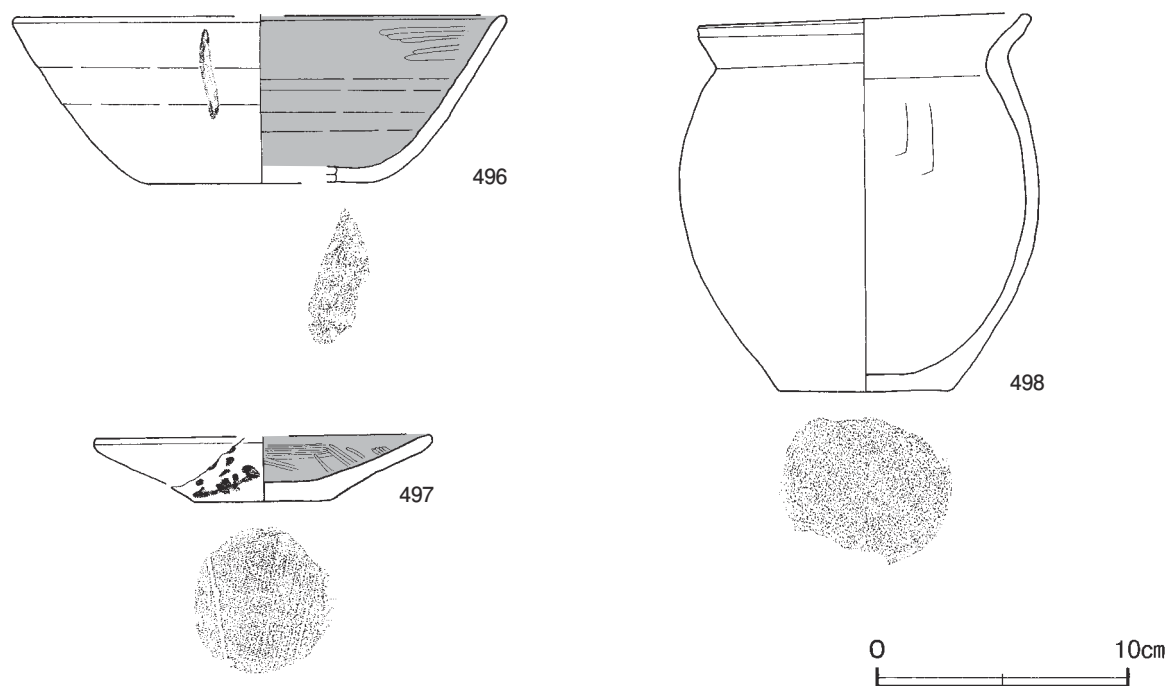
- | | | | |
|----------|-------------------|----------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 111 点 (坏類 48, 高台付坏 1, 皿 3, 甕類 58, 小形甕 1), 須恵器片 18 点 (坏 6, 甕 12) が出土している。498 は東部の床面から出土した破片が接合していることから, 廃絶時に破碎されて投棄されたものとみられる。497 は南西部の床面と西部の覆土下層から出土した破片が接合していることから, 廃絶後から埋め戻しの段階で破碎されて廃棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



第 306 図 第 87 号 竪穴建物跡実測図



第 307 図 第 87 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 87 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 307 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
496	土師器	坏	[19.4]	6.6	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラ磨き 底部一方のヘラ削り 体部外面墨書「一」	覆土中	15%
497	土師器	皿	[13.2]	2.6	5.7	長石・石英・針状物質	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部一方のヘラ削り 体部外面墨書「口」	床面～覆土下層	30% PL80
498	土師器	小形甕	13.0	15.1	6.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面摩滅 内面ヘラナデ	床面	60%

第 89 号竪穴建物跡 (第 308 ~ 310 図)

位置 調査D区中央部のF 6 h2 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 48・82・83 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.92 m, 短軸 3.48 mの長方形で, 主軸方向はN - 41° - Wである。壁は高さ 32 ~ 42cmで, 直立している。

床 平坦であるが, 明確な硬化面は認められない。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 146cmで, 燃焼部幅は 49cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土ブロックを主体とする第 8 層を積み上げて構築されている。火床部もほぼ床面と同じ高さを使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床面の北端で土製の支脚 (DP461・DP463) を検出した。燃焼部および煙道部は壁外に 78cm掘り込まれ, 火床部から外傾している。第 3 層は天井部の崩落土層である。

甕土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量, ローム粒子微量 |

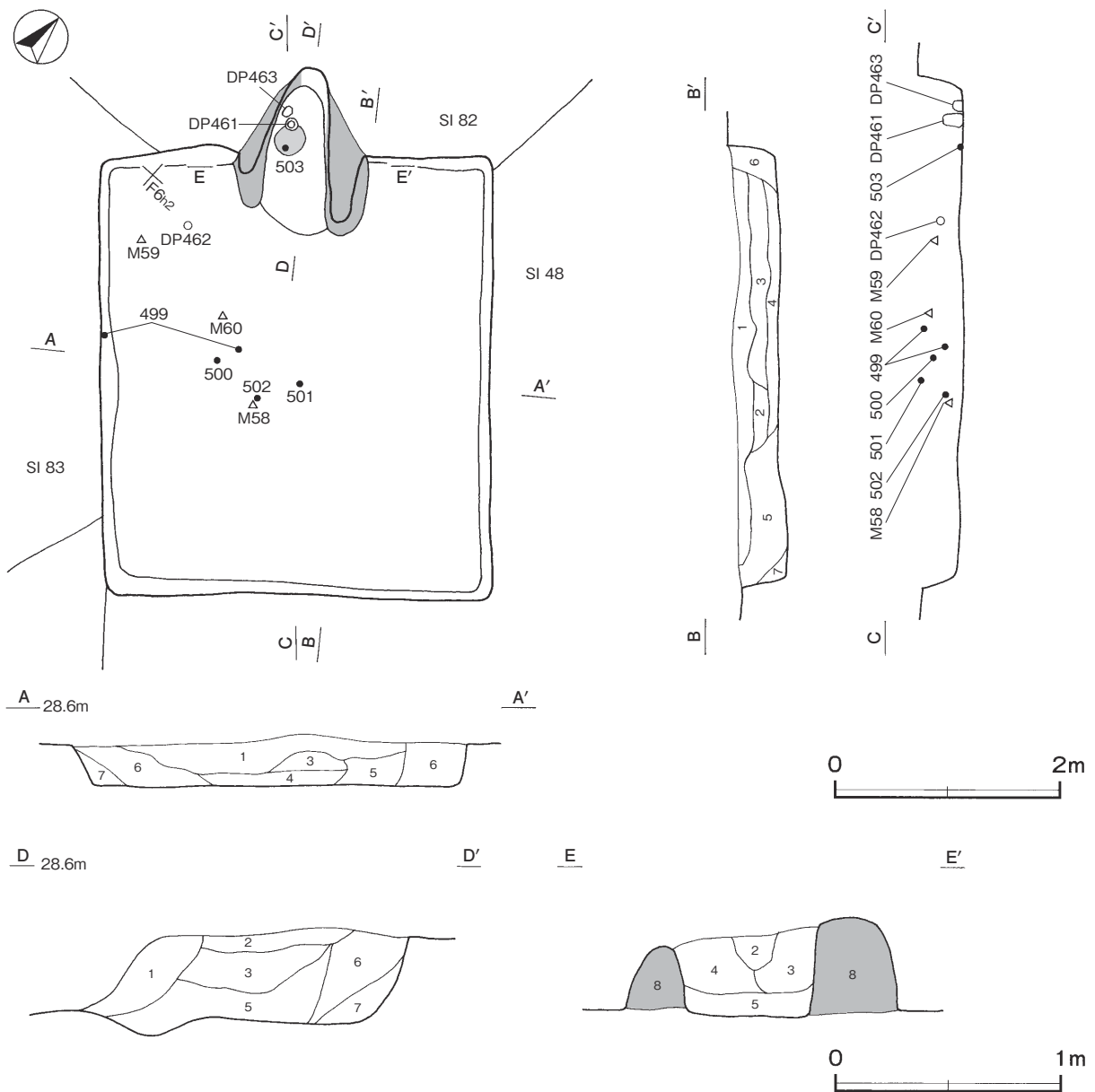
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況であることから、埋め戻されている。

土層解説

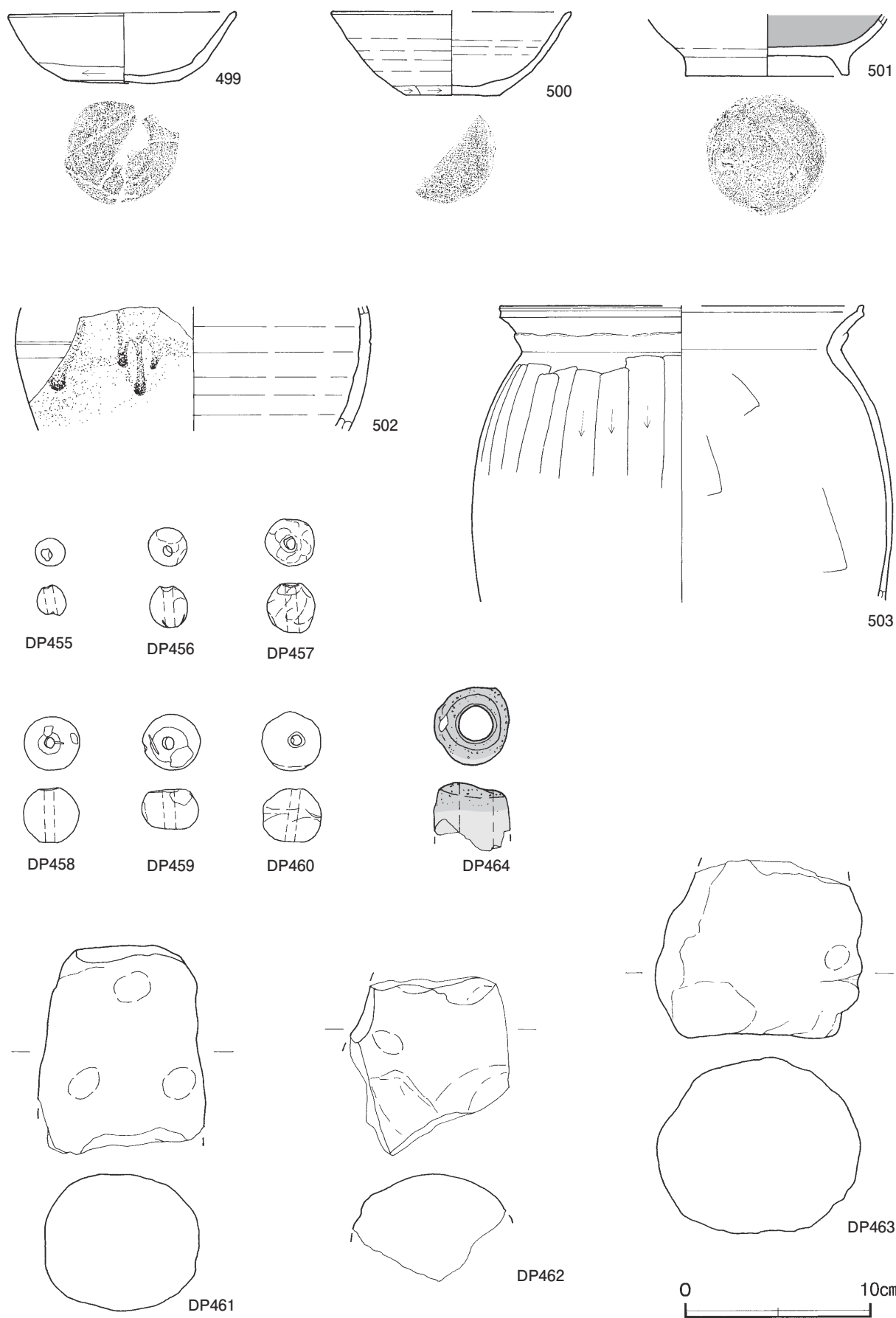
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 433 点 (坏類 122, 椀 3, 高台付椀 8, 皿 10, 鉢 1, 甕類 287, 甑 2), 須恵器片 121 点 (坏 10, 蓋 3, 鉢 1, 瓶 3, 甕類 103, 甑 1), 灰釉陶器片 1 点 (瓶), 土製品 12 点 (土玉 7, 支脚 3, 羽口 2), 金属製品 1 点 (刀子), 粘土塊 4 点, 鉄滓 2 点のほか, 縄文土器片 6 点 (深鉢) が, 覆土中の広い範囲から出土している。503 は竈火床部から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。502・M 58 はいずれも中央部の覆土下層から出土していることから, 埋め戻しとともに混入したものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉に比定できる。



第 308 図 第 89 号竪穴建物跡実測図



第 309 図 第 89 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 310 図 第 89 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 89 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 309・310 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
499	土師器	坏	12.2	3.9	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面摩滅 底部回転ヘラ削り	覆土下層～上層	95% PL70
500	須恵器	坏	[12.8]	4.5	5.0	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	50% 稲敷産
501	土師器	高台付椀	-	(3.3)	8.7	長石・石英・赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土上層	20%
502	灰釉陶器	瓶	-	(6.6)	-	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉	覆土下層	5% 黒笹 90 窯式
503	土師器	甕	[19.5]	(15.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	火床部	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP455	土玉	1.6	1.6	0.5	3.11	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP456	土玉	2.1	2.2	0.5	8.52	長石・石英	褐灰	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	煤付着
DP457	土玉	2.6	2.7	0.5	16.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP458	土玉	2.9～3.0	2.9	0.5	(25.5)	長石・石英	橙	一部欠損に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP459	土玉	3.0～3.1	2.2	0.6	(20.2)	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	端部欠損に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP460	土玉	3.1～3.2	2.9	0.5	30.5	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP461	支脚	(11.3)	5.9	9.0	(707)	長石・石英・赤色粒子	橙	基部欠損 外面摩滅 指頭痕	火床部	DP463 と同一。 PL93
DP462	支脚	(9.6)	[8.6]	[19.8]	(320)	長石・石英・雲母	にぶい橙	欠損 外面摩滅	覆土中層	
DP463	支脚	(9.7)	8.2	11.2	(946)	長石・石英・赤色粒子	橙	上部欠損 外面摩滅	火床部	DP461 と同一。

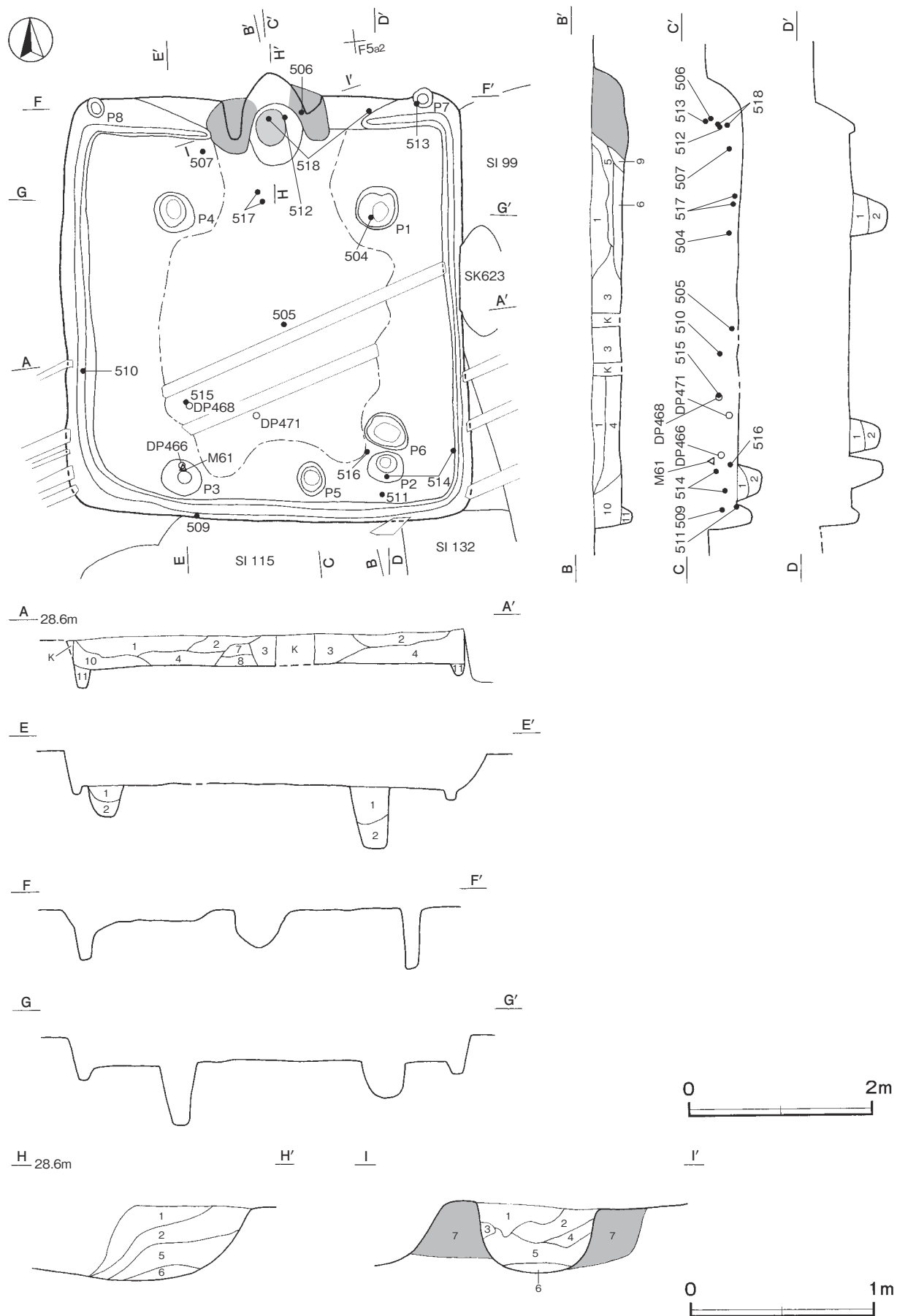
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP464	羽口	(3.6)	3.9～4.2	1.9	(31.6)	長石	橙	下部欠損 先端部は溶解して溶着滓付着	覆土中	PL93

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 58	刀子	(8.7)	1.3	0.3	(10.7)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土下層	PL97
M 59	椀形滓	7.1	7.4	3.3	194	鉄	着磁性なし 表面は暗赤褐色 裏面は暗青灰色	覆土中層	PL99
M 60	椀形滓	8.7	8.8	4.4	300	鉄	着磁性なし 表面は明赤褐色 裏面は暗褐色	覆土上層	PL99

第 98 号竪穴建物跡 (第 311～314 図)

位置 調査D区中央部の F 5a1 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 99・115・132 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 623 号土坑に掘り込まれている。



第 311 図 第 98 号竖穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.64 m, 短軸 4.38 m の方形で, 主軸方向は N-7°-E である。壁は高さ 30 ~ 38cm で, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で, 燃焼部幅は 57cm である。袖部は, 地山をわずかに掘り残し, その上に砂質粘土ブロックを主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを利用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に 28cm 掘り込まれ, 火床部からはほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量, 炭化物微量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

ピット 8か所。P 1 ~ P 4 は深さ 34 ~ 70cm で, 規模と配置から支柱穴である。P 5 は深さ 24cm で, 南壁際の中央部やや東寄りに位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 33cm で, 配置から補助柱穴と考えられる。P 7・P 8 は深さ 64cm・45cm で, 性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|------------------------|----------|-----------|

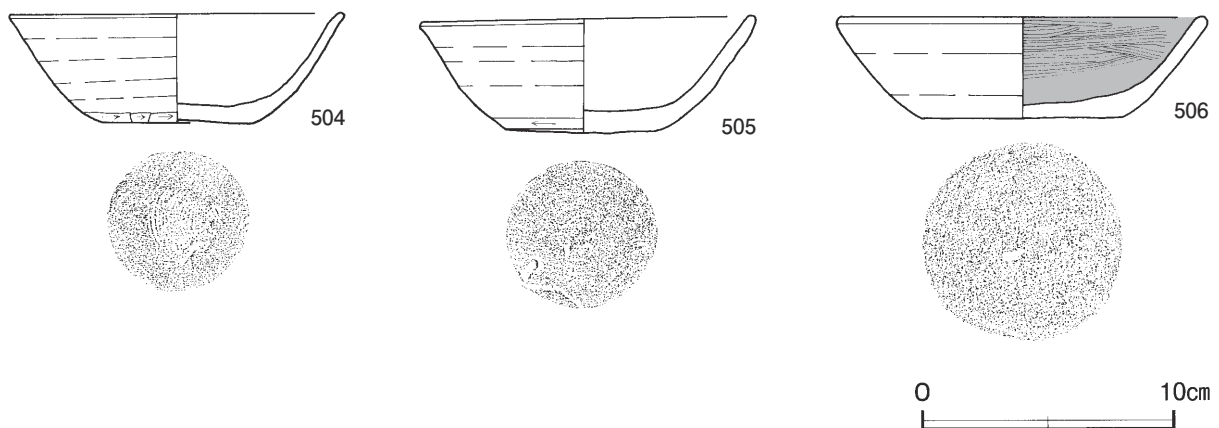
覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説

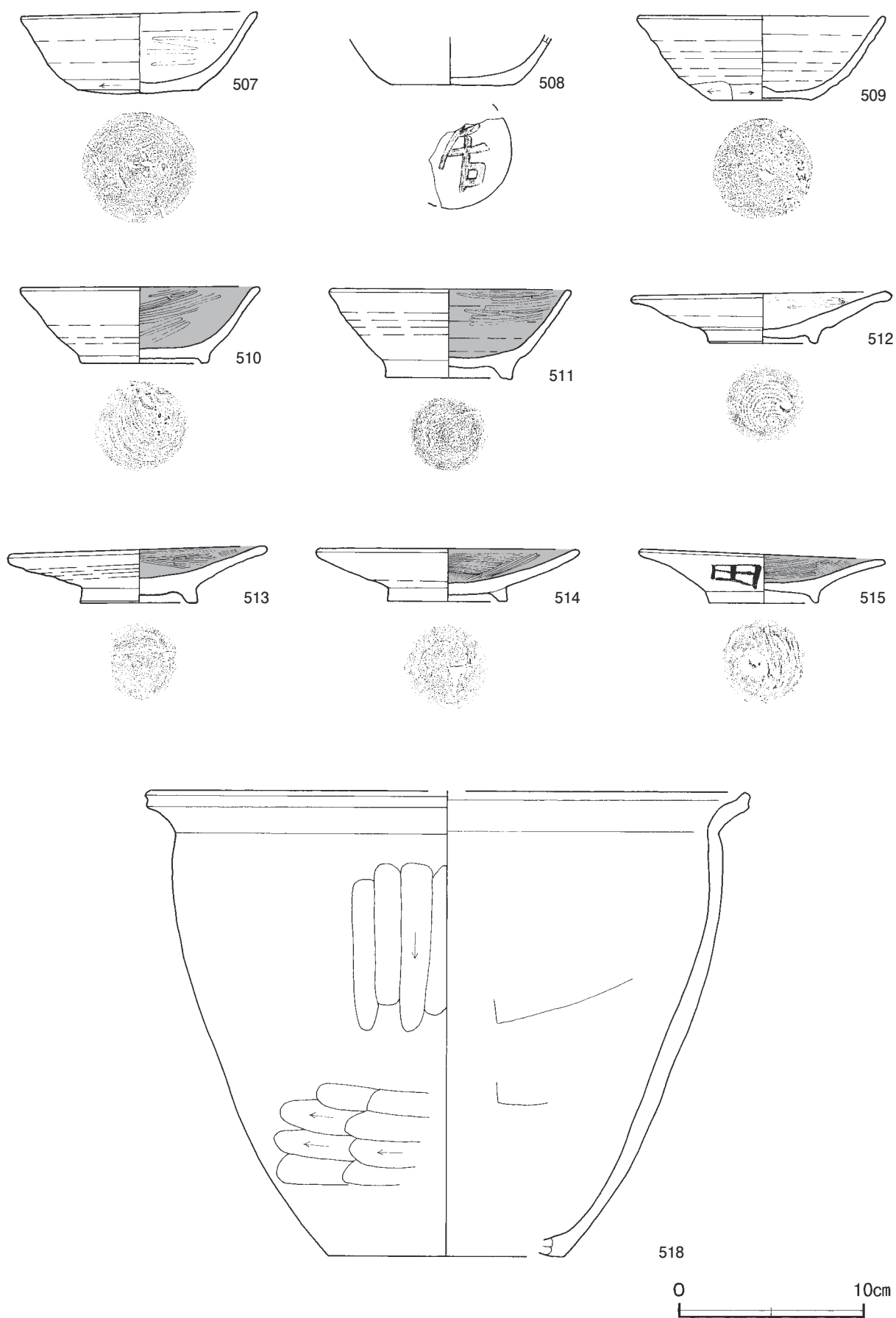
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 733 点 (坏類 213, 高台付椀 15, 蓋 4, 皿 10, 甕類 486, 小形甕 3, 甗 1), 須恵器片 97 点 (坏 9, 蓋 8, 鉢 1, 瓶 1, 長頸瓶 1, 甕類 72, 甗 5), 土製品 9 点 (土玉 6, 紡錘車 2, 羽口 1), 石器 1 点 (砥石), 金属製品 2 点 (鏃, 不明), 自然遺物 1 点 (種子), 粘土塊 10 点, 鉄滓 4 点のほか, 土師器片 9 点 (高坏 1, 手捏土器 8) が, 覆土中の広い範囲から出土している。511 は南東部の床面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

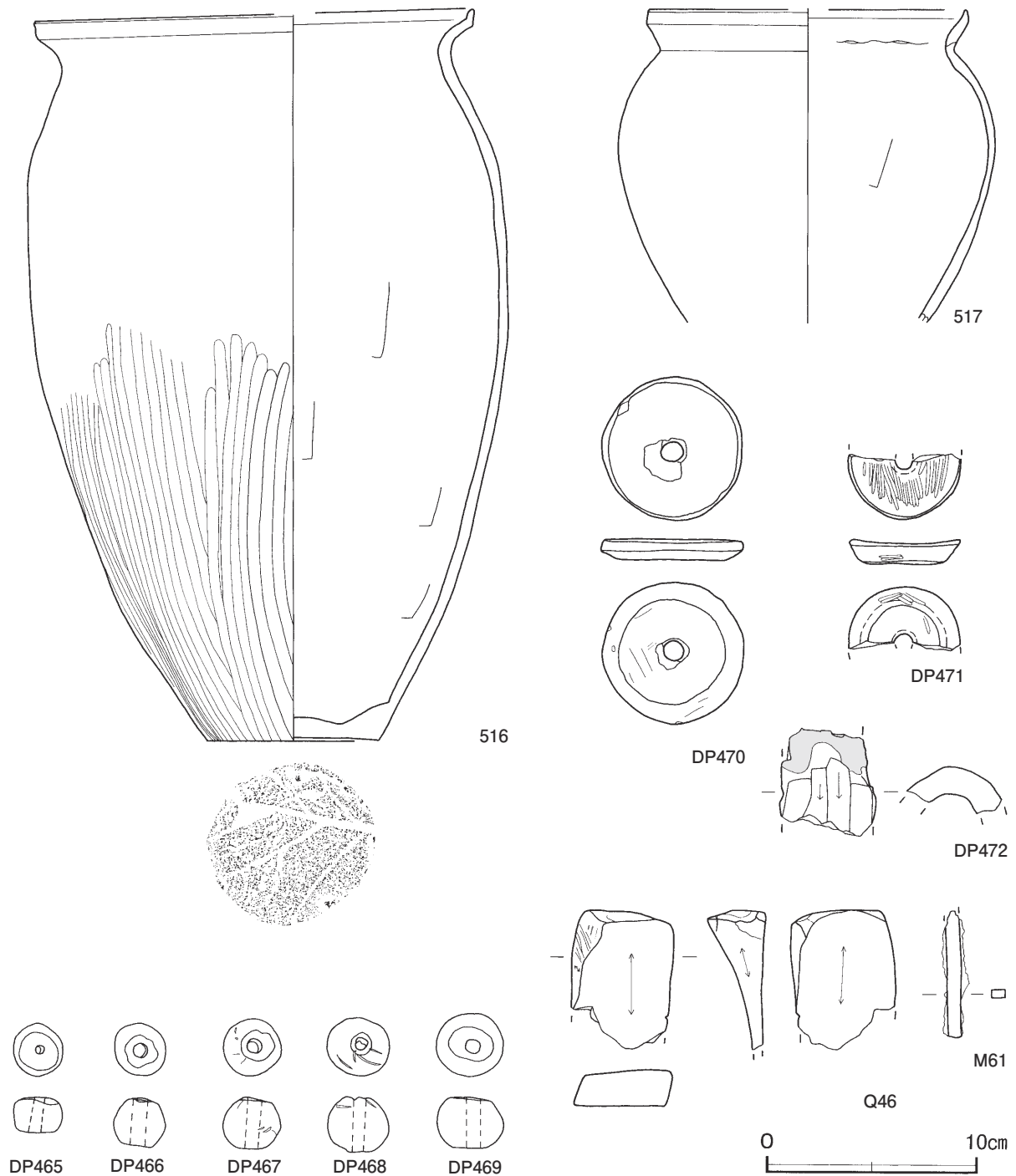
所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀後葉に比定できる。



第 312 図 第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 313 図 第 98 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第314図 第98号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第98号竪穴建物跡出土遺物観察表(第312~314図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
504	土師器	坏	13.2	4.4	5.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後多方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL70
505	土師器	坏	13.0	4.7	6.1	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	99% PL70
506	土師器	坏	14.4	4.0	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土上層	95% PL70
507	土師器	坏	12.7	4.4	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土下層	85% PL70
508	土師器	坏	-	(3.7)	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面摩滅 底部一方向のヘラ削り 底部墨書「居」	覆土中	5% PL81

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
509	須恵器	坏	13.1	4.7	5.4	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部 二方向のヘラ削り	覆土中層	70% 稲敷産か PL70
510	土師器	高台付椀	12.8	(4.1)	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土中層	70% PL70
511	土師器	高台付椀	12.8	4.8	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	床面	70%
512	土師器	皿	13.6	2.8	5.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土中層	95% PL70
513	土師器	皿	14.1	3.0	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	70% PL70
514	土師器	皿	13.8	2.8	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土下層～中層	60%
515	土師器	皿	13.0	2.9	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 体部外面墨書「田」	覆土中層	60% PL81
516	土師器	甕	[20.8]	34.9	8.1	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	50%
517	土師器	小形甕	[15.2]	(14.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	30%
518	土師器	甕	[32.2]	25.2	[12.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層～中層	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP465	土玉	24～25	1.7	0.5～0.6	11.3	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP466	土玉	2.5	2.3	0.7	14.0	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	
DP467	土玉	27～28	2.4	0.6～0.7	18.6	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP468	土玉	28～30	2.6	0.5～0.6	23.5	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土中層	
DP469	土玉	30～32	2.4	0.7	24.6	長石・石英	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP470	紡錘車	6.8	1.0	1.0	(36.5)	長石・石英	にぶい黄橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL93
DP471	紡錘車	(5.4)	1.2	(0.8)	(15.7)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	欠損 ヘラ磨き	覆土下層	
DP472	羽口	(5.3)	(4.6)	(2.3)	(36.4)	長石・赤色粒子	橙	欠損 外面ヘラ削り 外面滓化	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 46	砥石	(6.6)	5.0	2.8	(71.8)	凝灰岩	砥面4面 他1面は破断面	覆土中	PL95

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 61	鎌	(6.1)	(0.7)	0.4	(10.8)	鉄	欠損 断面長方形	覆土上層	

第104号竪穴建物跡（第315・316図）

位置 調査D区中央部のF 5g5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第68・72号竪穴建物跡を掘り込み、第34・52・66・75号竪穴建物、第430・547・587号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.98m、短軸6.83mの方形である。主軸方向は、竈の付設位置を北西壁と仮定すると、N-37°-Wと推測できる。壁は高さ20cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P1～P4は深さ57～89cmで、規模と配置から主柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第4層は埋土である。P5・P6は深さ24cm・36cmで、南東部の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

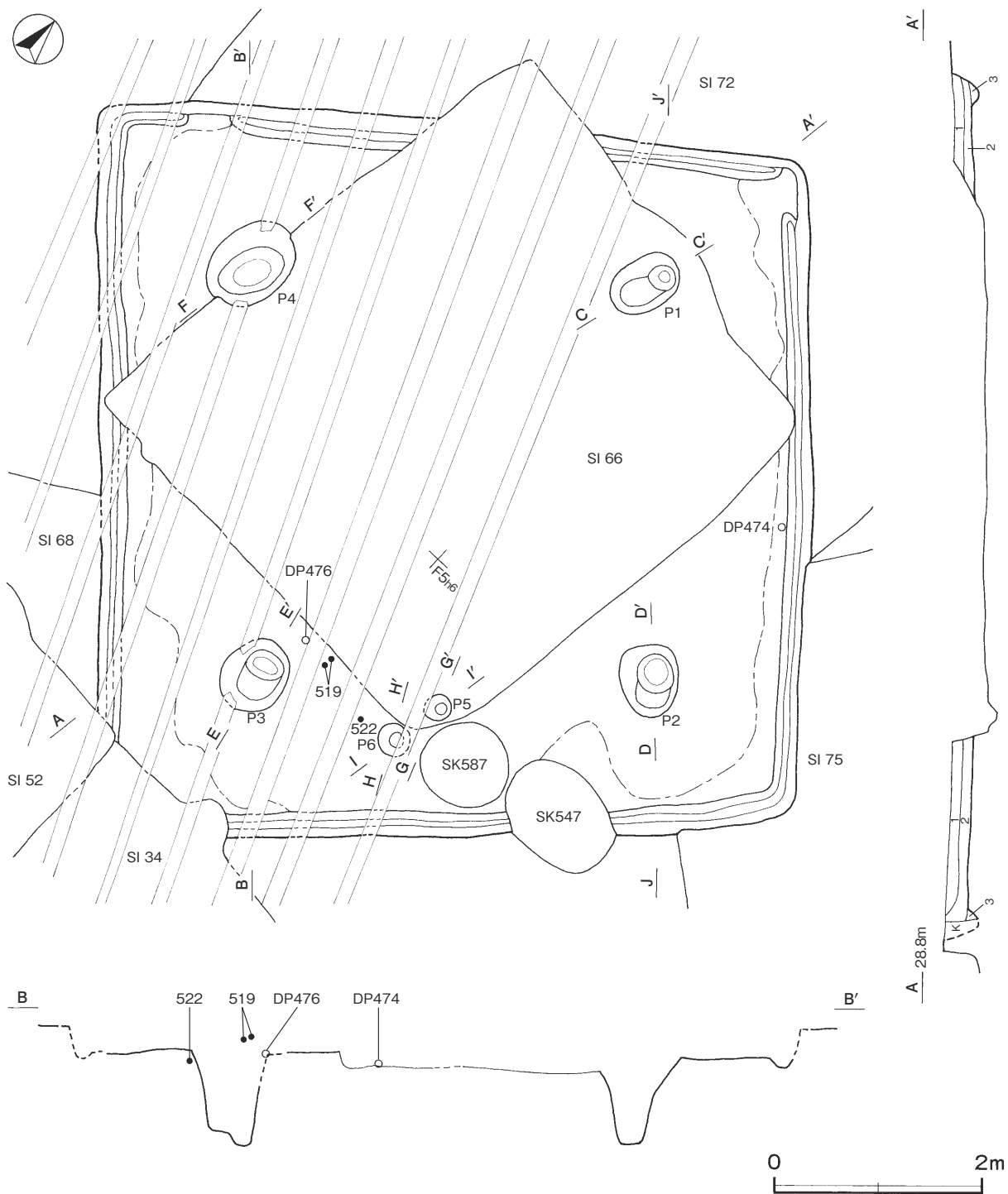
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

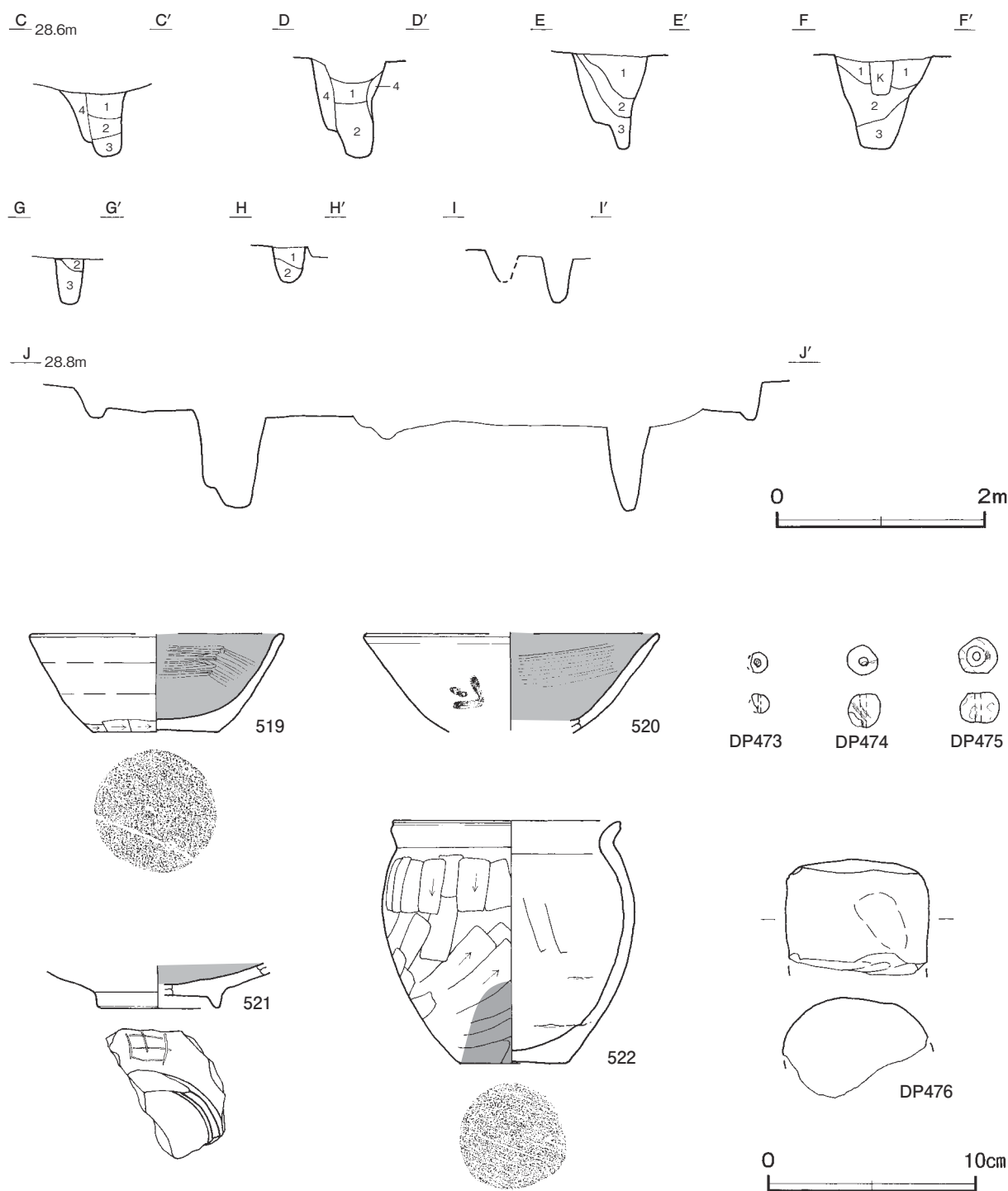
- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片 101 点 (坏類 38, 高台付坏 2, 皿 1, 甕類 58, 小形甕 1, 甗 1), 須恵器片 9 点 (蓋 1, 甕 7, 甗 1), 土製品 9 点 (小玉 1, 土玉 5, 支脚 1, 不明 2) が出土している。522・DP476 は南部, DP474 は北東壁際の床面からそれぞれ出土しており, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀前葉に比定できる。



第 315 図 第 104 号竪穴建物跡実測図



第 316 図 第 104 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 104 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 316 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
519	土師器	坏	[12.0]	4.7	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方向のへら削り	覆土中層	40%
520	土師器	坏	[14.0]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面へら磨き 体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL81
521	土師器	皿	-	(2.1)	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へら削り 体部外面刻書「田」	覆土中	10% PL81
522	土師器	小形甕	10.7	11.7	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	100% 煤付着 PL70

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP473	小玉	1.0	0.9	0.1	(0.59)	長石	褐灰	欠損 ナデ 穿孔痕	覆土中	
DP474	土玉	1.4~1.5	1.5	0.2~0.3	(2.77)	長石	褐	欠損 ナデ 穿孔痕	床面	
DP475	土玉	1.7~1.8	1.5	0.3	4.90	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP476	支脚	(5.5)	6.6	(6.8)	(160)	長石・石英・雲母	橙	欠損 外面摩滅	床面	

第109号竪穴建物跡 (第317・318図)

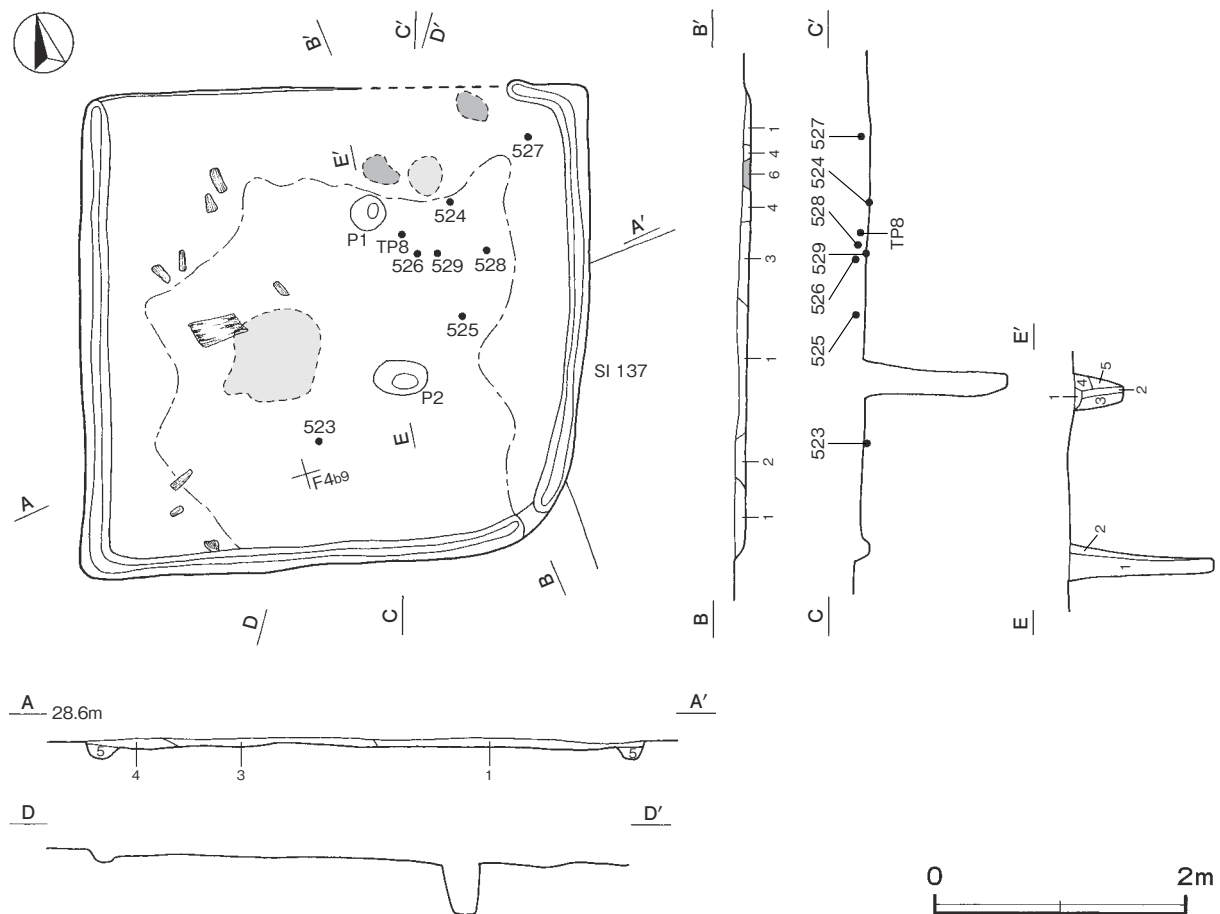
位置 調査D区中央部のF 4 a9区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第137号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.06m, 短軸3.84mの方形で, 主軸方向は, 竈の付設位置を北壁と仮定すると, N-16°-Eと推定できる。壁は高さ4~7cmで, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北壁を除き, 壁下には壁溝が巡っている。中央部をはじめ西半部を中心に, 焼土と炭化材が散在している。

竈 覆土が薄いため本体は確認できなかった。竈構築材と考えられる粘土塊の広がりから, 北壁東寄りに付設されていたと推定できる。



第317図 第109号竪穴建物跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は深さ40cm・115cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ローム粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |

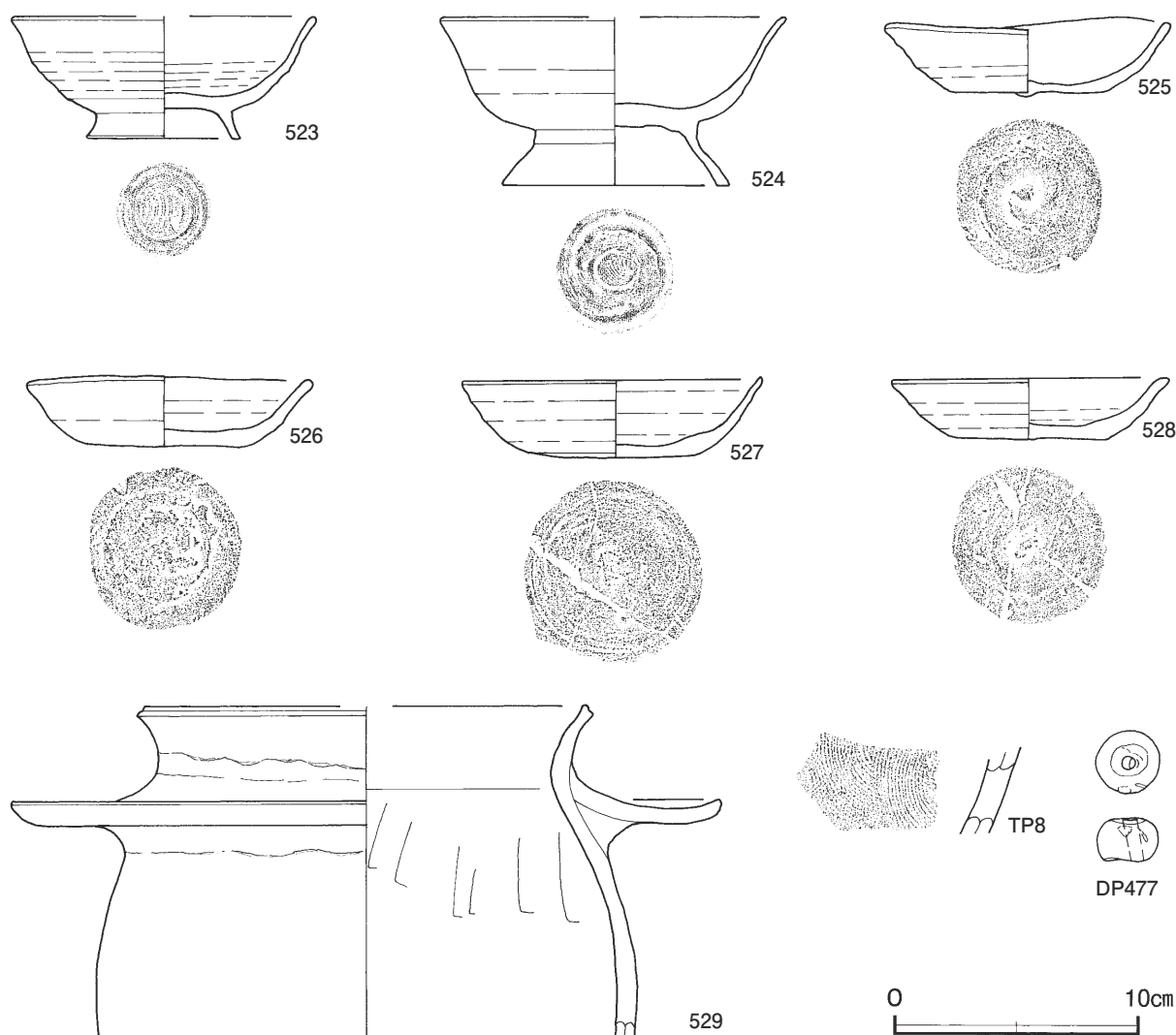
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6層は北部の床面で確認した粘土塊である。

土層解説

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 灰褐色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 336点 (坏類 233, 高台付碗 39, 小皿 9, 甕類 50, 甌 4, 羽釜 1), 須恵器片 11点 (坏 3, 蓋 1, 甕 5, 甌 2), 土製品 1点 (土玉), 鉄滓 1点, 炭化材 (1.798g) が、覆土中の広い範囲から出土している。524・529はいずれも北東部の床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。炭化材は主に西部・北部の床面から出土していることから、焼け落ちた建物の構造材とみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀中葉に比定できる。床面から炭化材が複数出土していることから、焼失住居と考えられる。



第 318 図 第 109 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 109 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 318 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
523	土師器	高台付椀	[12.3]	5.0	6.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	60%
524	土師器	高台付椀	[14.3]	6.9	[9.3]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面摩滅 底部回転糸切り後ヘラ削り	床面	60%
525	土師器	小皿	11.4	3.2	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部ヘラ切り痕を残した回転ヘラ削り	覆土中層	100% PL71
526	土師器	小皿	11.5	2.9	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部ヘラ切り痕を残したナデ	覆土中層	100% PL71
527	土師器	小皿	12.0	3.2	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り痕を残した回転ヘラ削り	覆土下層	100% PL71
528	土師器	小皿	11.2	2.5	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部ヘラ切り痕を残した回転ヘラ削り	覆土中層	95% PL71
529	土師器	羽釜	[18.2]	(13.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	30% PL70
TP 8	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面同心円状の叩き	覆土下層	新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP477	土玉	2.5	1.7	0.5~0.6	12.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	

第 110 号竪穴建物跡（第 319・320 図）

位置 調査D区中央部の F 4 b0 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 137 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.33 m，短軸 3.28 m の方形で，主軸方向は N - 5° - E である。壁は高さ 20 ~ 25cm で，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，中央部を深く，壁際をやや浅めに掘り込み，ロームブロックを含む第 5 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 124cm で，燃烧部幅は 43cm である。袖部は床面を若干掘り込み，その上に粘土粒子を主体とする第 11 ~ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 5cm ほど掘り込み，ロームブロック・焼土ブロックを含む第 14 層を埋土して構築されており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃烧部および煙道部は壁外に 38cm 掘り込まれ，火床部から直立している。第 4 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | 粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子微量 | 11 褐灰色 | 粘土粒子多量，焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | 12 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 13 灰褐色 | 粘土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック微量 | 14 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |

ピット P 1 は深さ 20cm で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|--------|-----------|-------|-----------|

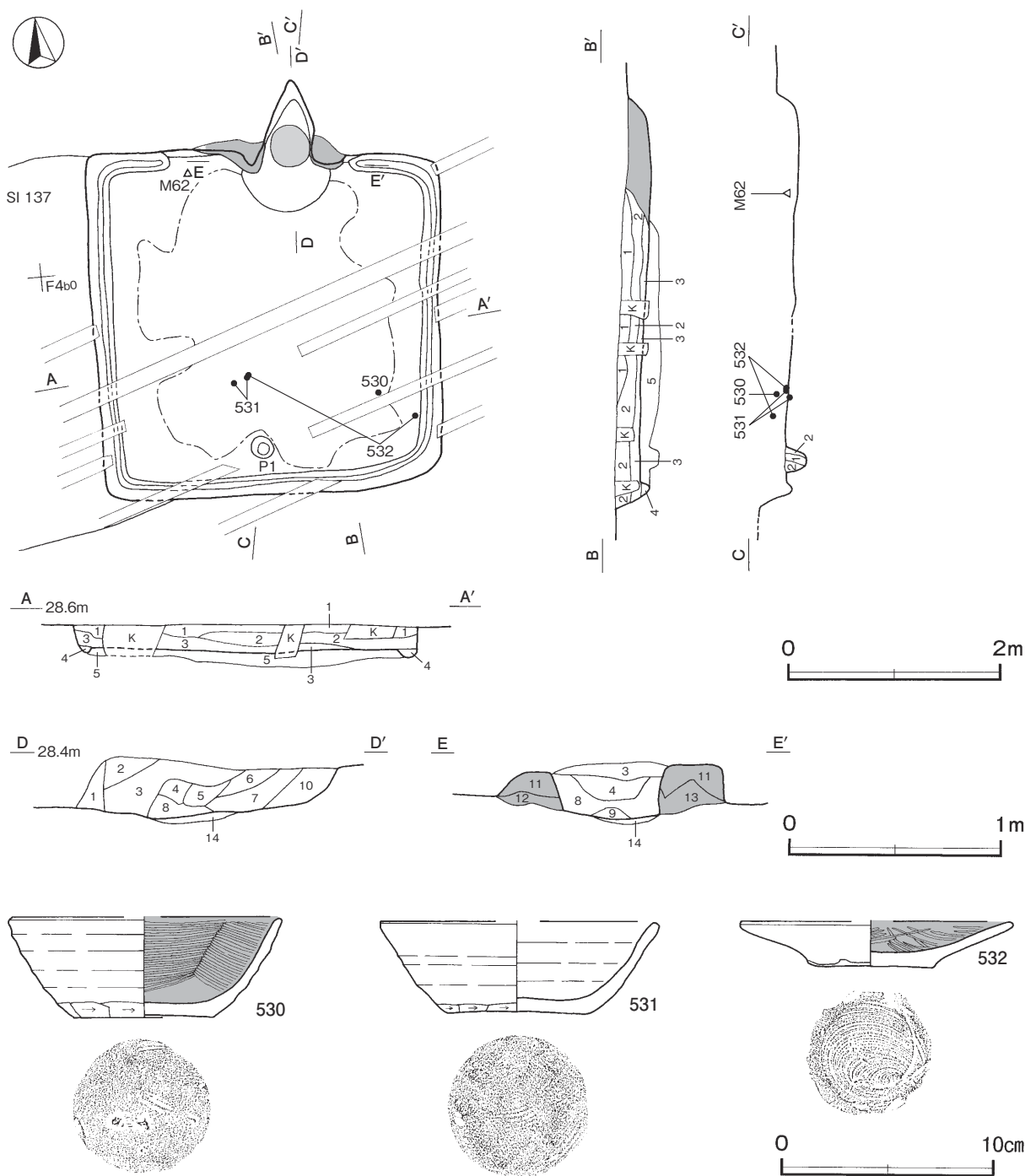
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 5 層は貼床の構築土である。

土層解説

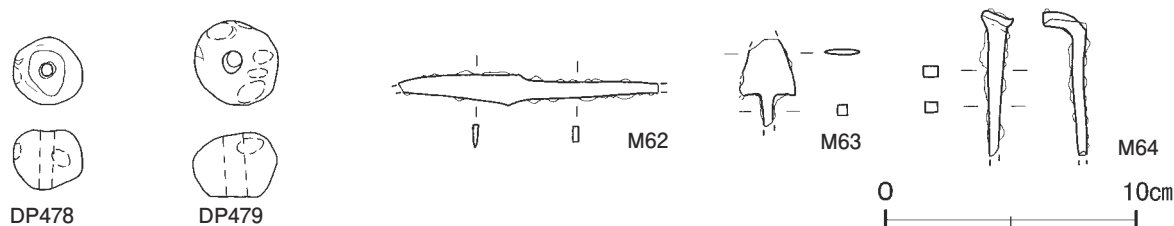
- | | | | |
|--------|----------------|---------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 243 点（坏類 77, 高台付坏 3, 蓋 1, 皿 5, 鉢 1, 甕類 155, 甑 1）, 須恵器片 36 点（坏 4, 蓋 1, 壺 1, 甕類 28, 甑 2）, 土製品 2 点（土玉）, 金属製品 5 点（刀子 1, 鎌 1, 釘 1, 不明 2）, 粘土塊 2 点のほか, 土師器片 1 点（手捏土器）が, 覆土中の広い範囲から出土している。531 は中央部の床面から, 532 は中央部の床面と南東部の覆土中層から出土した破片が接合していることから, 廃絶時に破碎して遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



第 319 図 第 110 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 320 図 第 110 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 110 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 319・320 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
530	土師器	坏	[12.6]	4.7	6.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	50%
531	土師器	坏	[13.0]	4.3	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	床面	50%
532	土師器	皿	[12.6]	2.2	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面～覆土中層	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP478	土玉	2.7	2.3	0.5	16.6	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
DP479	土玉	3.4	2.6	0.8	28.8	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M62	刀子	(10.3)	1.2	0.2	(9.85)	鉄	切先部・茎部欠損 両関	覆土下層	PL97
M63	鎌	(3.5)	2.2	0.2~0.5	(5.95)	鉄	三角形鎌 頸部・鎌身部・茎部欠損	覆土中	PL98
M64	釘	(5.7)	1.3	0.4	(9.27)	鉄	屈曲 断面長方形	覆土中	

第 113 号竪穴建物跡 (第 321・322 図)

位置 調査D区中央部の F 5 e3 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 94・114 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 580 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.22 m, 短軸 3.16 m の方形で, 主軸方向は N - 16° - E である。壁は高さ 20 ~ 40cm で, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。北東部を除いた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 75cm で, 燃烧部幅は 40cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に, 粘土ブロックを主体とする第 6 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 5 cm ほど掘り込んで構築されており, 火床面の赤変硬化は認められない。燃烧部および煙道部は壁外に 38cm 掘り込まれ, 火床部から直立している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 20cm・24cm で, 配置から主柱穴である。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土, 第 3 層は埋土である。P 3 は深さ 10cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | |

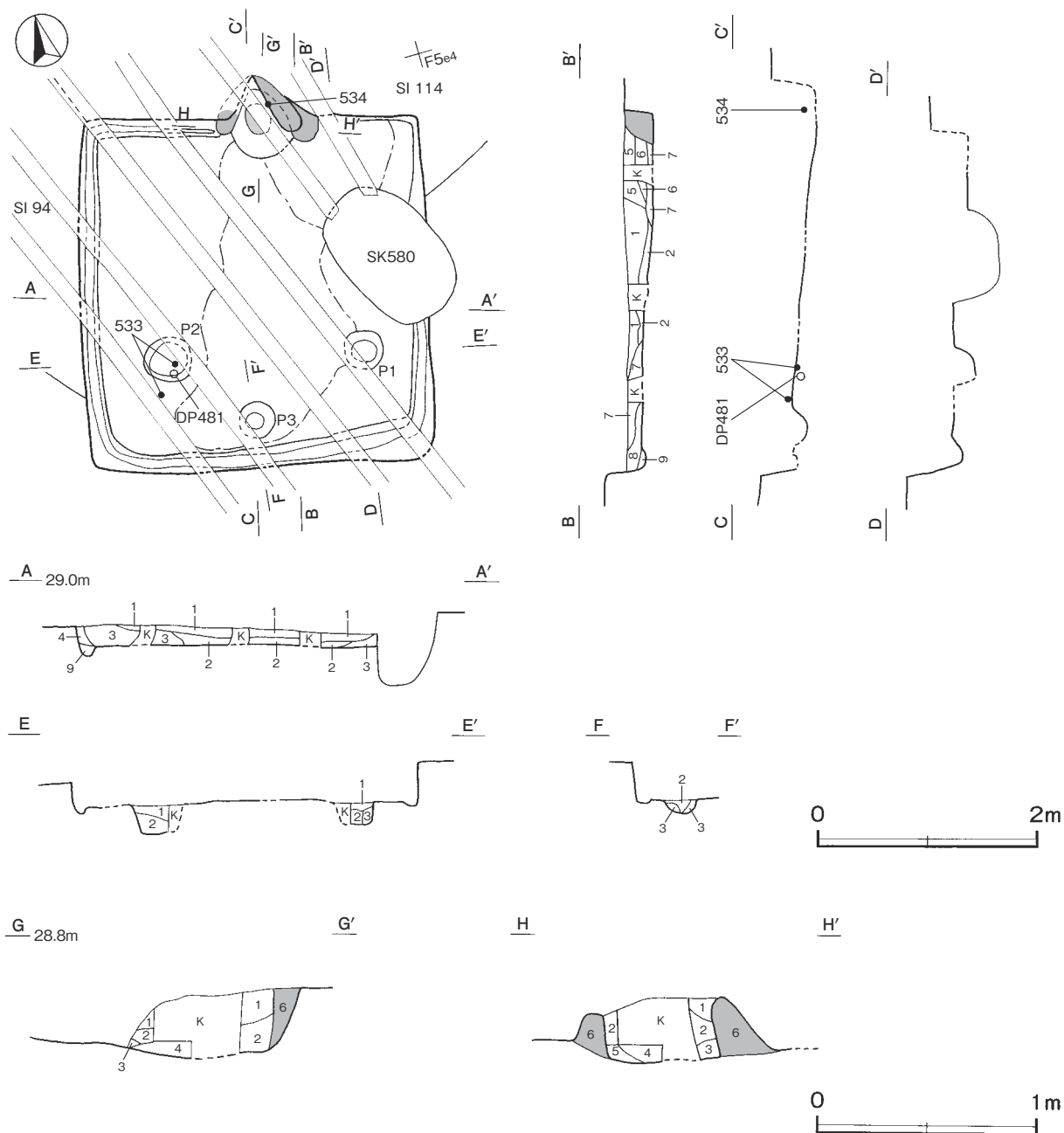
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

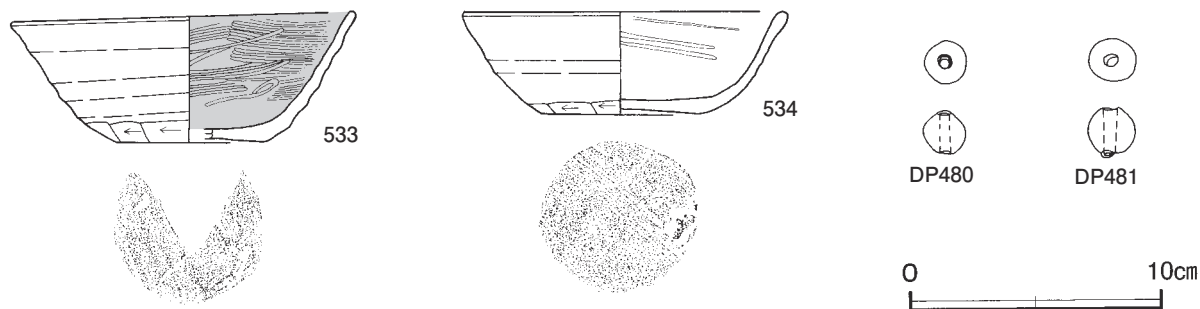
- | | | | |
|----------|-------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 411 点 (坏類 134, 甕類 277), 須恵器片 25 点 (坏 3, 長頸瓶 1, 甕 16, 甗 5), 土製品 3 点 (土玉), 粘土塊 1 点, 鉄滓 1 点が, 覆土中の広い範囲から出土している。533 は床面から出土した破片が接合していることから, 上屋の解体後に破碎されて投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。



第 321 図 第 113 号竪穴建物跡実測図



第 322 図 第 113 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 113 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 322 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか			出土位置	備考
									体部下端手持ちヘラ削り 多方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	底部		
533	土師器	坏	13.5	5.2	6.0	長石・石英・細礫	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 多方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	底部	P 2 覆土上層 ~ 床面	80% PL71
534	土師器	坏	12.8	4.1	6.3	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向のヘラ削り	内面ヘラ磨き	底部	竈覆土下層	65%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP480	土玉	1.7	1.7	0.4	3.89	長石・雲母・ 赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP481	土玉	1.7~1.8	2.0	0.5	5.35	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	

第 115 号竪穴建物跡 (第 323・324 図)

位置 調査D区中央部の F 5 b1 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 108・132 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 98 号竪穴建物, 第 659・723 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.87 m, 短軸 3.38 m の長方形で, 主軸方向は N - 4° - E である。壁は高さ 38 ~ 47 cm で, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙出部が第 98 号竪穴建物に掘り込まれているため, 規模は, 燃烧部幅は 62 cm で, 焚口部から煙道部までは 80 cm しか確認できなかった。袖部は地山を削り出して基部とし, その上に砂質粘土ブロックを主体とする第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18 cm ほど掘り込み, 第 8・9 層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚 (DP485) が火床部から立位で出土していることから, 使用時の状態で遺棄されたものとみられる。燃烧部および煙道部は壁外に掘り込まれ, 火床部から外傾していると推定できる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量 | | |

ピット P 1 は深さ 24 cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

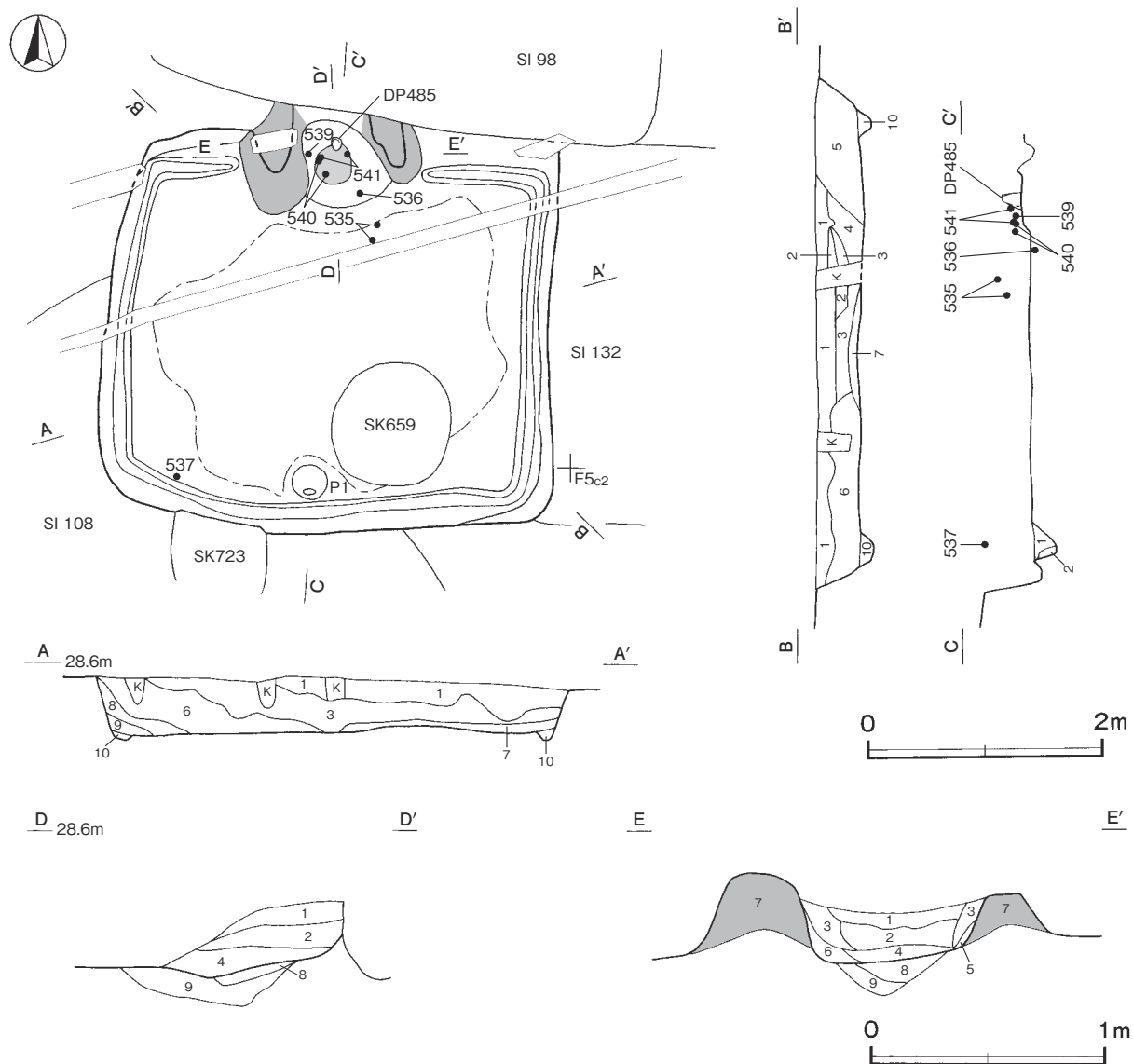
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

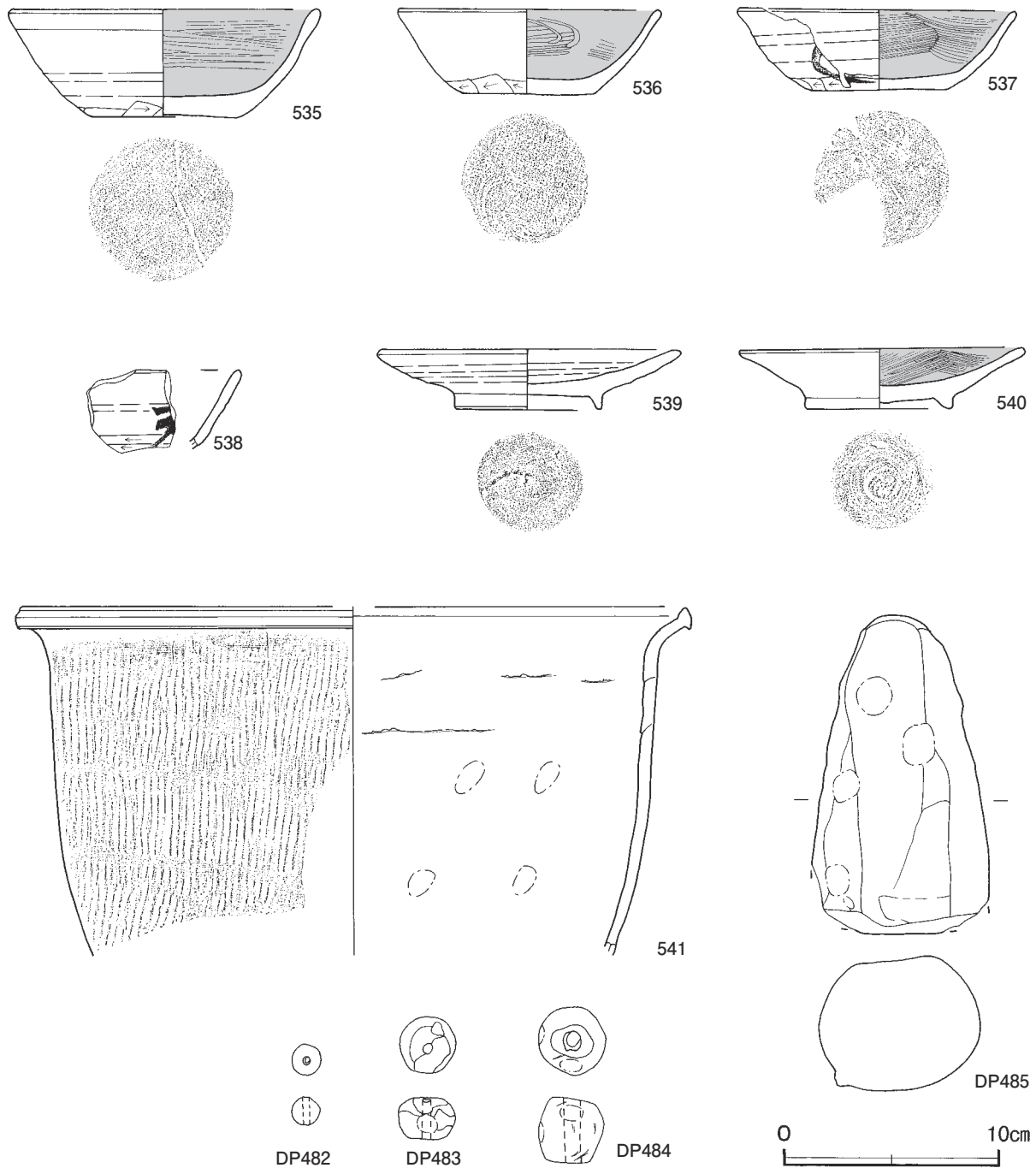
- | | | | |
|-------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 633点 (坏類 175, 椀 2, 高台付坏 14, 蓋 1, 皿 3, 甕類 433, 小形甕 4, 甑 1), 須恵器片 105点 (坏 13, 蓋 4, 鉢 1, 甕類 87), 土製品 7点 (土玉 5, 支脚 1, 羽口 1), 金属製品 1点 (不明), 粘土塊 3点, 鉄滓 1点が, 覆土中の広い範囲から出土している。539は竈の覆土下層からほぼ完形で出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。540と541はいずれも竈の覆土下層から出土した破片が接合していることから, 埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9世紀中葉に比定できる。



第 323 図 第 115 号竪穴建物跡実測図



第 324 図 第 115 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 115 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 324 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
535	土師器	坏	14.0	5.0	6.7	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 回転糸切り後多方向のヘラ削り	底部	覆土中層～土層 95% PL71
536	土師器	坏	17.0	3.9	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 回転糸切り後ヘラ削り	底部	竈底面 80% PL71
537	土師器	坏	12.7	3.9	6.4	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 多方向のヘラ削り 体部外面墨書「□」	底部	覆土上層 80% PL81
538	土師器	坏	-	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面墨書「□」	体部外面	覆土中 5% PL81
539	土師器	皿	13.9	2.9	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	底部	竈覆土下層 98% PL71
540	土師器	皿	13.0	2.9	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	体部内面	竈覆土下層 95% PL71
541	須恵器	鉢	[30.8]	(16.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	不良	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ 指頭痕 輪積痕	口縁部外・内面	竈覆土下層 25% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP482	土玉	1.4	1.3	0.3	226	長石	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP483	土玉	26~27	1.9	0.4~0.5	(14.3)	長石・石英・赤色粒子	橙	欠損成形 指頭痕 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に	覆土中	
DP484	土玉	31~32	3.1	0.8	30.1	長石・石英・赤色粒子	灰褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有 指頭痕	覆土中	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP485	支脚	14.7	3.5	[8.2]	(522)	長石・石英	橙	基部欠損 外面摩滅 指頭痕	火床部	

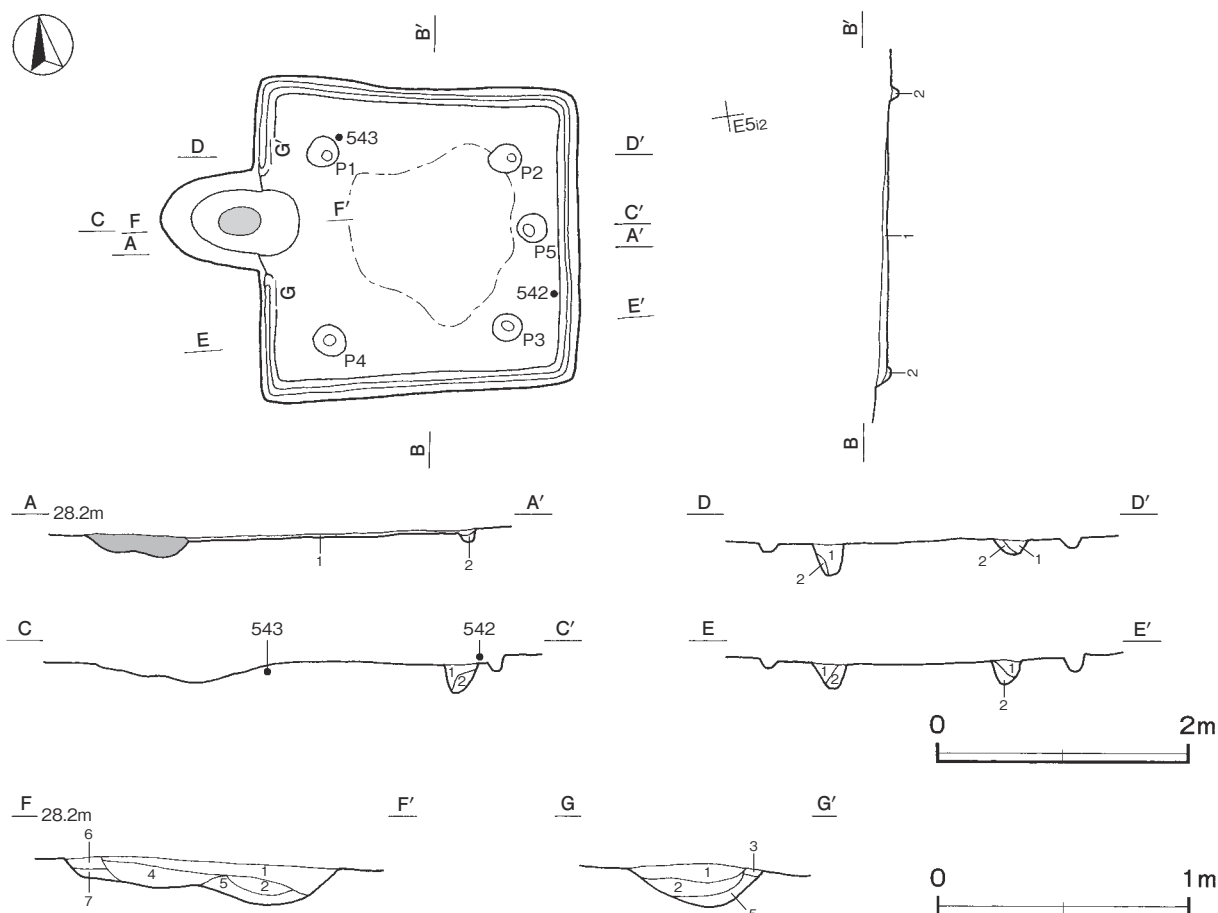
第 119 号竪穴建物跡 (第 325・326 図)

位置 調査D区北部のE 5il 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 2.55 mの方形で, 主軸方向はN - 80° - Wである。上部が削平されており, 壁の高さは3~5 cmしか確認できなかった。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 西壁中央部に付設されている。袖部は確認できなかった。規模は焚口部から煙道部までが110cmで, 燃焼部幅は50cmと推定できる。火床部は, 床面から10~18cm掘り込んだ箇所を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃焼部および煙道部は壁外に72cm掘り込まれ, 火床部から外傾している。



第 325 図 第 119 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～25cmで、配置から主柱穴である。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土である。P5は深さ20cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量 |
|--------------------|-----------------|

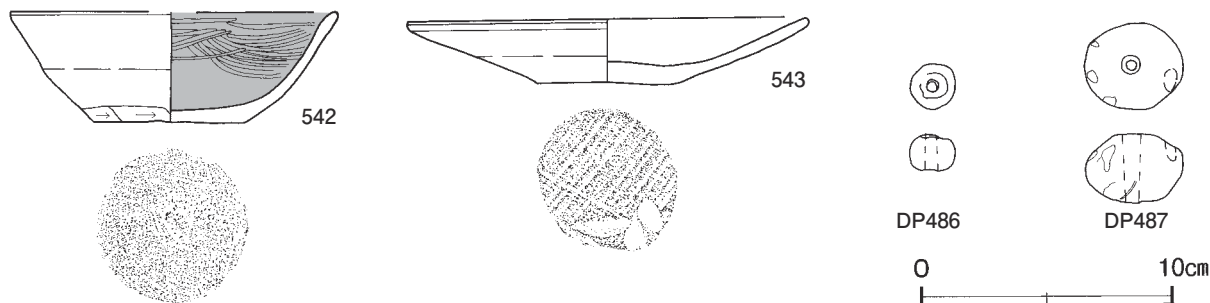
覆土 2層に分層できる。上部が削平されていることから覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 2 暗褐色 ローム粒子微量 |
|-----------------|---------------|

遺物出土状況 土師器片46点(坏13, 皿4, 甕類28, 甑1), 須恵器片3点(坏, 蓋, 甕), 土製品3点(土玉2, 支脚1)が出土している。542は東壁際, 543は北西部の床面からそれぞれ出土しており, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や主軸方向から, 10世紀前葉に比定できる。



第326図 第119号竪穴建物跡出土遺物実測図

第119号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第326図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
542	土師器	坏	[12.9]	4.4	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	床面	40%
543	土師器	皿	15.8	2.6	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP486	土玉	1.8	1.5	0.4～0.5	4.66	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP487	土玉	3.5～3.9	2.7	0.5～0.7	30.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有 指頭痕	覆土中	

第120号竪穴建物跡 (第327・328図)

位置 調査D区北部のE4i0区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.72m, 短軸3.50mの方形で, 主軸方向はN-1°-Wである。壁の高さは4～11cmで, 直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 床面全体を浅く掘り込み, 第7・8層を埋土して構築されている。東壁の中央部から西壁の中央部の壁下には, 壁溝が巡っている。中央部に焼土を確認した。床面から浮いた状態で堆積していることから, 廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。

焼土塊土層解説 (各焼土塊共通)

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |

ピット 5か所。P1は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ27cmで、配置から壁柱穴と考えられる。P3～P5は深さ23～59cmで、性格不明である。

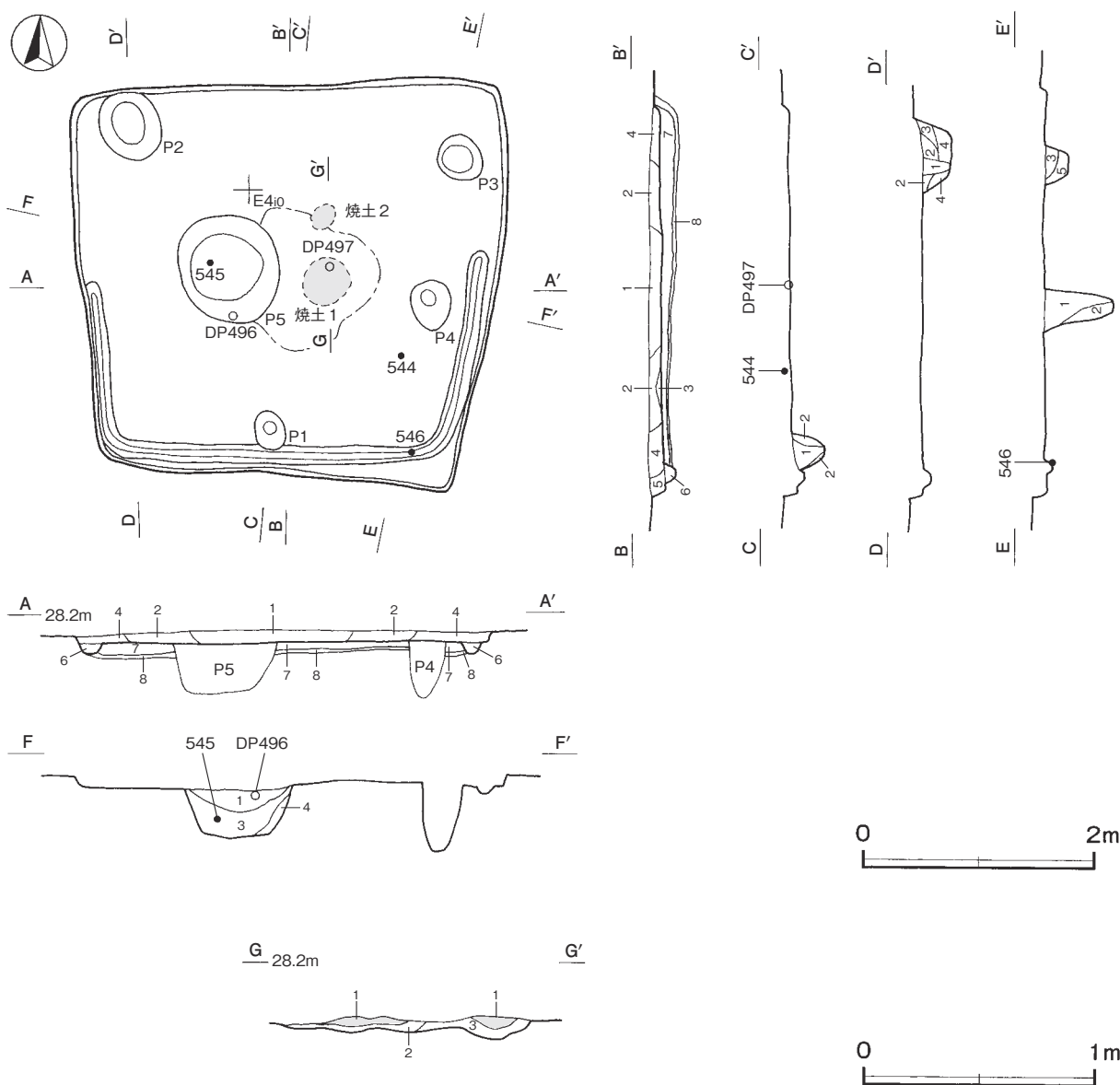
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 6層に分層できる。含有物が多いことから、埋め戻されている。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

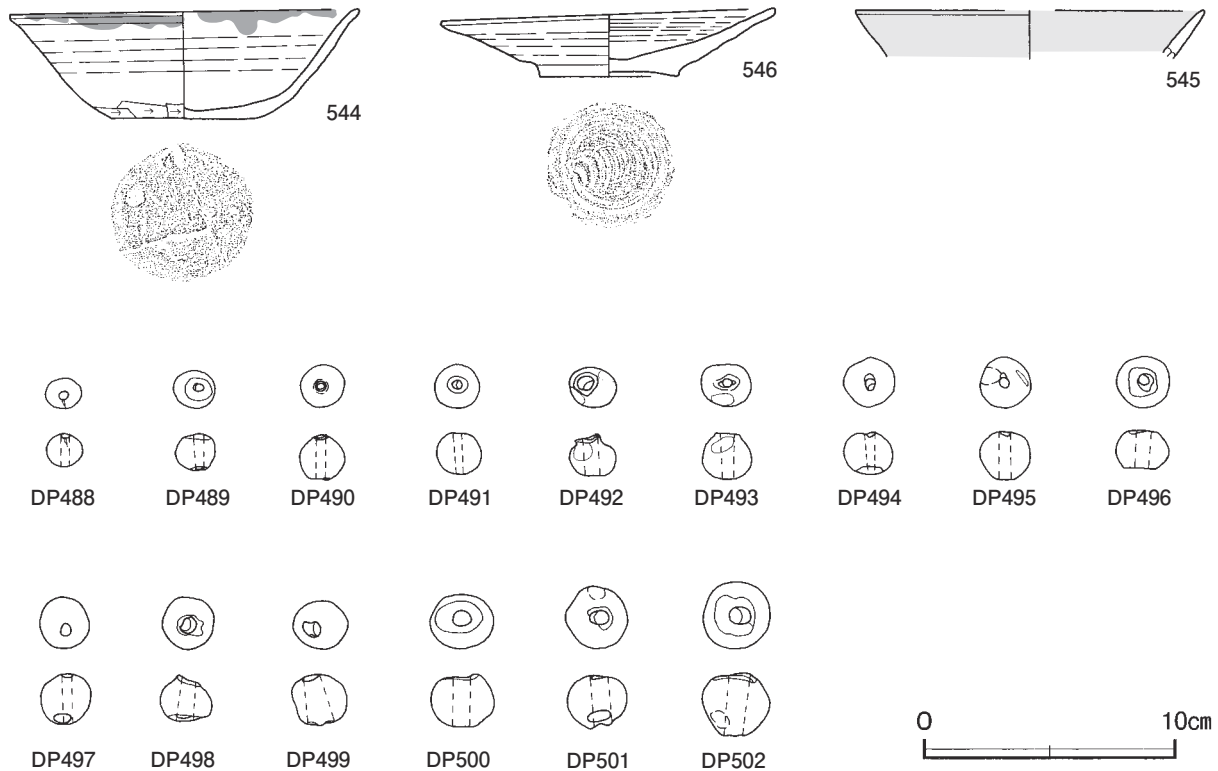
- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |



第327図 第120号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 429 点（坏類 119，高台付椀 4，蓋 1，皿 1，甕類 301，小形甕 1，甗 2），須恵器片 60 点（坏 5，蓋 1，長頸瓶 1，甕類 53），緑釉陶器片 1 点（椀），土製品 19 点（土玉 18，管状土錘 1），粘土塊 21 点のほか，縄文土器片 1 点（深鉢），土師器片 10 点（高坏 1，手捏土器 9）が，覆土中の広い範囲から出土している。546 は南東コーナー部の壁溝から出土していることから，埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 328 図 第 120 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 120 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 328 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
544	土師器	坏	13.6	4.4	5.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中層	70% 煤附着 PL71
545	緑釉陶器	椀	[13.8]	(1.9)	-	精緻	オリーブ黄	緻密	外・内面施釉 内面横位の磨き	P 5 覆土中層	5% 畿内産 PL100
546	土師器	皿	13.2	2.7	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り後回転ヘラ削り	壁溝	75%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP488	土玉	13~15	1.3	0.4	2.51	長石・石英・雲母	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP489	土玉	15~16	1.4	0.3~0.4	(3.31)	長石・石英	橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP490	土玉	1.7	1.8	0.4	4.72	長石	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP491	土玉	1.8	1.6	0.3~0.4	5.13	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP492	土玉	1.7~1.9	1.7	0.6	4.10	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP493	土玉	1.8~2.0	1.8	0.4~0.6	5.77	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP494	土玉	2.0	1.7	0.3~0.4	5.54	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP495	土玉	2.0	1.9	0.4~0.5	7.52	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有 指頭痕	覆土中	PL88
DP496	土玉	2.0~2.1	1.5	0.5~0.6	6.98	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	P 5 覆土上層	PL88

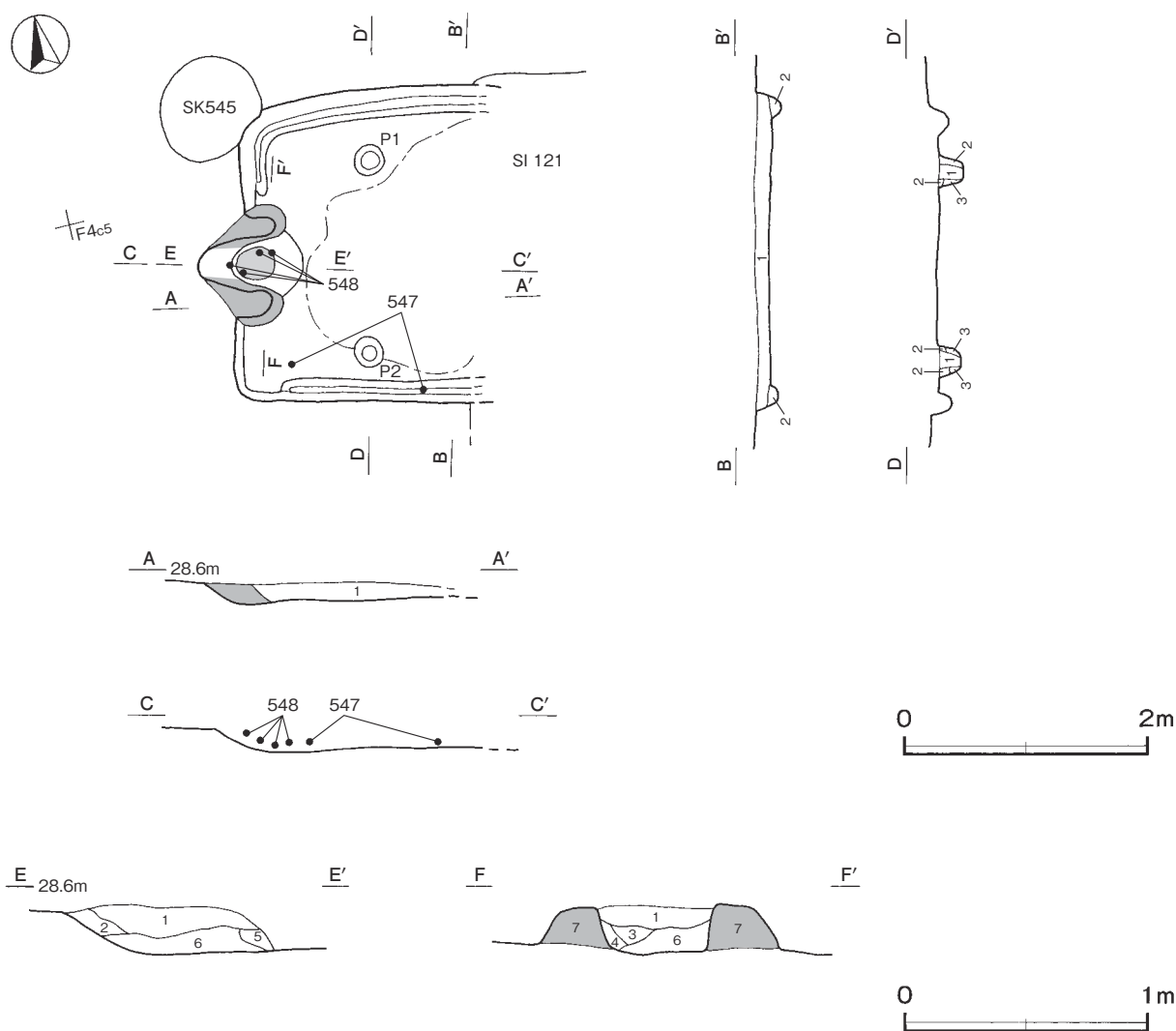
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP497	土玉	20~21	2.0	0.4	8.18	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL88
DP498	土玉	2.1	1.8	0.5~0.6	7.38	長石・雲母	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP499	土玉	20~22	2.0	0.6	7.58	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP500	土玉	22~25	2.1	0.7	10.1	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP501	土玉	24~25	2.2	0.5~0.7	11.0	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP502	土玉	2.7	2.5	0.7~0.8	15.1	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88

第 122 号竪穴建物跡 (第 329・330 図)

位置 調査D区中央部のF 4c5区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 121 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 545 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第 121 号竪穴建物跡と重複しているため, 南北軸は 2.62 mで, 東西軸は 1.90 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき, 主軸方向はN - 76° - Wである。壁は高さは 12 ~ 14 cmで, 直立している。



第 329 図 第 122 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南西部を除き、確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 89cmで、燃烧部幅は 38cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第7層を積み上げて構築されている。火床部も床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃烧部および煙道部は壁外に 39cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 粘土粒子多量, ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子微量 | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ 22cm・16cmで、配置から主柱穴である。第1層は柱抜き取り後の堆積土、第2・3層は埋土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

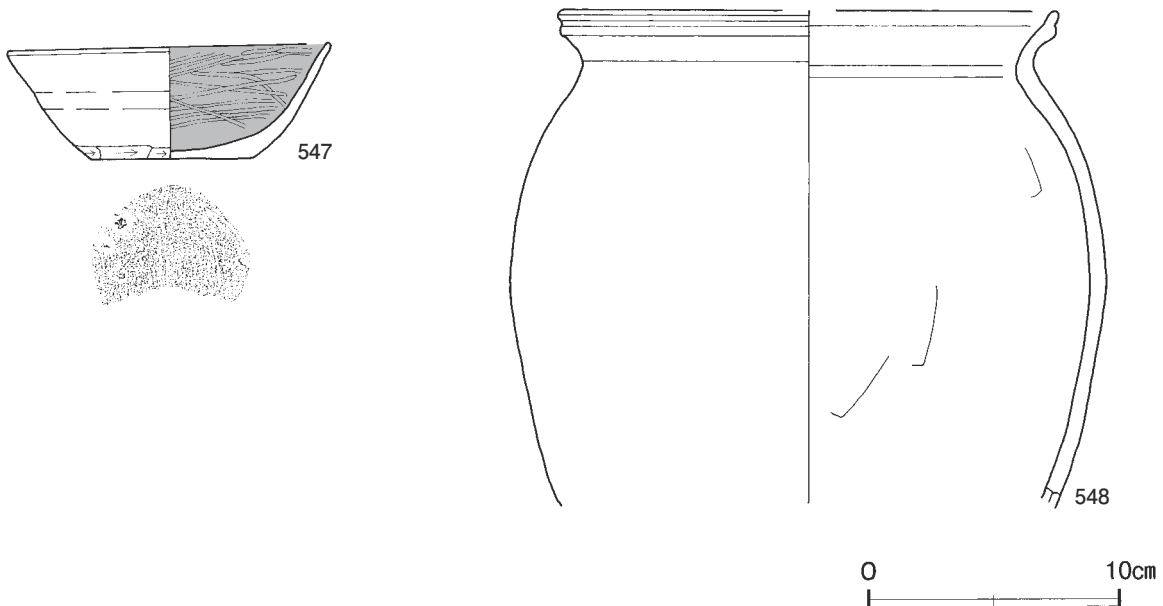
覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 2 黒褐色 ロームブロック微量 |
|-----------------|-----------------|

遺物出土状況 土師器片 99点 (坏8, 鉢2, 甕89), 須恵器片 7点 (坏3, 甕4), 鉄滓 1点が出土している。548は竈の底面から出土した破片4点が接合している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀前葉に比定できる。



第 330 図 第 122 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 122 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 330 図)

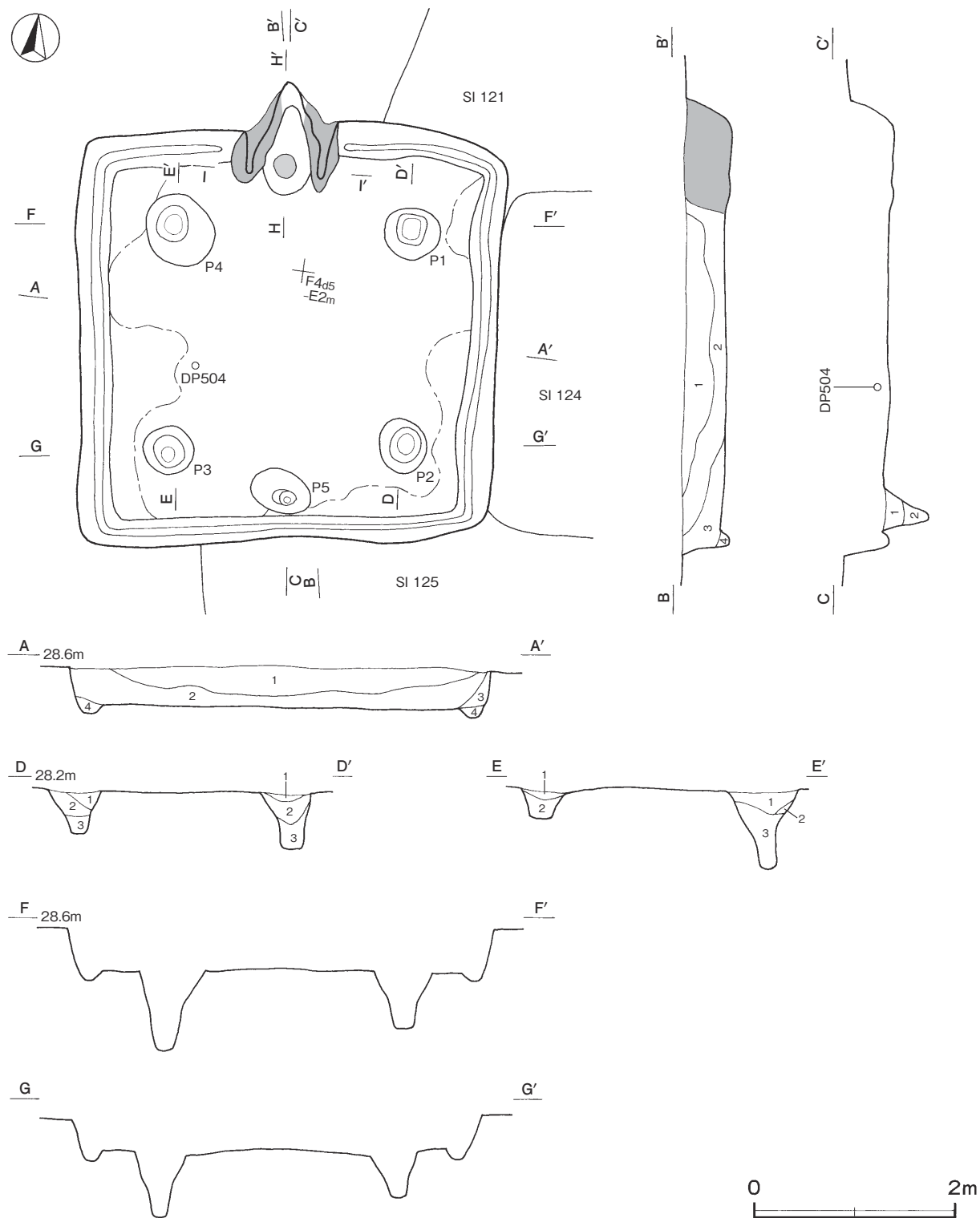
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
547	土師器	坏	12.5	4.5	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	壁溝・覆土下層	70% PL71
548	土師器	甕	[19.6]	(19.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈底面	20%

第 123 号竪穴建物跡 (第 331・332 図)

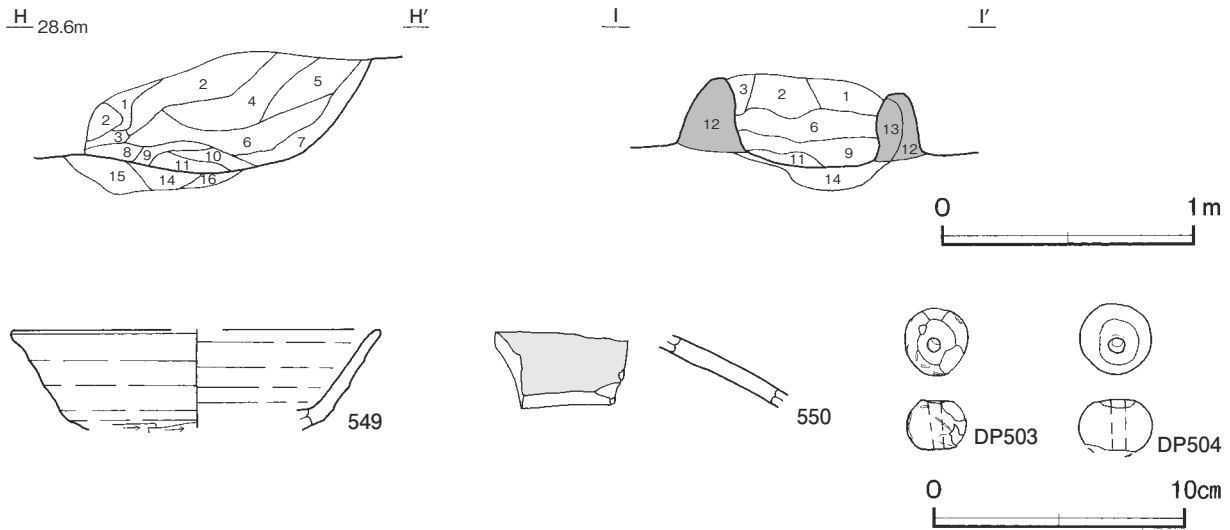
位置 調査D区中央部のF 4 d5 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 121・124・125 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.22 m, 短軸 4.16 m の方形で, 主軸方向は N - 6° - W である。壁は高さ 29 ~ 42 cm で, 直立している。



第 331 図 第 123 号竪穴建物跡実測図



第 332 図 第 123 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 112cm で、燃烧部幅は 46cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第 12・13 層を積み上げて構築されている。火床部は第 14～16 層上面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。第 2 層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 灰 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 9 褐 灰色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 褐 灰色 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 10 赤 褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 3 黒 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 黒 褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰 褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 褐 灰色 粘土粒子多量, ロームブロック微量 |
| 5 灰 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 13 黒 褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 6 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 7 褐 灰色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 褐 色 ロームブロック中量 |
| 8 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 暗 褐色 ローム粒子多量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 42～73cmで、規模と配置から主柱穴である。第 1～3 層は柱抜き取り後の堆積土である。P 5は深さ 43cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 黒 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 3 暗 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量 | 4 暗 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 227 点 (坏類 42, 甕類 185), 須恵器片 20 点 (坏 12, 高台付坏_カ 1, 蓋 5, 瓶 1, 甕 1), 灰釉陶器片 1 点 (瓶), 土製品 2 点 (土玉) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 1 点 (手捏土器) が, 覆土中の広い範囲から出土している。DP504 は西部の覆土下層から出土していることから, 廃絶後に投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。

第 123 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 332 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
549	須恵器	高台付杯	[14.4]	(3.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	不良	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%新治窯
550	灰釉陶器	瓶	-	(2.9)	-	精緻	オリーブ黒	緻密	外面施釉	覆土中	5%黒笹14窯式

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP503	土玉	24~27	2.0	0.4~0.5	(13.5)	長石・石英	橙	端部欠損 坦に成形	ナデ 一方からの穿孔 両端部を平	覆土中
DP504	土玉	2.9	2.0	0.5~0.6	(17.5)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	端部欠損	ナデ 一方からの穿孔	覆土下層

第 126 号竪穴建物跡（第 333・334 図）

位置 調査D区中央部のF 4c8区，標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 767 号土坑を掘り込み，第 522 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.78 m，短軸 4.27 mの長方形で，主軸方向は N - 21° - Wである。壁は高さ 17 ~ 33cmで，直立している。

床 平坦な貼床で，壁際を除いて踏み固められている。貼床は，全体を確認面から 25 ~ 45cmほど掘り込み，ロームブロックを含む第 6 ~ 8 層を 8 ~ 12cmほど埋土して構築されている。東部と南部の一部を除き，壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く，規模は焚口部から煙道部までが 121cmで，燃烧部幅は 56 cmまでしか確認できなかった。袖部は床面から 5 ~ 15cm掘りくぼめた部分に第 8・9 層を埋土して，その上に粘土ブロックを主体とする第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床部は第 8 層上面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 38cm掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量 | 6 褐灰色 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 褐灰色 粘土ブロック多量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 極暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量 | |

ピット 7か所。P 1 ~ P 4 は深さ 16 ~ 56cmで，配置から主柱穴である。第 1 層は柱抜き取り後の堆積土，第 2・3 層は埋土である。P 5 は深さ 26cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 24cm・13cmで，配置から補助柱穴と考えられる。

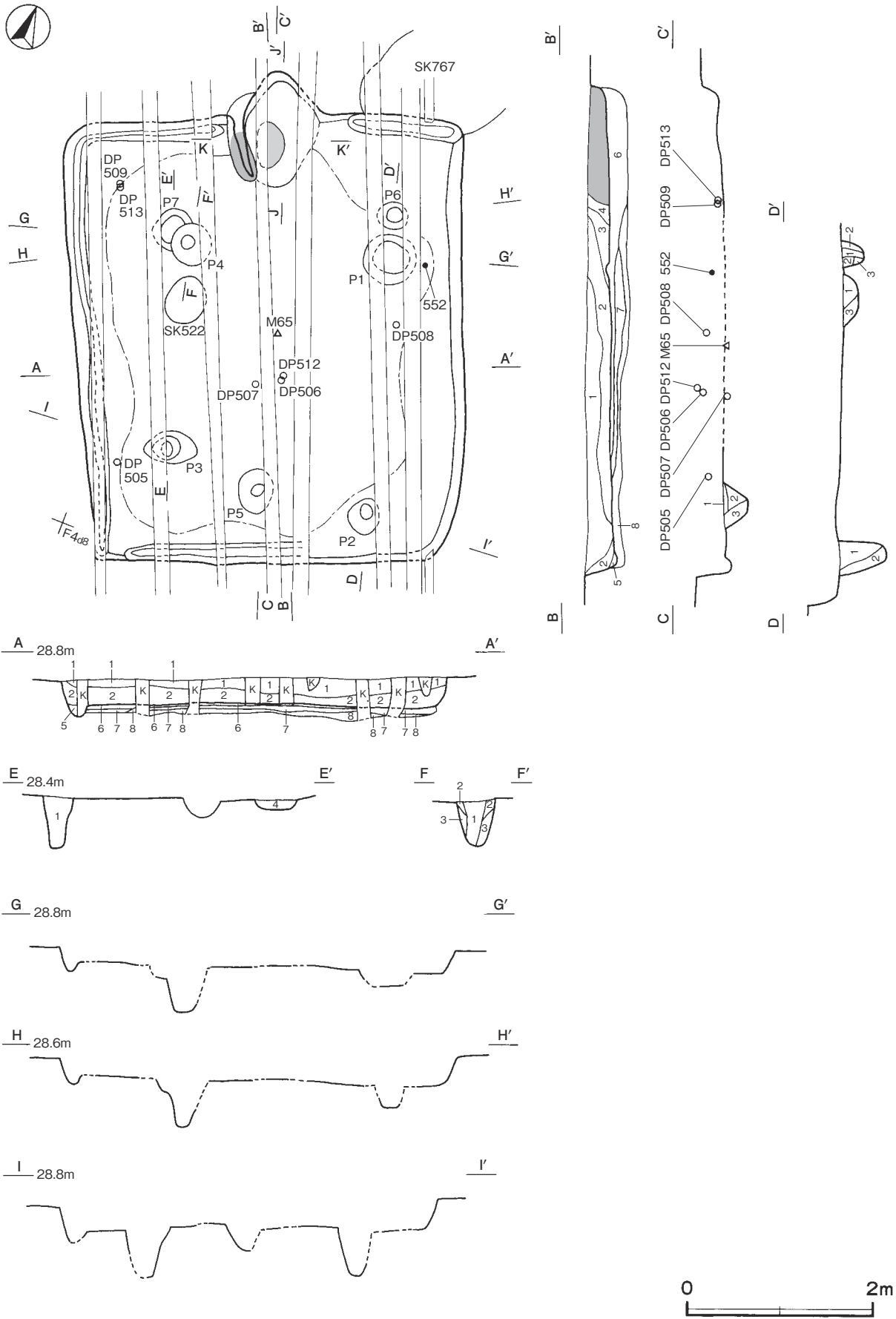
ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

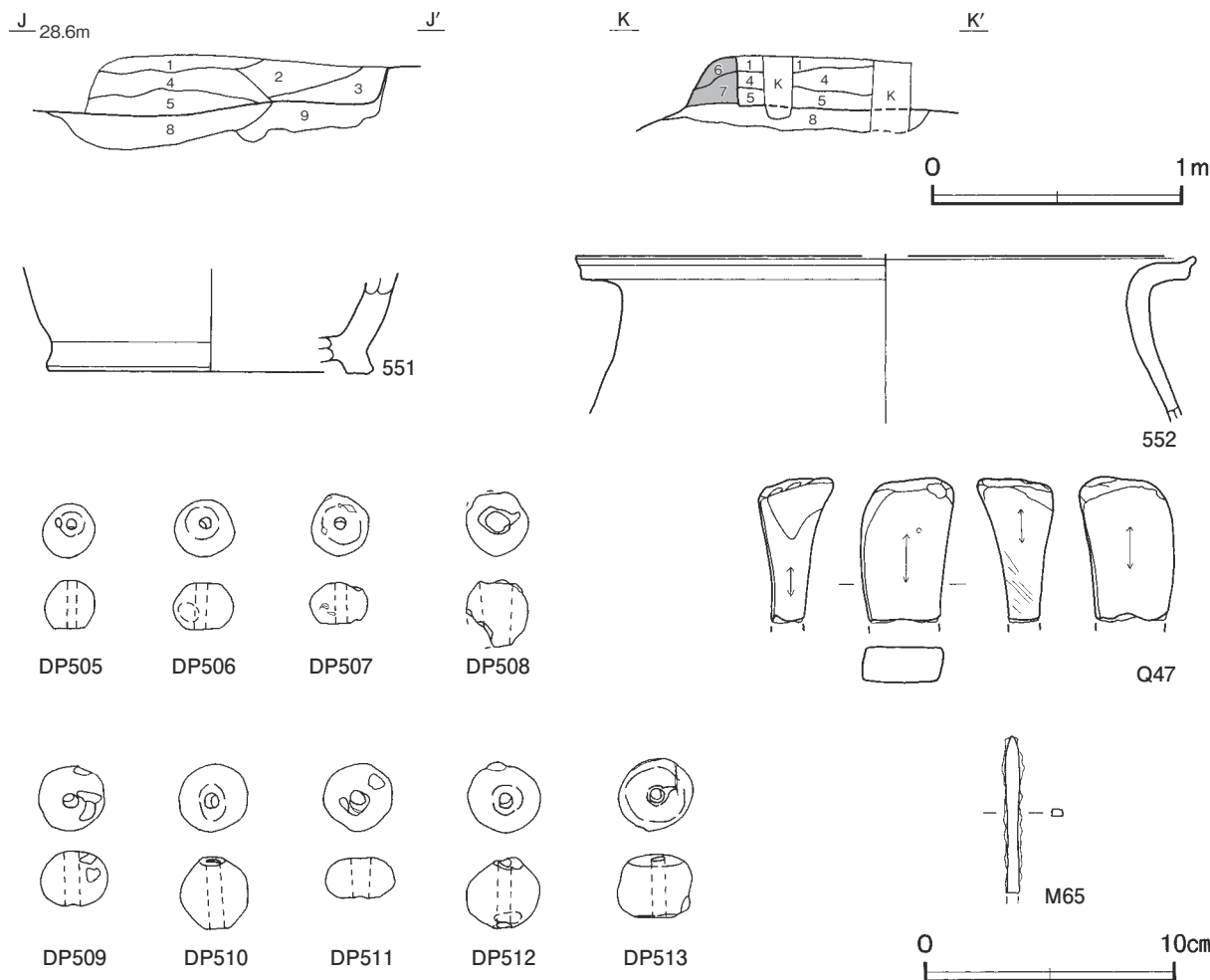
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 6 ~ 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量，粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 灰褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 | 7 褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | 8 明褐色 ロームブロック中量 |



第 333 图 第 126 号竖穴建物跡実测图



第 334 図 第 126 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 471 点（坏類 64，碗 1，高台付坏 4，甕類 399，甗 3），須恵器片 48 点（坏類 29，高台付坏 1，蓋 4，瓶 2，甕 9，甗 3），灰釉陶器片 2 点（瓶），土製品 23 点（土玉 10，羽口 13），石器 1 点（砥石），金属製品 1 点（鏃）が，覆土中の広い範囲から出土している。DP507・M 65 はいずれも中央部の床面から出土していることから，廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀中葉に比定できる。

第 126 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 334 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
551	須恵器	瓶	-	(4.1)	[13.0]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	暗灰黄	普通	内面降灰による自然釉付着	覆土中	5% 稲敷産。
552	土師器	甕	[24.8]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP505	土玉	2.1	1.9	0.4	8.85	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	
DP506	土玉	2.3	1.9	0.4	10.2	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土上層	
DP507	土玉	23~25	1.7	0.5	9.45	長石・赤色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	床面	
DP508	土玉	24~25	0.9	2.6	(12.5)	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP509	土玉	2.6	0.6	2.1	(14.9)	長石・石英	にぶい赤褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP510	土玉	2.2	2.8	0.6	21.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	
DP511	土玉	2.7~2.8	0.6~0.8	1.6	(11.4)	長石・石英・赤色粒子	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	
DP512	土玉	2.7~2.9	2.9	0.5	19.2	長石・雲母	褐灰	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土上層	
DP513	土玉	2.9~3.0	2.5	0.5~0.6	22.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 47	砥石	(5.7)	3.7	3.1	(75.7)	凝灰岩	砥面4面 他1面は破断面	覆土中	PL95

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 65	鏝	(6.3)	0.5	0.3	(5.47)	鉄	茎部欠損 断面長方形	床面	

第128号竪穴建物跡 (第335・336図)

位置 調査D区中央部のF 5 d1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第102・139号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.75m、短軸3.65mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ37~43cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床は、東壁際を除いて確認面から50~64cmほど掘り込み、ロームブロックを含む第7~9層を6~19cmほど埋土して構築されている。東壁下の一部と南壁下・西壁下には壁溝が巡っている。中央部・西部・南西部の床面から焼土塊3か所を確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、規模は焚口部から煙出部まで116cmで、燃焼部幅は48cmしか確認できなかった。袖部は、床面から4~11cm掘りくぼめた部分に第6層を埋土して、粘土粒子を主体とする第3・4層を積み上げて構築されている。火床部は第5層上面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚(DP530)が火床面から立位で出土していることから、使用時の状態で遺棄されたものとみられる。燃焼部および煙道部は壁外に42cm以上掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |

ピット 2か所。P1は深さ17cmで、規模と配置から主柱穴である。第1層は柱抜き取り後の堆積土である。

P2は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|------------------|-------|---------|

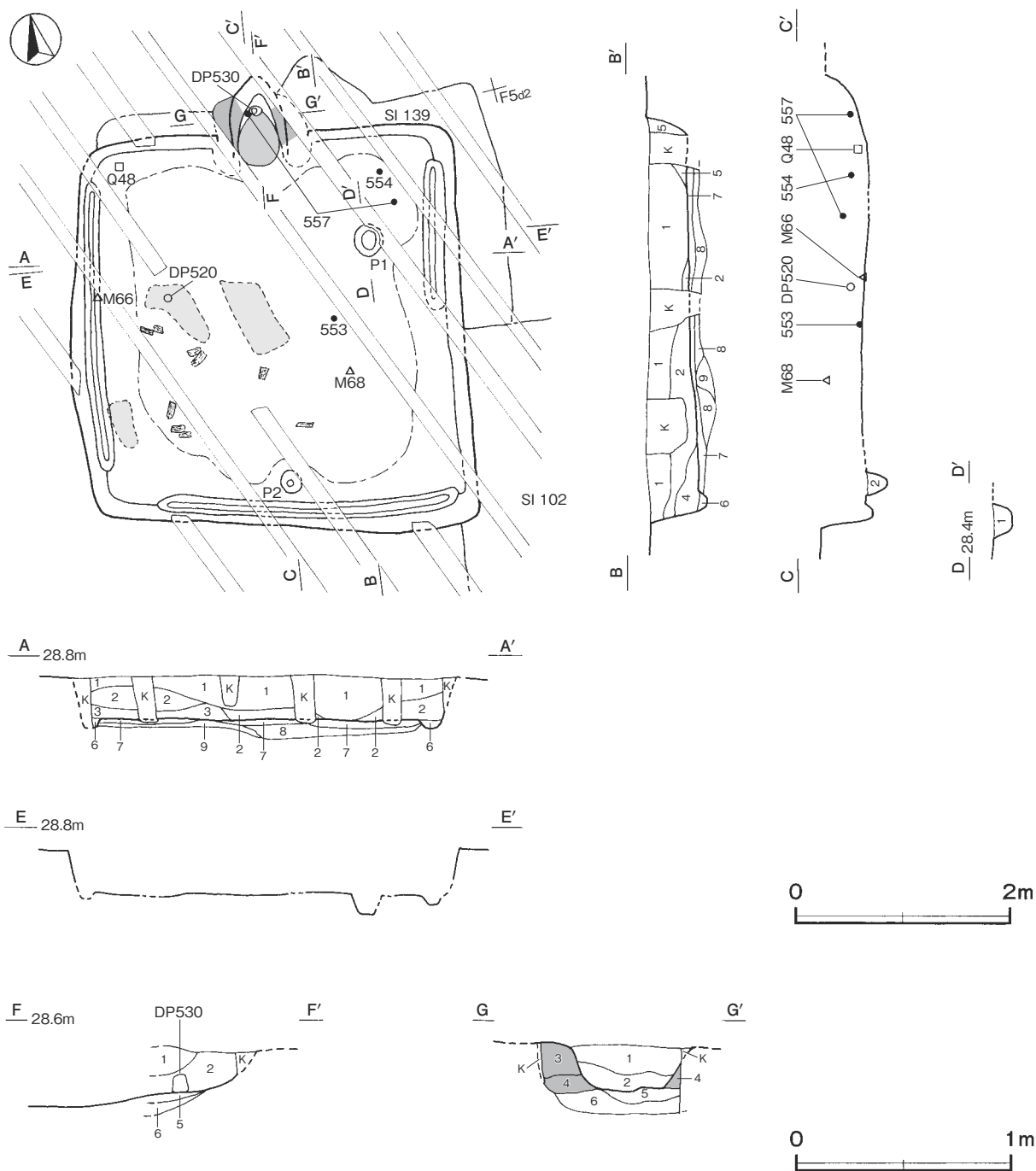
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7~9層は貼床の構築土である。

土層解説

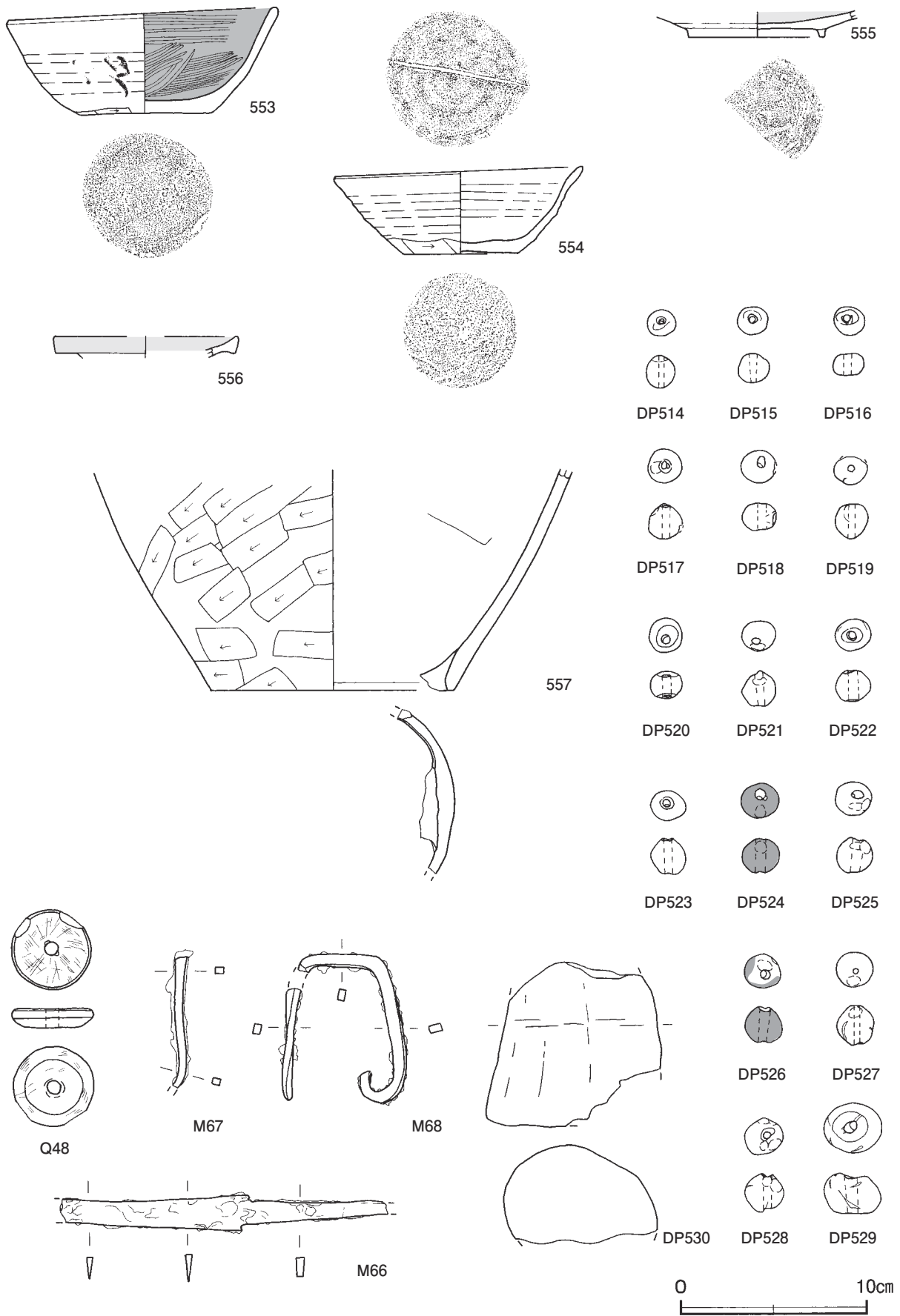
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 | 炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 606 点（坏類 145, 高台付坏 7, 皿 2, 甕類 450, 甑 2）, 須恵器片 102 点（坏 21, 蓋 6, 壺 3, 長頸壺 1, 甕類 70, 甑 1）, 灰釉陶器片 2 点（皿, 長頸瓶）, 土製品 23 点（土玉 20, 支脚 2, 不明 1）, 石器 1 点（紡錘車）, 金属製品 5 点（刀子 1, 鎌 2, 釘 1, 不明 1）が, 覆土中の広い範囲から出土している。553 は中央部の床面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたとみられる。557 は竈の火床部と北東部の覆土中層から出土した破片が接合していることから, 埋め戻しの段階で破碎されて投棄されたとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀中葉に比定できる。床面で焼土塊と炭化材を検出し, 本跡の覆土に焼土が含まれることなどから, 本跡は焼失住居の可能性はある。



第 335 図 第 128 号竪穴建物跡実測図



第 336 图 第 128 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 128 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 336 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
553	土師器	坏	14.4	5.7	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 体部外面墨書「石」	底部多方向のヘラ削り	床面	80% PL72
554	須恵器	坏	13.1	4.7	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ記号「一」	底部多方向のヘラ削り	覆土中層	99% 新治窯 PL72
555	灰釉陶器	皿	-	(1.4)	[7.3]	精緻	オリーブ灰	緻密	内面施釉	底部回転ヘラ削り	覆土中	20% 黒徑 14 窯式
556	灰釉陶器	長頸瓶	[9.7]	(1.1)	-	精緻	オリーブ灰	緻密	口縁部外・内面施釉		覆土中	5% 産地不明
557	土師器	甗	-	(11.9)	[13.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 二孔残存	内面ヘラナデ 底部	火床部～覆土中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP514	土玉	1.5	1.8	0.3	3.71	長石・雲母	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP515	土玉	1.5～1.6	1.5	0.2～0.4	3.81	長石・黒色粒子	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP516	土玉	1.6～1.7	1.1	0.4	3.11	長石・石英	明黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP517	土玉	1.8	1.9	0.4	(4.92)	長石・雲母	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP518	土玉	1.8	1.6	0.6	(4.67)	長石・赤色粒子	明褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 未貫通の孔有り	覆土中	PL88
DP519	土玉	1.8	1.9	0.4	(4.16)	長石・石英	にぶい黄橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP520	土玉	1.7～1.9	1.5	0.5	4.45	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	PL88
DP521	土玉	1.7～1.9	1.9	0.4	5.10	長石・赤色粒子・黒色粒子	灰黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP522	土玉	1.8～1.9	1.6	0.5	4.87	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 擦痕有	覆土中	PL88
DP523	土玉	1.6～1.9	1.9	0.4	5.12	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP524	土玉	2.0	1.9	0.5	6.15	長石・石英・赤色粒子・細礫	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	煤付着 PL88
DP525	土玉	1.8～2.0	1.9	0.5～0.7	5.77	長石・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP526	土玉	1.8～2.0	2.0	0.4～0.5	6.21	長石・石英	灰黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	煤付着 PL88
DP527	土玉	1.9～2.0	2.1	0.3	7.50	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP528	土玉	2.0～2.1	2.0	0.3～0.5	6.82	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 擦痕有り	覆土中	PL88
DP529	土玉	2.8～3.1	2.2	0.6～0.8	18.0	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 擦痕有	覆土中	PL88

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP530	支脚	(8.8)	(7.4)	(9.5)	(356)	長石・石英・細礫	橙	欠損 外面摩滅 被熱痕	火床部	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 48	紡錘車	4.4	1.0	0.7	(31.9)	滑石	一部欠損 全面研磨 一方向からの穿孔 上面線刻	覆土下層	PL96

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 66	刀子	(17.6)	2.0	0.3～0.4	(40.0)	鉄	刀身部・茎部欠損 台形関 刀身部断面三角形 茎部断面長方形	壁溝覆土中	PL97
M 67	釘	(7.4)	0.7	0.4	(10.5)	鉄	先端部欠損 断面長方形	覆土中	
M 68	不明	(8.0)	[6.7]	0.4	(31.2)	鉄	欠損 屈曲 断面長方形	覆土上層	

第 129 号竪穴建物跡（第 337 ～ 339 図）

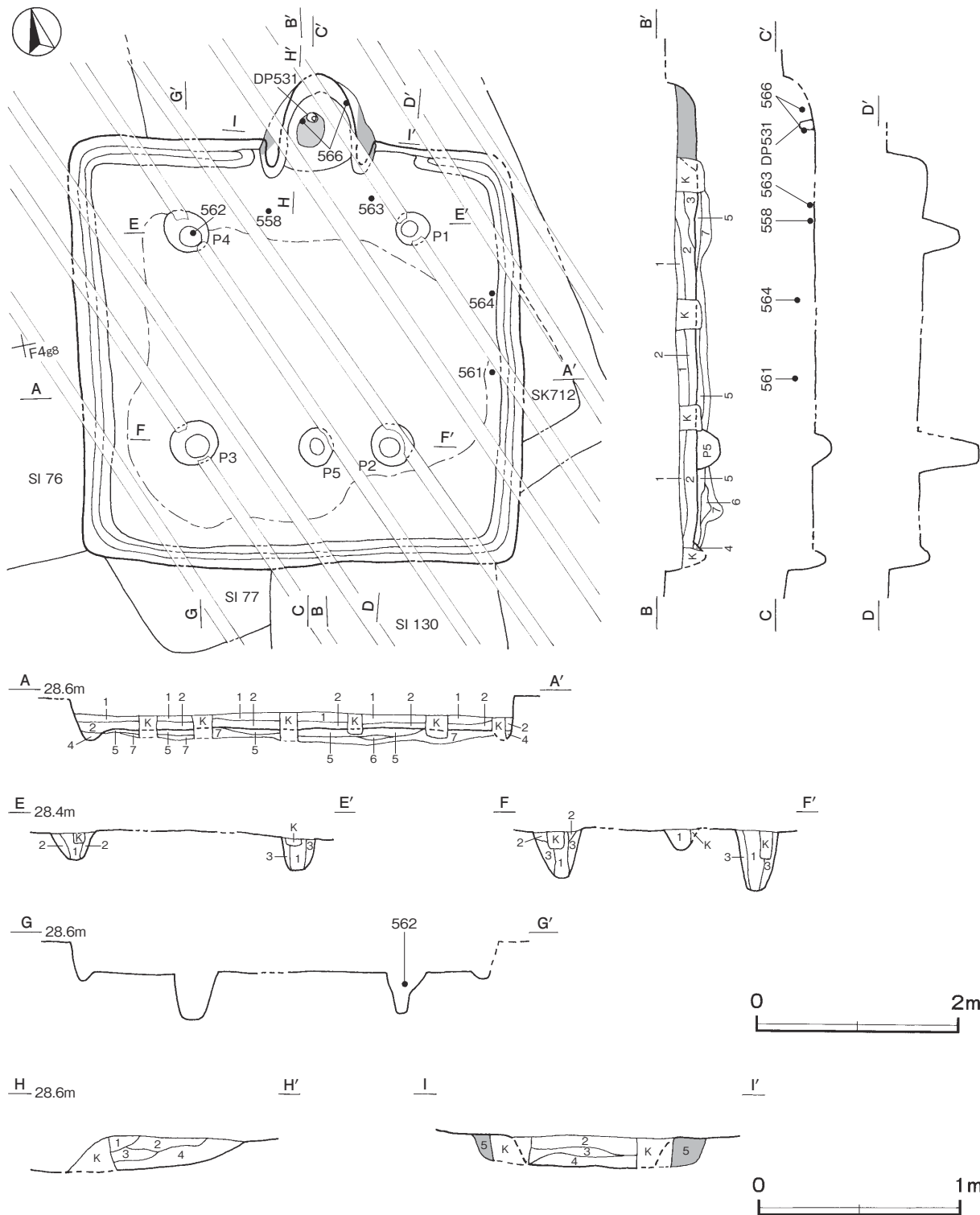
位置 調査D区中央部のF 4 g8 区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 76・77・130 号竪穴建物跡、第 712 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.42 m、短軸 4.19 mの方形で、主軸方向はN - 12° - Eである。壁は高さ 30cmで、壁は直立している。

床 平坦な貼床で、東部から西部にかけて踏み固められている。貼床は、全体を確認面から 35～54cmほど掘り込み、ロームブロックを主体とする第 5～7 層を 5～24cmほど埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、規模は焚口部から煙出部まで95cmで、燃焼部幅は54cmしか確認できなかった。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を主体とする第5層を積み上げて構築されている。火床部も床面と同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。支脚（DP531）が火床面から立位で出土していることから、使用時の状態で遺棄されたものとみられる。燃焼部および煙道部は壁外に64cm掘り込まれ、火床部から外傾している。



第337図 第129号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ26～60cmで、規模と配置から支柱穴である。第1層は柱抜き取り後の堆積土、第2・3層は埋土である。P 5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

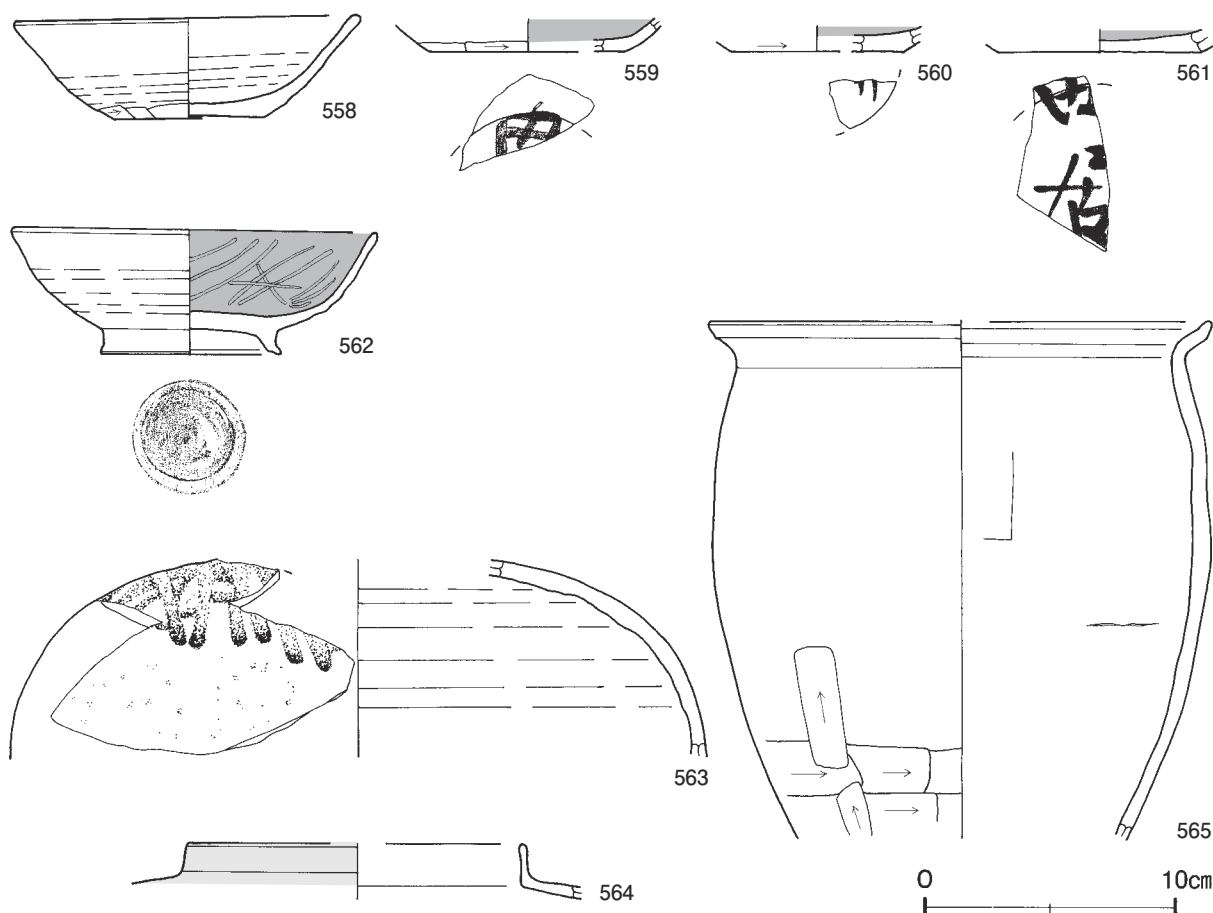
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5～7層は貼床の構築土である。

土層解説

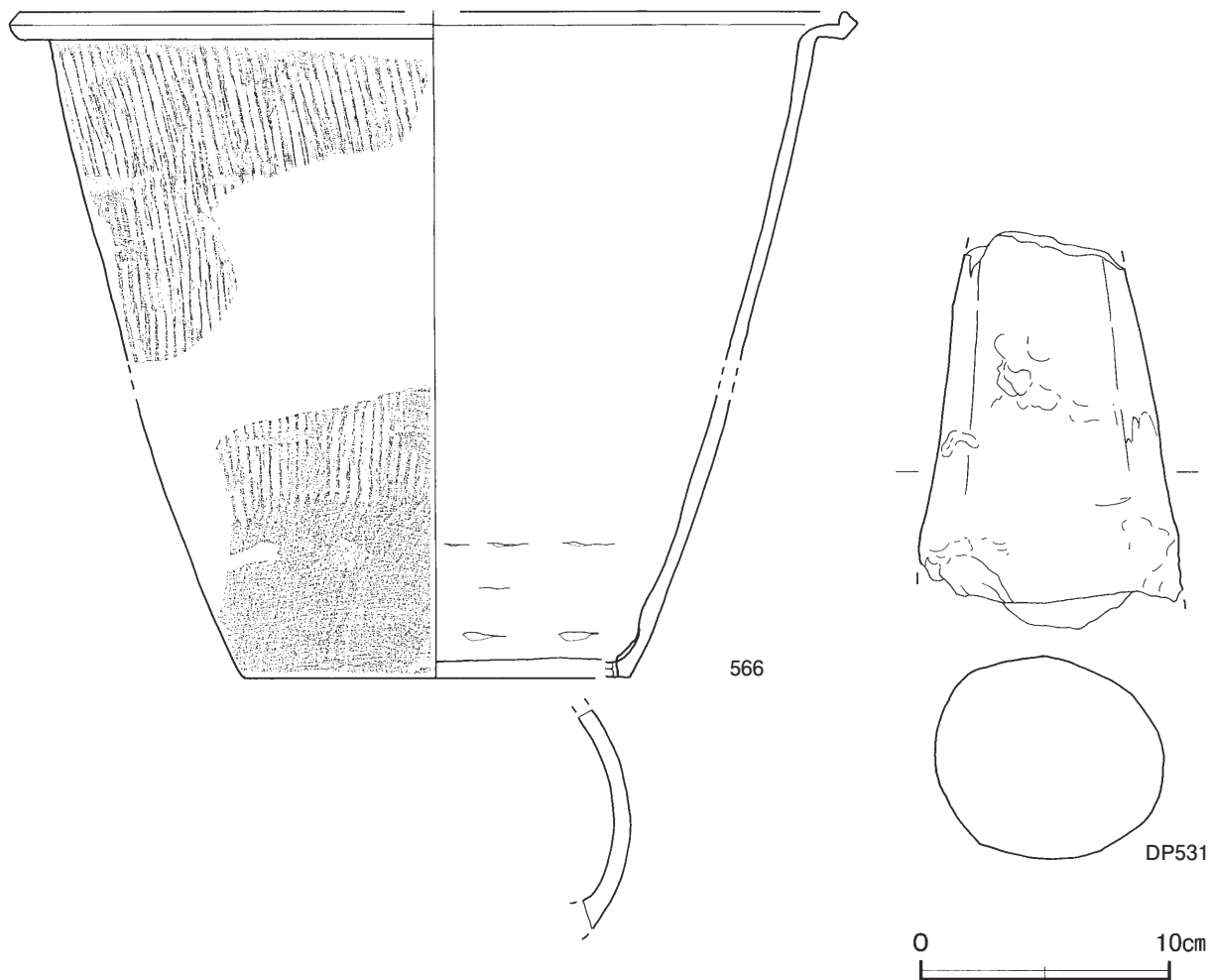
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 6 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片 297点 (坏類 75, 高台付椀 2, 蓋 1, 皿 1, 甕類 217, 甗 1), 須恵器片 26点 (坏 5, 蓋 1, 甕 18, 甗 2), 灰釉陶器片 2点 (瓶, 短頸壺), 土製品 1点 (支脚), 粘土塊 2点, 鉄滓 1点のほか, 縄文土器片 1点 (深鉢) が, 覆土中の広い範囲から出土している。558・563はいずれも北部の覆土下層から出土していることから, 埋め戻しの際に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9世紀後葉に比定できる。



第 338 図 第 129 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 339 図 第 129 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 129 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 338・339 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
558	土師器	坏	13.6	4.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL71
559	土師器	坏	-	(1.3)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 底部墨書「田」	覆土中	5% PL81
560	土師器	坏	-	(1.0)	[7.0]	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 底部墨書「口」	覆土中	5% PL81
561	土師器	坏	-	(0.9)	[8.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部二方向のヘラ削り 底部墨書「西居」	覆土中層	5% PL81
562	土師器	高台付椀	14.3	5.1	7.1	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	P4 覆土中層	80%
563	灰釉陶器	瓶	-	(6.8)	-	精緻	灰オリブ	緻密	外面施釉	覆土下層	5% 黒笹 90 窯式
564	灰釉陶器	短頸壺	[13.0]	(2.1)	-	精緻	にぶい黄橙	緻密	外面施釉	覆土中層	5% PL100 黒笹 90 窯式
565	土師器	甕	[19.7]	(20.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	20%
566	須恵器	甌	[33.0]	[26.6]	[15.4]	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位～中位縦位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面ナデ 輪積痕	竈覆土下層	10% 新治窯

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP531	支脚	(16.0)	(6.5)	(10.6)	(1.099)	長石・石英・黒色粒子	橙	欠損 外面摩滅 被熱痕	火床部	

第 130 号竪穴建物跡 (第 340 図)

位置 調査D区中央部のF 4 g8 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第77号竪穴建物跡を掘り込み、第129号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第129号竪穴建物に掘り込まれているため、東西軸は2.34mで、南北軸は2.25mしか確認できなかった。ピットの配置から方形と推定できる。北壁に竈が付設されていたと仮定すると、主軸方向はN-9°-Eと推定できる。壁は高さ23cmで、壁は直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際と南西部を除いて踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ11～28cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

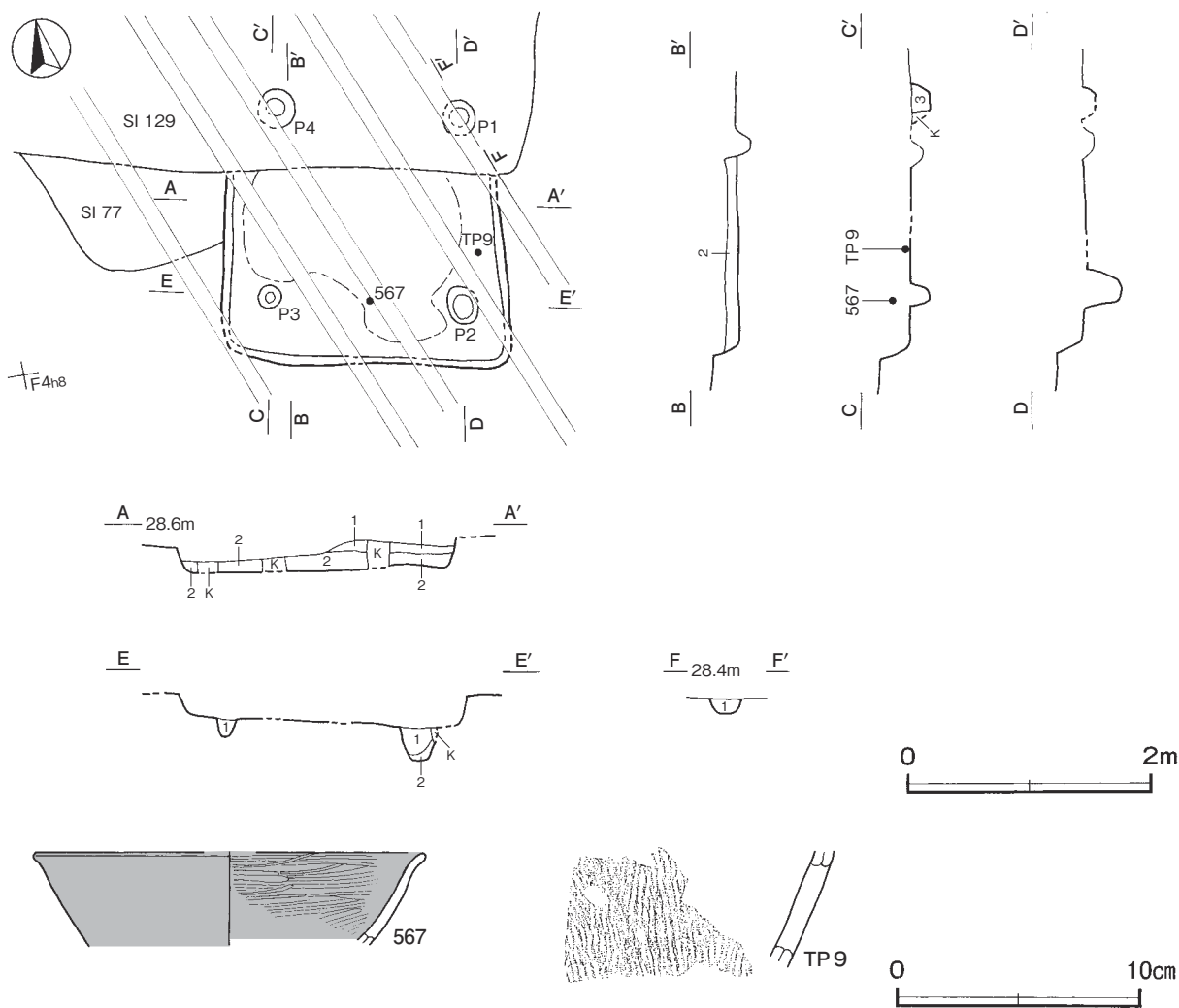
覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片69点(坏類38, 高台付坏2, 甕類29), 須恵器片9点(坏3, 甕6)が出土している。TP9は東部の覆土下層から出土していることから、埋め戻しの際に投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第340図 第130号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 130 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 340 図)

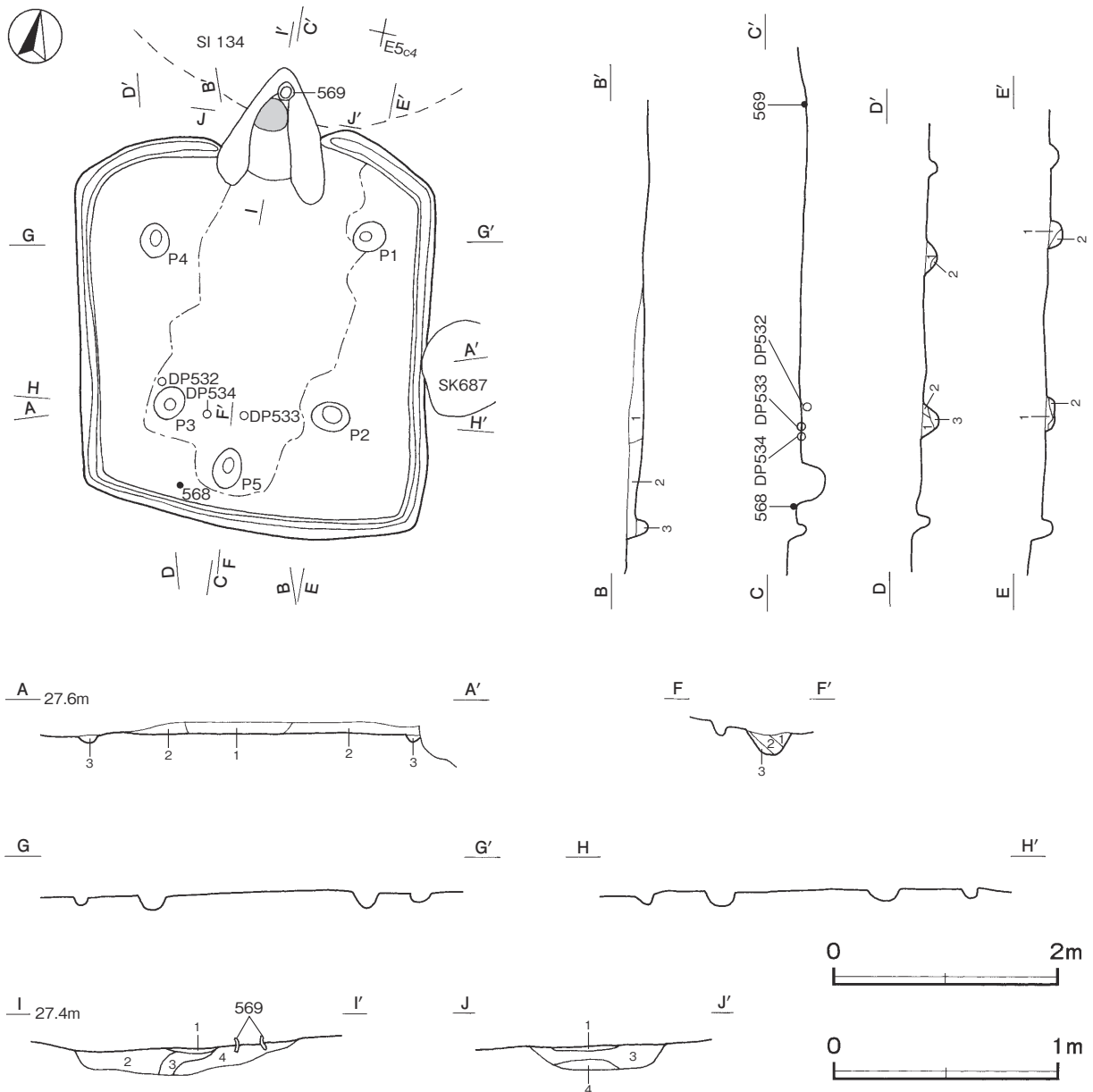
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
567	土師器	坏	[15.8]	(3.8)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中層	5%
TP 9	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土下層	新治窯

第 131 号 竪穴建物跡 (第 341・342 図)

位置 調査D区北部のE 5c3区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 134 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 687 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.41 m, 短軸 3.16 m の方形で, 主軸方向は N-5°-W である。硬化面の一部及び火床面が露出している状態で確認した。遺存している壁は 8 cm ほどで, ほぼ直立している。



第 341 図 第 131 号 竪穴建物跡実測図

床 平坦で、南部から北部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は、確認面に若干の粘土粒子を検出している。火床部は床面から7～10cm掘りくぼめた部分に第1～4層を埋土して構築されている。火床面は第1層上面を使用しており、火熱を受けて赤変しており、硬化は弱い。燃焼部および煙道部は壁外に68cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説（掘方のみ）

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ8～16cmで、規模と配置から支柱穴である。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土である。P5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

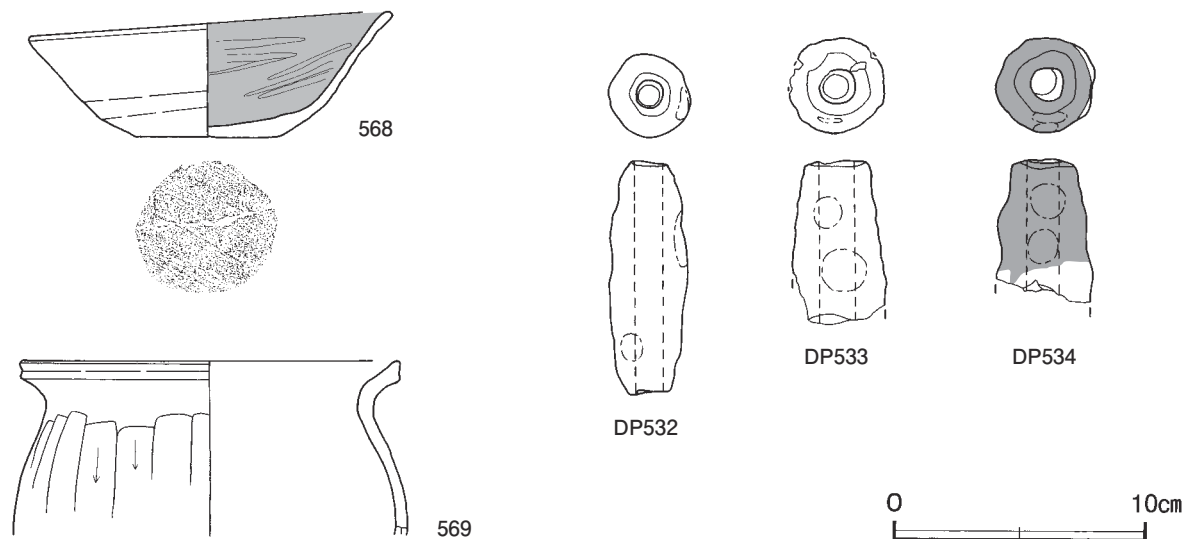
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片83点（坏17、高台付坏2、甕類64）、須恵器片5点（甕）、土製品4点（土玉1、管状土錘3）が出土している。569は竈の底面、568は南部、DP532～DP534は中央部の床面からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀中葉に比定できる。



第342図 第131号竪穴建物跡出土遺物実測図

第131号竪穴建物跡出土遺物観察表（第342図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
568	土師器	坏	14.1	5.0	5.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へラ磨き 底部二方向のへラ削り	床面	95% PL72
569	土師器	甕	14.8	(6.9)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	竈底面	10%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP532	管状土錘	3.3	9.3	1.1	84.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	床面	PL91
DP533	管状土錘	3.8	(6.5)	1.4	(74.3)	長石・石英・雲母	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	床面	PL90
DP534	管状土錘	3.8～3.9	(5.8)	1.3	(69.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	床面	煤付着 PL90

第132号竪穴建物跡 (第343・344図)

位置 調査D区中央部のF5b2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第99号竪穴建物跡を掘り込み、第98・115号竪穴建物、第3号大型円形土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が第115号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は3.26mで、東西軸は1.48mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、主軸方向はN-2°-Eである。壁は高さ13cmで、外傾している。

床 平坦で、明確な硬化面は確認できなかった。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 遺存状況が悪く、右袖部が一部残存していることから、北壁に付設されていたと考えられる。

ピット P1は深さ13cmで、配置から支柱穴と考えられる。第1層は柱抜き取り後の堆積土、第2層は埋土である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

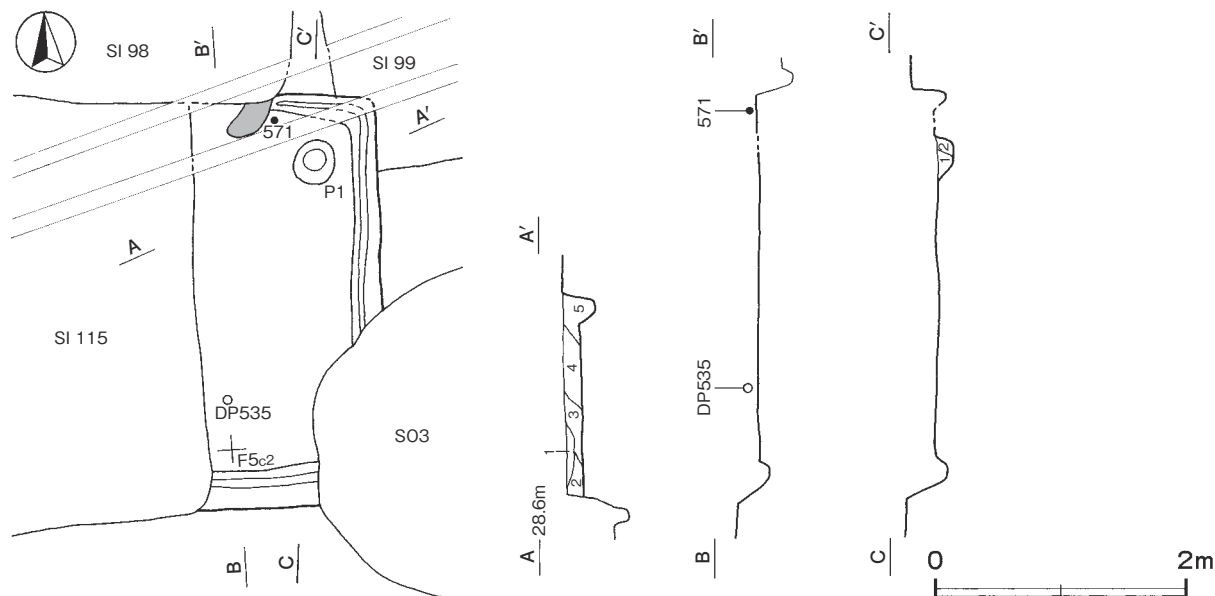
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

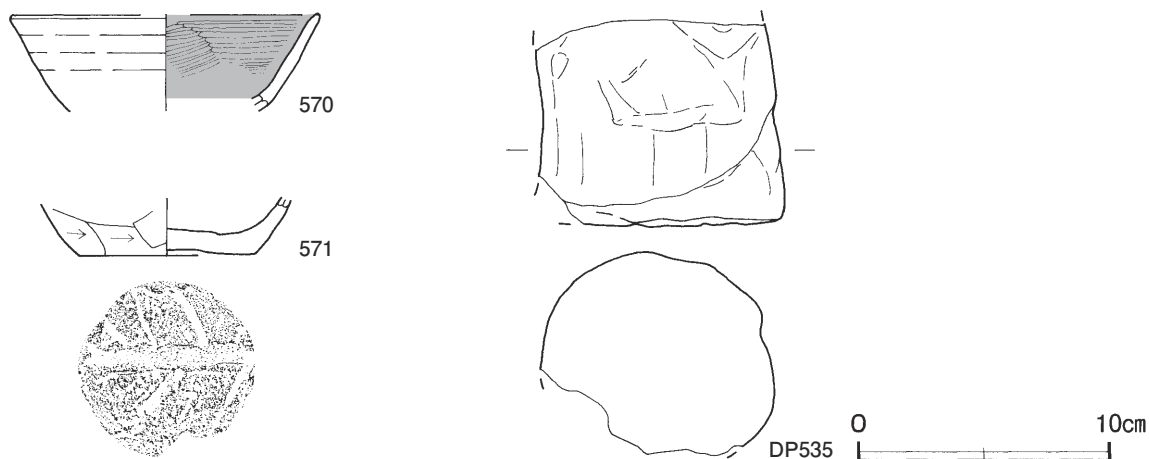
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 にぶい黄褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点(坏6, 鉢1, 甕25), 須恵器片4点(蓋1, 甕3), 土製品1点(支脚)が出土している。571は北壁際、DP535は南部の覆土中層からそれぞれ出土しており、埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や9世紀中葉の竪穴建物に掘り込まれていることなどから、9世紀前葉と考えられる。



第343図 第132号竪穴建物跡実測図



第 344 図 第 132 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 132 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 344 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
570	土師器	坏	[12.0]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	5%
571	土師器	甕	-	(2.2)	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	5%

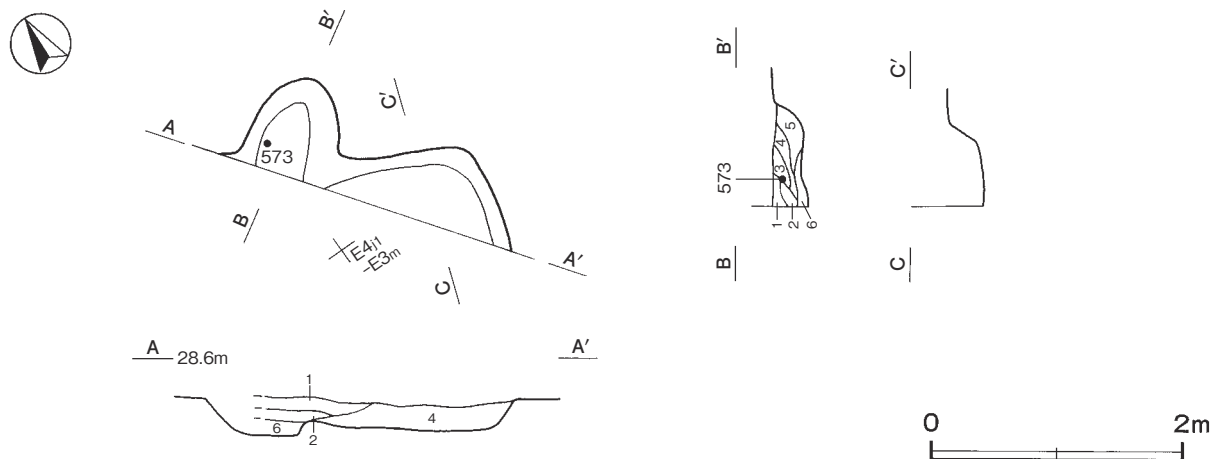
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP535	支脚	(8.2)	(9.2)	9.7	(599)	長石・石英	橙	上部欠損 外面摩滅 被熱痕	覆土中層	

第 140 号竪穴建物跡 (第 345・346 図)

位置 調査D区北部のE 3i0区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東部の一部を除く大部分が調査区域外へ延びているため, 北西・南東軸は 2.00 m, 北東・南西軸は 0.75 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形になると推定できる。主軸方向はN - 30° - Eである。壁は高さ 27cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり, 硬化面・壁溝ともに確認できなかった。



第 345 図 第 140 号竪穴建物跡実測図

竈 北東壁に付設されている。調査区域際で確認したことから、袖部や明確な火床面等は確認できなかった。煙道部は壁外に64cm掘り込まれ、外傾している。

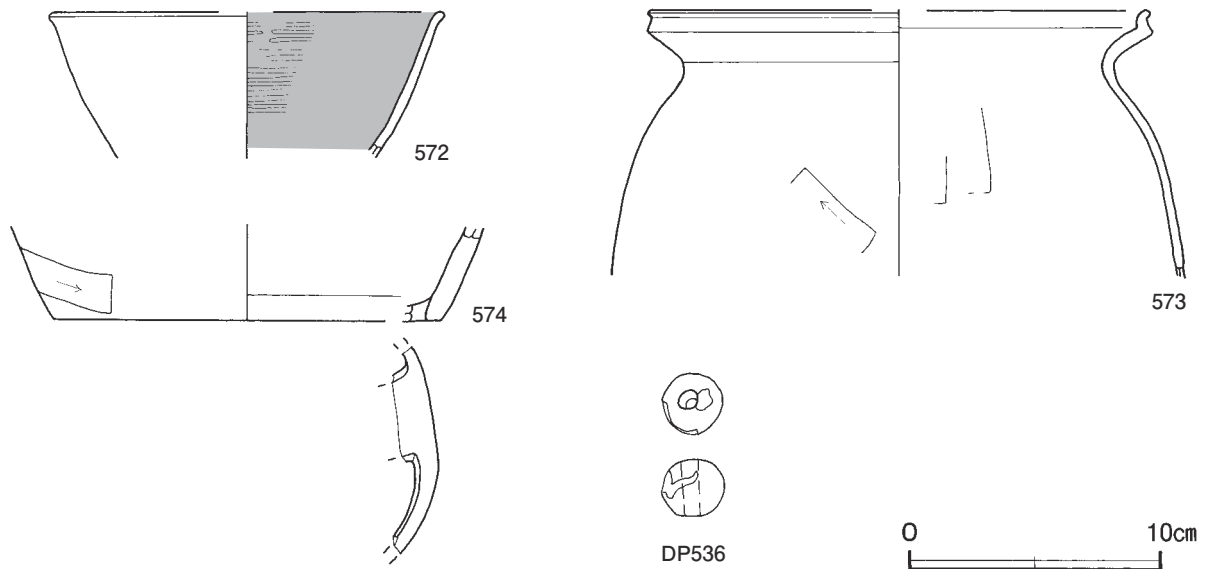
覆土 6層に分層できる。多くの層に焼土や粘土のブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 明褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 極暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片37点(坏11, 椀1, 高台付椀1, 甕24), 須恵器片9点(坏2, 甕6, 甌1), 土製品1点(土玉), 粘土塊1点が出土している。573は覆土上層から出土していることから、埋め戻しの際に混入したものと思われる。

所見 時期は、出土土器や主軸方向から、9世紀後葉と考えられる。



第346図 第140号竪穴建物跡出土遺物実測図

第140号竪穴建物跡出土遺物観察表(第346図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
572	土師器	椀	[15.4]	(5.8)	-	長石・石英・針状物質	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5%
573	土師器	甕	[19.6]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	10%
574	須恵器	甌	-	(3.7)	[15.4]	長石・石英	暗灰黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部二孔残存	覆土中	5% 新治窯

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP536	土玉	2.5	2.2	0.6~0.7	(11.6)	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第141号竪穴建物跡(第347・348図)

位置 調査区D区中央部のF4b2区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため, 南北軸は2.93mで, 東西軸は2.48mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形になると推定できる。主軸方向はN-20°-Wである。壁は高さ22~47cmで, 壁は直立している。

床 平坦で、東部から西部にかけて踏み固められている。確認できた壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙出部まで80cmで、燃烧部幅は53cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。燃烧部および煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1・P2は深さ14cm・13cmで、規模と配置から支柱穴である。第1層は柱抜き取り後の堆積土である。P3は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ14cmで、性格不明である。

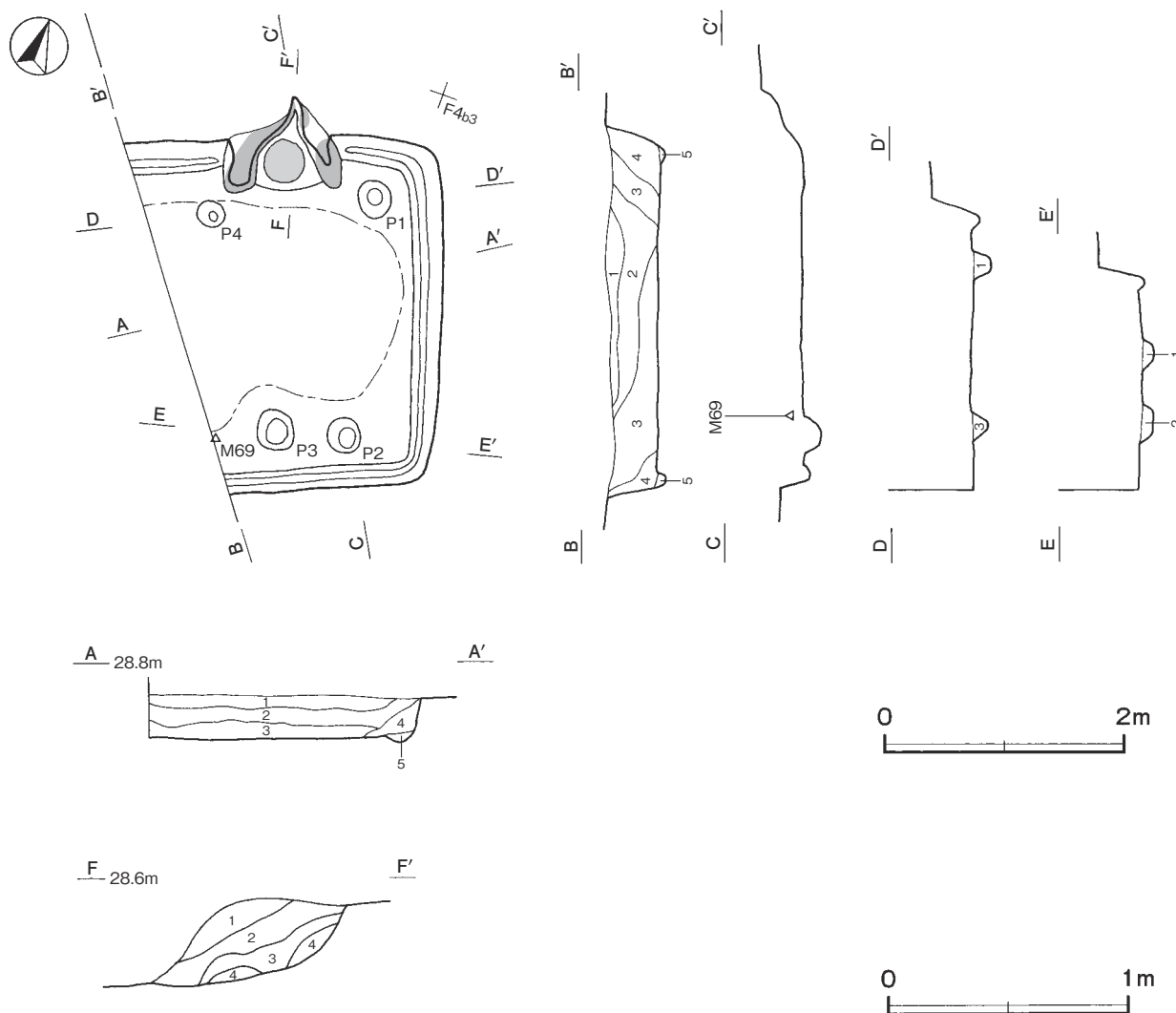
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

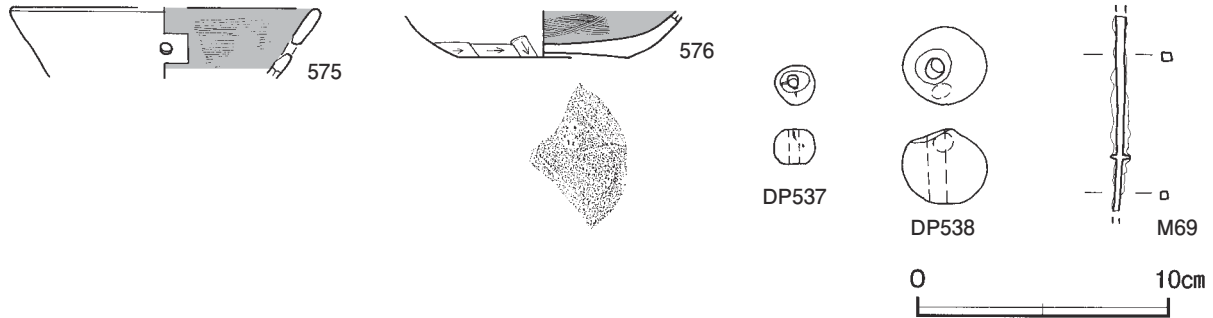
- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |



第 347 図 第 141 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 178 点 (坏 26, 高台付坏 6, 甕類 146), 須恵器片 18 点 (坏 13, 壺 1, 甕 3, 甌 1), 土製品 2 点 (土玉), 金属製品 2 点 (鍬, 不明), 粘土塊 3 点が出土している。575・576 はいずれも覆土中から出土していることから, 埋め戻しの際に混入したものとみられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



第 348 図 第 141 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 141 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 348 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
575	土師器	坏	[12.0]	(2.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部内面へラ磨き 孔有り	覆土中	5%
576	土師器	坏	-	(1.8)	[6.8]	長石・石英・赤色粒子・針状物質	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへラ削り 内面へラ磨き 底部二方向のへラ削り	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP537	土玉	1.6	1.4	0.4	3.34	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 擦痕有り	覆土中	
DP538	土玉	3.2~3.3	2.9	0.6~0.7	27.8	長石・石英・黒色粒子	橙	ナデ 二方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 69	鍬	(7.8)	0.4	0.3	(5.77)	鉄	鍬身部・基部欠損 棘関 断面長方形	覆土中層	

表 13 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
1	B 2h8	N - 19° - E	長方形	4.05 × 3.64	不明	平坦	ほぼ全周	-	-	-	北壁	-	不明	土師器, 金属製品	10 世紀中葉	
2	C 2c9	N - 27° - E	方形	4.03 × 3.72	25 ~ 35	平坦	全周	4	1	6	北東壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀中葉	TP 1 → 本跡 → SK91
5	C 2e4	N - 5° - W	方形	3.68 × 3.56	15 ~ 18	平坦	ほぼ全周	-	-	1	[北壁]	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀後葉	本跡 → SK38 ~ 41
6	C 2g4	N - 85° - W	長方形	4.20 × 3.40	22 ~ 32	平坦	全周	4	1	2	西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀後葉	本跡 → SK46
8	B 2h4	N - 62° - W	方形	2.76 × 2.74	16 ~ 21	ほぼ平坦	-	-	-	-	西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	10 世紀後葉	SI 9 → 本跡 → SK49
9	B 2h4	N - 104° - E	方形	3.45 × 3.45	6 ~ 13	平坦	-	-	-	2	東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	10 世紀中葉	SI 7 → 本跡 → SI 8, SK49
11	B 2j0	N - 17° - E	方形	3.46 × 3.34	10 ~ 18	平坦	全周	-	1	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	9 世紀後葉	本跡 → SF 1
13	E 3d6	N - 100° - E	長方形	3.35 × 3.02	12 ~ 18	平坦	ほぼ全周	2	1	1	東壁	1	人為	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 土製品	10 世紀後葉	本跡 → SK47・48・72
14	C 2b6	N - 12° - W	長方形	3.46 × 3.10	22 ~ 28	平坦	[全周]	-	-	-	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器	9 世紀中葉	SI 3 → 本跡 → SK77・80・81
15	C 2e2	N - 54° - W	方形	3.83 × 3.72	17 ~ 23	平坦	-	-	-	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀中葉	本跡 → SI 16
16	C 2e3	N - 40° - W	方形	2.86 × 2.82	6 ~ 10	平坦	一部	-	-	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器	9 世紀後葉	SI 15 → 本跡 → SK44・45
17	B 2j4	N - 12° - E	方形	2.92 × 2.84	12 ~ 33	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀後葉	SI 7 → 本跡

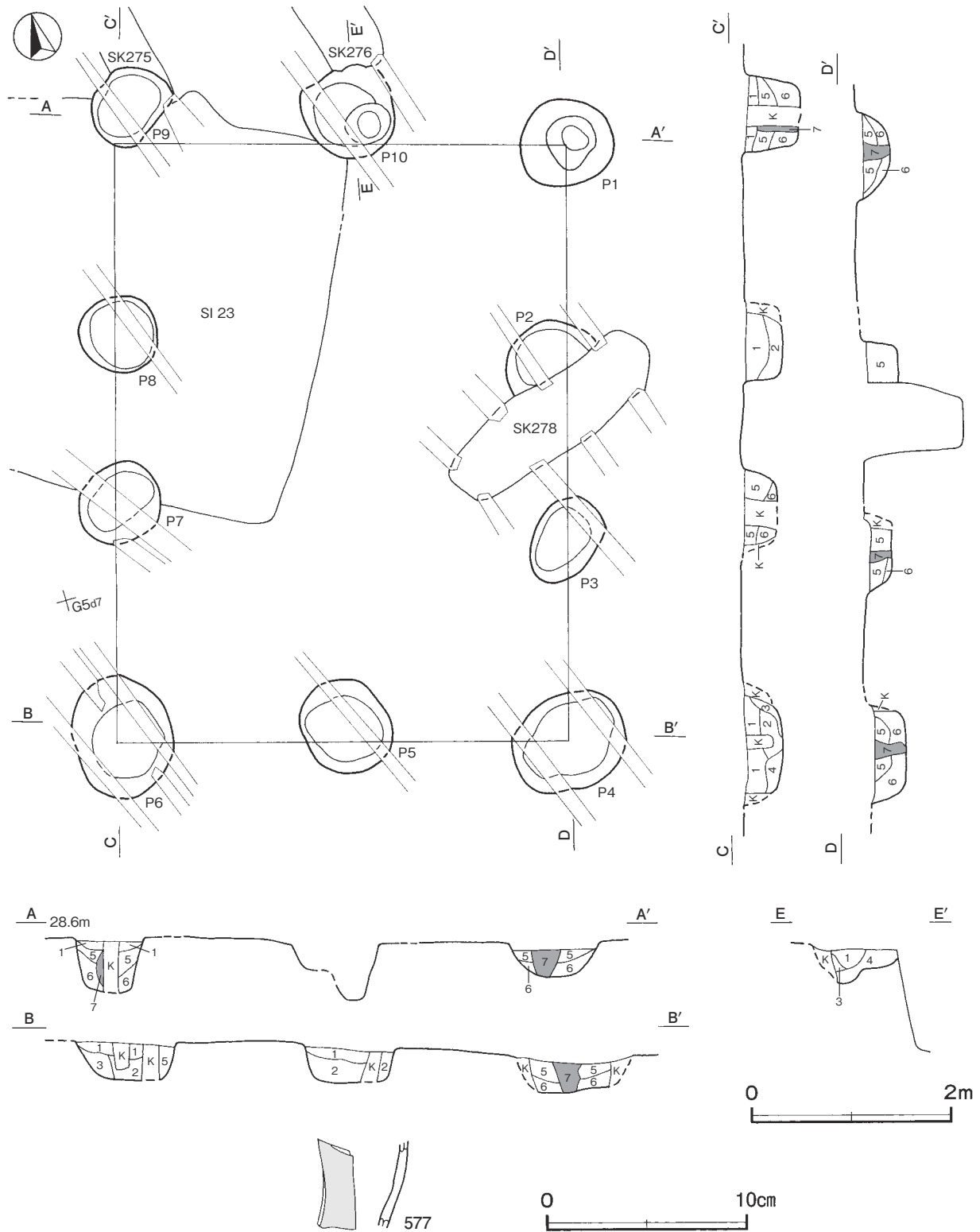
番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴				
26	G 6b3	N-24°-W	方形	3.03 × 2.80	8~20	平坦	-	1	-	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	10世紀前葉	SI 25 → 本跡
30	G 5d4	N-87°-E	方形	3.26 × 3.11	9~24	ほぼ平坦	全周	1	1	-	東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	9世紀前葉	
32	G 5a5	N-23°-E	方形	5.68 × 5.51	36~58	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 33・36・53, SK315 → 本跡 → SK274・300
34	F 5i6	N-10°-E	長方形	5.38 × 4.17	16	ほぼ平坦	[全周]	3	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	SI 53・104 → 本跡 → SI 52
35	G 5c3	N-16°-E	長方形	4.16 × 3.69	10~33	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀中葉	SI 39 → 本跡 → SK303
44	F 6h1	N-12°-E	方形	5.42 × 5.10	32~62	平坦	全周	4	1	9	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀後葉	SI 43・45・83 → 本跡 → SK391
49	F 6e3	N-8°-E	方形	3.67 × 3.66	7~15	平坦	全周	2	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	10世紀中葉	SI 48 → 本跡 → SK400・424・425・434
50	F 6f2	N-62°-W	方形	3.10 × 2.97	62~75	ほぼ平坦	-	-	1	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 48・82 → 本跡 → SK409
51	F 5j6	N-10°-E	長方形	3.25 × 2.57	7	やや凹凸	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	10世紀前葉	SI 53 → 本跡 → SK300
52	F 5i5	N-2°-W	方形	4.48 × 4.13	37	平坦	ほぼ全周	2	1	2	北壁 西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 34・68 → 本跡
58	F 4f0	N-0°	方形	3.60 × 3.58	24~30	平坦	ほぼ全周	4	1	-	北壁	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀前葉	SI 70 → 本跡 → SK327・387・403
59	F 4h0	N-18°-E	長方形	4.46 × 3.88	15	平坦	ほぼ全周	3	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀中葉	SI 61・71 → 本跡 → SK343
62	F 5h1	N-8°-E	[方形・長方形]	5.28 × (4.56)	15	平坦	[全周]	-	1	5	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SI 71・73 → 本跡 → SK364・439
63	F 5h7	N-111°-E	[方形・長方形]	3.12 × (2.64)	18	平坦	-	-	-	-	東壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI 64, SB 4 → 本跡 → SK342・344
65	F 5f7	N-13°-E	方形	4.67 × 4.60	31~38	平坦	[全周]	4	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 75, SB 6, SK431・432・449 → 本跡 → SK368
66	F 5g5	N-11°-E	方形	5.02 × 4.73	38~45	平坦	ほぼ全周	4	2	6	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	SI 72・104 → 本跡 → SK430
67	F 5f5	N-10°-E	長方形	2.98 × 2.62	12~23	平坦	ほぼ全周	1	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	SI 72 → 本跡
71	F 4h0	N-24°-W	[方形・長方形]	4.98 × (4.60)	16	平坦	[全周]	4	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀前葉	SI 59・62 → 本跡 → SK447
75	F 5g7	[N-30°-E]	方形	5.06 × 4.98	16~18	平坦	[全周]	1	-	2	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	SI 64・72・104 → 本跡 → SI 65
79	F 4f9	N-17°-E	方形	3.87 × 3.66	32~45	平坦	全周	-	-	-	北壁 2	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 77, SK758 → 本跡
81	F 6c2	N-32°-W	長方形	4.63 × 4.12	15~25	平坦	全周	4	-	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	10世紀前葉	SK455 → 本跡 → SK436・454・457・459
82	F 6f1	N-7°-E	方形	6.78 × 6.58	55~67	平坦	-	4	1	12	-	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	SI 43・48・83 → 本跡 → SI 50・89, SK644
83	F 6h1	N-20°-E	[方形・長方形]	4.78 × (3.00)	35	平坦	[全周]	1	-	2	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	9世紀前葉	SI 43・48 → 本跡 → SI 44・82・89, SK644
86	E 5j7	N-6°-W	方形	4.08 × 4.07	18~27	平坦	全周	5	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀後葉	SI 87 → 本跡 → SK452・460・461・537・557
87	F 5a7	N-5°-E	長方形	3.42 × 2.90	7~15	平坦	ほぼ全周	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI 88 → 本跡 → SI 86, SK462
89	F 6h2	N-41°-W	長方形	3.92 × 3.48	32~42	平坦	-	-	-	-	北西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 金属製品	10世紀前葉	SI 48・82・83 → 本跡
98	F 5a1	N-7°-E	方形	4.64 × 4.38	30~38	平坦	全周	4	1	3	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品, 自然遺物	9世紀後葉	SI 99・115・132 → 本跡 → SK623
104	F 5g5	[N-37°-W]	方形	6.98 × 6.83	20	平坦	[全周]	4	2	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉	SI 68・72 → 本跡 → SI 34・52・66・75, SK430・547・587
109	F 4a9	[N-16°-E]	方形	4.06 × 3.84	4~7	平坦	ほぼ全周	-	-	2	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	10世紀中葉	SI 137 → 本跡
110	F 4b0	N-5°-E	方形	3.33 × 3.28	20~25	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	SI 137 → 本跡
113	F 5e3	N-16°-E	方形	3.22 × 3.16	20~40	平坦	ほぼ全周	2	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	SI 94・114 → 本跡 → SK580
115	F 5b1	N-4°-E	長方形	3.87 × 3.38	38~47	ほぼ平坦	全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	SI 108・132 → 本跡 → SI 98, SK659・723
119	E 5i1	N-80°-W	方形	2.55 × 2.55	3~5	平坦	全周	4	1	-	西壁	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品	10世紀前葉	
120	E 4i0	N-1°-W	方形	3.72 × 3.50	4~11	平坦	全周	-	1	4	-	-	人為	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 土製品	9世紀後葉	
122	F 4c5	N-76°-W	[方形・長方形]	2.62 × (1.90)	12~14	平坦	[全周]	2	-	-	西壁	-	人為	土師器, 須恵器	10世紀前葉	SI 121 → 本跡 → SK545
123	F 4d5	N-6°-W	方形	4.22 × 4.16	29~42	ほぼ平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	9世紀中葉	SI 121・124・125 → 本跡
126	F 4c8	N-21°-W	長方形	4.78 × 4.27	17~33	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	SK767 → 本跡 → SK522
128	F 5d1	N-10°-E	方形	3.75 × 3.65	37~43	平坦	一部	1	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	SI 102・139 → 本跡
129	F 4g8	N-12°-E	方形	4.42 × 4.19	30	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	9世紀後葉	SI 76・77・130, SK712 → 本跡
130	F 4g8	[N-9°-E]	[方形]	2.34 × (2.25)	23	ほぼ平坦	-	4	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI 77 → 本跡 → SI 129
131	E 5c3	N-5°-W	方形	3.41 × 3.16	8	平坦	全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	SI 134 → 本跡 → SK687
132	F 5b2	N-2°-E	[方形・長方形]	3.26 × (1.48)	13	平坦	[全周]	1	-	-	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉	SI 99 → 本跡 → SI 98・115, SO 3
140	E 3i0	N-30°-E	[方形・長方形]	(2.00) × (0.75)	27	やや凹凸	-	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀後葉	
141	F 4b2	N-20°-W	[方形・長方形]	2.93 × (2.48)	22~47	平坦	[全周]	2	1	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第349図)

位置 調査D区南部のG 5 b7 ~ G 5 d8 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号竪穴建物跡, 第275号土坑を掘り込み, 第276・278号土坑に掘り込まれている。



第349図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-15°-Eの南北棟である。規模は、桁行6.0m、梁行4.5mで、面積は27.00㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）～2.4m（8尺）、梁行は2.1m（7尺）～2.4m（8尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径79～120cm、短径61～98cmである。深さは24～52cmで、掘方の壁は外傾している。第1～4層は柱抜き取り後の堆積土、第5・6層は埋土、第7層は柱痕跡である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片65点（坏11、高台付坏1、鉢1、甕類52）、須恵器片11点（坏6、甕5）、灰釉陶器片1点（瓶）のほか、縄文土器片2点（深鉢）、石製品1点（有孔円板）が出土している。577はP9の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や奈良時代の竪穴建物跡を掘り込んでいることなどから、9世紀中葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係、規模と形状などから、本跡は倉庫として機能していたと考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第349図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
577	灰釉陶器	瓶	-	(4.6)	-	精緻	オリーブ灰	緻密	外面施釉	P9覆土中	5% 黒笹14窯式

第3号掘立柱建物跡（第350・351図）

位置 調査D区中央部から南部にかけてのF5j7～G5b8区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号陥し穴、第305号土坑を掘り込み、第276・298・318号土坑に掘り込まれている。第309号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の総柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Wの東西棟である。規模は、桁行6.6m、梁行6.0mで、面積は39.60㎡である。柱間寸法は、桁行間については西平から2.1m（7尺）・2.1m（7尺）・2.4m（8尺）と東が広く、梁行間については北妻から2.1m（7尺）・1.8m（6尺）・2.1m（7尺）と中央が狭い。柱筋はほぼ揃っている。

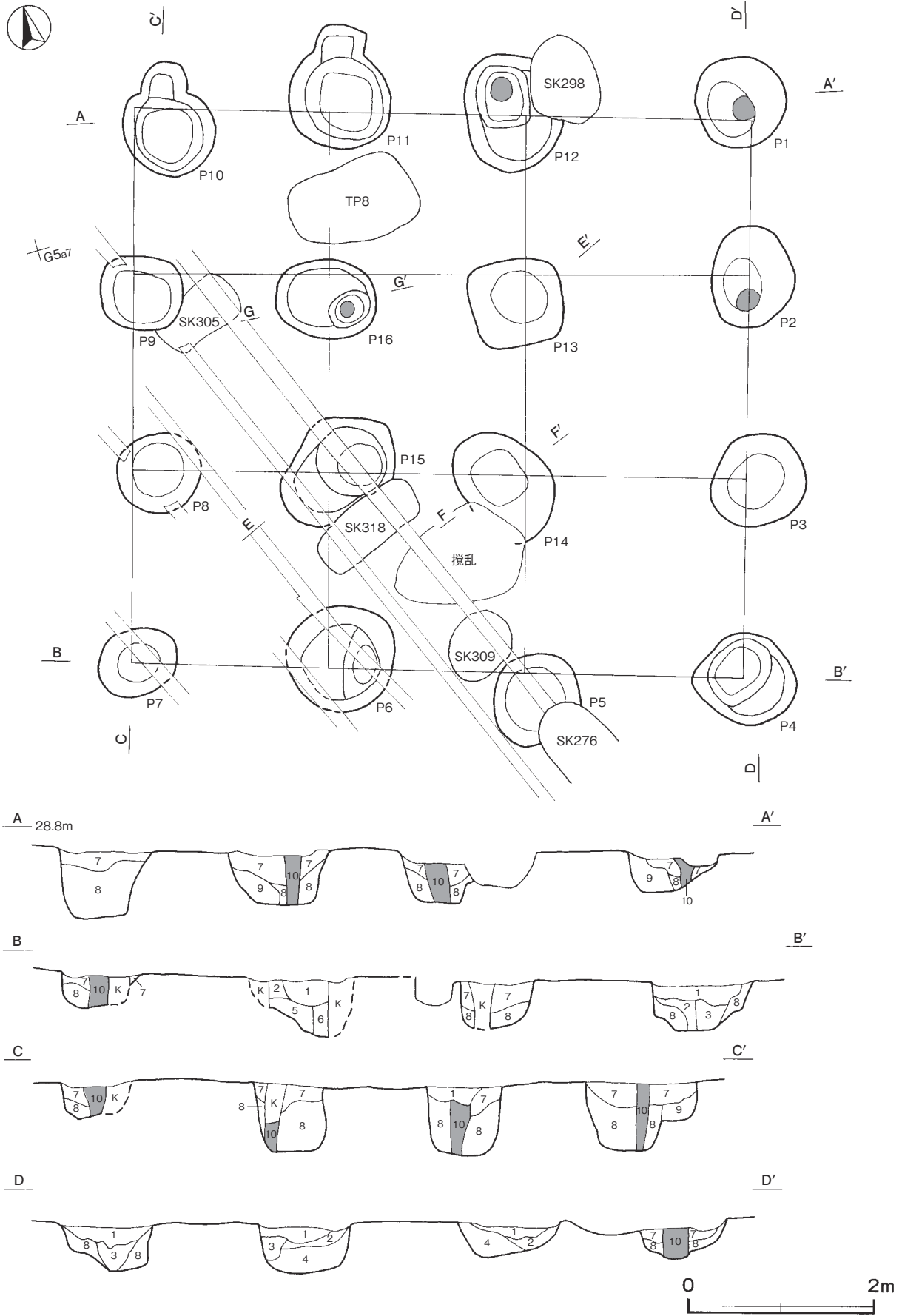
柱穴 16か所。平面形は円形または楕円形で、長径89～142cm、短径68～110cmである。深さは33～80cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。第1～6層は柱抜き取り後の堆積土、第7～9層は埋土、第10層は柱痕跡である。P1・P2・P12・P16の底面から、柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は12～28cmと推定できる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

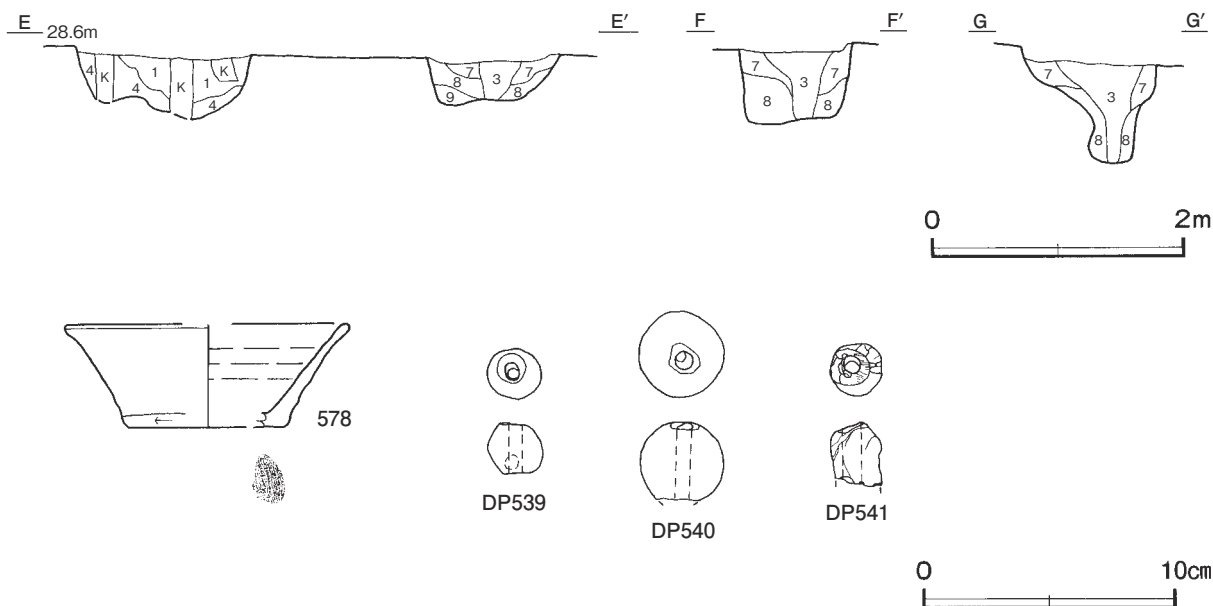
- | | | | |
|-------|-------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片173点（坏類41、高台付坏1、蓋1、甕類129、甗1）、須恵器片23点（坏17、蓋1、甕5）、土製品3点（土玉2、管状土錘1）、鉄滓2点のほか、縄文土器片19点（深鉢）、土師器片2点（高坏、手握土器）が出土している。578はP12の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀前葉に比定できる。規模と構造などから、本跡は高床式倉庫として機能していた可能性がある。



第 350 图 第 3 号掘立柱建物跡実測図



第351図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第351図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
578	須恵器	坏	[11.0]	4.1	[6.2]	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	P 12 覆土中	10% 稲敷産
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP539	土玉	1.9~2.2	2.0	0.5	7.92	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形 指頭痕		P 4 覆土中	
DP540	土玉	3.4	(3.1)	0.6	(31.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	端部欠損 ナデ 一方向からの穿孔		P 5 覆土中	
DP541	管状土錘	2.1	(2.5)	0.7	(9.72)	長石・石英・黒色粒子	橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形		P 2 覆土中	PL90

第4号掘立柱建物跡（第352図）

位置 調査D区中央部のF 5 h7～F 5 j8区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

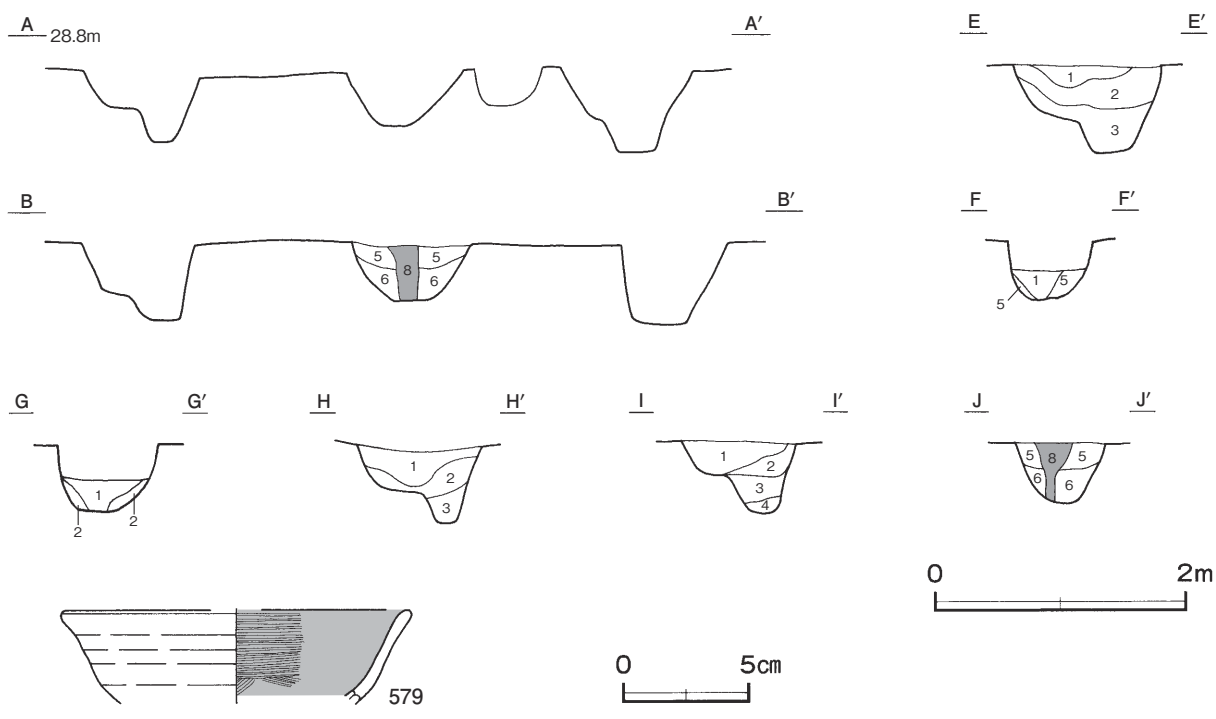
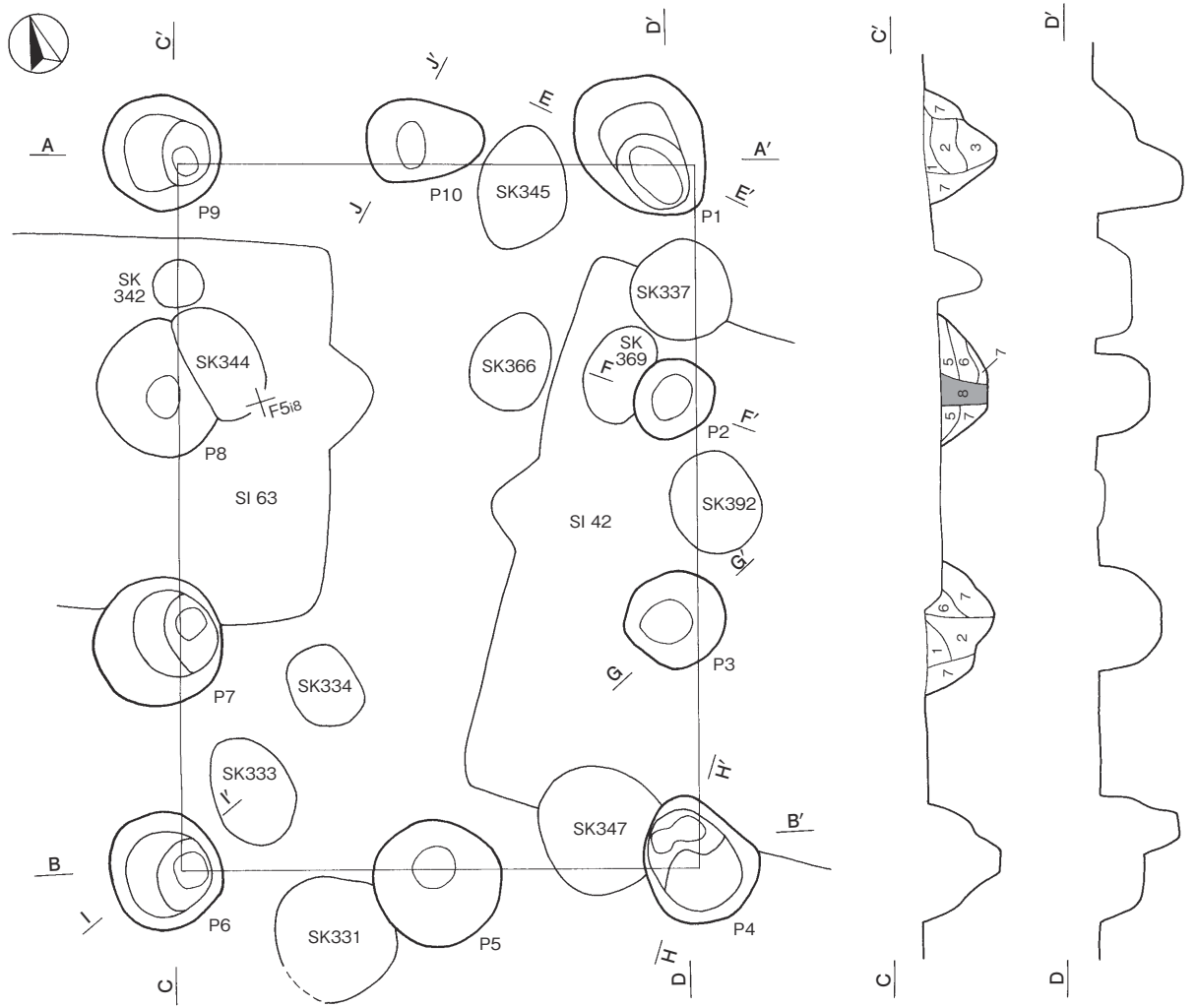
重複関係 第42号竪穴建物跡、第331・347・369号土坑を掘り込み、第63号竪穴建物、第344号土坑に掘り込まれている。第333・334・337・342・345・366・392号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.7m、梁行4.2mで、面積は23.94㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）～2.1m（7尺）、梁行は2.1m（7尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径68～130cm、短径60～100cmである。深さは46～70cmで、掘方の壁は外傾している。第1～4層は柱抜き取り後の堆積土、第5～7層は埋土、第8層は柱痕跡である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|----------------|----------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |



第 352 图 第 4 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 60 点 (坏 23, 高台付坏 1, 甕類 36), 須恵器片 4 点 (坏 2, 蓋 1, 甕 1) が出土している。579 は P 1 の堆積層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や 9 世紀中葉の第 63 号竪穴建物に掘り込まれていることなどから, 9 世紀前葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係, 規模と形状などから, 本跡は屋として機能していたと考えられる。

第 4 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 352 図)

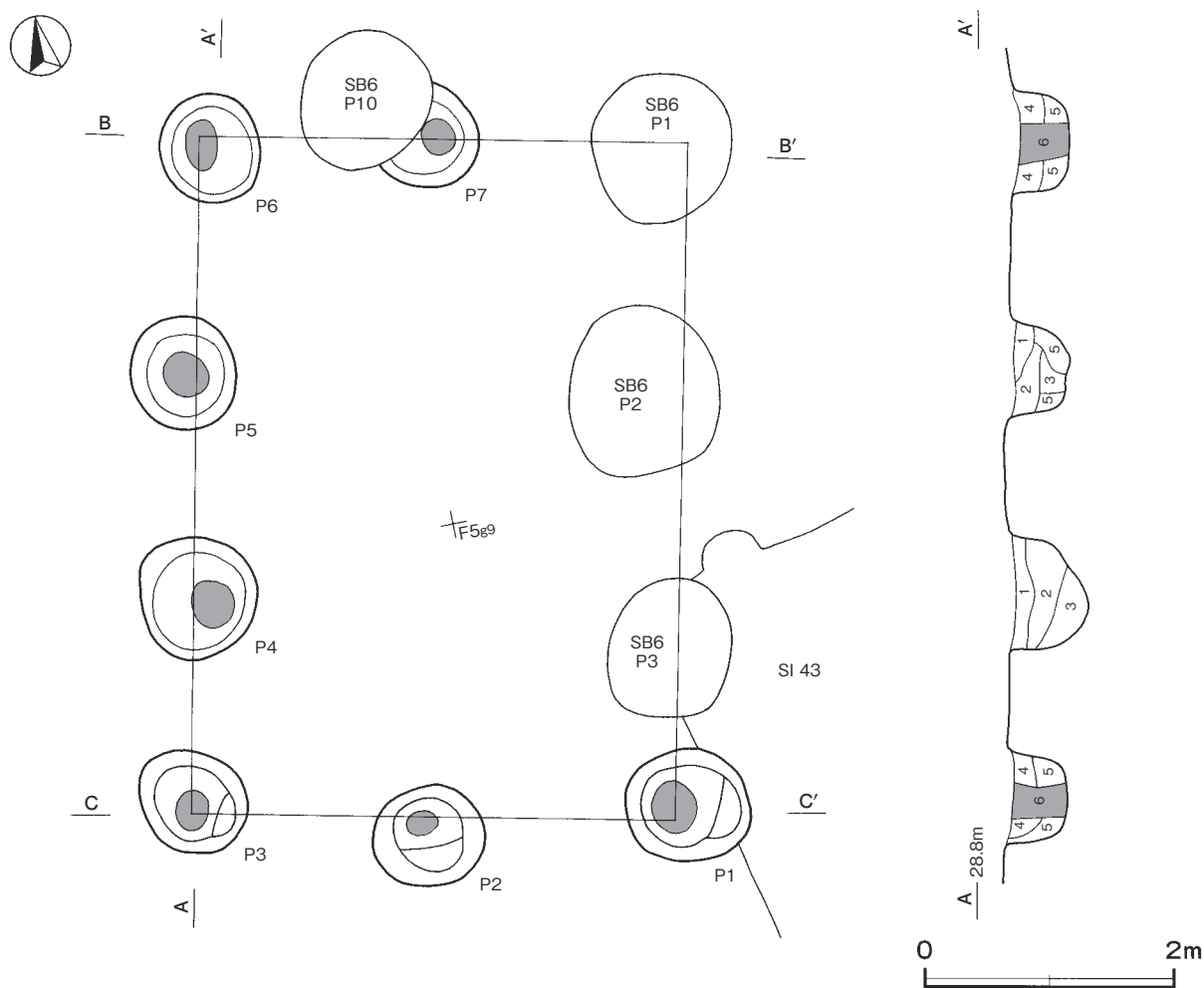
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
579	土師器	坏	[13.6]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	P 1 堆積層	5%

第 5 号掘立柱建物跡 (第 353・354 図)

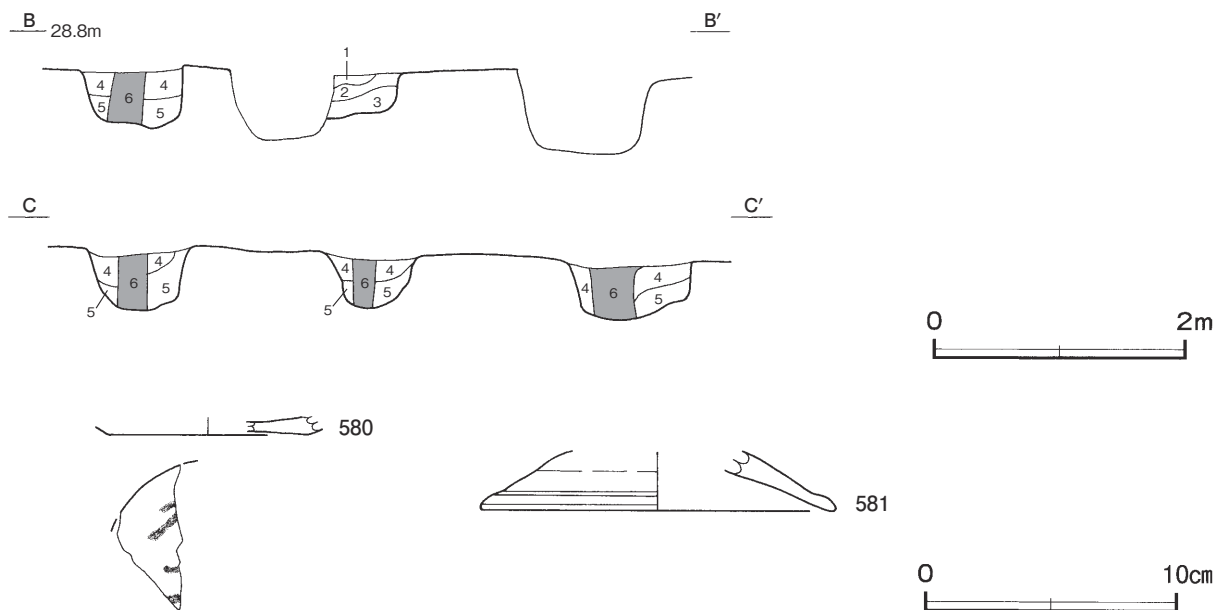
位置 調査 D 区中央部の F 5 f8 ~ F 5 g9 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 43 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 6 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 11° - E の南北棟である。規模は, 桁行 5.4 m, 梁行 3.9 m で, 面積は 21.06m² である。柱間寸法は, 桁行が 1.8 m (6 尺), 梁行は 1.8 m (6 尺) ~ 2.1 m (7 尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。



第 353 図 第 5 号掘立柱建物跡実測図



第 354 図 第 5 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、長径 89～103cm、短径 80～94cmである。深さは 32～62cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。第 1～3 層は柱抜き取り後の堆積土、第 4・5 層は埋土、第 6 層は柱痕跡である。すべての柱穴の底面から、柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は 25～30cmと推定できる。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|----------|------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 56 点 (坏 23, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕類 31), 須恵器片 2 点 (坏) のほか、縄文土器片 6 点 (深鉢) が出土している。580・581 はいずれも P 1 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9 世紀前葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係、規模と形状などから、本跡は屋として機能していたと考えられる。

第 5 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 354 図)

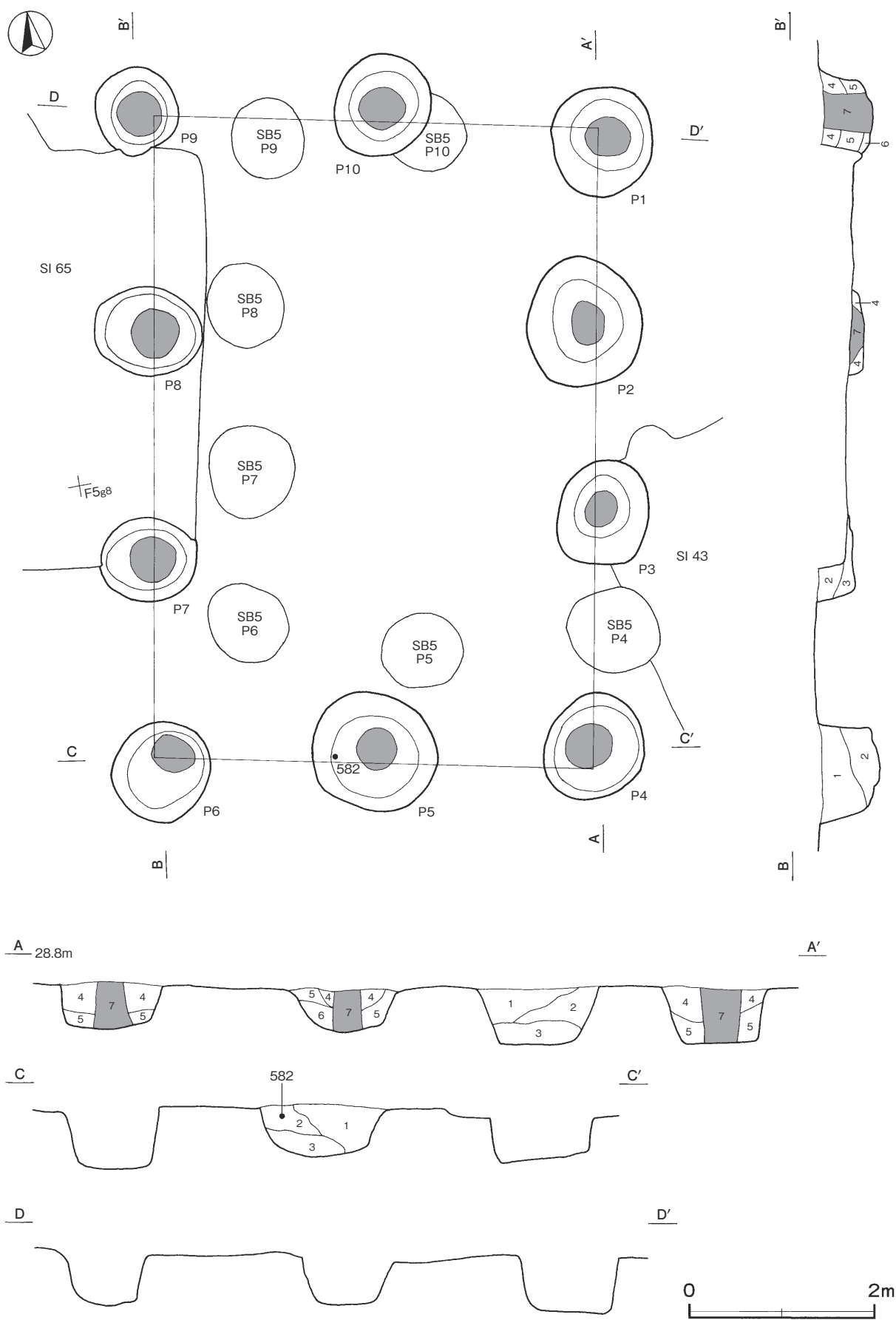
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
580	土師器	坏	-	(0.7)	[8.0]	長石・石英	橙	普通	底部一方向のヘラ削り 墨書「居ニカ」	P 1 覆土中	5% PL81
581	土師器	蓋	[14.0]	(2.3)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐	普通	ロクロ成形	P 1 覆土中	20%

第 6 号掘立柱建物跡 (第 355・356 図)

位置 調査 D 区中央部の F 5 e8～F 5 g9 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 43 号竪穴建物跡、第 5 号掘立柱建物跡を掘り込み、第 65 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 12° - E の南北棟である。規模は、桁行 6.9 m、梁行 4.8 m で、面積は 33.12㎡である。柱間寸法は、桁行が 1.8 m (6 尺)～2.7 m (9 尺)、梁行は 2.4 m (8 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。



第 355 图 第 6 号掘立柱建物跡実測図

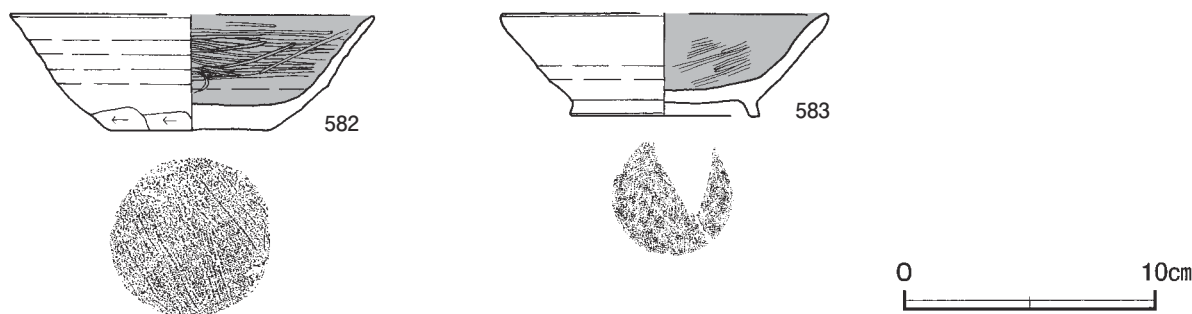
柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径88～140cm、短径90～125cmである。深さは38～65cmで、掘方の壁はほぼ直立または外傾している。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第4～6層は埋土、第7層は柱痕跡である。すべての柱穴の底面から、柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は30～50cmほどと推定できる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片55点（坏類30、高台付坏2、甕23）、須恵器片2点（坏）、粘土塊1点、鉄滓1点のほか、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。582はP5の堆積層から出土している。

所見 時期は、出土土器や9世紀後葉の第65号竪穴建物に掘り込まれていることなどから、9世紀中葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係から、本跡は屋として機能していたと考えられる。



第356図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第356図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
582	土師器	坏	[14.3]	4.6	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	P5堆積層	55%
583	土師器	高台付坏	[13.0]	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	P6覆土中	55%

第7号掘立柱建物跡（第357図）

位置 調査D区中央部のF5e0～F5f0区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-10°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.6m、梁行2.1mで、面積は7.56㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

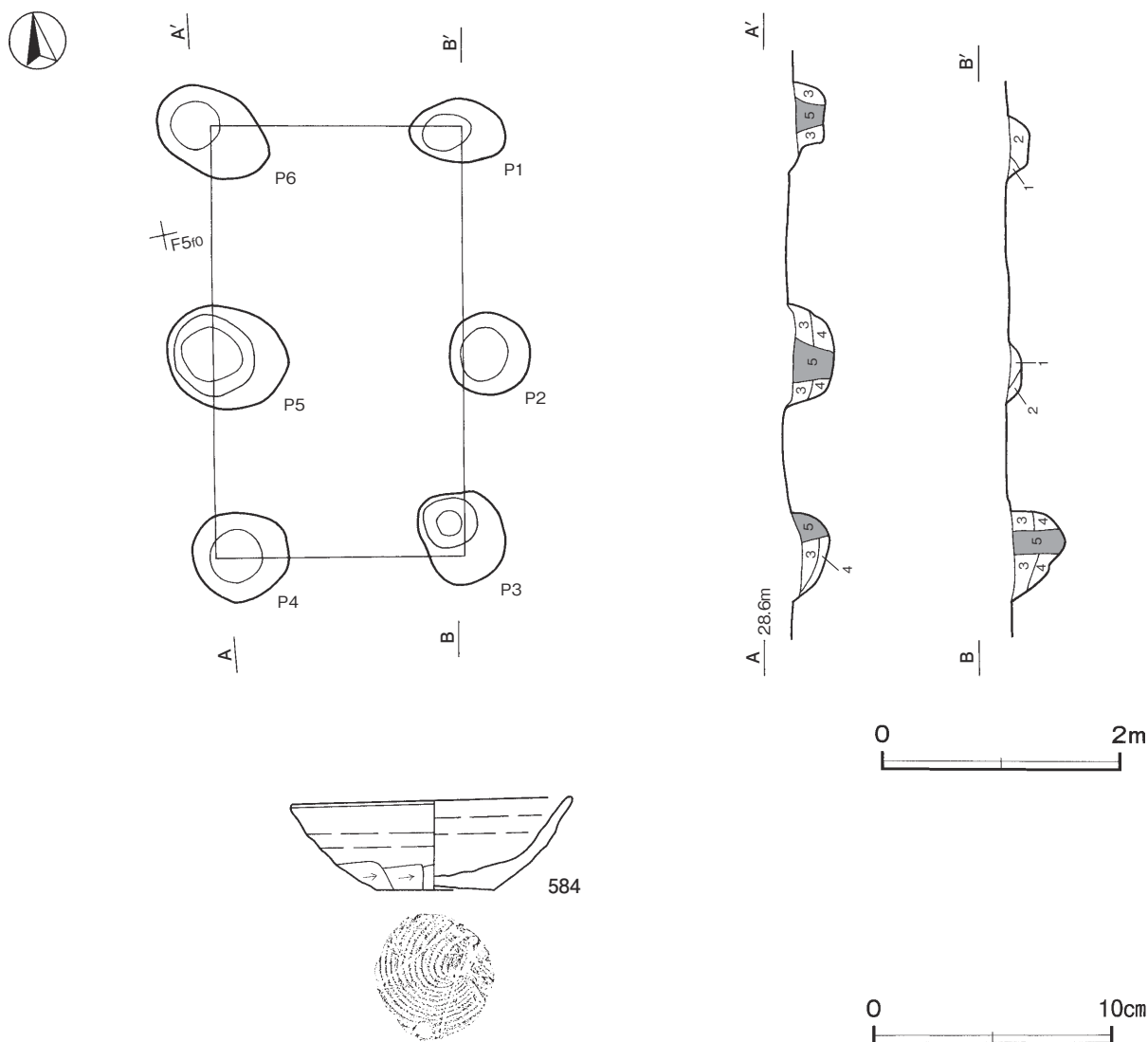
柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径70～100cm、短径54～86cmである。深さは10～46cmで、掘方の壁は外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土、第3・4層は埋土、第5層は柱痕跡である。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|--------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片31点（坏14、高台付坏1、甕16）、須恵器片3点（坏2、蓋1）が出土している。584はP6の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係、規模と形状などから、本跡は屋として機能していたと考えられる。



第 357 図 第 7 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 7 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 357 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
584	土師器	坏	11.7	3.9	5.0	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転糸切り 底部宛書「六」	P 6 覆土中	30% PL81

第 8 号掘立柱建物跡（第 358 図）

位置 調査D区中央部のF 5 d8～F 5 f9区、標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 744 号土坑を掘り込み、第 576 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向がN - 7° - Eの南北棟である。規模は、桁行 3.6 m、梁行 3.3 mで、面積は 11.88㎡である。柱間寸法は、桁行が 1.8 m（6 尺）、梁行は 1.5 m（5 尺）～1.8 m（6 尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は円形で、長径 77～110cm、短径 68～98cmである。深さは 12～33cmで、掘方の壁は外傾している。第 1 層は柱抜き取り後の堆積層、第 2・3 層は埋土、第 4 層は柱痕跡である。

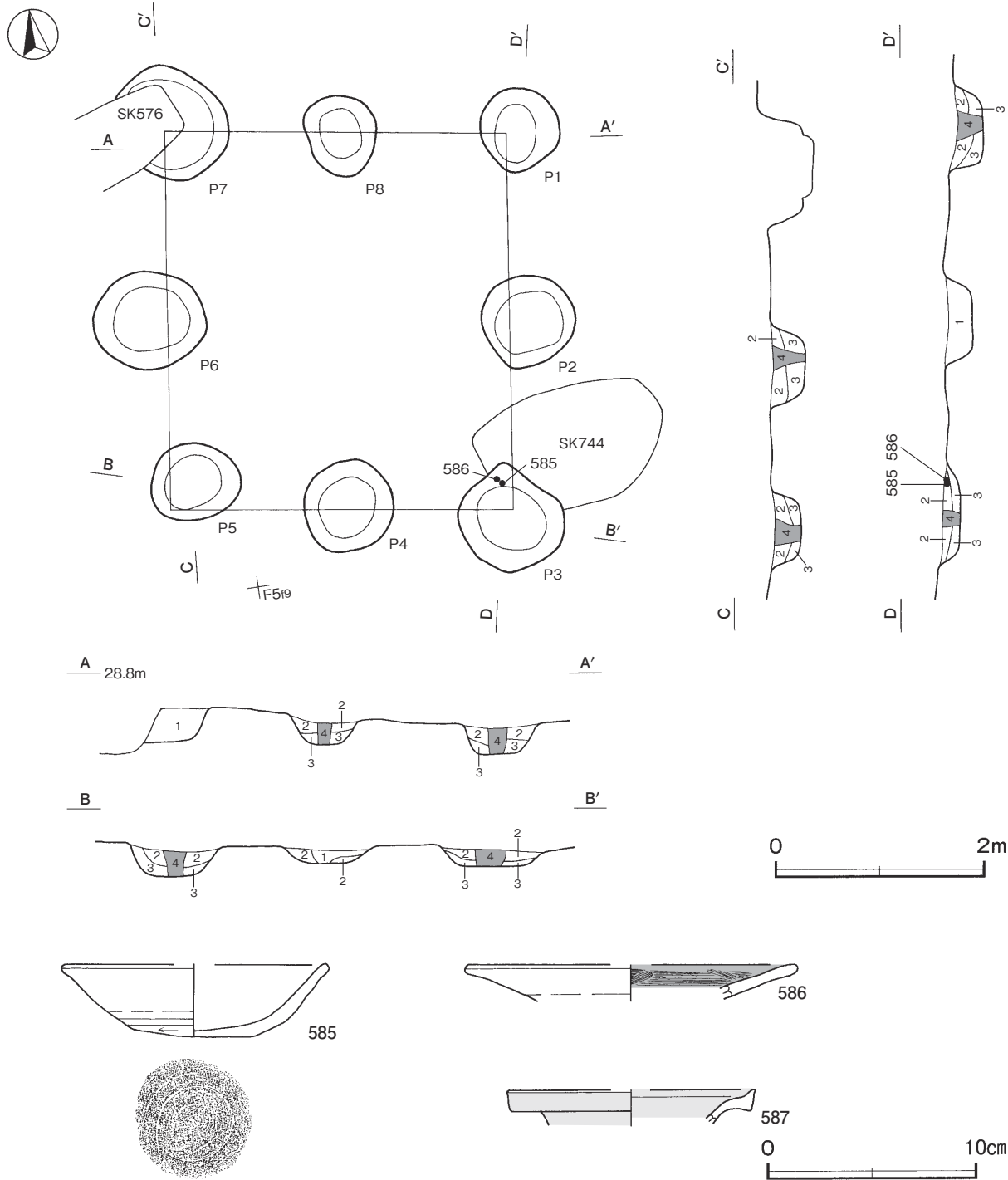
柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 55 点 (坏類 40, 蓋 1, 皿 2, 甕 12), 須恵器片 3 点 (坏 2, 瓶 1), 灰釉陶器片 1 点 (長頸瓶) のほか, 土師器片 2 点 (高坏, 手捏土器) が出土している。585・586 は, いずれも P3 の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係, 規模と形状などから, 本跡は屋として機能していたと考えられる。



第 358 図 第 8 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

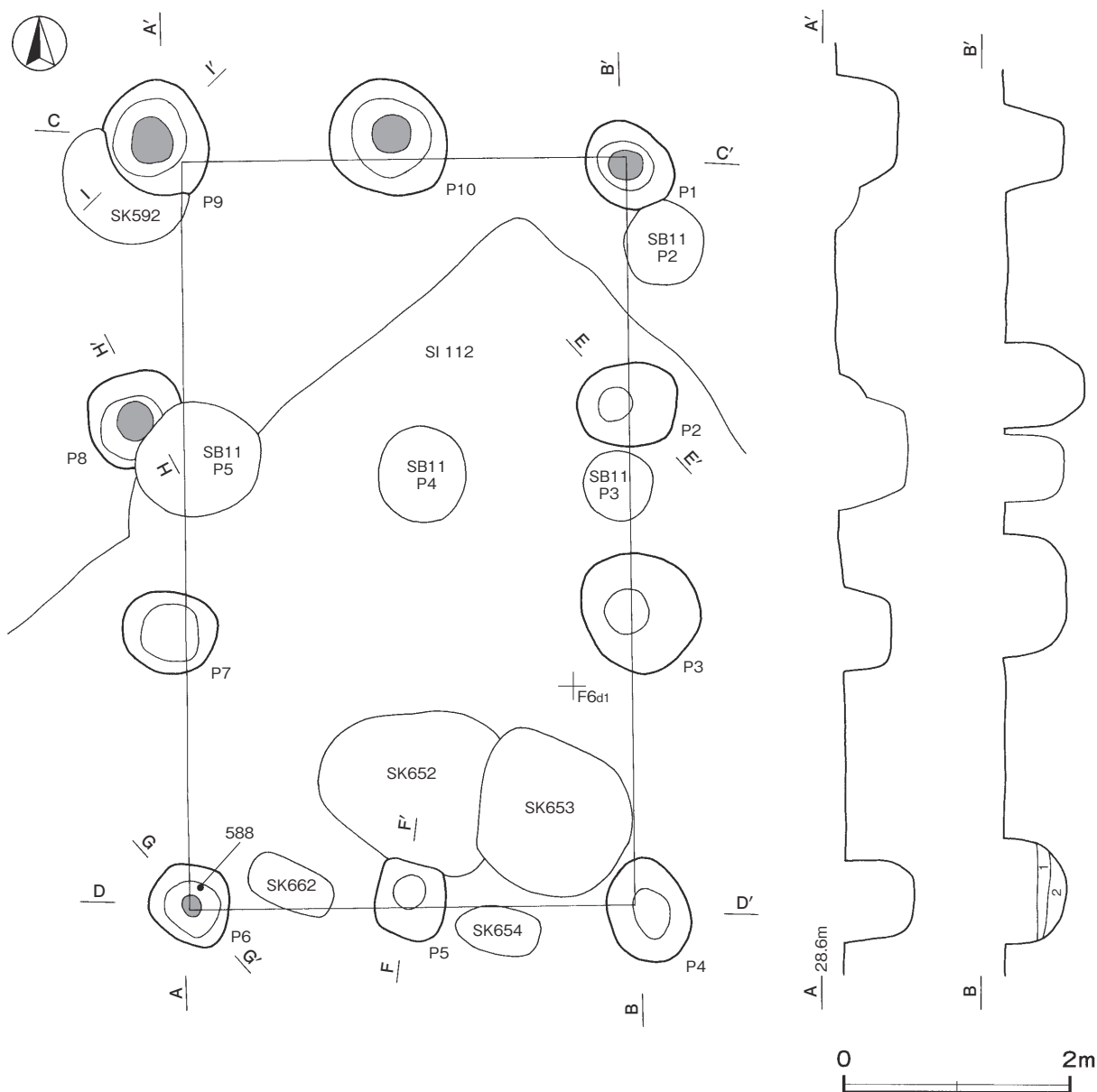
第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第358図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
585	土師器	坏	[12.4]	3.5	5.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	P 3埋土	60%
586	土師器	皿	[15.6]	(1.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	P 3埋土	5%
587	灰釉陶器	長頸瓶	[11.8]	(1.7)	-	精緻	オリーブ灰	緻密	外・内面施釉	P 6覆土中	5% 黒継 90窯式

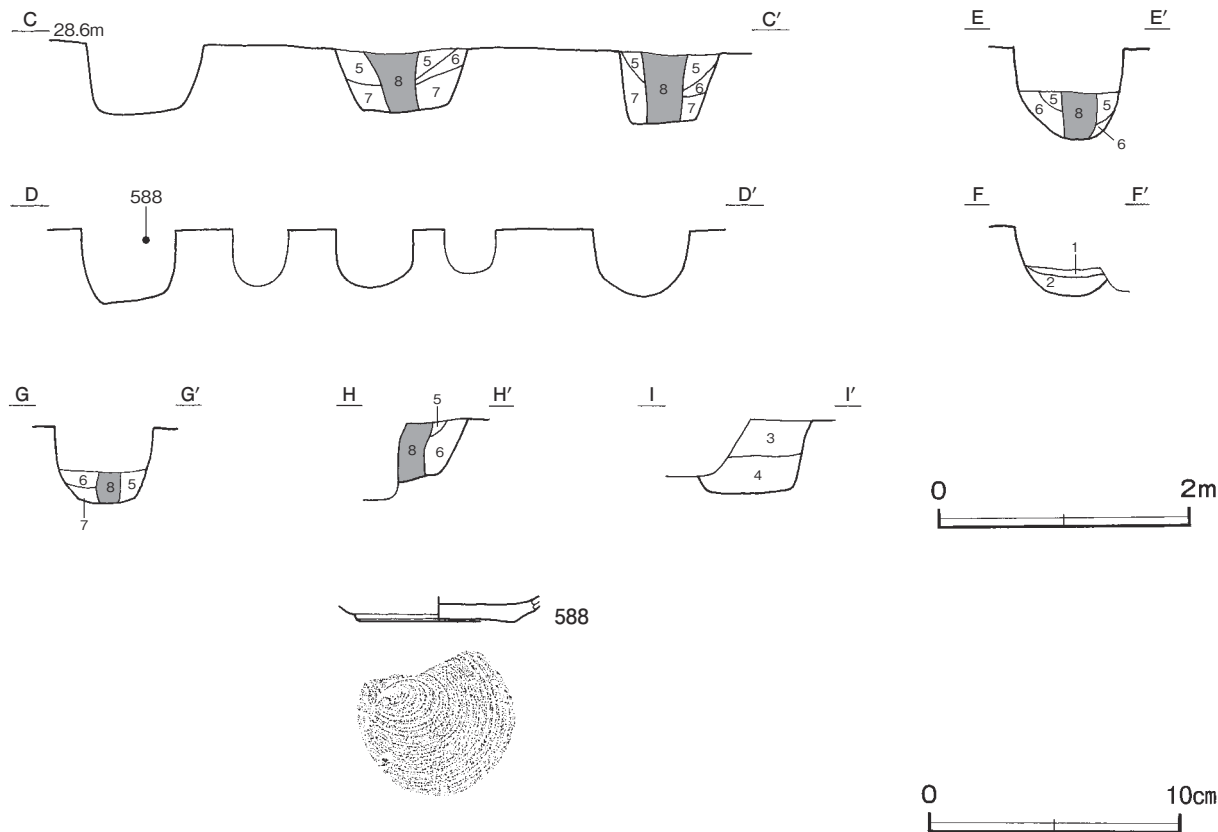
第9号掘立柱建物跡（第359・360図）

位置 調査D区中央部のF 5 b9～F 6 d1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第112号竪穴建物跡を掘り込み、第11号掘立柱建物、第592・652・653号土坑に掘り込まれている。第654・662号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。



第359図 第9号掘立柱建物跡実測図



第 360 図 第 9 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行 3 間，梁行 2 間の側柱建物跡で，桁行方向が $N-0^\circ$ の南北棟である。規模は，桁行 6.6 m，梁行 3.9 m で，面積は 25.74 m^2 である。柱間寸法は，桁行が 1.8 m（6 尺）～ 2.7 m（9 尺），梁行は 1.8 m（6 尺）～ 2.1 m（7 尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 72～110cm，短径 60～100cm である。深さは 42～72cm で，掘方の壁は外傾している。第 1～4 層は柱抜き取り後の堆積土，第 5～7 層は埋土，第 8 層は柱痕跡である。P 1・P 6・P 8～P 10 の底面から，柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から，柱の直径は 27～39cm と推定できる。

柱穴土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|--------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂粒微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・砂粒微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 35 点（坏 18，高台付坏 1，鉢 1，甕 15）のほか，縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。588 は P 6 の埋土から出土していることから，本跡の造営時に混入したものとみられる。

所見 時期は，出土土器や 10 世紀前葉の第 11 号掘立柱建物に掘り込まれていることなどから，9 世紀後葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係，規模と形状などから，本跡は屋として機能していたと考えられる。

第 9 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 360 図）

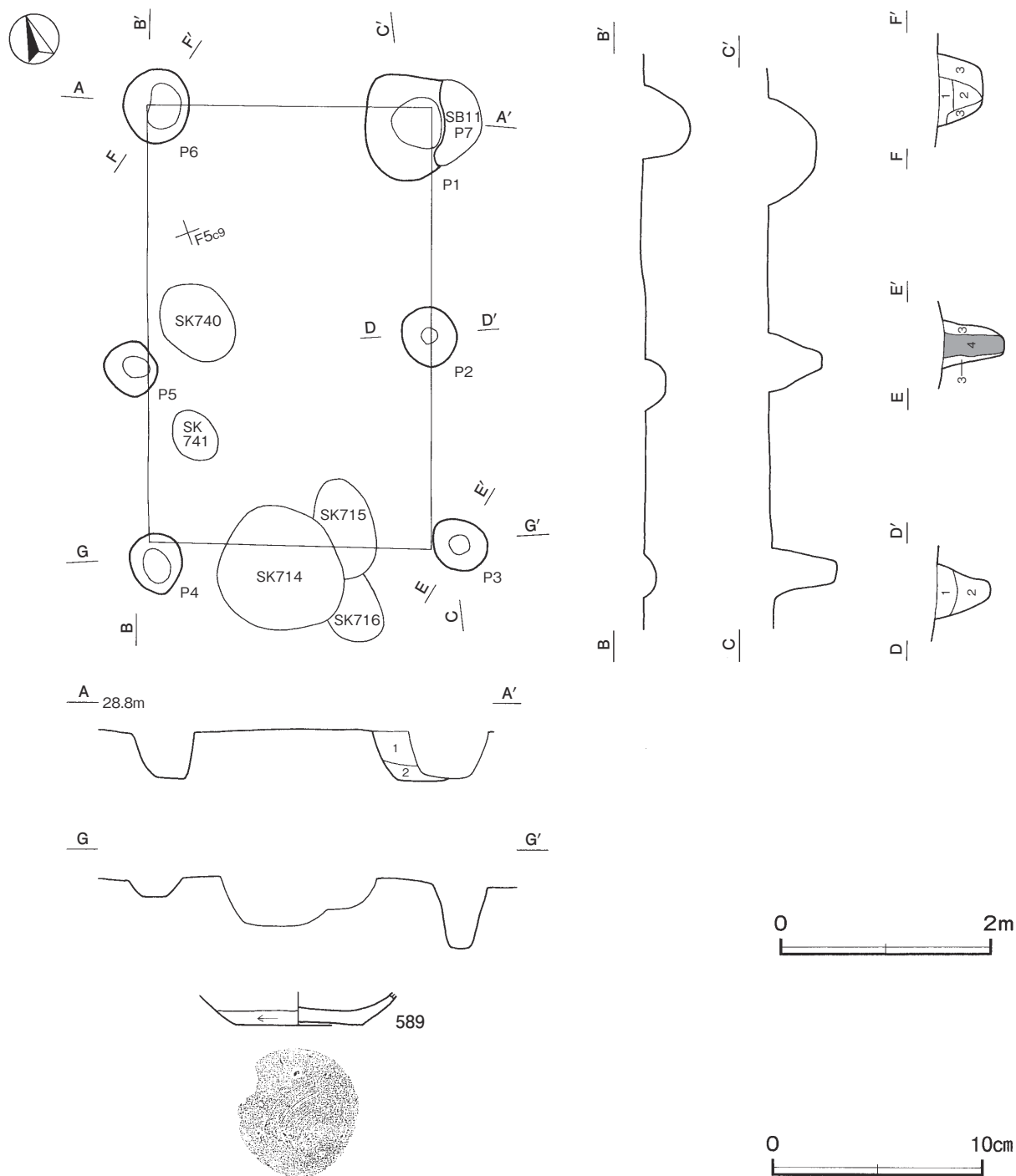
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
588	土師器	坏	-	(1.0)	6.2	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転糸切り	P 6 埋土	30%

第 10 号掘立柱建物跡 (第 361 図)

位置 調査D区中央部のF 5 b8～F 5 c9区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 11 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 714～716・740・741 号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 1 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 20° - E の南北棟である。規模は, 桁行 4.2 m, 梁行 2.7 m で, 面積は 11.34㎡である。柱間寸法は, 桁行が 1.5 m (5 尺) ～ 2.7 m (9 尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。



第 361 図 第 10 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径50～97cm、短径46～73cmである。深さは18～57cmで、掘方の壁は外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土、第3層は埋土、第4層は柱痕跡である。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|----------|-----------|-------|-----------|
| 1 におい黄褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片17点(坏11, 甕6), 須恵器片2点(甕)のほか, 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。589はP3の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や周囲の遺構との関係などから, 9世紀中葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係, 規模と形状などから, 本跡は屋として機能していたと考えられる。

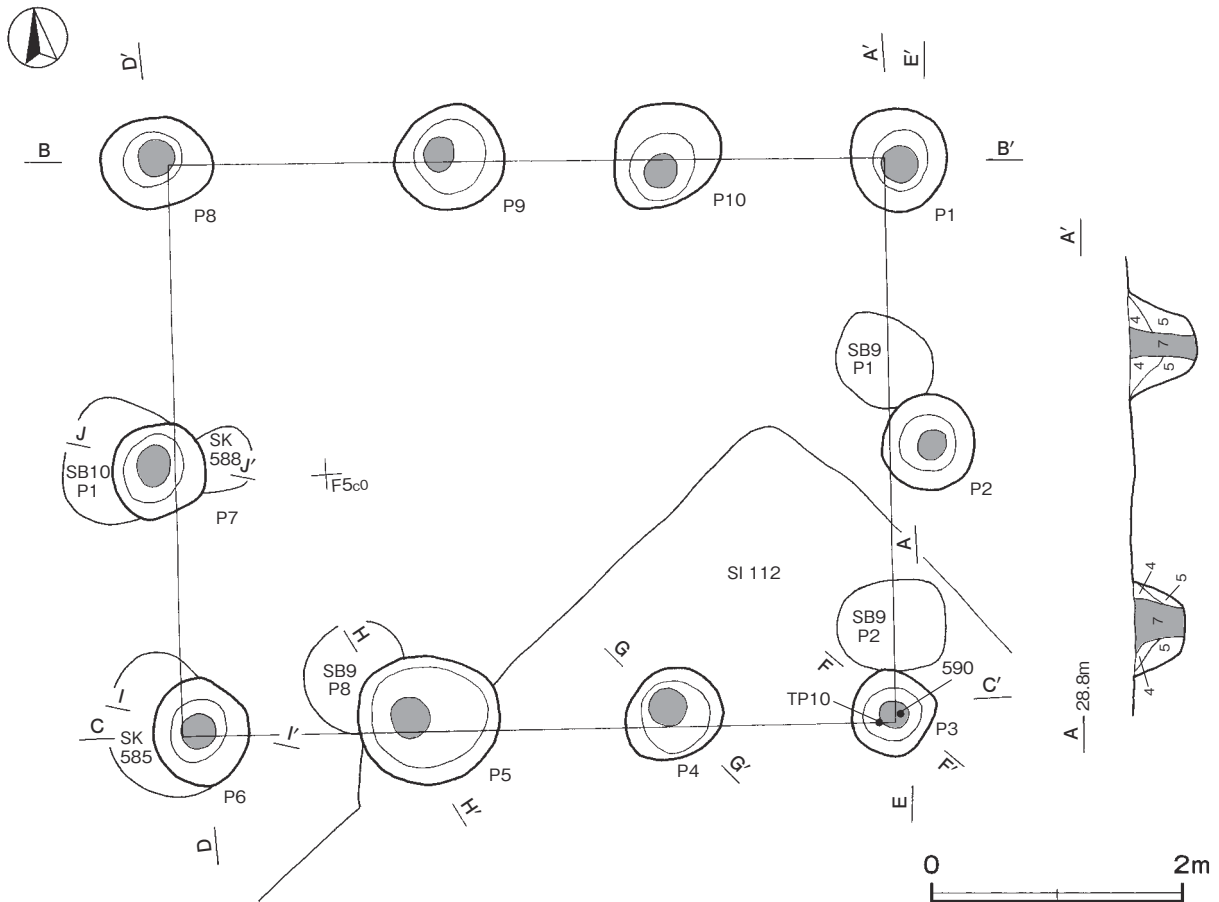
第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第361図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
589	土師器	坏	-	(16)	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り痕を残す回転ヘラ削り	P3覆土中	50%

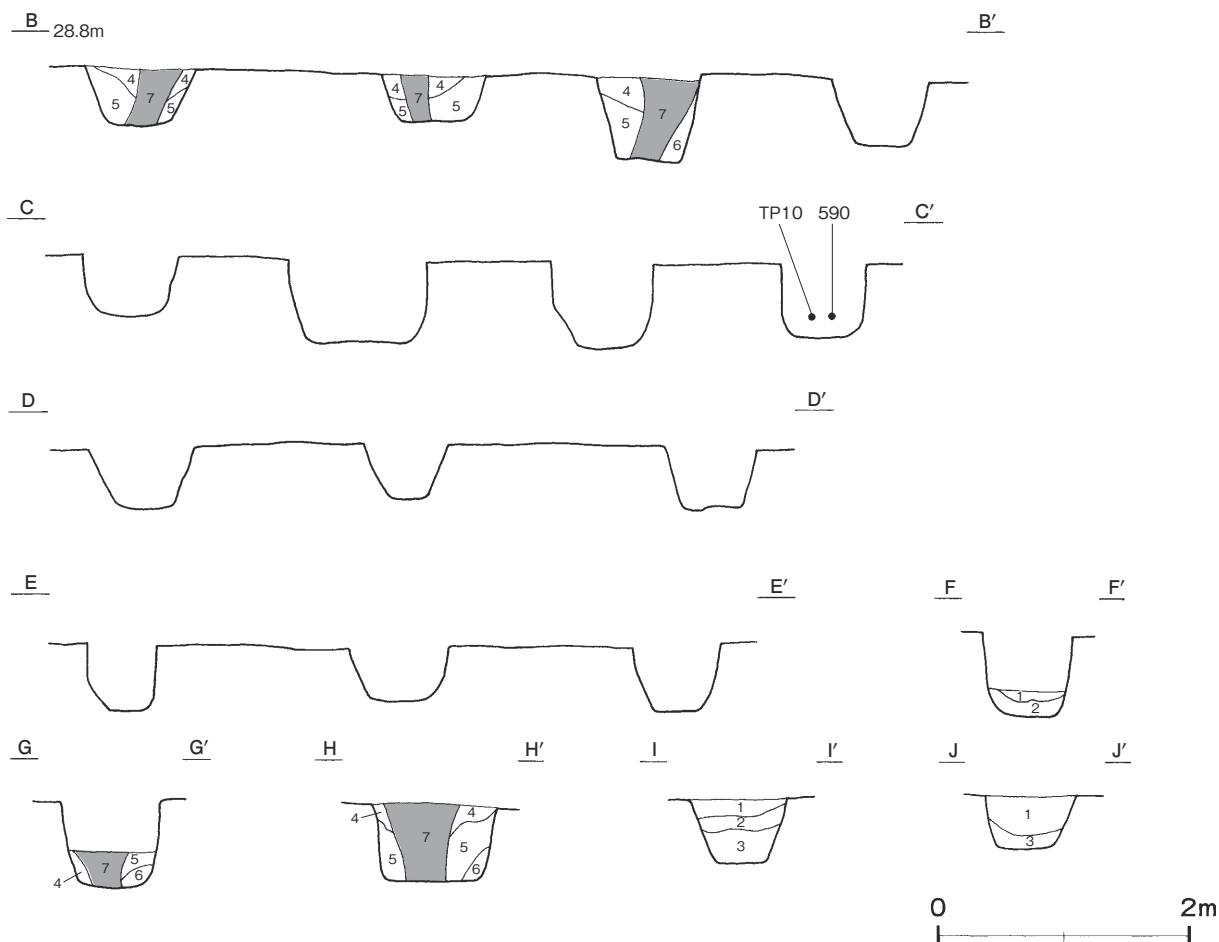
第11号掘立柱建物跡 (第362～364図)

位置 調査D区中央部のF5b9～F6c1区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第112号竪穴建物跡, 第9・10号掘立柱建物跡, 第585・588土坑を掘り込んでいる。



第362図 第11号掘立柱建物跡実測図(1)



第 363 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図 (2)

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 87° - W の東西棟である。規模は、桁行 5.7 m、梁行 4.5 m で、面積は 25.65㎡である。柱間寸法は、桁行・梁行ともに 1.8 m (6 尺) ~ 2.1 m (7 尺) で、柱筋は北平・南平ともにほぼ揃っている。東妻・西妻は、いずれも中柱がやや外側に外れており、棟持柱の構造を示している。

柱穴 10 か所。平面形は円形で、長径 68 ~ 113cm、短径 63 ~ 102cm である。深さは 40 ~ 68cm で、掘方の壁は外傾している。第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の堆積土、第 4 ~ 6 層は埋土、第 7 層は柱痕跡である。すべての柱穴の底面から、柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は 22 ~ 32cm と推定できる。P 2・P 7 は、いずれも柱筋からやや外側に外れており、棟持柱とみられる。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|----------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 44 点 (坏 12, 高台付坏 3, 甕 29), 須恵器片 7 点 (坏 1, 壺 1, 甕 5), 鉄滓 4 点が出土している。590・TP10 はいずれも P 3 の堆積層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10 世紀前葉と考えられる。同時期の竪穴建物との位置関係、規模と形状などから、本跡は屋として機能していたと考えられる。



第 364 図 第 11 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 11 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 364 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
590	土師器	坏	[10.8]	3.1	5.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	P 3 堆積層	30%
TP10	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	P 3 堆積層	新治窯

表 14 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積	柱間寸法		柱 穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
1	G5b7 ~G5d8	N - 15° - E	3 × 2		6.0 × 4.5	27.00	1.8 ~ 2.4	2.1 ~ 2.4	側柱	10	円形・楕円形	24 ~ 52	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	9世紀中葉	SI23, SK275 → 本跡 → SK276・278
3	F5j7 ~G5b8	N - 74° - W	3 × 3		6.6 × 6.0	39.60	2.1 ~ 2.4	1.8 ~ 2.1	総柱	16	円形・楕円形	33 ~ 80	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉	TP 8, SK305 → 本跡 → SK276・298・318 SK309 新旧不明
4	F5h7 ~F5j8	N - 17° - E	3 × 2		5.7 × 4.2	23.94	1.8 ~ 2.1	2.1	側柱	10	円形・楕円形	46 ~ 70	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI42, SK331・347・369 → 本跡 → SI63, SK344 SK333・334・337・342・ 345・366・392 新旧不明
5	F5f8 ~F5g9	N - 11° - E	3 × 2		5.4 × 3.9	21.06	1.8	1.8 ~ 2.1	側柱	7	円形・楕円形	32 ~ 62	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI43 → 本跡 → SB 6
6	F5e8 ~F5g9	N - 12° - E	3 × 2		6.9 × 4.8	33.12	1.8 ~ 2.7	2.4	側柱	10	円形・楕円形	38 ~ 65	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI43, SB 5 → 本跡 → SI65
7	F5e0 ~F5f0	N - 10° - E	2 × 1		3.6 × 2.1	7.56	1.8	2.1	側柱	6	円形・楕円形	10 ~ 46	土師器, 須恵器	10世紀前葉	
8	F5d8 ~F5f9	N - 7° - E	2 × 2		3.6 × 3.3	11.88	1.8	1.5 ~ 1.8	側柱	8	円形	12 ~ 33	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	9世紀後葉	SK744 → 本跡 → SK576
9	F5b9 ~F6d1	N - 0°	3 × 2		6.6 × 3.9	25.74	1.8 ~ 2.7	1.8 ~ 2.1	側柱	10	円形・楕円形	42 ~ 72	土師器	9世紀後葉	SI112 → 本跡 → SB11, SK592・652・653 SK654・662 新旧不明
10	F5b8 ~F5c9	N - 20° - E	2 × 1		4.2 × 2.7	11.34	1.5 ~ 2.7	2.7	側柱	6	円形・楕円形	18 ~ 57	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡 → SB11 SK714 ~ 716・740・741 新旧不明
11	F5b9 ~F6c1	N - 87° - W	3 × 2		5.7 × 4.5	25.65	1.8 ~ 2.1	1.8 ~ 2.1	側柱	10	円形	40 ~ 68	土師器, 須恵器	10世紀前葉	SI112, SB 9・10, SK585・588 → 本跡

(3) 大型円形土坑

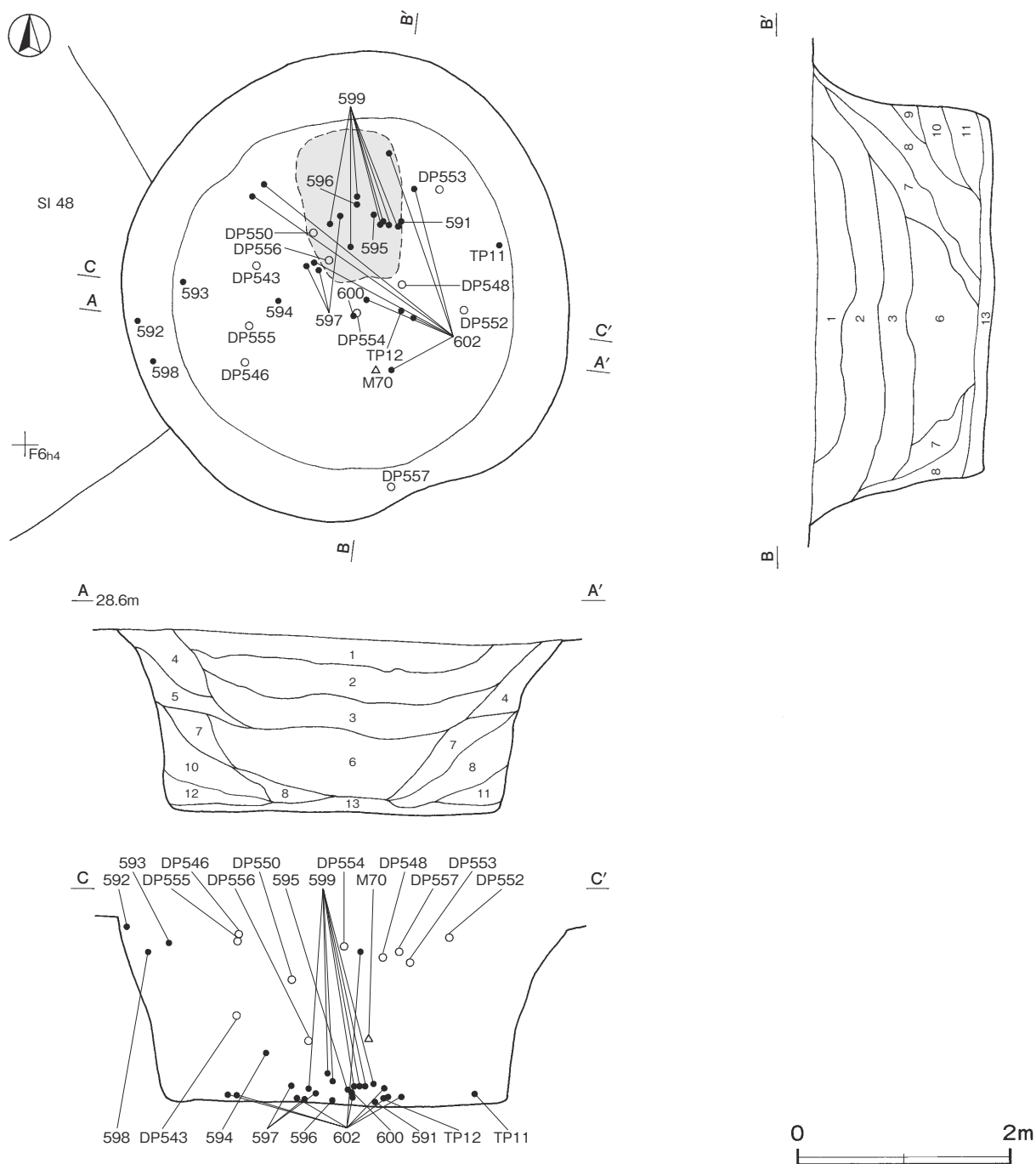
第 1 号大型円形土坑 (SK415) (第 365 ~ 367 図)

位置 調査D区中央部の F 6 g4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 48 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 4.44 m, 短径 4.23 m の円形で, 深さは 170cm である。底面は平坦で, 壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁は直立している。北部の底面で, 火熱を受けた範囲を確認した。

覆土 13 層に分層できる。第 13 層は, 底面で火が使われた際の含有物が堆積した層とみられる。第 12 層より上層は, 多くの層にロームや焼土のブロックが含まれ, 短期間で埋め戻された堆積状況を示している。



第 365 図 第 1 号大型円形土坑実測図

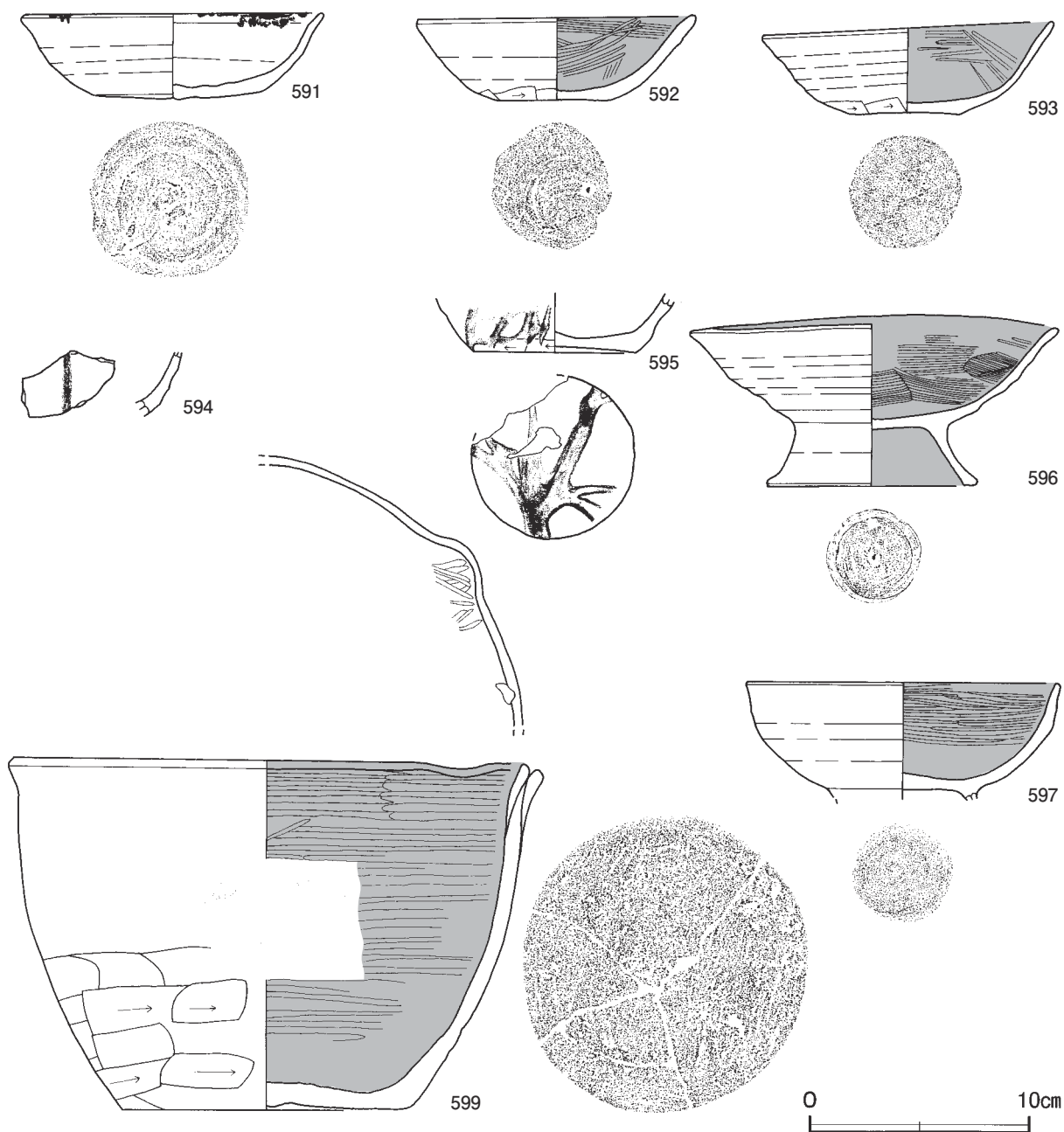
土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 10 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子微量 | |

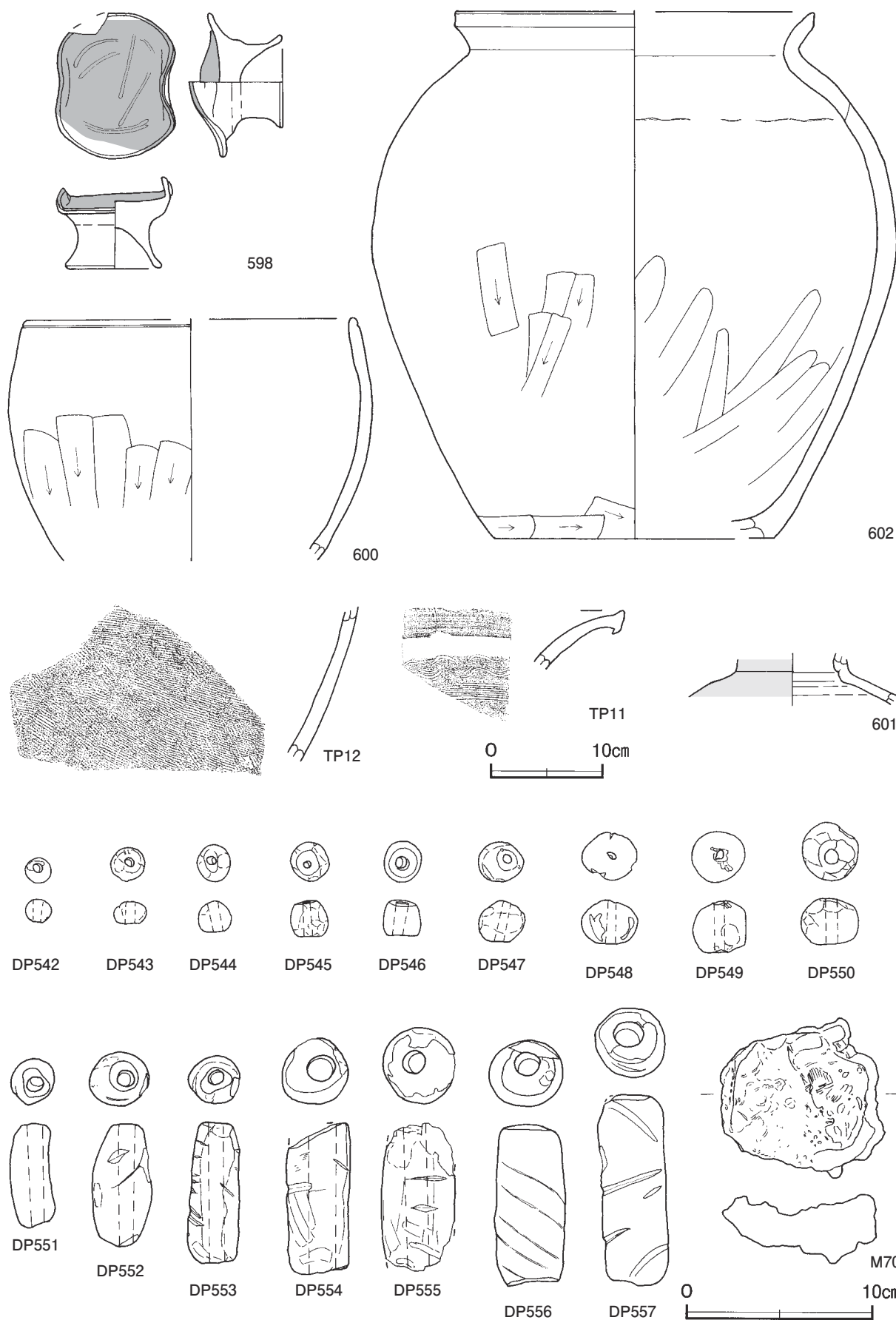
遺物出土状況 土師器片 2,207 点 (坏類 967, 高台付椀 133, 耳皿 1, 鉢 2, 甕類 1,100, 甗 4), 須恵器片 250 点 (坏類 83, 甕類 165, 甗 2), 灰釉陶器片 11 点 (瓶類), 土製品 28 点 (土玉 11, 管状土錘 17), 粘土塊 9 点, 鉄滓 1 点, 炭化米 (51.1g) のほか, 縄文土器片 30 点 (深鉢), 土師器片 1 点 (高坏), 須恵器片 10 点 (高台付坏 2,

蓋8)が、覆土上層と下層を中心に出土している。591・596は北部の底面から出土しており、いずれも残存率が高いことから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。602は中央部から北部の底面及び覆土下層を中心に出土した破片が接合している。602の破片は2次焼成を受けており、覆土上層からも破片1点が出土していることや、埋め戻し土に焼土が含まれていることなどから、本跡以外の場所において破碎され火熱を受けたものが、本跡に投棄されたものと考えられる。599は北部の径70cmの範囲、覆土下層の第6層下部から出土した破片7点が接合していることから、第7層まで埋め戻された段階で破碎したものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀前葉と考えられる。底面に火熱を受けた痕が認められることや、人面墨書土器が投棄されている状況などから、廃絶時に何らかの祭祀的な行為が行われたことが想定できる。



第366図 第1号大型円形土坑出土遺物実測図(1)



第 367 图 第 1 号大型円形土坑出土遺物実測図 (2)

第1号大型円形土坑出土遺物観察表（第366・367図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
591	土師器	坏	13.5	4.0	7.0	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	底面	90% 油煙付着 PL72
592	土師器	坏	12.6	3.9	5.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL72
593	土師器	坏	13.0	4.3	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	覆土上層	75% PL72
594	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土下層	5% PL81
595	須恵器	坏	-	(2.7)	7.4	長石・石英・針状物質	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 火襷有り	覆土下層	50% 稲敷産 PL81
596	土師器	高台付椀	16.5	7.8	9.3	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	底面	95% PL72
597	土師器	高台付椀	14.0	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	底面～覆土上層	90%
598	土師器	耳皿	4.3～8.7	4.9	5.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土上層	90% PL72
599	土師器	鉢	23.2	16.0	13.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	片口 口縁部外面横ナデ 内面ヘラ磨き 体部外面上半横ナデ 下半ヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面人面墨書	覆土下層	90% PL74
600	土師器	鉢	[17.6]	(12.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
601	灰釉陶器	瓶	-	(2.7)	-	精緻	灰オリーブ	緻密	外面施釉	覆土中	5% 黒笹 90 窯式
602	土師器	甕	[19.2]	28.3	[15.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部～体部外面上半横ナデ 下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	底面～覆土上層	35%
TP11	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	口縁部外面4条1単位の波状文と沈線	覆土下層	新治窯 PL84
TP12	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土下層	新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP542	土玉	1.3～1.4	1.3	0.5	(1.72)	長石・石英・雲母	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL88
DP543	土玉	1.8	1.3	0.5～0.6	(3.75)	長石・石英・雲母	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL88
DP544	土玉	1.8～2.1	1.7	0.4～0.6	5.73	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土中	PL88
DP545	土玉	2.0～2.1	2.0	0.4～0.5	9.26	長石・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP546	土玉	2.0～2.2	1.9	0.5～0.7	9.17	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	PL88
DP547	土玉	2.1～2.5	2.3	0.5～0.6	10.7	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP548	土玉	2.6～3.0	2.4	0.4～0.5	(16.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL88
DP549	土玉	2.7～2.8	2.8	0.5	17.0	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL88
DP550	土玉	3.0	2.5	0.6～0.8	(24.0)	長石・石英	にぶい赤褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中層	PL88

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP551	管状土錘	2.4	5.6	0.8～0.9	28.0	長石・石英・赤色粒子	赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL90
DP552	管状土錘	2.8～3.2	6.6	0.9	(54.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土上層	PL90
DP553	管状土錘	2.8	7.7	0.8	(54.0)	長石・石英・赤色粒子	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土上層	PL90
DP554	管状土錘	3.5～3.6	8.1	1.4	(91.9)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL91
DP555	管状土錘	4.0～4.1	(8.0)	1.1	(107)	長石・石英	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土上層	PL91
DP556	管状土錘	3.5～3.9	8.6	1.4～1.8	(110)	長石・石英・赤色粒子	橙	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 線状痕	覆土下層	PL91
DP557	管状土錘	3.8	10.2	1.5	(137)	長石・石英・赤色粒子	橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔 線状痕	覆土上層	PL91

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 70	椀形滓	8.5	8.8	3.7	293	鉄	着磁性なし 表面は暗灰色 裏面は暗赤褐色 木炭痕	覆土下層	PL99

第2号大型円形土坑（SK416）（第368～372図）

位置 調査D区中央部のF 6j3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第25号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.84m、短径3.78mの円形で、深さは158cmである。底面は平坦で、壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁は直立している。壁際を除く底面のほぼ全域で、炭化米及び火熱を受けた範囲を確認した。

ピット 4か所。P1～P4は北壁際・中央・南壁際・西壁際にそれぞれ位置している。長径16～26cm，短径14～20cmの円形または楕円形で，深さ19～31cmである。性格は不明である。

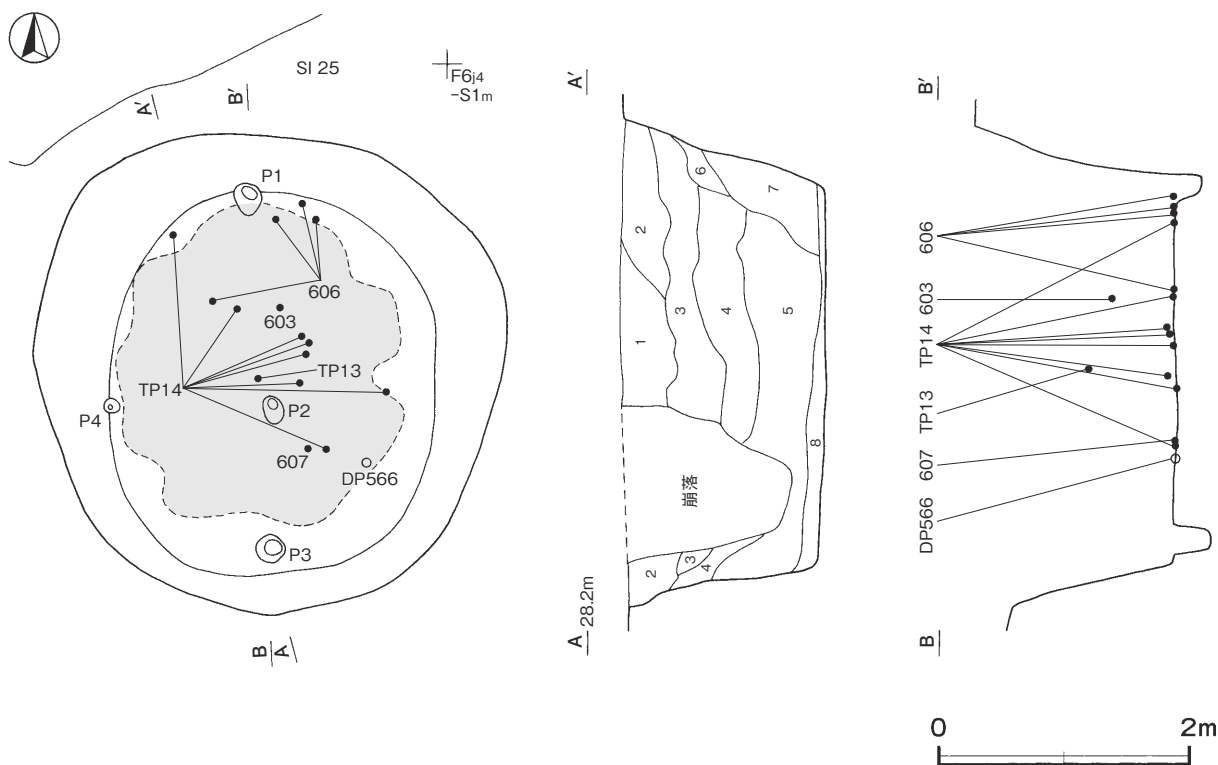
覆土 8層に分層できる。第8層は，底面で火が使われた際の含有物が堆積した層とみられる。第7層より上層は，多くの層にロームブロックが含まれ，短期間で埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

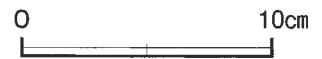
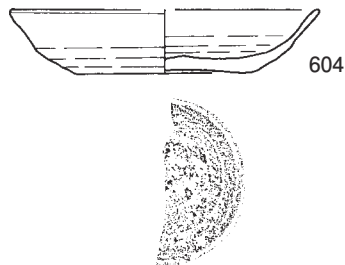
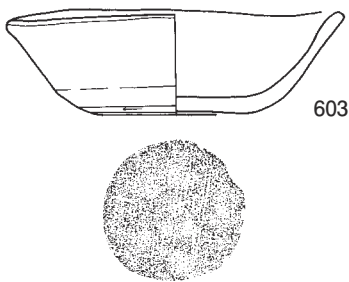
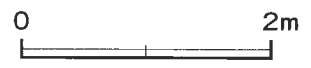
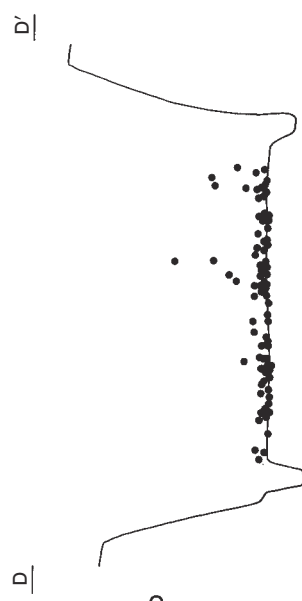
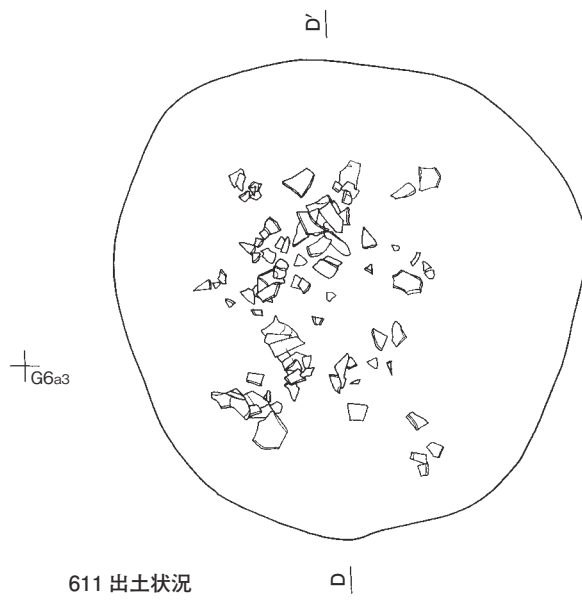
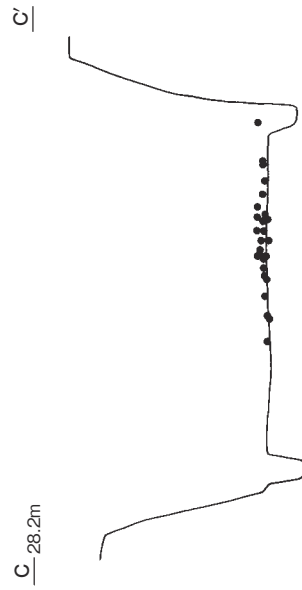
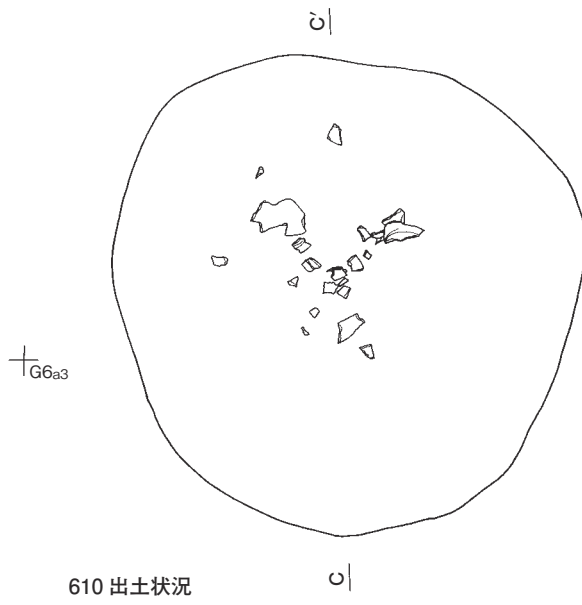
- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|--------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | 炭化米多量，焼土ブロック・炭化物中量 |

遺物出土状況 土師器片1,038点（坏類453，高台付椀58，皿1，甕類523，甑3），須恵器片155点（坏類43，瓶4，甕類82，大甕26），灰釉陶器片7点（瓶），土製品17点（土玉12，管状土錘4，支脚1），石器1点（敲石），粘土塊3点，鉄滓3点，炭化米（2,125g）のほか，縄文土器片52点（深鉢），土師器片38点（坏），須恵器片18点（高台付坏1，蓋17）が，覆土中の全域から出土している。607は中央部の底面から出土している。606は北部，610は中央部から北部の底面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。底面から出土した3個体はいずれも2次焼成を受けていないことから，底面で米が焼かれ，火が鎮まった後にこれら3個体の土器が投げ込まれ，破碎したと想定できる。611は底面の全域から出土した多数の破片が接合している。2次焼成を受けているが，覆土下層及び覆土中層からも接合する破片が出土していることから，本跡以外の場所において破碎され火熱を受けたものが，本跡に投棄されたものと考えられる。

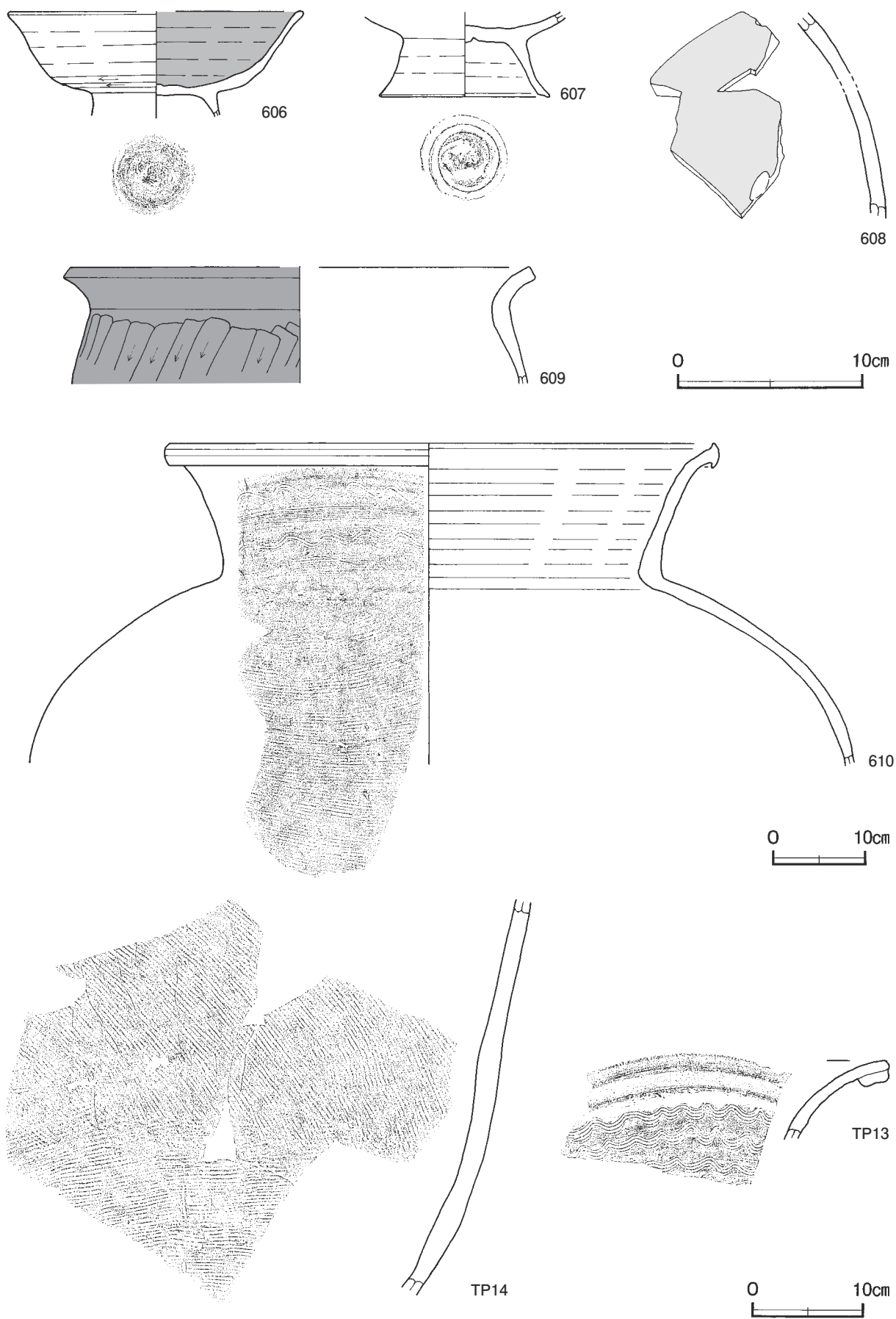
所見 時期は，出土土器や重複関係から，10世紀前葉と考えられる。底面に火熱を受けた痕が認められることや，米が焼かれていること，多数の土器が投棄されている状況などから，廃絶時に何らかの祭祀的な行為が行われたことが想定できる。



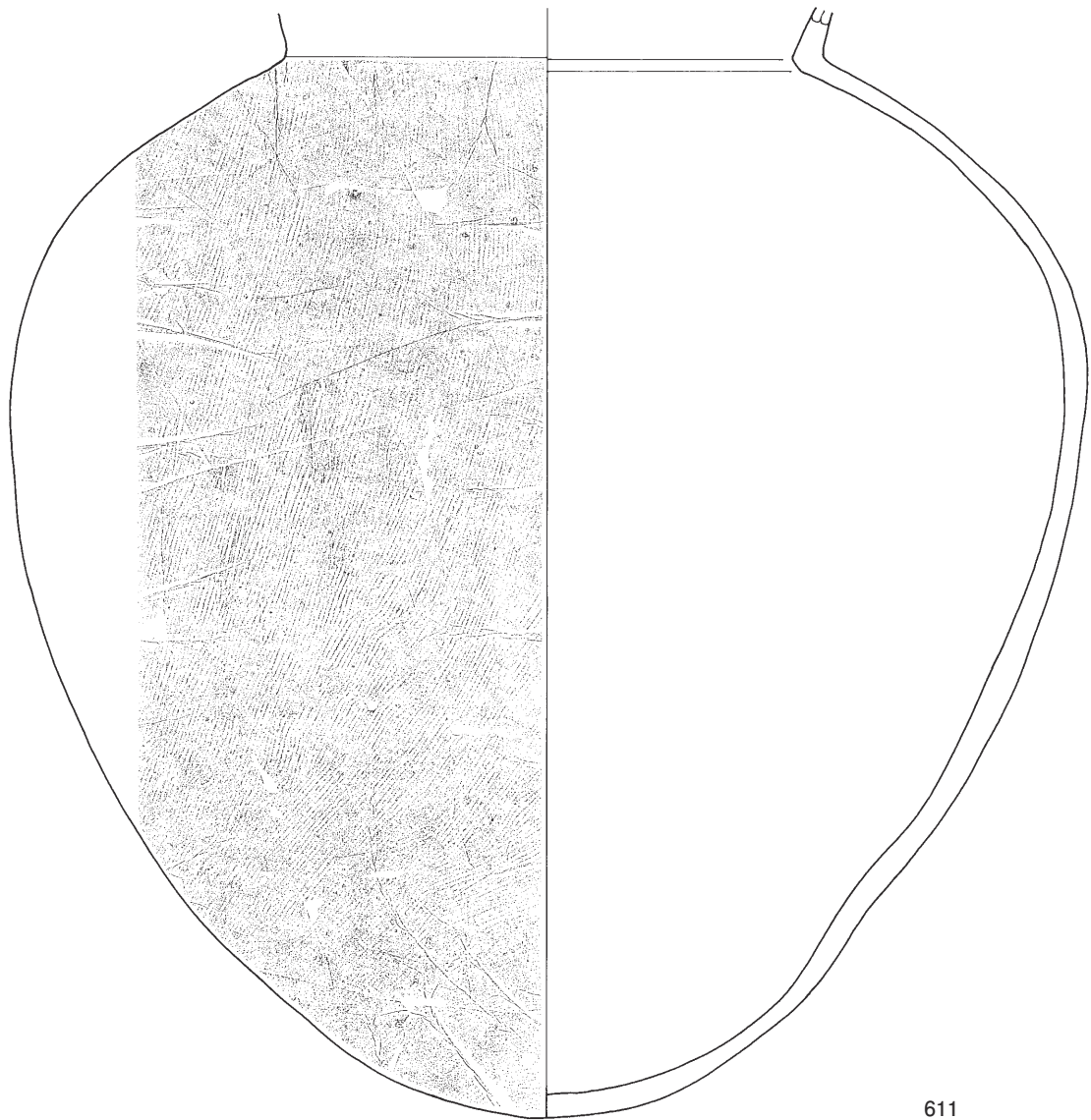
第368図 第2号大型円形土坑実測図



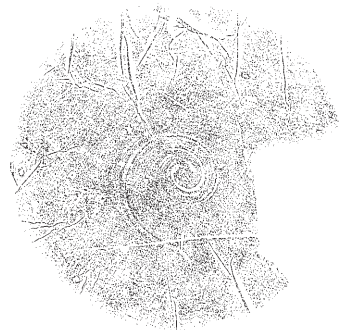
第 369 図 第 2 号大型円形土坑・出土遺物実測図



第 370 図 第 2 号大型円形土坑出土遺物実測図 (1)

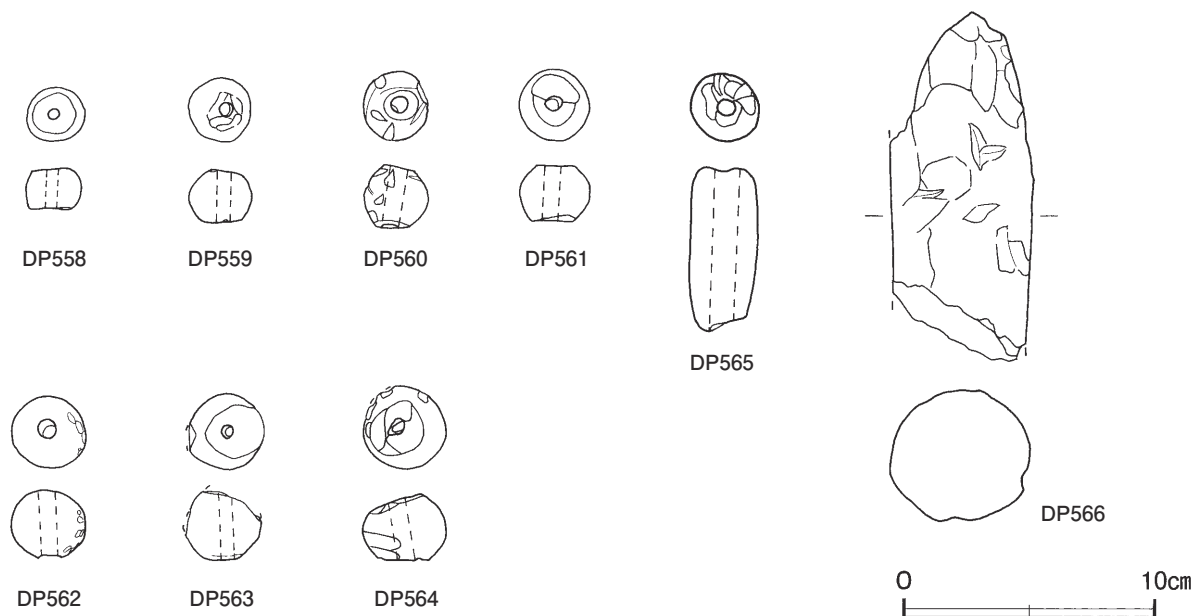


611



0 10cm

第 371 図 第 2 号大型円形土坑出土遺物実測図 (2)



第 372 図 第 2 号大型円形土坑出土遺物実測図 (3)

第 2 号大型円形土坑出土遺物観察表 (第 369 ~ 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
603	土師器	坏	13.2	4.2	5.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土中層	80% PL74
604	土師器	坏	[12.2]	3.0	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	45%
605	土師器	坏	-	(1.5)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 体部外面墨書「□」	覆土中	10% PL81
606	土師器	高台付椀	[15.7]	(5.8)	-	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り	底面	50%
607	土師器	高台付椀	-	(4.6)	9.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	底面	30%
608	灰釉陶器	瓶	-	(11.1)	-	精緻	オリーブ黄	緻密	外面施釉	覆土中	5% PL100 黒徑 90 窯式
609	土師器	甕	[24.8]	(6.3)	-	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	5%
610	須恵器	大甕	59.0~61.0	(34.8)	-	長石・石英・細礫・針状物質	浅黄暗灰	普通	口縁部~頸部4条1単位の沈線文で上下に区画 上下4条1単位の波状文 体部外面横位の平行叩き	底面	20% 木葉下窯 PL73
611	須恵器	大甕	-	(74.9)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	黒褐灰	普通	体部上位~中位縦位の平行叩き 下位斜位の平行叩き	底面~ 覆土中層	70% 木葉下窯 PL73
TP13	須恵器	大甕	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	普通	口縁部~頸部4条1単位の波状文3条	覆土中層	新治窯 PL84
TP14	須恵器	大甕	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	普通	体部外面斜位~横位の平行叩き	底面	新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP558	土玉	2.1~2.2	1.7	0.5	9.24	長石・石英	明赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP559	土玉	2.5	2.1	0.5	13.0	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP560	土玉	2.6~2.7	2.5	0.7	(16.5)	長石・石英	にぶい褐	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL88
DP561	土玉	2.8	2.2	0.6~0.7	(18.0)	長石・石英	にぶい黄褐	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP562	土玉	2.9~3.0	2.6	0.6~0.7	(21.7)	長石・石英・雲母	にぶい褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP563	土玉	2.9~3.1	(2.8)	0.5	(23.0)	長石・石英・雲母	橙	欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP564	土玉	3.3	2.6	0.6~0.7	(25.7)	長石・石英・雲母	橙	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP565	管状土錘	2.7~2.8	6.6	0.9~1.1	(45.7)	長石・石英・赤色粒子	黒褐	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL90

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP566	支脚	(13.9)	-	5.8	(374)	長石・石英・赤色粒子	橙	欠損 ナデ 被熱痕	底面	

第3号大型円形土坑 (SK413) (第373～375図)

位置 調査D区中央部のF5b2区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

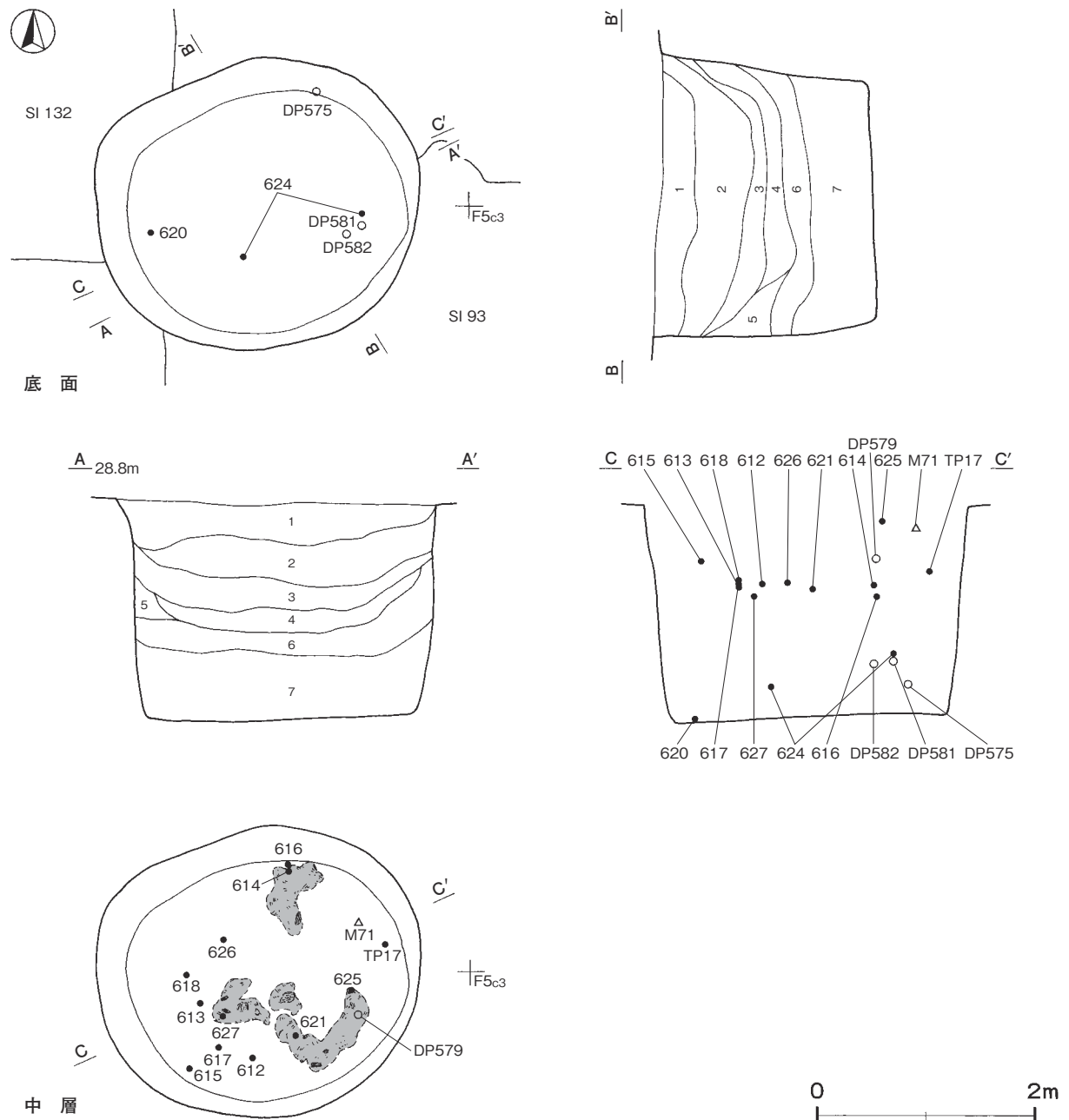
重複関係 第93・132号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.00m, 短径2.60mの楕円形で, 長径方向はN-70°-Eである。深さは202cm, 底面は平坦で, 壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

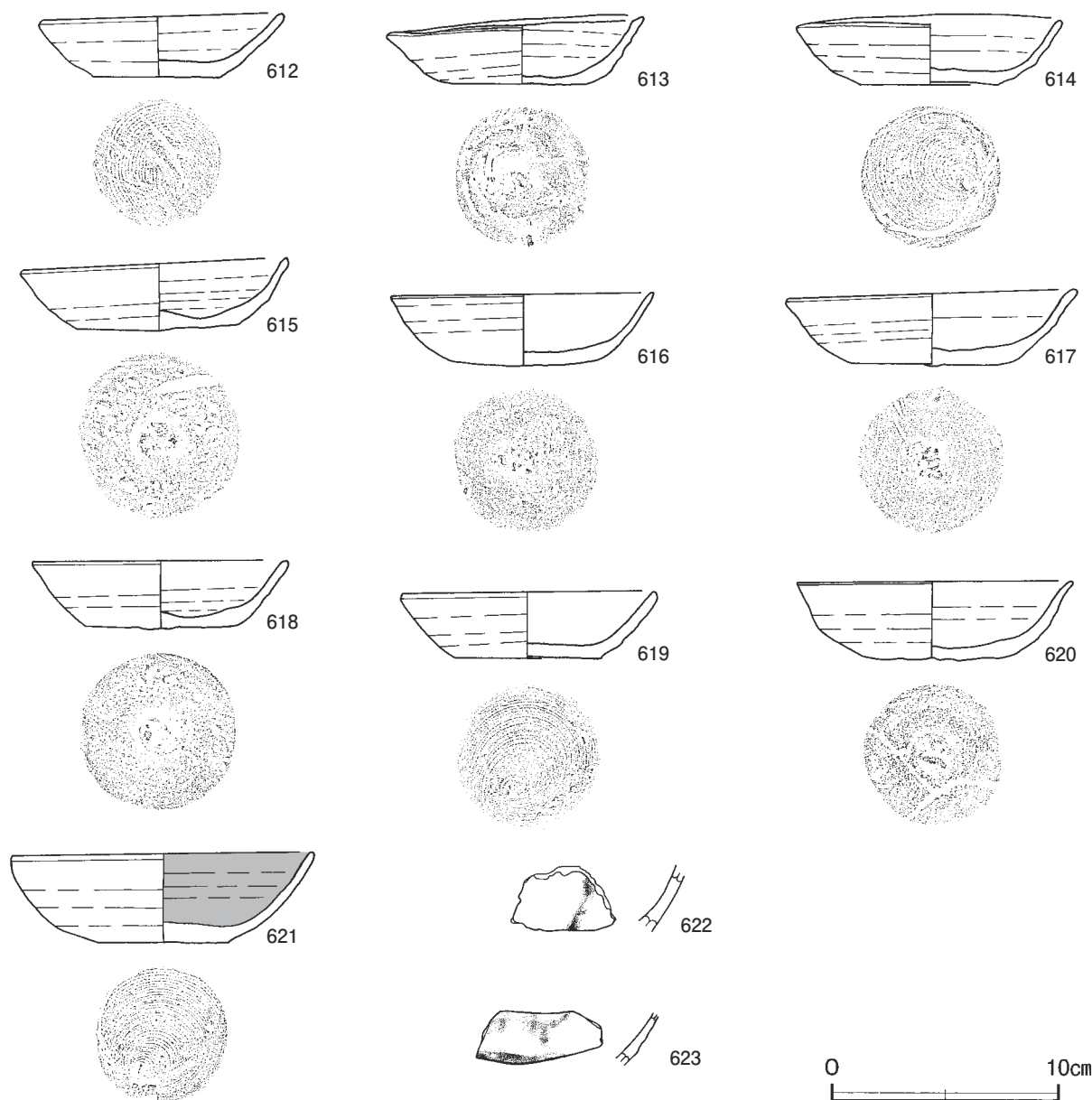
土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化材中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 | | |

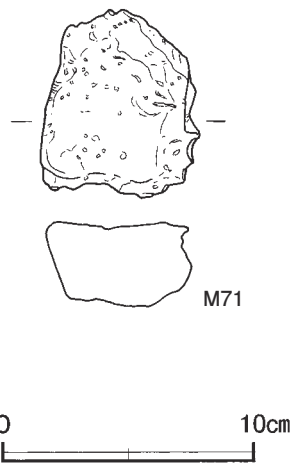
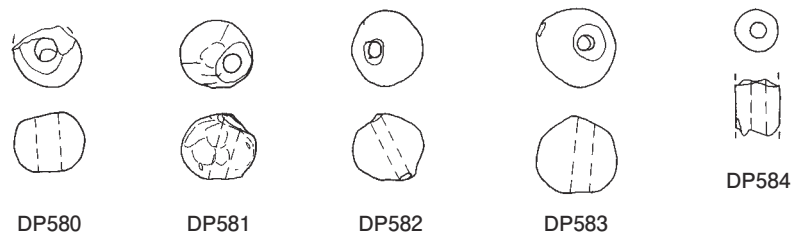
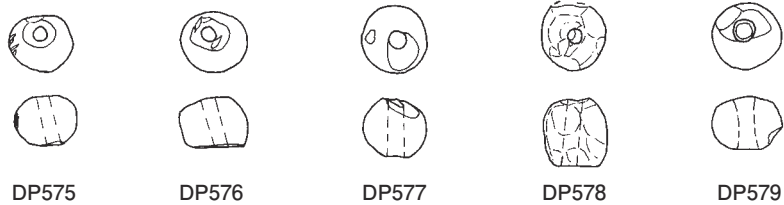
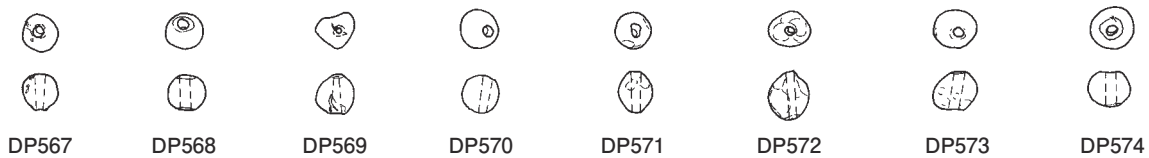
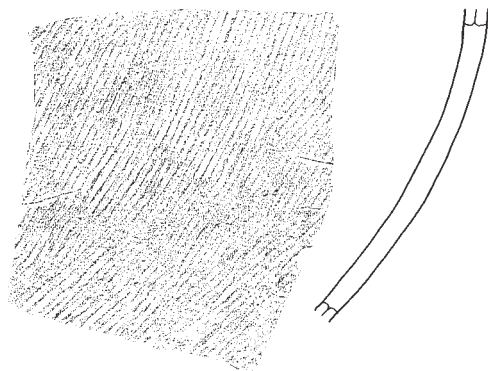
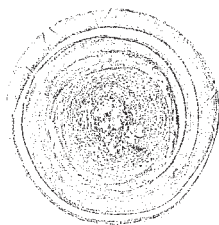
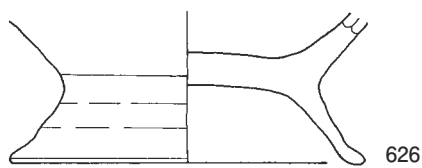
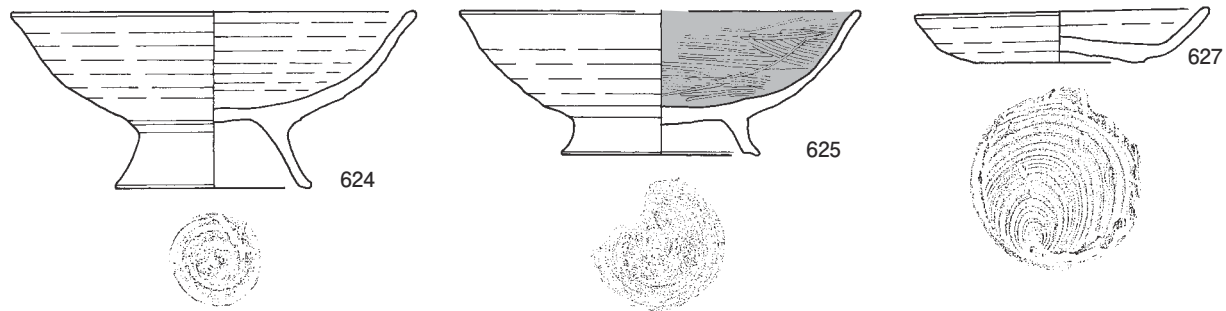


第373図 第3号大型円形土坑実測図

遺物出土状況 土師器片 5,151 点（坏類 3,426, 椀 1, 高台付椀 318, 蓋 9, 皿 3, 鉢 1, 甕類 1,385, 甌 7, 羽釜 1）, 須恵器片 282 点（坏類 63, 鉢 2, 甕類 216, 甌 1）, 土製品 27 点（土玉 25, 管状土錘 2）, 金属製品 1 点（不明）, 粘土塊 10 点, 鉄滓 23 点, 炭化材（6,281g）, 馬骨のほか, 縄文土器片 4 点（深鉢）, 土師器片 33 点（坏類）, 須恵器片 7 点（高台付坏 3, 蓋 3, 高盤 1）, 石器 1 点（磨石）, 剥片 1 点が, 覆土中層を中心とした全域から出土している。620 は西部の底面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。DP575 は北部, DP581・DP582 は東部の覆土下層から出土している。624 は中央部と東部の覆土下層から出土した破片が接合していることから, 第 7 層の埋め戻し時に破碎して投棄されたものとみられる。炭化材は, その大半が第 3 層の南部と北部を中心に出土している。炭化材の出土状況から, 材を使用した構造物を想定することはできない。**所見** 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀中葉と考えられる。覆土中層にあたる第 3・4 層から炭化材や土器片などが集中して出土していることから, 廃絶後に第 5 層まで埋め戻された段階で何らかの祭祀的な行為が行われ, その後再び埋め戻されたと考えられる。



第 374 図 第 3 号大型円形土坑出土遺物実測図 (1)



第 375 图 第 3 号大型円形土坑出土遺物実測図 (2)

第3号大型円形土坑出土遺物観察表（第374・375図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
612	土師器	坏	10.6	2.8	5.6	長石・石英・白色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	100% PL74
613	土師器	坏	11.0	3.1	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	100% PL74
614	土師器	坏	11.5	3.2	6.1	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	100% PL74
615	土師器	坏	11.5	3.2	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り 圧痕有り	覆土中層	100% PL74
616	土師器	坏	11.4	3.1	6.4	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	99% PL74
617	土師器	坏	12.6	3.4	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	99% PL74
618	土師器	坏	11.0	3.0	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	95% PL74
619	土師器	坏	11.1	3.0	6.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	90% PL75
620	土師器	坏	11.9	3.5	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	底面	80% PL75
621	土師器	坏	13.1	4.0	5.8	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	80% PL75
622	土師器	坏	-	(2.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL81
623	土師器	坏	-	(2.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL81
624	土師器	高台付椀	16.0	7.0	[7.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	95%
625	土師器	高台付椀	[15.8]	5.7	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	45%
626	土師器	高台付椀	-	(6.0)	[13.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
627	土師器	皿	11.6	2.1	6.9	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	95% PL75
TP15	土師器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面格子目状の叩き 内面黒色処理	覆土中	
TP16	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・細礫・針状物質	灰	普通	体部外面同心円状の叩き 内面器面荒れ	覆土中	木葉下窯
TP17	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・細礫・針状物質	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	木葉下窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP567	土玉	14~15	1.5	0.3~0.5	2.86	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP568	土玉	14~15	1.5	0.4	3.22	長石・雲母	赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP569	土玉	14~15	1.6	0.2~0.5	2.63	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP570	土玉	1.5	1.5	0.4	3.29	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP571	土玉	1.5	1.7	0.4~0.6	3.05	長石・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP572	土玉	14~17	1.9	0.4	4.09	長石・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP573	土玉	15~18	1.5	0.4~0.5	4.03	長石・石英・雲母	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL89
DP574	土玉	17~18	1.4	0.4~0.5	4.01	長石・石英・雲母	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP575	土玉	23~25	2.0	0.6	11.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形 指頭痕	覆土下層	PL89
DP576	土玉	24~27	2.0	0.5~0.6	14.5	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP577	土玉	25~27	2.4	0.7	13.6	長石・石英	灰褐	ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP578	土玉	(2.7)	2.7	0.6	(20.3)	長石・石英・赤色粒子	橙	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP579	土玉	27~28	2.1	0.7~0.9	(12.8)	長石・石英	にぶい黄橙	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中層	PL89
DP580	土玉	2.8	2.4	0.8~0.9	(14.0)	長石・石英・赤色粒子	黒褐	欠損成形 ナデ 一方向からの穿孔 片端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP581	土玉	27~30	2.7	0.7	19.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土下層	PL89
DP582	土玉	28~30	2.6	0.6	20.8	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL89
DP583	土玉	31~32	3.1	0.7	(28.7)	長石・石英	にぶい橙	一部欠損 平坦に成形 ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL89

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP584	管状土錘	1.7	(2.2)	0.6	(6.68)	長石・石英	にぶい橙	欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 71	鉄滓	7.5	6.4	3.3	176	鉄	着磁性なし 暗灰色	覆土上層	PL99

第4号大型円形土坑 (SK37) (第376～378図)

位置 調査B区のE3e5区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

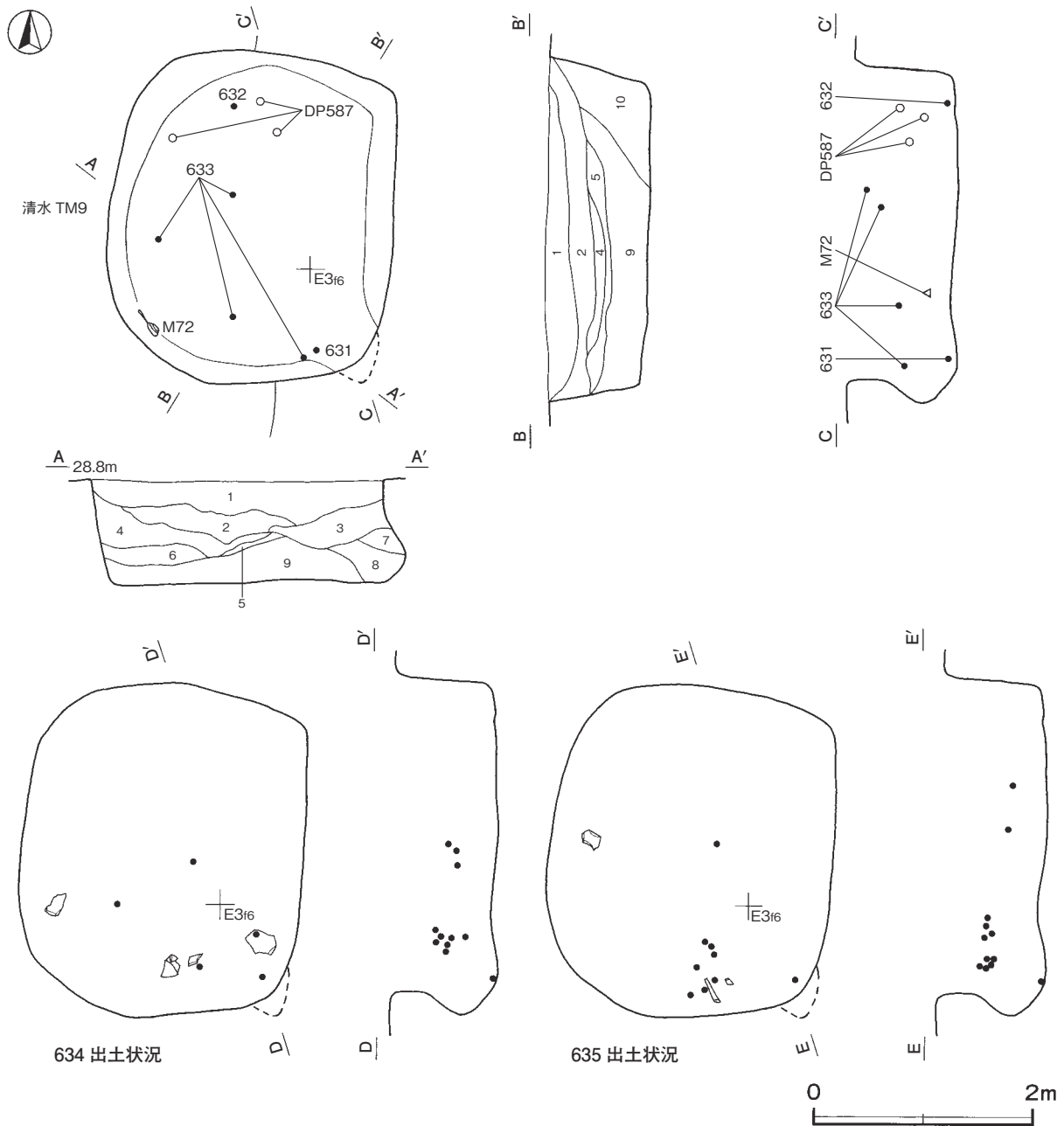
重複関係 清水古墳群第9号墳を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.02m, 短径2.61mの楕円形で, 長径方向はN-2°-Eである。深さは95cm, 底面は平坦で, 壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁は外傾し, 南東部の一部は内彎してから立ち上がっている。

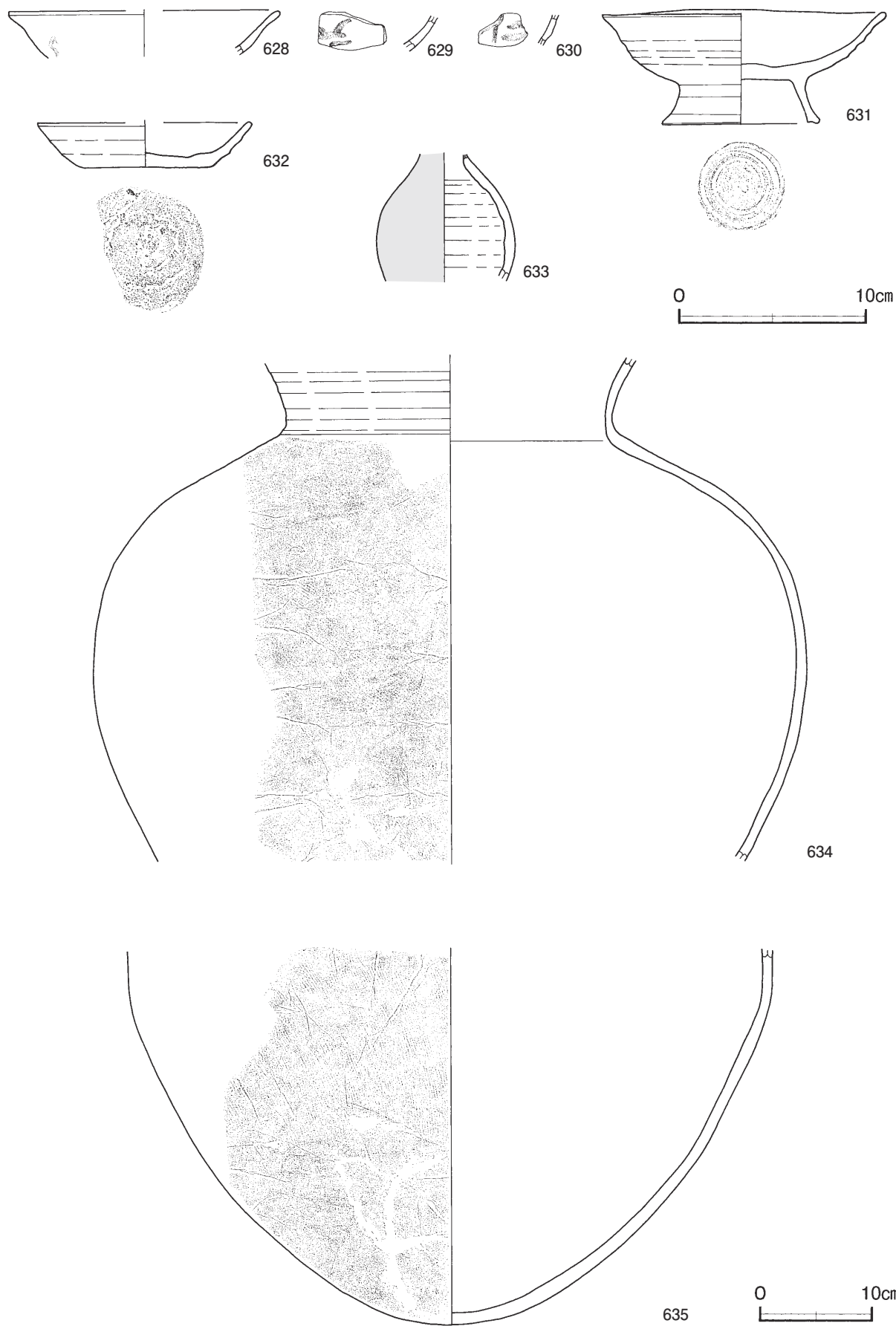
覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況であることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |



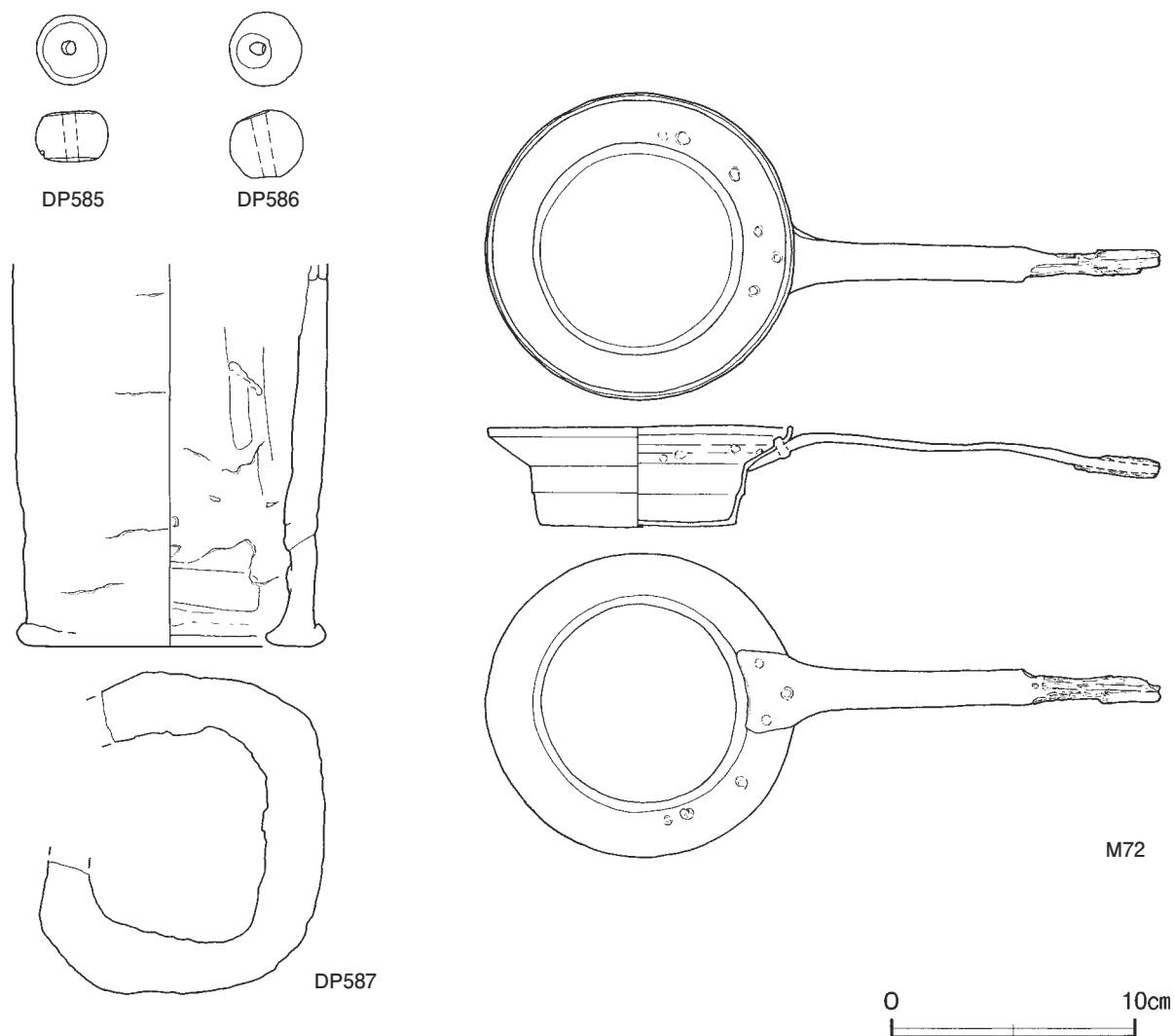
第376図 第4号大型円形土坑実測図



第 377 図 第 4 号大型円形土坑出土遺物実測図 (1)

遺物出土状況 土師器片 696 点 (坏類 325, 高台付椀 2, 皿 3, 甕類 364, 甑 2), 須恵器片 32 点 (甕類 30, 大甕 2), 緑釉陶器片 1 点 (小瓶), 土製品 4 点 (土玉 3, 円筒形土製品 1), 金属製品 2 点 (釘, 火熨斗) のほか, 土師器片 33 点 (坏類), 須恵器片 6 点 (高台付坏 4, 高台付皿 2) が, 覆土中の各層から出土している。632 は北部の底面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。M 72 (火熨斗) は南西壁際の覆土下層から, 火皿口縁部を南西壁に向けた横位の状態で出土している。火熨斗の遺存状態は良く, 投げ込まれたことによる変形や破損の痕が確認できないことから, 第 9 層まで埋め戻された段階で置かれたと考えられる。634・635 は, いずれも南半部の底面から覆土中層にかけて出土した破片が接合していることから, 廃絶後の埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。DP587 は北部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉と考えられる。第 1～3 号大型円形土坑と位置的にやや離れることや, 掘り込みが比較的浅いことなどから, 本跡はこれら 3 遺構とは別の性格である可能性もあるが, 詳細は不明である。特殊遺物である火熨斗や円筒形土製品が出土していること, 多量の土器片が投棄されている状況などから, 廃絶時に何らかの祭祀的な行為が行われたものと考えられる。



第 378 図 第 4 号大型円形土坑出土遺物実測図 (2)

第4号大型円形土坑出土遺物観察表（第377・378図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
628	土師器	坏	[14.4]	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL81
629	土師器	坏	-	(2.0)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL82
630	土師器	坏	-	(1.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面墨書「仁」	覆土中	5% PL82
631	土師器	高台付椀	15.2	6.3	8.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	85% PL75
632	土師器	皿	[11.4]	2.4	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	底面	50%
633	緑釉陶器	小瓶	-	(6.9)	-	精緻	オリーブ黄	緻密	横位の磨き 内面横ナデ	覆土中層～上層	40% 東海産 PL100
634	須恵器	大甕	-	(45.2)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	底面～覆土中層	30% 新治窯 635と同一
635	須恵器	大甕	-	(33.5)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	底面～覆土中層	20% 新治窯 634と同一

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP585	土玉	28～29	2.1	0.5～0.6	20.5	長石・石英	明褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL89
DP586	土玉	29～30	2.7	0.5～0.7	24.3	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	PL89

番号	器種	長軸	短軸	長さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP587	円筒形土製品	13.1～[14.0]	11.7～[12.8]	(15.7)	(712)	長石・石英	橙	欠損 外・内面ナデ 輪積痕 中が燻されている 煙出し	覆土中層	PL93

番号	器種	火皿			柄			重量	材質	特徴	出土位置	備考
		口径	底径	高さ	長さ	幅	厚さ					
M 72	火熨斗	12.4	8.0	4.2	(16.8)	(1.5)	0.3～0.4	(260)	火皿 銅鉄 柄	火皿口縁部内面突線2条 体部中位に段を有する 火皿と柄の取付部を鉄3点で接合 取付部のほかに鉄留痕2か所 柄部木質残存	覆土下層	PL100

表15 平安時代大型円形土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	F 6g4	-	円形	4.44 × 4.23	170	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	SI48 → 本跡
2	F 6j3	-	円形	3.84 × 3.78	158	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品, 石器, 炭化米	SI25 → 本跡
3	F 5b2	N - 70° - E	楕円形	3.00 × 2.60	202	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品, 炭化材, 馬骨	SI93・132 → 本跡
4	E 3e5	N - 2° - E	楕円形	3.02 × 2.61	95	平坦	外傾内彎	人為	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 土製品, 金属製品	清水 TM 9 → 本跡

(4) 土坑

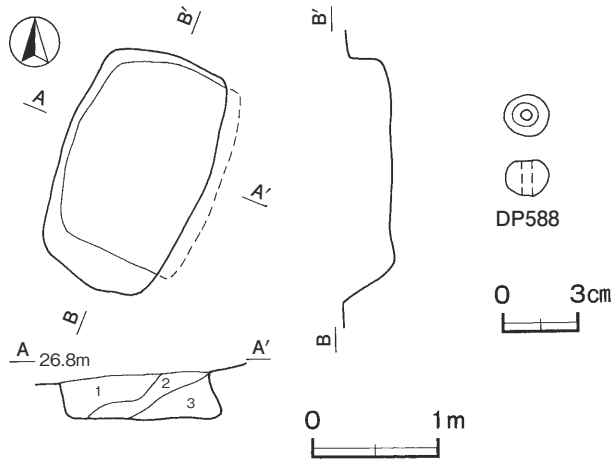
平安時代の土坑は94基確認している。ここでは特徴ある23基について記述し、その他については一覧表と実測図を掲載する。

第8号土坑（第379図）

位置 調査A区北部のB 2f9区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.95m、短軸1.28mの長方形で、長軸方向はN - 22° - Eである。深さは35cmで、底面は平坦である。北壁・西壁はほぼ直立、南壁は緩やかに外傾して、東壁は内彎して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第3層は堆積状況から壁面の崩落土層とみられる。第1・2層はいずれもロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (高台付坏, 甕), 土製品 1 点 (土玉), 金属製品 1 点 (不明) が出土している。DP588 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀代と考えられる。東壁が内彎していることから, 「側壁扶込土坑」の可能性もあるが, 詳細・性格ともに不明である。

第 379 図 第 8 号土坑・出土遺物実測図

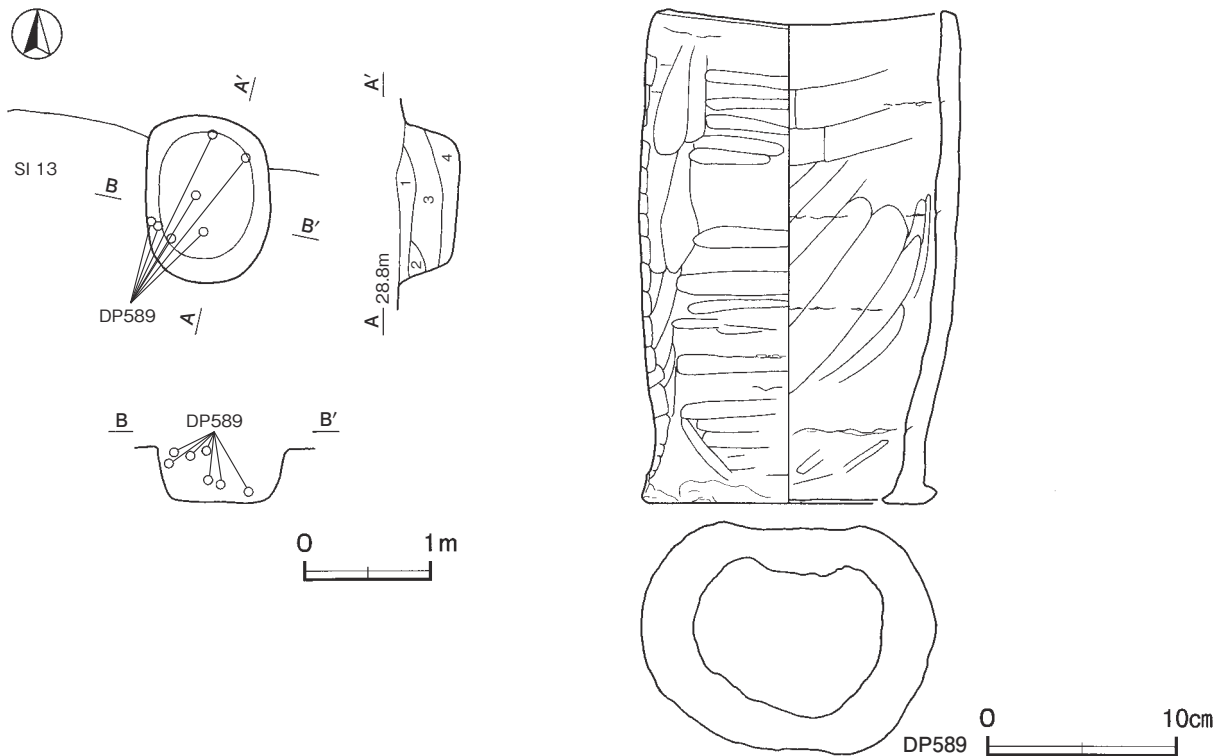
第 8 号土坑出土遺物観察表 (第 379 図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP588	土玉	1.8	1.4	0.4	3.50	長石	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第 47 号土坑 (第 380 図)

位置 調査B区のE 3 d6 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 13 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



第 380 図 第 47 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 1.34 m，短径 1.00 m の楕円形で，長径方向は N - 2° - E である。深さは 48cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 2 褐灰色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 74 点（坏類 27，高台付椀 2，甕類 45），須恵器片 3 点（甕），土製品 1 点（円筒形土製品）が出土している。DP589 は南西部から北東部の覆土下層から上層にかけて出土した破片 7 点が接合していることから，埋め戻しの段階で投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，11 世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 47 号土坑出土遺物観察表（第 380 図）

番号	器種	長軸	短軸	長さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP589	円筒形土製品	14.4 ~ 16.8	11.1 ~ 12.5	26.2	(2,066)	長石・石英	浅黄橙	欠損外・内面ナデ 煙出しカ	覆土下層 ~ 上層	PL93

第 56 号土坑（第 381 図）

位置 調査 A 区南部の C 2 c5 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 57 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.57 m，短軸 1.15 m の隅丸長方形で，長軸方向は N - 15° - W である。深さは 16cm で，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

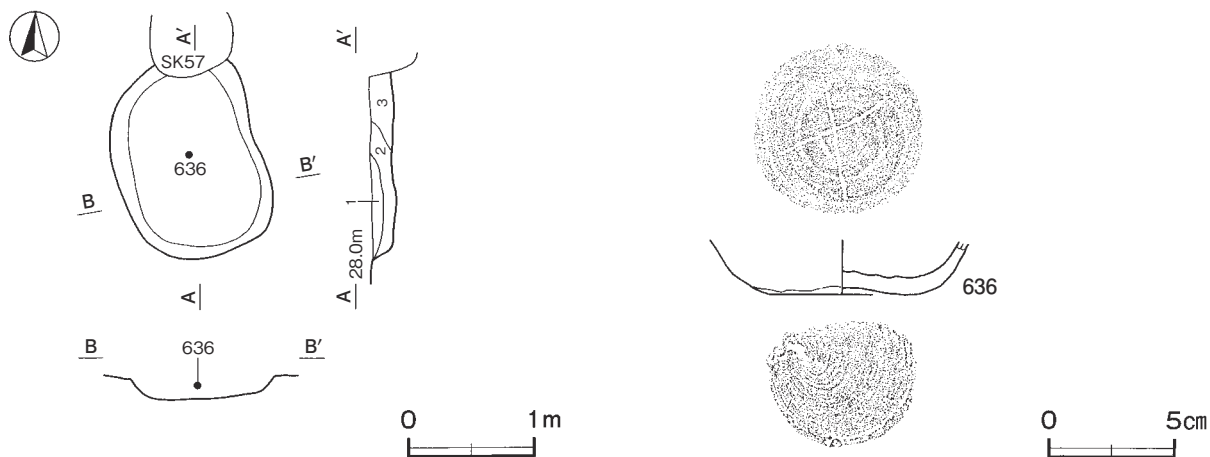
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから，自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 17 点（坏 7，甕 10），須恵器片 1 点（甕）が出土している。636 は中央部の覆土中層から出土していることから，廃絶後に投棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 381 図 第 56 号土坑・出土遺物実測図

第 56 号土坑出土遺物観察表（第 381 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
636	土師器	坏	-	(21)	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り 底部内面刻書「×」	覆土中層	20% PL82

第 78 号土坑（第 382 図）

位置 調査 A 区南部の C 2 b5 区，標高 27 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号堅穴建物跡を掘り込み，第 85 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.52 m，短径 0.93 m の楕円形で，長径方向は N - 74° - W である。深さは 34cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

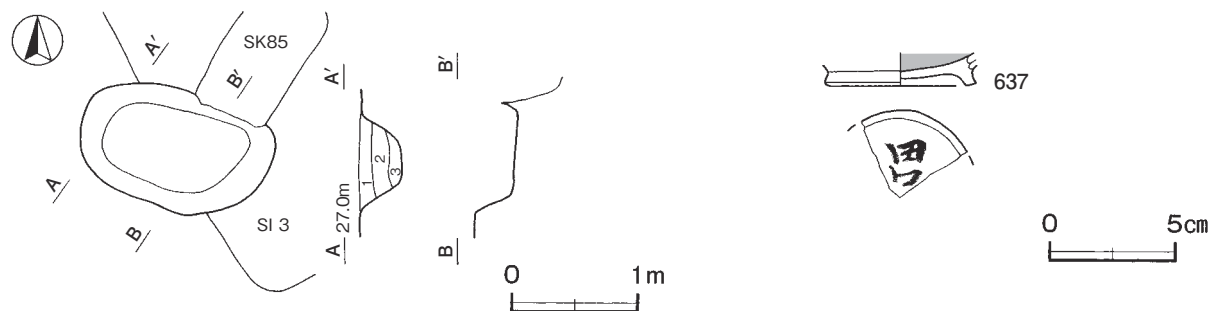
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2 点（高台付椀，甕）が出土している。637 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第 382 図 第 78 号土坑・出土遺物実測図

第 78 号土坑出土遺物観察表（第 382 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
637	土師器	高台付椀	-	(1.3)	[5.6]	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り 底部墨書「田口」	覆土中	5% PL82

第 125 号土坑（第 383 図）

位置 調査 B 区の E 3 b7 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 126 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外へ延びており，南部が第 126 号土坑に掘り込まれているため，長径 1.20 m，短径 1.00 m しか確認できなかった。円形または楕円形になると推定できる。深さは 35cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

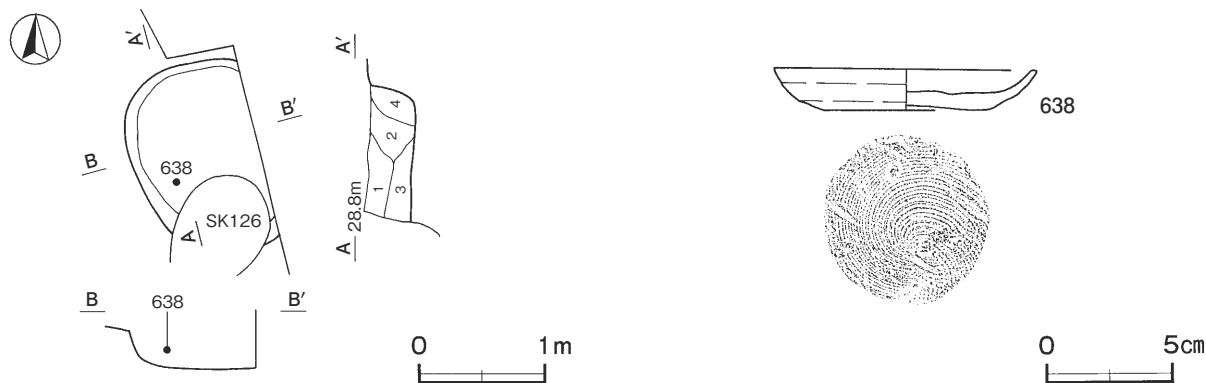
覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片3点(坏2, 小皿1)が出土している。638は南西部の覆土中層から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第 383 図 第 125 号土坑・出土遺物実測図

第 125 号土坑出土遺物観察表 (第 383 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
638	土師器	小皿	10.5	1.6	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	98%

第 159 号土坑 (第 384 図)

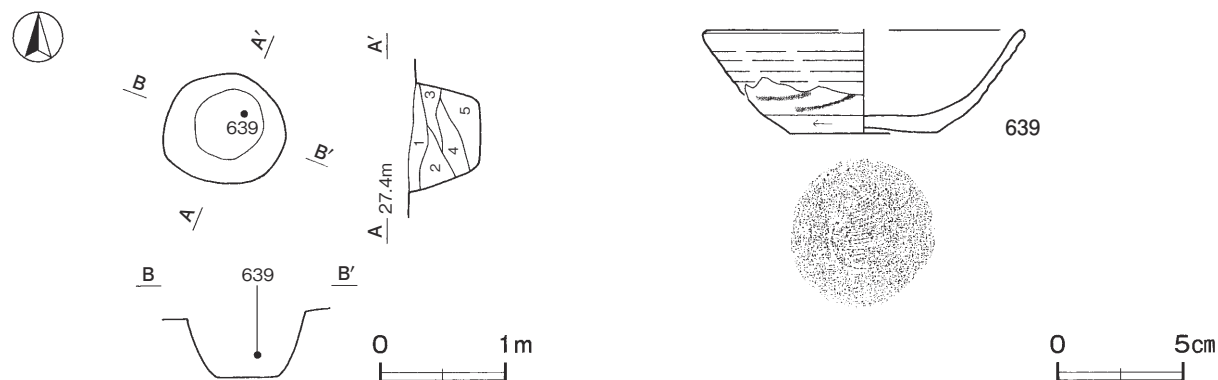
位置 調査 A 区南部の C 2e7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.96 m, 短径 0.87 m の楕円形で, 長径方向は N - 76° - W である。深さは 56cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量



第 384 図 第 159 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点（坏 7，甕 5），須恵器片 1 点（坏）が出土している。639 は北東部の覆土中層から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第 159 号土坑出土遺物観察表（第 384 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
639	土師器	坏	[12.5]	4.1	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り後に回転ヘラ削り 体部外面墨書「□」	覆土中層	50% PL82

第 299 号土坑（第 385 図）

位置 調査D区南部のG 5 b3 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 36 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.32 m，短径 0.98 m の楕円形で，長径方向は N - 54° - E である。深さは 53cm で，底面は平坦である。壁はほぼ直立または外傾している。

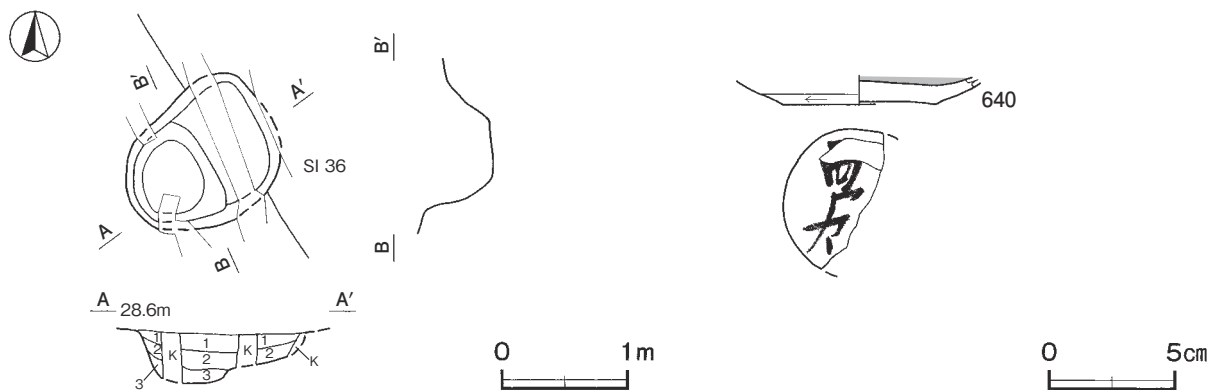
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 16 点（坏 7，甕 9），須恵器片 4 点（坏 2，甕 2）が出土している。640 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，9 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 385 図 第 299 号土坑・出土遺物実測図

第 299 号土坑出土遺物観察表（第 385 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
640	土師器	坏	-	(1.1)	[6.0]	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向のヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部墨書「西居」	覆土中	5% PL82

第 400 号土坑（第 386 図）

位置 調査D区中央部のF 6 e4 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 49 号竪穴建物跡，第 401 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.32 m, 短径 0.97 mの楕円形で, 長径方向はN - 65° - Wである。深さは 45cmで, 底面は皿状である。壁は外傾している。

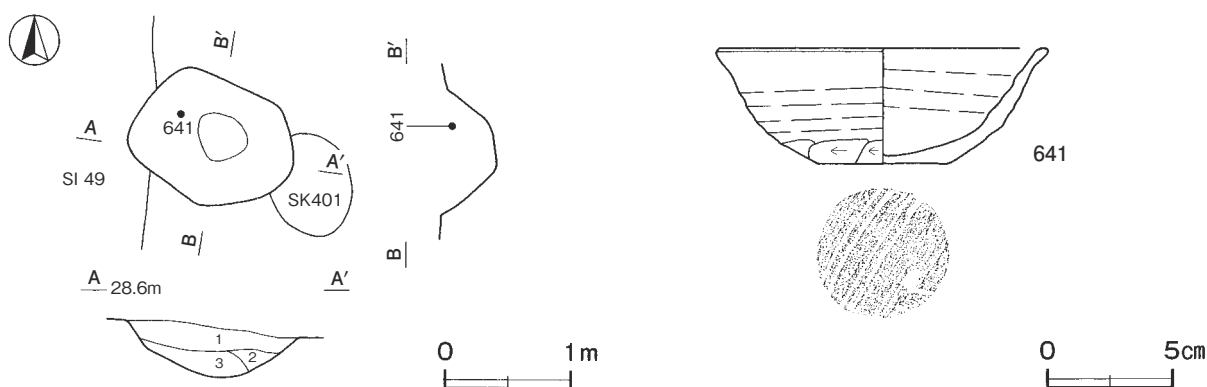
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 6, 甕 5) のほか, 縄文土器片 3 点 (深鉢) が出土している。641 は北西部の覆土上層から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 386 図 第 400 号土坑・出土遺物実測図

第 400 号土坑出土遺物観察表 (第 386 図)

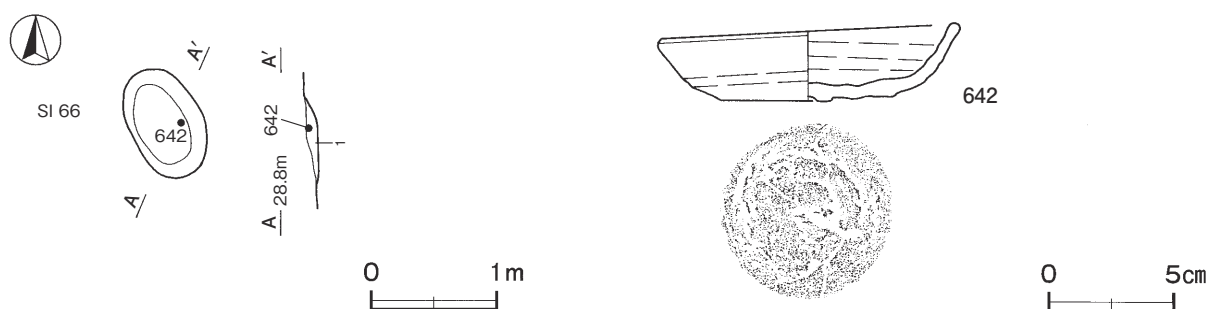
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
641	土師器	坏	12.9	4.6	5.2	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土上層	95% PL75

第 430 号土坑 (第 387 図)

位置 調査D区中央部のF 5 g5 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 66 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.90 m, 短径 0.58 mの楕円形で, 長径方向はN - 23° - Wである。深さは 8 cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜している。



第 387 図 第 430 号土坑・出土遺物実測図

覆土 単一層である。ロームや焼土のブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片 129 点（坏類 58, 甕類 71）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。642 は東部の覆土上層から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。

第 430 号土坑出土遺物観察表（第 387 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
642	土師器	坏	11.9	3.1	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	97% PL75

第 445 号土坑（第 388・389 図）

位置 調査D区中央部のF 6 d3 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.46 m、短径 1.13 m の楕円形で、長径方向は N - 72° - W である。深さは 30cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

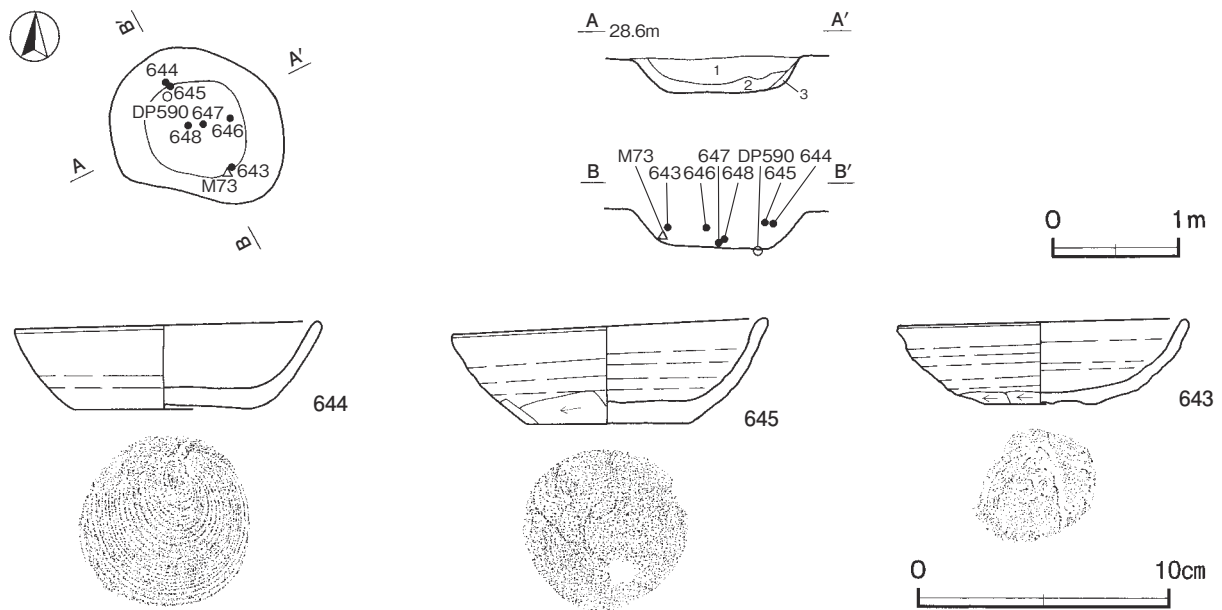
1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量

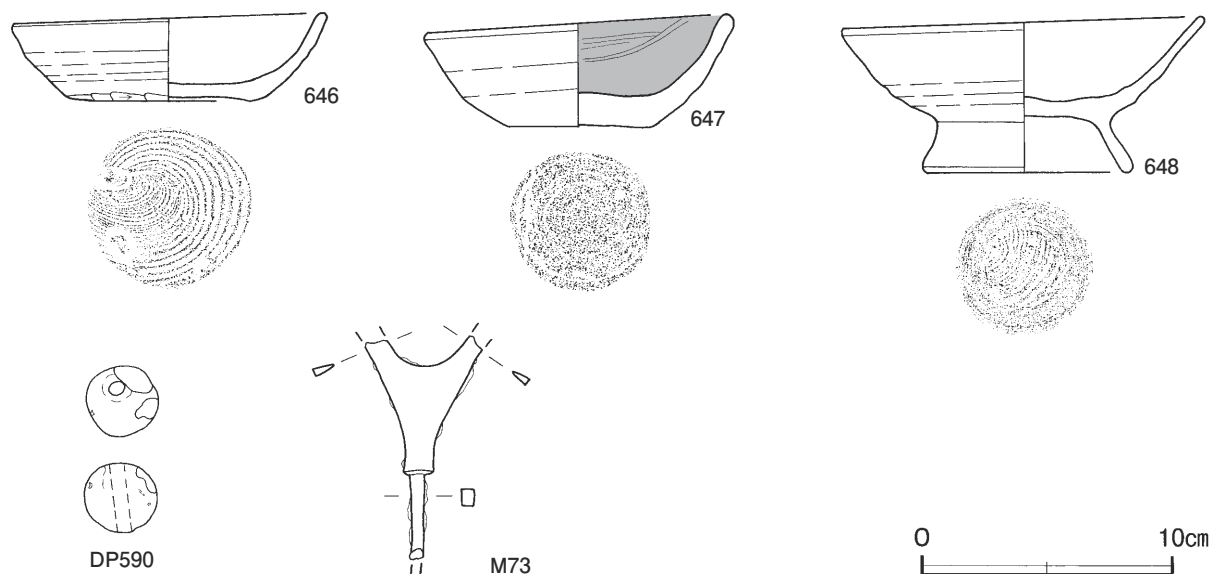
2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 103 点（坏類 45, 高台付碗 1, 鉢 1, 甕類 56）、須恵器片 1 点（甕）、土製品 1 点（土玉）、金属製品 1 点（鏃）が出土している。647・648 はいずれも中央部の底面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀中葉と考えられる。南東側に隣接する第 49 号竪穴建物と同時期に機能しており、雁股鏃が出土していることや、残存率の高い土器が覆土下層や中層からも多く出土していることから、本跡以外の場所で祭祀的行為が行われ、その後廃棄されたと考えられる。



第 388 図 第 445 号土坑・出土遺物実測図



第 389 図 第 445 号土坑出土遺物実測図

第 445 号土坑出土遺物観察表 (第 388・389 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
643	土師器	坏	11.4	3.4	4.4	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中層	95% PL75
644	土師器	坏	12.1	3.5	7.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	95% PL75
645	土師器	坏	12.4	4.2	6.5	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層	95% PL75
646	土師器	坏	12.2	3.5	6.5	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り	覆土中層	90% PL75
647	土師器	坏	12.0	4.5	5.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面摩滅 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	底面	90% PL75
648	土師器	高台付椀	14.1	6.2	8.1	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	80% PL76

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP590	土玉	2.9	2.8	0.6	(20.3)	長石・石英	橙	一部欠損 ナア 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M73	鎌	(8.9)	(4.8)	0.3~0.7	(31.9)	鉄	先端部・茎部欠損 台形関 鎌身部断面三角形 茎部断面長方形	底面	PL98

第 459 号土坑 (第 390 図)

位置 調査D区中央部のF 6 b2区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 81 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.08 m, 短径 0.91 mの楕円形で, 長径方向はN - 47° - Eである。深さは 12cmで, 底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。

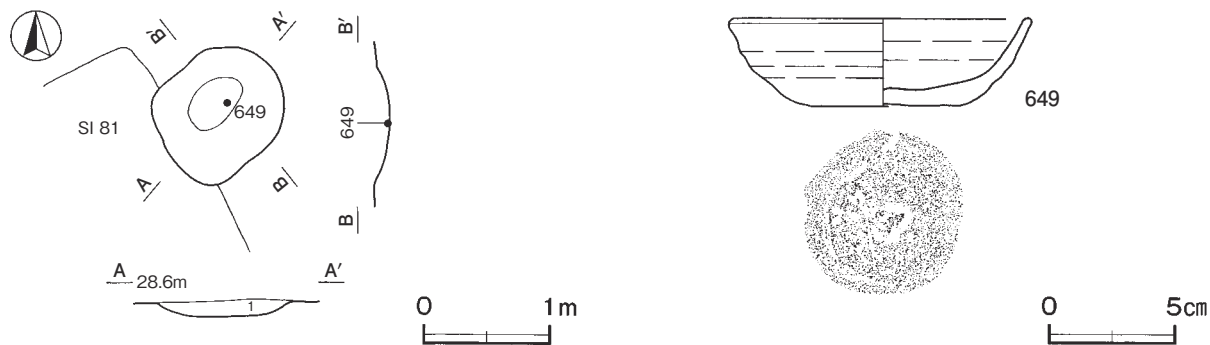
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 17 点 (坏 13, 高台付椀 2, 甕 2) が出土している。649 は中央部の底面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 390 図 第 459 号土坑・出土遺物実測図

第 459 号土坑出土遺物観察表 (第 390 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
649	土師器	坏	11.8	3.5	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩擦 底部回転ヘラ削り	底面	90% PL76

第 468 号土坑 (第 391 図)

位置 調査D区中央部のF 5 c8 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 92 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 472 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.30 m, 短径 1.29 mの円形で, 深さは 70cm, 底面は平坦である。壁は直立している。

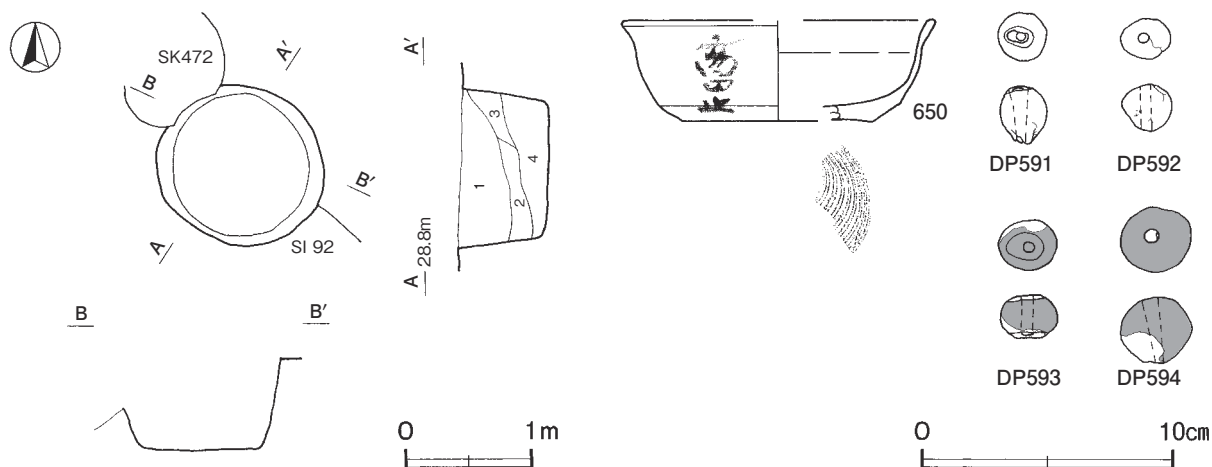
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 85 点 (坏 28, 高台付坏 4, 甕類 53), 須恵器片 6 点 (甕), 土製品 4 点 (土玉) が出土している。650・DP591～DP594 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 391 図 第 468 号土坑・出土遺物実測図

第 468 号土坑出土遺物観察表 (第 391 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
650	土師器	坏	[12.2]	4.0	[7.6]	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 外面墨書「高窪」	底部回転糸切り	体部	覆土中 20% PL82

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP591	土玉	1.9	2.3	0.4~0.8	5.99	長石・石英	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP592	土玉	1.6~2.0	1.8	0.4	5.20	長石・石英	浅黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP593	土玉	2.0~2.3	1.7	0.4	8.49	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 両端部を平坦に成形	覆土中	煤付着
DP594	土玉	2.6~2.8	2.6	0.3~0.6	19.2	長石・石英	淡黄	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	煤付着

第 533 号土坑 (第 392 図)

位置 調査D区中央部のF 5 g6 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 72 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.20 m, 短径 0.81 mの楕円形で, 長径方向はN - 73° - Wである。深さは 18cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

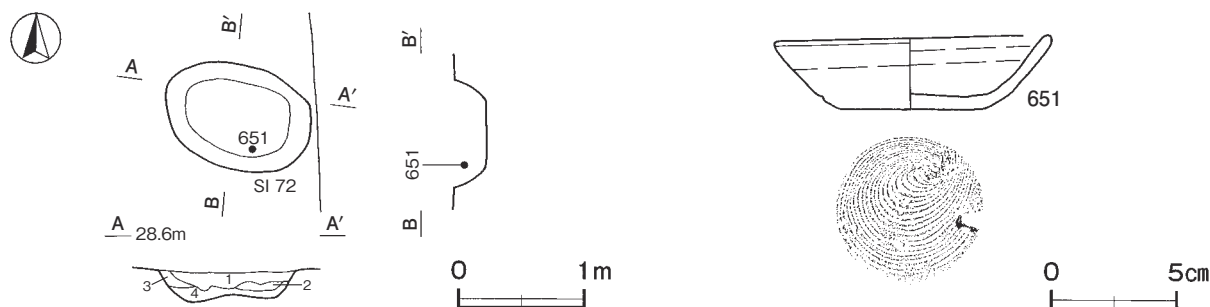
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 15 点 (坏 9, 皿 1, 甕 5) が出土している。651 は南部の覆土中層から出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第 392 図 第 533 号土坑・出土遺物実測図

第 533 号土坑出土遺物観察表 (第 392 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
651	土師器	皿	10.8	3.0	5.8	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	90% PL76

第 548 号土坑 (第 393 図)

位置 調査D区中央部のF 4 e5 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 105 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.72 m, 短径 1.60 mの円形で, 深さは 48cm, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況であることから、埋め戻されている。

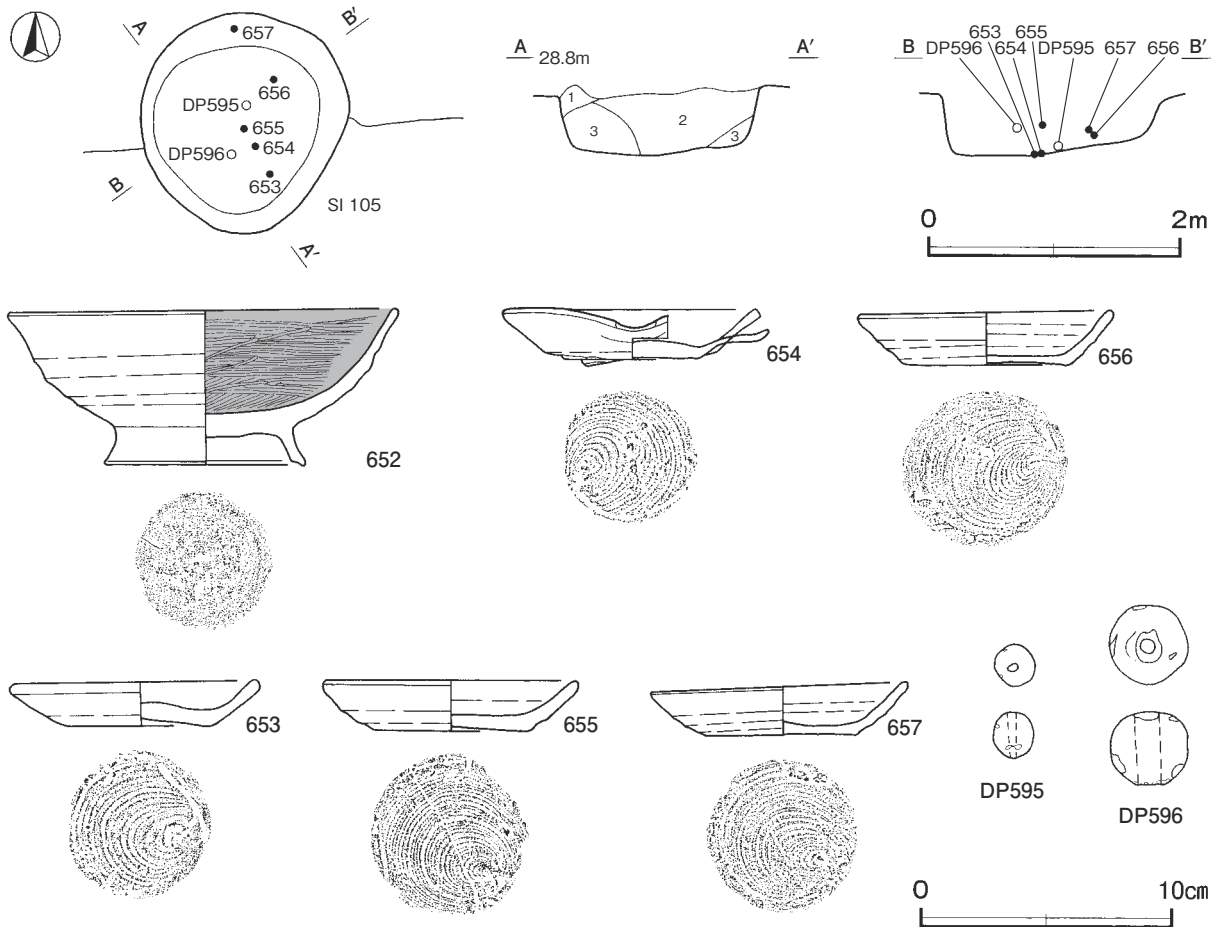
土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 204 点（坏類 109，高台付椀 9，皿 5，甕類 81），須恵器片 8 点（坏 5，蓋 1，甕 2），土製品 2 点（土玉）のほか、土師器片 1 点（高坏）が出土している。653 は南部，654 は中央部の底面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10 世紀中葉と考えられる。残存率の高い土器など、多数の土器が投棄されていることから廃棄土坑の可能性もあるが、詳細は不明である。



第 393 図 第 548 号土坑・出土遺物実測図

第 548 号土坑出土遺物観察表（第 393 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
652	土師器	高台付椀	15.3	6.2	7.8	長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	90% PL76
653	土師器	皿	9.6	1.8	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	底面	100% PL76
654	土師器	皿	9.9	2.3	5.2	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 片口	底面	100% PL76
655	土師器	皿	10.0	2.0	6.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	100% PL76
656	土師器	皿	10.0	2.3	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	99% PL76
657	土師器	皿	10.0	2.1	6.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	98% PL76

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP595	土玉	1.7	1.9	0.3	450	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	底面	
DP596	土玉	3.1~3.2	2.9	1.0	(27.8)	長石・石英	にぶい橙	欠損 ナデ 二方向からの穿孔	覆土中層	

第 563 号土坑 (第 394 図)

位置 調査D区中央部のF 5 b8 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 564 号土坑を掘り込み, 第 561 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.17 m, 短径 1.02 mの楕円形で, 長径方向はN - 38° - Wである。深さは 35cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

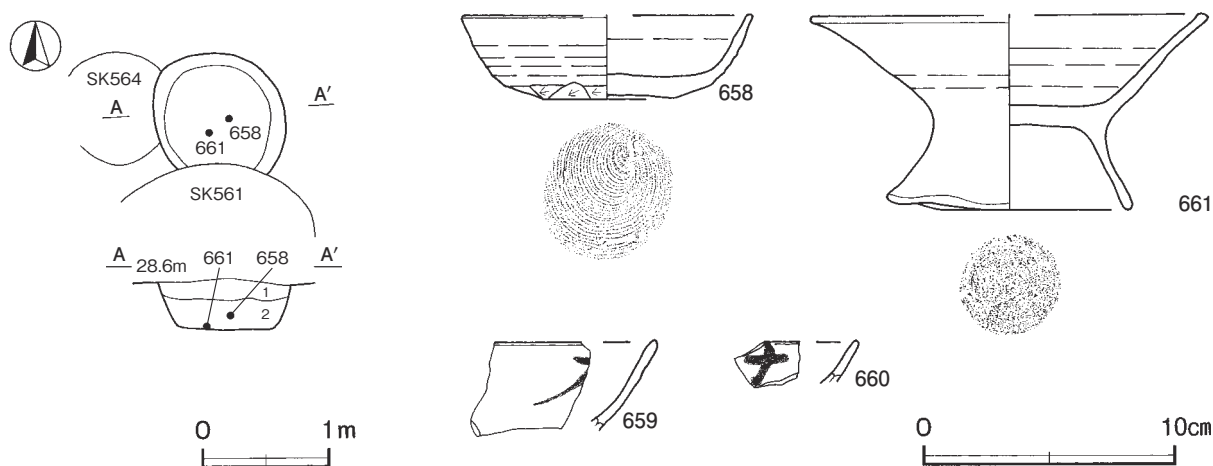
覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 40 点 (坏 18, 高台付椀 1, 甕 21) が出土している。661 は中央部の底面から出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第 394 図 第 563 号土坑・出土遺物実測図

第 563 号土坑出土遺物観察表 (第 394 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
658	土師器	坏	[11.3]	3.3	5.2	長石・石英・赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転糸切り	覆土下層	60%
659	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL82
660	土師器	坏	-	(1.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面墨書「□」	覆土中	5% PL82
661	土師器	高台付椀	[15.5]	7.7	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底面	70%

第 617 号土坑 (第 395 図)

位置 調査D区中央部のF 6 b2 区, 標高 28 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 637 号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 長径 1.10 m, 短径 0.98 m の楕円形で, 長径方向は N - 90° である。深さは 42cm で, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

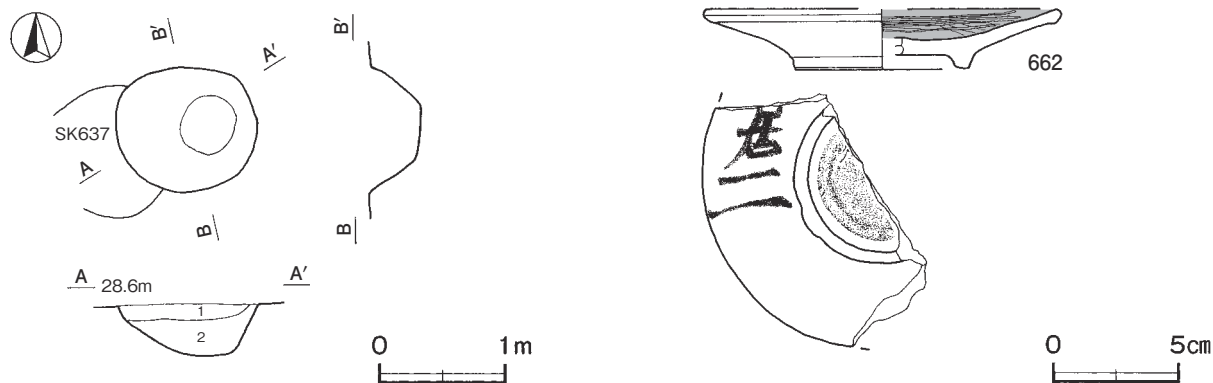
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 18 点 (坏 10, 皿 1, 甕 7) が出土している。662 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 9 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第 395 図 第 617 号土坑・出土遺物実測図

第 617 号土坑出土遺物観察表 (第 395 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
662	土師器	皿	[14.0]	2.4	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 体部外面墨書「居二」	覆土中	35% PL82

第 621 号土坑 (第 396 図)

位置 調査 D 区中央部の F 5 d8 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.02 m, 短径 0.92 m の楕円形で, 長径方向は N - 30° - E である。深さは 58cm で, 底面は平坦である。壁は直立または外傾している。

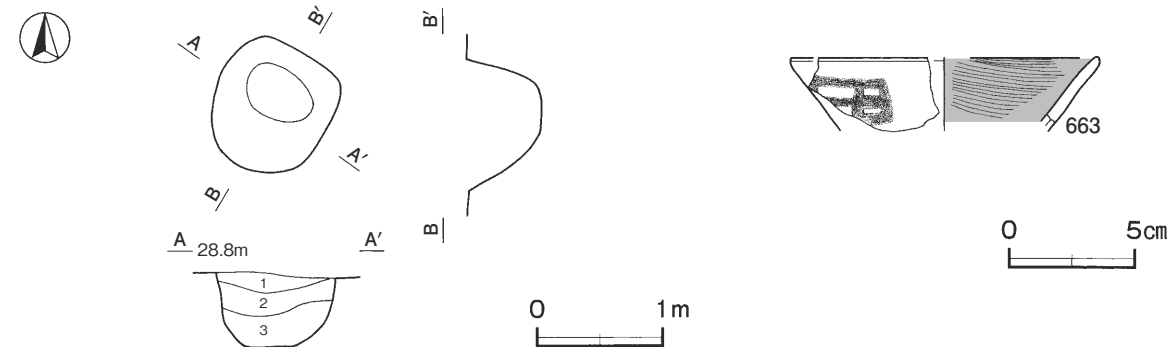
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量



第 396 図 第 621 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点（坏 6，甕 6）が出土している。663 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第 621 号土坑出土遺物観察表（第 396 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
663	土師器	坏	[12.2]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き 外面墨書「田」	覆土中	5% PL82

第 623 号土坑（第 397 図）

位置 調査D区中央部のF 5 a2 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 98・99 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.20 m，短径 0.61 m の楕円形で，長径方向は N - 3° - E である。深さは 60cm で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

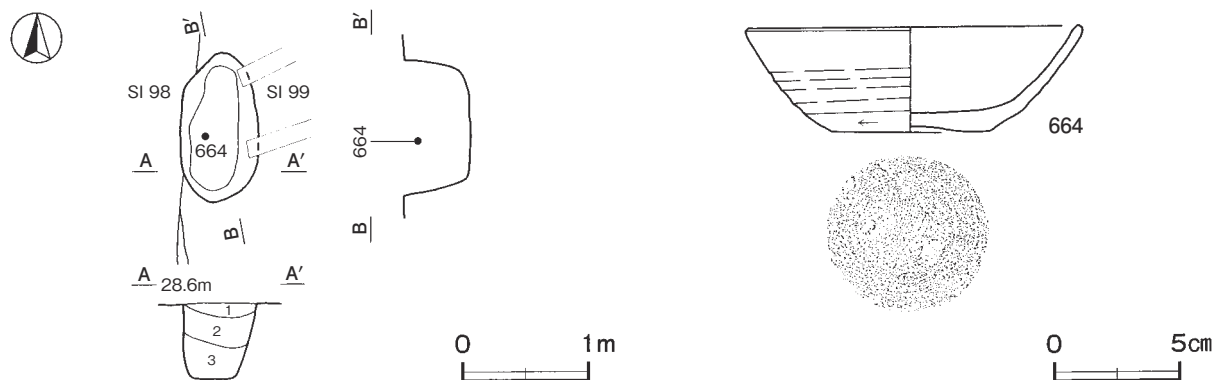
覆土 3 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから，自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 4 点（坏 1，高台付椀 1，甕 2），須恵器片 1 点（甕）が出土している。664 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，10 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 397 図 第 623 号土坑・出土遺物実測図

第 623 号土坑出土遺物観察表（第 397 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
664	土師器	坏	13.1	4.2	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転糸切り後に回転へラ削り	覆土上層	95% PL76

第 648 号土坑（第 398 図）

位置 調査D区中央部のF 5 d9 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 112 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.46 m, 短径 1.40 m の円形で, 深さは 48cm, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

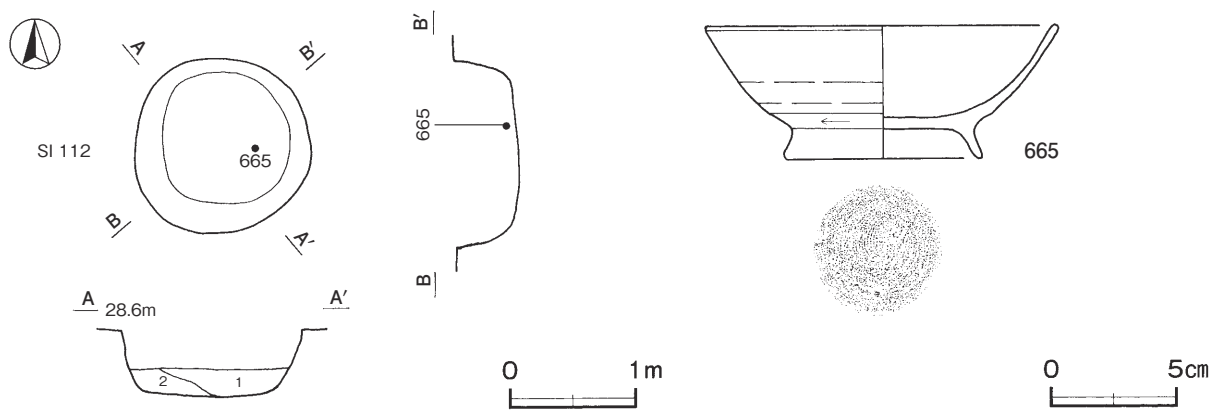
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 23 点 (坏 11, 高台付椀 1, 甕 11) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢) が出土している。

665 は東部の覆土下層から出土していることから, 廃絶後に投棄されたものとみられる。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 10 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 398 図 第 648 号土坑・出土遺物実測図

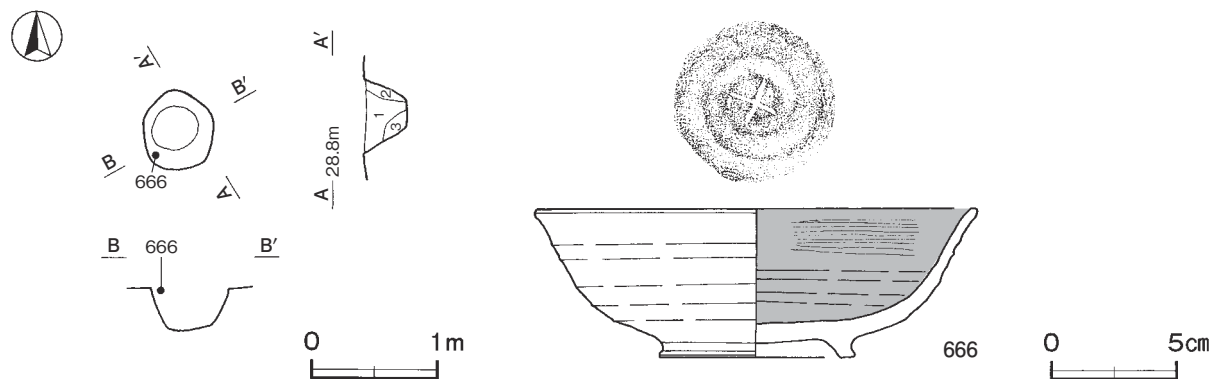
第 648 号土坑出土遺物観察表 (第 398 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
665	土師器	高台付椀	14.0	5.3	7.8	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り後に回転ヘラ削り	覆土下層	95% PL76

第 679 号土坑 (第 399 図)

位置 調査 D 区中央部の F 5e8 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.63 m, 短径 0.55 m の楕円形で, 長径方向は N - 3° - W である。深さは 34cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。



第 399 図 第 679 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 高台付椀2, 甕1, 甌1)が出土している。666は南西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。性格は不明である。

第679号土坑出土遺物観察表(第399図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
666	土師器	高台付椀	17.5	6.0	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へら磨き 底部回転へら削り後ナデ 底部内面刻書「×」	覆土上層	90% PL76

第744号土坑(第400図)

位置 調査D区中央部のF5e9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.76m, 短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。深さは38cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

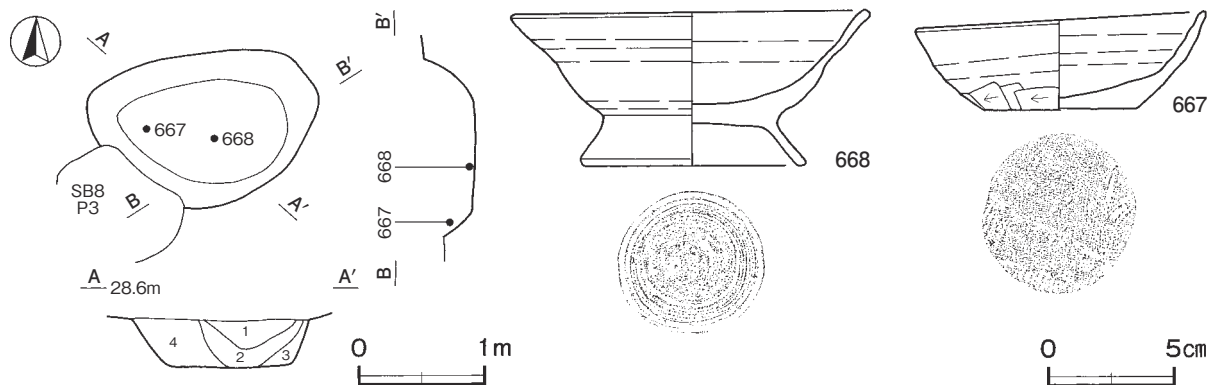
覆土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片45点(坏20, 高台付椀6, 甕19)が出土している。668は中央部の底面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、10世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第400図 第744号土坑・出土遺物実測図

第744号土坑出土遺物観察表(第400図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
667	土師器	坏	11.4	3.9	6.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	覆土中層	100% PL77
668	土師器	高台付椀	14.1	6.2	8.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	底部回転へら削り	底面	100% PL77

第766号土坑（第401図）

位置 調査D区中央部のF4g6区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

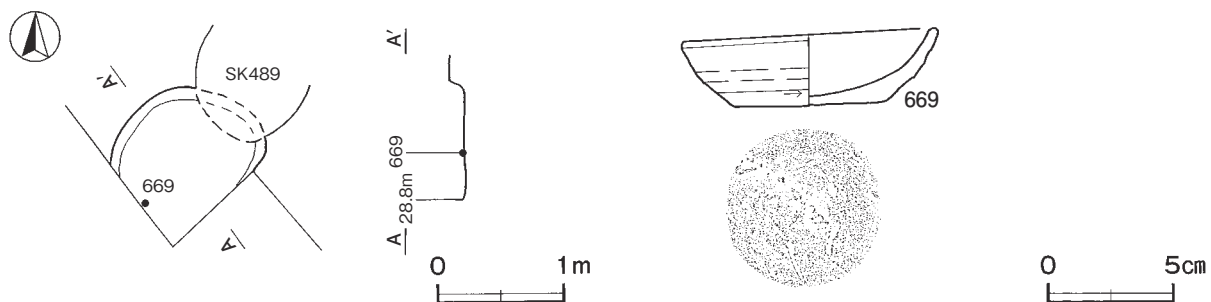
重複関係 第489号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 東西径1.22m，南北径1.13mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形になると推定できる。深さは10cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片33点（坏6，高台付椀6，皿1，鉢1，甕19），鉄滓1点が出土している。669は底面から出土していることから，廃絶時に遺棄されたものとみられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，10世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第401図 第766号土坑・出土遺物実測図

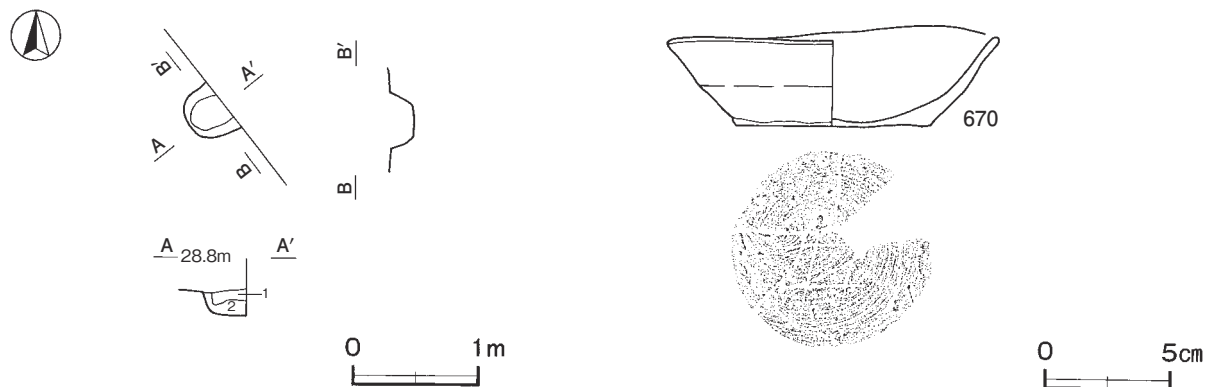
第766号土坑出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
669	土師器	坏	10.1	2.9	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	底面	100% PL77

第801号土坑（第402図）

位置 調査D区中央部のF6e4区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北径0.44m，東西径0.38mしか確認できなかった。楕円形になると推定でき，長径方向はN-60°-Eである。深さは19cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。



第402図 第801号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

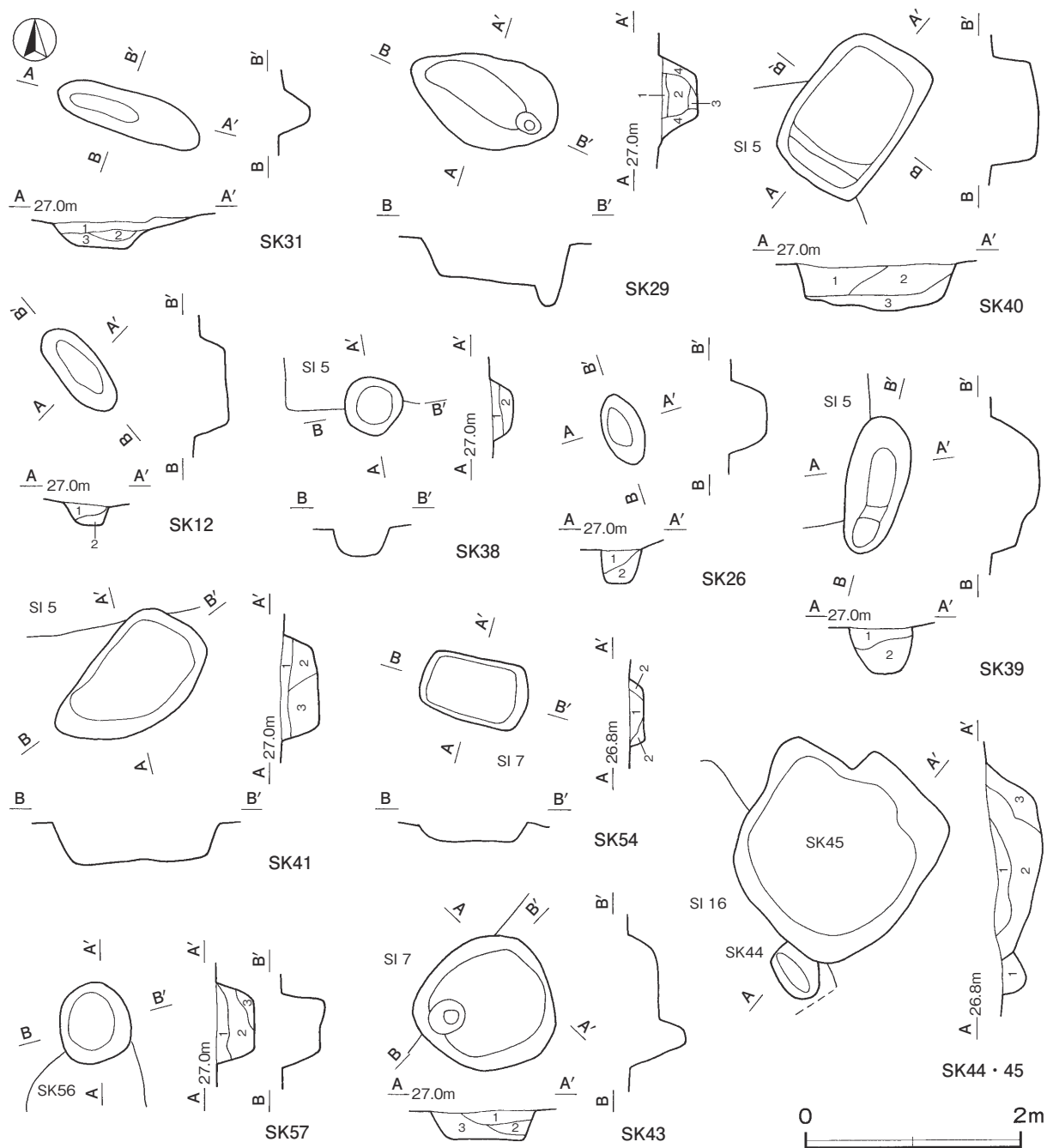
1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 2 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2), 須恵器片1点(甕)が出土している。670は覆土中から出土している。

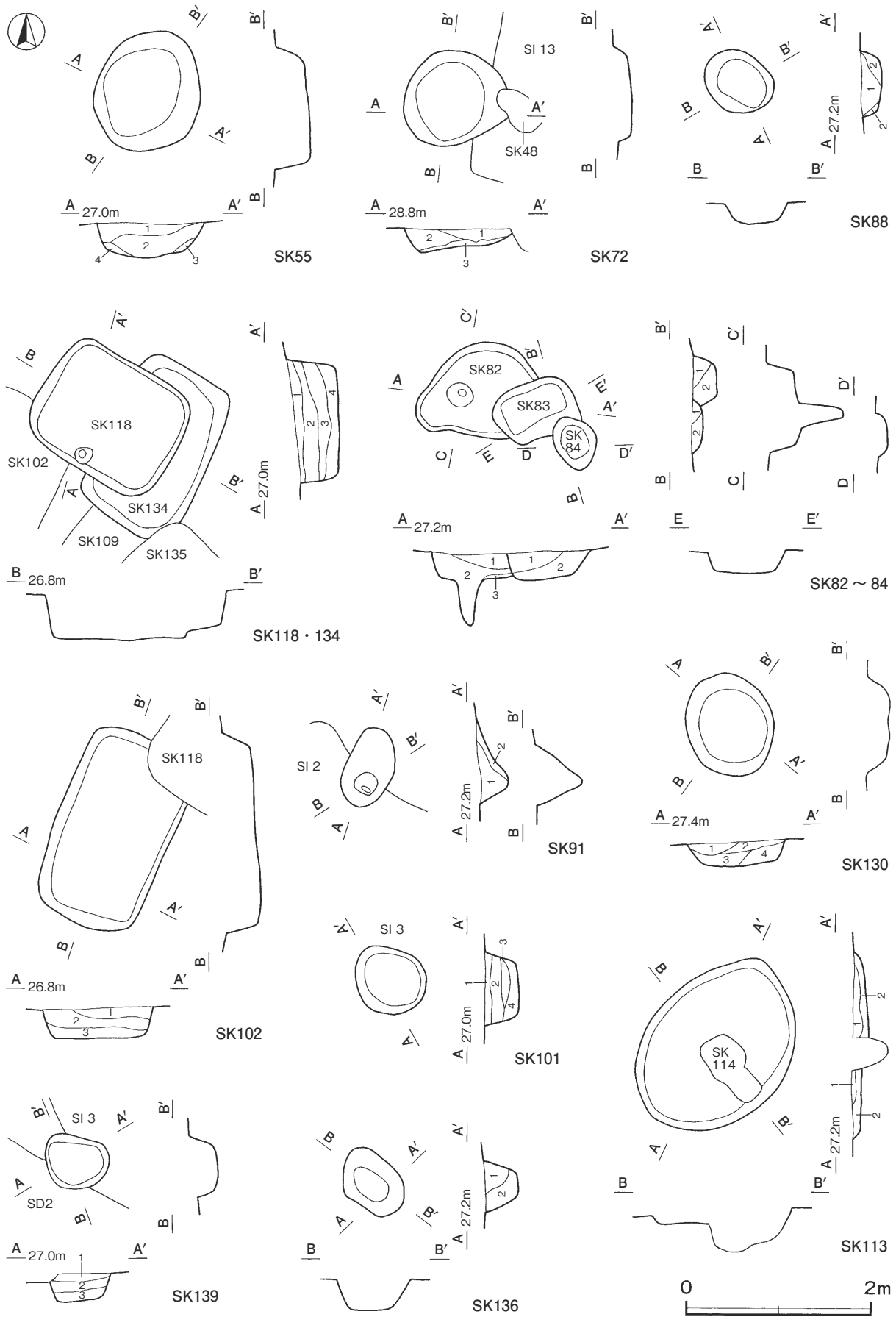
所見 時期は, 出土土器から10世紀中葉と考えられる。性格は不明である。

第801号土坑出土遺物観察表(第402図)

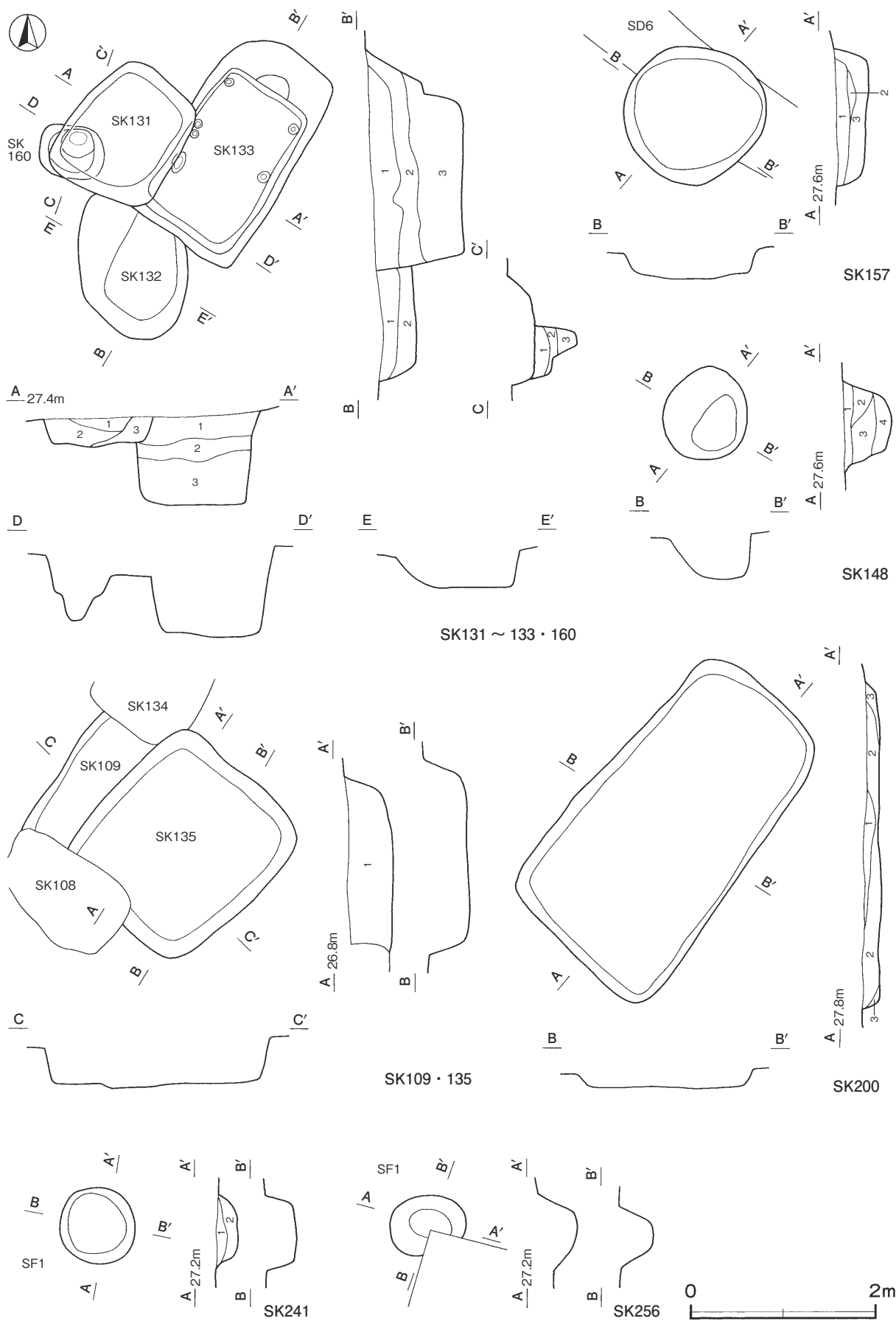
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
670	土師器	坏	13.0	4.0	7.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 底部刻書「#」	覆土中	90% PL77



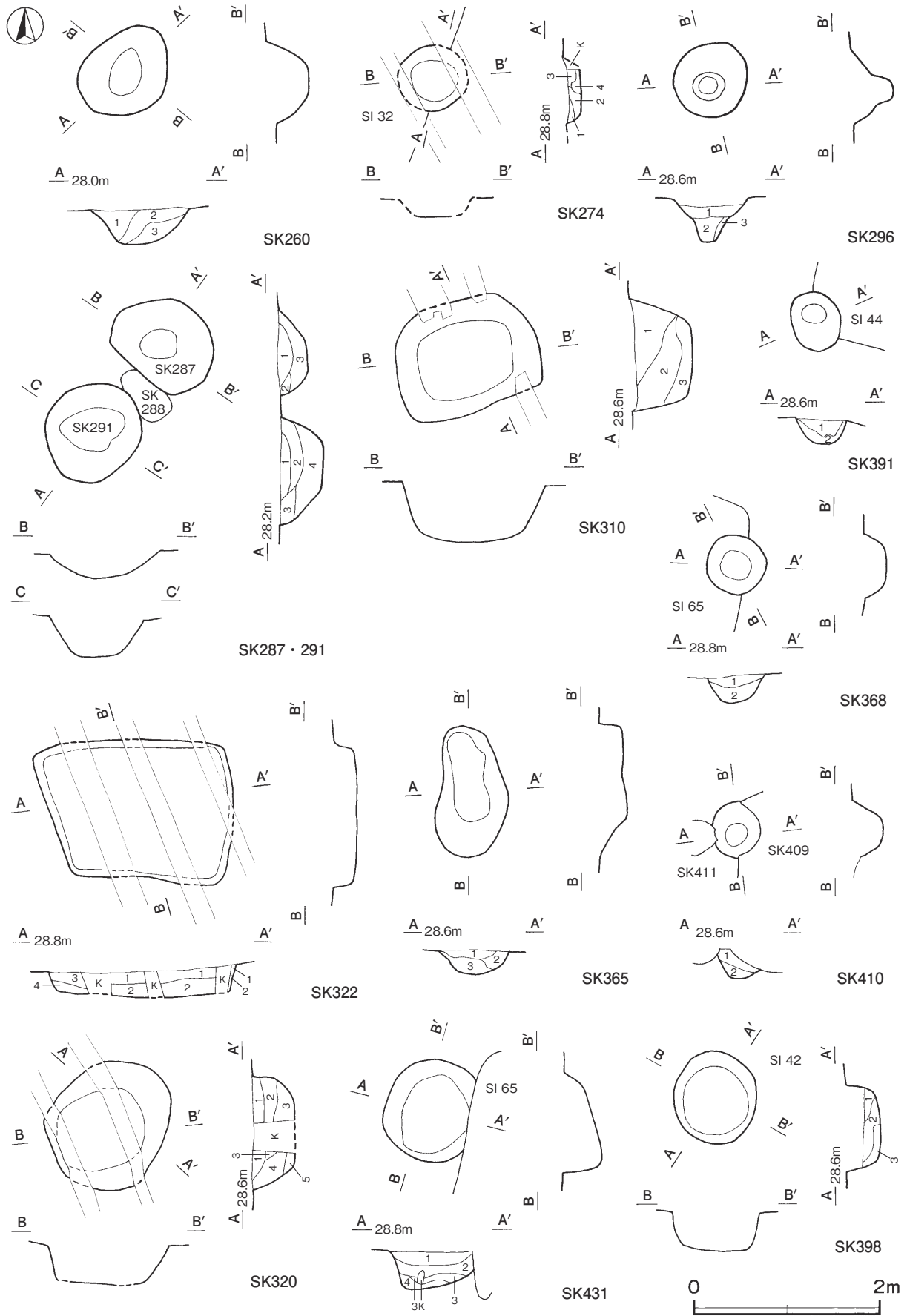
第403図 平安時代のその他の土坑実測図(1)



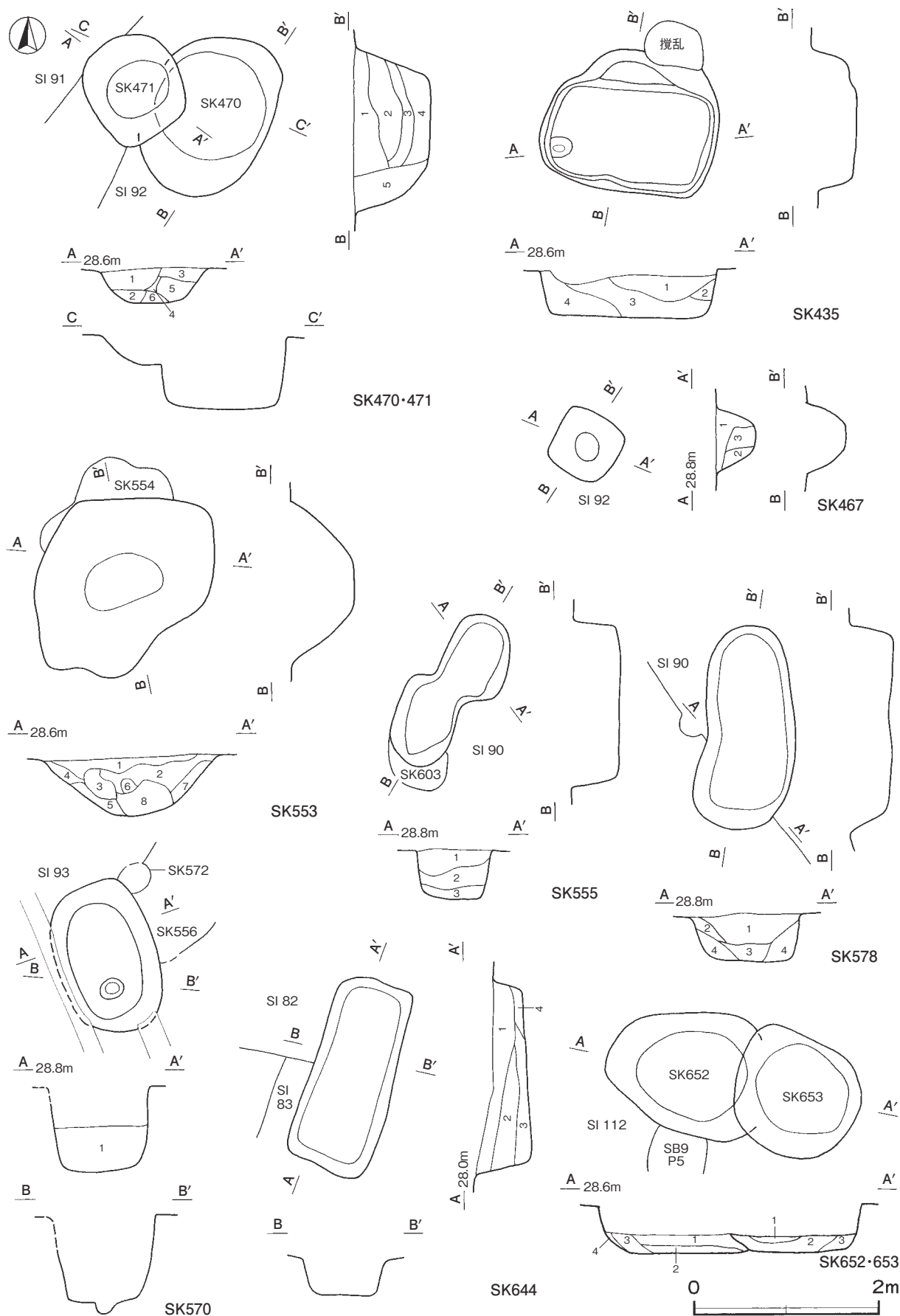
第 404 図 平安時代のその他の土坑実測図 (2)



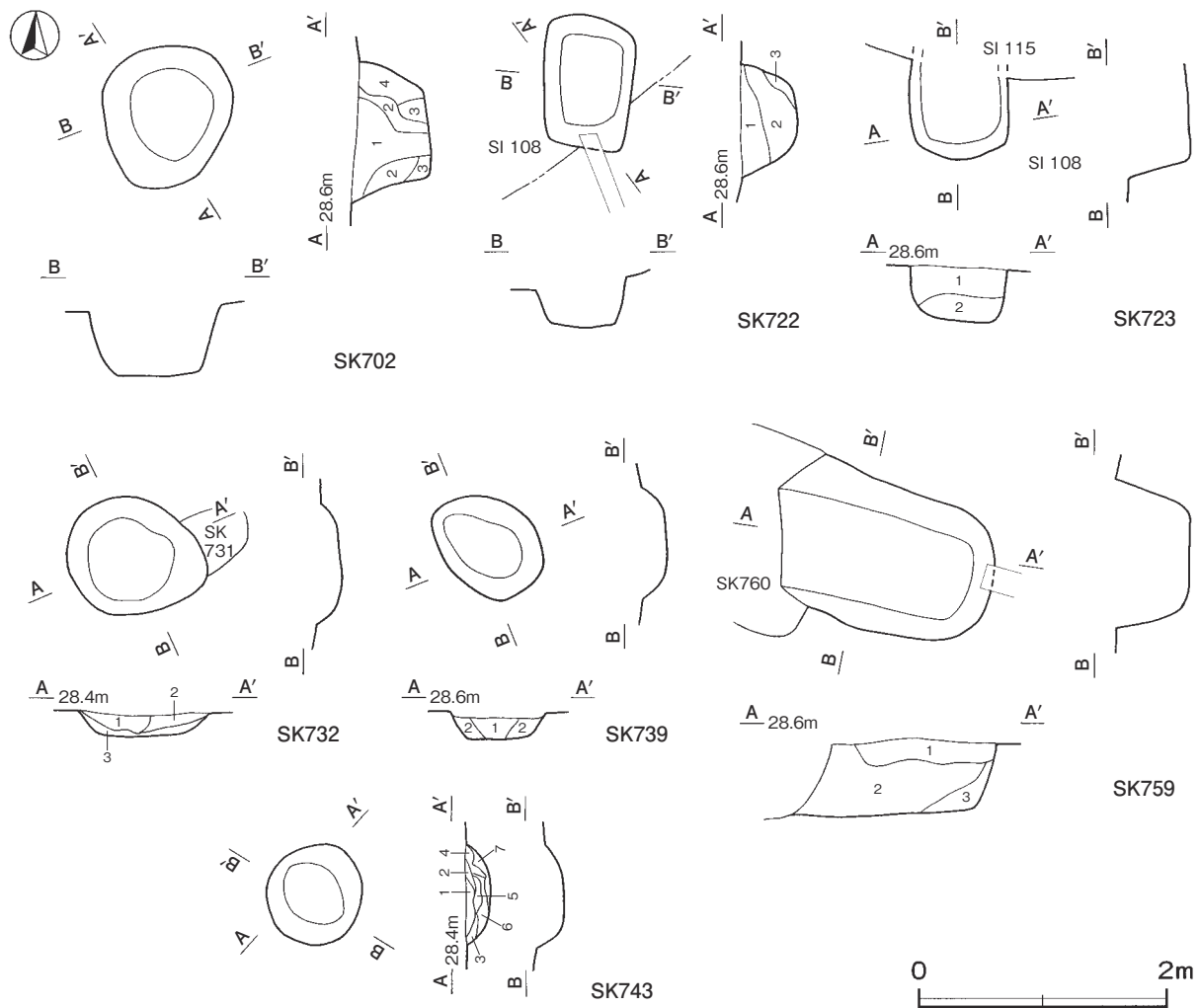
第 405 図 平安時代のその他の土坑実測図 (3)



第 406 図 平安時代のその他の土坑実測図 (4)



第 407 図 平安時代のその他の土坑実測図 (5)



第 408 図 平安時代のその他の土坑実測図 (6)

第 12 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 26 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 29 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第 31 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 38 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 39 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第 40 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 43 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第 44 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 45 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子・粘土粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 54 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第 55 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 57 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 72 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 82 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第 83 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 84 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

第 88 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第 91 号土坑土層解説

- 1 黒 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

第 101 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量

第 102 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 113 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 118 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 130 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

第 131 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 132 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 133 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 135 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 139 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 148 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 157 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 160 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第 241 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 260 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 274 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 287 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第 291 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 296 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第 310 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 320 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 赤 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子中量

第 322 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 明 褐 色 ローム粒子中量

第 365 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 368 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 391 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 398 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 410 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量

第 431 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 435 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 467 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 470 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 471 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 553 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黄 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 7 黄 褐 色 ロームブロック中量
- 8 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第 555 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 570 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

第 578 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 644 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量

第 652 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 653 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 702 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 722 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

第 723 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 732 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 759 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

第 739 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 743 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 暗 褐 色 焼土粒子中量, ロームブロック微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子少量
- 5 赤 褐 色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

表 16 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
8	B2f9	N-22°-E	長方形	1.95 × 1.28	35	平坦	直立・外傾・内彎	人為	土師器, 土製品, 金属製品	
12	B2f0	N-38°-W	楕円形	0.92 × 0.40	28	平坦	外傾	人為	土師器	
26	B2e0	N-18°-W	楕円形	0.68 × 0.35	33	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 須恵器	
29	B2i6	N-66°-W	楕円形	1.45 × 0.87	33	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 須恵器	
31	B2h6	N-72°-W	楕円形	1.39 × 0.41	27	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	
38	C2f4	-	円形	0.54 × 0.53	25	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 5 → 本跡
39	C2f5	N-13°-E	楕円形	1.30 × 0.56	43	有段	外傾 緩斜	人為	土師器	SI 5 → 本跡
40	C2e5	N-40°-E	長方形	1.47 × 0.95	41	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 5 → 本跡
41	C2f4	N-48°-E	楕円形	1.45 × 0.90	38	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 須恵器	SI 5 → 本跡
43	C2a5	-	円形	1.31 × 1.24	27	平坦	外傾	人為	土師器	SI 7 → 本跡
44	C2e3	N-37°-W	[楕円形]	0.55 × (0.40)	25	皿状	外傾 緩斜	人為	土師器	SI 16 → 本跡 → SK45
45	C2e3	N-38°-E	不整形	1.88 × 1.78	44	平坦	緩斜	人為	土師器	SI 16, SK44 → 本跡
47	E3d6	N-2°-E	楕円形	1.34 × 1.00	48	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 13 → 本跡
54	C2a4	N-75°-W	長方形	1.00 × 0.59	17	平坦	外傾	自然	土師器	SI 7 → 本跡
55	C2c5	N-28°-E	楕円形	1.35 × 1.16	38	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	
56	C2c5	N-15°-W	隅丸長方形	1.57 × 1.15	16	平坦	緩斜	自然	土師器, 須恵器	本跡 → SK57
57	C2c5	N-8°-W	楕円形	0.73 × 0.66	34	平坦	外傾	人為	土師器	SK56 → 本跡
72	E3e6	-	不整形	1.14 × 1.04	22	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 13 → 本跡 → SK48
78	C2b5	N-74°-W	楕円形	1.52 × 0.93	34	平坦	外傾	人為	土師器	SI 3 → 本跡 → SK85
82	B2j7	N-74°-E	不定形	1.36 × (1.05)	32	平坦	外傾	自然	土師器	本跡 → SK83
83	B2j7	N-65°-E	長方形	0.86 × 0.61	35	平坦	外傾	自然	土師器	SK82 → 本跡 → SK84
84	B2j7	N-21°-W	楕円形	0.59 × 0.45	10	平坦	緩斜	人為	土師器	SK83 → 本跡
88	C2a6	N-55°-W	楕円形	0.77 × 0.63	23	平坦	外傾	自然	土師器	
91	C2c9	N-21°-E	楕円形	0.88 × 0.52	51	皿状	外傾 緩斜	自然	土師器	SI 2 → 本跡
101	C2b6	N-50°-W	楕円形	0.81 × 0.72	36	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI 3 → 本跡
102	C2c3	N-17°-E	長方形	2.17 × 1.26	39	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土製品	本跡 → SK118
109	C2d3	N-34°-E	[方形・長方形]	(1.43) × (0.67)	44	平坦	外傾	不明	土師器, 須恵器, 石器	本跡 → SK108・134・135
113	C2f5	N-37°-E	楕円形	2.04 × 1.56	17	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器	本跡 → SK114
118	C2c3	N-58°-W	長方形	1.60 × 1.26	50	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SK102・134 → 本跡
125	E3b7	-	[円形・楕円形]	(1.20) × (1.00)	35	平坦	外傾	人為	土師器	本跡 → SK126
130	C2f6	N-20°-W	楕円形	1.13 × 0.95	26	平坦	外傾	人為	土師器, 石器	
131	C2g6	N-37°-E	長方形	1.44 × 1.20	29	平坦	外傾	人為		SK132・133・160 → 本跡
132	C2h6	N-5°-W	楕円形	(1.57) × 1.17	40	平坦	外傾 緩斜	自然		本跡 → SK131・133
133	C2g6	N-34°-E	長方形	2.36 × 1.29	104	平坦	外傾 緩斜	人為	土師器, 土製品	SK132 → 本跡 → SK131
134	C2c4	N-28°-E	長方形	1.84 × 1.08	38	平坦	外傾	不明	土師器	SK109 → 本跡 → SK118・135
135	C2d4	N-40°-E	方形	2.12 × 1.93	46	平坦	外傾	自然		SK109・134 → 本跡 → SK108
136	C2f5	N-33°-W	楕円形	0.80 × 0.58	39	傾斜	外傾	人為	土師器, 須恵器	
139	C2b5	N-80°-E	[楕円形]	0.70 × (0.56)	31	平坦	外傾	人為	土師器	SI 3 → 本跡 → SD 2

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
148	C 2 f7	N - 0°	楕円形	1.00 × 0.90	47	平坦	直立 緩斜	人為	土師器, 須恵器	
157	C 2 f8	-	円形	1.55 × 1.48	30	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SD 6 →本跡
159	C 2 e7	N - 76° - W	楕円形	0.96 × 0.87	56	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	
160	C 2 g6	N - 83° - W	隅丸長方形	0.72 × 0.55	72	有段	外傾	自然		本跡 → SK131
200	C 2 i7	N - 40° - E	長方形	3.52 × 2.00	18	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	
241	C 2 a0	-	円形	0.86 × 0.80	33	平坦	外傾	自然	土師器	本跡 → SF 1
256	B 3 g2	N - 90°	楕円形	0.82 × 0.64	34	平坦	外傾 緩斜	不明	土師器	本跡 → SF 1
260	F 6 j7	N - 30° - E	楕円形	1.10 × 0.86	37	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	
274	G 5 b6	-	円形	0.77 × 0.72	20	平坦	外傾	人為	土師器	SI 32 →本跡
287	G 6 c3	N - 56° - W	楕円形	1.14 × 0.89	27	皿状	緩斜	人為	土師器	SK288 →本跡
291	G 6 c2	N - 33° - E	楕円形	1.13 × 1.00	45	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SK288 →本跡
296	G 5 a9	-	円形	0.84 × 0.78	47	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	
299	G 5 b3	N - 54° - E	楕円形	1.32 × 0.98	53	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 36 →本跡
310	G 5 b6	N - 72° - E	長方形	1.58 × 1.18	62	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	
320	G 5 b6	N - 44° - E	楕円形	1.48 × 1.23	43	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	
322	G 5 c3	N - 88° - W	長方形	2.12 × 1.55	26	平坦	直立	自然	土師器, 須恵器	
365	F 6 j1	N - 3° - W	楕円形	1.40 × 0.72	30	平坦	外傾	人為	土師器	
368	F 5 f8	-	円形	0.61 × 0.61	28	平坦	外傾	自然	土師器	SI 65 →本跡
391	F 5 i0	N - 22° - W	楕円形	0.64 × 0.52	32	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 44 →本跡
398	F 5 i9	-	円形	1.00 × 0.91	39	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SI 42 →本跡
400	F 6 e4	N - 65° - W	楕円形	1.32 × 0.97	45	皿状	外傾	人為	土師器	SI 49, SK401 →本跡
410	F 6 e1	-	[円形・楕円形]	0.60 × (0.52)	30	皿状	外傾	自然	土師器	本跡 → SK409・411
430	F 5 g5	N - 23° - W	楕円形	0.90 × 0.58	8	平坦	緩斜	人為	土師器	SI 66 →本跡
431	F 5 f7	-	[円形・楕円形]	1.10 × (0.90)	39	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	本跡 → SI 65
435	F 6 f1	N - 80° - W	長方形	1.86 × 1.54	50	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 瓦	
445	F 6 d3	N - 72° - W	楕円形	1.46 × 1.13	30	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	
459	F 6 b2	N - 47° - E	楕円形	1.08 × 0.91	12	皿状	緩斜	人為	土師器	SI 81 →本跡
467	F 5 d8	N - 33° - E	方形	0.72 × 0.70	42	皿状	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	SI 92 →本跡
468	F 5 c8	-	円形	1.30 × 1.29	70	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 92 →本跡 → SK472
470	F 5 c8	N - 30° - E	[楕円形]	1.82 × (1.27)	83	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 92 →本跡 → SK471
471	F 5 c7	N - 27° - W	楕円形	1.13 × 1.03	36	平坦	外傾	人為	土師器	SI 91・92, SK470 →本跡
533	F 5 g6	N - 73° - W	楕円形	1.20 × 0.81	18	平坦	外傾	人為	土師器	SI 72 →本跡
548	F 4 e5	-	円形	1.72 × 1.60	48	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 105 →本跡
553	E 5 i6	N - 49° - E	不整楕円形	2.37 × 1.63	62	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	SK554 →本跡
555	F 5 e6	N - 34° - E	不整楕円形	1.82 × 0.70	52	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 90, SK603 →本跡
563	F 5 b8	N - 38° - W	楕円形	1.17 × 1.02	35	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SK564 →本跡 → SK561
570	F 5 c2	N - 19° - W	[楕円形]	1.64 × [1.06]	92	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 93, SK556・572 →本跡
578	F 5 e5	N - 4° - E	楕円形	2.22 × 1.04	52	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	SI 90 →本跡
617	F 6 b2	N - 90°	楕円形	1.10 × 0.98	42	平坦	緩斜	人為	土師器	SK637 →本跡
621	F 5 d8	N - 30° - E	楕円形	1.02 × 0.92	58	平坦	直立 外傾	人為	土師器	
623	F 5 a2	N - 3° - E	楕円形	1.20 × 0.61	60	平坦	直立	自然	土師器, 須恵器	SI 98・99 →本跡
644	F 6 g1	N - 20° - E	長方形	2.07 × 0.94	60	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SI 82・83 →本跡
648	F 5 d9	-	円形	1.46 × 1.40	48	平坦	緩斜	人為	土師器	SI 112 →本跡
652	F 5 d0	N - 82° - W	楕円形	(1.53) × 1.38	42	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 土製品	SI 112, SB 9 → 本跡 → SK653
653	F 5 d0	N - 23° - W	楕円形	1.50 × 1.38	41	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	SI 112, SK652 →本跡
679	F 5 e8	N - 3° - W	楕円形	0.63 × 0.55	34	平坦	外傾	人為	土師器	
702	E 6 j1	N - 8° - E	楕円形	1.17 × 1.05	62	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	
722	F 5 c1	N - 5° - E	長方形	1.05 × 0.70	42	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	SI 108 →本跡
723	F 5 c1	N - 0°	[方形・長方形]	0.79 × (0.73)	51	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	SI 108・115 →本跡
732	E 5 h6	N - 76° - W	楕円形	1.16 × 0.95	18	平坦	外傾	人為	土師器, 土製品	SK731 →本跡
739	F 5 c8	N - 49° - W	楕円形	0.96 × 0.72	22	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	
743	E 5 i3	-	円形	0.82 × 0.76	20	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	
744	F 5 e9	N - 71° - E	楕円形	(1.76) × 1.20	38	平坦	外傾	自然	土師器	本跡 → SB 8
759	F 4 b9	N - 69° - W	楕円形	(1.74) × 1.15	60	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	本跡 → SK760
766	F 4 g6	-	[円形・楕円形]	(1.22) × (1.13)	10	平坦	外傾	不明	土師器	SK489 新旧不明
801	F 6 e4	N - 60° - E	[楕円形]	0.44 × (0.38)	19	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器	

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack 1
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS6
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
	図面類	EPSON ES-10000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第405集

清水古墳群 神屋遺跡 神屋南遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

中巻

平成28（2016）年 3月15日 印刷

平成28（2016）年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
TEL 029-227-5505